

一般国道 313 号（倉吉道路・倉吉関金道路）道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県倉吉市

小鴨道祖神遺跡

2020

公益財団法人 鳥取県教育文化財団

一般国道 313 号（倉吉道路・倉吉関金道路）道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県倉吉市

小鴨道祖神遺跡

2020

公益財団法人 鳥取県教育文化財団



1 小鴨道祖神遺跡周辺の地形(西から:平成29年撮影)



2 小鴨道祖神遺跡周辺の地形(東から:令和元年撮影)



1 1～3区出土赤彩土師器



2 1～3区出土須恵器

序

地域高規格道路「北条湯原道路」は、一般国道313号のバイパス道路として鳥取県北栄町と岡山県真庭市を結び、山陰自動車道及び米子自動車道と一緒にとなって、広域交通ネットワークを構成する延長約50キロメートルの自動車専用道路です。このうち、倉吉市内を事業区間とする「倉吉道路」「倉吉関金道路」は、倉吉市和田から同市関金町大鳥居を結ぶ延長約11.1キロメートルの区間です。

公益財団法人鳥取県教育文化財団は、この道路改良工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査、出土遺物等の整理作業及び報告書作成を鳥取県から委託を受け、平成28年度から実施しています。

平成29年度に小鴨道祖神遺跡1区、令和元年度に同遺跡2・3区の発掘調査を行い、縄文時代から平安時代の遺構や遺物が見つかり、特に飛鳥・奈良時代を中心とする集落跡であることが確認されました。当時伯耆国を治めた役所である伯耆国府とほぼ同時期の集落跡であり、距離も近いことなどその関係が注目されます。本書はその発掘調査成果をまとめたものです。地域の歴史を解き明かしていく一助として活用され、埋蔵文化財が郷土の誇りになることを期待します。

本書をまとめるにあたり、鳥取県中部総合事務所県土整備局並びに地元関係者の皆様をはじめ、多くの方々に多大なる御協力と御助言をいただきました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

令和2年12月

公益財団法人 鳥取県教育文化財団

理事長 福本 慎一

例　　言

- 1 本書は、一般国道313号(倉吉道路)道路改良工事および一般国道313号(倉吉関金道路)道路改良工事に伴い、平成29年度(1区)と令和元年度(2・3区)に発掘調査を実施した小鴨道祖神遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 小鴨道祖神遺跡は、倉吉市小鴨字道祖神、北野字天神野に跨がって所在する。
調査地の調査面積は6123m²で、現地調査は1区が平成29年6月26日から同年11月16日まで、2・3区が令和元年6月3日から同年11月29日まで行った。
調査記録の編集と出土遺物の整理作業、報告書の作成は、平成29年度と令和元年度を行った。
- 3 調査における記録作業は公益財団法人鳥取県教育文化財団(以下、財団)職員が行った。
- 4 調査で作成した図面の編集、出土遺物の整理作業や記録作成は、財団職員が行った。
- 5 小鴨道祖神遺跡の出土品などの注記には、1区は「小ガモサイ17」の略号を用いた。「17」は2017年度に調査を実施したことを示す。2区は「小ガモ2区19」、3区は「小ガモ3区19」の略号を用いた。「19」は2019年度に調査を実施したことを意味する。
- 6 本書の作成は財団文化財主事が協議して行い、牧本、小口、森本、門脇、陶澤が執筆した。文責は目次に記載した。編集は森本が行った。
- 7 本調査で検出した遺構を評価するにあたり、平成29年度と令和元年度には眞田廣幸氏に調査指導を頂いた。
- 8 本調査に係る図面・写真等の記録及び出土遺物は、全て台帳等に登録して収納しており、今後活用できるように隨時検索できる状態で鳥取県埋蔵文化財センターに移管する予定である。
- 9 現地調査、報告書の作成にあたって、以下の方々、機関から様々な御指導、御助言、御支援を賜った。記して感謝申し上げます。(敬称略、順不同)
大鴨土地改良区、倉吉市小鴨公民館、倉吉市上小鴨公民館、倉吉市教育委員会、眞田廣幸、倉吉博物館、天神野土地改良区

凡　例

- 1 本書に記載された測量成果については、世界測地系に基づいている。図中のX・Y座標は国土座標第V系によるものであり、平面図の方位は座標北を示している。標高は、海拔標高で示した。
- 2 本報告書で使用した地図は、国土地理院発行地形図（1/50,000）、倉吉市作成都市計画図（1/2,500）を縮小、加筆して使用したものである。
- 3 本遺跡の土層に示した土色は、小山正忠、竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に基づき、土の色相、明度及び彩度を判定したものである。また、地層の粒度の記載に関しては、地質学で標準的に用いられるWentworthの区分を使用した。
- 4 遺構平面図・断面図の縮尺は統一しておらず、挿図ごとにスケールバーと縮尺を掲載している。
- 5 遺物掲載番号の頭に付した記号はPo=土器、CP=土製品、S=石器、F=鉄関連遺物、Br=銅鏡、Se=種子を示す。
- 6 遺構図に用いたスクリーントーンはそれぞれ以下のものを表す。
柱痕跡 柱抜き取り痕跡 土器 石器・石
- 7 遺物実測図の縮尺については、土器・土製品を1/2、1/4、石器を1/3、2/3、鉄関連遺物を1/2、貨幣を1/1で示した。
- 8 遺物実測図の断面は、須恵器を黒塗り、それ以外のものは白抜きで示した。
- 9 遺物観察表の法量記載における※は推定復元値、△は残存値を示す。
- 10 遺構の評価については以下の文献を参考にしている。

中山敏史ほか 2003 「古代の官衙遺跡 I 遺構編」 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所

中山敏史ほか 2004 「古代の官衙遺跡 II 遺物・遺跡編」 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所

- 11 本書における遺構・遺物の時期決定は以下の文献を参考にしている。

岡田裕之・八崎興 2014 「鳥取における古代から中世前期の土器編年－須恵器と回転台土師器を基に－」『鳥取県埋蔵文化財センター調査研究紀要5』鳥取県埋蔵文化財センター

梅村大輔 2019 「事例報告 青谷横木遺跡の土器様相」『律令期の土器』鳥取県埋蔵文化財センター

田辺昭三 1981 『須恵器大成』角川書店

岩橋孝典 2010 「土製支脚の分布状況と古代行政境界－6世紀～8世紀の出雲国東部・伯耆国西部の状況から－」『出雲国の形成と国府成立の研究－古代山陰地域の土器様相と領域性－』鳥根県古代文化センター

牧本哲雄 1999 「古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅳ・園第6遺跡』財团法人鳥取県教育文化財団

清水真一 1992 「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年－山陽・山陰編－』木耳社

目 次

卷頭図版

序、例言、凡例

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯.....	(森本) 1
第2節 調査の経過.....	2
第1項 平成29年度.....	(森本) 2
第2項 令和元年度.....	(小口) 3
第3節 調査体制.....	(森本・小口) 4
第4節 調査の方法.....	(森本) 6
第1項 調査地の地区割.....	6
第2項 発掘調査と記録の対象.....	8
第3項 出土遺物の整理.....	10

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の立地と地理的環境.....	(牧本・森本) 11
第2節 歴史的環境.....	(牧本・森本) 12

第3章 調査成果

第1節 概要.....	(森本・小口) 19
第2節 基本層序.....	(森本・小口) 20
第1項 1・2区の基本層序.....	(森本) 20
第2項 3区の基本層序.....	(小口) 28
第3節 検出した遺構と遺物	
第1項 古代の遺構の調査.....	(森本・門脇・小口) 38
第2項 時期不明の遺構の調査.....	(森本・門脇・小口) 176
第3項 遺構外出土遺物.....	(小口) 182
第4節 遺物観察表.....	(森本) 192

第4章 総括

第1節 天神野台地上の集落－飛鳥時代から平安時代を中心－.....	(森本) 203
第1項 小鶴道祖神遺跡の変遷.....	203
第2項 小鶴道祖神遺跡とドウカ平遺跡の建物群.....	208
第3項 まとめ.....	211

巻末図版

報告書抄録・奥付

挿図目次

第1図	一般国道313号線予定地と調査地の位置	1	第41図	掘立柱建物2・8位置図	57
第2図	鳥取県と国土座標系	6	第42図	掘立柱建物3	58
第3図	小鶴道祖神遺跡の地区割図	7	第43図	掘立柱建物3出土土器	59
第4図	鳥取県と遺跡の所在地	11	第44図	掘立柱建物4	60
第5図	遺跡周辺の地質環境	12	第45図	掘立柱建物4出土土器・須恵器	61
第6図	周辺の遺跡	13	第46図	掘立柱建物4変遷図	62
第7図	伯耆国内の郡の想定位置図	16	第47図	掘立柱建物5・6・9位置図	65
第8図	久米郡内の郷の想定位置図	16	第48図	掘立柱建物5	66
第9図	調査区周辺の地形図	19	第49図	掘立柱建物5変遷図	68
第10図	1・2区A断面土層断面図(1)	21	第50図	掘立柱建物5 P10・13・22・24	69
第11図	1・2区A断面土層断面図(2)	22	第51図	掘立柱建物5出土須恵器	70
第12図	1・2区A断面土層断面図(3)	23	第52図	掘立柱建物6	72
第13図	1・2区A断面土層断面図(4)	24	第53図	掘立柱建物7	74
第14図	1・2区B断面土層断面図	25	第54図	掘立柱建物7変遷図	76
第15図	1・2区C断面土層断面図	26	第55図	掘立柱建物7出土土器・須恵器	77
第16図	1・2区D断面土層断面図	27	第56図	掘立柱建物8	78
第17図	3区F断面土層断面図(1)	29	第57図	掘立柱建物8出土土器	78
第18図	3区F断面土層断面図(2)	30	第58図	掘立柱建物9	79
第19図	3区F断面土層断面図(3)	31	第59図	掘立柱建物10	81
第20図	3区F断面土層断面図(4)	32	第60図	掘立柱建物10出土土器	81
第21図	3区E・G・H・I断面土層断面図	33	第61図	掘立柱建物10・19位置図	82
第22図	遺構全体図(1~3区)	34	第62図	掘立柱建物11	83
第23図	1区遺構全体図	35	第63図	掘立柱建物11出土土製支脚	84
第24図	2区遺構全体図	36	第64図	掘立柱建物12(1)	86
第25図	3区遺構全体図	37	第65図	掘立柱建物12(2)	87
第26図	竪穴建物1	39	第66図	掘立柱建物12出土土器・須恵器	88
第27図	竪穴建物1出土須恵器	39	第67図	掘立柱建物13	89
第28図	竪穴建物2a・2b	40	第68図	掘立柱建物14	90
第29図	竪穴建物2	41	第69図	掘立柱建物14出土須恵器	91
第30図	竪穴建物3	43	第70図	掘立柱建物15(1)	92
第31図	竪穴建物3出土土器・須恵器・土製品・鉄器	44	第71図	掘立柱建物15(2)	93
第32図	竪穴建物4	46	第72図	掘立柱建物16	94
第33図	竪穴建物4出土土器・須恵器・石器・鉄器	46	第73図	掘立柱建物16出土須恵器	95
第34図	竪穴建物5	48	第74図	掘立柱建物17	96
第35図	竪穴建物5床面上遺物出土状況図	49	第75図	掘立柱建物17出土土器・土製品	97
第36図	竪穴建物5出土土器・須恵器	50	第76図	掘立柱建物17変遷図	99
第37図	竪穴建物5出土土製品・鉄関連遺物	51	第77図	掘立柱建物18	100
第38図	掘立柱建物1	54	第78図	掘立柱建物19	102
第39図	掘立柱建物2	56	第79図	掘立柱建物19出土土器	102
第40図	掘立柱建物2出土土器	56	第80図	掘立柱建物12・20・21位置図	103
			第81図	掘立柱建物20	104
			第82図	掘立柱建物20出土土器・須恵器	105

第83図	掘立柱建物21	106	第123図	掘立柱建物38出土土師器壺	147
第84図	掘立柱建物21出土須恵器・土製品	107	第124図	掘立柱建物39	149
第85図	掘立柱建物22(1)	109	第125図	掘立柱建物40	151
第86図	掘立柱建物22出土土師器・須恵器	109	第126図	掘立柱建物41	152
第87図	掘立柱建物22(2)	110	第127図	掘立柱建物42	154
第88図	掘立柱建物23	111	第128図	730段状遺構・747ピット	156
第89図	掘立柱建物23出土須恵器	112	第129図	730段状遺構出土土師器壺	156
第90図	掘立柱建物24	113	第130図	736土坑	157
第91図	掘立柱建物25(1)	116	第131図	736土坑出土土師器・須恵器・土製品	158
第92図	掘立柱建物25出土土師器・須恵器・土製品	116	第132図	745土坑	159
第93図	掘立柱建物25(2)	117	第133図	745土坑出土土師器	160
第94図	掘立柱建物25変遷図	118	第134図	745土坑出土須恵器・土製品	161
第95図	掘立柱建物26(1)	119	第135図	745土坑出土土製品・石器	162
第96図	掘立柱建物26(2)	120	第136図	795・798・819土坑、799ピット	164
第97図	掘立柱建物26出土須恵器	120	第137図	795土坑出土土師器・須恵器	165
第98図	掘立柱建物27	121	第138図	797・798土坑出土土製品	165
第99図	掘立柱建物15・28位置図	122	第139図	660・910柱穴(2区)	167
第100図	掘立柱建物28(1)	123	第140図	297・314柱穴(1区)	168
第101図	掘立柱建物28(2)	124	第141図	461・802柱穴(2区)	168
第102図	掘立柱建物29	126	第142図	607・610・704・826・828柱穴(3区)	169
第103図	掘立柱建物30(1)	127	第143図	851・904ピット(2区)	170
第104図	掘立柱建物30(2)	128	第144図	1~3区柱穴・ピット出土土師器・須恵器	175
第105図	掘立柱建物31(1)	129	第145図	448・464土坑	177
第106図	掘立柱建物31(2)	130	第146図	708・818土坑	178
第107図	掘立柱建物31出土土師器壺	130	第147図	400・402~404土坑	180
第108図	掘立柱建物31・32位置図	131	第148図	733土坑	181
第109図	掘立柱建物32(1)	132	第149図	401・875土坑	182
第110図	掘立柱建物32(2)	133	第150図	1層出土土師器・須恵器・土製品	183
第111図	掘立柱建物32出土須恵器壺	133	第151図	1区出土土師器	184
第112図	掘立柱建物33	135	第152図	1区出土須恵器	185
第113図	掘立柱建物33変遷図	137	第153図	2区出土土師器・須恵器	186
第114図	掘立柱建物34	139	第154図	3区出土土師器・須恵器・弥生土器	188
第115図	掘立柱建物34出土須恵器壺	140	第155図	1区出土土製品	188
第116図	掘立柱建物35	141	第156図	2・3区出土土製品	189
第117図	掘立柱建物35出土土師器・須恵器	142	第157図	1・2区出土土製品	190
第118図	525・557柱穴出土土師器・須恵器	143	第158図	1・2区出土馬	190
第119図	掘立柱建物36	144	第159図	1・2区出土石器・貨幣	191
第120図	掘立柱建物37	145	第160図	小鶴道祖神遺跡遺構全体図	204
第121図	掘立柱建物37出土製塙土器	146	第161図	小鶴道祖神・ドウタ平遺跡遺構位置図	210
第122図	掘立柱建物38	147			

挿表目次

第1表	堅穴建物1遺構計測表	38	第39表	掘立柱建物31遺構計測表	131
第2表	堅穴建物2遺構計測表	42	第40表	掘立柱建物32遺構計測表	134
第3表	堅穴建物3遺構計測表	43	第41表	掘立柱建物33遺構計測表	138
第4表	堅穴建物4遺構計測表	45	第42表	掘立柱建物34遺構計測表	140
第5表	堅穴建物5遺構計測表	47	第43表	掘立柱建物35遺構計測表	142
第6表	堅穴建物計測表	51	第44表	掘立柱建物36遺構計測表	144
第7表	掘立柱建物計測表(1)	52	第45表	掘立柱建物37遺構計測表	146
第8表	掘立柱建物計測表(2)	53	第46表	掘立柱建物38遺構計測表	147
第9表	掘立柱建物1遺構計測表	55	第47表	掘立柱建物39遺構計測表	149
第10表	掘立柱建物2遺構計測表	57	第48表	掘立柱建物40遺構計測表	152
第11表	掘立柱建物3遺構計測表	59	第49表	掘立柱建物41遺構計測表	153
第12表	掘立柱建物4遺構計測表	64	第50表	掘立柱建物42遺構計測表	155
第13表	掘立柱建物5遺構計測表	71	第51表	段状遺構計測表	156
第14表	掘立柱建物6遺構計測表	72	第52表	土坑遺構計測表	166
第15表	掘立柱建物7遺構計測表	77	第53表	柱穴・ビット遺構計測表(1)	171
第16表	掘立柱建物8遺構計測表	78	第54表	柱穴・ビット遺構計測表(2)	172
第17表	掘立柱建物9遺構計測表	80	第55表	柱穴・ビット遺構計測表(3)	173
第18表	掘立柱建物10遺構計測表	82	第56表	柱穴・ビット遺構計測表(4)	174
第19表	掘立柱建物11遺構計測表	84	第57表	柱穴・ビット遺構計測表(5)	175
第20表	掘立柱建物12遺構計測表	85	第58表	土坑遺構計測表(落とし穴等)	181
第21表	掘立柱建物13遺構計測表	89	第59表	土器観察表(1)	192
第22表	掘立柱建物14遺構計測表	91	第60表	土器観察表(2)	193
第23表	掘立柱建物15遺構計測表	92	第61表	土器観察表(3)	194
第24表	掘立柱建物16遺構計測表	95	第62表	土器観察表(4)	195
第25表	掘立柱建物17遺構計測表	98	第63表	土器観察表(5)	196
第26表	掘立柱建物18遺構計測表	101	第64表	土器観察表(6)	197
第27表	掘立柱建物19遺構計測表	102	第65表	土器観察表(7)	198
第28表	掘立柱建物20遺構計測表	105	第66表	土器観察表(8)	199
第29表	掘立柱建物21遺構計測表	108	第67表	土製品観察表(1)	200
第30表	掘立柱建物22遺構計測表	108	第68表	土製品観察表(2)	201
第31表	掘立柱建物23遺構計測表	112	第69表	石器観察表	202
第32表	掘立柱建物24遺構計測表	114	第70表	鉄関連遺物観察表	202
第33表	掘立柱建物25遺構計測表	118	第71表	貨幣観察表	202
第34表	掘立柱建物26遺構計測表	120	第72表	桃核観察表	202
第35表	掘立柱建物27遺構計測表	122	第73表	小鶴道祖神遺跡建物変遷表(1)	207
第36表	掘立柱建物28遺構計測表	125	第74表	小鶴道祖神遺跡建物変遷表(2)	208
第37表	掘立柱建物29遺構計測表	125	第75表	ドウ々平遺跡堅穴建物計測表	211
第38表	掘立柱建物30遺構計測表	127	第76表	ドウ々平遺跡掘立柱建物計測表	211

卷頭図版目次

- 卷頭図版 1 1 小鴨道祖神遺跡周辺の地形
(西から: 平成29年撮影)
2 小鴨道祖神遺跡周辺の地形
(東から: 令和元年撮影)

- 卷頭図版 2 1 1~3区出土赤彩土師器
2 1~3区出土須恵器

文中写真目次

写真1	平成29年度小鴨道祖神遺跡1区 表土剥ぎ風景	2
写真2	平成29年度小鴨道祖神遺跡1区 現地説明会風景	2
写真3	令和元年度小鴨道祖神遺跡2区 表土剥ぎ風景	3
写真4	令和元年度小鴨道祖神遺跡3区 現地説明会風景	3
写真5	B断面(T45-5j-6A-6eグリッド: 掘立柱建物31P4周辺)土層断面(東から)	20
写真6	F断面土層断面(北東から)	28

写真7	掘立柱建物2~4・6・8(俯瞰)	59
写真8	掘立柱建物5・6・9(俯瞰)	65
写真9	掘立柱建物5 P24遺物(Po36)出土状況 (南東から)	69
写真10	掘立柱建物11 P1遺物(CP5)出土状況 (東から)	84
写真11	掘立柱建物11 P3遺物(CP5)出土状況 (北東から)	84
写真12	掘立柱建物30 P7桃核(Se2)出土状況 (南から)	128

卷末図版目次

図版1	1 調査地遠景(北西から: 平成29年撮影) 2 調査地遠景(南東から: 令和元年撮影)
図版2	1 調査地近景(南東から: 平成29年撮影) 2 調査地近景(北西から: 令和元年撮影)
図版3	1 調査前の状況(東から: 平成29年撮影) 2 調査前の状況(北西から: 平成29年撮影)
図版4	1区(南東側)完掘状況(北西から) 2 1区(北西側)完掘状況(北西から)
図版5	1 2区完掘状況(北西から) 2 3区完掘状況(南西から)
図版6	1 3区(南西側)完掘状況(北東から) 2 3区(南西端)完掘状況(南東から)
図版7	1 1区南東側(B断面南東側)堆積状況 (北西から) 2 1区北西側(C断面)堆積状況(南東から) 3 1区北西側(D断面)堆積状況(西から)
図版8	1 1区東側(A断面)堆積状況(北東から) 2 2区南西側(A断面)堆積状況(北東から) 3 2区北東側(A断面)堆積状況(南から)
図版9	1 3区南西側(H断面)堆積状況(北東から) 2 3区南西側(F断面)堆積状況(南東から) 3 3区北東側(F断面)堆積状況(南から)

図版10	竪穴建物1 1 竪穴建物1 完掘状況(北西から) 2 竪穴建物1 検出状況(北西から) 3 P2(炉跡)完掘状況(南東から) 4 周壁溝土層断面(北西から) 5 P1土層断面(北東から)
図版11	竪穴建物1 1 土層断面(北から) 2 土層断面(南から)
図版12	竪穴建物2 1 竪穴建物2b 完掘状況(北から) 2 竪穴建物2b 土層断面(南西から)
図版13	竪穴建物2 1 竪穴建物2b 貼床検出状況(北西から) 2 竪穴建物2b 貼床断ち割り状況(西から)
図版14	竪穴建物2 1 竪穴建物2a 完掘状況(北西から) 2 竪穴建物2a 床面検出状況(北西から)
図版15	竪穴建物3 1 完掘状況(北西から) 2 土層断面(南から)
図版16	竪穴建物3

- 1 NEベルト土層断面(北西から)
 2 SEベルト土層断面(西から)
 3 P 1(炉跡)検出状況(北東から)
 4 N区遺物(Po5)出土状況(南から)
 5 N区遺物(Po10、CP1他)出土状況
 (東から)
- 図版17 壊穴建物4
 1 完掘状況(北東から)
 2 SE・SWベルト土層断面(北西から)
- 図版18 壊穴建物4
 1 NEベルト土層断面(西から)
 2 貼床(708土坑上面部分)検出状況
 (南西から)
 3 炉跡被覆土土層断面(南西から)
 4 炉跡検出状況(南西から)
 5 完掘状況(北東から)
- 図版19 壊穴建物5
 1 完掘状況(北東から)
 2 土層断面(西から)
- 図版20 壊穴建物5
 1 P 2(炉跡)被覆土土層断面(南から)
 2 P 2(炉跡)検出状況(南から)
 3 N区遺物出土状況(北から)
 4 E区遺物(Po20他)出土状況(東から)
 5 E区床面直上遺物(Po20他)出土状況
 (南から)
 6 S区床面直上遺物(Po16他)出土状況
 (東から)
 7 W区床面直上遺物(Po16)出土状況
 (北西から)
 8 床面(中央部)直上遺物出土状況(北から)
- 図版21 壊穴建物5
 1 床面直上遺物出土状況(北東から)
 2 床面(中央部)直上遺物(Po28、CP4他)
 出土状況(西から)
- 図版22 挖立柱建物1～12・19
 挖立柱建物1～12・19 完掘状況
 (北東から)
- 図版23 挖立柱建物1
 1 挖立柱建物1 完掘状況(北東から)
 2 挖立柱建物1 検出状況(北東から)
 3 P 1土層断面(南東から)
 4 P 2土層断面(南東から)
- 5 P 3土層断面(南東から)
 図版24 挖立柱建物1
 1 P 4土層断面(南東から)
 2 P 5、16ピット土層断面(北から)
 3 P 6土層断面(南西から)
 4 P 7土層断面(北東から)
 5 P 8、8ピット土層断面(南西から)
 6 P 10、12ピット土層断面(南西から)
 7 P 11・14土層断面(北西から)
 8 P 12土層断面(南西から)
- 図版25 挖立柱建物1～3・8
 挖立柱建物1～3・8 完掘状況
 (北東から)
- 図版26 挖立柱建物2・8
 1 挖立柱建物2・8 完掘状況(南西から)
 2 挖立柱建物2・8 検出状況(南西から)
- 図版27 挖立柱建物2・8
 1 挖立柱建物2 P 2、9ピット土層断面
 (東から)
 2 挖立柱建物2 P 4、掘立柱建物8
 P 5土層断面(東から)
 3 挖立柱建物2 P 7土層断面(北西から)
 4 挖立柱建物2 P 8土層断面(北西から)
 5 挖立柱建物8 P 1土層断面(南東から)
 6 挖立柱建物8 P 2土層断面(南東から)
 7 挖立柱建物8 P 6土層断面(北西から)
 8 挖立柱建物8 P 7土層断面(北西から)
- 図版28 挖立柱建物3
 1 挖立柱建物3 完掘状況(北東から)
 2 挖立柱建物3 検出状況(南西から)
 3 P 1土層断面(南東から)
 4 P 2土層断面(南東から)
 5 P 3土層断面(南東から)
- 図版29 挖立柱建物3
 1 P 4土層断面(北西から)
 2 P 5土層断面(北西から)
 3 P 6土層断面(北西から)
 4 P 7土層断面(北西から)
 5 P 8土層断面(北西から)
 6 P 10土層断面(北西から)
 7 P 9・10土層断面(南から)
- 図版30 1区挖立柱建物・掘立柱建物4
 1 1区挖立柱建物1～12・19 完掘状況

	(俯瞰)	
2	掘立柱建物 4 完掘状況(北東から)	
図版31	掘立柱建物 4	
1	P 1・7・15完掘状況(北東から)	
2	P 7・15土層断面(西から)	
3	P 2・8・16完掘状況(南東から)	
4	P16土層断面(東から)	
5	P 3・9・13・17・24完掘状況(南東から)	
6	P 3・9・13・17・24土層断面(南西から)	
7	P 18・25土層断面(北西から)	
8	P 19・26土層断面(南西から)	
図版32	掘立柱建物 4	
1	P27土層断面(北西から)	
2	P 4・10・21土層断面(北西から)	
3	P 5・11・22完掘状況(北から)	
4	P11・22土層断面(西から)	
5	P22底面検出状況(西から)	
6	P 6・12・14・23完掘状況(北から)	
7	P 6・12土層断面(北西から)	
8	P12・23土層断面(南西から)	
図版33	掘立柱建物 5・6・9	
1	掘立柱建物 5・6・9 完掘状況(北東から)	
2	掘立柱建物 5 P 1・14、337ピット 土層断面(南西から)	
3	掘立柱建物 5 P 4・11・23土層断面 (南西から)	
4	掘立柱建物 5 P 6・18土層断面 (南東から)	
5	掘立柱建物 5 P 9・21完掘状況 (南西から)	
図版34	掘立柱建物 5	
1	P 9・21土層断面(北西から)	
2	P12・19土層断面(北西から)	
3	P 10・13・22・24完掘状況(南西から)	
4	P24遺物(Po36)出土状況(北西から)	
5	P 10・13・22・24土層断面(南から)	
6	P 26・27土層断面(南西から)	
7	P 29土層断面(北西から)	
8	P 30土層断面(南東から)	
図版35	掘立柱建物 6	
1	P 1 土層断面(南東から)	
2	P 2 土層断面(南東から)	
3	P 3 土層断面(南東から)	
図版36	掘立柱建物 5・9	
4	P 4 土層断面(北西から)	
5	P 5 土層断面(北西から)	
6	P 6 土層断面(南東から)	
図版37	掘立柱建物 7・11・12	
1	掘立柱建物 7 完掘状況(北東から)	
2	掘立柱建物 7・11・12 検出状況 (南西から)	
図版38	掘立柱建物 7	
1	P 1・10完掘状況(北から)	
2	P 1・10土層断面(東から)	
3	P 4・12・18土層断面(北西から)	
4	P 9・17・22土層断面(北西から)	
5	P 5・13完掘状況(北西から)	
6	P 5・13土層断面(北から)	
7	P 6・19完掘状況(西から)	
8	P 6・19土層断面(北東から)	
図版39	掘立柱建物 7	
1	P 14・19土層断面(北西から)	
2	P 7・15・20完掘状況(西から)	
3	P 7・15・20土層断面(北から)	
4	P 20土層断面(北西から)	
5	P 8・16・21完掘状況(西から)	
6	P 8・16・21土層断面(北東から)	
7	P 21土層断面(北西から)	
8	P 11土層断面(北西から)	
図版40	掘立柱建物 10・19	
1	掘立柱建物 10・19 完掘状況(北東から)	
2	掘立柱建物 19 P 5 土層断面(北東から)	
3	掘立柱建物 19 P 1 土層断面(北西から)	
4	掘立柱建物 19 P 2 土層断面(北西から)	
5	掘立柱建物 19 P 3・7 土層断面 (北西から)	
図版41	掘立柱建物 10	

- 1 P 1 土層断面(北西から)
 2 P 2 土層断面(南東から)
 3 P 3 土層断面(北西から)
 4 P 4 土層断面(北東から)
 5 P 5 土層断面(北東から)
 6 P 7 土層断面(南西から)
- 国版42 挖立柱建物7・11
 1 挖立柱建物11 完掘状況(北東から)
 2 挖立柱建物7・11 検出状況(北東から)
- 国版43 挖立柱建物11
 1 P 1 土層断面、遺物(CP5)出土状況
 (東から)
 2 P 2 土層断面(東から)
 3 P 3 土層断面(東から)
 4 P 3 遺物(CP5)出土状況(北東から)
 5 P 5 土層断面(西から)
 6 P 6 土層断面(西から)
 7 P 7 土層断面(西から)
 8 P 8 土層断面(西から)
- 国版44 挖立柱建物12
 1 挖立柱建物12 完掘状況(北東から)
 2 挖立柱建物12 検出状況(北東から)
- 国版45 挖立柱建物12・20
 1 挖立柱建物12 P 3 土層断面(北西から)
 2 挖立柱建物12 P 5、掘立柱建物20
 P 6 土層断面(北東から)
 3 挖立柱建物12 P 6 土層断面(南西から)
 4 挖立柱建物12 P 7 土層断面(北西から)
 5 挖立柱建物12 P 8 土層断面(北西から)
 6 挖立柱建物12 P 9 土層断面(北西から)
 7 挖立柱建物12 P 4・14 土層断面
 (北西から)
 8 挖立柱建物12 P 15 土層断面(北西から)
- 国版46 挖立柱建物12・20・21
 1 挖立柱建物12・20・21 完掘状況
 (北から)
 2 挖立柱建物12・20・21 検出状況
 (北東から)
- 国版47 挖立柱建物12・20
 1 挖立柱建物12 P 1・11、掘立柱建物20
 P 4・12 完掘状況(北から)
 2 挖立柱建物12 P 1 充填土土層断面
 (南西から)
- 3 挖立柱建物12 P 1・11 土層断面(南から)
 4 挖立柱建物20 P 4・12 土層断面(北から)
 5 挖立柱建物12 P 11、掘立柱建物20
 P 12 土層断面(東から)
- 国版48 挖立柱建物12・20
 1 挖立柱建物20 P 1 土層断面(南東から)
 2 挖立柱建物20 P 2 土層断面(南東から)
 3 挖立柱建物20 P 3・11 土層断面(東から)
 4 挖立柱建物12 P 5 完掘状況、掘立柱
 建物20 P 6 土層断面(南西から)
 5 挖立柱建物20 P 7 土層断面(西から)
 6 挖立柱建物20 P 8 土層断面(北西から)
 7 挖立柱建物20 P 9 土層断面(西から)
- 国版49 挖立柱建物21
 1 P 1 土層断面(北東から)
 2 P 2 土層断面(東から)
 3 P 4・15 土層断面(南西から)
 4 P 5 土層断面(東から)
 5 P 7・16 土層断面(西から)
 6 P 8 土層断面、遺物(Po63・CP8他)
 出土状況(北東から)
 7 P 12・18 土層断面(西から)
 8 P 14 土層断面(西から)
- 国版50 挖立柱建物13
 1 挖立柱建物13 完掘状況(南東から)
 2 P 1 土層断面(南西から)
 3 P 2 土層断面(南西から)
 4 P 3 土層断面(南西から)
 5 P 4 土層断面(北西から)
- 国版51 挖立柱建物14
 1 挖立柱建物14 完掘状況(北東から)
 2 P 3・8 土層断面(南東から)
 3 P 6 土層断面(北西から)
 4 P 5・10、221 ピット土層断面(南東から)
 5 P 6 遺物(Po57)出土状況(南西から)
- 国版52 挖立柱建物15・28
 1 挖立柱建物15・28 完掘状況(北東から)
 2 挖立柱建物15 P 1 土層断面(東から)
 3 挖立柱建物15 P 2 土層断面(南東から)
 4 挖立柱建物28 P 8 土層断面(南西から)
 5 挖立柱建物15 P 9 土層断面(南東から)
- 国版53 挖立柱建物28
 1 P 1 土層断面(南東から)

- | | | |
|------|-----------------------------------|-----------------------|
| 2 | P 3 土層断面(東から) | 2区掘立柱建物12・15・16・20～33 |
| 3 | P 4 土層断面(南西から) | 41・42 完掘状況(俯瞰) |
| 4 | P 7 土層断面(南東から) | |
| 5 | P 9 土層断面(北東から) | |
| 6 | P 10 土層断面(南東から) | |
| 7 | P 11 土層断面(南東から) | |
| 8 | P 12 土層断面(南東から) | |
| 図版54 | 掘立柱建物16 | |
| 1 | 掘立柱建物16 完掘状況(北東から) | |
| 2 | P 3・803柱穴土層断面(南西から) | |
| 3 | P 8 検出状況(南東から) | |
| 4 | P 6 完掘状況(西から) | |
| 5 | P 8 土層断面(南東から) | |
| 図版55 | 掘立柱建物17 | |
| 1 | 掘立柱建物17 完掘状況(北東から) | |
| 2 | P 1・11土層断面(北西から) | |
| 3 | P 2 土層断面(北西から) | |
| 4 | P 3・12土層断面(北西から) | |
| 5 | P 4 土層断面(北西から) | |
| 図版56 | 掘立柱建物17 | |
| 1 | P 5 土層断面(北東から) | |
| 2 | P 6・17土層断面(南から) | |
| 3 | P 7・18土層断面(北から) | |
| 4 | P 8 土層断面(南東から) | |
| 5 | P 9・19土層断面(北から) | |
| 6 | P 11・13土層断面(北から) | |
| 7 | P 13土層断面(南東から) | |
| 図版57 | 掘立柱建物17 | |
| 1 | P 14 土層断面(南東から) | |
| 2 | P 15 土層断面(南東から) | |
| 3 | P 16・21土層断面(南東から) | |
| 4 | P 16遺物(CP 7)、P 21遺物出土状況
(南西から) | |
| 5 | P 18 土層断面(南東から) | |
| 6 | P 19 土層断面(南東から) | |
| 7 | P 20 土層断面(南東から) | |
| 図版58 | 掘立柱建物18 | |
| 1 | 掘立柱建物18 完掘状況(北から) | |
| 2 | P 1 土層断面(南東から) | |
| 3 | P 2・6土層断面(南から) | |
| 4 | P 4 土層断面(北西から) | |
| 5 | P 7 土層断面(北西から) | |
| 図版59 | 2区掘立柱建物 | |
| 1 | P 1・588・589・624柱穴完掘状況
(北西から) | |
| 2 | P 1・588・589・624柱穴土層断面
(南東から) | |
| 3 | P 2 土層断面(東から) | |
| 4 | P 3 土層断面(西から) | |

- 5 P 4 土層断面(西から)
 6 P 5 土層断面(南から)
 7 P 6 土層断面(西から)
- 国版64 挖立柱建物23・25・33
 1 挖立柱建物23・25・33 完掘状況
 (北から)
 2 挖立柱建物25 P 2・10 完掘状況
 (南東から)
 3 挖立柱建物25 P 3・11 完掘状況
 (北東から)
 4 挖立柱建物25 P 2・10 土層断面
 (南東から)
 5 挖立柱建物25 P 3・11 土層断面
 (南西から)
- 国版65 挖立柱建物25
 1 P 1・9 土層断面(南西から)
 2 P 7・15 土層断面(北東から)
 3 P 8・16 土層断面(南西から)
 4 P 15 遺物(Po68) 出土状況(東から)
 5 P 12 土層断面(南西から)
 6 P 13 土層断面(東から)
 7 P 4 完掘状況(北東から)
 8 P 5 土層断面(東から)
- 国版66 挖立柱建物26・27
 1 挖立柱建物26・27 完掘状況(北から)
 2 挖立柱建物27 P 1 土層断面(北西から)
 3 挖立柱建物27 P 3 土層断面(東から)
 4 挖立柱建物27 P 5 土層断面(北西から)
 5 挖立柱建物27 P 6 土層断面(南から)
- 国版67 挖立柱建物26・27
 1 挖立柱建物26 P 5、挖立柱建物27
 P 4 土層断面(南東から)
 2 挖立柱建物26 P 1 土層断面(南西から)
 3 挖立柱建物26 P 2 土層断面、遺物
 (Po70) 出土状況(東から)
 4 挖立柱建物26 P 2 遺物(Po71)
 出土状況(南から)
 5 挖立柱建物26 P 4 完掘状況(北から)
 6 挖立柱建物26 P 4 土層断面(東から)
 7 挖立柱建物26 P 6 土層断面(南東から)
 8 挖立柱建物26 P 7 土層断面(南から)
- 国版68 挖立柱建物29
 1 挖立柱建物29 完掘状況(南東から)
- 2 P 1 土層断面(南西から)
 3 P 3 土層断面(南東から)
 4 P 4 土層断面(南西から)
 5 P 6 土層断面(南西から)
- 国版69 挖立柱建物30
 1 挖立柱建物30 完掘状況(東から)
 2 P 1 土層断面(東から)
 3 P 2 土層断面(南から)
 4 P 3・9 完掘状況(南西から)
 5 P 3・9 土層断面(南東から)
- 国版70 挖立柱建物30
 1 P 4 完掘状況(北東から)
 2 P 4 土層断面(北から)
 3 P 5 土層断面(東から)
 4 P 6 土層断面(南西から)
 5 P 7 完掘状況(北から)
 6 P 7 遺物(Se 2) 出土状況(南から)
 7 P 7 土層断面(南から)
 8 P 8 土層断面(南東から)
- 国版71 挖立柱建物31・32
 1 挖立柱建物31・32 完掘状況(北東から)
 2 挖立柱建物31 P 1、848柱穴土層断面
 (北東から)
 3 挖立柱建物31 P 5、834柱穴土層断面
 (南東から)
 4 挖立柱建物31 P 2 土層断面(南西から)
 5 挖立柱建物31 P 6 土層断面(北東から)
- 国版72 挖立柱建物31・32
 1 挖立柱建物31 P 7 土層断面(東から)
 2 挖立柱建物31 P 8 遺物(Po72)
 出土状況(東から)
 3 挖立柱建物32 P 1 土層断面(北西から)
 4 挖立柱建物32 P 2 土層断面(南東から)
 5 挖立柱建物32 P 3 遺物(Po73)
 出土状況(北西から)
 6 挖立柱建物32 P 7・11 土層断面
 (北東から)
 7 挖立柱建物32 P 8・12 土層断面(南から)
 8 挖立柱建物32 P 10 土層断面(北西から)
- 国版73 2・3区 挖立柱建物
 3区 挖立柱建物34~40他 完掘状況(館跡)
- 国版74 挖立柱建物34・35
 1 挖立柱建物34 P 1・5 土層断面

		4 P 3 土層断面(西から)
2	掘立柱建物34 P 2・6 土層断面 (北東から)	5 P 4 土層断面(西から)
3	掘立柱建物34 P 4・8 土層断面(西から)	6 P 6・7 土層断面(南東から)
4	掘立柱建物35 P 1 土層断面(南西から)	図版79 3 区完掘状況 3区南東側斜面部完掘状況(俯瞰)
5	掘立柱建物35 P 2 土層断面(南から)	図版80 段状造構 1 730段状造構完掘状況(北西から) 2 730段状造構土層断面(南西から)
6	掘立柱建物35 P 3・604柱穴土層断面 (北から)	図版81 土坑 1 736土坑遺物(Po105他)出土状況(南から) 2 736土坑完掘状況(南東から) 3 736土坑遺物(Po93他)出土状況(北東から) 4 736土坑土層断面(北から) 5 736土坑底面直上遺物(Po100他) 出土状況(南西から)
7	掘立柱建物35 P 4・548柱穴土層断面 (南東から)	図版82 土坑 1 745土坑完掘状況(南東から) 2 745土坑土層断面(北東から)
8	掘立柱建物35 P 5・555・557柱穴 土層断面(南東から)	図版83 土坑 1 745土坑遺物(Po134・CP13他) 出土状況(南東から) 2 745土坑遺物出土状況(西から) 3 745土坑遺物出土状況(北東から) 4 745土坑遺物出土状況(西から) 5 745土坑遺物出土状況(南西から)
図版75	掘立柱建物36・37 1 掘立柱建物36 P 1 土層断面(南東から) 2 掘立柱建物36 P 2 土層断面(東から) 3 掘立柱建物36 P 3 完掘状況(南東から) 4 掘立柱建物37 P 2 土層断面(南東から) 5 掘立柱建物37 P 3 土層断面(東から) 6 掘立柱建物37 P 4 土層断面(南東から)	図版84 土坑・ピット 1 795土坑完掘状況(西から) 2 795土坑土層断面(西から) 3 795土坑土層断面(東から) 4 796~798土坑、799ピット完掘状況 (北西から) 5 799ピット完掘状況(南東から) 6 797・798土坑土層断面(西から) 7 798土坑遺物(CP25・26)出土状況 (北東から) 8 796・798土坑、799ピット土層断面 (東から)
図版76	掘立柱建物38・39・40 1 掘立柱建物38 P 2・917柱穴土層断面 (東から) 2 掘立柱建物38 P 3 土層断面(南東から) 3 掘立柱建物39 P 1 土層断面(南東から) 4 掘立柱建物39 P 2 土層断面(南東から) 5 掘立柱建物39 P 4・掘立柱建物40 P 3・7 土層断面(北西から)	図版85 土坑・柱穴 1 819土坑完掘状況(南から) 2 819土坑土層断面(南西から) 3 826柱穴完掘状況(南西から) 4 826・828柱穴土層断面(南西から) 5 461柱穴遺物(Po156)出土状況(南西から)
	6 掘立柱建物40 P 1・5 完掘状況 (南東から) 7 掘立柱建物40 P 6・690柱穴土層断面 (北東から) 8 掘立柱建物40 P 1・5 土層断面(南から)	
図版77	掘立柱建物41・堅穴建物3 1 掘立柱建物41・堅穴建物3 完掘状況 (北東から) 2 掘立柱建物41 P 1 土層断面(西から) 3 掘立柱建物41 P 2 完掘状況(南東から) 4 掘立柱建物41 P 3 土層断面(東から) 5 掘立柱建物41 P 8 土層断面(東から)	
図版78	掘立柱建物42 1 P 1 完掘状況(西から) 2 P 1 土層断面(南から) 3 P 2 土層断面(北東から)	

	6	607柱穴土層断面(南東から)		
	7	704柱穴遺物(Po155)出土状況(南から)		
	8	802柱穴遺物(Po20)出土状況(東から)		
図版86	土坑			
	1	464土坑完掘状況(北西から)		
	2	464土坑底面ピット土層断面(南西から)		
	3	818土坑完掘状況(南西から)		
	4	818土坑底面ピット土層断面(南西から)		
	5	448土坑完掘状況(北東から)		
	6	448土坑底面ピット検出状況(北東から)		
	7	708土坑完掘状況(南西から)		
	8	708土坑底面ピット土層断面(南西から)		
図版87	土坑			
	1	733土坑完掘状況(西から)		
	2	733土坑土層断面(西から)		
	3	400土坑完掘状況(南から)		
	4	400土坑検出状況(南から)		
	5	402土坑完掘状況(北東から)		
	6	402土坑土層断面(南西から)		
	7	403・404土坑完掘状況(南西から)		
	8	403・404土坑土層断面(南西から)		
図版88	1	堅穴建物3出土土師器・須恵器・土製品		
	2	堅穴建物3出土土師器壺		
	3	堅穴建物4出土砥石		
	4	堅穴建物4出土土師器・須恵器		
図版89	1	堅穴建物3・4出土鉄器		
	2	堅穴建物3出土鉄器(F 1)X線(側面)		
	3	堅穴建物3出土鉄器(F 1)X線(背面)		
	4	堅穴建物4出土鉄器(F 2)X線(側面)		
	5	堅穴建物4出土鉄器(F 2)X線(背面)		
図版90	1	堅穴建物5出土須恵器		
	2	堅穴建物5出土須恵器壊重ね焼きの痕跡 (1)		
	3	堅穴建物5出土土師器壺		
	4	堅穴建物5出土須恵器壊重ね焼きの痕跡 (2)		
	5	堅穴建物5出土土師器壺(内面アップ)		
図版91	堅穴建物5出土 土師器・土製品・鉄関連遺物			
図版92	1	堅穴建物1、掘立柱建物5・7・14出土 土師器・須恵器		
	2	掘立柱建物5出土須恵器蓋(外面)		
	3	掘立柱建物5出土須恵器蓋(内面)		
	4	掘立柱建物11出土土製支脚		
図版93		掘立柱建物2・4・8・10～12・17 出土土師器・須恵器・土製品		
図版94	1	掘立柱建物16・19・20～23・25・ 26・31・32・34・35・37出土 土師器・須恵器・土製品		
	2	掘立柱建物10・30出土桃核		
	3	730段状遺構出土土師器壺		
図版95		736土坑出土土師器・土製品		
図版96	1	736土坑出土土師器・須恵器 2 795・797・798土坑、826柱穴出土 土師器・須恵器・土製品		
図版97		745土坑出土土師器壺		
図版98		745土坑出土赤彩土師器(外面)		
図版99		745土坑出土赤彩土師器(内面)		
図版100	1	745土坑出土須恵器 2 745土坑出土製塙土器 3 745土坑出土土師器壺 4 745土坑出土移動式竈		
図版101		745土坑出土土製品		
図版102	1	745土坑出土金床石 2 704柱穴出土須恵器高坏(外面) 3 704柱穴出土須恵器高坏(内面) 4 297・314・461・525・557・607・610柱穴、 851・904ピット他出土土師器・須恵器		
図版103	1	1区I層出土土師器壺 2 1・3区I層出土 ミニチュア土器・須恵器		
図版104	1	1区I層出土土師器・須恵器・土製品 2 1区出土赤彩土師器		
図版105	1	1区I層出土赤彩土師器壺(1) 2 1区I層出土赤彩土師器壺(2) 3 1区表土出土赤彩土師器壺(1) 4 1区表土出土赤彩土師器壺(2) 5 1区出土製塙土器 6 1区出土土製品		
図版106	1	2区出土赤彩土師器壺(外面) 2 2区出土赤彩土師器壺(内面)		
図版107	1	2区出土土師器・土製品 2 3区出土弦生土器・土師器・須恵器・ 土製品		
図版108		1区出土土師器壺		
図版109		1区出土須恵器		

図版110 1 1・2区出土須恵器

2 2区出土須恵器

図版111 1区出土土製品

図版112 1 2区出土土製品

2 1・2区出土ミニチュア土器

3 1区出土銅錢(寛永通宝)

図版113 1 1区出土土馬

2 2区出土石器

3 1・2区出土石礫

4 1区出土砥石

第1章 調査の経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

今回報告する調査は、倉吉市小鴨及び北野に所在する小鴨道祖神遺跡の発掘調査である。調査は平成29年度に一般国道313号(倉吉道路)道路改良工事に伴う発掘調査、令和元年度に一般国道313号(倉吉道路)道路改良工事に伴う発掘調査および一般国道313号(倉吉関金道路)道路改良工事に伴う発掘調査を実施した。本書では、平成29年度調査区を1区、令和元年度調査のうち、倉吉道路に伴う調査区を2区、倉吉関金道路に伴う調査区を3区として報告する。

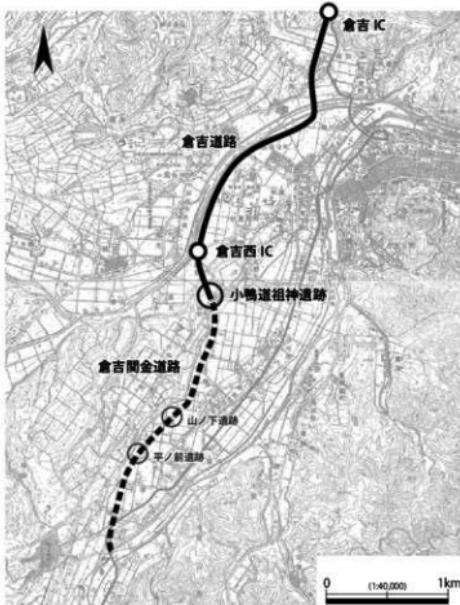
山陰地方では、観光、物流などの地域活性化をめざした幹線道路ネットワークの形成、交通渋滞の緩和および解消やそれに伴う安全性の向上、災害時の緊急輸送路確保などを目的として、中国横断自動車道姫路鳥取線や山陰自動車道などの高規格幹線道路の整備が進められている。このうち、鳥取県東伯郡北栄町から倉吉市福山までの延長約17.2kmの一般国道313号(北条倉吉道路・倉吉道路・倉吉関金道路)道路改良工事もその一環で、将来的には山陰自動車道から岡山県真庭市に至る延長約50kmの地域高規格道路「北条湯原道路」の一部となる事業である。

このうち、延長約4.1kmの倉吉道路計画地周辺には、市場城跡などの周知の埋蔵文化財包蔵地が存在している。そのため、道路の建設に先立って、鳥取県県土整備局(以下、鳥取県)、鳥取県教育委員会(以下、県教委)、倉吉市教育委員会(以下、市教委)により埋蔵文化財の取扱いについての協議が行われ、計画地内に存在する遺跡の状況を把握する必要性が確認された。

これを受け、埋蔵文化財包蔵地の有無、範囲、内容などの概要を確認するための試掘・確認調査が国(文化庁)及び県の補助金を受けて市教委によって平成23・27年度に実施され(註1・2)、小鴨道祖神遺跡の存在が明らかとなった。

これを受け、鳥取県は市教委と再度協議を行い、開発範囲のうち農道橋設置により影響を受ける範囲(530m)において発掘調査並びに報告書作成を市教委に委託し、平成28年度に実施された(註3)。

また平成28年度には、鳥取県は県教委と協議を行い、平成29年度から小鴨道祖神遺跡の発掘調査並びに報告書作成を公



第1図 一般国道313号線予定地と調査地の位置

益財団法人鳥取県教育文化財団(以下、財団)に委託することとなった。

平成29年度は、鳥取県が小鴨道祖神遺跡の2,500m²について文化財保護法第94条による手続きを踏まえるとともに、平成29年4月1日に小鴨道祖神遺跡の発掘調査(記録保存)について財団に委託し、財団は平成29年6月26日から同年11月16日にかけて発掘調査を実施した。

令和元年度は、鳥取県が小鴨道祖神遺跡の3,623m²(2区2,200m²、3区1,423m²)について文化財保護法に基づく同様の手続きを踏まえるとともに、小鴨道祖神遺跡3区を平成31年3月26日、同遺跡2区を令和元年5月21日に発掘調査(記録保存)について財団に委託し、財団は令和元年6月3日から11月29日にかけて発掘調査を実施した。

註

- 1) 岡平拓也ほか 2013『倉吉市内遺跡分布調査報告書17』倉吉市教育委員会
- 2) 箕田拓郎ほか 2017『倉吉市内遺跡分布調査報告書19』倉吉市教育委員会
- 3) 小田芳弘 2017『小鴨道祖神遺跡発掘調査報告書－国道313号(倉吉道路)改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－』倉吉市教育委員会

第2節 調査の経過

第1項 平成29年度

小鴨道祖神遺跡の調査は平成29年6月26日より開始し、まず表土剥ぎから着手した。7月3・4日には基準点および方眼測量を実施した。7月3日より発掘作業員による人力掘削に着手し、遺構の調査、測量等の記録作業を隨時実施した。10月7日に現地説明会を開催し、27名の参加者を得た。10月11日にはラジコンヘリコプターを用いた全景写真を撮影した。11月10日には発掘作業員の稼働を終了。11月16日まで調査後の測量を実施し、すべての作業を終了した。なお、現地は11月17日に鳥取県県土



写真1 平成29年度
小鴨道祖神遺跡1区表土剥ぎ風景



写真2 平成29年度
小鴨道祖神遺跡1区現地説明会風景

整備局に移管した。

整理作業員の稼働は平成29年6月12日から翌年3月9日まで行い、遺物の洗浄、注記、接合、実測図作成、実測図のトレース等の作業を実施した。

第2項 令和元年度

小鴨道祖神遺跡2区の調査は令和元年6月3日から重機による表土掘削を着手した。5月14日に基準点及び方眼測量を実施した。6月3日より発掘作業員による人力掘削に着手し、遺構調査、測量等の記録作業を随時進めた。

3区は令和元年6月11日より人力による調査に着手し、遺構調査、測量等の記録作業を随時進めた。2・3区とも11月9日に現地説明会を開催し、約70名の参加者を得た。11月13日にはドローンを用いた航空写真撮影を実施し、11月27日に発掘作業員の稼働を終了。11月29日まで撤収作業を行い、すべての作業を終了した。同月30日に鳥取県県土整備局に移管した。

整理作業員の稼働は令和元年6月11日から翌年3月27日まで行い、遺物の洗浄、注記、接合、実測図の作成、実測図のトレース等の作業を実施し、小鴨道祖神遺跡の調査成果を報告書にまとめた。脆弱な遺物を保護するため、鉄器2点について保存処理を行い、令和2年3月11日に納品されている。



写真3 令和元年度
小鴨道祖神遺跡2区表土剥ぎ風景



写真4 令和元年度
小鴨道祖神遺跡3区現地説明会風景

第3節 調査体制

発掘調査および報告書作成は、以下の体制で実施した。

平成29年度 小鴨道祖神遺跡

○公益財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 野村 勇二

事務局長 畑中 弘子

副主幹 岡田 美津子

事務職員 水根 幸子

調査室

室長 牧本 哲雄(美和調査事務所所長を兼務) ※1

次長 民木 一美

係長 河村 淳 ※1

主任 岡 梢 ※1

調査企画設計係長 大野 哲二 ※1

中部調査事務所

副主幹 森本 倫弘(中部調査事務所所長を兼務) ※1

文化財主事 門脇 隆志 ※1

非常勤職員 石川 恵

※1 鳥取県教育委員会から派遣

○調査協力

鳥取県中部総合事務所県土整備局、倉吉市教育委員会、倉吉博物館

令和元年度 小鴨道祖神遺跡

○公益財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 福本 慎一

事務局長 島中 弘子

副主幹 岡田 美津子

事務職員 水根 幸子

調査室

室長 原田 雅弘 ※1

係長 河村 淳 ※1

事務職員 片岡 絵里子

非常勤職員 石川 恵

企画設計係

係長 小口 英一郎(本務:調査班係長) ※1

調査班

係長 小口 英一郎 ※1

副主幹 森本 優弘 ※1

文化財主事 陶澤 真梨子 ※1

※1 鳥取県地域振興部(平成31年4月1日から令和元年7月4日まで)、

鳥取県地域づくり推進部(令和元年7月5日から)から派遣

○調査協力

鳥取県中部総合事務所県土整備局、倉吉市教育委員会、倉吉博物館

第4節 調査の方法

第1項 調査地の地区割

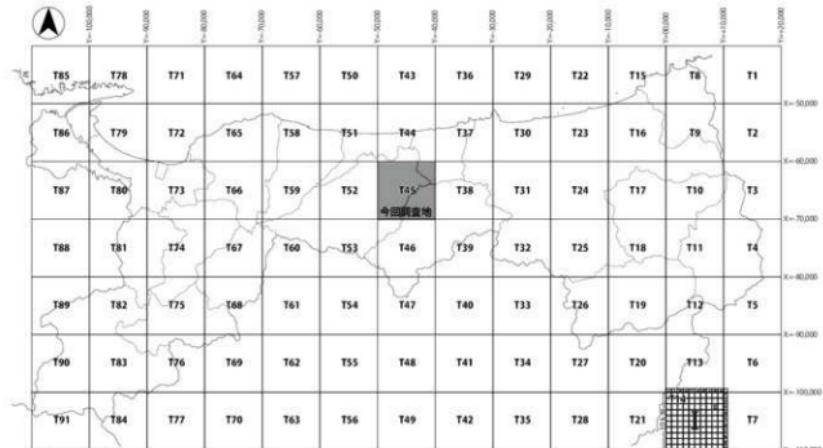
1 地区割の方法と名称

公益財団法人鳥取県教育文化財団(以下、財団)が受託した一般国道313号(倉吉道路、倉吉関金道路)の発掘調査では、調査成果の標準化を目的として、遺跡や遺構の位置表示や遺物の取上げ等に利用する地区割に、平面直角座標系の第V系(世界測地系)を使用している。地区割については、10m×10m(100m²)の区画を基本的な最小単位とし、その名称(記号)については、以下のように設定した(第2図)。

第I区画 鳥取県の全域に設定した大区画である。10,000m×10,000mで、1~91の区画を設け、北東隅からT 1~T 91の記号を付した。

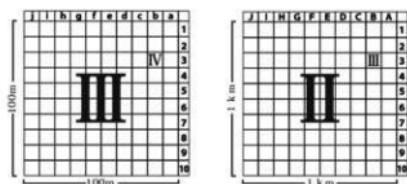
第II区画 第I区画の1区画内を、1,000m×1,000mに100分割した区画である。第II区画については、1区画の南北軸に1~10、東西軸にa~jを付し、1 a~10 jの記号を付した。

第III区画 第II区画の1区画内を、100m×100mに100分割した区画である。第III区画については、1区画の南北軸に1~10、東西軸にA~Jを付し、1 A~10 Jの記号を付した。

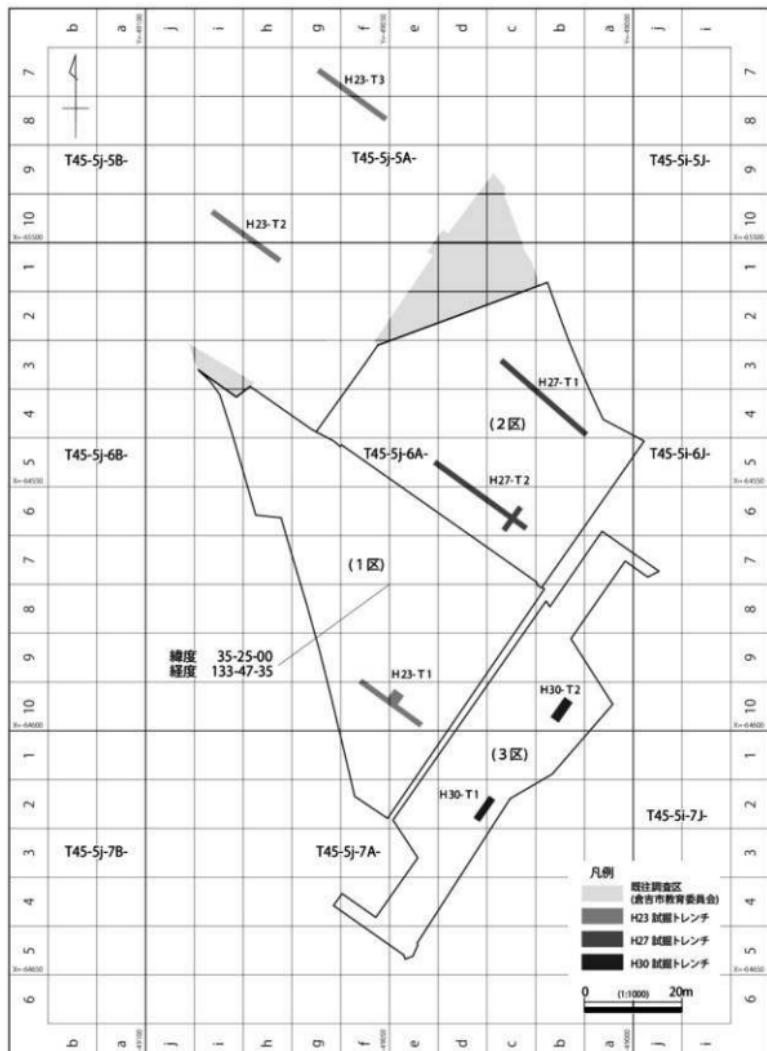


平面直角座標系：V系
N 36° 00' 00" を坐標原点(X=0, Y=0)とする
E 134° 20' 00" を北方向とする

区画名例			
区画の大きさ	10000m	1000m	100m
単位区画	I	II	III
区画名称 (各区画北東の座標値に基づいて名称を付与する)			
例1:	X=574,000	T23	- 8 c - 5 I - 4 b
例2:	X=74,200	T4	- 5 g - 2 H - 3 f



第2図 鳥取県と国土座標系



H23 試掘トレンチ 四平拵也ほか 2013『倉吉市内道路分布調査報告書 17』倉吉市教育委員会
 H27 試掘トレンチ 貢田裕也ほか 2017『倉吉市内道路分布調査報告書 19』倉吉市教育委員会
 H30 試掘トレンチ 片岡齊介ほか 2019『倉吉市内道路分布調査報告書 20』倉吉市教育委員会

第3図 小鴨道祖神遺跡の地区割図

第IV区画 第III区画の1区画内を、10m×10mに100分割した区画である。第IV区画については、1区画の南北軸に1～10、東西軸にa～jを付し、1a～10jの記号を付した。

2 小鴨道祖神遺跡における地区割

調査区に前述した地区割を設定したものが第3図である。本書で報告する調査範囲は、T45(第I区画)内に位置しており、文中で遺構・遺物位置について地区割を用いながら記載する際には、第II、第III、第IV区画の記号を用いて5j-6A-9eのように記す。

第2項 発掘調査と記録の対象

1 発掘調査と記録の対象

平成29年度調査では、表土掘削と無遺物層(Ⅱ・Ⅲ層)の掘削を重機、包含層(I層)および遺構の検出・掘削を人力で行い、調査の記録作業は表土除去後からを対象として行った。

令和元年度調査では、表土掘削を重機、包含層(I層)および遺構の検出・掘削を人力で行い、調査の記録作業は表土除去後からを対象として行った。

2 遺構名称の設定

1区の調査では、遺構は検出順に遺構番号を付与することを基本方針としている。遺構名称は、遺構番号の後ろに検出された遺構の種別を組み合わせることで「1土坑」、「2ピット」のようになるが、種別については、調査が進む中で変更されることもあった。一方で、一度付与された遺構番号については不变であり、本書においても調査時に付与した遺構番号を用いて報告を行っている。ただし、現地調査時に遺構番号を付したものについても、調査の結果、搅乱や自然地形であることが明らかとなつた場合は欠番とした。また、竪穴建物や掘立柱建物については、集合遺構名を付し、これを構成する柱穴等の個別遺構については、調査時の名称から新たな名称に変更し、報告する。これらの新たな名称を付した遺構については、それぞれの遺構計測表に調査時の名称を併記している。

2・3区の調査では、検出順に遺構番号を付与することを基本方針としている。遺構名称は「S400」のように「S」の後ろに遺構番号を付している。一度付与された遺構番号については不变であり、本書においても調査時に付与した遺構番号を用いて報告を行っている。ただし、現地調査時に遺構番号を付したものについても、調査の結果、搅乱や自然地形であることが明らかとなつた場合は欠番とした。集合遺構とそれを構成する個別遺構の報告については、1区と同様である。

3 図面記録および写真撮影

現地での記録作業は、職員が行った。

図面記録に関しては、平面図はトータルステーションまたは写真測量、断面図はオートレベルまたはトータルステーションを用いて測量を行った。作成した図面は、現地での一次記録である「素図」として管理し、最終的には情報をデジタルデータとして整理、統合し、「編集図」を作成した。編集図はイラストレーターCS5以上での再編集が可能な形(ai形式)で保存している。

写真の撮影は、1区では中型(6×7判)一眼レフカメラ、小型(35mm判)一眼レフカメラ、デジタル一眼レフカメラ(センサーサイズAPS-C以上、有効画素数1220万画素以上)を併用し、撮影対象によって機材を適宜選択しながら行った。また、中型、小型一眼レフカメラに使用したフィルムは、富士フィルム社プロピア100F(カラーリバーサルフィルム)、富士フィルム社ネオパン100ACROS(黑白フィルム)である。

デジタル一眼レフカメラによる撮影はRAW・JPEG形式の同時保存により行った。また、デジタル一眼レフカメラによる撮影は、写真撮影を行う全ての対象に対して行うとともに、撮影対象や日付などの撮影内容を記載した写真ラベルも合わせて撮影している。これにより、撮影した画像データを他のフィルムカメラの整理、検索用資料として使用できるようになり、写真記録管理用の「写真台帳」の作成時に有用だけでなく、効率的な写真の管理と活用が可能となっている。

2・3区の写真撮影は、デジタル一眼レフカメラ(センサーサイズAPS-C以上、有効画素数1220万画素以上)を使用している。写真の整理方法については、1区と同様である。

4 出土遺物の取り上げ

遺物の取り上げには、財団調査室が用意した遺物カードを使用した。取上番号は通し番号とし、遺物カードに記載された項目に基づいて遺物取上台帳を作成し、出土した遺物を取り上げ、管理した。遺物カードの記載項目・内容は以下のとおりである。

遺跡名	1区は「小鴨道祖神遺跡17」、2・3区は「小鴨道祖神遺跡19」と記載。「17」は2017年度、「19」は2019年度に調査を実施したことを示す。
地区名	遺物の取り上げは、10m×10mのグリッドを基本とし、第I～IV区画で構成される地区割を記載した(本節第1項参照)。
層位名	遺物が帰属する包含層や遺構内に堆積した層位の番号ないし名称を記載した。
遺構名	遺物が帰属する遺構の名称を記載した。
取上No.	取り上げ順に通し番号を記載した。
出土年月日	遺物の取り上げ日を記載した。
図面	遺物の出土状況が記録された図面の有無と図面のスケールを記載した。
備考	特記事項を記載した。
時代・時期	取り上げた遺物の帰属時期を記載するが、この度の調査では記載を省略した。
種別	土器や石器など素材によって大別される遺物の種別を記載した。
その他	遺物の出土位置をトータルステーションにより計測したものは、遺物カードのメモ欄に座標値を記載した。

第3項 出土遺物の整理

出土遺物は現地で取り上げた後、平成29年度は財団調査室中部調査事務所、令和元年度は調査室に持ち帰り、以下の整理作業を行った。

土器、土製品 調査終了後に洗浄、注記、接合、復元及び実測を行った。器種および形状が復元できる個体を実測の対象とした。

石器 調査終了後に洗浄、注記、実測を行った。本調査の出土品は、器種や用途が判断できるものほか、使用痕が明瞭な個体を実測の対象とした。

金属製品、鉄滓 土壌等の付着物(汚れ)を除去した。一部については、保存処理を行った。器種や用途が判断できる個体を実測の対象とした。

種子 調査終了後に洗浄、計測を行った。

写真撮影 デジタル一眼レフカメラ(センサーサイズフルサイズ)で撮影を行った。また、金属製品については、X線撮影を行った。

保管 図面及び写真的記録類、出土遺物はすべて台帳に登録して収納作業を行った。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の立地と地理的環境

鳥取県は中国地方の北東部に位置し、東は兵庫県、西は島根県と広島県、南は岡山県に接している。県域は東西約125km、南北約62kmと東西に長い形状をなし、面積は約3,507km²を測る。倉吉市は鳥取県の中部にあり、周囲は東伯郡と日野郡に接するとともに、南側は岡山県と直接県境を接している。平成17年に旧倉吉市と関金町が合併した。面積約272km²、人口約4万8千人を有する県中部の中心市である。

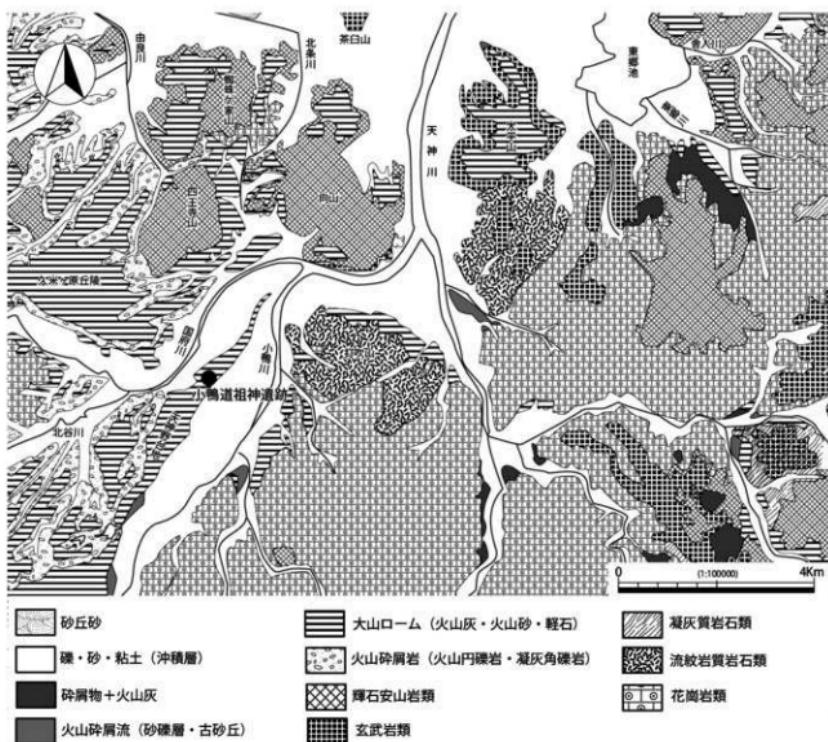
倉吉市東部には、東伯郡三朝町の津黒山(標高1,118m)に源を発する一級河川である天神川が流れしており、三徳川や小鴨川などの支流と合流しながら北流し、日本海に注いでいる。小鴨川は鳥ヶ山(標高1,448m)に源を発し、北東側に流れながら国府川と合流しその後東流して天神川と合流する。これら河川の流域には平野が形成され、市街地などが広がっている。

小鴨道祖神遺跡は倉吉市小鴨字道祖神・北野字天神野に所在する。いずれも、天神川の支流である小鴨川中流域左岸、天神野台地と通称される丘陵上に位置している。

天神野台地は、大山噴出物によって大山の東側に形成されたなだらかな丘陵台地で、表層は黒ボクが発達している。火山灰の酸性土と水利が悪いことから農業に不向きな土地とされていたが、明治から昭和にかけて天神野用水や溜池などの灌漑工事が行われ、水稻や果樹の栽培が行われるようになった。現在は、耕地とともに集落が営まれている。



第4図 島取県と遺跡の所在地



第5図 遺跡周辺の地質環境

小鴨川の南側の山々は花崗岩で形成されており、その花崗岩に含まれる鉄分(砂鉄)を利用し、昭和初期までたら製鉄が行われていた。また、倉吉地域では鉄製品の生産も行われていた。上古川の齋江家は寛永三年(1626年)より操業する鑄物師であり、操業に使用された用具や製品が国の重要有形民俗文化財に指定されている。

第2節 歴史的環境

【旧石器時代】

倉吉市域では旧石器時代の様相がわかる遺跡はほとんど無いが、旧石器時代の資料と考えられる石器が9遺跡で出土している。中尾遺跡(35)で黒曜石製の国府型ナイフ形石器1点と安山岩製のナイフ型石器と削器が各1点、長谷遺跡(86)で安山岩製で横長剥片を素材としたナイフ型石器が1点、野津三第1遺跡からは黒曜石製のナイフ形石器と錐が各1点、安山岩製のナイフ形石器2点と彫器と搔器



第6図 周辺の遺跡

	集落跡		主要な前方後円墳		主要な円墳		主要な方墳		主要な墳丘墓		横穴墓群
	古墳群		主要な前方後方墳		城跡		出土地		寺院跡		その他遺跡

1 小鴨道祖神遺跡 2 下焼ヌ遺跡 3 西横ヌ遺跡 4 車道東古墳群 5 二タ子塚古墳群 6 郡家平古墳群 7 頂根後谷遺跡・古墳群 8 橋大山道路
 9 伯地山遺跡 10 尾原宮ノ跡遺跡 11 賀谷古墳群 12 阿弥大寺遺跡・埴丘遺跡 13 イキス遺跡 14 取木遺跡・古墳群
 15 一反半田遺跡・古墳群 16 北面古墳群 17 四王寺跡 18 大谷城跡 19 クズマ遺跡 20 西山道路・古墳群 21 谷畑遺跡 22 桜木遺跡
 23 上神宮ノ前遺跡 24 上神古墳群 25 猫山遺跡 26 原谷古墳群 27 上神大寺古墳群 28 大谷茶屋古墳群 29 三度舞大将塚古墳群
 30 大谷大将塚古墳群 31 小林古墳群 32 イザワ原古墳群 33 江ベリ遺跡・古墳群 34 江ベリ5・7号墳 35 中尾遺跡 36 不人園遺跡
 37 西前遺跡・古墳群 38 舟栄塚丘墓 39 寺谷古墳群 40 屋高山9号墳 41 大平ラ道路 42 若林遺跡 43 若林3号墳 44 夏谷道路
 45 定光寺古墳群 46 中峰1号墳 47 茅林道路 48 東前道路 49 平ル林道路 50 和田城跡 51 下張坪道路・古墳群 52 小田鋼澤出土地
 53 宮ノ峰19号墳 54 宮ノ峰21号墳 55 コザンコウ遺跡 56 內長谷遺跡 57 国府大沢道路 58 国府大沢前道路 59 逸藤谷峯遺跡 60 白市道路
 61 中峯遺跡 62 大谷後口谷塚丘墓 63 向野道路 64 大谷古墳群 65 打塚道路 66 邦塚道路 67 法華寺遺跡 68 国分寺古墳 69 宮ノ下道路
 70 伯耆國分寺跡 71 伯耆國守跡 72 国分寺北道路 73 河原田道路 74 下福田古墳群 75 下米積船仲道路 76 下米積乳ヶ谷道路
 77 国府跡西側遺跡群(福田寺道路・横田川)道路 78 下米積1・2号墳 79 国分寺古墳群 80 帆ノ掛道路 81 今倉道路 82 今倉城跡
 83 三江城跡 84 三江道路 85 上野道路 86 長谷道路 87 向山6号墳 88 向山古墳群 89 養水古墳群 90 田内城跡 91 三明寺古墳
 92 向山142号墳 93 大御堂寺跡 94 打吹城跡 95 游町古墳群 96 駒絆寺古墳群 97 松ヶ坪道路 98 海又1号墳 99 北の城跡
 100 カウワ平道路 101 ドウカ平1号墳 102 四十二丸城跡 103 舟古谷古墳群 104 高岡古墳群 105 芸才寺1号墳 106 赤磐城跡
 107 富野古墳群 108 下野野道路 109 山陰1号墳 110 山陰2号墳 111 下大江古墳群 112 東鶴古墳群 113 富海たたら跡 114 後中尾道路
 115 沢谷兜山道路 116 香ヶ谷口たたら跡 117 三江小坂ノ上古墳群 118 福富古墳群 119 津田峰道路 120 三江向野古墳群
 121 尾田小御物跡遺跡 122 大平道路B地区 123 大平道路A地区 124 宮ノ前道路 125 後口野古墳群 126 市場城跡 127 山ノ下道路
 128 平ノ前道路 129 石塚庵寺跡 130 大宮古墳 131 大宮古墳群 132 鶴河内古墳群 133 広瀬古墳群 134 家ノ後口1号墳 135 家ノ後口城跡
 136 岩倉城跡 137 広瀬城跡 138 広瀬庵寺跡 139 広瀬イヤ谷城跡

凡例および遺跡名（第6図）

各1点などの石器群、上神51号墳の下層から黒曜石製の細石刃石核がいずれも原位置から遊離した状態で見つかっている。

また、小鴨道祖神遺跡が所在する天神野台地（通称）の東側裾部に位置する山ノ下遺跡（127）からは旧石器の可能性がある玉髓製の剥片2点がいずれも原位置から遊離した状態で見つかっている。

【縄文時代】

倉吉市に限らず鳥取県内において縄文時代草創期の土器は見つかっていないが、尖頭器あるいは有舌尖頭器と呼ばれる石器が大山北麓を中心に約50点見つかっており、倉吉市内でも長谷遺跡と笹ヶ平遺跡で安山岩製の尖頭器が各1点見つかっている。

早期になると徐々に土器も見つかり始め、取木遺跡（14）で堅穴建物に伴う屋外炉から押型文土器が、野口遺跡では礫群（集石遺構）から押型文土器が見つかっている。

後期には津田峰遺跡（119）から石圓炉を持つ堅穴建物が、横峯遺跡から地床炉を持つ平地式の住居とみられる建物跡が見つかっている。

晩期には松ヶ坪遺跡（97）から土坑のほか、配石遺構と甕棺墓が見つかっている。

また、時期の特定は困難ではあるが、落とし穴と考えられる土坑が中尾遺跡で127基、長谷遺跡で61基、横谷遺跡群で47基、夏谷遺跡（44）で28基、下西野遺跡（108）で27基、山ノ下遺跡で19基見つかっており、鋤大山遺跡（8）、頭根後谷遺跡（7）、イキス遺跡（13）、向野遺跡（63）などからも各10基以下であるが見つかっている。

【弥生時代】

前期では、中尾遺跡で屋内貯蔵穴を4基伴った平地式の住居が見つかっている。イキス遺跡や尾原宮ノ峰遺跡(10)で土壙墓群が見つかっている。

中期になると徐々に遺跡数も増し、後中尾遺跡(114)、東前遺跡(48)、国府跡西側遺跡群(福田寺遺跡77)、遠藤谷峯遺跡(59)などの集落が形成されている。後中尾遺跡では環濠が形成されており、阿弥大寺遺跡(12)などとともに分銅形土製品が出土している。東前遺跡では、玉作工房である竪穴建物3棟内から碧玉製管玉の未成品や石針・砥石などの工具類が多数出土している。また、市内小田(52)で中期から後期にかけてと考えられる袈裟襟文銅鐸2口が出土している。

後期になると、集落遺跡が丘陵上に増加し、服部遺跡、夏谷遺跡、觀音堂遺跡、国府大沢前遺跡(58)、中峯遺跡(61)、白市遺跡(60)、中尾遺跡、沢ベリ遺跡(33)、コザンコウ遺跡(55)、鋤大山遺跡、高原遺跡などが知られている。中峯遺跡では全国的に珍しい鳥形スタンプ文が施された土器が出土しており、分銅形土製品の存在とともに倉吉地域と山陽地方との交流が窺われる資料である。高原遺跡では竪穴建物床面から破鏡が出土したほか、土壙墓群が見つかっている。また、後期以降、阿弥大寺四隅突出型墳丘墓群、柴栗墳丘墓(38)、三度舞大将塚墳丘墓(29)、大谷後口谷墳丘墓(62)などの墳丘墓が造られており、古墳時代への胎動が窺われる。

【古墳時代】

倉吉市内の前期～中期前半の古墳には、變鳳鏡や三角縁神獸鏡を含む3面の船載鏡や鉄製農耕具などが出土した全長約60mの前方後方(円)墳で東伯耆最古級の首長墳である国分寺古墳(68)、彷彿三角縁神獸鏡を含む2面の鏡や鍔形石・琴柱形石製品などが出土した径約30mの円墳である上神大将塚古墳(27)、全長50mと推定されている前方後円墳の大谷大将塚古墳(30)や、1辺27mの方墳である宮ノ峰19号墳(53)、径約30mの円墳である宮ノ峰21号墳(54)、竪穴式石槨を内包する中峰1号墳(46)などがある。

この時期の集落には、夏谷遺跡、西山遺跡(20)、桜木遺跡(22)、猫山遺跡(25)、西前遺跡(37)、櫛塚遺跡(66)などがある。

中期後半代には中小規模の古墳が古墳群を形成するようになり、下張坪古墳群(51)、夏谷古墳群、沢ベリ古墳群(33)、イザ原古墳群(32)、西山古墳群(20)、頭根後谷古墳群(7)などが知られている。また、中期から後期初頭にかけて、形象埴輪や器財形埴輪が出土しており、不入岡3号墳から家形埴輪、沢ベリ5・7・8・9号墳(34)から男女各1体の人物埴輪や家形埴輪など、向山142号墳(92)から鶏や鹿形埴輪、西山2・8号墳から人物・馬形埴輪が出土している。

この時期の集落には、夏谷遺跡、不入岡遺跡(36)、頭根後谷遺跡などがあり、このうち、不入岡遺跡では作り付け竈を持つ中期の竪穴建物跡や渡来系軟質土器が出土し、夏谷遺跡では大型建物が見つかるなど、国府川下流左岸域では大陸の影響が窺われる。

後期には横穴式石室が盛んに造られるようになる。小鴨川中流域右岸に位置する径約30mの円墳の大宮古墳(130)は、倉吉市域で最も早く横穴式石室を導入したもので、中北部九州の影響が窺われる。その後この流域では、家ノ後口1号墳(134)、山際1号墳(109)、堀2号墳など形骸化した同様の石室を持つ古墳が造られる。首長墳にも横穴式石室が採用され、床面に仕切石によってコ字形の屍床が設



第7図 伯耆国内の郡の想定位置図



第8図 久米郡内の郷の想定位置図

けられている全長約40mの前方後円墳である向山6号墳(87)、切石を用いた大型の横穴式石室に石屋形を設けている三明寺古墳(91)、奥壁・両側壁・天井とも精美な切石を組み合わせた横穴式石室を持つ福庭古墳がある。

この時期の集落には、西山遺跡、桜木遺跡などがあるが、調査例は少ない。

終末期には横穴式石室の規模が縮小し、追葬を行わず、個人埋葬が行われるようになる。この時期の古墳は、取木古墳群(14)、一反半田古墳群(15)、糞水古墳群(89)、郊家平古墳群(6)に築造されるほか、ドウタ平1号墳(101)が知られる。

また、野口1号墳からは、装饰子持壺付装饰器台や七連环付装饰器台を含む多量の須恵器、上野遺跡(85)では25個体の子持壺形須恵器、脚付子持壺形須恵器、谷谷遣跡(21)からは人形・動物形・鏡形土製品などの多様な祭祀遺物が大量に出土しており、いずれの出土遺物も国指定重要文化財となっている。

【飛鳥・奈良時代】

古代の倉吉地域は、『延喜式』によれば6郡からなる伯耆国に属し、そのうち河村郡・久米郡の一部がその領域となる。奈良時代になると久米郡に伯耆国庁(71)や伯耆国分寺(70)、伯耆国分尼寺(法華寺畠遺跡)(67)が相次いで造られ、伯耆国の中核地であったことがわかる。伯耆国庁はこれまでの発掘調査によって四時期の変遷が認められている。伯耆国分尼寺(法華寺畠遺跡)は、国庁に付属する官衙の可能性も指摘されており議論となっている。また、近接して位置する不入岡遺跡からは大規模な掘立柱建物群が発見されており、官衙(不入岡BⅠ期)から倉庫群(不入岡BⅡ期)へ転換されたものとみられ、不入岡BⅠ期の建物群は伯耆国庁の前身となる施設である可能性が指摘されている。

倉吉市域には、伯耆国分寺や国分尼寺以外にも古代寺院が建立されている。大御堂廃寺跡(93)は、白鳳時代に創建された觀世音寺式の伽藍配置をもつ山陰最大級の寺院跡で、瓦類や土器類をはじめ金属製品、木製祭祀具など豊富な遺物が出土している。出土した墨書き土器から「久米寺」と呼称されたものと推定される。大原廃寺跡は変則的な法起寺式の伽藍配置で、白鳳期の寺院跡では山陰最大級の塔心礎が出土している。奈良時代の寺院跡では、塔心礎と金堂跡と思われる基壇が残る四天王寺式の伽藍配置と推定される石塚廃寺跡(129)、礎石建物等が見つかった藤井谷廃寺跡が存在する。

この時期の集落には小鴨道祖神遺跡(1)をはじめ、ドウタ平遺跡(100)、国分寺北遺跡(72)、鳩ノ掛遺跡(80)、向野遺跡、国府跡西側遺跡群(横田矢戸遺跡)(77)、平ル林遺跡(49)、西前遺跡、觀音堂遺跡などがあり、堅穴建物や掘立柱建物が見つかっている。このうち、国分寺北遺跡・鳩ノ掛遺跡では、規則的な建物配置が認められることから、国庁に関連する施設の可能性が指摘されている。

また、河原毛田遺跡(73)では約15mの間隔で平行する溝が見つかっており、古代山陰道の可能性が指摘されている他、向野遺跡、下焼ス遺跡(2)でも道路遺構が検出されている。

この他、長谷遺跡では横穴式石室を模した石槨内に土師器製藏骨器2基に男女の火葬骨を納めた火葬墓が見つかっており、律令官人との関連が想定されている。

【平安時代】

平安時代の集落遺跡には、小鴨道祖神遺跡をはじめ、向野遺跡、擲塚遺跡、ドウタ平遺跡、山ノ下遺跡などがある。小鴨道祖神遺跡と隣接するドウタ平遺跡では、9世紀代の集落が見つかっている。11~12世紀の集落が見つかっている山ノ下遺跡では、L字状に配置された大型の掘立柱建物が造営され、越州窯系の壺または水注や白磁壺などが出土している。

墳墓では打塚遺跡(65)から12世紀代の墳丘を持つものが見つかっている。

古代寺院は小鴨川支流の広瀬川上流域に広瀬庵寺(138)が所在する。池の周間に礎石建物を配置した「臨池伽藍」で、極楽浄土を表現したものと考えられている。広瀬庵寺は後述する岩倉城(136)と約2kmの距離であり、伯耆国守の在庁官人と考えられる小鴨氏との関連が指摘されている。その他、四王寺山山頂には貞觀9(867)年新羅海賊調伏のために建立されたと伝わる四王寺跡(17)が存在する。また、大日寺の裏山から出土したと伝えられる瓦経があり、延久3(1071)年と刻まれたものが存在する。

【鎌倉時代】

鎌倉時代には、小鴨氏が岩倉城を居城として一帯に勢力を拡げ、後に尼子氏や毛利氏の侵攻をうけて城の争奪戦を繰り広げた。小鴨氏の家臣である岡田氏が拠ったとされるのが市場城(126)で、空堀や土塁がよく残っている。天正10年(1582年)に毛利方の攻撃を受けて岩倉城とともに落城している。

市場城に接する山ノ下遺跡では13世紀の集落が見つかっているほか、山ノ下遺跡の南西約430mに位置する平ノ前遺跡(128)においても同時期の集落が見つかっている。

【室町時代】

室町時代初期には、伯耆守護職にあった石橋氏から代わった山名氏が、田内城(90)・打吹城(94)を居城としながら守護大名へ発展していった。その後尼子氏・南条氏が台頭するまで山名氏が隆盛を誇り、倉吉市内では、山名寺、大岳院など山名氏に関わる旧跡が現在も残っている。また、小鴨道祖神遺跡では木棺墓が見つかっており、人骨の一部とともに北宋銭や木製小玉などが出土している(註1)。

【安土桃山時代】

安土桃山時代でも、戦乱に関わる遺跡が知られている。今倉城(82)は、天正7年(1579)吉川元春によって築城された小鴨城に対する向城といわれ、土塁・堀跡がよく残っている。近接して今倉遺跡(81)があり、15・16世紀ごろと考えられる掘立柱建物が27棟確認された。

註

- 1) 小田芳弘 2017『小鴨道根神遺跡発掘調査報告書－国道313号(倉吉道路)改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査－』
倉吉市教育委員会

参考文献

- 倉吉市1956『倉吉市誌』
倉吉市史編集委員会編1973『倉吉市史』
新編倉吉市史編集委員会編1997『新編倉吉市史 第一巻 古代編』
鳥取県1975『表層地質図 青谷・倉吉』
各報告書は割愛した。

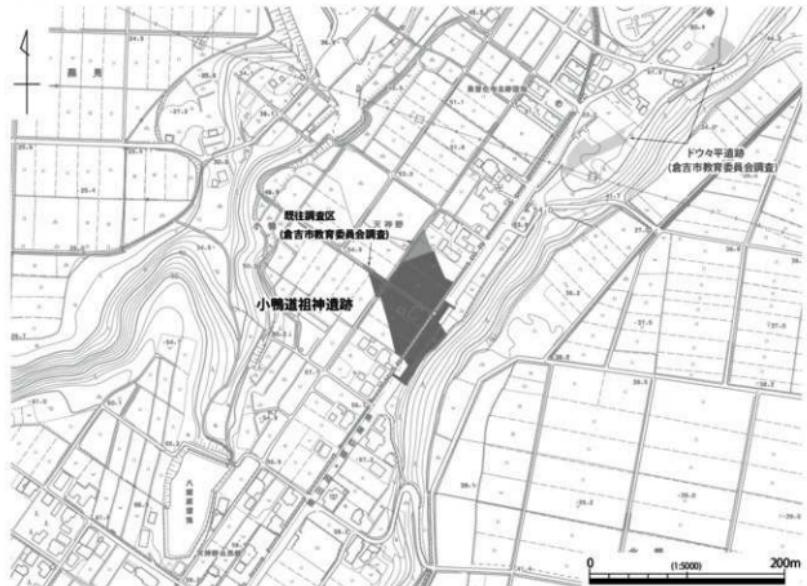
第3章 調査成果

第1節 概要

小鴨道祖神遺跡は、小鴨川西岸の天神野台地(通称)上に位置し、当遺跡の北約1.7kmには不入岡遺跡、北西約1.6kmには伯耆国庁跡、北東約200mにはドウタ平遺跡(終末期古墳、飛鳥時代から平安時代の集落跡)が所在する。調査地の現況は耕作地または宅地、道路として利用されており、1・2区は概ね北側に向かって緩やかに下がる台地上の平坦面、3区は台地東斜面の傾斜変換点付近に位置する。

小鴨道祖神遺跡では平成28年度に倉吉市教育委員会(以下、市教委)により発掘調査が実施されており(第1章第1節)、遺構は中世後期から近世初頭の木棺墓などが検出され、遺物は縄文土器や須恵器、赤彩された土師器、土製支脚などが出土している。

今回の調査はその市教委調査区(平成28年度)の隣接地において実施した。1区は南側ほど近現代の耕作等によって堆積が大きく削平されており、1区南側は表土直下、Ⅲ層あるいはⅣ層上面において古代の掘立柱建物跡を中心とする多くの遺構を検出した。また、土層断面の観察から、掘立柱建物を中心とする遺構は、本来はⅡ層上面で検出されるべきものであることが確認されたが、黒ボク層であるⅡ層と、黒褐色シルトを主体とする遺構埋土との峻別が困難な場合も多く、1区中央部から北東際にかけての遺構の多くはⅡ層掘削後のⅢ層上面で検出している。これらの遺構も古代の掘立柱建物や



第9図 調査区周辺の地形図

竪穴建物を中心としており、1区で検出した遺構は、検出した層序の差異はあれど、古代の集落を構成していたものとみられる。したがって、検出した遺構は、すべてI層掘削段階での地形図上に示すこととした(第22・23図)。なお、1区東側と北西側の一部には表土直下に遺物包含層(I層)が堆積しており、7~9世紀代の遺物を主体とし、僅かながら13世紀中頃までの遺物を包含する。

2区は1区とはほぼ同様の地形であり、堆積状況も類似する。遺構は表土直下のⅢ層またはⅣ層上面において検出した。1区と同様、古代の建物を中心とし、縄文時代のものと想定している落とし穴も検出している。1・2区で検出した遺構は竪穴建物5棟、掘立柱建物35棟に加え、縄文時代の落とし穴4基、性格不明のピット群を検出し、遺物は飛鳥時代から平安時代に帰属する土師器、須恵器のほか、石器、土製品、鉄関連遺物などが出土している。

3区は天神野台地の中心部を北東方向に走行する県道237号仙隱岡田線下に位置し、調査地内は道路路床の造成や上下水管埋設によって削平を著しく受けている。そのため県道下(幅約7m)の遺構はほぼ消滅もしくは大幅な削平を受けていた。一方で北西側の歩道下(幅約2m)は遺物包含層(1層)までは削平が及んでいたが遺構の残りは比較的良好であった。県道の南東側にあたる斜面部はローム層まで削平を受けていたが、斜面部にかかる遺構は残存していた。

調査では、遺構検出面を1面確認した。遺構は飛鳥時代から奈良時代の掘立柱建物7棟、段状遺構1基、土坑7基、縄文時代の落とし穴5基等を検出している。遺物は土師器、須恵器、土製品、石器、鉄関連遺物などが出土している。

第2節 基本層序

第1項 1・2区の基本層序

1・2区の基本層序は、北東-南西方向(A断面)と、北西-南東方向(B~D断面)の堆積状況を記録した(第10~16図)。両地区ともほぼ平坦ながら、南東から北西に向かい緩やかに傾斜しており、一部、近現代の耕地段差が認められる。また、両地区とも圃場整備等により削平を受けており、1区南東側、2区北西側はローム層(IV層)が露出しているほか、果樹栽培や宅地造成などの影響がローム層までおよぶ箇所が点在する。

基本層序は4層を確認した。以下、その結果について報告する。

表土（1~8層）

近現代の耕土または床土等である。黒褐色または暗灰色を呈するシルトであり、6~8層は締まりが非常に強く、床土と判断した。

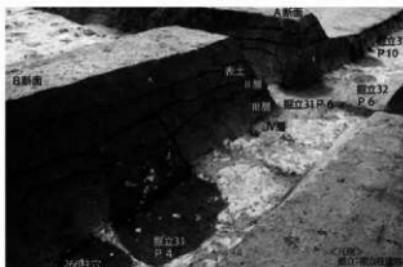
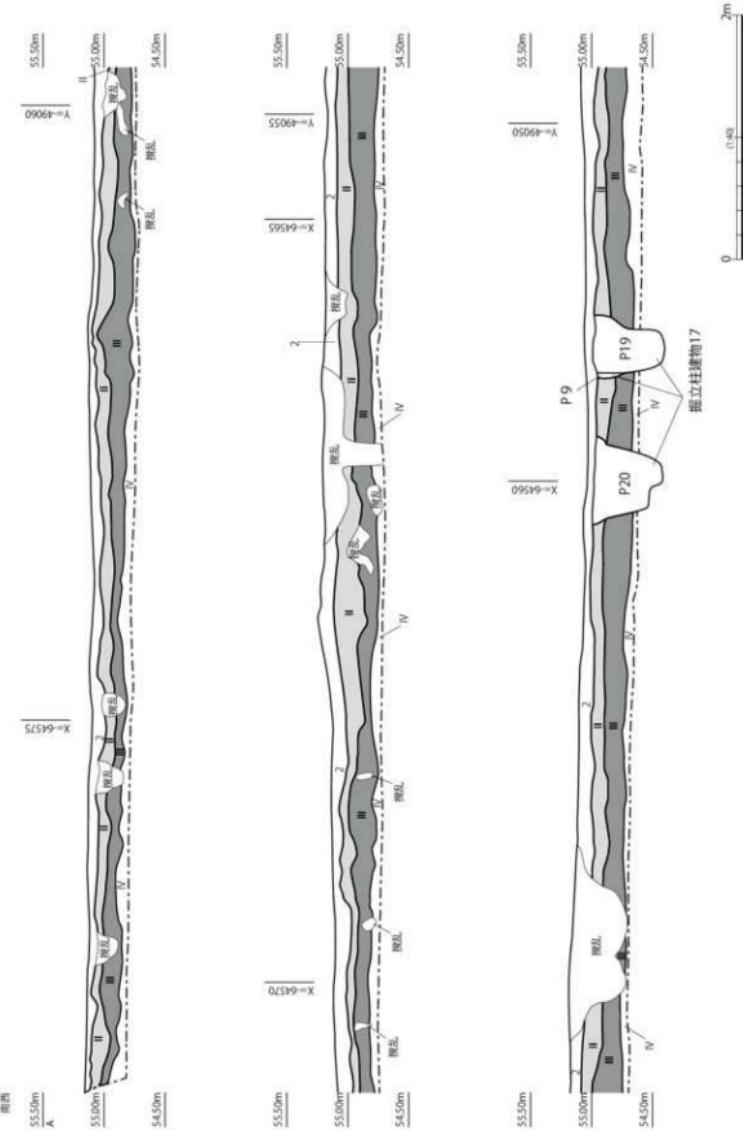
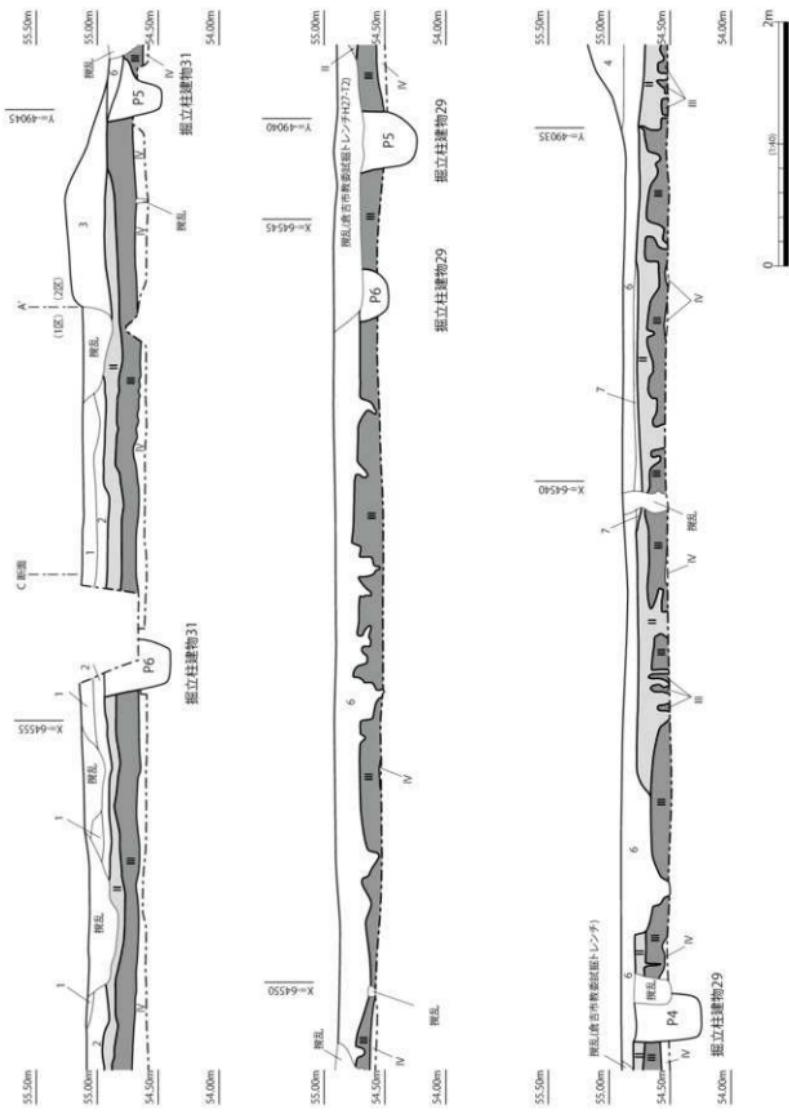


写真5 B断面 (T45-5j-6A-6eグリッド：掘立柱建物31P 4周辺) 土層断面 (東から)

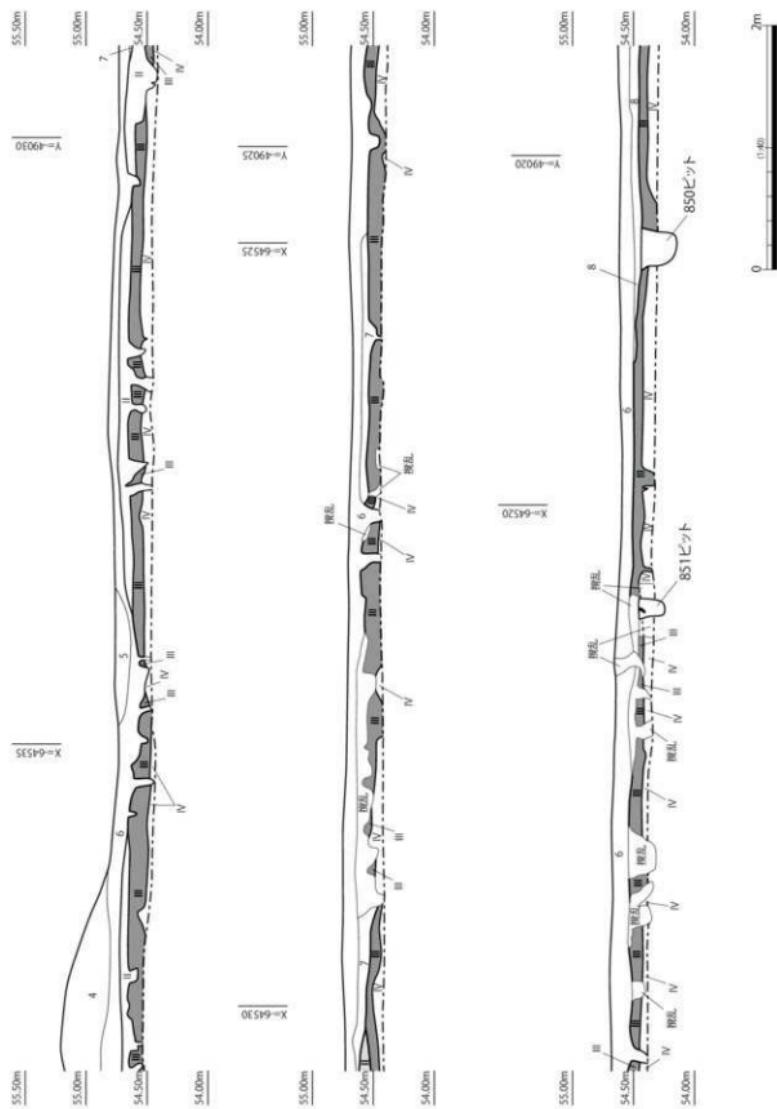
南西-北東 土層断面図(A-A'')



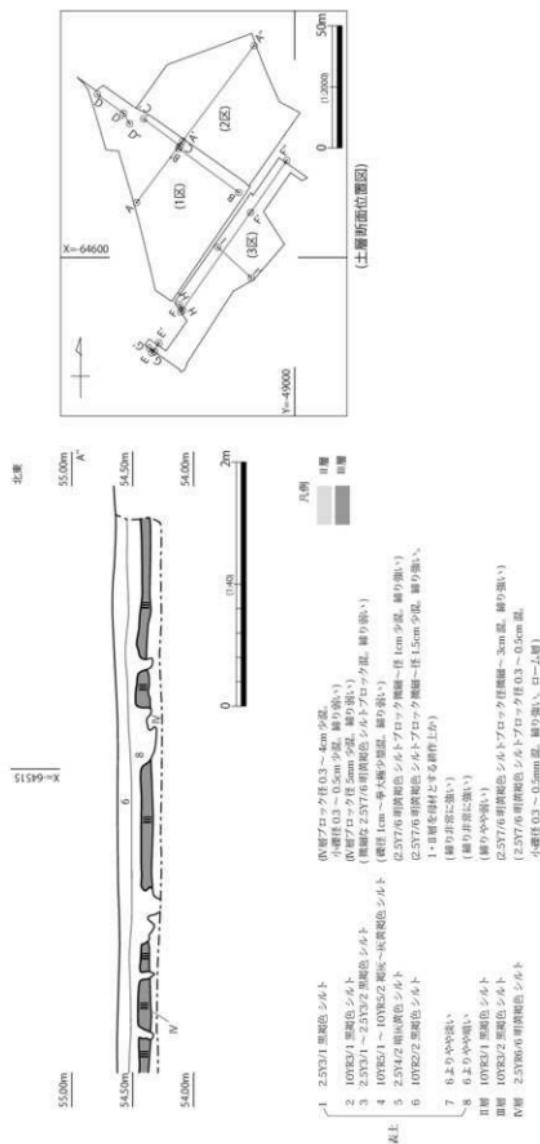
第10図 1・2区A断面土層断面図(1)



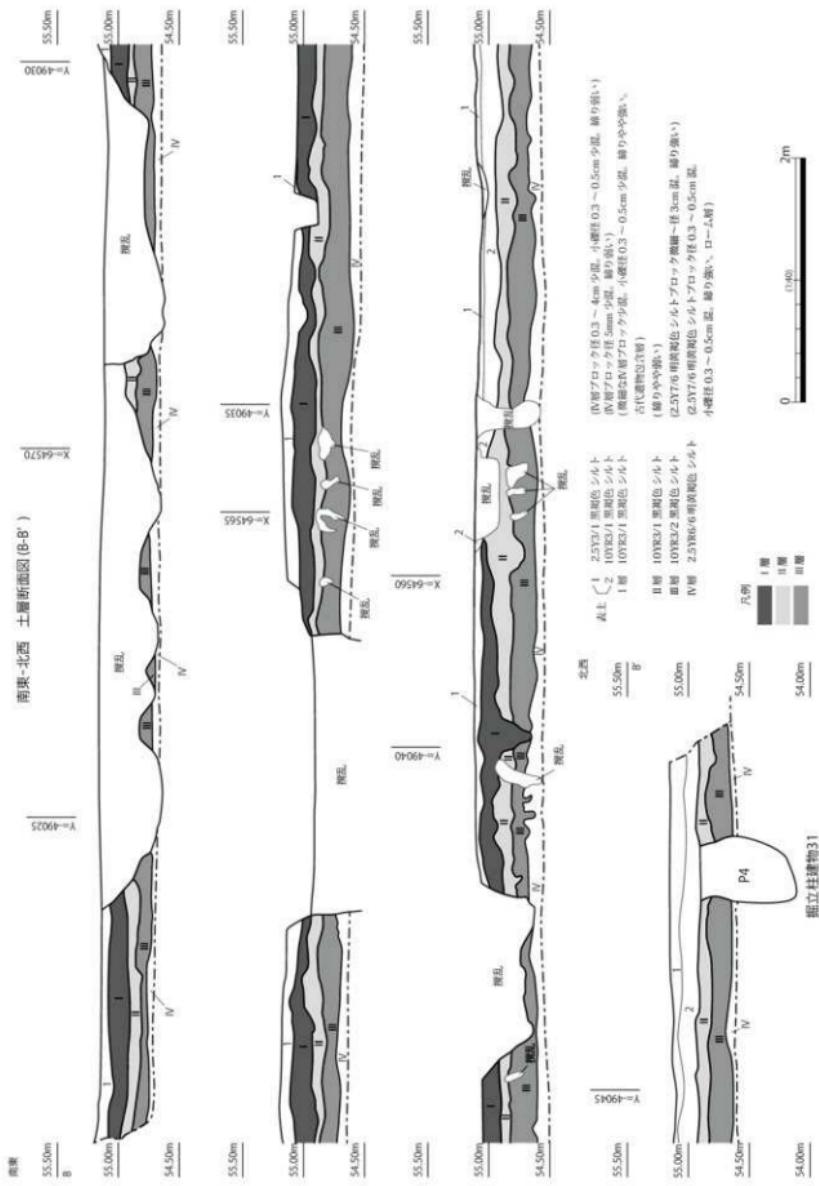
第11図 1・2区A断面土層断面図（2）



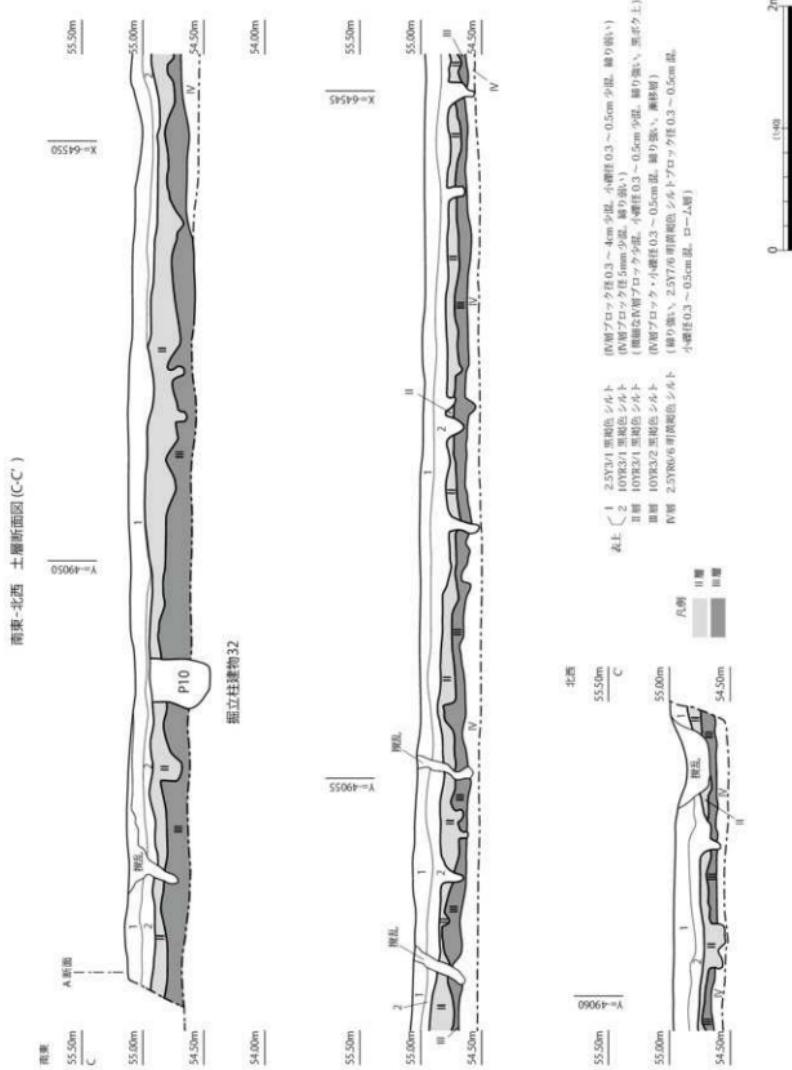
第12図 1・2区A断面土層断面図(3)



第13図 1・2区A断面土層断面図(4)

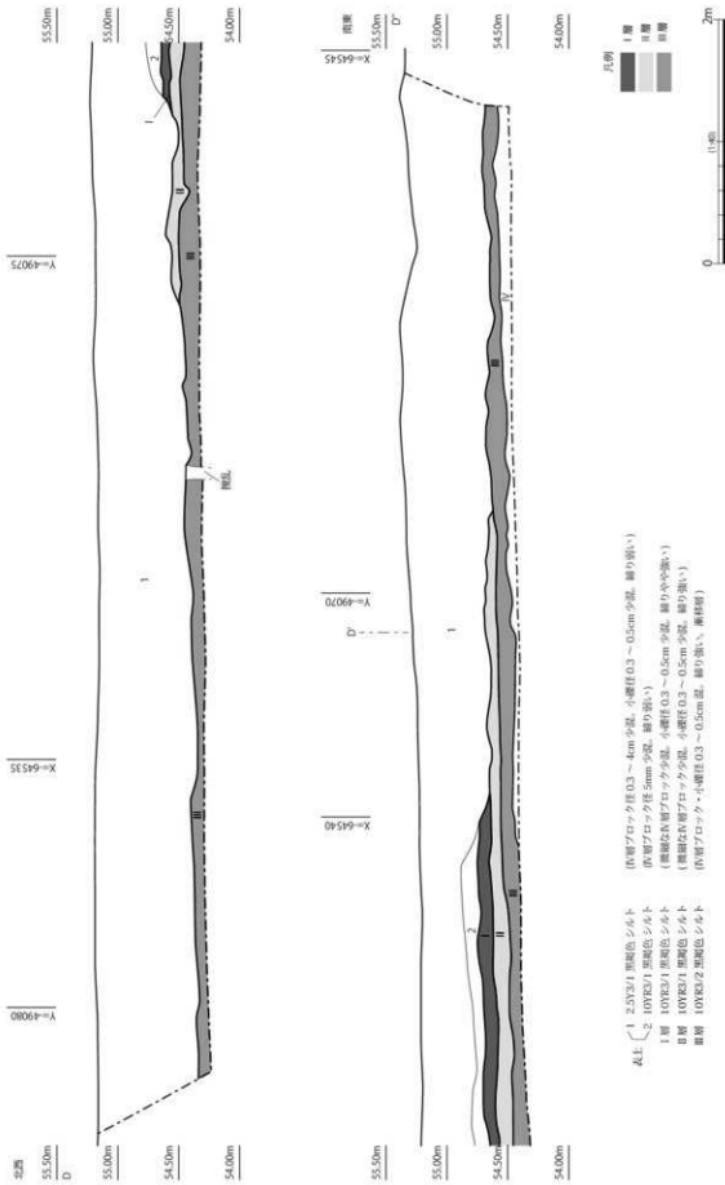


第14図 1・2区B断面土層断面図



第15図 1・2区C断面土層断面図

調査区西部 土層断面図(D-D')



- I層** 黒褐色を呈するシルトであり、後述するIV層の小ブロックや小礫を少量含む。1区東側および北西側の一部に約10~20cmの厚みをもって堆積している。圃場整備等の削平により、限定的な堆積状況ではあるが、3区にも堆積が認められることから、本来は調査区全域に堆積していたものと想定している。本層は7世紀末から9世紀にかけての遺物を主体とし、僅かながら13世紀中頃までの遺物を包含する。なお、本層下面が遺構検出面となる。
- II層** 黒褐色を呈するシルトであり、I層同様、IV層小ブロックや小礫を少量含む。遺構基盤層であり、I層よりやや締まる堆積である。本層以下、無遺物層となる。
- III層** 黒褐色を呈するシルトであり、I・II層と比較し、褐色が強い。IV層小ブロックや小礫を含む、締まりが強い堆積である。漸移層である。
- IV層** 明黄褐色を呈するシルトを基本とするローム層である。ブロック状の堆積であり、二次的な堆積とみられる。

第2項 3区の基本層序

3区の基本層序は、調査区の長軸に沿って北西壁断面(E・F断面)と短軸方向となるG・H断面の記録並びに断面図作成を行った(第17~21図)。台地上となる3区北西側は北東に向かって緩やかに下がり、台地の縁辺部となる南東部は、低地へ向かって大きく下がっていく(第21図I断面)。

長軸方向では現地表面で南西端が標高56.5m、北東端が標高55.5mを測り、比高差1m。短軸方向では現地表面で、北西端が56.0m、南東端が54.0mを測り、比高差2mとなる。

旧歩道下の大部分及び斜面部は遺物包含層の下層にあたるII層黒色シルト(黒ボク)まで削平が及んでいた。県道下はVI層浅黄色シルト(ハードローム)まで削平を受けている。したがって、歩道及び斜面部はIII層上面、県道下はVI層上面において遺構を検出した。なお、3区南西側の旧歩道下において、包含層(I層)が堆積しているが(第21図H断面)、削平が著しく、わずか数mの範囲において遺存しているのみであった。本来は1区同様、I層下面が遺構検出面になるものと想定している。

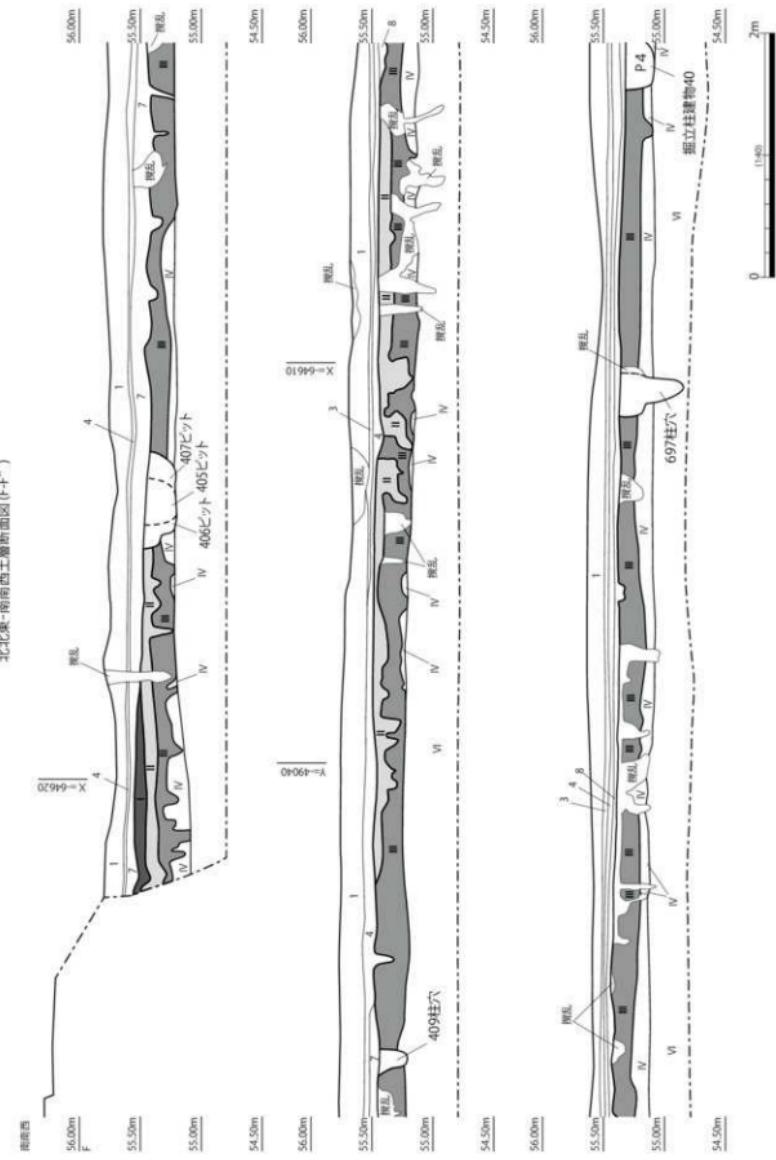
表土(1~8層)

現代の造成土。県道整備時に造成されたものであり、3回にわたる路盤の痕跡が確認された。転圧によって締まりが著しく強い。なお、歩道部分で確認された本層は、県道下及び斜面部にはみられず、県道下及び斜面部は真砂や客土による造成土が堆積している。

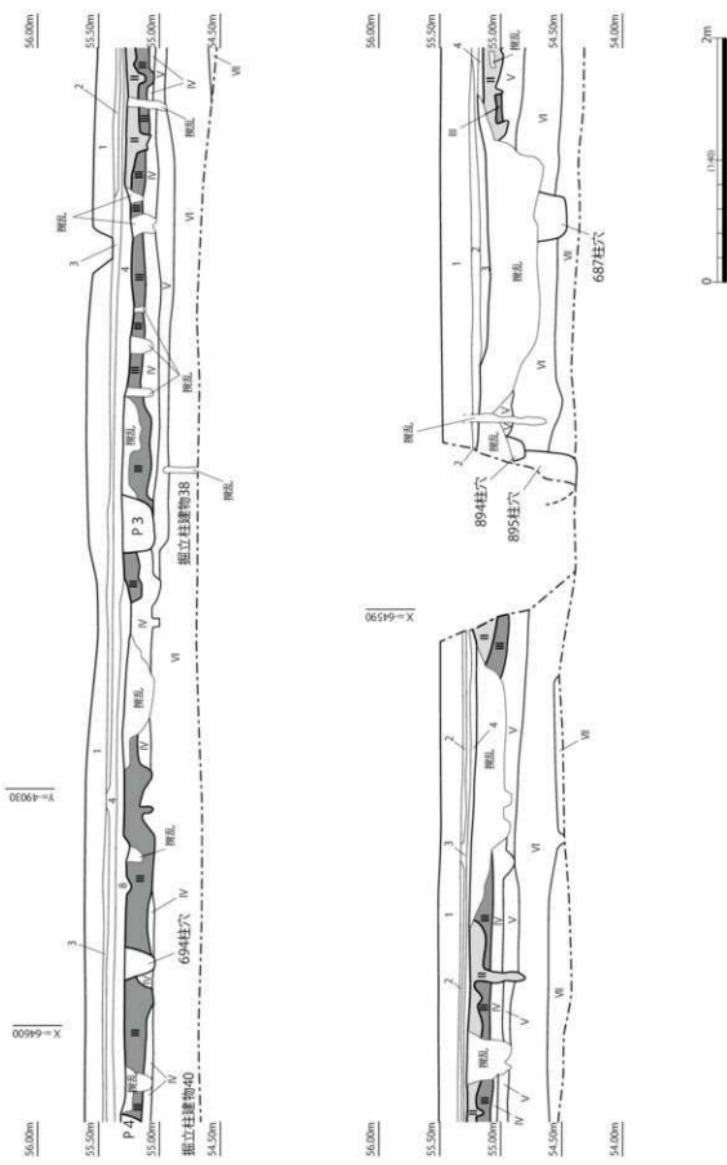
- I層** 南西部の歩道部分にわずかながら堆積する黒褐色シルト層である。7世紀中頃から後半頃の遺物が出土している。
- II層** 歩道部分で堆積が確認された黒色シルト層(黒ボク)で、無遺物層である。
- III層** 歩道部分で堆積が確認された浅黄色シルト層にぶい黄色シルト層(漸移層)である。無遺物層。本層上面において歩道部分の遺構を検



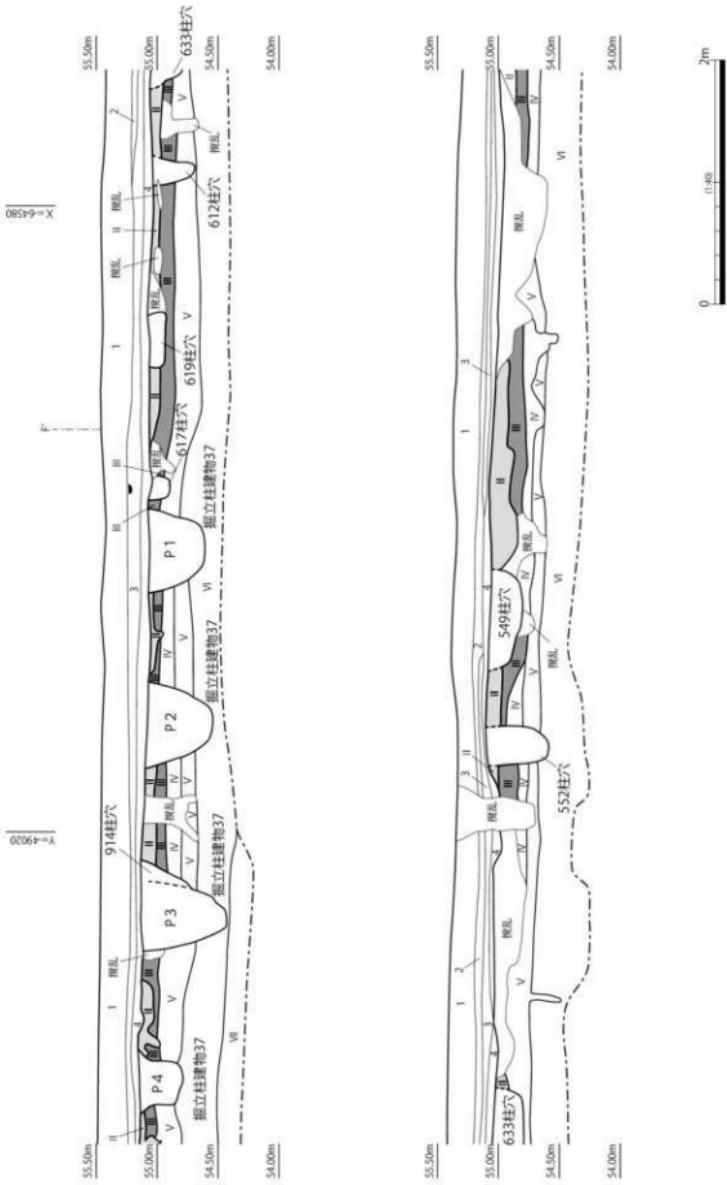
写真6 F断面土層断面(北東から)



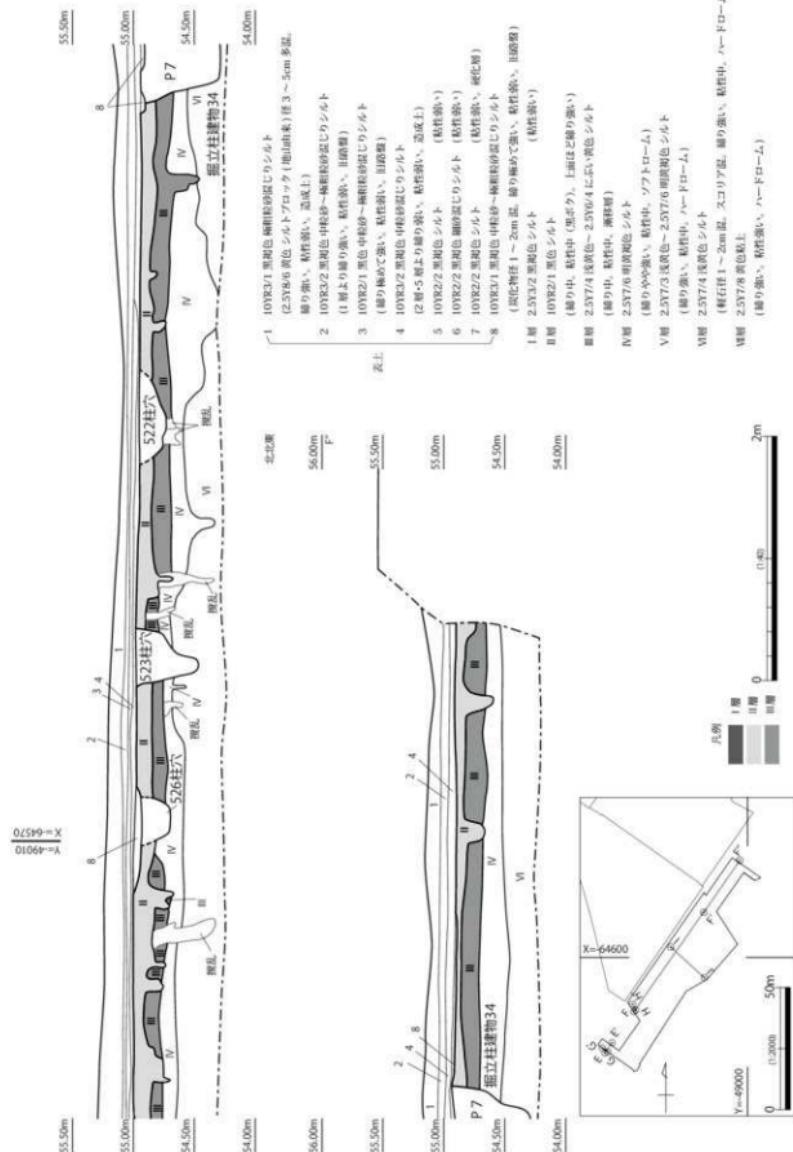
第17図 3区F断面土層断面図 (1)



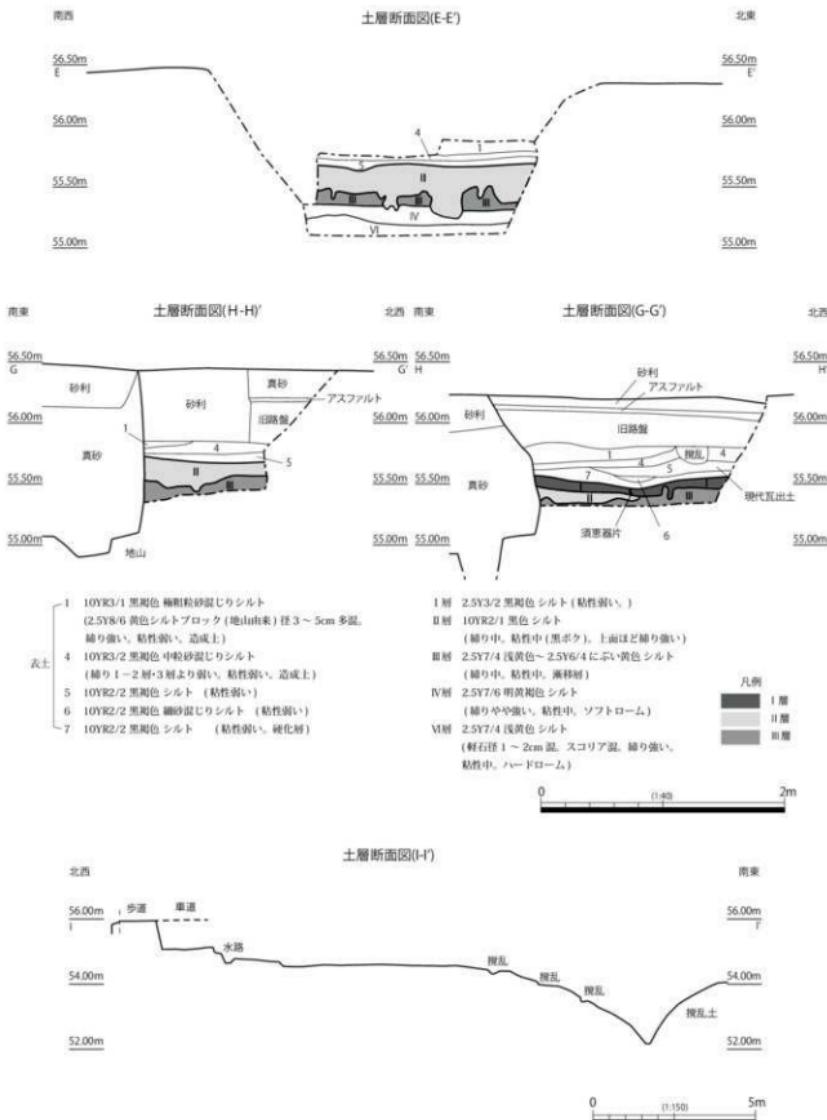
第18図 3区F断面土層断面図 (2)



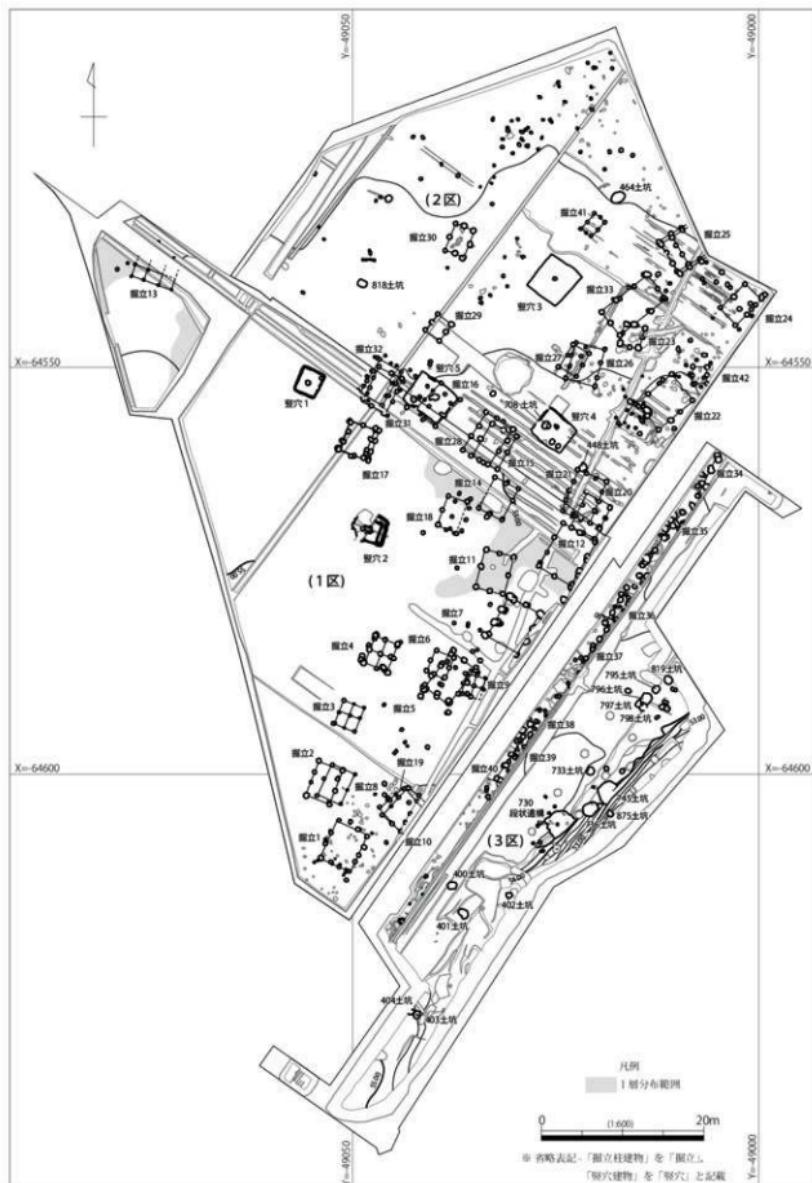
第19図 3区F断面土層断面図（3）

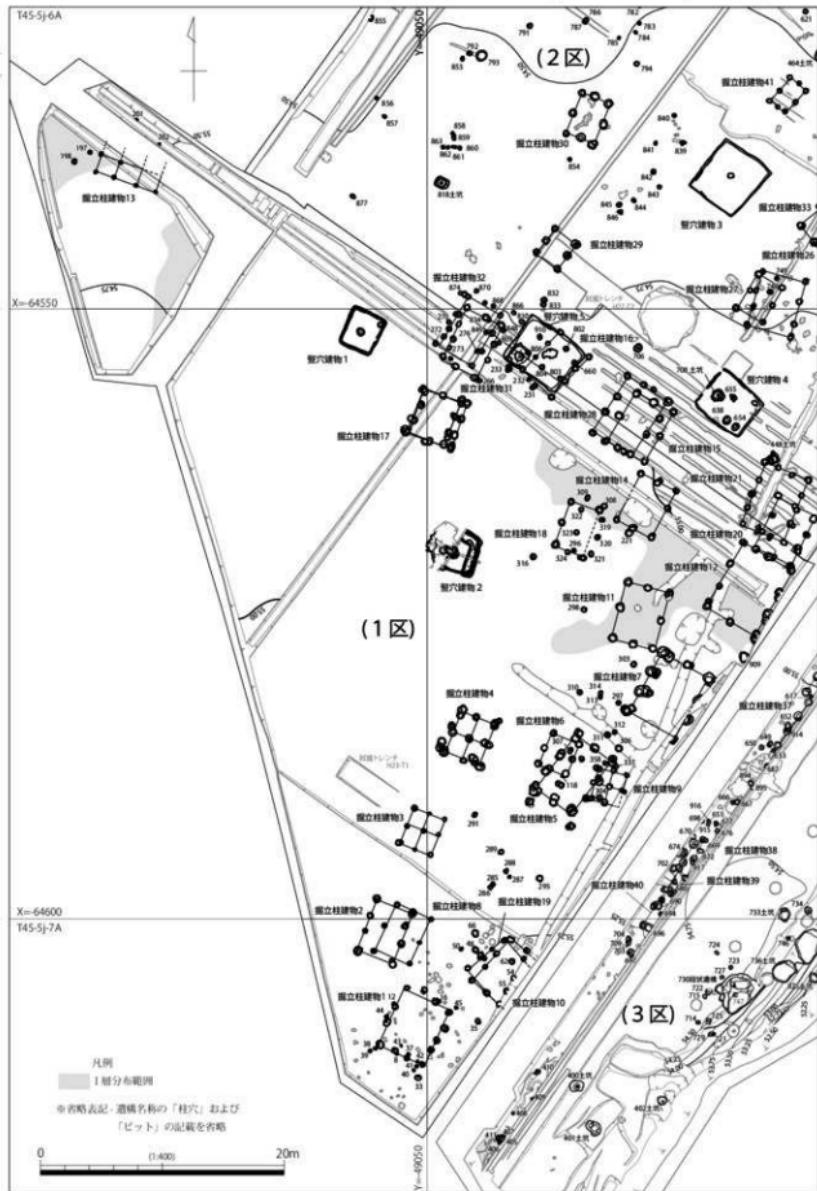


第20図 3区F断面土層断面図(4)

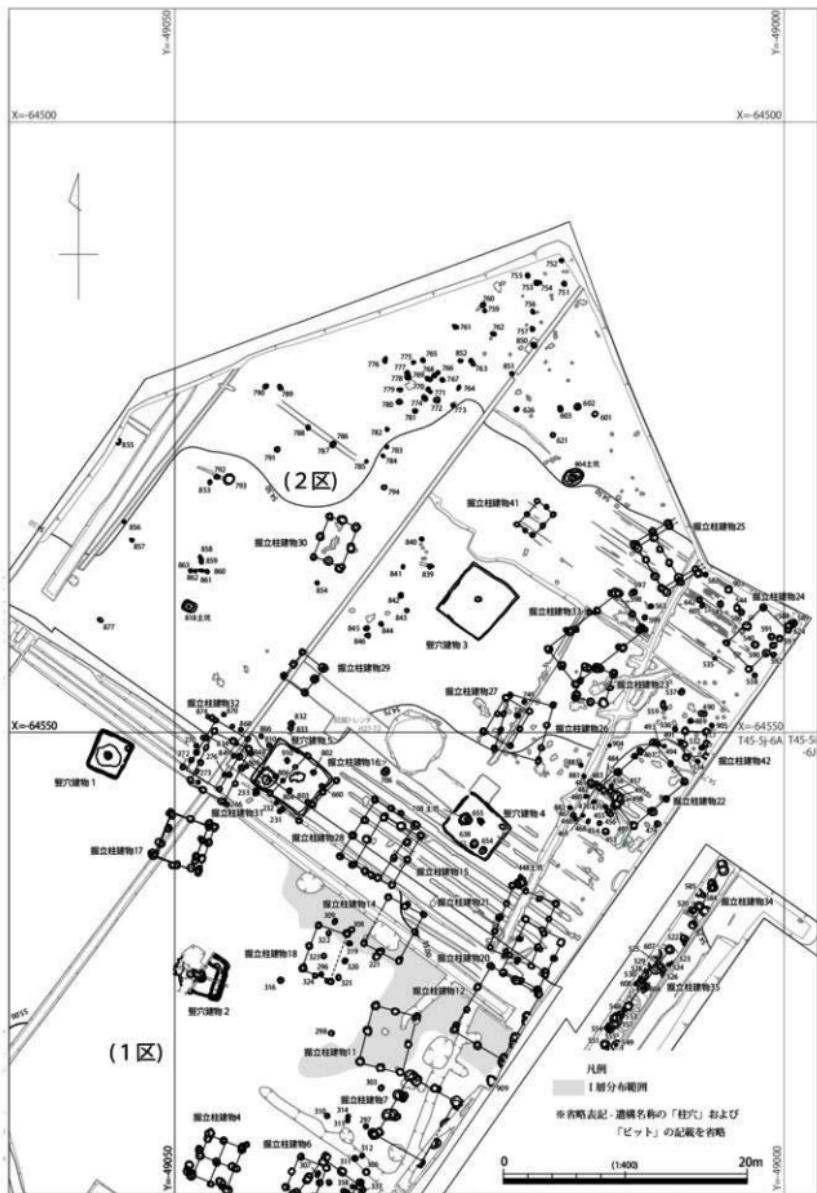


第21図 3区E・G・H・I断面土層断面図

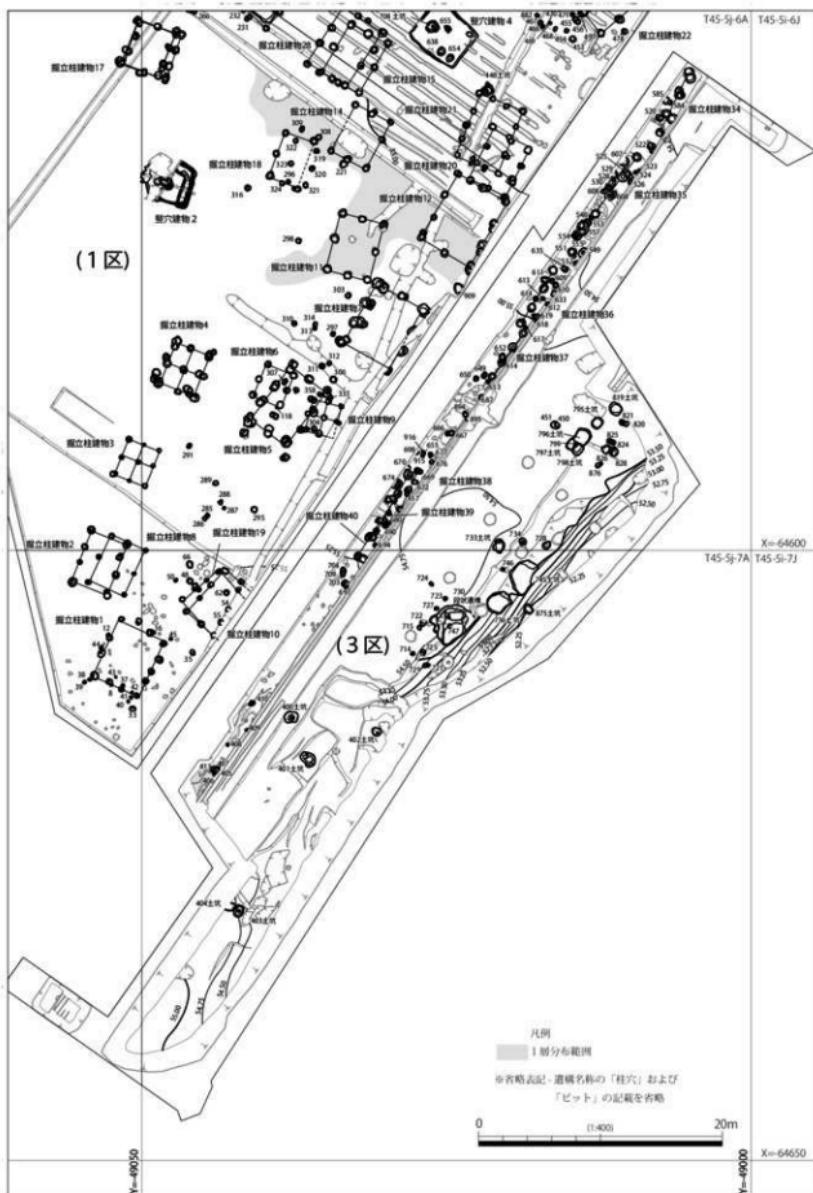




第23図 1区遺構全体図



第24図 2区遺構全体図



第25図 3区遺構全体図

出した。

M層 歩道部分に堆積する明黄褐色シルト層(ソフトローム)である。無遺物層。

V層 歩道部分及び県道下の歩道沿いに幅約1mで堆積する浅黄色～明黄褐色シルト層(ハードローム)。無遺物層。

VI層 調査区全体に堆積が確認される浅黄色シルト層(ハードローム)。県道下の大部分が本層まで削平が及んでいた。本層上面において県道下及び斜面部の遺構を検出した。

VII層 調査区全体に堆積が確認される黄色粘土層(ハードローム)。

第3節 検出した遺構と遺物

第1項 古代の遺構の調査

本遺跡では、7世紀後半から9世紀に帰属する堅穴建物と掘立柱建物を中心とする遺構を検出して いる。本項では、これらの調査成果について記述する。

堅穴建物1（第26・27図、第1・6・59表、図版10・11・92）

1区GA-5f・6fグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ層上面で検出した。堅穴部分は、長軸3.4m、短軸3.0mを測る、ほぼ方形の平面プランであり、N-25°-Eを主軸とする。検出面からの深さは最大で10cm程度と浅く、床面の面積は7.5m²である。

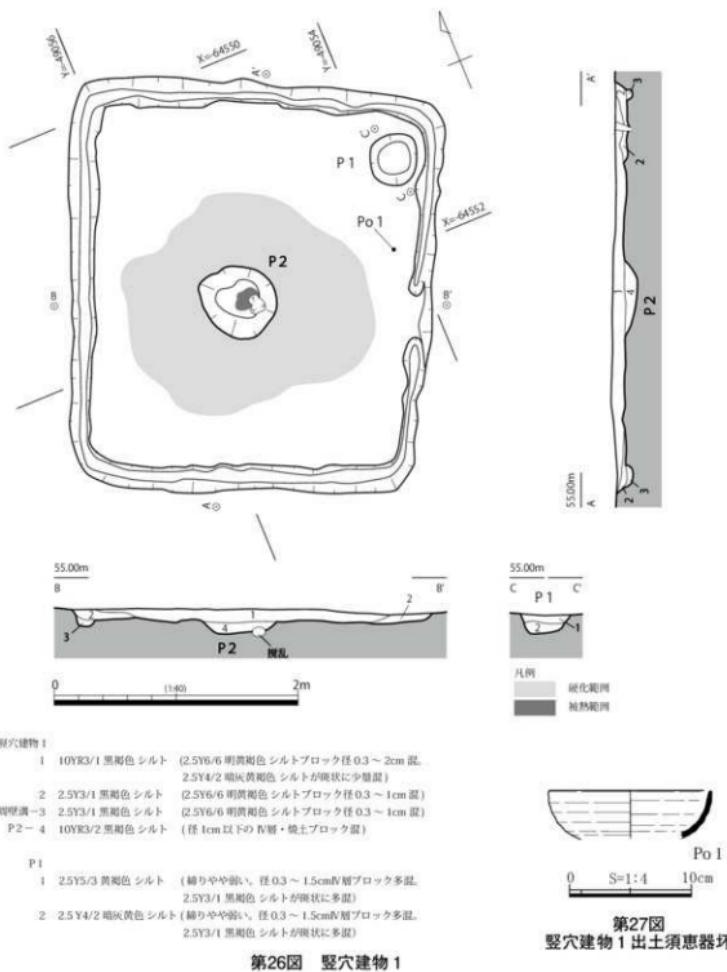
床面には堅穴壁面に沿って幅15～25cm、床面からの深さ5cm程度の壁溝が設けられている。壁溝は南東壁中央付近には設置されておらず、この部分に入口が設置されていた可能性が考えられる。

床面には1基のピットを検出した(P1)。P1は東側コーナー部分に位置し、東側コーナー部分の壁溝はP1を避けるように設置されている。長軸42cm、床面からの深さは16cmを測る。P1の土層断面を観察した結果、柱痕跡は認められず、IV層由来のブロックを多く含むことから、人為的に埋め戻された可能性が考えられる。したがって、上屋構造は堅穴周辺に設けた柱穴によって支えていたと想定されるが、周辺の精査によってそれを確認することができなかった。堅穴の規模の小ささも鑑みれば、本建物は、柱穴が後世の土壤化や削平によって失われる程度の簡素な構造であったと考えられる。

また、床面ほぼ中央部には、長軸65cm、床面からの深さ10cmの小穴を検出している(P2)。P2の壁面および底面は被熱によって赤褐色に変色していることから、炉跡と考えられる。この炉跡周辺の床面は著しく硬化している。のことから、本建物では炉を中心とした空間利用が行われていたもの

第1表 堅穴建物1遺構計測表

遺物名	地区 T45-5f	工種	建物の规格 (m)				床面の规格	調査時遺構名	備考
			長軸	短軸	深さ	面積 (m ²)			
堅穴建物1	6A-5f・6f (N-25°-E) (S-45°-W)		3.4	3.0	0.10	10.2	(北東-南西) 2.9	(北西-南東) 2.6	T5 72壁穴 P1 床土
遺構名 遺構概要									
P1	ピット		42	29	16	54.55	33D ¹ ピット		備考
P2	炉跡		65	38	10 (床面から)	54.54	34B ¹ ピット	被熱範囲の面積は10m ²	
遺構名 遺構									
炉跡	幅 (cm)	深さ (cm)	邊長 (m)	底面 (m)	調査時遺構名				備考
	15-25	5	北東面 3.0 北西面 3.0	南西面 2.6 南東面 2.9	34B ¹ 炉跡	床面の外側を囲っているが南東面では一部 (35cm程度) 剥離している			

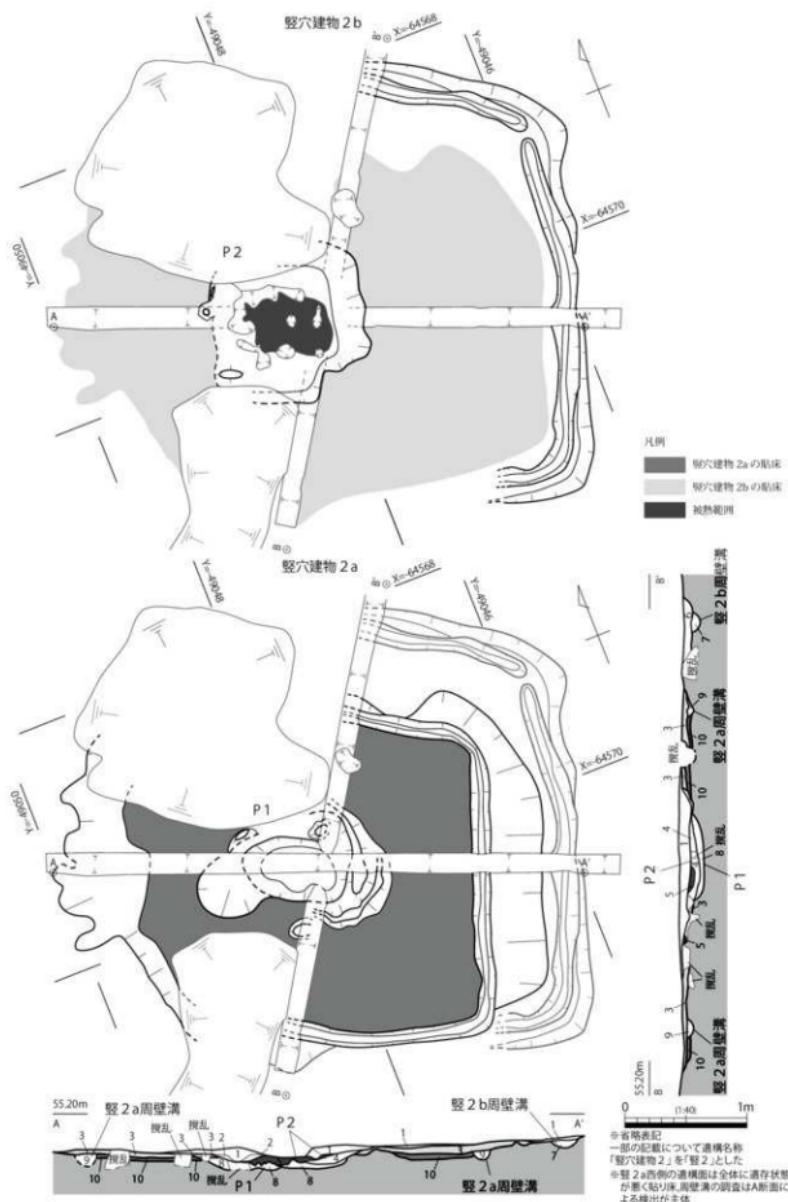


と想定している。

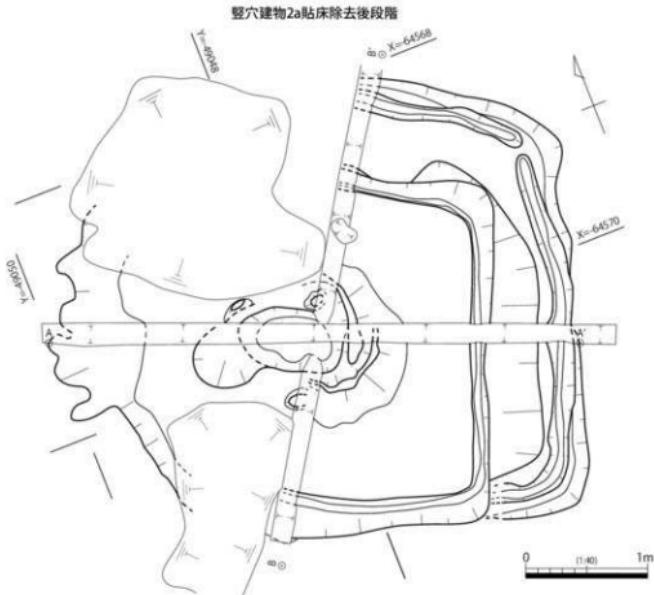
なお、遺構の記録後に硬化面の除去を行い、建物の建て替えや建物の下部構造がないことを確認している。

出土遺物は、図化したPo 1の他は土器の細片が少量出土したのみである。須恵器坏Po 1は内湾する坏部に回転ナデによる稜が明瞭に認められる。胎土には砂粒が多く、焼成は硬質である。

本建物の帰属時期は、出土遺物から判断し、7世紀中葉と考えられる。



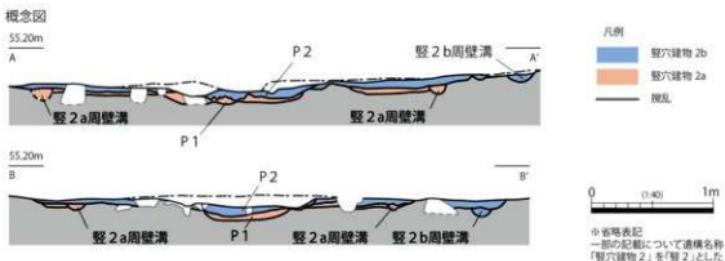
第28図 豊穴建物2a・2b



表十一

- | | | |
|---------|---------------------------|--|
| 1 | 10YR2/1 黒色 シルト | (締りやや弱い。焼土ブロック径 2cm 僅に混) |
| 2 | SYR4/3 に混じる 黄褐色 シルト | (締りやや弱い。焼土ブロック径 2cm 混) |
| 堅硬物質 2b | | |
| 3 | 10YR2/1 黒色 シルト | (10YR4/2 黄褐色 粗粒混 シルト非常に弱いブロック径 2~3cm 多混。粘床。上面硬化) |
| P2 | 4 10YR2/2 黒褐色 中砂～粗粒混じるシルト | (締り弱い。粘性やや低。細礫少混。焼土ブロック径 2cm 混) |
| 5 | 10YR4/8 赤褐色 中砂～粗粒混じりシルト | (締り強い。粘性やや低い。細礫少混) |
| 6 | 10YR2/2 黑褐色 シルト | (締りやや弱い。径 5mm 程のV層 ブロック、Ⅲ層 ブロック少混) |
| 7 | 10YR2/1 黒色 シルト | (IV層 ブロック、Ⅲ層 ブロック径 0.5~1cm 混。固壁混) |
| 堅穴生物 2a | | |
| P1-8 | 10YR3/3 喀爾色 シルト混じり中砂～粗粒 | (締り弱い。細礫少混) |
| 9 | 10YR2/2 黑褐色 シルト | (締りやや弱い。Ⅲ層 ブロック径 1cm 混。固壁混) |
| 10 | 10YR2/2 黑褐色 シルト | (締りやや強い。10YR3/3 喀爾色 混じるブロック径 1cm 多混。粘床。上面硬化) |

醫穴總目 2a



第29図 竪穴建物2

堅穴建物2（第28・29図、第2・6表、図版12～14）

1区6A-7e・7f・8eグリッドに位置する堅穴建物である。表土除去後のII層上面で検出し、建て替え（拡張）が1回行われている。以下、この建て替え前の段階（古段階）を堅穴建物2a、建て替え後の段階（新段階）を堅穴建物2bとする。堅穴建物2a・2bとも北西側は後世の擾乱によって平面的な確認はできなかったが、土層断面では建物の痕跡を確認している。

堅穴建物2aは、堅穴建物2b貼床（3層）除去後に検出した。堅穴は方形を呈すものと考えられ、主軸はN-69°-Wである。堅穴の規模は長軸3.8m、短軸2.8m、検出面からの深さは8cmを測り、想定される床面積は8.3m²である。床面には厚さ3～5cmの貼床が施され、貼床上面は硬化している。壁面下には壁溝が掘削されており、確認できた範囲においては全周している。壁溝の幅は最大で14cm、床面からの深さは最大で5cmを測る。床面中央部より、P1を検出している。P1は幅50cm、厚さ2cmの周提が施され、長軸124cm、床面からの深さは最大8cmを測る。土層断面を観察した結果、周提は地山の削り出しにより成形されたものと確認している。後述する堅穴建物2bP2と重複し、規模も類似することから、炉跡の機能を有していた可能性が考えられる。

堅穴建物2bの堅穴は方形を呈すものと考えられ、主軸はN-74°-Wである。堅穴の規模は長軸4.4m、短軸3.7m、検出面からの深さは4cmを測り、想定される床面積は11.1m²である。床面には厚さ4～7cmの貼床が施され、部分的に踏み締めによるとみられる硬化が認められる。壁面下には壁溝が掘削されており、確認できた範囲においては北東隅を除いて全周している。壁溝の幅は最大で15cm、床面からの深さは最大で6cmを測る。床面中央部にはP2（炉跡）が設けられている。P2の平面形は不整な楕円形を呈し、長軸131cm、短軸85cm以上、床面からの深さは8cmを測る。焼土ブロックを含む埋土4・5層が堆積しており、中央が被熱によって赤色化している。

なお、堅穴建物2a・2bの床面において、建物の上屋構造を支える柱穴は検出していない。また、堅穴周辺においても本建物に伴う柱穴は確認していない。

遺物は、細片の土師器が僅かに出土した程度である。本建物の帰属時期を推定するのは困難であるが、他の堅穴建物との類似性を積極的に評価するならば、7世紀から8世紀前半に属するものと考えられる。

第2表 堅穴建物2遺構計測表

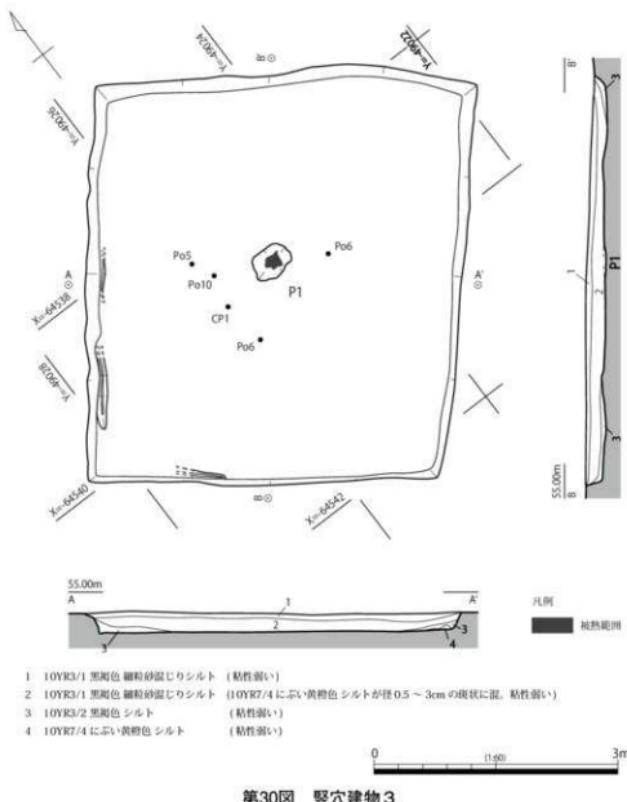
建物名	地区 T45-5g	主軸	建物の実際（m）				実際の規模				測定時遺構名	備考
			長軸	短軸	深さ	面積（m ² ）	長軸（m）	短軸（m）	面積（m ² ）	測定の幅（cm）		
堅穴建物2a		N-69°-W (N-21°-E)	（北西-南東） 3.8	（北東-南西） 2.8	0.08	10.6	（北西-南東） 3.2	（北東-南西） 2.5	8.3	3～5	-	西側は大部分を標高に切らされているため上層部断面を基に計測した
堅穴建物2b	E6a E6-7f-8e	N-74°-W (N-16°-E)	（北西-南東） 4.4	（北東-南西） 3.7	0.04	16.3	（北西-南東） 3.7	（北東-南西） 3.0	11.1	4～7	-	西側は大部分を標高に切らされているため上層部断面を基に計測した

遺構名	遺構剖面	実際（cm）			瓦面の標高（cm）	測定時遺構名	備考
		長軸	短軸	深さ			
P1	牛頭	124	61	（表面から）8	54.74	286ピット	堅穴建物2の中央に位置する。
P2	牛頭	131	65.0	（表面から）8	54.79	222ピット	堅穴建物2の中央に位置する。被熱範囲の面積120.0m ²

遺構名	実際			測定時遺構名	備考
	幅（cm）	深さ（cm）	高さ（m）		
2a周提溝	14	5	北東1.0 南東2.2	南西15	280回測定 北東側・南西側の大部分は標高に切られた
2b周提溝	15	6	北東1.3 南東2.7	南西65	338回測定 北東側・南西側の大部分は標高に切られた

豎穴建物3（第30・31図、第3・6・59・67・70表、図版15・16・77・88・89）

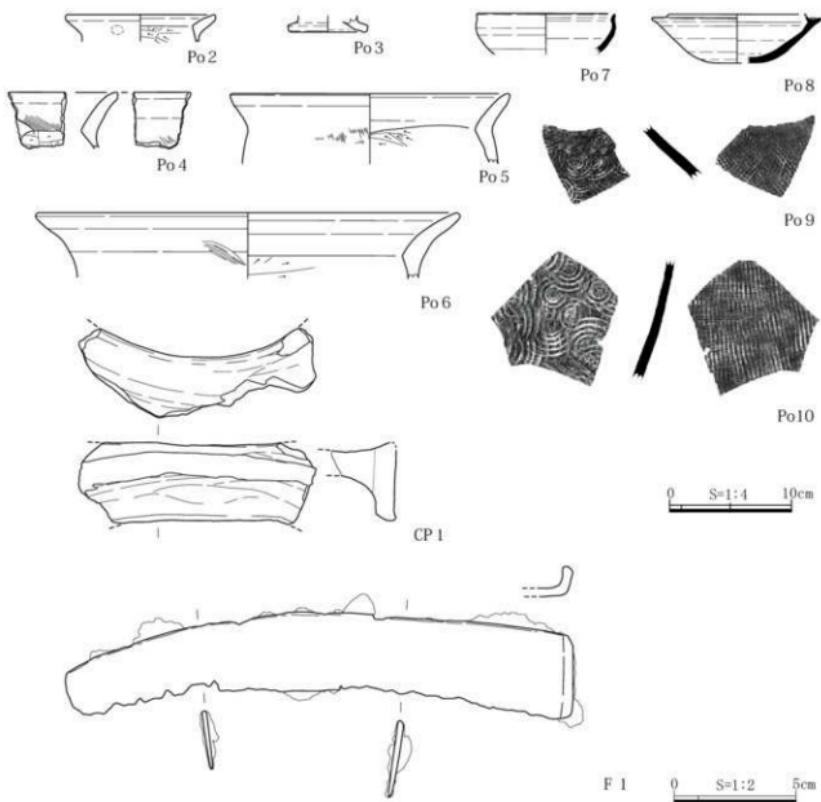
2区6A-4c・5cグリッドに位置する豎穴建物である。表土除去後、Ⅲ層上面で検出した。豎穴部分は長軸5.1m、短軸4.7mを測るほぼ方形の平面プランであり、N-38°-Eを主軸とする。検出面からの深さは最大で22cmを測り、床面の平面積は20.2m²である。豎穴の埋土は4層に分層でき、細粒砂が混



第30図 豊穴建物3

第3表 豊穴建物3遺構計測表

遺構名	地区 T45g E-軸 N-38°-E [N-32°-W]	I-軸 E1 E2	建物の復元 (m)				床面の復元				調査時遺構名	参考
			長軸	短軸	進深	面積 (m ²)	長軸 (m)	短軸 (m)	面積 (m ²)	調査時遺構名		
豎穴建物3			(北東-南西) E1	(北西-南東) E2	(横長) 4.7	0.22	2.6	(北東-南西) E1	4.8	20.2	S46	Po2-10, CP1, P1 土
遺構名	遺構概況		幅 (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	直前の標高 (m)	直前の標高 (m)	直前の標高 (m)	直前の標高 (m)		参考	
P1	印跡	51	36	5	54.59	54.00	54.00	54.00	54.00			
遺構名		幅 (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	直前の標高 (m)	直前の標高 (m)	直前の標高 (m)	直前の標高 (m)	直前の標高 (m)		参考	
細粒土		10	3	2.1 (中央部で0.8cm削除)	54.54	54.00	54.00	54.00	54.00			



第31図 竪穴建物3出土土師器・須恵器・土製品・鉄器

じる黒褐色シルトが主体をなす。

床面には貼床の痕跡は認められず、凹凸があり、平滑ではない。西側コーナー部分の床面には、竪穴壁面に沿って幅10cm、床面からの深さ3cm程度の壁溝が設けられている。床面ほぼ中央部には、長軸51cm、床面からの深さ5cmの小穴を検出している(P 1)。P 1底面の一部は被熱によって赤褐色に変色していることから、炉跡と考えられる。なお、竪穴の周囲や床面において、建物の上屋構造を支える柱穴は検出していない。

遺物は1・2層より出土しており、竪穴の埋没過程に生じる凹地に廃棄されたものと考える。土器9点、土製品1点、鉄器1点を図化した。Po 2・4~6は土師器壺である。器壁が厚く、口縁部が「く」の字状に外反する。体部は外面がハケ、内面がヘラケズリの調整を施す。Po 3は高台または脚台であろうか。Po 7~10は須恵器をまとめている。Po 7・8は壊であり、Po 7は底部から内湾気味に口

縁部が立ち上がり端部が短く外反する。Po 8は底部から外傾気味に口縁部が立ち上がり端部にかえりをもつ。7世紀後半から8世紀前半に比定される。Po 9・10は壺の肩部と体部下半である。外面は平行タタキ、内面は同心円状當て具痕を残す。CP 1は壺の焚口上方の鍔状の庇。庇先端が欠損している。F 1は曲刃の鉄鎌である。長さ20.9cm、最大幅3.4cmを測る。先端部は欠損し、基部は折り返しがなされている。

本建物の帰属時期は出土遺物から判断し、7世紀後半から8世紀前半と考えられる。

堅穴建物4（第32・33図、第4・6・59・69・70表、図版17・18・88・89）

2区6A-6c・7cグリッドに位置する堅穴建物である。表土除去後、Ⅲ層上面で検出した。本建物は試掘トレンド（倉吉市教育委員会H27-T2）で確認されていたものである（第3図）。遺構の遺存状態は悪く、堅穴壁面や床面の一部は破壊されている。堅穴部分は、長軸4.5m、短軸4.0mを測る、長方形の平面プランであり、N-53°-Wを主軸とする。検出面からの深さは最大で8cm程度と浅く、床面の平面積は15.5m²である。堅穴の埋土は2層に分層でき、黒色または黒褐色を呈する細粒砂混じりのシルトである。

床面は遺存状態が悪いものの、東側コーナー部分と床面中央の一部には貼床（A・B断面3層）が遺存している。貼床上面は著しく硬化しており、人為的に敲き締められた可能性が考えられる。北側コーナー部分と南西側の床面には、堅穴壁面に沿って幅12cm、床面からの深さ5cm程度の凹溝が設けられている。床面中央やや北東側には、地山を削り出して成形した高まりが認められ、赤褐色に変色していることから炉跡と考えられる。規模は長軸61cm、短軸44cmを測り、床面より8cm高い。炉跡の頂部中央はやや窪み、その窪みには焼土ブロックを含む黒褐色シルトが堆積している（C断面4層）。

また、床面上に2基の柱穴（654・655柱穴）を検出しているが、本建物との平面的な位置関係、他の堅穴建物の検出状況から判断し、本建物に伴うものではないと判断している。なお、本建物に重複する638柱穴は堅穴埋土（1層）上面に検出しており、本建物より後出す遺構であることを確認している。また貼床下に検出した708土坑は本建物に先行する遺構である。

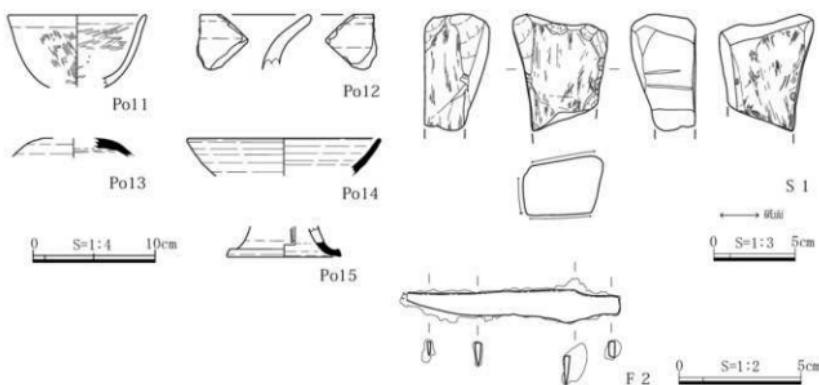
遺物は土器5点、石器1点、鉄器1点を図化した。大半は1層より出土しており、F 2は床面上、Po12は貼床（3層）より出土している。Po11は土師器の鉢。丸底から外反気味に口縁部が立ち上がる。外面は口縁端部はナデ、体部はハケ、内面は口縁部がナデ、体部はミガキが施される。Po12は「く」の字状に外反する土師器壺の口縁部。Po13は須恵器の蓋天井部。Po14は体部下半から口縁部が外傾気味に開く須恵器壺もしくは高壺の壺部である。Po15は須恵器の高壺脚部で透かし孔がみられる。

第4表 堅穴建物4遺構計測表

遺構名	遺物の概形 (m)			床面の概形			貼土厚さ (cm)	調査時遺構名	備考	
	長軸	短軸	深さ	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)				
堅穴建物4	6.66c・7c	N-53°-W (北西-南東) 45	(北東-南西) 40	(株高-床高) 0.08	18.0	(北西-南東) 43	(北東-南西) 36	15.5	4-7	656
638柱穴に留められる。654・655柱穴と 堅穴建物4は下層より上層へと順次 重複するためPo11-15, Po12-22等。										
遺構名	規格 (cm)	規格 (cm)	高さ (cm)	上面の標高 (m)	調査時遺構名				備考	
炉跡	61	44	8	0473	656焼土	656焼土として調査。範囲範囲の面積は10.27m ²				
遺構名	規格			調査時遺構名			備考			
回串壺	12	5	正丸H1.0	北西H1.7	南西H1.4	-	南西面以外で検出された			



第32図 壁穴建物4



第33図 壁穴建物4出土土師器・須恵器・石器・鉄器

Po13~15は7世紀後半から8世紀前半に比定されよう。S1は花崗岩製の擬形砥石。3面に砥面が認められる。F2は刀子で先端部がわずかに欠損している。残存長8.8cm、最大幅1.4cmを測る。

本建物の帰属時期は出土遺物から判断し、7世紀後半から8世紀前半と考えられる。

竪穴建物5（第34~37図、第5・6・59・67・70表、図版19~21・90・91）

2区6A-6d・6eグリッドに位置する竪穴建物である。表土除去後、Ⅲ層上面で検出した。竪穴部分は、長軸5.3m、短軸4.3mを測る、長方形の平面プランであり、N=54°-Wを主軸とする。検出面からの深さは最大で15cm、床面の平面積は19.6m²である。竪穴の埋土は2層に分層でき、黒褐色を呈するシルトが堆積する（A・B断面1・2層）。

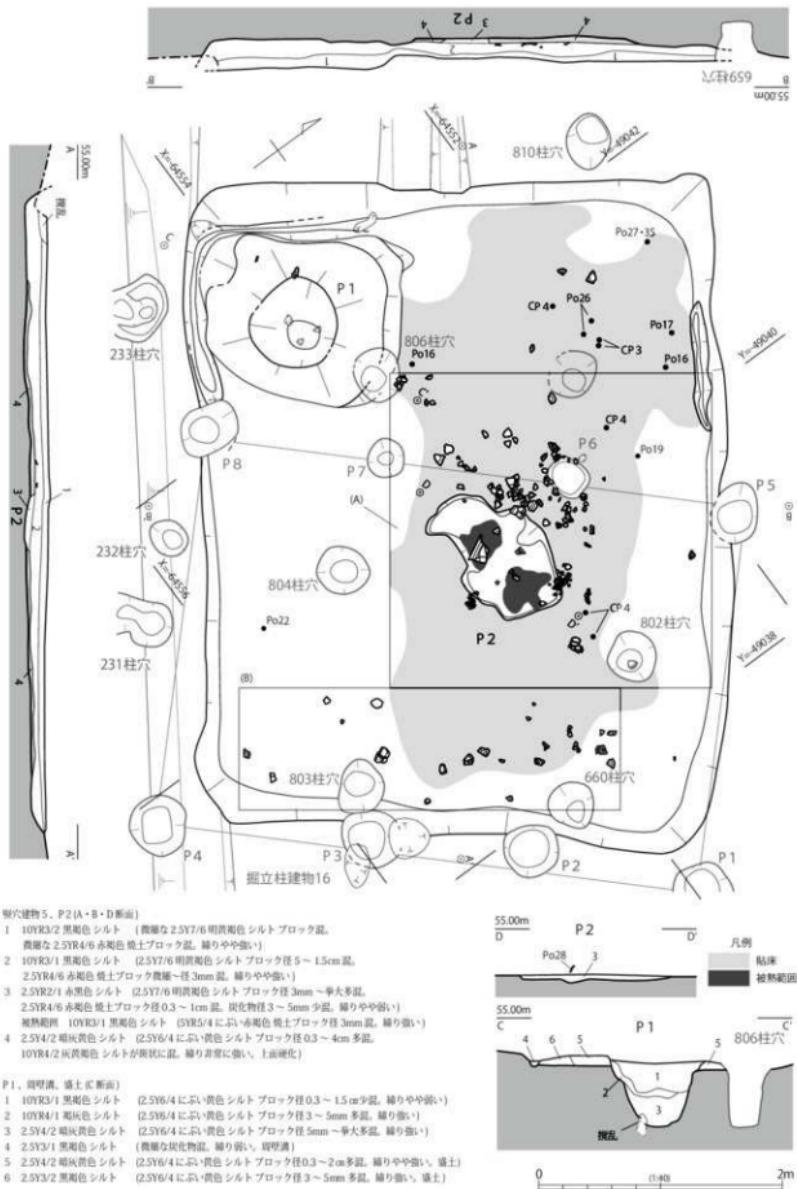
床面中央から北西側には貼床（A・B断面4層）が施されており、貼床上面は硬化している。西側コーナー部分と北東側の床面には、竪穴壁面に沿って幅10cm、床面からの深さ4cm程度の壁溝が設けられている。その西側コーナー部分にはP1が位置し、P1周囲には盛土が施されている（C断面5・6層）。P1の規模は長軸71cm、短軸70cm、床面からの深さ51cmを測る。埋土はIV層由来のブロックを多く含む黒褐色、暗灰黄色のシルトを主体とし、柱痕跡は認められない。P1は検出した位置、埋土の堆積状況から判断し、竪穴建物1 P1と類似する機能を有する可能性が考えられる。床面中央には、長軸124cm、床面からの深さ3~6cmの小穴（P2）を検出している。P2壁面と底面は部分的に被熱によつて赤褐色に変色していることから、炉跡と考えられる。埋土は焼土ブロックを含む赤黑色シルト（A・B・D断面3層）が堆積する。

なお、本建物は掘立柱建物16、660・802~804・806・910柱穴と重複しており、掘立柱建物16については本建物より後出すことを確認している（第72図K断面）。また、910柱穴は貼床除去後に検出しておらず、本建物より先行するものと考える。他の柱穴については竪穴の埋土掘削後、竪穴壁面または床面において検出し、本建物との先後関係は確認できていない。しかしながら、806柱穴以外、床面からの深さが浅いこと、本建物に対する平面的な位置関係から判断し、これらの柱穴は本建物の上屋を支えるものではないと判断している。また、後述するPo20は、本建物床面直上より出土した破片と802柱穴抜き取り痕跡より出土した破片とが接合しているが、本建物より802柱穴内に二次的に混入したものと判断している。

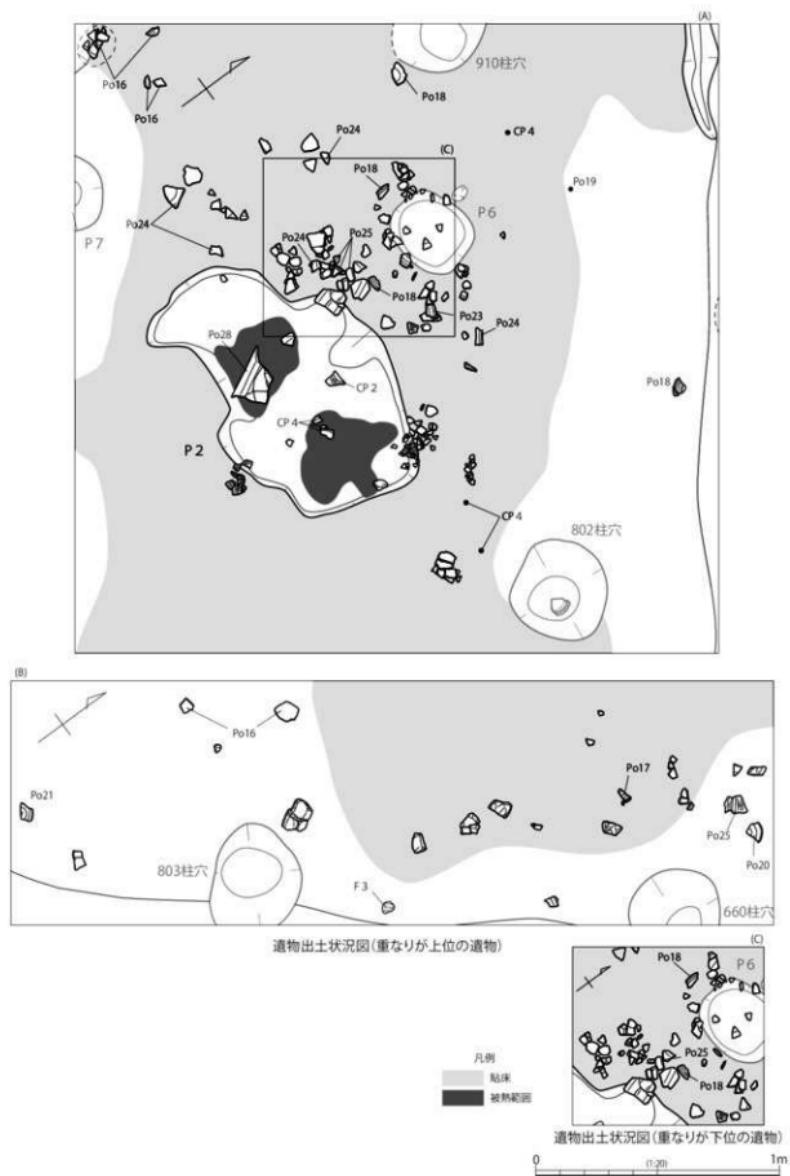
遺物は1・2層中と床面直上より出土している。床面直上の遺物は広範囲に小片が点在するような出土状況を示し、1・2層出土の破片と接合した個体も数点みられる。土器13点、土製品3点、鉄関連遺物1点を図化した。Po19・22・26・27、CP3は1層、Po16~18・20・21・23~25・28、CP2・

第5表 竪穴建物5遺構計測表

遺構名	地区	主軸	建物の規格（m）				床面の規格				調査時遺構名	備考	
			長軸	短軸	高さ	傾き	面積（m ² ）	長軸（m）	短軸（m）	面積（m ² ）			
竪穴建物5	T45-S9	N54°-W (N=36-E)	(北西-南東)	(北東-南西)	(傾斜-直角)	0.08~0.15	22.8	(北東-南東)	(北東-南西)	19.6	2~4	5637	掘立柱建物16の柱穴に切らせる。
<hr/>													
P1			182	163	(高さ) 8	(上傾) 54.69	5857	竪穴建物の南側に位置する。盛土を作りビット					
			71	70	(高さ) 5.51	(直角) 54.11		被熱範囲を2箇所確認。面積はそれや802柱					
P2			124	77	(高さ) 3~6	(直角) 54.58	5861						
<hr/>													
遺構名	規格（cm）				高さ（m）	傾き（m）	面積（m ² ）	調査時遺構名				備考	
回廊廻	幅（cm）	深さ（cm）	高さ（m）	面積（m ² ）									
	10	4	(東西) 1.2	(東西) 1.3	(北東) 1.0	-		竪穴建物の西側に位置する最も面積広い回廊廻					



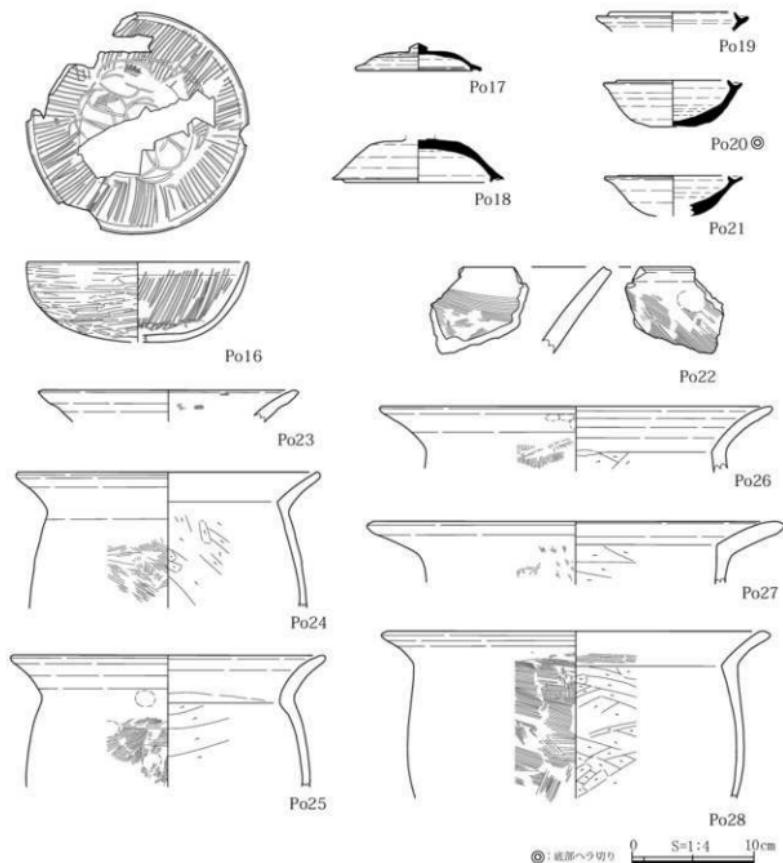
第34図 豊穴建物5



第35図 穹穴建物5床面直上遺物出土状況図

4、F3は床面直上より出土している。Po23・24・28、CP2・4は床面中央に位置するP2(炉跡)周辺より出土し、それらの外側にその他の遺物が点在している。各個体とも一定のまとまりをもって出土しているが、CP2は北側にも破片が点在し、Po16は大きく3か所に分散して出土している。

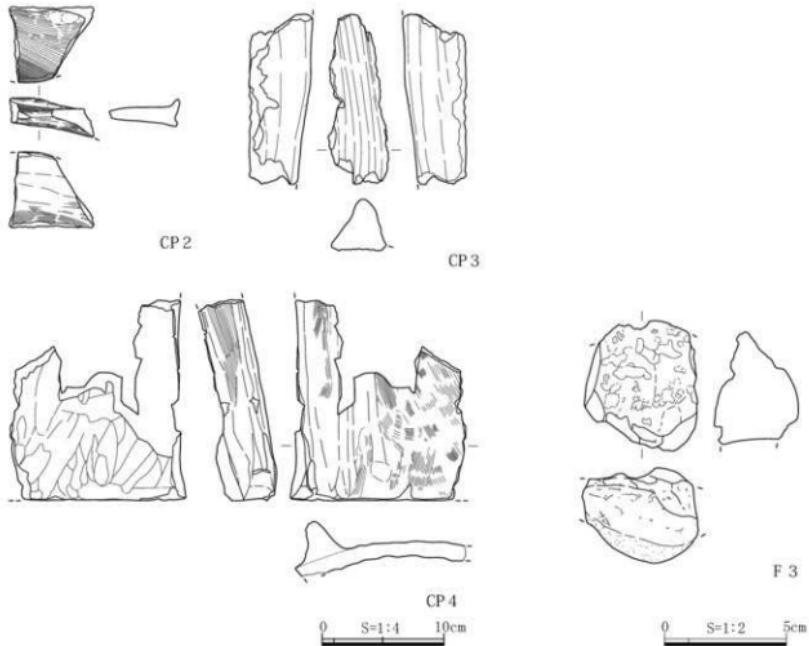
Po16は底部から口縁部が内湾気味に立ち上がる土師器塊である。内外面とも丁寧なヘラミガキ後、内面には放射暗文と螺旋暗文を施す。Po17・18は須恵器蓋である、前者は擬宝珠状のつまみをもつ。後者はつまみは欠損しているが、器高が高い。Po19-21は須恵器壺であり、いずれもかえりを有する。以上は、7世紀後半に比定される。Po22は土師器の鉢であり、内外面にハケ調整を施す。Po23-28は土師器甕である。いずれも器壁が厚く、口縁部が「く」の字状に大きく外反する。体部外面はハケ、



第36図 穂穴建物5出土土師器・須恵器

内面はヘラケズリを施している。CP 2～4 は移動式竈である。CP 2・3 は底片で前者はハケ調整がみられる。CP 4 は本体の焚口と脇の底部である。外面はハケ、内面はヘラケズリ後にナデ調整を施している。F 3 は椀形鍛冶津で、左右側面と下側面は欠損している。

本建物の帰属時期は出土遺物から判断し、7世紀後半と考えられる。



第37図 竪穴建物5出土土製品・鉄関連遺物

第6表 竪穴建物計測表

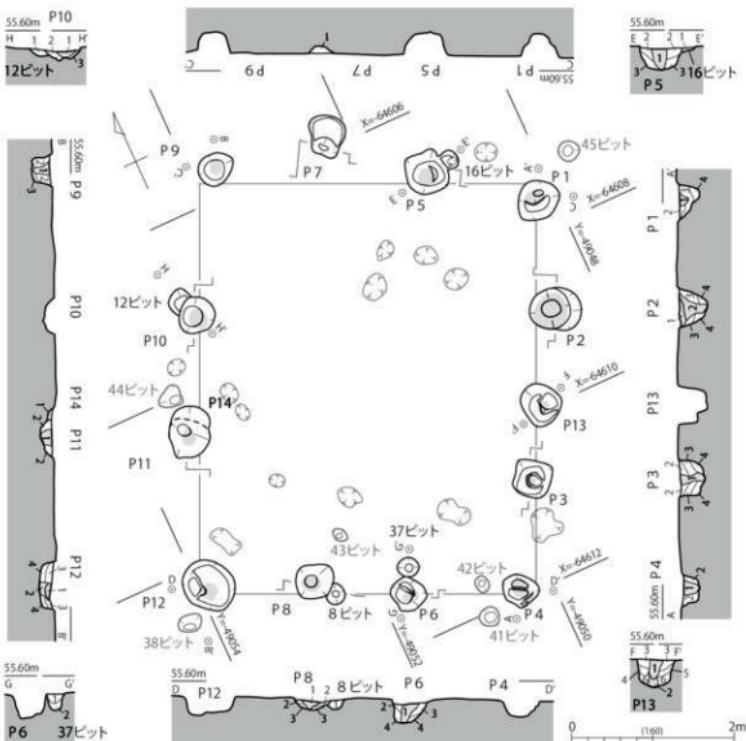
遺物名	施区	丁番	工具名	規格			貼付の高さ (cm)	貼付 (m)	調査者姓名	備考
				長軸 (m)	短軸 (m)	厚さ (cm)				
竪穴建物1	6A-5c・復	N-25-E (N-45-W)	「北東-南西」 3.4 (底面29) 「北東-南西」 3.0 (底面26)	「北東-南西」 10 (底面10)	-	-	10.2 (底面13)	72壁穴	P 1・2 (鉄鋤) を検出。周壁裏が底面の外観を有する。P 1出土。	
竪穴建物2a	6A-7e・7f・8e	N-49-W (N22-E)	「北東-南西」 3.0 (底面33)	「北東-南西」 8 (底面25)	3～5	-	10.6 (底面13)	-	P 1 (鉄鋤) を検出。周壁裏を削削して底面。遺物西側の大部分は被乱 層かられる	
竪穴建物2b	6A-7e・7f・8e	N-24-E-W (N30-E)	「北東-南西」 4.4 (底面37)	「北東-南西」 3.7 (底面10)	4	4	16.2 (底面11.1)	-	P 2 (鉄鋤) を検出。周壁裏を削削して底面。遺物西側の大部分は被乱 層かられる	
竪穴建物3	6A-4c・5c	N-38-E (N-52-W)	「北東-南西」 4.0 (底面42)	「北東-南西」 3.7 (底面12)	22	-	24.0 (底面20.2)	S465	P 1 (鉄鋤) を検出。周壁裏の一部を被乱。P 2-10, CP 1, F 1出土。	
竪穴建物4	6A-6c・7e	N-35-E (N37-E)	「北東-南西」 4.5 (底面32)	「北東-南西」 4.0 (底面34)	8	4～7	18.0 (底面15.5)	S636	9号検出。周壁裏を削削的に被乱。P 11-15, S 1, F 2出土。底面 下より70cm上地。(底とし石) を検出	
竪穴建物5	6A-6d・6e	N-54-W (N36-E)	「北東-南西」 5.3 (底面40)	「北東-南西」 4.0 (底面34)	2～4	2～4	22.8 (底面19.0)	S637	既刊建物と重複。P 1・2 (鉄鋤) を検出。周壁裏の一部を被乱。 P 16-28, CP 2-4, F 3出土。	

第7表 挖立柱建物計測表(1)

建物名	建物区分	地区T45-H	王極方位	規格 (m)		面積 (m ²)	備考
				幅 (m)	奥 (m)		
掘立柱建物1	掘柱建物	7A-3e・1L-2e・2F	N-25°-E	3間 (西側: 5.1) (東側: 4.9)	3間 (北側: 4.0) (南側: 3.9)	204	
掘立柱建物2	掘柱建物	6A-3F・7A-1F	N-22°-E	3間 (西側: 4.6) (東側: 4.4)	1間 (北側: 3.0) (南側: 3.1)	136	掘立柱建物8→掘立柱建物2 Po26出土
掘立柱建物3	掘柱建物	6A-3e・1F	N-22°-E	2間 (西側: 3.2) (東側: 3.1)	1間 (北側: 2.6) (南側: 2.6)	87	掘柱建物 Po25出土
掘立柱建物4	掘柱建物	6A-3e	N-28°-E	2間 (西側: 2.2) (東側: 2.0)	1間 (北側: 3.1) (南側: 3.0)	148	Po24出土
掘立柱建物4b	掘柱建物	6A-3e	N-26°-E	2間 (3.2)	1間 (北側: 3.0) (南側: 3.2)	102	Po24出土
掘立柱建物4c	掘柱建物	6A-3e	N-26°-E	2間 (西側: 3.2) (東側: 3.1)	1間 (北側: 3.0) (南側: 2.7)	99	
掘立柱建物4d	超柱建物?	6A-3e	N-22°-E	2間 (西側: 2.6) (東側: 2.5)	2間 (北側: 2.9) (南側: 2.8)	104	掘柱建物→超柱建物 Po25出土
掘立柱建物4e	超柱建物?	6A-3e	N-22°-E	2間 (西側: 2.6) (東側: 2.7)	2間 (北側: 2.9) (南側: 3.1)	115	超柱建物 Po25・32出土
掘立柱建物5	掘柱建物	6A-3d・9e・10d・10e	N-32°-E	3間 (西側: 5.9) (東側: 5.5)	2間 (北側: 3.0) (南側: 3.0)	224	掘立柱建物5→掘立柱建物9 Po25出土
掘立柱建物5b	掘柱建物	6A-3d・9e・10d・10e	N-36°-E	3間 (西側: 5.4) (東側: 5.3)	2間 (北側: 3.6) (南側: 3.5)	198	掘立柱建物5→掘立柱建物6・9 Po27・30出土
掘立柱建物5c	掘柱建物	6A-3d・9e・10d・10e	N-40°-E	3間 (西側: 5.9) (東側: 5.2)	2間 (北側: 3.9) (南側: 3.6)	250	掘立柱建物5→掘立柱建物9
掘立柱建物5d	掘柱建物	6A-3d・9e・10d・10e	N-41°-E	3間 (西側: 5.1) (東側: 5.5)	2間 (北側: 3.9) (南側: 3.6)	215	掘立柱建物5→掘立柱建物9 Po25出土
掘立柱建物6	掘柱建物	6A-3d	N-22°-E	2間 (西側: 2.7) (東側: 2.6)	1間 (北側: 2.3) (南側: 2.4)	67	掘立柱建物5→掘立柱建物6
掘立柱建物7a	掘柱建物	6A-3e・8d・9c・9d	N-33°-E	3間 (西側: 5.3) (東側: 5.6)	2間 (北側: 3.9) (南側: 4.4)	246	Po24出土
掘立柱建物7b	掘柱建物	6A-3e・8d・9c・9d	N-29°-E	3間 (西側: 5.7) (東側: 5.9)	2間 (北側: 4.2) (南側: 4.4)	260	Po24・45出土
掘立柱建物7c	掘柱建物	6A-3e・8d・9c・9d	N-29°-E	3間 (西側: 5.7) (東側: 5.9)	2間 (北側: 4.3) (南側: 4.4)	260	Po24・42出土
掘立柱建物8	掘柱建物	6A-3e・10d・7A-3e・1F	N-25°-E	2間 (西側: 4.2) (東側: 4.0)	2間 (3.1)	130	掘立柱建物8→掘立柱建物2 Po25出土
掘立柱建物9	超柱建物	6A-3d・10e	N-15°-E	2間 (2.5)	2間 (2.2)	58	超柱建物5→掘立柱建物9
掘立柱建物10	掘柱建物	7A-3e	N-43°-E	3間 (4.6)	2間 (3.0)	138	掘立柱建物10→掘立柱建物10 Po27・Se 1出土
掘立柱建物11	掘柱建物	6A-3c・8d	N-15°-E	2間 (西側: 4.5) (東側: 4.9)	2間 (北側: 3.6) (南側: 3.4)	176	CP7・6出土
掘立柱建物12a	掘柱建物	6A-3c・8d・8c	N-31°-E	3間 (西側: 5.5) (東側: 5.4)	2間 (北側: 4.5) (南側: 4.7)	273	掘立柱建物12→掘立柱建物12 Po27・32・54出土
掘立柱建物12b	掘柱建物	6A-3c・8d・8c	N-31°-E	3間 (西側: 5.9) (東側: 6.6)	2間 (北側: 4.8) (南側: 4.7)	310	掘立柱建物12→掘立柱建物12 Po27・53出土
掘立柱建物13	超柱建物?	6A-4b・5b	N-27°-W (N-29°-E)	3間 (3.2)	1間 (1.1) (1.63L)	8311.1	超柱側の一部は鉄筋敷のため未調査
掘立柱建物14	掘柱建物	6A-3c・7d	N-28°-E	2間 (西側: 4.2) (東側: 4.3)	2間 (北側: 3.3) (南側: 3.2)	142	Po25・57出土
掘立柱建物15	掘柱建物	6A-3c・6d・7d	N-30°-E	2間 (西側: 4.6) (東側: 4.7)	2間 (北側: 3.3) (南側: 3.6)	169	掘立柱建物26→掘立柱建物15
掘立柱建物16	掘柱建物	6A-4d・6e	N-44°-E	3間 (西側: 4.4) (東側: 4.5)	1間 (北側: 3.1) (南側: 3.3)	149	超立柱建物5→掘立柱建物16 Po26出土
掘立柱建物17a	掘柱建物	6A-4e・6f・7e・7f	N-22°-E	3間 (3.2)	2間 (北側: 3.4) (南側: 3.5)	130	
掘立柱建物17b	掘柱建物	6A-4e・6f・7e・7f	N-22°-E	3間 (西側: 3.5) (東側: 3.6)	2間 (北側: 3.1) (南側: 3.5)	133	
掘立柱建物17c	掘柱建物	6A-4e・6f・7e・7f	N-19°-E	3間 (西側: 3.5) (東側: 3.6)	2間 (北側: 3.6) (南側: 3.8)	144	CP7出土
掘立柱建物17d	掘柱建物	6A-4e・6f・7e・7f	N-19°-E	3間 (西側: 3.5) (東側: 4.0)	2間 (北側: 3.6) (南側: 3.8)	132	Po26出土
掘立柱建物18	掘柱建物	6A-7d・8d	N-20°-E	2間 (西側: 4.2) (東側: 4.2)	1間 (2.5)	105	要記する柱穴の列の2種なり
掘立柱建物19	掘柱建物	7A-3e	N-49°-E	3間 (西側: 3.7) (東側: 4.1)	1間 (1.1) (1.63L) (南側: 2.33L)	9811.1	掘立柱建物19→掘立柱建物10 Po26出土
掘立柱建物20	掘柱建物	6A-7b・7c・8b・8c	N-26°-E	3間 (西側: 4.7) (東側: 4.5)	2間 (北側: 3.5) (南側: 3.1)	165	掘立柱建物20→掘立柱建物12・21 Po26・42出土

第8表 挖立柱建物計測表（2）

建物名	建物区分	地区T45-H	王極方位	規格 (m)		面積 (m ²)	備考
				幅 (m)	奥行 (m)		
掘立柱建物21	無柱建物	6.47b・7c	N-22°・E	4間 (西側: 5.5) (東側: 5.4)	3間 (北側: 3.8) (南側: 3.7)	20.8	掘立柱建物20→掘立柱建物21 Pn62, CP8出土
掘立柱建物22	無柱建物	6.4.6a・6b	N-59°・E	3間 (西側: 5.8) (東側: 5.4)	2間 (4.2)	24.4	Pn64, 65出土
掘立柱建物23	無柱建物	6.4.5b	N-16°・E	2間 (西側: 2.6) (東側: 2.4)	2間 (北側: 2.3) (南側: 2.3)	6.5	掘立柱建物20→掘立柱建物33 Pn66, 67出土
掘立柱建物24	無柱建物	6.4.2・5a, 6f-5j	N-45°・E	2間 (西側: 4.3) (東側: 4.5)	1間 (北側: 2.8) (南側: 2.7)	12.6	
掘立柱建物25a	無柱建物	6.4.4a・4b	N-59°・E	2間 (上: 3.33L上) (下: 3.33L下)	1.5間 (2.3m) (北側: 4.4) (南側: 4.4)	145.0L上 掘立柱建物25b Pn69, CP9出土	
掘立柱建物25b	無柱建物	6.4.4b・4b	N-59°・E	2間 (上: (北西側: 2.11L上) (南西側: 2.06L上))	3間 (北側: 4.5) (南側: 4.4)	140.0L上 Pn69出土	
掘立柱建物26	無柱建物	6.5.0b・5c・6b・6c	N-34°・E	3間 (西側: 4.6) (東側: 4.7)	1間 (北側: 2.6) (南側: 2.7)	17.4	掘立柱建物27と重複 Pn65, 71出土
掘立柱建物27	無柱建物	6.5.5c・6c	N-21°・E	2間 (西側: 3.3) (東側: 3.2)	1間 (北側: 2.2) (南側: 2.3)	8.2	掘立柱建物26と重複
掘立柱建物28	無柱建物	6.5.6c・6d・7d	N-33°・E	3間 (西側: 5.2) (東側: 5.3)	2間 (北側: 2.8) (南側: 3.3)	21.5	掘立柱建物26→掘立柱建物15
掘立柱建物29	無柱建物	6.5.5d・5e	N-38°・E	2間 (2.5)	1間 (2.2)	5.5	
掘立柱建物30	無柱建物	6.5.4d	N-22°・E	2間 (西側: 3.5) (東側: 3.6)	2間 (北側: 2.3) (南側: 2.2)	8.3	Se2出土
掘立柱建物31	無柱建物	6.5.5e・6e	N-26°・E	3間 (西側: 4.3) (東側: 4.7)	2間 (北側: 3.3) (南側: 3.3)	15.5	掘立柱建物27と112同時層 Pn72出土
掘立柱建物32	無柱建物	6.5.5e・6e	N-31°・E	3間 (西側: 4.7) (東側: 4.8)	2間 (北側: 3.4) (南側: 3.5)	16.8	掘立柱建物28と112同時層 並立柱建物の可能性 Pn72出土
掘立柱建物33a	無柱建物	6.4.4b・5b	N-50°・E	3間 (西側: 6.9) (東側: 6.7)	2間 (3.4)	26.2	掘立柱建物25→掘立柱建物33
掘立柱建物33b	無柱建物	6.4.4b・5b	N-50°・E	3間 (7.1)	2間 (3.8)	27.0	掘立柱建物25→掘立柱建物33
掘立柱建物33c	無柱建物	6.4.4b・5b	N-52°・E	3間 (7.2)	2間 (北側: 3.8) (南側: 3.8)	28.1	掘立柱建物25→掘立柱建物33
掘立柱建物33d	無柱建物	6.4.4b・5b	N-52°・E	3間 (7.3) (東側: 7.2)	2間 (北側: 3.7) (南側: 3.8)	27.7	掘立柱建物25→掘立柱建物33
掘立柱建物34a	-	6.5.7a	N-26°・E	3間 (5.2)	-	-	Pn54出土
掘立柱建物34b	-	6.5.7a	N-29°・E	3間 (3.2)	-	-	
掘立柱建物35	-	6.5.7a・7b・8b	N-37°・E	4間 (7.7)	-	-	Pn75-78出土
掘立柱建物36	-	6.4.4b・9c	N-32°・E	1間 (3.2)	-	-	
掘立柱建物37	-	6.4.4b・9c	N-36°・E	3間 (4.2)	-	-	Pn64出土
掘立柱建物38	-	6.4.10c	N-24°・E	2間 (3.3)	-	-	
掘立柱建物39	-	6.4.10c・10d	N-29°・E	3間 (5.4)	-	-	
掘立柱建物40a	-	6.4.10c・10d, 7A-M	N-26°・E	3間 (5.3)	-	-	
掘立柱建物40b	-	6.4.10c・10d, 7A-M	N-33°・E	3間 (5.3)	-	-	
掘立柱建物41	無柱建物	6.5.4b・4c	N-42°・E	2間 (西側: 2.6) (東側: 2.3)	2間 (北側: 1.7) (南側: 1.5)	4.4	
掘立柱建物42	無柱建物	6.5.5a・6a	N-2°・E	2間 (西側: 2.1) (東側: 2.0)	1間 (北側: 1.8) (南側: 1.6)	3.8	



P1

- 1 IOYR2/1 黒色 シルト (縹り弱い)
- 2 IOYR2/2 黒褐色 中砂混シルト (往 5mm 以下の地山ブロック少混)
- 3 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト (往 2cm 以下の地山ブロック多混)
- 4 IOYR3/2 黑褐色 シルト

P2

- 1 IOYR2/1 黒色 シルト (縹りやや弱い)、往 1cm 程の地山ブロック少混
- 2 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト (縹りやや弱い)、往 5mm 程の地山ブロック少混

P3

- 1 IOYR2/1 黒色 シルト (縹りやや弱い)、往 5mm 程の地山ブロック少混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト (往 1cm 以下の地山ブロック混)
- 3 IOYR3/2 黑褐色 粘結混シルト (往 3mm 以下の地山ブロック多混)
- 4 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト (往 5mm 程の地山ブロック混)

P4

- 1 IOYR2/1 黒色 シルト (縹りやや弱い)、往 1 ~ 6cm の地山ブロック混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト

P5

- 1 IOYR2/1 黒色 シルト (縹り弱い)、往 5mm 以下の地山ブロック少混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト (往 1cm 以下の地山ブロック混)
- 3 IOYR3/2 黑褐色 中砂混シルト (往 3mm 以下の地山ブロック少混)

P6

- 1 IOYR2/1 黒色 シルト (縹りやや弱い)、往 1cm 程の地山ブロック少混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト (往 1cm 程の地山ブロック少混)
- 3 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト (往 1cm 以下の地山ブロック多混)
- 4 IOYR3/2 黑褐色 シルト (往 5mm 以下の地山ブロック混)

P7

- 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)、往 2cm 程の地山ブロック混)

P8

- 1 IOYR2/2 黑褐色 シルト (縹り弱い)、往 1cm 程の地山ブロック少混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト (往 2cm 以下の地山ブロック多混)

- 3 IOYR3/2 黑褐色 細~中砂混シルト (往 2cm 以下の地山ブロック多混)

P9

- 1 IOYR2/2 黒褐色 中砂混シルト (往 3mm 以下の地山ブロック混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト (往 3cm 以下の地山ブロック多混)
- 3 IOYR2/2 黑褐色 シルト

P10

- 1 IOYR2/1 黑褐色 シルト (縹り弱い)、往 2cm 以下の地山ブロック多混)
- 2 IOYR2/1 黑褐色 シルト (往 1cm 以下の地山ブロック少混)
- 3 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い)

P11

- 1 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト (往 3mm 以下の地山ブロック少混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト (往 1cm 以下の地山ブロック多混)

P12

- 1 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト (往 3mm 以下の地山ブロック少混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト (往 1cm 以下の地山ブロック多混)

P13

- 1 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト (往 3mm 以下の地山ブロック少混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト (往 1cm 以下の地山ブロック多混)

- 3 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト (往 1cm 以下の地山ブロック少混)
- 4 IOYR3/2 黑褐色 中砂混シルト (粘性やや弱い)、往 1 ~ 2cm 程の地山ブロック多混)

- 5 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト (往 1cm 以下の地山ブロック少混)
- 6 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト (往 1cm 以下の地山ブロック少混)

- 7 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト (往 1cm 以下の地山ブロック少混)
- 8 ピット

- 1 IOYR3/2 黑褐色 中砂混シルト (往 1cm 程度の地山ブロック混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト

- 16 ピット
- 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)

- 37 ピット
- 1 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト

- 2 IOYR2/2 黑褐色 細~中砂混シルト

第38図 挖掘柱建物1

第9表 挖立柱建物1遺構計測表

柱穴							柱間寸法(横行軸長)							柱間寸法(縦行軸長)						
No.	規格(cm)	柱頭の標高(cm)	柱脚の標高(cm)	柱脚底面積(cm ²)	柱のあたりの直径(cm)	調査時遺構名	備考	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	
P-1	56	49	28	55.15	—	—	2ピット	P-1-P9	4.9	P-5-P6	5.2	P-7-P8	0.4	P-9-P10	4.4	P-11-P12	4.4	P-13-P14	4.4	
P-2	64	53	37	55.05	—	5	3ピット	P-2-P10	4.4	P-3-P4	4.2	P-4-P12	2.9	P-11-P12	4.4	P-13-P14	4.4			
P-3	53	50	34	55.00	—	5	3ピット	P-3-P10	4.4	P-4-P12	2.9	P-11-P12	4.4	P-13-P14	4.4					
P-4	42	26	23	55.14	—	7	5ピット	P-4-P12	2.9	P-11-P12	4.4	P-13-P14	4.4							
P-5	60	54	29	55.11	—	5	3ピット	P-5-P10	4.4	P-7-P8	1.8	P-1-P2	2.8	P-3-P4	4.2	P-5-P6	4.4			
P-6	42	41	29	55.09	—	7	6ピット	P-6-P12	2.9	P-8-P9	2.1	P-2-P3	1.5	P-4-P5	1.5	P-6-P7	0.9			
P-7	49	46	9	55.30	—	—	7ピット	P-7-P8	1.8	P-9-P10	1.8	P-3-P4	1.4	P-5-P6	1.2	P-7-P8	1.2	P-9-P10	1.8	
P-8	51	48	16	55.25	—	—	7ピット	P-8-P9	1.8	P-10-P11	1.8	P-11-P12	1.5	P-12-P13	1.5	P-13-P14	1.3			
P-9	46	39	25	55.12	—	—	10ピット	P-9-P10	1.8	P-11-P12	1.5	P-12-P13	1.5	P-13-P14	1.3					
P-10	46	43	16	55.23	—	—	11ピット	P-10-P11	1.8	P-12-P13	1.5	P-13-P14	1.2	P-11-P12	1.8	P-12-P13	1.5			
P-11	52	49	18	55.23	—	—	10ピット	P-11-P12	1.8	P-12-P13	1.5	P-13-P14	1.2	P-11-P12	1.8	P-12-P13	1.5			
P-12	67	60	20	55.21	—	—	9ピット	P-12-P13	1.8	P-13-P14	1.2	P-14-P15	1.2	P-15-P16	1.2	P-17-P18	1.2			
P-13	51	47	34	55.07	—	12	24ピット	P-13-P14	1.8	P-14-P15	1.2	P-15-P16	1.2	P-16-P17	1.2	P-17-P18	1.2			
P-14	48.11	13.01	10	55.31	—	—	10ピット	P-14-P11	1.8	P-12-P13	2.1	P-13-P14	1.2	P-14-P15	1.2	P-15-P16	1.2			
裏面ピット							柱間寸法(横行軸長)							柱間寸法(縦行軸長)						
No.	規格(cm)	柱頭の標高(cm)	柱脚の標高(cm)	柱脚底面積(cm ²)	柱のあたりの直径(cm)	調査時遺構名	備考	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	
8.15×3	27	24	15	55.25	—	—	8ピット	P-8-P9	1.6	P-9-P10	1.6	P-10-P11	1.6	P-11-P12	1.6	P-12-P13	1.6	P-13-P14	1.6	
12.17×3	29	18.01	10	55.29	—	—	12ピット	P-12-P13	1.6	P-13-P14	1.6	P-14-P15	1.6	P-15-P16	1.6	P-16-P17	1.6	P-17-P18	1.6	
16.17×3	23	18.01	8	55.33	—	—	16ピット	P-16-P17	1.6	P-17-P18	1.6	P-18-P19	1.6	P-19-P20	1.6	P-20-P21	1.6	P-21-P22	1.6	
27.17×3	27	24	20	55.18	—	—	27ピット	P-27-P28	1.6	P-28-P29	1.6	P-29-P30	1.6	P-30-P31	1.6	P-31-P32	1.6	P-32-P33	1.6	

掘立柱建物1 (第38図、第7・9表、図版22~25・30)

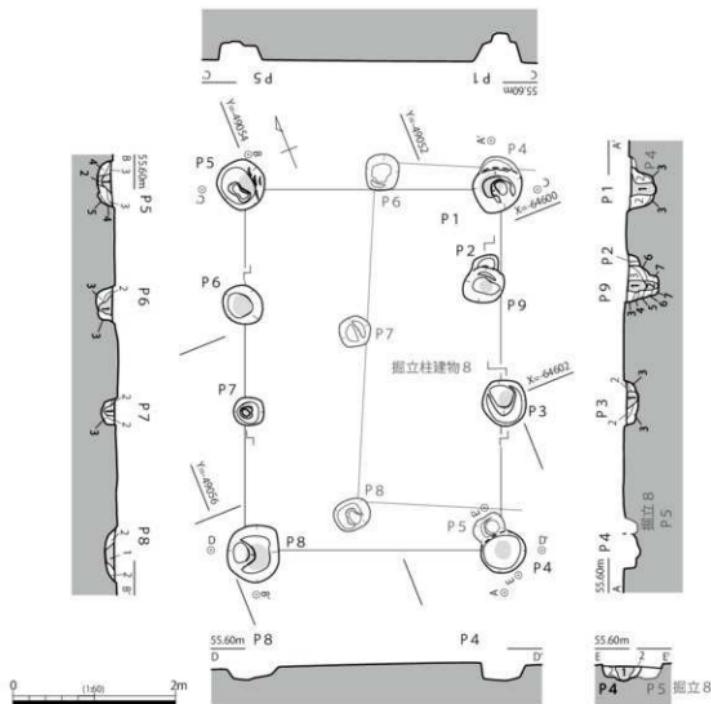
1区7A-1e・1f・2e・2fグリッドにおいて、表土掘削後、Ⅲ層上面で検出した。桁行3間(5.1m)、梁行3間(4.0m)の側柱建物である。主軸はN-25°-Eにとり、平面積は20.4m²を測る。柱筋はP-7が北側の梁筋から外れるなど通りが悪く、柱間寸法は桁筋が0.9~2.6m、梁筋は1.2~1.4mである。柱穴の平面形は円形または隅丸方形状のものがある。柱穴の規格は長軸42~67cm、短軸36~60cmを測る。柱穴底面の標高は55.05~55.31mと幅がある。柱はいずれも抜き取られており、柱のあたりの径は5~12cmを測る。P-2~3間に検出したP-13は本建物の柱穴と同規模であり、南東側桁筋上に位置することから、本建物を構成する柱穴と考える。その場合、補助的な柱、または補修された際の柱などの可能性が考えられる。P-14はP-11と重複しており、これについても部分的な補修が行なわれた可能性を想定している。

なお、本建物の柱穴に重複する遺構として、8・12・16・37ピットを検出している。いずれも規模が小さく、埋土は単層で柱の痕跡が認められない小穴で、性格は不明である。本建物周辺には不規則な並びの小穴がみつかっており、8・12・16・37ピットもこれらと同様のものと考えられ、本建物を構成する柱穴である可能性は低いと考える。

出土遺物がなく、本建物の詳細な時期は不明であるが、他の掘立柱建物との関連から古代に属すると考えられる。

掘立柱建物2 (第39・40・41図、第7・10・60表、図版22~25・30・93)

1区6A-10f、7A-1fグリッドにおいて、表土掘削後、Ⅲ層上面で検出した。桁行3間(4.6m)、梁行1間(3.1m)の側柱建物である。主軸はN-22°-Eにとり、平面積は13.6m²を測る。柱間寸法は桁筋が0.9~1.9mを測り、P-3~4間、P-7~8間の間隔が広い。柱筋はP-2・9が建物内側にずれるなど、南東側桁筋の通りが悪い。P-2・9は重複しており、部分的な補修が行なわれた可能性が考えられる。



P1

- 1 10YR2/1 黒褐色 シルト (縹りやや弱い)、径 1cm以下の地山ブロック少混)
 2 10YR2/2 黑褐色 シルト (径 2cm 程の層層ブロック混)
 3 10YR3/2 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い)、径 1cm 程の地山ブロック多混)

P8

- 1 10YR2/1 黒色 中砂混シルト (縹りやや弱い)
 2 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (径 5mm 以下の地山ブロック少混)

P2

- 1 10YR3/1 黑褐色 中砂混シルト

P9

- 1 10YR2/1 黒色 シルト (縹りやや弱い)、径 1cm以下の地山ブロック少混)
 2 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い)、径 2cm以下の地山ブロック多混)
 3 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)
 4 10YR2/1 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)
 5 10YR3/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)、径 3cm以下の地山ブロック多混)
 6 10YR3/2 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い)、径 3cm以下の地山ブロック混)
 7 10YR3/1 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い)、径 1cm以下の地山ブロック混)

P3

- 1 10YR2/1 黒色 シルト (縹り弱い)、径 5mm以下の地山ブロック少混)
 2 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)、径 1cm以下の地山ブロック少混)
 3 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)、径 1cm以下の地山ブロック多混)

P4

- 1 10YR2/1 黒色 シルト (縹り弱い)、径 5mm以下の地山ブロック少混)
 2 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)、径 5mm以下の地山ブロック少混)

P5

- 1 10YR2/1 黒色 シルト (縹り弱い)
 2 10YR2/1 黒色 シルト (縹りやや弱い)、径 1cm 程の地山ブロック混)
 3 10YR2/1 黑褐色 シルト (縹り弱い)
 4 10YR3/1 黑褐色 シルト (径 5mm 程の地山ブロック少混)
 5 10YR3/2 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い)、径 5mm 程の地山ブロック多混)

P6

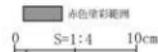
- 1 10YR2/1 黑色 シルト (縹り弱い)
 2 10YR2/1 黑色 シルト (縹りやや弱い)、径 1cm 程の地山ブロック少混)
 3 10YR3/2 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い)、径 1cm以下の地山ブロック多混)

P7

- 1 10YR2/1 黑色 シルト (縹り弱い)
 2 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い)、径 1cm 程の地山ブロック混)
 3 10YR3/2 黑褐色 シルト

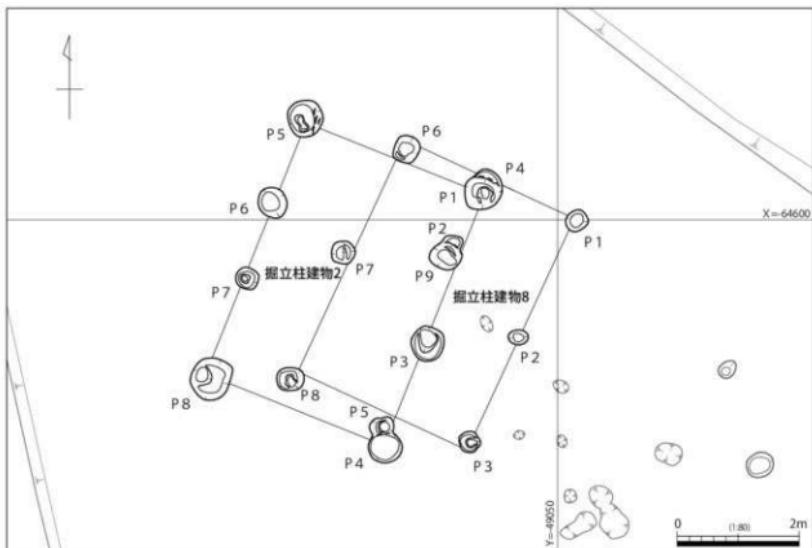


Po29



第40図 挖立柱建物2出土土器師坏

第39図 挖立柱建物2



第41図 掘立柱建物2・8位置図

第10表 掘立柱建物2遺構計測表

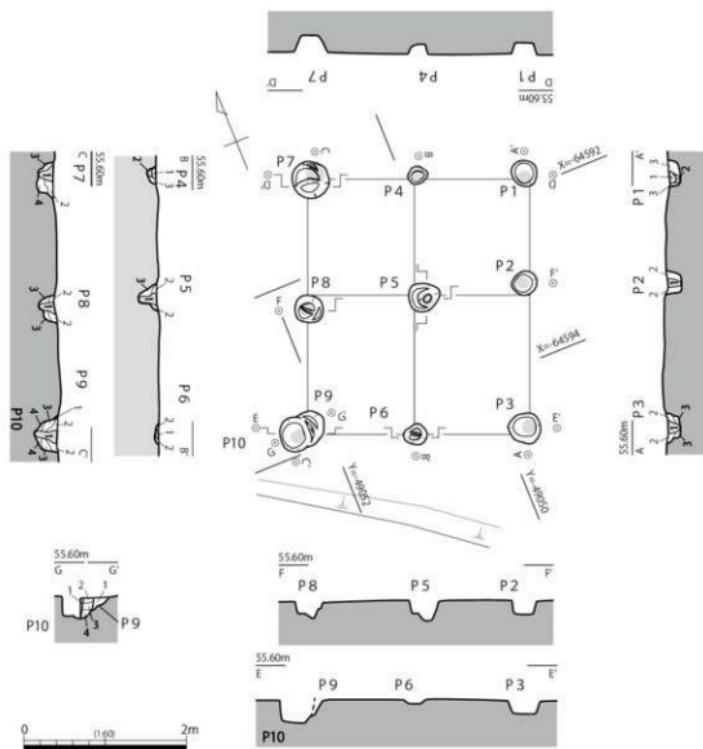
No.	実測 (cm)			底面の標高 (m)	柱頭部直径 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	調査地遺構名	備考	柱間寸法 (航行船系)		柱間寸法 (航船方向)	
	長軸	短軸	深さ						No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P1	70	39	35	55.02	—	12	17ピット	P2-P9	P1-P4	4.4	P1-P2	0.9
P2	31	16.5	18	55.21	—	—	32ピット	P2-P9	P5-P8	4.6	P1-P9	1.2
P3	37	34	17	55.24	—	10	19ピット	P2-P9	P2-P3	1.7	P3-P4	1.9
P4	55	48	20	55.20	—	10	20ピット	掘立柱建物8 P5→P4	P3-P4	1.9	P3-P4	1.9
P5	60	27	20	55.15	—	13	22ピット	掘立柱建物8 P5→P4 施設時の工具痕跡あり	P3-P9	1.2	P5-P6	1.5
P6	53	46	23	55.15	—	8	23ピット	P5-P6	P2-P6	3.0	P6-P7	1.2
P7	37	24	18	55.20	—	9	24ピット	P7-P8	P7-P8	3.2	P4-P8	3.1
P8	70	41	15	54.94	—	—	25ピット	P6-P9	P6-P9	3.0		
P9	48	45	41	54.99	—	6	18ピット					

また、P1・4は後述する掘立柱建物8のP4・5と重複し、本建物が後出することを確認している。柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、柱穴の規模は長軸31~70cm、底面の標高は54.99~55.24mを測る。P5の壁面には工具による掘削痕跡が確認できる。

遺物は、団化したPo29がP1の埋め土から出土したほかは、土師器および須恵器の細片のみであった。Po29は赤色土師器の坏である。体部下半が内湾気味となり口縁端部が外反する。内外面赤色塗彩がなされ、外面はミガキが顕著である。

本建物の帰属時期は、出土遺物から判断し、7世紀末から8世紀前半と考えられる。

なお、本建物と掘立柱建物3・4・6は主軸がほぼ同じであり、掘立柱建物2~4にいたっては、建物の梁筋と梁筋の間隔がほぼ5mであることから、同時期に規則的な配置のもと造営されたものと考える。



- P1
 1 10YR2/1 黒褐色 シルト (縹り弱い)
 2 10YR2/2 黒褐色 シルト (縹り弱い、径 2mm 以下の地山ブロック少混)
 3 10YR2/2 黒褐色 中砂混 シルト (径 2mm 以下の地山ブロック混)
- P2
 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縹り弱い、細礫少混)
 2 10YR2/2 黑褐色 シルト (径 5mm 程の地山ブロック混)
- P3
 1 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹り弱い、往 2mm 以下の地山ブロック少混)
 2 10YR3/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い、往 1cm 以下の地山ブロック少混)
 3 10YR3/3 黑褐色 シルト (縹りやや弱い、往 0.5 ~ 2cm 程の地山ブロック多混)
- P4
 1 10YR2/1 黑褐色 シルト (縹り弱い)
 2 10YR3/2 黑褐色 シルト (縹り弱い、往 3mm 程の地山ブロック多混)
 3 10YR2/2 黑褐色 シルト
- P5
 1 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹り弱い)
 2 10YR3/2 黑褐色 シルト (縹り弱い)
 3 10YR2/1 黑褐色 シルト (往 1cm 以下の地山ブロック混)
- P6
 1 10YR3/2 黑褐色 シルト (縹り弱い)
 2 10YR3/2 黑褐色 シルト (往 5mm 程の地山ブロック・異質ブロック混)
 3 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹り弱い、往 5mm 以下の地山ブロック多混)
 4 10YR3/3 黑褐色 シルト
- P7
 1 10YR3/2 黑褐色 シルト (縹り弱い、往 5mm 以下の地山ブロック混)
 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (縹り弱い)
- P8
 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縹りやや弱い、往 1cm 以下の地山ブロック少混)
 2 10YR3/2 黑褐色 シルト (往 2mm 以下の地山ブロック少混)
- P9
 1 10YR5/3 にふい黒褐色 シルト (往 2mm 以下の地山ブロック多混)
- P10
 1 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹り弱い)
 2 10YR3/2 黑褐色 シルト (往 5mm 程の地山ブロック・異質ブロック混)
 3 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹り弱い、往 5mm 以下の地山ブロック多混)
 4 10YR3/3 黑褐色 シルト

第42図 挖立柱建物3

掘立柱建物3 (第42・43図、第7・11・60表、図版22・25・28~30・93)

1区6A-10e・10fグリッドにおいて、表土掘削後、IV層上面で検出した。桁行2間(3.2m)、梁行2間(2.8m)の総柱建物である。主軸はN=22°-Eにとり、平面積は8.7m²を測る。柱筋はP2-P8間を除き、通りがよい。柱間寸法は桁筋が1.3~1.8m、梁筋は1.2~1.5mである。柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、規模は長軸25~46cm、短軸22~44cmを測る。柱穴底面の標高は54.90~55.14mと幅がある。柱は全て抜き取られており、柱のあたりの径は5~8cmを測る。P9はP10と重複しており、部分的な補修が行われた可能性が考えられる。

出土遺物はP10埋土から出土したPo30のみである。Po30は平底で外反気味に体部が立ち上がる赤彩土器の坏もしくは皿である。

本建物の帰属時期は、出土遺物と周辺の遺構の検出状況から判断し、7世紀末から8世紀前半と考えられる。



第43図 掘立柱建物3出土土器

第11表 掘立柱建物3遺構計測表

柱穴						
No.	直径 (cm)	堀廻の直径 (cm)	柱間の柱筋 (cm)	柱筋跡面積 (cm ²)	柱のあたり (cm)	調査時遺構名
P1	32	21	13	550.0	—	—
P2	31	20	21	550.0	—	—
P3	40	28	18	550.0	8	73ビット
P4	25	22	11	550.0	—	73ビット
P5	39	26	25	549.0	—	77ビット
P6	28	26	5	551.4	—	78ビット
P7	46	44	23	543.0	—	79ビット
P8	36	34	23	549.5	—	80ビット
P9	40.11.1	40	14	550.0	—	82ビット (P9→P10)
P10	43	40	28	549.0	—	81ビット

柱間寸法 (桁行範囲)		柱間寸法 (梁行範囲)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P1-P2	2.1	P1-P7	2.8
P1-P6	2.2	P2-P6	2.7
P7-P9	3.1	P3-P9	2.7
P7-P10	3.2	P3-P10	2.8

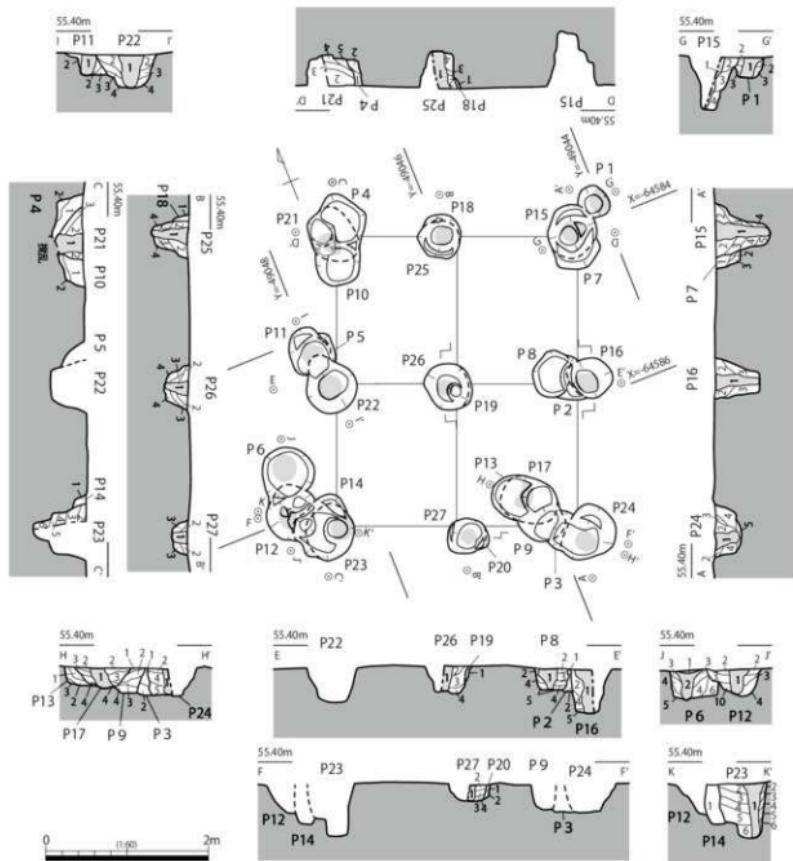
柱間寸法 (横筋方向)		柱間寸法 (梁筋方向)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P1-P2	1.3	P1-P4	1.3
P2-P3	1.8	P2-P5	1.2
P3-P4	1.8	P3-P6	1.4
P5-P6	1.6	P5-P7	1.2
P7-P8	1.6	P5-P8	1.5
P8-P9	1.5	P6-P9	1.4
P8-P10	1.6	P6-P10	1.4



写真7 掘立柱建物2~4・6・8 (俯瞰)

掘立柱建物4 (第44~46図、第7・12・60表、図版22・30~32・93)

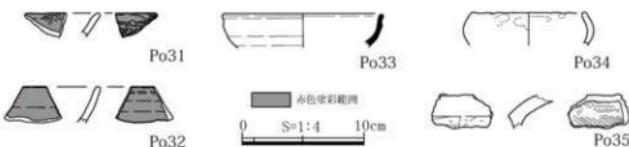
1区6A-9eグリッドにおいて、表土掘削後、IV層上面で検出した掘立柱建物である。本建物は建物を構成するすべての柱穴が重複し、2回以上重複している柱穴も多く、建物南東隅にあたる柱穴(P 3・9・13・17・24)に至っては最も多い4回の重複を確認している。これらの柱穴の重複関係や柱筋の通りなどを勘案し、想定される建物の建て替えの変遷案(掘立柱建物4a~4e)をまとめた(第46図)。掘立柱建物4aの主軸はN-28°-E、4b・4cはN-26°-E、4d・4eはN-22°-Eであり、4a~4cと4d・4eではやや軸が異なる。建物中央の柱筋(P 18・25、19・26、20・27)の主軸は4a~cより4d・4eに近いこと、P 18・25、19・26、20・27はいずれも重複回数が2回であることから、これらの柱穴は4dまたは4eを構成する柱穴と判断した。すなわち、本建物は側柱建物(4a~4c)から総柱建物(4d・4e)へと変遷した。



第44図 掘立柱建物4

- P1
 1 IOYR3/2 黒褐色 シルト (繊りや弱い、径 3cm 以下の地山ブロック少混)
 2 IOYR3/2 黒褐色 シルト (繊りやや弱い、径 5mm 以下の地山ブロック少混)
 3 IOYR3/3 黒褐色 シルト (繊りやや弱い)
- P2
 1 IOYR3/1 黒褐色 シルト (径 5mm 程の地山ブロック・田畠ブロック少混)
 2 IOYR2/2 黒褐色 中砂混シルト (繊り弱い、径 2mm 程の地山ブロック混)
- P3
 1 IOYR2/2 黒褐色 シルト (径 3mm 以下の地山ブロック少混)
 2 IOYR3/2 黑褐色 シルト
- P4
 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (径 5mm 程の田畠ブロック少混)
 2 IOYR2/1 黑褐色 シルト (径 1~3cm 程の地山ブロック混)
- P5
 土色注記なし
- P6
 1 IOYR2/2 黑褐色 シルト (径 1~2cm 程の地山ブロック 條多く含、繊り弱い)
 2 IOYR2/1 黑褐色 シルト (繊り弱い)
 3 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 4 IOYR2/2 黑褐色 シルト (径 1cm 以下の地山ブロック少混)
 5 IOYR3/1 黑褐色 中~粗砂混シルト (径 3mm 程の地山ブロック混)
 6 IOYR2/1 黑褐色 シルト
- P7
 1 IOYR3/2 黑褐色 シルト (繊りやや弱い)
 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト
 3 IOYR2/3 黑褐色 シルト (径 5mm 以下の地山ブロック混)
- P8
 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 2 IOYR2/2 黑褐色 中~粗砂混シルト (繊りやや弱い、径 1cm 程の地山ブロック多混)
 3 IOYR2/1 黑褐色 シルト (径 5mm 程の地山ブロック・田畠ブロック少混)
 4 IOYR2/2 黑褐色 シルト (径 1~1.5cm 程の地山ブロック混)
 5 IOYR2/1 黑褐色 シルト (繊りやや弱い)
- P9
 1 IOYR3/2 黑褐色 シルト (繊りやや弱い)
 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト (径 1cm 程の地山ブロック混)
 3 IOYR2/1 黑褐色 シルト
 4 IOYR3/2 黑褐色 中~粗砂混シルト (繊りやや弱い、径 5mm 以下の地山ブロック混)
- P10
 1 IOYR2/2 黑褐色 シルト (径 1~3cm 程の地山ブロック多混)
 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト (径 1~3cm 程の地山ブロック多混)
- P11
 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (繊り弱い)
 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト (繊りやや弱い、径 3mm 程の地山ブロック少混)
 3 IOYR2/2 黑褐色 シルト (繊りやや弱い)
- P12
 1 IOYR3/2 黑褐色 シルト (下位に径 5mm 以下の地山ブロック多混)
 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト
- P13
 1 IOYR3/2 黑褐色 中~粗砂混シルト (径 5mm 以下の地山ブロック混)
 2 IOYR3/3 黑褐色 中~粗砂混シルト (径 1cm 以下の地山ブロック混)
- P14
 1 IOYR3/2 黑褐色 中~粗砂混シルト (繊り弱い、径 0.3~3cm 程の地山ブロック混)
- P15
 1 IOYR3/2 黑褐色 シルト (繊りやや弱い、径 1cm 以下の地山ブロック少混)
 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト (径 1cm 以下の地山ブロック・田畠ブロック少混)
 3 IOYR3/2 黑褐色 シルト (径 5mm 程の地山ブロック少混、繊りやや弱い)
 4 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 5 IOYR3/2 黑褐色 シルト (繊り弱い)
- P16
 1 IOYR2/1 黑褐色 シルト (繊りやや弱い、径 5mm 程の地山ブロック少混)
 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト (径 1cm 以下の地山ブロック少混)
 3 IOYR3/1 黑褐色 シルト (繊り弱い)
 4 IOYR3/1 黑褐色 シルト (径 5mm 以下の地山ブロック混)
 5 IOYR2/1 黑褐色 シルト
- P17
 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (繊り弱い)
 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト (繊りやや弱い、径 1cm 程の地山ブロック少混)
 3 IOYR3/1 黑褐色 中砂混シルト (繊りやや弱い、径 5mm 程の地山ブロック少混)
 4 IOYR2/1 黑褐色 中~粗砂混シルト (径 1~2cm 程の地山ブロック混)
- P18
 1 IOYR3/3 黑褐色 シルト
- P19
 1 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト (径 3mm 程の地山ブロック混)
- P20
 1 IOYR3/2 黑褐色 シルト
 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト (径 1cm 程の地山ブロック混)
- P21
 1 IOYR2/2 黑褐色 シルト (繊り弱い、径 1cm 以下の地山ブロック少混)
 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (径 5mm 以下の地山ブロック少混)
 3 IOYR2/2 黑褐色 シルト (径 1cm 以下の地山ブロック混)
 4 IOYR3/3 黑褐色 中砂混シルト (径 0.5~2cm 程の地山ブロック多混、繊り弱い)
 5 IOYR2/1 黑褐色 シルト
- P22
 1 IOYR2/2 黑褐色 中~粗砂混シルト (繊りやや弱い、径 1cm 以下の地山ブロック混)
 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (径 1~3cm 程の地山ブロック混)
 3 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト (径 5mm 以下の地山ブロック混)
 4 IOYR2/1 黑褐色 中~粗砂混シルト (径 0.5~1cm 程の地山ブロック混)
 5 IOYR3/2 黑褐色 中砂混シルト (径 3mm 程の地山ブロック混)
- P23
 1 IOYR2/1 黑褐色 シルト (繊り弱い、径 1cm 以下の地山ブロック少混)
 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (繊りやや弱い、径 1~2cm 程の地山ブロック混)
 3 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト (径 5mm 以下の地山ブロック混)
 4 IOYR2/1 黑褐色 中~粗砂混シルト (径 3mm 以下の地山ブロック混)
 5 IOYR3/2 黑褐色 シルト (径 1cm 程の地山ブロック混、繊りやや弱い)
- P24
 1 IOYR2/2 黑褐色 中~粗砂混シルト (繊りやや弱い、径 2cm 以下の地山ブロック多混)
 2 IOYR2/1 黑褐色 シルト (繊り弱い、径 2mm 以下の地山ブロック少混)
 3 IOYR3/1 黑褐色 シルト (径 5mm 程の地山ブロック少混)
 4 IOYR2/2 黑褐色 中~粗砂混シルト (径 2cm 以下の地山ブロック多混)
 5 IOYR3/2 黑褐色 シルト (径 1cm 程の地山ブロック混、繊りやや弱い)
- P25
 1 IOYR3/2 黑褐色 シルト (繊り弱い、径 3mm 以下の地山ブロック少混)
 2 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト (繊りやや弱い、径 1cm 以下の地山ブロック混)
 3 IOYR3/2 黑褐色 シルト (繊り弱い)
 4 IOYR2/1 黑褐色 シルト (繊りやや弱い、径 3mm 以下の地山ブロック混)
- P26
 1 IOYR2/1 黑褐色 シルト (繊り弱い)
 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト (径 1cm 以下の地山ブロック混)
 3 IOYR3/2 黑褐色 シルト (繊りやや弱い)
 4 IOYR3/3 黑褐色 中~粗砂混シルト (径 1cm 以下の地山ブロック多混)
- P27
 1 IOYR2/2 黑褐色 シルト (繊り弱い)
 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (繊りやや弱い、径 1cm 程の地山・田畠ブロック混)
 3 IOYR2/1 黑褐色 中砂混シルト (径 1cm 程の地山ブロック混)
 4 IOYR3/2 黑褐色 中~粗砂混シルト (径 1cm 以下の地山ブロック少混)

掘立柱建物 4 土色注記 (第44号土色注記)

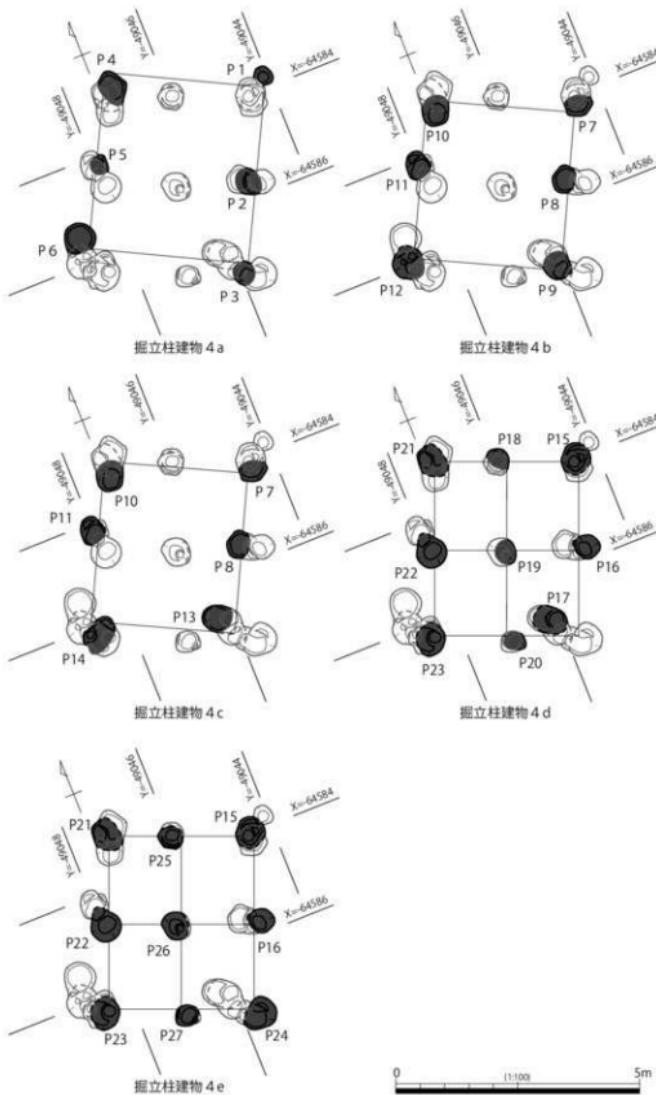


第45図 掘立柱建物 4 出土土器・須恵器

d・4e)へと変遷したものと考える。

なお、本建物の廃絶時期は出土遺物から7世紀末から8世紀前半と考えられる。

以下、4a~4eについて各段階ごとに述べる。



第46図 掘立柱建物 4変遷図

掘立柱建物 4a

P 1～6で構成される。桁行2間(3.9m)、梁行1間(3.6m)の側柱建物であり、平面積は14.8m²を測る。柱筋は柱穴1・3が梁筋からややはずれるものの、桁筋の通りはよい。柱間寸法は桁筋が1.4～2.2mを測り、P 1～2間、P 4～5間の間隔がやや広い。梁筋方向は3.0～3.6mを測り、P 3～6間がやや広い。柱穴の平面形は円形または不整な円形とみられる。柱穴の規模は長軸が最小のもので39cm、最大のものでは75cm以上を測り、柱穴底面の標高は54.73～54.84mである。

遺物はPo35を図化した。Po35はP 6埋土中より出土している。土師器壺の頭部であり、器壁が厚く、「く」の字状に大きく外反する形態をなすものと考える。

掘立柱建物 4b

P 7～12で構成される。桁行2間(3.2m)、梁行1間(3.2m)の側柱建物であり、平面積は10.2m²を測る。柱筋は概ね筋が通る。柱間寸法は南東側桁筋が1.6m、北西側が1.1mと2.1mを測り、P 11～12間の間隔が広い。梁筋は3.0mと3.2mを測り、P 9～12間の間隔が広い。柱穴の平面形は円形または不整な円形とみられる。柱穴の規模は長軸が最小のもので55cm、最大のものでは66cm以上を測り、柱穴底面の標高は54.80～54.86mである。

遺物はPo34を図化した。Po34はP 7埋め土より出土している。口縁部が大きく内湾し、内外面に指オサエの痕跡を残す製塙土器である。

掘立柱建物 4c

P 7・8・13・10・11・14で構成される。桁行2間(3.3m)、梁行1間(3.0m)の側柱建物であり、平面積は9.9m²を測る。柱筋は、P 13・14がやや筋からずれる。柱間寸法は南東側桁筋が1.5mと1.6m、北西側が1.1mと2.2mを測り、P 11～14間の間隔が広い。梁筋は2.7mと3.0mを測る。柱穴の平面形は円形または不整な円形とみられる。柱穴の規模は最大71cmを測り、柱穴底面の標高は54.64～54.91mである。

掘立柱建物 4d

P 15～23で構成される。桁行2間(3.6m)、梁行2間(2.9m)の総柱建物であり、平面積は10.4m²を測る。柱筋は概ね筋が通るが、P 17が建物内側に大きくずれる。柱間寸法は桁筋が1.5～1.9m、梁筋は0.8～1.6mを測り、P 17～20間の間隔が狭い。柱穴の平面形は円形または不整な円形とみられる。確認できる柱穴の規模は最大75cmを測り、柱穴底面の標高は54.43～55.00mである。

遺物はPo33を図化した。Po33はP 15埋土中より出土している。体部下半から口縁部が内湾気味に立ち上がり、端部が短く外反する須恵器壺であり、7世紀末から8世紀前半に比定される。

掘立柱建物 4e

P 15・16・24～27・21～23で構成される。桁行2間(3.7m)、梁行2間(3.1m)の総柱建物であり、平面積は11.5m²を測る。柱間寸法は桁筋が1.8mと1.9m、梁筋は1.3～1.6mを測り、柱筋の通りがいい。柱穴の平面形は円形または不整な円形である。柱穴の規模は長軸47～75cmを測り、柱穴底面の標高は54.43～54.93mである。

遺物はP 26埋土中より出土したPo31・32を図化した。Po31・32は赤彩土師器である。Po31は口縁部が外反する壺もしくは皿である。外面はミガキが施される。Po32は体部から口縁部が内湾気味で立ち上がる壺である。いずれも7世紀末から8世紀前半に比定される。

第12表 挖立柱建物4遺構計測表

4a・4c柱間寸法(軸行方向)								4b・4c柱間寸法(軸筋方向)							
No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)
P-1	39	363.5	26	548.0	-	-	4.0	465.0	-	P-1→P15	P-7	3.2	P-7→P10	3.0	
P-2	26	363.5	28	547.0	-	-	4.0	460.0	-	P-2→P16	P-7	3.1	P-7→P11	2.9	
P-3	47	363.5	35	547.0	-	-	4.0	460.0	-	P-3→P19	P-10	3.2	P-9→P12	2.2	
P-4	52	363.5	32	547.0	-	-	4.0	331.0	-	P-4→P21	P-13	3.3	P-13→P14	2.7	
P-5	60	1013.1	26	548.0	-	-	4.0	106.0	-	P-5→P11	P-7	1.6	P-7→P9	1.6	
P-6	723.5	66	36	547.0	-	-	4.0	111.0	-	P-6→P12	P-8	1.6	P-8→P9	1.6	
P-7	66	365.5	29	548.0	-	-	4.0	4.0	84.0	P-7→P15	P-8	1.5	P-8→P13	1.5	
P-8	57	47	25	548.0	-	-	4.0	4.0	87.0	P-8→P18	P-10	1.1	P-10→P11	1.1	
P-9	56	403.1	30	548.0	-	-	4.0	4.0	90.0	P-9→P17	P-11	2.1	P-11→P12	2.1	
P-10	55	472.1	30	548.0	-	-	4.0	4.0	102.0	P-10→P21	P-11	2.2	P-11→P14	2.2	
P-11	55	55	26	548.0	-	-	4.0	4.0	105.0	P-11→P14	P-12	2.2	P-12→P13	2.2	
P-12	60	65	31	548.0	-	-	4.0	4.0	110.0	P-12→P14	P-13	2.2	P-13→P14	2.2	
P-13	56	403.1	29	548.0	-	-	4.0	4.0	92.0	P-13→P17	P-14	2.2	P-14→P15	2.2	
P-14	71	36	49	546.4	-	-	4.0	329.0	-	P-14→P14	P-15	1.9	P-15→P17	1.9	
P-15	65	60	67	544.3	-	-	4.0	4.0	83.0	P-15→P15	P-16	2.7	P-16→P16	2.7	
P-16	50	50	54	545.7	-	-	4.0	4.0	86.0	P-16→P16	P-17	3.7	P-17→P20	3.7	
P-17	70	55	25	548.0	-	-	4.0	4.0	91.0	P-17→P17	P-18	3.7	P-18→P22	3.7	
P-18	50	27	10	550.0	-	-	4.0	4.0	96.0	P-18→P25	P-19	2.6	P-19→P27	2.7	
P-19	471.5	24	18	549.5	-	-	4.0	4.0	100.0	P-19→P26	P-20	1.8	P-20→P20	1.8	
P-20	363.5	203.1	20	549.4	-	-	4.0	4.0	99.0	P-20→P27	P-21	1.8	P-21→P22	1.8	
P-21	70	55	29	547.4	-	-	4.0	4.0	100.0	P-21→P21	P-22	1.8	P-22→P22	1.8	
P-22	75	63	40	547.0	-	-	4.0	4.0	104.0	P-22→P22	P-23	1.8	P-23→P23	1.8	
P-23	71	60	67	546.6	-	-	4.0	4.0	107.0	P-23→P23	P-24	1.8	P-24→P24	1.8	
P-24	71	60	34	547.8	-	-	4.0	4.0	89.0	P-24→P24	P-25	1.8	P-25→P25	1.8	
P-25	52	46	48	546.8	-	-	4.0	4.0	94.0	P-25→P25	P-26	1.9	P-26→P27	1.9	
P-26	57	56	30	548.4	-	-	4.0	4.0	96.0	P-26→P26	P-27	1.9	P-27→P27	1.9	
P-27	47	44	20	549.0	-	-	4.0	4.0	98.0	P-27→P27	P-28	1.8	P-28→P28	1.8	
4a・4b柱間寸法(軸行方向)								4a・4b柱間寸法(軸筋方向)							
No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)
P-1-P-3	39	P-1-P-2	2.2	P-1-P-4	3.1	P-25-P-26	1.9	P-25-P-27	1.8	P-15-P-16	1.8	P-15-P-18	1.6	P-16-P-19	1.6
P-4-P-6	32	P-2-P-3	1.7	P-2-P-5	2.0	P-26-P-27	1.8	P-16-P-17	1.5	P-16-P-20	1.6	P-17-P-20	1.6	P-18-P-21	1.3
P-4-P-5	1.8	P-4-P-6	1.4	P-3-P-6	3.6	P-18-P-22	1.9	P-19-P-20	1.8	P-19-P-22	1.5	P-20-P-21	1.5	P-21-P-21	1.3
P-2-P-2	1.8													P-22-P-26	1.6
P-23-P-27	1.8													P-23-P-27	1.5
4a・4b柱間寸法(梁筋方向)								4a・4b柱間寸法(梁筋方向)							
No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)
P-15-P-16	1.8	P-16-P-17	1.5	P-16-P-20	1.6	P-21-P-25	1.6	P-21-P-26	1.6	P-22-P-26	1.6	P-23-P-27	1.5	P-23-P-27	1.5
P-16-P-18	1.6	P-17-P-20	1.5	P-17-P-22	1.5	P-22-P-26	1.6	P-24-P-24	1.6	P-25-P-25	1.6	P-26-P-26	1.6	P-27-P-27	1.6

掘立柱建物5 (第47~51図、第7・13・60表、図版22・30・33・34・36・92)

1区6A-9d・9e・10d・10eグリッドにおいて、表土掘削後、Ⅲ層上面で検出した側柱建物である。側柱(P 1~24)はすべて重複しており、本建物南隅の側柱(P 4・11・16・23)、西隅の側柱(P 10・13・22・24)では最も多い3回の重複を確認している。これらの柱穴の重複関係をもとに、想定される建物の建て替えの変遷案(掘立柱建物5a~5d)をまとめた(第49図)。

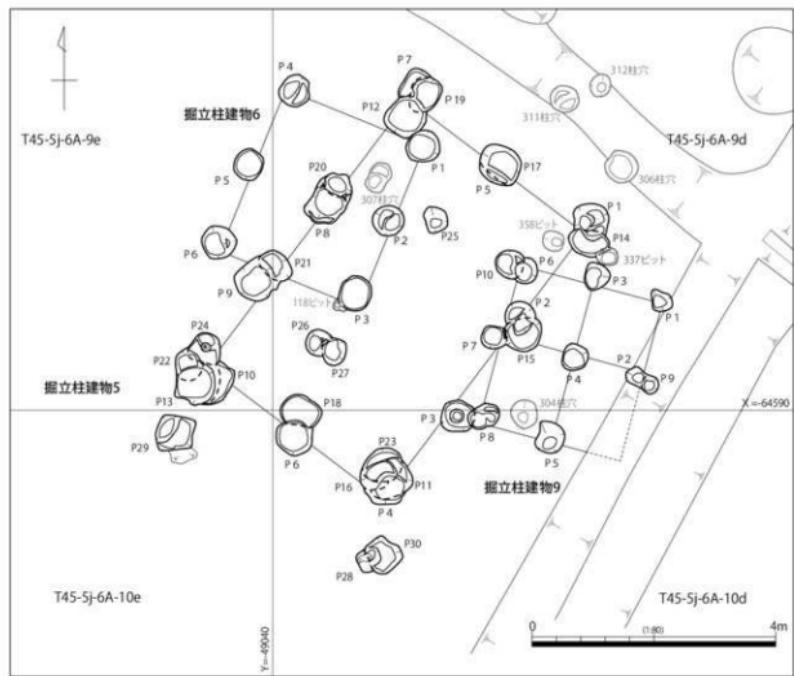
また、側柱のほかに、本建物内部に柱穴3基(P 25~27)、本建物の南西側に柱穴3基(P 28~30)を検出している。P 25~27は両妻柱を結ぶ線上近くに位置し、相対する側柱を結ぶ線上からは外れている。いずれも側柱に対し平面規模がやや劣ることから、床束などの可能性が考えられる。これらの柱穴はどの段階に対応する柱穴であるのか明確にはできなかったため、建物の変遷案においてはすべての段階において明示することとした。P 28~30は5aまたは5b段階の建物の桁筋延長線上近くに位置することを積極的に評価し、この段階の柱穴として扱うこととした。これらの柱穴がどのような機能を有するのかについては、明確にはできていない。

なお、本建物の廃絶時期は、出土遺物から判断し、7世紀後半と考えられる。

以下、5a~5dについて各段階ごとに述べる。

掘立柱建物5a

P 1~10で構成される。桁行3間(5.9m)、梁行2間(3.8m)の建物であり、身舎の平面積は22.4m²を測る。主軸はN-37°-Eである。柱間寸法は桁筋が1.5~2.5m、梁筋は1.5~2.0mを測り、柱筋の通りは比較的よい。P 1~10の平面形は円形または不整な円形を呈し、規模は長軸50~72cmを測り、柱穴



第47図 掘立柱建物5・6・9位置図

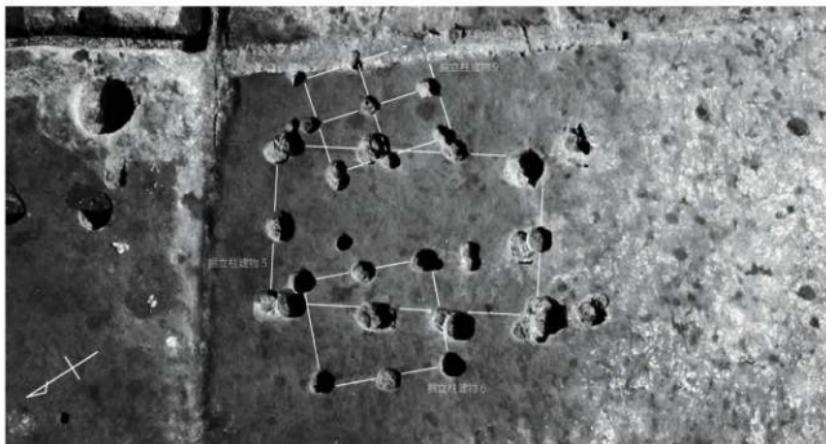
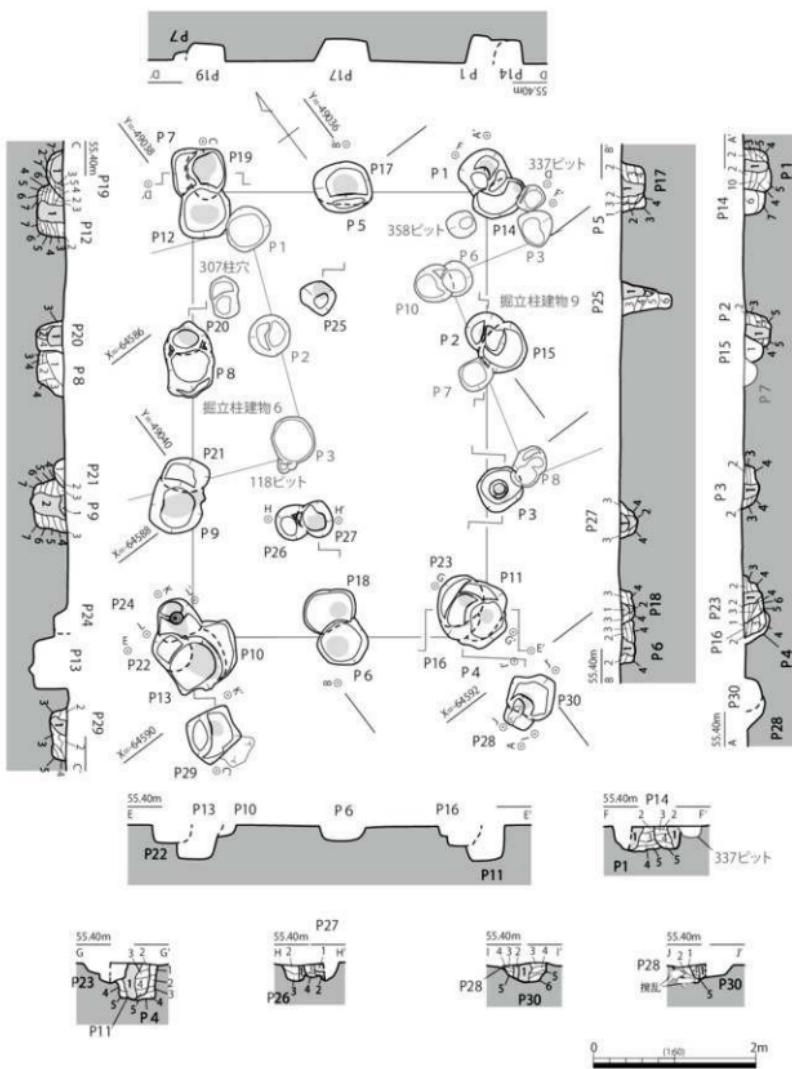


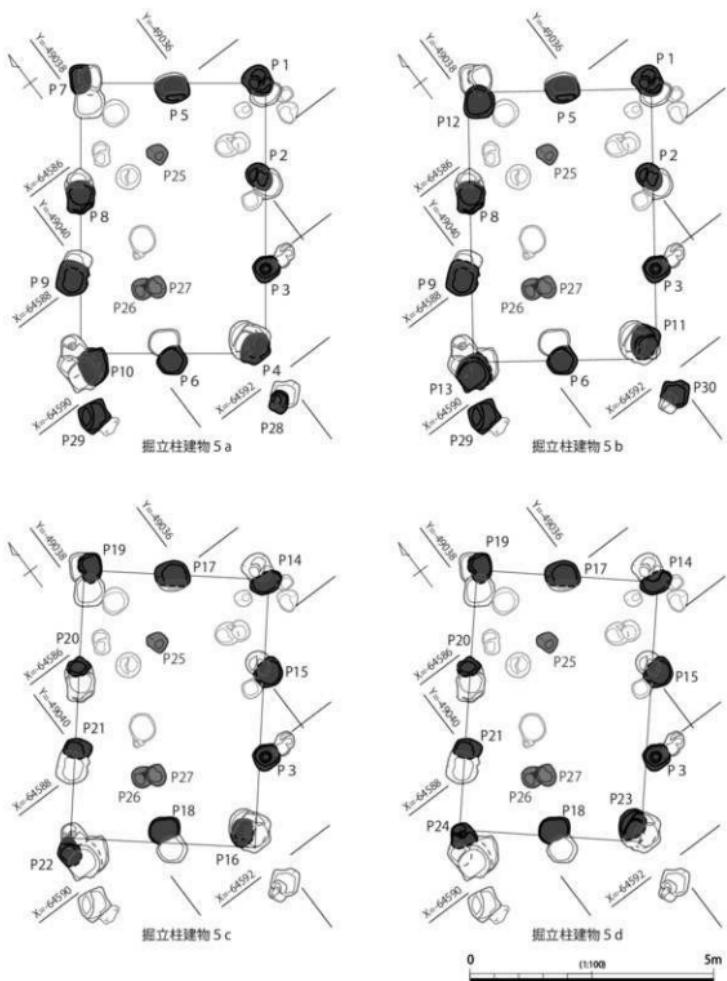
写真8 掘立柱建物5・6・9（俯瞰）



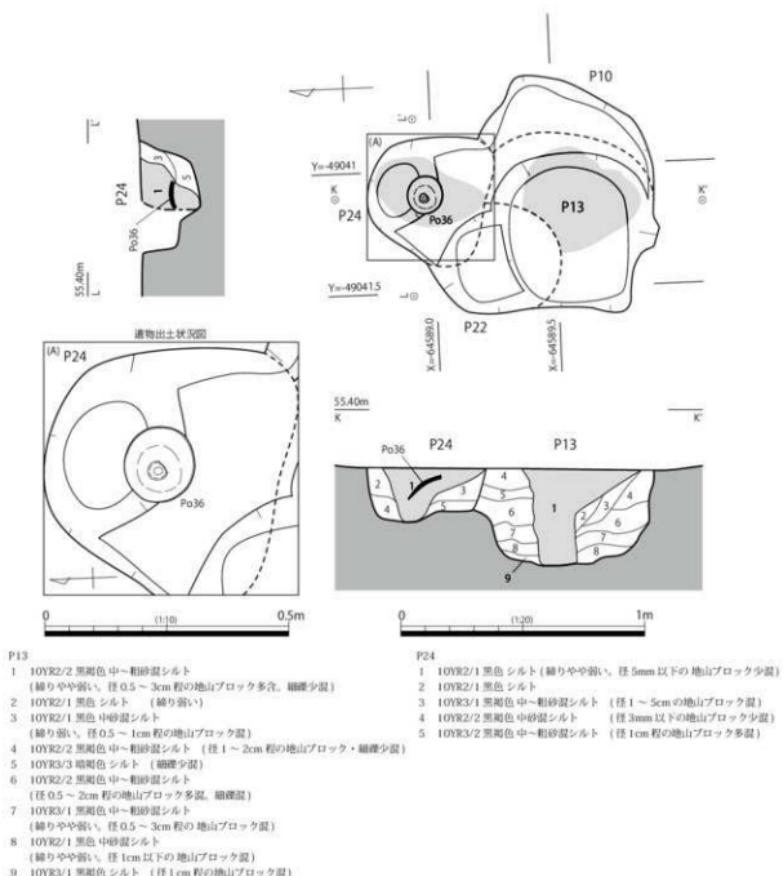
第48図 挖立柱建物 5

P1	1 10YR2/1 黒色 シルト (縹り弱い。径 0.5 ~ 1cm 程の地山プロック少混)	P15	1 10YR3/2 黒褐色 中砂混シルト (径 0.5 ~ 1cm 程の地山プロック混)
2 10YR2/1 黑褐色 シルト (縹りやや弱い。径 1 ~ 2cm 程の地山プロック混)	P16	1 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い。径 1cm 程の地山プロック混)	
3 10YR2/2 黑褐色 シルト (径 3mm 以下の地山プロック混)	2 10YR2/1 黑褐色 シルト (径 3mm 程の地山プロック少混)		
4 10YR2/1 黒色 シルト (径 1 ~ 2cm 程の地山プロック混)	3 10YR2/2 黑褐色 シルト (径 1 ~ 3cm 程の地山プロック多混)		
5 10YR3/2 黑褐色 シルト (縹り弱い。径 1 ~ 2cm 程の地山プロック多混)	4 10YR3/3 喙褐色 中~粗粒の砂シルト (縹り弱い。径 1cm 程の地山プロック多混)		
P2	1 10YR2/1 黒色 中砂混シルト (縹り弱い。径 1cm 以下の地山プロック混)	P17	1 10YR2/1 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い。径 1cm 以下の地山プロック混)
2 10YR2/1 黑色 中砂混シルト (縹りやや弱い)	2 10YR2/1 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 1cm 以下の地山プロック混)		
3 10YR3/1 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)	3 10YR2/2 黑褐色 中~粗粒の砂シルト (径 3mm 以下の地山プロック少混)		
4 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 3mm 以下の地山プロック少混)	4 10YR2/1 黑褐色 中~粗粒の砂シルト (縹りやや弱い。径 5mm 以下の地山プロック少混)		
P3	1 10YR2/1 黑色 中砂混シルト (縹り弱い。径 5mm 程の地山プロック少混)	P18	1 10YR2/1 黑色 中砂混シルト (縹り弱い。径 2 ~ 3cm の地山プロック多混)
2 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い。径 3mm 以下の地山プロック・暗黒層)	2 10YR3/3 喙褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 2 ~ 3cm の地山プロック多混)		
P4	1 10YR2/1 黑褐色 シルト (縹り弱い)	3 10YR2/2 黑褐色 中~粗粒の砂シルト (径 1 ~ 2cm 程の地山プロック少混)	
2 10YR2/1 黑色 シルト (径 3cm 程の地山プロック少混)	4 10YR3/2 黑褐色 中砂混シルト (径 3mm 以下の地山プロック混)		
3 10YR2/1 黑褐色 シルト (縹 3mm 程の地山プロック少混)	P19	1 10YR2/1 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い。径 5mm 以下の地山プロック少混)	
4 10YR2/3 喙褐色 中~粗粒混シルト (縹り弱い。径 5mm 以下の地山プロック多混)	2 10YR3/3 喙褐色 中~粗粒混シルト (縹り弱い。径 1cm 程の地山プロック多混)		
P5	1 10YR3/1 黑褐色 中~粗粒混シルト (径 1cm 以下の地山プロック・Ⅲ崩プロック少混)	3 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹り弱い)	
2 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い)	4 10YR2/1 黑褐色 中砂混シルト (径 5mm 程の地山プロック少混)		
3 10YR2/1 黑色 中砂混シルト (縹り弱い)	5 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 1cm 程の地山プロック少混)		
4 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 5mm 以下の地山プロック少混)	6 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い)		
P6	1 10YR2/1 黑色 中砂混シルト (縹りやや弱い)	7 10YR3/3 喙褐色 中~粗粒混シルト (縹りやや弱い。径 5 ~ 1cm 程の地山プロック少混)	
2 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (径 5cm ほどの地山プロック少混)	P20	1 10YR2/1 黑褐色 シルト (縹り弱い。径 1 ~ 2cm 程の地山プロック少混)	
3 10YR2/1 黑色 中砂混シルト (径 1 ~ 2cm 程の地山プロック混)	2 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹り弱い。径 2 ~ 3cm 程の地山プロック少混)		
4 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (径 5mm 以下の地山プロック少混)	3 10YR3/1 黑褐色 シルト (縹りやや弱い。径 2cm 程の地山プロック混)		
P7	1 10YR2/2 黑褐色 中~粗粒混シルト (縹り弱い。径 0.5 ~ 1cm 程の地山プロック・細縫少混)	4 10YR3/1 黑褐色 シルト (縹りやや弱い。径 1cm 以下の地山プロック多混)	
P8	土色注記なし	P21	1 10YR2/2 黑褐色 中~粗粒混シルト (縹り弱い。径 1cm 以下の地山プロック混。細縫少混)
1 10YR2/2 黑褐色 中~粗粒混シルト (縹り弱い。径 0.5 ~ 1cm 程の地山プロック・細縫少混)	2 10YR3/3 喙褐色 シルト (縹りやや弱い)		
2 10YR2/1 黑色 中~粗粒混シルト (縹りやや弱い。径 0.5 ~ 1cm 程の地山プロック混)	P23	1 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹り弱い。径 3mm 以下の地山プロック少混)	
3 10YR2/1 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い)	2 10YR2/1 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 1cm 程の地山プロック多混)		
4 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い。径 2 ~ 3cm 程の地山プロック混)	3 10YR2/1 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)		
P9	1 10YR3/2 黑褐色 中~粗粒混シルト (縹り弱い。径 0.5 ~ 2cm 程の地山プロック・細縫多混)	4 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い。径 5mm 以下の地山プロック少混)	
2 10YR2/1 黑色 シルト (縹り弱い。径 5mm 以下の地山プロック少混)	5 10YR3/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)		
3 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い)	6 10YR3/1 黑褐色 中~粗粒の砂シルト (縹り弱い。径 1cm 以下の地山プロック多混)		
4 10YR2/1 黑色 中砂混シルト (縹りやや弱い。径 1cm 以下の地山プロック混)	P25	1 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹り弱い。径 3mm 程の地山プロック・Ⅲ崩プロック多混)	
5 10YR2/1 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い。径 5mm 以下の地山プロック混)	2 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹り弱い)		
6 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い。径 5mm 以下の地山プロック混)	3 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)		
7 10YR2/3 喙褐色 中~粗粒混シルト (縹りやや弱い。径 5mm 程の地山プロック少混)	4 10YR3/1 黑褐色 シルト (縹りやや弱い。径 3mm 以下の地山プロック少混)		
P10	土色注記なし	5 10YR3/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い。径 3mm 以下の地山プロック少混)	
P11	1 10YR2/1 黑色 シルト (縹り弱い。径 1cm 以下の地山プロック・Ⅲ崩プロック少混)	6 10YR3/3 喙褐色 シルト (縹りやや弱い。径 3mm 以下の地山プロック少混)	
2 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)	P26	1 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹り弱い。径 3mm 以下の地山プロック混)	
3 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 5mm 以下の地山プロック混)	2 10YR2/1 黑褐色 シルト (縹り弱い。径 5mm 以下の地山プロック少混)		
4 10YR2/1 黑色 中砂混シルト (縹りやや弱い。径 5mm 以下の地山プロック混)	3 10YR2/2 黑褐色 中~粗粒混シルト (縹り弱い。径 2mm 以下の地山プロック少混)		
5 10YR2/1 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 5mm 以下の地山プロック混)	P27	1 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹り弱い。径 0.5 ~ 1cm 程の地山プロック混)	
6 10YR2/3 喙褐色 中~粗粒混シルト (縹りやや弱い。径 5mm 以下の地山プロック多混)	2 10YR2/3 喙褐色 シルト (縹り弱い。径 1cm 以下の地山プロック多混)		
P12	1 10YR2/1 黑褐色 中~粗粒混シルト (縹り弱い。径 1cm 以下の地山プロック混)	3 10YR3/1 黑褐色 シルト (縹り弱い。径 5mm 以下の地山プロック多混)	
2 10YR2/2 黑褐色 中~粗粒混シルト (縹り弱い。径 1 ~ 2cm 程の地山プロック多混)	4 10YR3/3 喙褐色 シルト (縹りやや弱い。径 1 ~ 2cm 程の地山プロック混)		
3 10YR2/3 喙褐色 中~粗粒混シルト (縹りやや弱い。縫隙少混)	P28	1 10YR2/1 黑褐色 シルト (縹り弱い。径 2mm 程の地山プロック少混)	
4 10YR2/2 黑褐色 中~粗粒混シルト (縹りやや弱い。縫隙少混)	2 10YR3/3 喙褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 3mm 以下の地山プロック多混)		
5 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い)	P29	1 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い。径 0.5 ~ 1.5cm 程の地山プロック混)	
6 10YR2/1 黑色 中砂混シルト (縹り弱い。径 5mm 以下の地山プロック少混)	2 10YR3/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い。径 5mm 以下の地山プロック少混)		
7 10YR2/1 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 0.5 ~ 2cm 程の地山プロック混)	P30	3 10YR3/1 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 2mm 程の地山プロック少混)	
P14	1 10YR2/1 黑色 シルト (縹り弱い。径 5mm 程の地山プロック少混)	4 10YR3/2 黑褐色 シルト (縹り弱い。径 1cm 程の地山プロック混)	
2 10YR2/1 黑褐色 シルト (縹り弱い)	5 10YR3/3 喙褐色 中~粗粒の砂シルト (縹り弱い。径 1cm 以下の地山プロック多混)		
3 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 1cm 以下の地山プロック混。縫隙少混)	P30	1 10YR2/1 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 3mm 以下の地山プロック少混)	
4 10YR2/1 黑色 中砂混シルト (縹り弱い。縫隙少混)	2 10YR2/1 黑褐色 シルト (縹り弱い。径 1cm 程の地山プロック混)		
5 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 3mm 以下の地山プロック少混)	3 10YR2/2 黑褐色 中~粗粒の砂シルト (縹りやや弱い。縫隙少混)		
6 10YR2/1 黑色 中砂混シルト (縹り弱い。縫隙少混)	4 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い。縫隙少混)		
7 10YR2/1 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 0.5 ~ 2cm 程の地山プロック混)	5 10YR3/1 黑褐色 シルト (縹り弱い。径 3mm 以下の地山プロック混)		
P14	1 10YR2/1 黑色 シルト (縹り弱い。径 5mm 程の地山プロック少混)	6 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 5mm 以下の地山プロック多混)	
2 10YR2/1 黑褐色 シルト (縹り弱い)			
3 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 1cm 以下の地山プロック混)			
4 10YR2/1 黑色 中砂混シルト (縹り弱い。縫隙少混)			
5 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹り弱い。径 3mm 以下の地山プロック少混)			
6 10YR2/1 黑色 中砂混シルト (縹り弱い。縫隙少混)			
7 10YR2/3 喙褐色 シルト (縹り弱い)			

掘立柱建物5 土色注記（第48回土色注記）

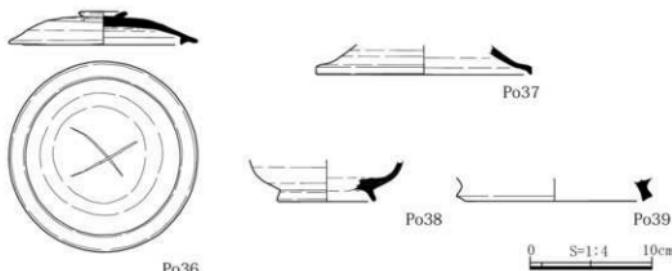


第49図 掘立柱建物 5 变遷図



第50図 挖立柱建物5 P 10・13・22・24

写真9 挖立柱建物5 P24遺物 (Po36) 出土状況 (南東から)



第51図 掘立柱建物5出土須恵器

底面の標高は54.73～55.03mである。

なお、本段階にはP28・29が伴う可能性が高いと考える。P4とP28、P10とP29の柱間寸法はいずれも1m前後と、側柱の柱間寸法より狭い。

遺物はP1埋め土より出土したPo38を図化した。Po38は高台付壺で、壺部は内済し、ハの字状に張り出す高台をもつ。7世紀後半に比定される。

掘立柱建物5b

P1～3・11・5・6・12・8・9・13で構成される。桁行3間(5.5m)、梁行2間(3.6m)の建物であり、身舎の平面積は19.8m²を測る。主軸はN-36°-Eである。柱間寸法は桁筋が1.5～2.0m、梁筋は1.7mと1.8mで、柱筋の通りは比較的よい。これらの柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、規模は長軸50～86cmを測り、柱穴底面の標高は54.72～54.98mである。

なお、本段階にはP29・30が伴う可能性が高いと考える。P13とP29、P11とP30の柱間寸法はいずれも1m前後と、側柱の柱間寸法より狭い。

遺物はP13埋め土から出土したPo37と、P1柱抜き取り痕跡より出土したPo39を図化した。Po37は須恵器高壺の脚据である。端部は下方へ折れ曲がり、外面には自然釉が付着する。Po39は壺の高台部である。いずれも7世紀後半に比定される。

掘立柱建物5c

P14・15・3・16～22で構成される。桁行3間(5.9m)、梁行2間(3.9m)の建物であり、平面積は23.0m²を測る。主軸はN-40°-Eである。柱間寸法は桁筋が1.5～2.2m、梁筋は1.5～2.1mで、柱筋の通りは比較的よい。これらの柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、規模は最大69cmを測り、柱穴底面の標高は54.80～55.01mである。

掘立柱建物5d

P14・15・3・23・17～21・24で構成される。桁行3間(5.5m)、梁行2間(3.9m)の建物であり、平面積は21.5m²を測る。主軸はN-41°-Eである。柱間寸法は桁筋が1.3～1.9m、梁筋は1.6～2.1mで、柱筋の通りは比較的よい。これらの柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、規模は最大69cmを測り、柱穴底面の標高は54.80～55.01mである。

遺物はPo36を図化した。Po36はほぼ完存する個体であり、P24柱抜き取り痕跡から出土した(第50図・写真9)。掘立柱建物5の最終段階である5dを構成する柱穴から出土しており、掘立柱建物5

第13表 挖立柱建物5遺構計測表

No.	規格 (cm)			前面の標高 (m)	柱根面直 径 (cm)	柱のあたり 直徑 (cm)	標準時 間標名	調査時 間標名	備考
	長軸	短軸	深さ						
P.1	60	463.1	34	54.62	-	5	5a	131 ⁰ ×7	P.1→P.4 Po37→38出土
P.2	50	263.1	32	54.63	-	-	5a	133 ⁰ ×7	P.2→P.5
P.3	59	54	22	54.67	-	10	5a	134 ⁰ ×7	
P.4	60.1	263.1	33	54.65	-	-	5a	130 ⁰ ×7	P.4→P.11→36
P.5	60.1	303.1	29	54.65	-	-	5a	130 ⁰ ×7	P.5→P.17
P.6	50.1	30	17	54.66	-	12	5a	144 ⁰ ×7	P.6→P.18
P.7	50.1	263.1	11	55.02	-	-	5a	145 ⁰ ×7	P.7→P.12→19
P.8	59	58	23	54.81	-	15	5a	146 ⁰ ×7	P.8→P.20
P.9	60.1	65	43	54.73	-	10	5a	150 ⁰ ×7	P.9→P.21
P.10	72	263.1	14	55.03	-	-	5a	152 ⁰ ×7	P.10→P.13→24
P.11	86	303.1	46	54.72	-	9	5b	137 ⁰ ×7	P.4→P.11→P.6→23
P.12	67	63	33	54.81	-	10	5b	146 ⁰ ×7	P.7→P.12→P.19
P.13	79	62	40	54.76	-	-	5b	152 ⁰ ×7	P.10→P.13→P.22
P.14	60	43	26	54.62	-	-	5a	130 ⁰ ×7	P.1→P.4
P.15	60	56	23	54.62	-	-	5a	131 ⁰ ×7	P.2→P.5
P.16	50.1	185.1	26	54.66	-	-	5a	136 ⁰ ×7	P.4→P.11→P.16→P.21
P.17	60	52	29	54.67	-	5	5a	130 ⁰ ×7	P.5→P.17
P.18	60	55	16	56.00	-	4	5a	143 ⁰ ×7	P.6→P.18
P.19	62	50	20	54.82	-	-	5a	145 ⁰ ×7	P.7→P.12→P.19
P.20	40	40	32	54.60	-	-	5a	147 ⁰ ×7	P.8→P.20
P.21	56	42	13	55.61	-	-	5a	149 ⁰ ×7	P.9→P.21
P.22	52.1	45	22	54.65	-	-	5a	152 ⁰ ×7	P.11→P.22→P.28
P.23	69	36	25	54.81	-	5	5a	135 ⁰ ×7	P.11→P.36→P.22
P.24	54	32	22	54.94	-	-	5a	151 ⁰ ×7	P.10→P.22→P.24
P.25	43	35	61	54.54	-	-	5a	140 ⁰ ×7	Po46B.3
P.26	46	40	19	54.95	-	-	5a	142 ⁰ ×7	P.26→P.27
P.27	45	44	21	54.99	-	9	5a	141 ⁰ ×7	P.26→P.27
P.28	193.1	263.1	20	54.94	-	-	5a	156 ⁰ ×7	P.28→P.30
P.29	74	66	21	54.96	-	5	5a	153 ⁰ ×7	
P.30	60	55	23	54.94	-	6	5b	153 ⁰ ×7	P.28→P.30

5a・5b柱間寸法 (横行範囲)		5a・5b柱間寸法 (横行範囲)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P.1→P.4	5.5	P.1→P.7	2.8
P.1→P.12	2.8	P.1→P.13	2.7
P.5→P.6	5.7	P.3→P.4	2.1
P.7→P.10	5.6	P.2→P.3	1.9
P.12→P.13	5.4	P.3→P.4	1.5
P.11→P.13	3.5	P.3→P.11	1.5
5a・5b柱間寸法 (横行範囲)		5a・5b柱間寸法 (横行範囲)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P.1→P.5	1.8	P.4→P.6	1.8
P.5→P.7	2.0	P.5→P.12	1.8
P.6→P.10	1.5	P.6→P.11	1.8
P.6→P.13	1.7	P.6→P.12	2.0

5c・5d柱間寸法 (横行範囲)		5c・5d柱間寸法 (横行範囲)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P.3→P.11	3.9	P.4→P.16	5.3
P.14→P.19	3.9	P.14→P.23	5.1
P.15→P.20	3.7	P.17→P.19	5.1
P.16→P.22	3.6	P.19→P.22	5.9
P.24→P.25	3.6	P.19→P.24	5.5
5e・5f柱間寸法 (横行範囲)		5e・5f柱間寸法 (横行範囲)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P.3→P.21	3.9	P.3→P.15	1.9
P.14→P.20	3.7	P.3→P.22	2.2
P.15→P.29	3.7	P.15→P.25	2.0
P.16→P.19	1.5	P.17→P.25	1.4
P.17→P.17	2.1	P.17→P.26	1.1
P.17→P.19	1.8	P.18→P.22	2.1
P.18→P.22	2.1	P.19→P.23	1.6
P.20→P.21	1.6	P.18→P.24	2.0
P.21→P.22	2.2	P.20→P.25	1.7
P.21→P.24	1.8	P.21→P.26	1.4
P.25→P.27	2.7	P.25→P.27	1.7

が廃絶する段階に埋納されたものと考える。

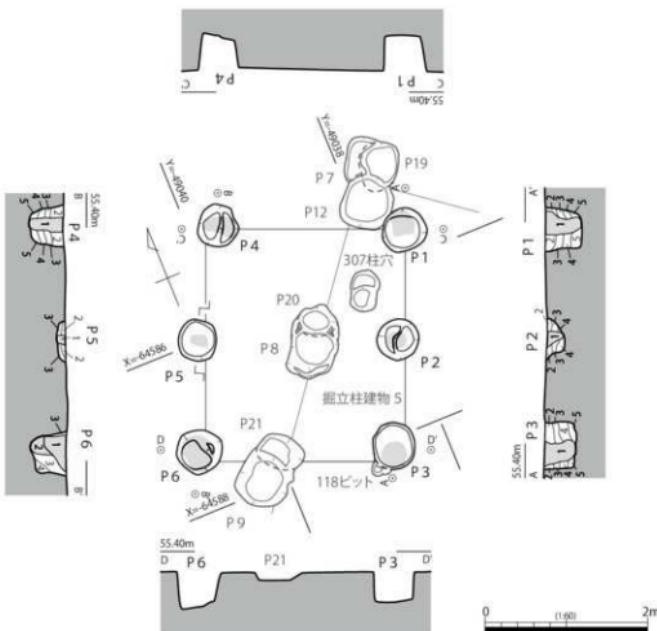
Po36は天井部に輪状つまみをもつ須恵器蓋である。端部にかえりを有し、内面には焼成前に施された「×」のヘラ記号がみられる。7世紀後半に比定される。

掘立柱建物6 (第47・52図、第7・14表、図版20・30・33・35)

1区6A-9d・9eグリッドにおいて、表土掘削後、Ⅲ層上面で検出した。桁行2間(2.8m)、梁行1間(2.4m)の側柱建物であり、平面積は6.7m²を測る。主軸はN-22°-Eである。本建物は掘立柱建物5と重複する。本建物のP.1が、掘立柱建物5のP.12を切ることから、これに後出する建物と判断できる。

柱の通りは比較的よく、柱間寸法は桁筋が1.3または1.4m、梁筋は2.3~2.5mを測る。柱穴の平面形は不整な円形を呈し、長軸51~57cm程度ではほぼ同規模である。柱穴底面の標高は四隅のもの(P.1・3・4・6)が54.69~54.77mであるに対し、P.2は54.91m、P.5は55.03mと浅い。埋め土はP.6を除き水平に近い堆積状況を示し、互層に撲き固めていた可能性がある。四隅の柱穴の規模からみて、当建物は面積は狭いものの比較的強固な上部構造を有していたと推定される。

遺物が出土しておらず、本建物の詳細な時期は不明であるが、掘立柱建物5に後出することから7世紀後半以降と考えられる。



- P1
 1 10YR2/2 黒褐色 シルト (縹り弱い。径 1cm 程の地山ブロック少混)
 2 10YR3/1 黒褐色 シルト (径 3mm 以下の地山ブロック少混)
 3 10YR2/1 黒色 シルト
 4 10YR2/2 黒褐色 シルト (径 5mm 程の地山ブロック少混)
 5 10YR2/1 黑色 シルト (縹りやや弱い)

- P2
 1 10YR2/1 黒色 シルト (径 5mm 以下の地山ブロック弱) (縹り弱い)
 2 10YR2/2 黑褐色 シルト (径 1cm 以下の地山ブロック少混)
 3 10YR3/1 黑褐色 シルト (径 1cm 以下の地山ブロック弱)
 4 10YR3/3 暗褐色 シルト (径 1cm 以下の地山ブロック多混)

- P3
 1 10YR2/1 黒色 中砂混シルト (縹り弱い。径 1cm 以下の地山ブロック弱)
 2 10YR3/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い。径 2cm 以下の地山ブロック弱)
 3 10YR3/1 黑褐色 中～粗砂混シルト (径 2cm 以下の地山ブロック多混)
 4 10YR3/3 暗褐色 シルト (縹り弱い。径 5mm 以下の地山ブロック弱)
 5 10YR3/2 黑褐色 中～粗砂混シルト (径 1cm 以下の地山ブロック弱)

- P4
 1 10YR2/1 黑色 シルト (縹り弱い)
 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (縹りやや弱い。径 2mm 以下の地山ブロック混)
 3 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (径 5mm 以下の地山ブロック少混)
 4 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縹りやや弱い)
 5 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (径 5mm 以下の地山ブロック混)

- P5
 1 10YR2/1 黑色 シルト (縹り弱い。径 3mm 以下の地山ブロック少混)
 2 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)
 3 10YR3/3 暗褐色 シルト (縹りやや弱い)
 P6
 1 10YR2/1 黑色 シルト (縹り弱い)
 2 10YR2/2 黑褐色 シルト (縹りやや弱い。径 1～2cm の地山ブロック多混)
 3 10YR3/1 黑褐色 シルト (縹りやや弱い)
 4 10YR2/2 黑褐色 中～粗砂混シルト (縹りやや弱い。径 3cm 程の地山ブロック混)

第52図 掘立柱建物 6

第14表 掘立柱建物 6 遺構計測表

柱穴

No.	幅幅 (cm)	奥深さ (cm)	底面の標高 (cm)	表面斜度 (cm)	底のあたり (cm)	調査所用標名	備考
P1	55	52	45	54.70	—	8	118ピット
P2	51	51	22	54.91	—	4	116ピット
P3	57	51	39	54.77	—	12	117ピット
P4	51	50	42	54.69	18	12	112ピット
P5	52	47	11	55.03	—	—	113ピット
P6	36	55	44	54.71	—	—	114ピット

右側寸法 (航行範囲)

No.	右側寸法 (m)
P1-P3	2.8
P4-P6	2.7
左側寸法 (航行範囲)	
P3-P6	2.4
右側寸法 (航行範囲)	
P1-P2	1.4
P2-P3	1.4
P4-P5	1.4
P5-P6	1.3

掘立柱建物7 (第53~55図、第7・15・60表、図版22・30・37~39・42・92)

1区6A-8c・8d・9c・9dグリッドにおいて、表土および搅乱掘削後、Ⅲ層上面で検出した側柱建物である。南東側桁筋の柱穴(P1・10、P2、P3・11、P4・12・18)はいずれも搅乱により柱穴の半分程度を消失しているものが多く、南西側の妻柱は搅乱により完全に消失したものと推察している。柱穴の埋め土はⅣ層に由来するブロックを含む黒褐色あるいは黒色シルトを主体とし、互層に掘き固めていた可能性がある。柱穴は重複しているものが多く、新しく掘り直されるごとに深くなる傾向にある。

柱穴は遺存状態が悪いP2を除きすべて重複しており、南東側桁筋のP4・12・18と北西側桁筋のP6・14・19、P7・15・20、P8・16・21、P9・17・22については2回の重複を確認している。これらの柱穴の重複関係をもとに、想定される建物の建て替えの変遷案(掘立柱建物7a~7c)をまとめた(第54図)。

なお、本建物の廃絶時期は、出土遺物から判断し、7世紀後半と考えられる。

以下、7a~7cについて各段階ごとに述べる。

掘立柱建物7a

P1~9で構成される。桁行3間(5.6m)、梁行2間(4.4m)の建物であり、平面積は24.6m²を測る。主軸はN-33°-Eである。柱間寸法は桁筋が1.6~1.9m、梁筋は1.8または2.1mを測り、柱筋の通りはよい。P1~9の平面形は円形または隅丸方形形状を呈し、規模は長軸45~91cmを測り、柱穴底面の標高は54.55~54.91mである。

遺物は土師器甕Po44を図化した。Po44はP9埋め土より出土している。

掘立柱建物7b

P10・2・11~17で構成される。P2については本来は建て替えのため掘り直されていた可能性も考えられるが、検出した範囲においては柱穴が重複している痕跡は認められない。またP13については、底面レベルが7bの他の柱穴と類似することから、この段階の柱穴と判断した。

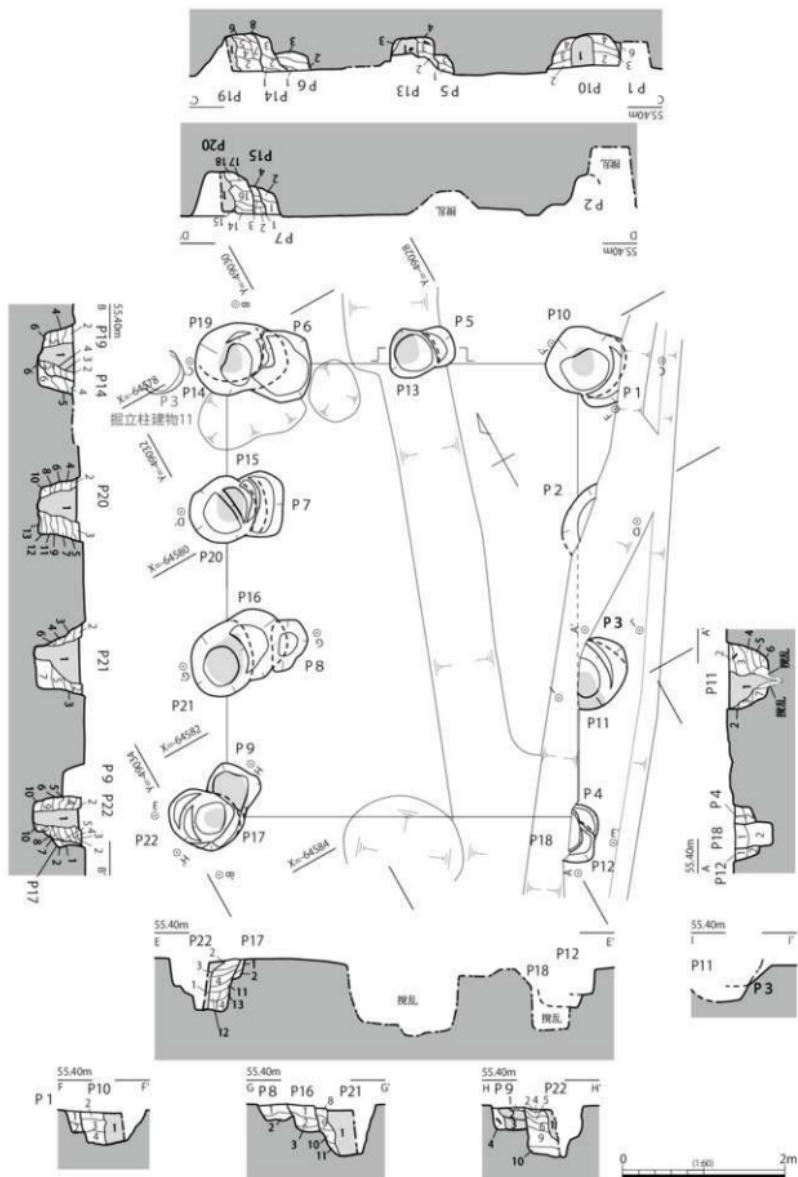
桁行3間(5.9m)、梁行2間(4.4m)の建物であり、平面積は26.0m²を測る。主軸はN-29°-Eである。柱間寸法は桁筋が1.8~2.1m、梁筋は2.1mを測り、柱筋の通りはよい。柱穴規模は長軸50~112cmを測り、柱穴底面の標高は54.50~54.80mである。

遺物はPo43・45を図化した。Po43はP16埋め土、Po45はP11埋め土より出土している。Po43は須恵器壺の底部、Po45は厚い器壁の土師器甕の口縁部であり、「く」の字状に大きく屈折する。

掘立柱建物7c

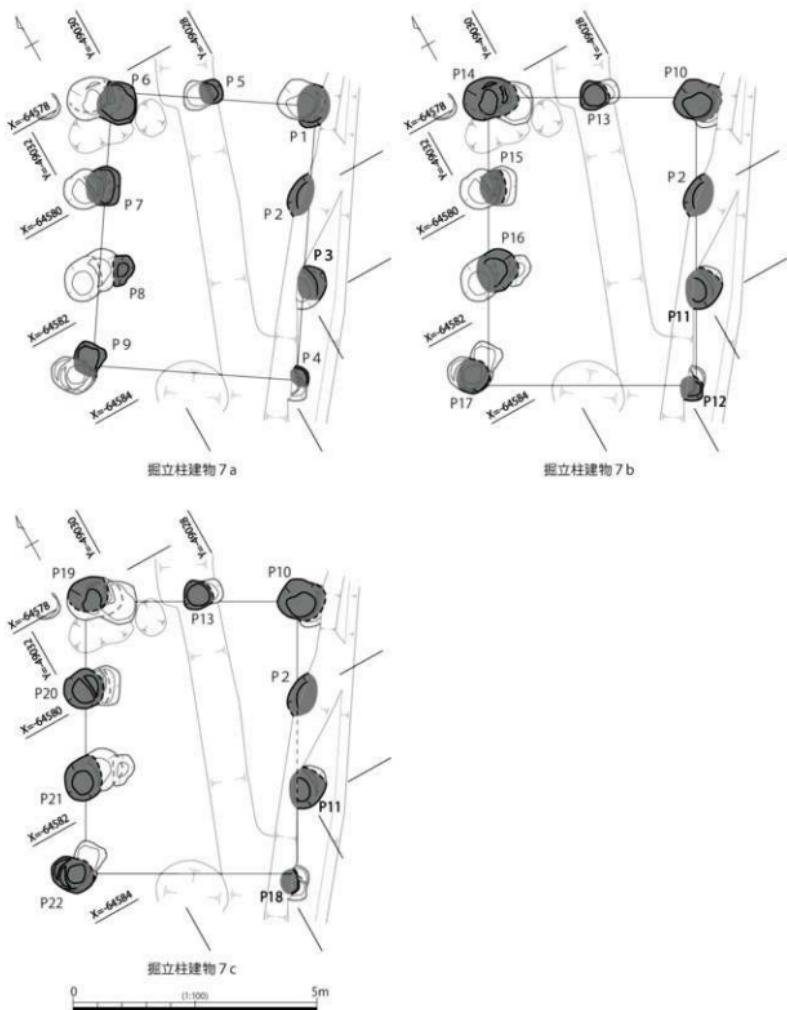
P10・2・11・18・13・19~22で構成される。P10・2・11については本来は建て替えのため掘り直されていた可能性も考えられるが、検出した範囲においてはその痕跡は認められない。桁行3間(5.9m)、梁行2間(4.4m)の建物であり、平面積は26.0m²を測る。主軸はN-29°-Eである。柱間寸法は桁筋が1.8~2.1m、梁筋は2.1または2.2mを測り、柱筋の通りはよい。規模は長軸52~91cmを測り、柱穴底面の標高は54.45~54.55mである。

遺物はPo40~42を図化した。Po40はP18埋め土、Po41はP20柱抜き取り痕跡、Po42はP22埋土中より出土している。Po40~42は須恵器である。Po40・41は口縁部が内湾して立ち上がる壺であり、Po41は口縁端部にかえりをもつ。Po42は高台付壺の高台部である。

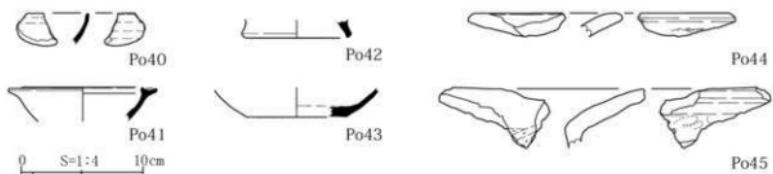


第53図 掘立柱建物7

掘立柱建物7 土色注記（第53図土色注記）



第54図 振立柱建物7変遷図



第55図 掘立柱建物7出土土師器・須恵器

第15表 掘立柱建物7遺構計測表

第15表 掘立柱建物7遺構計測表									
No.	規格(cm)			実測の標高		柱穴の標高		調査時遺構名	調査者
	長軸	短軸	厚さ	(m)	柱穴(本数)	柱穴(本数)			
P1	91	—	36	54.59	—	—	169(2本)	P1→P12	現施設に切られる
P2	903.1	253.1	37	54.55	—	—	205(2本)	P2→P12	現施設に切られる
P3	—	754.1	24	54.76	—	—	167(2本)	P3→P11	現施設に切られる
P4	453.1	203.1	28	54.69	—	—	211(2本)	P4→P12	P18 現施設に切られる
P5	50	263.1	25	54.76	—	—	208(2本)	P5→P12	P18 現施設に切られる
P6	69	303.1	24	54.72	—	—	158(2本)	P6→P14	—
P7	80	303.1	35	54.72	—	—	160(2本)	P7→P13	—
P8	62	353.1	20	54.91	—	—	163(2本)	P8→P16	—
P9	60	463.1	30	54.79	—	—	165(2本)	P9→P17	P14±1.5
P10	91	90	46	54.50	—	—	168(2本)	P10→P11	—
P11	893.1	703.1	51	54.54	—	—	167(2本)	P11→P12	現施設に切られる
P12	523.1	323.1	31	54.65	—	—	210(2本)	P12→P12→P18	現施設に切られる
P13	62	60	39	54.54	—	—	170(2本)	P13→P12	—
P14	112	88	48	54.50	—	—	204(2本)	P14→P14→P19	—
P15	74	263.1	37	54.70	—	—	209(2本)	P15→P15	P15±0.5
P16	84	303.1	35	54.76	—	—	162(2本)	P16→P16	—
P17	563.1	153.1	25	54.80	—	—	205(2本)	P17→P17	P12±1.5
P18	52	203.1	48	54.48	—	—	166(2本)	P12→P18	現施設に切られる
P19	84	70	46	54.51	—	6	157(2本)	P14→P19	P14±0.5
P20	82	75	55	54.52	—	12	159(2本)	P15→P19	P15±0.5
P21	96	78	63	54.47	—	10	163(2本)	P16→P21	P16±0.5
P22	90	66	63	54.45	—	—	164(2本)	P17→P22	P12±0.5

7a柱間寸法(横行距離)										
No.	柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)	
P1-P4	3.6		P2-P7	6.0		P3-P8	2.8		P4-P9	4.4
P6-P9	5.3		P7-P12	1.8		P8-P13	1.9		P9-P14	2.1
P3-P8	1.9		P4-P9	1.6		P5-P10	1.8		P6-P11	1.5
P4-P9	4.4		P5-P10	2.1		P6-P11	1.8		P7-P12	2.3

7a柱間寸法(横行距離)										
No.	柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)	
P1-P2	1.9		P2-P3	1.8		P3-P4	1.9		P4-P5	1.8
P5-P6	2.8		P6-P7	1.8		P7-P8	1.6		P8-P9	1.9
P9-P10	2.1		P10-P11	2.1		P11-P12	1.8		P12-P13	2.3
P13-P14	4.4		P14-P15	5.7		P15-P16	4.0		P16-P17	2.1

7b柱間寸法(横行距離)										
No.	柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)	
P10-P12	3.9		P12-P13	5.7		P13-P14	5.7		P14-P15	5.7
P14-P17	5.7		P15-P16	4.0		P16-P17	4.4		P17-P18	4.4
P18-P19	2.0		P19-P20	2.1		P20-P21	1.8		P21-P22	2.3
P22-P23	2.1		P23-P24	1.8		P24-P25	1.8		P25-P26	2.3

7c柱間寸法(横行距離)										
No.	柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)	
P11-P12	1.8		P12-P13	1.8		P13-P14	1.8		P14-P15	1.8
P15-P16	5.9		P16-P17	5.7		P17-P18	5.7		P18-P19	4.4
P19-P20	4.2		P20-P21	4.3		P21-P22	4.5		P22-P23	4.4
P23-P24	4.0		P24-P25	4.3		P25-P26	4.5		P26-P27	4.5

7d柱間寸法(横行距離)										
No.	柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)		柱間寸法(m)	
P11-P12	1.8		P12-P13	1.8		P13-P14	1.8		P14-P15	1.8
P15-P16	5.9		P16-P17	5.7		P17-P18	5.7		P18-P19	4.4
P19-P20	4.2		P20-P21	4.3		P21-P22	4.5		P22-P23	4.4
P23-P24	4.0		P24-P25	4.3		P25-P26	4.5		P26-P27	4.5

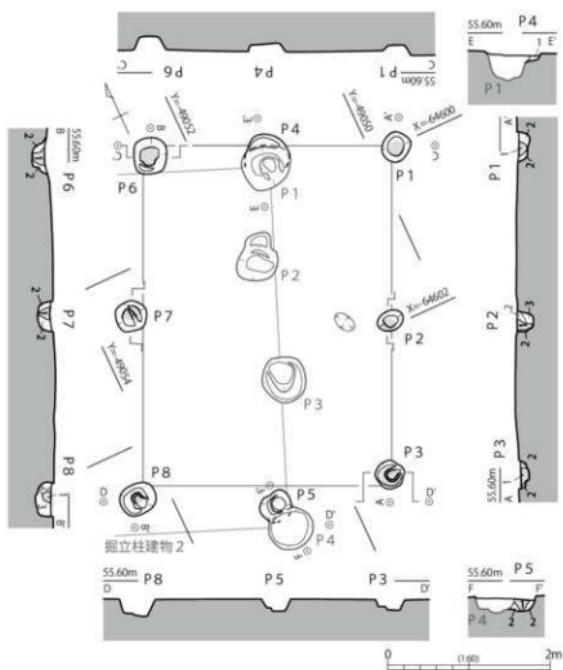
掘立柱建物8 (第39・56・57図、第7・16・60表、図版22・25~27・30・93)

1区6A-10e・10fおよび7A-1e・1fグリッドにおいて、表土掘削後、IV層上面で検出した、桁行2間(4.2m)、梁行2間(3.1m)の側柱建物である。主軸はN-25°-Eにとり、平面積は13.0m²を測る。本建物は掘立柱建物2と重複する。本建物のP4が掘立柱建物2のP1に切られることから、これに先行する建物と判断できる。掘立柱建物2から主軸は3°東偏するが、面積はほぼ同じである。柱筋の通りはやや悪く、柱間寸法は桁筋が1.8~2.3m、梁筋は1.4~1.8mを測る。

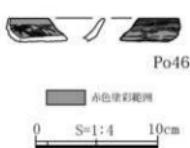
柱穴の平面形は円形または隅丸方形を呈し、長軸34~50cm以上を測る。断面形は椀状あるいは逆台形状を呈し、底面の標高は55.15~55.26mである。断面観察から柱は抜き取られたものとみられるが、P8の柱のあたりから、直径10cm程度の柱が用いられていると推定される。

遺物は、P8埋め土から出土したPo46を図化した。Po46は赤彩土師器の皿であり、平坦な底部付近から短い口縁部が外反する。口縁内面には一段の斜格子状暗文が施される。

本遺構の帰属時期は出土遺物から判断し、7世紀末から8世紀前半と考えられる。



1 10YR2/1 黒色シルト（繊りやや弱い。径3mm以下の地山ブロック少混）
2 10YR2/2 黒褐色シルト（粘性やや強い。径1cm程の地山・粗粒ブロック混）



第57図 挖立柱建物8出土土器器皿

第56図 挖立柱建物8

第16表 挖立柱建物8遺構計測表

柱穴

No.	規則 (cm)	花崗岩 (cm)	花崗岩高さ (cm)	花崗岩直径 (cm)	柱穴のあたり (cm)	調査時遺構名	備考
P1	37	33	16	55.23	—	5	26cm×ト
P2	34	25	21	55.20	—	5	27cm×ト
P3	36	35	14	55.24	—	—	28cm×ト
P4	50.11	15.11	7	55.26	—	—	17cm×ト P4→挖立柱建物2 P1
P5	40	26.11	18	55.23	—	8	21cm×ト P5→挖立柱建物2 P4
P6	45	41	21	55.15	—	8	29cm×ト
P7	40	27	19	55.22	—	5	30cm×ト
P8	46	38	22	55.19	—	10	21cm×ト Po46出土

柱間寸法(断行直角)

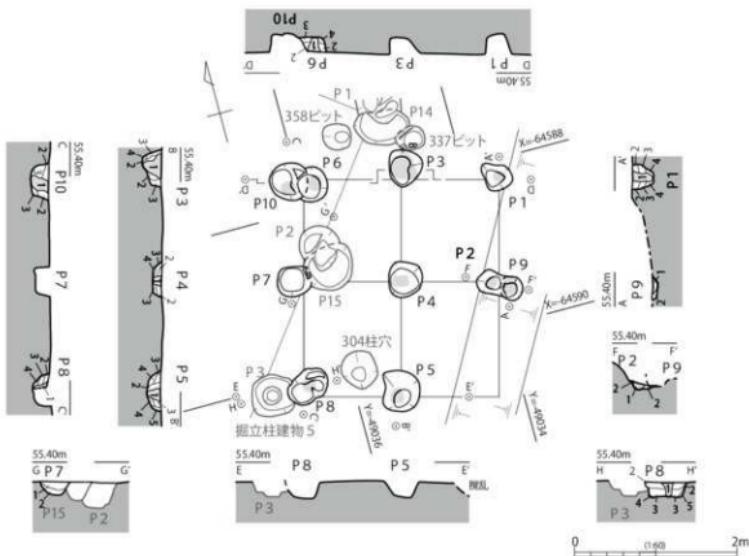
No.	柱間寸法 (m)
P1-P6	4.0
P4-P5	4.4
P6-P8	4.2

柱間寸法(断行直角)

No.	柱間寸法 (m)
P1-P2	2.1
P2-P7	3.2
P3-P8	4.2

柱間寸法(断行直角)

No.	柱間寸法 (m)
P1-P2	2.2
P2-P3	1.8
P6-P7	1.9
P4-P6	1.4
P7-P8	1.8



P1

- 1 IOYR2/1 黒褐色 シルト
(縹りやや弱い、径 5mm 程の巨視ブロック少混)
- 2 IOYR2/2 黒褐色 シルト
- 3 IOYR3/2 黒褐色 シルト
(径 1cm 以下の地山ブロック少混)
- 4 IOYR2/1 黒色 中砂混 シルト

P2

- 1 IOYR2/1 黒色 粗砂混 シルト
(径 5mm 程の地山ブロック混)
- 2 IOYR3/2 黑褐色 シルト

P3

- 1 IOYR2/2 黑褐色 シルト
(縹り弱い)
- 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト
(縹りやや弱い、径 1cm 程の地山ブロック混)
- 3 IOYR3/3 喙褐色 シルト
(径 1cm 程の巨視ブロック少混)
- 4 IOYR3/1 黑褐色 中→粗砂混 シルト
(径 2cm 程の地山ブロック混)

P4

- 1 IOYR2/1 黑色 シルト
(縹り弱い)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト
(縹りやや弱い、細緻シルト)
- 3 IOYR3/1 黑褐色 中→粗砂混 シルト
(径 1cm 程の巨視ブロック混)
- 4 IOYR3/3 喙褐色 中→粗砂混 シルト

P5

- 1 IOYR2/1 黑色 シルト
(縹り弱い)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト
(縹り弱い、径 3mm 程の地山ブロック少混)
- 3 IOYR3/1 黑褐色 シルト
- 4 IOYR3/3 喙褐色 中→粗砂混 シルト
(径 5mm 以下の地山ブロック混)
- 5 IOYR3/3 喙褐色 シルト
(縹り弱い)

P6

- 1 IOYR2/1 黑褐色 シルト
(縹りやや弱い)
- 2 IOYR3/2 黑褐色 シルト
(縹りやや弱い、径 2mm 以下の地山ブロック少混)
- 3 IOYR2/1 黑褐色 シルト
(径 1cm 以下の地山ブロック混)
- 4 IOYR2/2 黑褐色 シルト

P7

- 1 IOYR2/2 黑褐色 シルト
(縹り弱い)
- 2 IOYR3/3 喙褐色 シルト
(縹り弱い、径 1cm 程の地山ブロック混)

P8

- 1 IOYR2/2 黑褐色 シルト
(縹り弱い、径 1cm 程の地山ブロック混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト
(縹りやや弱い、径 1cm 程の巨視ブロック少混)
- 3 IOYR3/2 黑褐色 中→粗砂混 シルト
(径 3mm 以下の地山ブロック多混)
- 4 IOYR3/3 喙褐色 中→粗砂混 シルト
(縹りやや強い)
- 5 IOYR3/3 喙褐色 シルト
(縹り弱い)

P9

- 1 IOYR2/1 黑色 シルト
(縹りやや弱い、径 5mm 程の地山ブロック混)
- 2 IOYR3/2 黑褐色 中砂混 シルト
(径 1cm 程の地山ブロック混)

P10

- 1 IOYR2/1 黑色 シルト
(縹り弱い、径 1cm 程の地山ブロック少混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 シルト
(縹りやや弱い)

- 3 IOYR3/1 黑褐色 中砂混 シルト
(径 1cm 以下の地山ブロック少混)

第58図 掘立柱建物 9

第17表 挖立柱建物9遺構計測表

柱穴 No.	断面 (cm)			底面の標高 (m)	柱軸跡直徑 (cm)	柱のあたり 直徑 (cm)	測定時遺構名	備考	柱間寸法 (平行範囲)			柱間寸法 (垂行範囲)		
	長軸	短軸	深さ						P3-P5	28	P1-P6	23	P1-P10	26
P1	40	24	24	54.92	-	-	119ビット	-	P6-P8	25	P2-P7	24	P2-P9	25
P2	29	28	11	54.83	-	8	129ビット	-	P2-P9	25	P7-P9	26	P7-P10	26
P3	46	41	22	54.93	-	10	122ビット	-	P6-P10	25	P1-P2	13	P1-P3	12
P4	47	45	10	55.06	-	-	123ビット	-	P3-P4	14	P2-P4	11	P3-P6	11
P5	56	52	17	54.99	-	5	124ビット	P6→P10	P4-P5	14	P3-P10	14	P4-P7	13
P6	44	32(3.1)	18	54.96	-	8	126ビット	P6→P10	P6-P7	12	P7-P8	13	P4-P9	13
P7	42	37	16	55.00	-	-	127ビット	P2→P9	P5-P8	11	P5-P9	11	P5-P10	11
P8	54	39	20	54.94	-	7	128ビット	P6を切る	P7-P10	12	P7-P10	12	P7-P10	12
P9	36(3.1)	29	6	54.87	-	-	129ビット	P2→P9 廃棄に切られる	P1-P2	13	P1-P2	13	P1-P2	13
P10	48	47	22	54.92	-	11	125ビット	P6を切る	P1-P10	25	P1-P10	25	P1-P10	25

掘立柱建物9 (第47・58図、第7・17表、図版22・30・33・36)

1区6A-9d・10dグリッドにおいて、表土および搅乱掘削後、Ⅲ層上面で検出した。搅乱によって南東隅の柱穴が失われているが、本来は桁行2間(2.5m)、梁行2間(2.3m)の総柱建物とみられ、主軸はN-15°-Eになり、平面積は5.8m²を測る。本建物は掘立柱建物5と重複しており、本建物P7・8がそれぞれ掘立柱建物5のP15・3を切ることから、これに後出する建物と判断できる。P2・9、P6・10に認められる重複から、本建物は部分的な補修または、1回の建て替えがなされたと考えられる。この前後で建物の規模に大きな変化はないが、P9が東側に、P10が西側に設置されたため、建て替え後は柱筋の通りがやや悪くなっている。柱間寸法は桁筋が1.2~1.4m、梁筋は1.1~1.4mを測る。

柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、長軸29~56cmを測る。断面形は逆台形あるいは楕形を呈し、底面の標高は54.83~55.06mである。

遺物が出土していないため、本建物の詳細な時期は不明であるが、掘立柱建物5に後出することから、7世紀後半以降に建てられたものと考えられる。

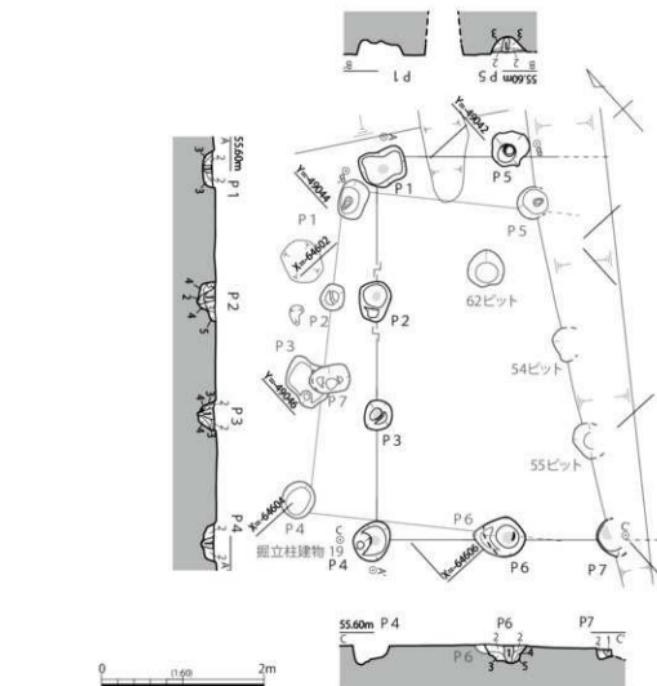
掘立柱建物10 (第59~61図、第7・18・60・72表、図版22・30・40・41・93・94)

1区7A-1eグリッドにおいて、表土掘削後、Ⅲ層上面で検出した。調査区間に位置するため、全体の規模は不明であるが、P1~4を桁筋として捉えれば、主軸はN-43°-Eとなり、桁行は3間(4.6m)、梁行は2間(3.0m)以上の隅柱建物と判断できる。推定される平面積は13.8m²である。本建物は掘立柱建物19と重複する。本建物のP6が、掘立柱建物19のP6を切ることから、これに後出する建物と判断できる。柱筋の通りはよく、柱間寸法は桁筋が1.4mまたは1.6m、梁筋は1.2~1.8mを測る。

柱穴の平面形は隅丸方形形状を呈するものや円形または不整な円形を呈するものがあり、長軸39~56cmを測る。柱穴底面の標高は、55.18~55.28mである。柱は建物の廃絶時に抜き取られている。

遺物はPo47を図化した。Po47はP3の埋土から出土している。土器壺甕であり、口縁が「く」の字状に外反する。また、図化はしていないが、P3埋土中より桃核Se1が出土している。混入した遺物の可能性もあるが、掘立柱建物30でも出土しており、祭祀行為によるものである可能性も考えられる。

本建物の帰属時期は、出土遺物と周辺の遺構の検出状況から判断し、古代に帰属すると考えられる。



- P1
 1 10YR2/1 黒褐色 シルト (締り弱い)
 2 10YR2/2 黒褐色 中砂混シルト (締りやや弱い)
 3 10YR3/2 黒褐色 シルト (径 5mm 以下の地山ブロック混)

- P2
 1 10YR2/2 黒褐色 シルト (締り弱い)
 2 10YR3/2 黑褐色 シルト (締りやや弱い、径 1cm 程の地山ブロック混)
 3 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト
 4 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (径 1cm 以下の地山ブロック多混)
 5 10YR3/2 黑褐色 シルト

- P3
 1 10YR2/1 黒褐色 中砂混シルト (締り弱い)
 2 10YR2/2 黑褐色 シルト (締りやや弱い)
 3 10YR2/2 黑褐色 シルト
 4 10YR3/2 黑褐色 中砂混シルト (地山ブロック径 3mm 以下少混)

- P4
 1 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (締り弱い、締密混)
 2 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト
 P5
 1 10YR2/1 黑褐色 シルト (締り弱い、径 2mm 以下の地山ブロック少混)
 2 10YR2/2 黑褐色 シルト (径 5mm 以下の地山ブロック少混)
 3 10YR3/2 黑褐色 シルト (締りやや弱い、径 3mm 以下の地山ブロック少混)

- P6
 1 10YR2/2 黑褐色 中砂混シルト (締りやや弱い)
 2 10YR3/2 黑褐色 中砂混シルト (締りやや弱い)
 3 10YR3/2 黑褐色 中砂混シルト (径 3mm 以下の地山ブロック多混)
 4 10YR2/2 黑褐色 シルト
 5 10YR3/2 黑褐色 中砂混シルト (締り弱い)
 P7
 1 10YR2/2 黑褐色 シルト (締りやや弱い、径 2mm 以下の地山ブロック少混)
 2 10YR3/2 黑褐色 シルト (径 1cm 程の地山ブロック混)



Po47

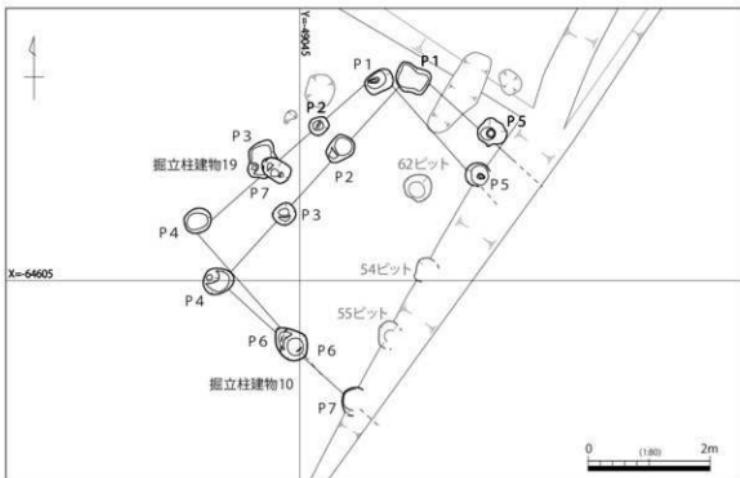
0 S=1:4 10cm

第60図 掘立柱建物10出土土器類

第59図 掘立柱建物10

第18表 挖立柱建物10遺構計測表

柱穴 No.	遺構 (cm)			床面の標高 (m)	柱根跡直径 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	調査時遺構名	備考	柱間寸法 (航行範囲)		柱間寸法 (航行範囲) No. P4-P7 P5-P6	柱間寸法 (航行範囲) No. P1-P5 P4-P6 P2-P3 P3-P4 P4-P7	柱間寸法 (航行範囲) No. P1-P7 30 (2間)	
	長軸	短軸	深さ						柱47, 地上出土	柱52ビット	柱54ビット			
P.1	56	43	15	55.26	-	5	60ビット					P.1-P.4 4.6	P.5-P.6 4.8	
P.2	49	41	20	55.26	-	6	60ビット							
P.3	39	27	23	55.19	-	4	58ビット	Po47, 地上出土						
P.4	49	43	19	55.24	-	6	52ビット							
P.5	48	47	21	55.18	-	4	52ビット							
P.6	50	49	22	55.22	-	5	54ビット	掘立柱建物19 P6 遺構削除時の工具痕跡 あり						
P.7	47.0±	24.1±	13	55.28	-	-	56ビット	表面は断条状						



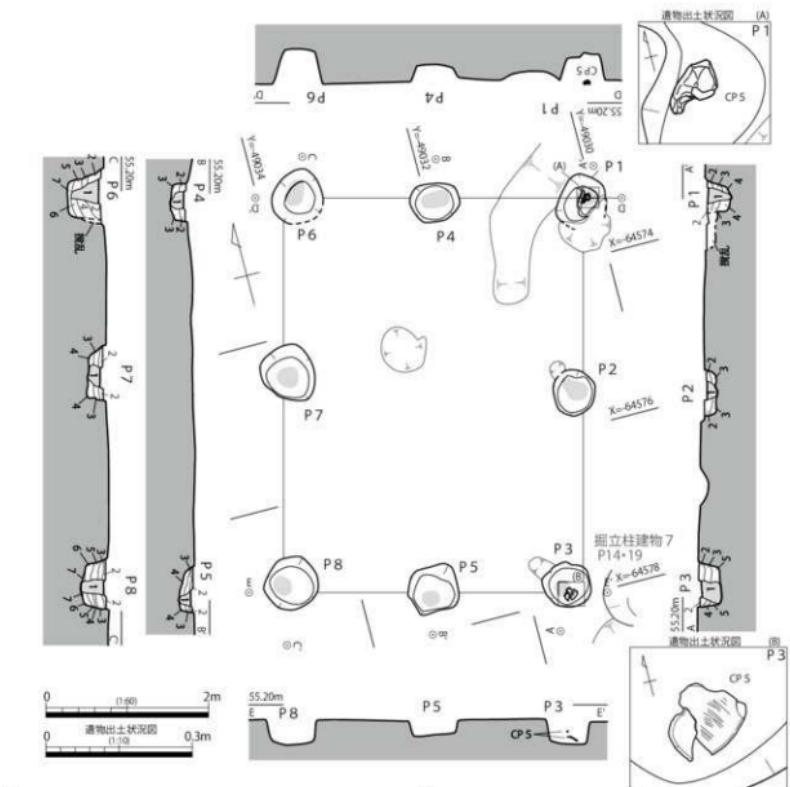
第61図 挖立柱建物10・19位置図

掘立柱建物11 (第62・63図、第7・19・67表、図版22・30・37・42・43・92・93)

1区6A-8c・8dにおいて、I層掘削後、II層上面で検出した。桁行2間(4.9m)、梁行2間(3.6m)の側柱建物である。主軸はN-15°-Eにとり、平面積は17.6m²を測る。柱間寸法は、桁筋が2.2~2.6m、梁筋は1.6~1.9mであり、柱筋の通りはよい。

柱穴の平面形は不整な円形または隅丸方形状を呈し、長軸56~73cmを測る。断面形は逆台形状であり、底面の標高は四隅の柱穴(P.1・3・6・8)で深く54.54~54.72m、それ以外は54.71~54.82mとやや浅い。いずれの柱穴も埋め土は丁寧に互層に搞き固められ、柱が抜き取られた痕跡が認められた。P.1・3の抜き取り痕跡からは、分割されたCP.5の破片が出土しており、建物の廃絶に伴う祭祀の可能性を示すものとして特筆される。

遺物はCP.5のほか、P.8から出土したCP.6を図化した。CP.5・6は土製支脚である。CP.5は斜め上方に突起が伸びて先端が下がり気味に尖る。頂部の突起の間に円形の孔をもつ。CP.5の脚部は



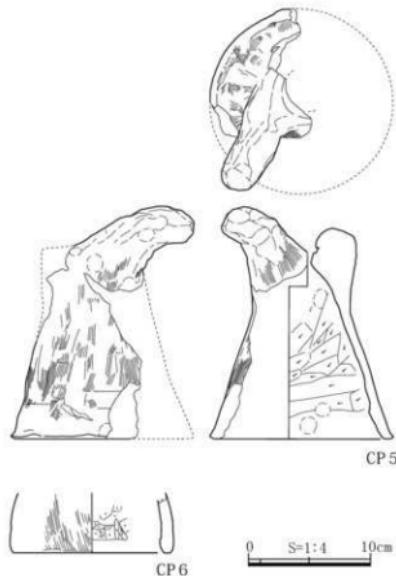
第62図 挖立柱建物11

やや外反するのに対し、CP 6は内湾し端部は丸く収める。いずれも脚部外面はハケ、内面はケズリで調整される。CP 5は岩橋分類III-C類土製支脚に分類される（岩橋2010）。

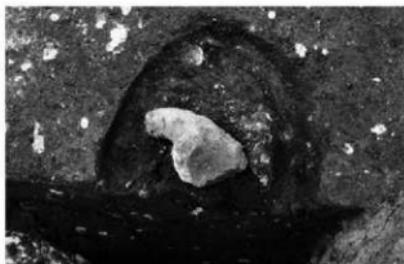
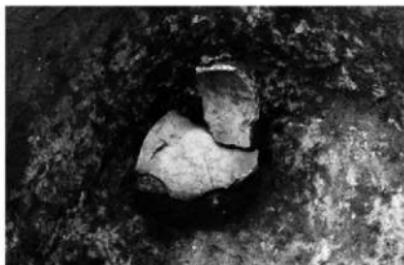
本建物は、出土遺物と周辺の遺構の検出状況から判断し、古代に帰属すると考えられる。

第19表 挖立柱建物11遺構計測表

No.	発掘 (cm)			底面の標高 (cm)	柱脚跡直径 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	調査時遺構名	備考	柱間寸法 (航行船渠)		柱間寸法 (航行船渠)	
	長軸	短軸	深さ						No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P1	67	55.1	33	54.59	—	6	183ピット	柱脚は既述に明らかなる CP5が出土 (P3出土片 と組合)	P1-P2	49	P1-P6	26
P2	56	53	18	54.77	—	6	184ピット		P1-P5	49	P2-P7	25
P3	62	54	29	54.72	—	—	186ピット	(CP5が出土 (P1出土片 と組合))	P6-P7	48	P3-P8	24
P4	58	55	21	54.77	—	5	186ピット					
P5	70	64	19	54.62	—	6	186ピット					
P6	62	62	45	54.54	—	—	186ピット					
P7	72	63	23	54.78	—	—	190ピット					
P8	68	63	35	54.70	—	—	191ピット	CP6が出土				



第63図 挖立柱建物11出土土製支脚

写真10 挖立柱建物11 P 1
遺物 (CP 5) 出土状況 (東から)写真11 挖立柱建物11 P 3
遺物 (CP 5) 出土状況 (北東から)

掘立柱建物12 (第64~66・80図、第7・20・60表、図版20・30・37・44~47・59・93)

1・2区A-7c・8b・8cグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ・Ⅳ層上面で検出した側柱建物である。本建物の北東側梁筋の柱穴P 1・11、P 5は掘立柱建物20の柱穴P 4・12、P 6と重複し、これに後出することを確認している。南東側桁筋の柱穴(P 1~4・11~14)と西隅の柱穴(P 10・15)が重複しており、1回の建て替えがあったと想定される。建て替えの前後ともに桁筋の柱の通りはよいが、東西側梁筋はやや悪い。建て替え前の建物を掘立柱建物12a、建て替え後のものを掘立柱建物12bとする。

本建物の帰属時期は、出土遺物から判断し、7世紀末から8世紀前半と考えられる。

以下、掘立柱建物12a・12bについて各段階ごとに述べる。

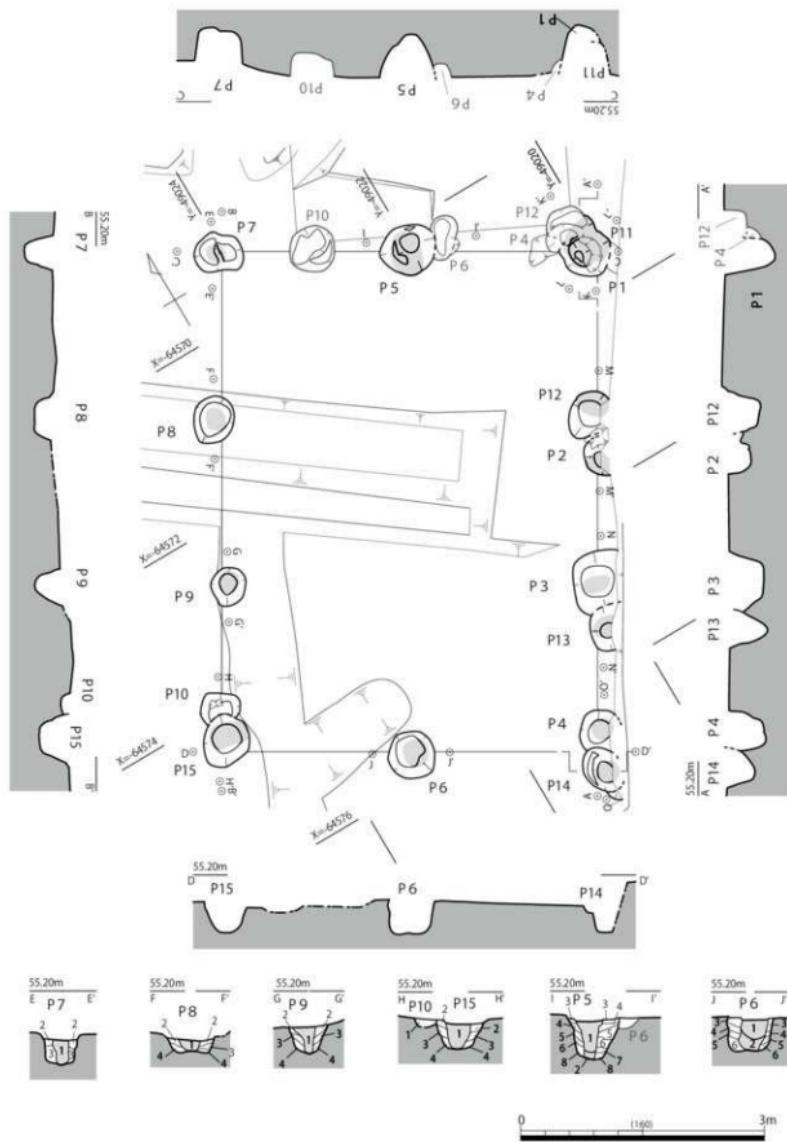
掘立柱建物12a

P 1~10で構成される。桁行3間(5.8m)、梁行2間(4.7m)の建物である。主軸はN-31°-Eにとり、平面積は27.3m²を測る。柱間寸法は桁筋が1.4~2.5m、梁筋は2.1~2.4mを測る。柱穴の平面は不整な円形または隅丸方形状を呈し、遺存状態が悪いP 2以外の規模は長軸50~68cmを測る。断面形は逆台形を呈し、柱穴底面の標高は54.28~54.77mである。いずれの柱穴についても、建物廃絶時に柱は抜き取られている。

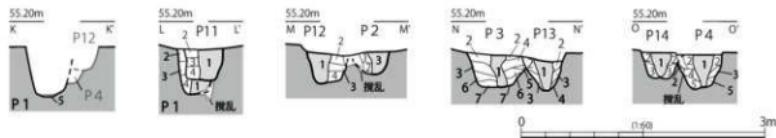
遺物はPo49~52・54を図化した。Po49・54はP 7埋土中、Po50はP 4・14いずれかの埋土中、Po51はP 4埋土中、Po52はP 6埋土中より出土している。Po49は赤彩土師器の皿の底部であり、内外面にヘラケズリの痕跡を残す。Po50は体部が内湾気味に立ち上がる赤彩土師器の塊であり、内外面ともミガキ調整が施される。Po51は外傾した口縁をもつ赤彩土師器の壺もしくは皿である。内面は斜放射状暗文で加飾されている。Po52は口縁端部が下方へ折れ曲がる須恵器壺蓋である。Po54は須恵器壺の体部である。

第20表 掘立柱建物12遺構計測表

柱穴							12a柱列寸法(桁行範囲)							12b柱列寸法(桁行範囲)						
No.	概高 (cm)	柱頭	柱脚	柱脚表面高 (cm)	柱脚表面底高 (cm)	柱のあたり (cm)	測定位置番号	摘要	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)		
P 1	61	55.1	60	54.26	—	—	5003	掘り柱建物20P 4・12 →P 1・P 11	P 1-P 4	5.8	P 5-P 6	6.2	P 3-P 9	6.0	P 4-P 10	6.7	P 1-P 7	4.5		
P 2	35.0	39.1	28	54.54	—	—	5015	現存に認められる 遺構の一端は調査区分 P 3-P 9	P 2-P 5	1.5	P 3-P 6	1.5	P 4-P 5	1.4	P 4-P 6	1.4	P 5-P 6	1.4		
P 3	48.5	52.3	39	54.39	—	—	5016	P 3-P 9 現存に認められる 遺構の一端は調査区分 P 3-P 9	P 3-P 6	1.8	P 3-P 7	1.8	P 4-P 5	2.0	P 5-P 6	2.1	P 6-P 7	2.3		
P 4	53.5	51.1	44	54.37	—	5	180ビット	P 4またはP 14-P 6-P 10 埋土	P 1-P 2	2.5	P 2-P 3	1.5	P 3-P 4	1.8	P 4-P 5	2.1	P 5-P 6	2.1		
P 5	59	58	53	54.36	—	13	171ビット	現存に認められる 遺構の一部は調査区分 P 6-P 8	P 2-P 3	1.5	P 3-P 4	1.8	P 4-P 5	2.0	P 5-P 6	2.3	P 6-P 7	2.4		
P 6	62	56	41	54.47	—	—	179ビット	P 6埋土	P 6-P 7	2.0	P 7-P 8	2.0	P 8-P 9	2.1	P 9-P 10	2.4	P 10-P 11	2.4		
P 7	60	50	38	54.29	—	10	174ビット	P 6-P 8-P 10	P 7-P 8	2.0	P 8-P 9	2.1	P 9-P 10	2.4	P 10-P 11	2.4	P 11-P 12	2.4		
P 8	61	51	29	54.46	—	—	175ビット	P 6-P 8-P 10	P 8-P 9	2.1	P 9-P 10	2.4	P 10-P 11	2.4	P 11-P 12	2.4	P 12-P 13	2.4		
P 9	50	42	32	54.43	—	8	176ビット	P 6-P 8-P 10	P 9-P 10	2.1	P 10-P 11	2.4	P 11-P 12	2.4	P 12-P 13	2.4	P 13-P 14	2.4		
P 10	51	30.0	12	54.77	—	—	176ビット	P 6-P 8-P 10	P 10-P 11	2.4	P 11-P 12	2.4	P 12-P 13	2.4	P 13-P 14	2.4	P 14-P 15	2.4		
P 11	47	—	38	54.46	—	—	5012	現存に認められる 遺構の一部は調査区分 P 7-P 11	P 7-P 12	1.5	P 8-P 13	1.6	P 9-P 14	1.6	P 10-P 15	1.6	P 11-P 16	1.6		
P 12	64	41	37	54.03	—	—	5014	現存に認められる 遺構の一端は調査区分 P 8-P 12	P 8-P 13	1.5	P 9-P 14	1.6	P 10-P 15	1.6	P 11-P 16	1.6	P 12-P 17	1.6		
P 13	54	25.0	26	54.36	—	5	180ビット	P 3-P 13	P 9-P 15	1.6	P 10-P 16	1.6	P 11-P 17	1.6	P 12-P 18	1.6	P 13-P 19	1.6		
P 14	46.5	40.5	36	54.52	—	—	181ビット	P 6埋土	P 11-P 17	1.9	P 12-P 18	2.0	P 13-P 19	2.0	P 14-P 20	2.0	P 15-P 21	2.0		
P 15	65	27	36	54.50	—	—	177ビット	P 6埋土	P 12-P 18	2.0	P 13-P 19	2.0	P 14-P 20	2.0	P 15-P 21	2.0	P 16-P 22	2.0		



第64図 据立柱建物12 (1)



P1

- 1 IOYR3/1 黒褐色 シルト
(IV層ブロック径 1~3cm 多混。粘性やや弱い)
- 2 IOYR3/1 黒褐色 シルト
(IV層ブロック径 3cm 多混。粘性やや弱い)
- 3 IOYR4/1 黒褐色 シルト (粘性やや強い)
- 4 IOYR3/1 黑褐色 粗粒砂じりシルト (粘性やや弱い)
- 5 IOYR6/4 にぶい 黄褐色 シルト
- IOYR3/1 黑褐色 シルト (充填したか。縦り弱い)

P2

- 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック径 1cm一部混。粘性強い)
- 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック径 6cm一部混。粘性強い)

P3

- 1 IOYR2/1 黑褐色 粗粒砂シルト
(縦り弱い。径 1cm以下のIV層ブロック混)
- 2 IOYR3/1 黑褐色 和砂混シルト
(縦りやや弱い。径 1cm以下のIV層ブロック多混)
- 3 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト (縦り弱い)
- 4 IOYR2/2 黑褐色 中~粗粒混シルト
(縦りやや弱い。径 3cm以下のIV層ブロック多混)
- 5 IOYR3/2 黑褐色 中砂混シルト
- 6 IOYR3/1 黑褐色 和砂混シルト (径 4cm以下のIV層ブロック混)
- 7 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト (径 2cm程度のIV層ブロック混)

P4

- 1 IOYR2/1 黑色 中~粗粒混シルト
(縦り弱い。径 1cm以下のIV層ブロック・細礫混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 中~粗粒混シルト
(縦りやや弱い。径 1cm以下のIV層ブロック混)
- 3 IOYR2/1 黑褐色 中砂混シルト (径 5mm以下のIV層ブロック混)
- 4 IOYR2/2 黑褐色 和砂混シルト
(径 4cm以下のIV層ブロック・細礫混)
- 5 IOYR3/2 黑褐色 シルト (径 5mm以下のIV層ブロック混)

P5

- 1 IOYR2/1 黑色 中砂混シルト
(縦り弱い。径 1~2cm 程のIV層ブロック・細礫少混)
- 2 IOYR3/1 黑褐色 和砂混シルト
(縦り弱い。径 1~2cm 程のIV層ブロック多混)
- 3 IOYR2/1 黑褐色 中~粗粒混シルト (径 1cm 程のIV層ブロック混)
- 4 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト
- 5 IOYR3/1 黑褐色 中砂混シルト (径 3mm以下のIV層ブロック混)
- 6 IOYR2/2 黑褐色 シルト (径 1cm 程のIV層ブロック混)
- 7 IOYR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)
- 8 IOYR2/2 黑褐色 中~粗粒混シルト (径 1cm 程のIV層ブロック・細礫混)

P6

- 1 IOYR2/2 黑色 中~粗粒混シルト
(縦りやや弱い。径 1~2cm 程のIV層ブロック混)
- 2 IOYR3/2 黑褐色 シルト (縦り弱い)
- 3 IOYR3/2 黑褐色 中砂混シルト (縦りやや弱い。径 0.5~2cm 程の重層ブロック混)
- 4 IOYR3/2 黑褐色 シルト (縦り弱い)

P7

- 1 IOYR2/2 黑褐色 シルト
(縦りやや弱い。径 1cm以下のIV層ブロック混)
- 2 IOYR3/1 黑褐色 中~粗粒混シルト (径 1cm以下のIV層ブロック混)
- 3 IOYR2/1 黑褐色 中~粗粒混シルト (径 1~2cmのIV層ブロック少混)

P8

- 1 IOYR2/2 黑褐色 中~粗粒混シルト
(径 1cm以下のIV層ブロック・細礫混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 中~粗粒混シルト (径 3mm以下のIV層ブロック多混)
- 3 IOYR2/1 黑褐色 中~粗粒混シルト (径 5mm以下のIV層ブロック混)
- 4 IOYR3/1 黑褐色 中砂混シルト
(縦り弱い。径 1~2cm の IV層ブロック多混)

P9

- 1 IOYR3/2 黑褐色 中砂混シルト
(縦り弱い。径 3mm以下のIV層ブロック少混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト
(縦りやや弱い。径 5mm以下のIV層ブロック)
- 3 IOYR2/1 黑褐色 シルト (径 1cm以下のIV層ブロック混)
- 4 IOYR3/1 黑褐色 中砂混シルト (径 3mm以下のIV層ブロック多混)

P10

- 1 IOYR3/2 黑褐色 シルト

- P11
1 IOYR2/1 黑色 細粒砂じりシルト
(IV層が径 1~5mmの斑状に混。粘性やや強い)
- 2 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂じりシルト
(IV層が径 1~5mmの斑状に混。粘性やや弱い)
- 3 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IV層が径 1~5mmの斑状に混。粘性やや弱い)

P12

- 1 IOYR2/1 黑色 シルト
(IV層が径 1~5cmの斑状に混。粘性やや弱い)
- 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
- 3 IOYR3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック径 5mm一部混。粘性弱い)
- 4 IOYR3/2 黑褐色 シルト
(IV層ブロック径 0.5~5cm 多混。粘性弱い)

P13

- 1 IOYR3/2 黑褐色 シルト
(縦り弱い。径 3cm程度のIV層ブロック混)
- 2 IOYR3/2 黑褐色 シルト
- 3 IOYR2/1 黑色 シルト
- 4 IOYR2/2 黑褐色 シルト (径 5mm以下のIV層ブロック混)

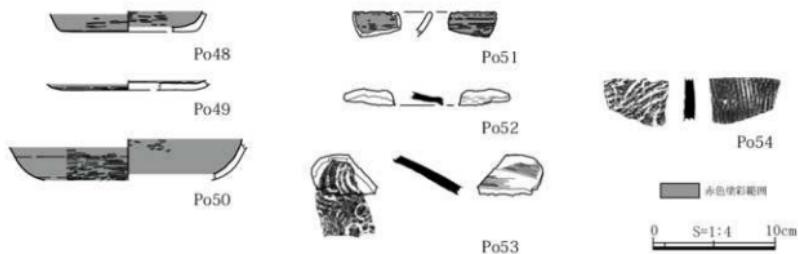
P14

- 1 IOYR2/1 黑褐色 中砂混シルト
(縦り弱い。径 1cm以下のIV層ブロック混)
- 2 IOYR2/2 黑褐色 中砂混シルト
(縦り弱い。径 5mm以下のIV層ブロック少混)
- 3 IOYR3/2 黑褐色 中砂混シルト
(縦りやや弱い。径 3mm以下のIV層ブロック混)

P15

- 1 IOYR2/1 黑色 中~粗粒混シルト
(縦り弱い。径 5mm以下のIV層ブロック多混。細礫混)

第65図 据立柱建物12 (2)



第66図 掘立柱建物12出土土器・須恵器

掘立柱建物12b

P 11～14・5～9・15で構成される。桁行3間(6.6m)、梁行2間(4.8m)の側柱建物である。主軸はN-31°-Eにとり、平面積は31.0m²を測る。柱間寸法は桁筋が1.8～2.8m、梁筋は2.3～2.4mを測る。柱穴の平面は不整な円形または隅丸方形状または呈し、長軸46～65cmを測る。断面形は逆台形を呈し、柱穴底面の標高は54.29～54.52mである。いずれの柱穴についても、建物廃絶時に柱は抜き取られている。

遺物はPo48・53を図化した。Po48はP14埋土中、Po53はP15の埋土中から出土している。Po48は赤彩土器である。平底から体部が外傾する壺であり、内外面ともミガキで調整される。Po53は須恵器壺の肩部であり、外面にカキメが施される。

掘立柱建物13（第67図、第7・21表、図版50）

1区6A-4h・5hグリッドにおいて、I層掘削後、II層上面で検出した。調査区際に位置するため、全体の規模は明らかでないが、P1～4を3間(5.2m)の桁行とみれば、梁行は1間(1.6m)以上の総柱建物と考えている。主軸はN-70°-Wにとり、桁行と梁行に開まれる面積は8.3m²を測る。

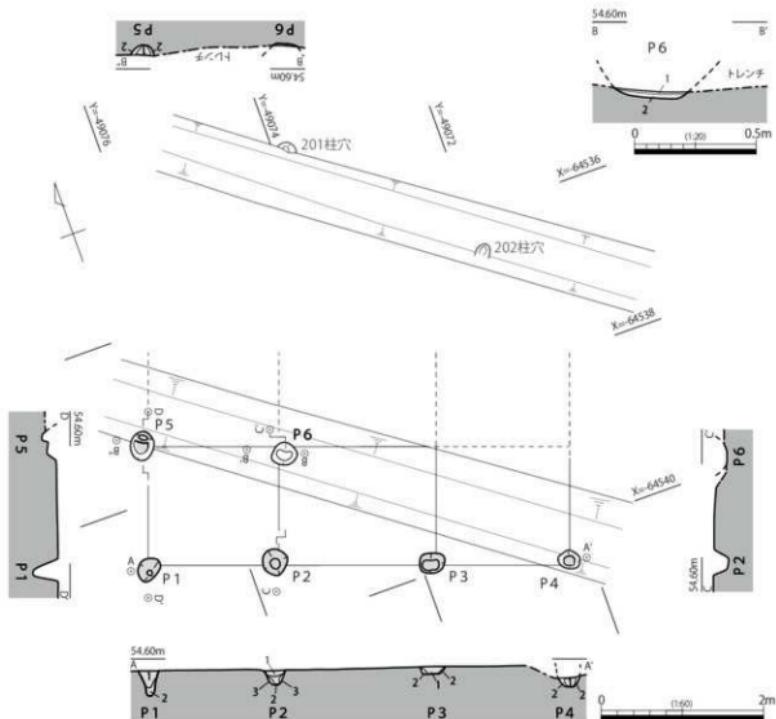
柱筋の通りはやや悪く、柱間寸法は桁筋が1.6～1.9m、梁筋は1.4～1.6mを測る。柱穴の平面形は不整な円形を呈し、長軸27～36cm、検出面からの深さは3～31cmを測る。柱穴底面の標高は、54.15～54.41mである。

遺物が出土しておらず、詳細な時期は不明であるが、主軸が他の多くの建物とほぼ直行することから、本建物も古代に属するものと考えたい。

掘立柱建物14（第68・69図、第7・22・60表、図版51・92）

1区6A-7c・7dグリッドにおいて、II層掘削後、III層上面で検出した。桁行2間(4.3m)×梁行2間(3.3m)の側柱建物と考えており、北西側桁行筋の柱穴は擾乱によって消失しているものと判断している。主軸はN-28°-Eにとり、平面積は14.2m²を測る。

P 3・8およびP 4・9、P 5・10が位置をやや南にずらして掘り直されていることから、本建物は1回の建て替えが行われたことが確認できる。建て替え前後で規模に大きな変化は認められない。柱の通りは比較的よく、柱間寸法は桁筋がP 1～2が1.5m、P 2～3が2.6m、P 2～8が2.8mを測り、



P1	P4
1 IOYR3/2 黒褐色 シルト (縹り弱い)	1 IOYR2/1 黒色 シルト (縹り弱い、径0.5~1cm程度の地山ブロック・苔層ブロック混)
2 IOYR2/2 黒褐色 シルト (縹り弱い)	2 IOYR3/2 黒褐色 シルト (縹り弱い、径5mm程の地山ブロック少混)
P2	P5
1 IOYR3/2 黒褐色 シルト (縹り弱い)	1 IOYR2/2 黒褐色 シルト (縹りやや弱い)
2 IOYR2/2 黒褐色 シルト (縹り弱い)	2 IOYR3/2 黒褐色 シルト (縹りやや弱い)
3 IOYR3/3 嗅褐色 シルト (径2cm程の地山ブロック混)	P6
P3	1 IOYR2/1 黒色 シルト (縹りやや弱い)
1 IOYR3/2 黑褐色 シルト (縹り弱い)	2 IOYR3/3 嗅褐色 シルト (径5mm程の地山ブロック混)
2 IOYR3/3 嗅褐色 シルト (縹り弱い)	

第67図 挖立柱建物13

第21表 挖立柱建物13遺構計測表

柱穴

No.	規格 (cm)			表面の標高 (m)	表面斜度 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	調査時遺構名	備考
	長軸	短軸	深さ					
P1	32	25	31	5415	—	—	194ピット	
P2	33	32	17	5428	—	5	193ピット	
P3	31	26	10	5441	—	—	199ピット	
P4	27	23	11	5426	—	—	200ピット	トレンチに切られる
P5	36	29	13	5431	—	6	196ピット	トレンチに切られる
P6	33	28	3	5429	—	—	195ピット	トレンチ底面で露出、適合試験なし。

柱間寸法(柱間距離)

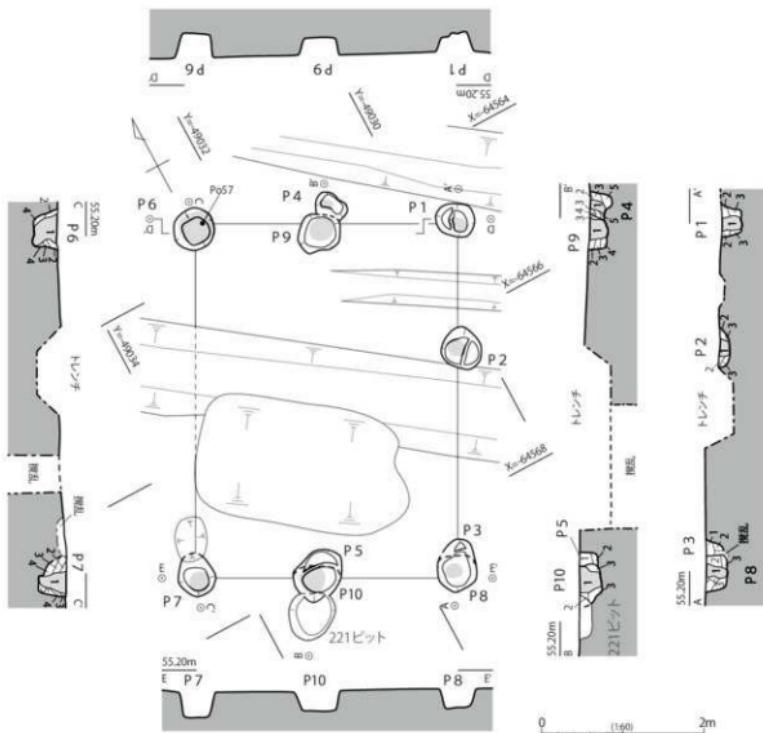
No.	柱間寸法 (m)
P1-P4	5.2

柱間寸法(柱間方向)

柱間寸法(柱間方向)

No.	柱間寸法 (m)
P1-P5	1.6
P2-P6	1.4

柱間寸法(柱間方向)



P1

1 IOYR3/1 黒褐色シルト (縦りやや弱い)、微細～径5mmV層ブロック・炭化物ブロック混

2 2.SY3/2 黒褐色シルト (縦り強い)、微細なV層ブロック混

3 2.SY3/1 黒褐色シルト (縦り強い)、微細なV層ブロック少混)

P2

1 IOYR3/1 黒褐色シルト (縦りやや強い)、直層が斑状に多混。微細～径5mmV層ブロック混。無縫～径3mm炭化物ブロック混)

2 2.SY3/1 黑褐色シルト (縦り強い)、微細なV層ブロック少混)

3 2.SY3/2 黑褐色シルト (縦り強い)、微細なV層ブロック混)

P3

1 2.SY3/1 黑褐色シルト (縦りやや弱い)、微細なV層ブロック混)

2 2.SY3/2 黑褐色シルト (縦り強い)、微細なV層ブロック混)

P4

1 2.SY4/2 噴灰黄色シルト (縦りやや弱い)、微細～径3mmV層ブロック混)

2 IOYR2/2 黑褐色シルト (縦りやや弱い)、微細なV層ブロック混)

3 2.SY3/1 黑褐色シルト (縦りやや弱い)、微細なV層ブロック多混)

4 2.SY4/2 噴灰黄色シルト (縦りやや弱い)、微細～径0.3cmV層ブロック多混)

5 2.SY3/1 黑褐色シルト (縦り強い)、微細～径1cmV層ブロック混)

P5

1 2.SY4/2 噴灰黄色シルト (縦り強い)、2.SY3/1 黑褐色シルトが斑状に混)

2 2.SY3/1 黑褐色シルト (縦り強い)、微細～径3mmV層ブロック混。

微細な炭化物混)

P6

1 IOYR3/1 黑褐色シルト (縦りやや弱い)、微細～径1cmV層ブロック混。

微細炭化物ブロック混)

2 2.SY3/2 黑褐色シルト (縦り強い)、微細なV層ブロック混)

3 2.SY3/1 黑褐色シルト (縦り強い)、微細なV層ブロック混)

4 2.SY3/2 黑褐色シルト (縦りやや弱い)、微細～径1cmV層ブロック混)

P7

1 IOYR3/1 黑褐色シルト (縦りやや弱い)、微細～径5mmV層ブロック混。

2 2.SY3/1 黑褐色シルト (縦り強い)、微細なV層ブロック少混)

3 2.SY3/2 黑褐色シルト (縦り強い)、微細なV層ブロック混)

4 2.SY3/1 黑褐色シルト (縦り強い)、微細～径1cmV層ブロック少混)

5 2.SY3/2 黑褐色シルト (縦り強い)、微細なV層ブロック少混)

1 IOYR3/1 黑褐色シルト (縦りやや弱い)、微細～径5mmV層ブロック混。

2 2.SY3/1 黑褐色シルト (縦り弱い)、微細なV層ブロック少混)

3 2.SY3/2 黑褐色シルト (縦り弱い)、微細なV層ブロック混)

1 IOYR3/1 黑褐色シルト (縦りやや弱い)、微細～径1cmV層ブロック・炭化物ブロック混)

2 2.SY3/2 黑褐色シルト (縦り弱い)、微細なV層ブロック混)

3 2.SY3/1 黑褐色シルト (縦り弱い)、微細～径1cmV層ブロック混)

1 IOYR3/1 黑褐色シルト (縦りやや弱い)、微細～径1cmV層ブロック混。

2 2.SY3/1 黑褐色シルト (縦り弱い)、微細～径1cmV層ブロック混)

3 2.SY3/1 黑褐色シルト (縦り弱い)、微細ブロックが斑状に混。

微細～径5mmV層ブロック混)

第68図 挖立柱建物14

第22表 掘立柱建物14遺構計測表

柱穴 No.	範囲 (cm)			底面の標高 (m)	柱底鉛直度 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	調査時遺構名	参考	柱間寸法 (桁行距離)		柱間寸法 (通行距離) (m)
	長軸	短軸	深さ						No.	柱間寸法 (m)	
P 1	48	41	24	54.56	-	2	213ピット		P 1 - P 3	42	
P 2	30	47	32	54.74	-	3	213ピット		P 1 - P 6	33	
P 3	47	29	18	54.72	-	4	213ピット	P 3 - P 6	P 3 - P 7	22	
P 4	40	27	11	54.56	-	5	213ピット	P 3 - P 6	P 4 - P 5	43	
P 5	32	30	21	54.74	-	6	213ピット	P 3 - P 6	P 4 - P 7	42	
P 6	32	30	21	54.54	-	7	222ピット	Po55, 番地土	P 4 - P 9	43	
P 7	54	47	34	54.62	-	8	222ピット	Po56, 番地土			
P 8	48	45	26	54.73	-	9	216ピット				
P 9	56	50	21	54.61	-	10	217ピット				
P 10	58	34	11	54.69	-	11	219ピット	P 5 - P 10 + Z1ピット			

柱間寸法 (通行距離) (m)		柱間寸法 (通行距離) (m)	
P 1 - P 3	42	P 1 - P 6	33
P 3 - P 7	22	P 4 - P 5	43
P 4 - P 7	42	P 4 - P 9	22
P 5 - P 9	43	P 5 - P 10	43

柱間寸法 (通行距離) (m)		柱間寸法 (通行距離) (m)	
P 1 - P 4	17	P 1 - P 9	17
P 3 - P 5	18	P 4 - P 6	17
P 2 - P 3	26	P 5 - P 7	14
P 2 - P 8	28	P 6 - P 9	16
P 7 - P 10	14	P 8 - P 10	18

建て替えの前後ともに、南西側の間隔が広い。梁筋はP 7 - 5、P 7 - 10で1.4mと狭いほかは1.6~1.8mである。柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、長軸40~58cm、検出面からの深さは12~34cmを測る。柱穴底面の標高は、54.54~54.74mである。土層断面の観察から、柱は建物の廃絶時に抜き取られたと考えられる。

遺物はPo55~57を図化した。Po55はP 7 埋土中、Po56はP 6 埋土中、Po57はP 6 柱抜き取り痕から出土した。Po55・56は須恵器の蓋であり、前者は口縁端部にかえりをもち、後者は内湾気味に口縁で端部を丸く収める。Po57はかえりをもつ須恵器坏である。

本建物の帰属時期は、出土遺物から判断し、7世紀後半と考えられる。

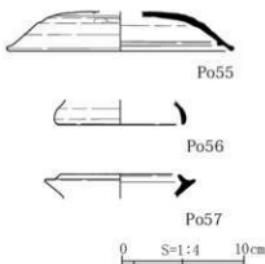
掘立柱建物15 (第70・71・99図、第7・23表、図版52・59)

1・2区6A-6c・6d・7dグリッドにおいて、表土・擾乱掘削後、Ⅲ層上面で検出した。桁行2間(4.7m)、梁行2間(3.6m)の側柱建物である。主軸はN-30°-Eにとり、平面積は16.9m²を測る。P 6・9が重複しており、部分的な補修もしくは建て替えがなされた可能性がある。本建物P 8と掘立柱建物28P 8は重複しており、本建物が後出することを確認している。両建物はほぼ同位置に造営され、主軸が近似し、南西側の梁筋もほぼ同じライン上に位置することから、掘立柱建物28から本建物に建て替えが行われた可能性を考えられる。

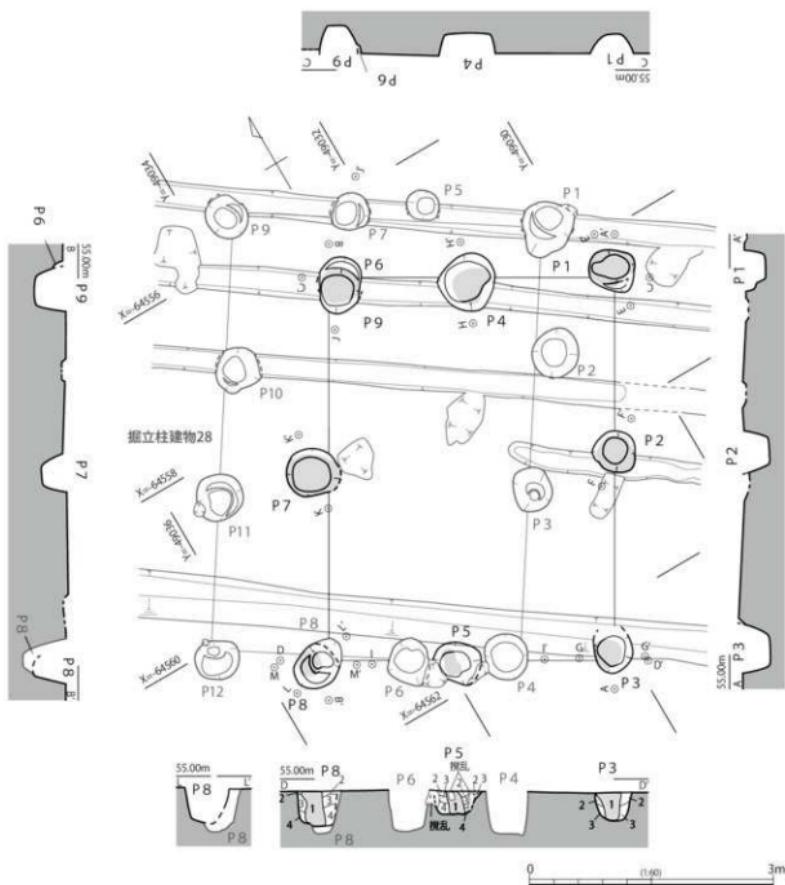
本建物の柱間寸法は桁筋が2.2~2.4m、梁筋は1.5~1.9mを測る。柱穴の平面は円形または不整な円形を呈し、長軸47~71cmを測る。断面形は逆台形を呈し、柱穴底面の標高は54.42~54.69mである。いずれの柱穴についても、建物廃絶時に柱は抜き取られている。

遺物は図化していないが、P 2・7より土師器の甕とみられる小片が出土している。

本建物の詳細な年代は不明であるが、出土遺物と、周辺の遺構の検出状況から判断し、古代に帰属するものと考えている。



第69図
掘立柱建物14出土須恵器



第70図 挖立柱建物15 (1)

第23表 挖立柱建物15遺構計測表

柱穴寸法 (柱行軸)							柱穴寸法 (進行軸)						
No.	幅員 (cm)	底面の標高 (m)	柱頭部直径 (cm)	柱のあき (cm)	調査時遺構名	著者	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	著者		
P1	57	53	24	5456	—	—	P1-P3	4.7	P1-P6	—	—		
P2	52	50.1	33	5451	—	—	P1-P5	4.5	P1-P9	3.3	—		
P3	47	45	33	5449	—	—	P2-P7	—	P2-P7	3.6	—		
P4	71	70	26	5455	—	—	P3-P8	4.6	P3-P8	3.6	—		
P5	57.3	54	28	5456	—	—	柱頭寸法 (柱行軸)						
P6	360.3	15.0.3	11	5469	—	—	P1	—	P1	—	—	—	—
P7	62	59	25	5457	—	—	P1-P2	2.3	P1-P4	1.8	—	—	—
P8	57	50	43	5442	—	—	P2-P3	2.4	P1-P5	1.9	—	—	—
P9	29	50	36	5445	—	—	P3-P6	—	P4-P6	—	—	—	—
柱頭寸法 (進行軸)							P1-P7	—	P1-P9	1.5	—	—	—
柱頭寸法 (進行軸)							P2-P7	2.2	P2-P8	1.2	—	—	—



第71図 挖立柱建物15（2）

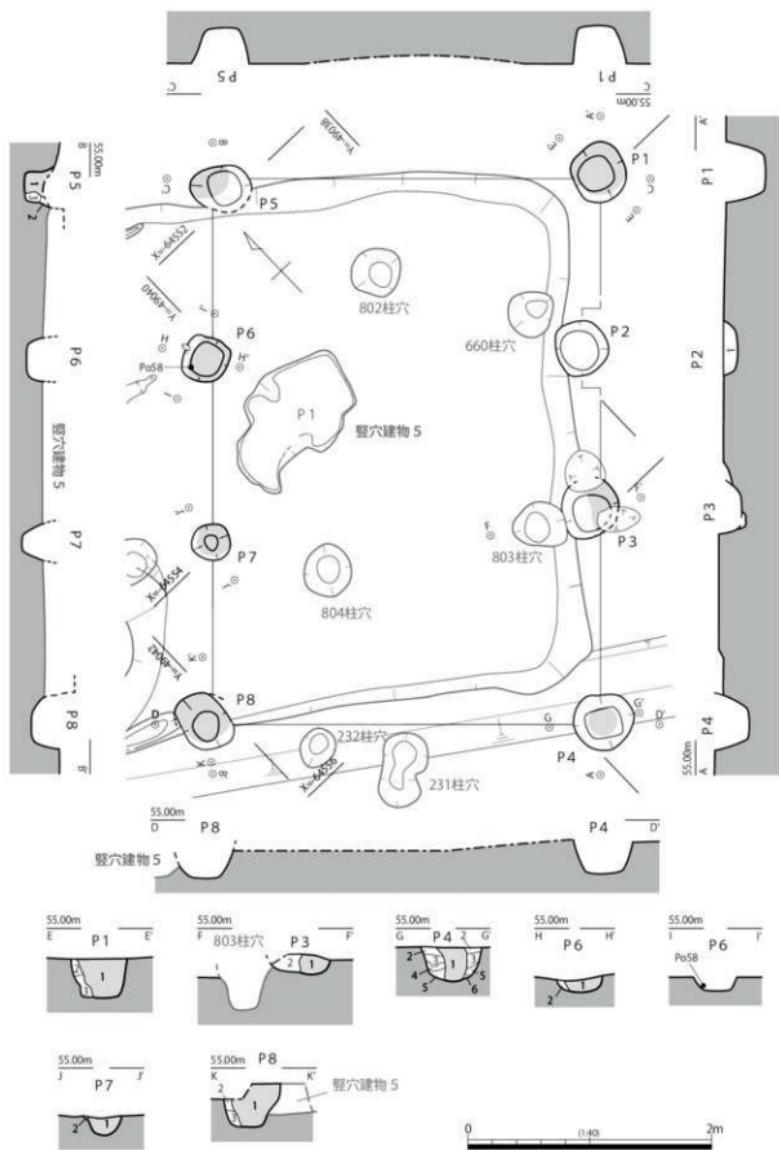
掘立柱建物16（第72・73図、第7・24・60表、図版54・59・94）

1・2区6A-6d・6eグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ層上面で検出した。桁行3間(4.5m)、梁行1間(3.3m)の側柱建物である。主軸はN-44°-Eにとり、平面積は14.9m²を測る。本建物は堅穴建物5と重複しており、本建物P 8が堅穴建物5より後出することを確認している。

柱間寸法は桁筋が1.3～1.8mを測る。柱穴の平面は円形または隅丸方形形状を呈し、長軸32～52cmを測る。断面形は逆台形を呈し、柱穴底面の標高は54.43～54.64mである。いずれの柱穴についても、建物廃絶時に柱は抜き取られている。

遺物はPo58を図化した。Po58はP 6の柱抜き取り痕跡より出土した。体部から口縁部が直線的に外傾する須恵器壺である。

出土遺物から、本建物の廃絶時期は9世紀代と考えられる。



第72図 掘立柱建物16

P 1	1 10YR3/1 黑褐色 シルト (2.5Y6/4に似る) 黄色シルトブロック径0.3～1cm程度。織りやや強い)
2 10YR3/2 黒褐色 シルト (微細な2.5Y6/4に似る) 黄色シルトブロック少混。織りやや強い)	
3 10YR3/2 黒褐色 シルト (2.5Y6/4に似る) 黄色シルトブロック径3mm程度。織りやや強い)	
P 2	1 10YR3/1 黒褐色 シルト (2.5Y6/4に似る) 黄色シルトブロック径0.3～1cm程度。織りやや強い)
P 3	1 10YR3/1 黒褐色 シルト (織りやや強い)
2 10YR2/2 黒褐色 シルト (10YR5/6 明黄色 シルトブロック径3mm少混。織りやや強い)	
P 4	1 10YR3/1 黒褐色 シルト (織りやや強い) 粒径0.3～5mmの角質ブロック混。微細炭化物少混)
2 10YR2/2 黒褐色 シルト (織り強い)	
3 2.5Y4/2 喀灰黃色 シルト (織り強い) 径0.3～1cmの角質ブロック混)	
4 10YR3/3 黒褐色 シルト	
5 10YR3/1 黒褐色 シルト (織り強い) 微細な角質ブロック混)	
6 2.5Y3/1 黑褐色 シルト	
P 5	1 10YR3/1 黒褐色 シルト (2.5Y7/6 明黄色 シルトブロック径0.3～1.5cm程度。織りやや強い)
2 10YR3/1 黑褐色 シルト (微細な2.5Y7/6 明黄色 シルトブロック混。織りやや強い)	
3 10YR3/2 黑褐色 シルト (10YR4/2 黄褐色 シルトが斑状に混。微細な2.5Y7/6 明黄色 シルトブロック混。織りやや強い)	

掘立柱建物16土色注記（第72図土色注記）



P6, P7, P8

0 S=1:4 10cm

第73図 掘立柱建物16出土須恵器坏

第24表 掘立柱建物16構造計測表

柱穴 No.	規格 (cm)			表面の高さ (cm)	表面距離直角 (cm)	柱穴のあたり 直角 (cm)	調査時遺構名	備考
	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)					
P 1	30	44	32	54.43	—	—	1981	
P 2	45	41	12	54.64	—	—	19818 壁穴建物5→P2	
P 3	52	48	17	54.62	—	—	54.98 壁穴建物5→P2 壁穴に留められた 遺品に留められた	
P 4	30	46	28	54.57	—	—	238ピース	
P 5	47	39	24	54.47	—	—	壁穴建物5→P5	
P 6	42	40	19	54.46	—	—	54.97 壁穴建物5→P6 P6の建物上	
P 7	32	30	14	54.45	—	—	54.95 壁穴建物5→P7	
P 8	32	42	35	54.52	—	—	54.94 壁穴建物5→P8	

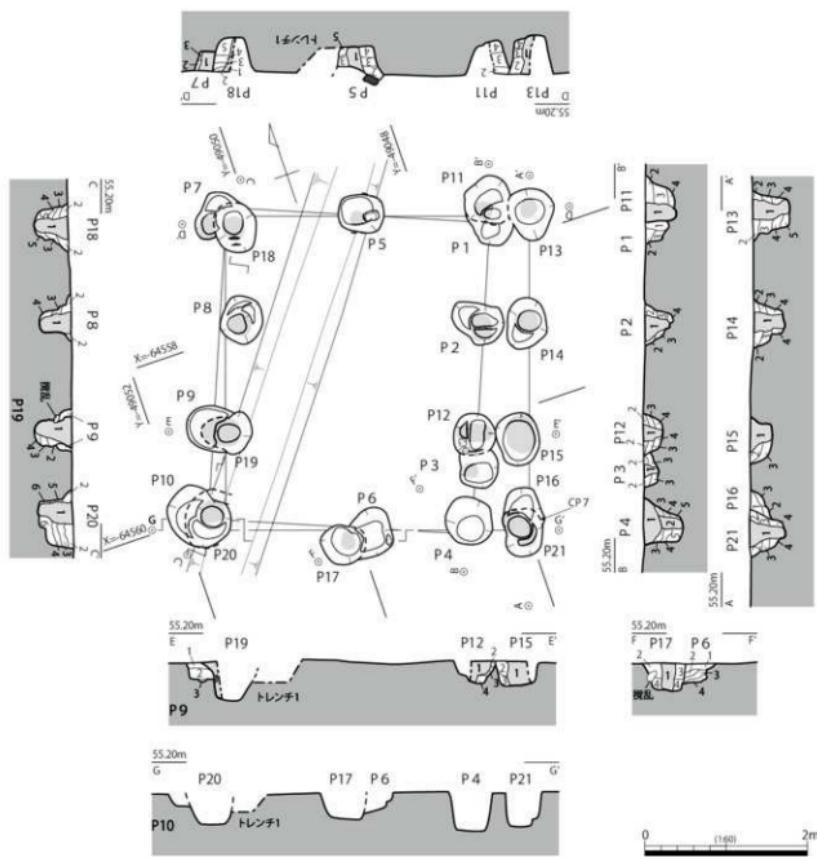
柱間寸法 (平行方向)		柱間寸法 (垂直方向)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P 1～P 4	4.5	P 1～P 5	2.1
P 5～P 8	4.4	P 2～P 6	3.0
P 3～P 7	3.2	P 4～P 8	3.3
P 4～P 8	3.3		

柱間寸法 (平行方向)

柱間寸法 (垂直方向)

掘立柱建物17 (第74～76図、第7・25・60・67表、図版55～57・93)

1区6A-6e・6f・7e・7fグリッドにおいて、II層掘削後、III層上面で検出した側柱建物である。東側の桁筋はP 1・11・4とP 13・16・21の2列が近接かつ平行している。この平行する桁筋2列のうち、P 1・11とP 13、P 3・12とP 15が重複し、それ以外の柱穴も近接していることから、P 13・16・21が廻とは考えづらく、ほぼ同位置で建て替えが行われたものと考える。桁筋P 1・11・4ではP 1・11、P 3・12が1回の重複、桁筋P 13・16・21ではP 16・21が同じく1回の重複をしている。このことから、本建物全体では3回の建て替えが行われたことが確認でき、他の柱穴についても矛盾は生じない。これらの柱穴の重複関係をもとに、想定される建物の建て替えの変遷案(掘立柱建物17a～17d)をまとめた(第76図)。



第74図 掘立柱建物17

なお、本建物の廃絶時期は、出土遺物と周辺の遺構の検出状況から判断し、古代と考えられる。以下、掘立柱建物17a~17dについて各段階ごとに述べる。

掘立柱建物17a

P 1~10で構成される。桁行3間(3.7m)、梁行2間(3.5m)の建物であり、平面積は13.0m²を測る。主軸はN-22°-Eである。柱筋の通りがよいものが大半であるが、P 8は東にずれる。桁筋の柱間寸法はP 2-3が1.8m、P 3-4が0.7mを測る。他の柱間寸法は1.1~1.3mであり、P 2-3が広く、P 3-4は狭い。梁筋は1.3~2.2mと一定ではなく、建物東側のP 5-1、P 6-4間が狭い。柱穴の平面形は隅丸方形または、円形、不正な円形を呈し、17b~17dも同様である。規模は長軸49~72

P1

- 1 2.5Y3/1 黒褐色 シルト (縦りやや弱い。微細～径5mmN層ブロック混)
- 2 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (縦り強い。微細なIV層ブロック混)
- 3 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (縦り強い。微細～径3mm混)

P2

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径5mmN層ブロック混)
- 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 5mmN層ブロック混)
- 3 10YR3/2 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 5mmN層ブロック混)
- 4 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦り非常に強い)。径 3mmN層ブロック混)

P3

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径5mmN層ブロック混)
- 2 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 3mmN層ブロック混)

P4

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細なIV層ブロック少量混)
- 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り弱い)。微細～径 5mmN層少量混)
- 3 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 5mmN層ブロック混)
- 4 10YR3/2 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 5mmN層ブロック混)
- 5 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 5mmN層ブロック混)

P5

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 1.0cmN層ブロック混)
- 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 5mmN層ブロック少量混)
- 3 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り弱い)。微細が斑状に混)

P6

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 5mmN層ブロック混)
- 2 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 5mmN層ブロック混)
- 3 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 5mmN層ブロック混)
- 4 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 5mmN層ブロック混)

P7

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 5mmN層ブロック混)
- 2 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦り弱い)。微細～径 3mmN層ブロック混)
- 3 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦り弱い)。微細～径 5mmN層ブロック混)

P8

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 5mmN層ブロック多混)
- 2 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細なIV層ブロック混)
- 3 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック混)
- 4 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック混)

P9

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。Ⅲ層が斑状に混。微細なIV層ブロック混)
- 2 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細なIV層ブロック混)
- 3 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック混)

P10 土色注記なし

P11

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや強い)。微細～径 5mmN層ブロック混)
- 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 5mmN層ブロック混)
- 3 10YR3/2 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 5mmN層ブロック混)
- 4 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 5mmN層ブロック混)

P12

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや強い)。微細～径 5mmN層
ブロック混) Ⅲ層が斑状に混)
- 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細なIV層ブロック混)

P13

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや強い)。微細～径 1.0cm N層ブロック混。
微細～径 3mm 塵化物ブロック少量混)
- 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 5mmN層ブロック少量混)
- 3 10YR3/2 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック多混)
- 4 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック多混)

P14

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 5mmN層ブロック混。
微細～径 3mm 塵化物ブロック混)
- 2 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 5mmN層ブロック混)
- 3 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 5mmN層ブロック少量混)

P15

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック混。
微細～径 3mm 塵化物ブロック少量混)
- 2 2.5Y4/2 喀灰黃色 シルト (縦り強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック多混。
Ⅲ層が斑状に混)

P16

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック多混)
- 2 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細なIV層ブロック混)
- 3 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 5mmN層ブロック混)

P17

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 5mmN層ブロック多混)
- 2 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦り弱い)。微細～径 1.0cmN層ブロック混)
- 3 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦り弱い)。微細なIV層ブロック混)
- 4 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック混)

P18

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック多混)
- 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り弱い)。微細～径 5mmN層ブロック少量混)
- 3 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り弱い)。微細～径 5mmN層ブロック混)

P19

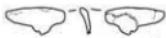
- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや強い)。微細～径 5mmN層ブロック多混)
- 2 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック混)
- 3 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック多混)

P20

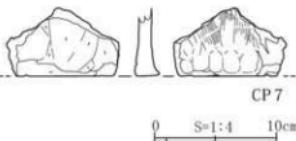
- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや強い)。微細～径 5mmN層ブロック多混)
- 2 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック混)
- 3 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック混)
- 4 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック混)

P21

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 1.0cmN層ブロック混。
Ⅲ層～径 3mm 塵化物ブロック少量混)
- 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 5mmN層ブロック少量混)
- 3 10YR3/2 黑褐色 シルト (縦り強い)。微細～径 1.0cmN層ブロック混)
- 4 10YR3/1 黑褐色 シルト (縦りやや弱い)。微細～径 1.0cmN層ブロック混)



Po59



CP 7

第75図 挖立柱建物17出土土器・土製品

掘立柱建物17土色注記 (第74図土色注記)

第25表 挖立柱建物17遺構計測表

柱穴 No.	横幅 (cm)			底面の標高 (m)		柱脚底面距 離 (cm)	柱のあた き (cm)	遺物名	調査時 道筋名	備考	(実測する柱間寸法は省略)		
	長軸	短軸	第2	底面の標高 (m)	柱脚底面距 離 (cm)						柱間寸法 (m)	柱間寸法 (m)	柱間寸法 (m)
P 1	393.3	303.3	29	54.53	-	-	17a	228C フット	P 1 → P11		P 1 - P4	37	
P 2	48	31	26	54.48	-	-	17a	216c フット	P 1 → P10		P 5 - P6	29	
P 3	49	42.5	18	54.45	-	-	17a	241C フット	P 3 → P12		P 7 - P10	37	
P 4	60	37	26	54.35	-	6	17a	276c フット	P 3 → P12		P 3 - P9	33	
P 5	56.5	39	41	54.39	-	12	17a	254C フット	P 1 → P11		P 4 - P10	33	
P 6	57.5	48	24	54.39	-	-	17a	276c フット	P 6 → P17		P 1 - P2	12	
P 7	61	32.5	24	54.39	-	-	17a	276c フット	P 6 → P18		P 2 - P3	18	
P 8	60	55	36	54.44	-	8	17a	254c フット	P 8 → P19		P 3 - P4	07	
P 9	55	52.5	24	54.63	-	-	17a	276c フット	P 9 → P19		P 7 - P8	13	
P 10	72.5	43.5	14	54.66	-	-	17a	276c フット	P 10 → P20		P 8 - P9	13	
P 11	41	58	27	54.44	-	8	17a	228C フット	P 1 → P11		P 9 - P10	11	
P 12	32	51	24	54.61	-	5	17a	240C フット	P 3 → P12				
P 13	64	57	46	54.36	-	-	17a	276c フット	P 6 → P17				
P 14	62	55	39	54.42	-	-	17a	276c フット	P 6 → P18				
P 15	65	56	28	54.58	-	-	17a	276c フット	P 10 → P20				
P 16	51.5	39.5	27	54.39	-	-	17a	276c フット	P 16 → P21	CP 7 付近	P 4 - P11	38	
P 17	55	54	35	54.49	-	-	17a	276c フット	P 6 → P17		P 5 - P6	39	
P 18	63	54	42	54.37	-	8	17a	276c フット	P 7 → P18		P 7 - P11	34	
P 19	63	53	46	54.38	-	-	17a	276c フット	P 9 → P19		P 9 - P12	33	
P 20	74.5	57.5	33	54.62	-	8	17a	276c フット	P 10 → P20		P 7 - P10	37	
P 21	61	46	44	54.82	-	9	17a	242C フット	P 16 → P21	CP 7 付近			

cmを測り、柱穴底面の標高は54.35~54.66mである。

掘立柱建物17b

P 11・2・12・4~10で構成される。桁行3間(3.8m)、梁行2間(3.5m)の建物であり、平面積は13.3m²を測る。主軸はN-22°-Eである。柱筋の通りがよいものが大半であるが、P 8は東にずれる。柱間寸法は桁筋が1.1~1.4m、梁筋が1.3~2.2mと一定ではなく、17a同様、建物東側のP 5~11、P 6~4間が狭い。柱穴の規模は長軸52~72cmを測り、柱穴底面の標高は54.35~54.66mである。

掘立柱建物17c

P 13~16・5・17・18・8・19・20で構成される。17b段階から両桁筋ともほぼ東に平行移動し、妻柱P 17は西にずれる。桁行3間(3.8m)、梁行2間(3.8m)の建物であり、平面積は14.4m²を測る。主軸はN-19°-Eであり、17a・17bより北に3°振る。ほぼ方形の平面プランとなり、柱筋の通りは概ねよい。桁筋の柱間寸法はP 15~16、P 19~20間が1.0m、そのほかは1.2~1.4mであり、南側の柱間が狭い。梁筋は1.5~2.1mと一定ではなく、建物西側の柱間が狭い。柱穴の規模は長軸51~74cmを測り、柱穴底面の標高は54.36~54.59mである。

遺物はP 16肩部より出土したCP 7を図化した。CP 7は移動式竈本体の裾部である。外面はハケ調整、内面はヘラケゼリ調整を施す。

掘立柱建物17d

P 13~15・21・5・17・18・8・19・20で構成される。桁行3間(4.0m)、梁行2間(3.8m)の建物であり、平面積は15.2m²を測る。主軸はN-19°-Eであり、主軸、平面プランとも17cと近似する。柱

(実測する柱間寸法は省略)

17a柱間寸法(航行船員)

柱間寸法(m)

P 1 - P4 37

P 5 - P6 29

P 7 - P10 37

P 3 - P9 33

P 4 - P10 33

P 17a柱間寸法(航行船員)

柱間寸法(m)

P 1 - P2 12

P 2 - P3 18

P 3 - P4 07

P 7 - P8 13

P 8 - P9 13

P 9 - P10 22

P 1 - P10 11

P 17b柱間寸法(航行船員)

柱間寸法(m)

P 4 - P11 38

P 5 - P6 39

P 7 - P10 37

P 17c・17d柱間寸法(航行船員)

柱間寸法(m)

P 12 - P14 38

P 13 - P21 40

P 17c・17d柱間寸法(航行船員)

柱間寸法(m)

P 2 - P11 14

P 2 - P12 13

P 4 - P12 11

P 17c・17d柱間寸法(航行船員)

柱間寸法(m)

P 8 - P14 36

P 12 - P18 36

P 15 - P19 36

P 16 - P20 38

P 20 - P23 38

P 17c・17d柱間寸法(航行船員)

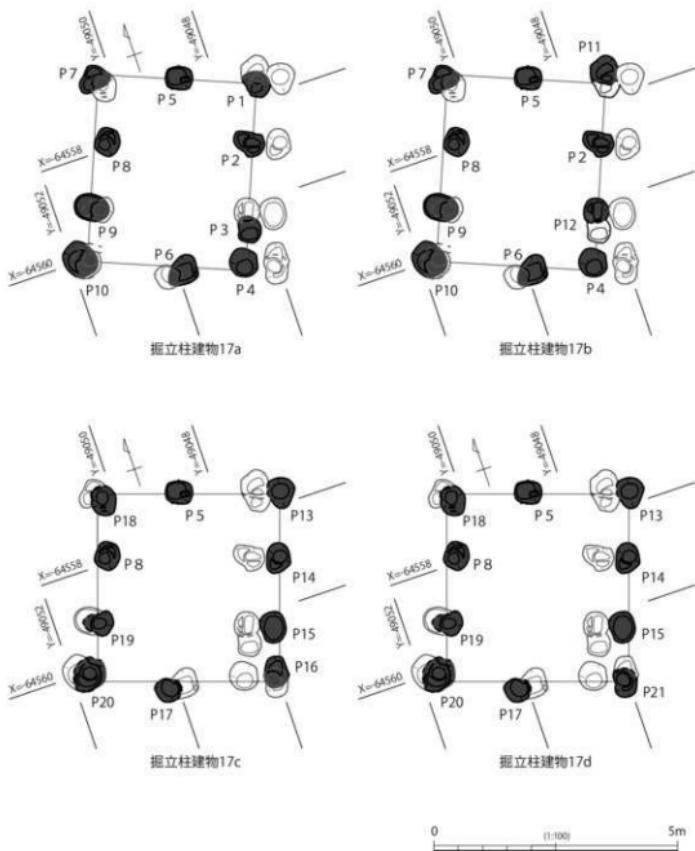
柱間寸法(m)

P 5 - P13 21

P 5 - P18 13

P 16 - P20 17

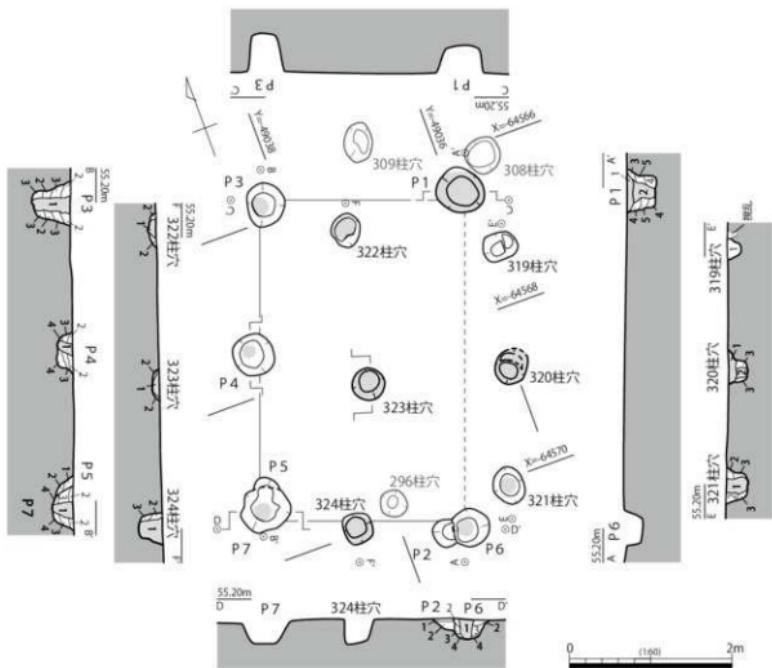
P 17 - P21 23



第76図 掘立柱建物17変遷図

筋の通りは概ねよい。桁筋の柱間寸法は1.0~1.4mであり、南側の柱間が狭い。梁筋は1.5~2.1mと一定ではなく、建物西側の柱間が狭い。柱穴規模は長軸51~74cmを測り、柱穴底面の標高は54.36~54.59mである。

遺物はP21から出土したPo59を図化した。Po59は薄い器壁をもち、口縁部が内湾する製塙土器である。内外面ナデ調整を施し、外面には指オサエ痕跡が残る。



P1

1. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト (繊りやや弱い。径 0.5 ~ 1cmIV層ブロック混)
2. 10YR3/1 黒褐色 シルト (繊りやや強い。径 0.5 ~ 1cmIV層ブロック混)
3. 2.5Y3/2 黒褐色 シルト (繊り強い。微細なIV層シルト少量混)
4. 2.5Y3/1 黒褐色 シルト (繊り強い。径 0.3 ~ 1cmIV層ブロック混)
5. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り強い。微細なIV層ブロック少量混)

P2

1. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り強い。微細なIV層ブロック少量混)
2. 2.5Y4/2 基灰黃色 シルト (繊り強い。径 3 ~ 5mmIV層ブロック混)

P3

1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り強い。微細～径 1cmIV層ブロック混)
2. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り強い。微細～径 5mmIV層ブロック混)
3. 10YR3/1 黑褐色 シルト (繊りやや弱い。径 0.3 ~ 1cmIV層ブロック混)

P4

1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り強い。微細～径 1cmIV層ブロック混)
2. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り強い。微細～径 5mmIV層ブロック混)
3. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り強い。径 3 ~ 5mmIV層ブロック混)
4. 10YR3/1 黑褐色 シルト (繊りやや弱い。径 0.3 ~ 1cmIV層ブロック混)

P5

1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細～径 3mmIV層ブロック多量)
2. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り強い。径 3 ~ 5mmIV層ブロック多量)

P6

1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り強い。微細～径 1cmIV層ブロック混)
2. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り強い。微細なIV層ブロック混)
3. 10YR3/1 黑褐色 シルト (繊り強い。微細～径 5mmIV層ブロック混)
4. 2.5Y4/2 基灰黃色 シルト (繊り強い。径 3 ~ 5mmIV層ブロック混)

P7

1. 10YR3/1 黑褐色 シルト (繊りやや強い。微細～径 3mmIV層ブロック少量混)
2. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り強い。径 3 ~ 5mmIV層ブロック混)
3. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り強い。微細～径 5mmIV層ブロック混)
4. 10YR3/1 黑褐色 シルト (繊りやや弱い。径 0.3 ~ 1cmIV層ブロック混)
- 319柱穴
 1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り強い。径 3 ~ 5mmIV層ブロック混)
- 320柱穴
 1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊りやや弱い。径 5mmIV層ブロック少量混)
- 321柱穴
 1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細～径 3mmIV層ブロック混)
 2. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り強い。微細なIV層ブロック少量混)
 3. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊りやや弱い。径 3mmIV層ブロック少量混)
- 322柱穴
 1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り強い。微細～径 3mmIV層ブロック混)
 2. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り強い。微細なIV層ブロック混)
 3. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊りやや弱い。径 3mmIV層ブロック少量混)
- 323柱穴
 1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り強い。微細～径 3mmIV層ブロック混)
 2. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り強い。微細なIV層ブロック混)
- 324柱穴
 1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細～径 3mmIV層ブロック多量)
 2. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り強い。微細なIV層ブロック多量)
- 325柱穴
 1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細～径 5mmIV層ブロック混)
 2. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細なIV層ブロック少量混)
- 326柱穴
 1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細～径 5mmIV層ブロック混)
 2. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細なIV層ブロック少量混)
- 327柱穴
 1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細～径 5mmIV層ブロック混)
 2. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細なIV層ブロック少量混)
- 328柱穴
 1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細～径 5mmIV層ブロック混)
 2. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細なIV層ブロック少量混)
- 329柱穴
 1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細～径 5mmIV層ブロック混)
 2. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細なIV層ブロック少量混)
- 330柱穴
 1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細～径 5mmIV層ブロック混)
 2. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細なIV層ブロック少量混)
- 331柱穴
 1. 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細～径 5mmIV層ブロック混)
 2. 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り弱い。微細なIV層ブロック少量混)

第77図 挖立柱建物18

第26表 挖立柱建物18遺構計測表

No.	幾筋 (cm)			底面の標高 (m)	柱軸距直徑 (cm)	柱のあたり直徑 (cm)	調査時遺構名	備考
	長軸	短軸	厚さ					
P.1	39	27	8	54.54	—	10	328.5' +	
P.2	34	27.51.1	16	54.60	—	10	246.5' + 1	P.2→P.6
P.3	55	27	8	54.51	—	6	325.5' +	
P.4	52	29	20	54.72	—	7	325.5' +	
P.5	321.1	123.1	21	54.79	—	—	329.5' +	P.5→P.7
P.6	47	46	28	54.79	—	8	324.5' +	P.2→P.6
P.7	61	57	26	54.66	—	7	324.5' +	P.5→P.7
319柱穴	43	21	17	54.75	—	—	319.5' +	
320柱穴	46	39	25	54.67	—	—	320.5' +	
321柱穴	47	26	27	54.67	—	8	321.5' +	
322柱穴	40	27	10	54.78	—	8	322.5' +	
323柱穴	41	40	10	54.84	—	9	323.5' +	
324柱穴	38	36	29	54.67	—	—	324.5' +	

柱間寸法 (航行船渠)		柱間寸法 (航船方向)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P.1-P.2	4.1	P.1-P.3	2.5
P.1-P.6	4.2	P.2-P.5	2.2
P.3-P.5	3.8	P.6-P.7	2.5
P.3-P.7	3.7		

柱間寸法		柱間寸法 (航船方向)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
319-321	1.5	320-321	1.4
322-323	1.9	323-324	1.7
322-319	1.9	323-320	1.7
324-321	1.9		

掘立柱建物18 (第77図、第7・26表、図版58)

1区6A-7d・8dグリッドにおいて、Ⅱ層掘削後、Ⅲ層上で検出した。東側桁筋のP.1とP.2・6の間に柱穴を検出していないが、柱穴の並びから、桁行2間(4.2m)×梁行1間(2.5m)の側柱建物と判断した。主軸はN-20°-Eにとり、平面積は10.5m²を測る。P.2・6とP.5・7が重複していることから、部分的な補修または、1回の建て替えがなされたことが分かる。柱筋の通りはよく、桁筋の柱間寸法は1.7~2.0mを測る。

柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、長軸32~61cmを測る。また、断面形は逆台形を呈し、底面標高はP.3が54.41mと深く、その他の柱穴は54.54~54.80mである。

なお、本建物の周辺には桁行と平行する319~321柱穴、322~324柱穴をはじめ、柱穴または小穴が複数存在しており、本建物の一部、あるいは関連する施設である可能性も考えられるが、明確にはできていない。

遺物が出土していないため、本建物の詳細な時期は不明であるが、周辺に検出した遺構の検出状況から判断し、古代に属するものと想定している。

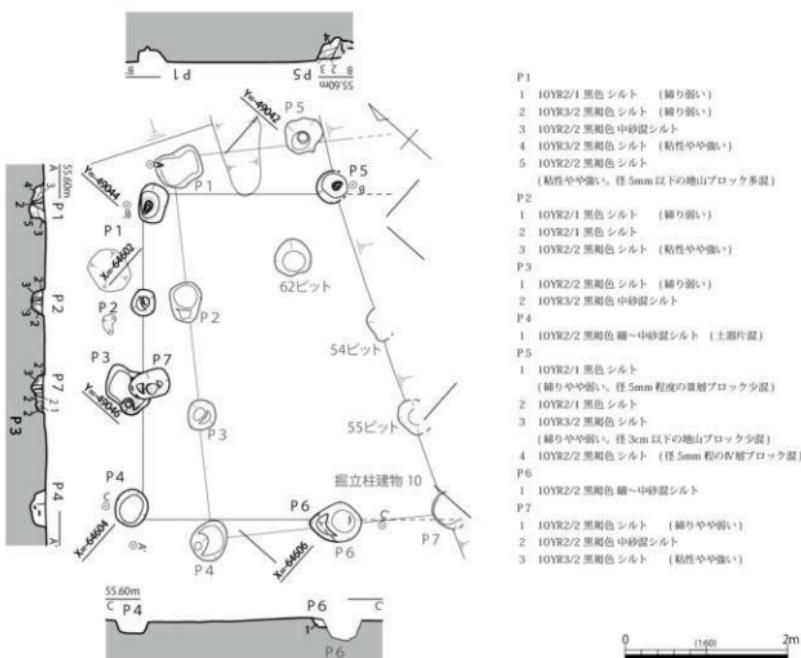
掘立柱建物19 (第61・78・79図、第7・27・60表、図版22・30・40・94)

1区7A-1eグリッドにおいて、表土掘削後、Ⅲ層上面で検出した。調査区際に位置するため、全体の規模は不明であるが、P.1~4を桁行として捉えれば、主軸はN-49°-Eとなり、桁行は3間(4.1m)、梁行は1間(2.4m)以上の側柱建物と判断できる。平面積は9.8m²以上となる。P.6が掘立柱建物10P.6と重複しており、これに後出することを確認している。

P.3・7の重複から本建物は部分的な補修または、1回の建て替えがなされたことが確認できる。建て替えの前後で柱の位置はほとんど変化がなかったものと考えられ、桁行の柱間寸法は1.1~1.4mを測る。柱穴の平面形は不整な円形または歪な梢円形を呈し、長軸は33~64cmを測る。また、断面形は椀形であり、柱穴底面の標高は55.12~55.31mを測る。柱は建物の廃絶時に抜き取られている。

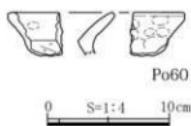
出土遺物はPo60を図化した。P.5埋土中より出土している。Po60は「く」の字状に外反する口縁部をもつ土器部器である。内外面に指オサエ痕が残る。

本建物は出土遺物から判断し、古代に帰属すると考えられる。



第78図 掘立柱建物19

第27表 掘立柱建物19遺構計測表

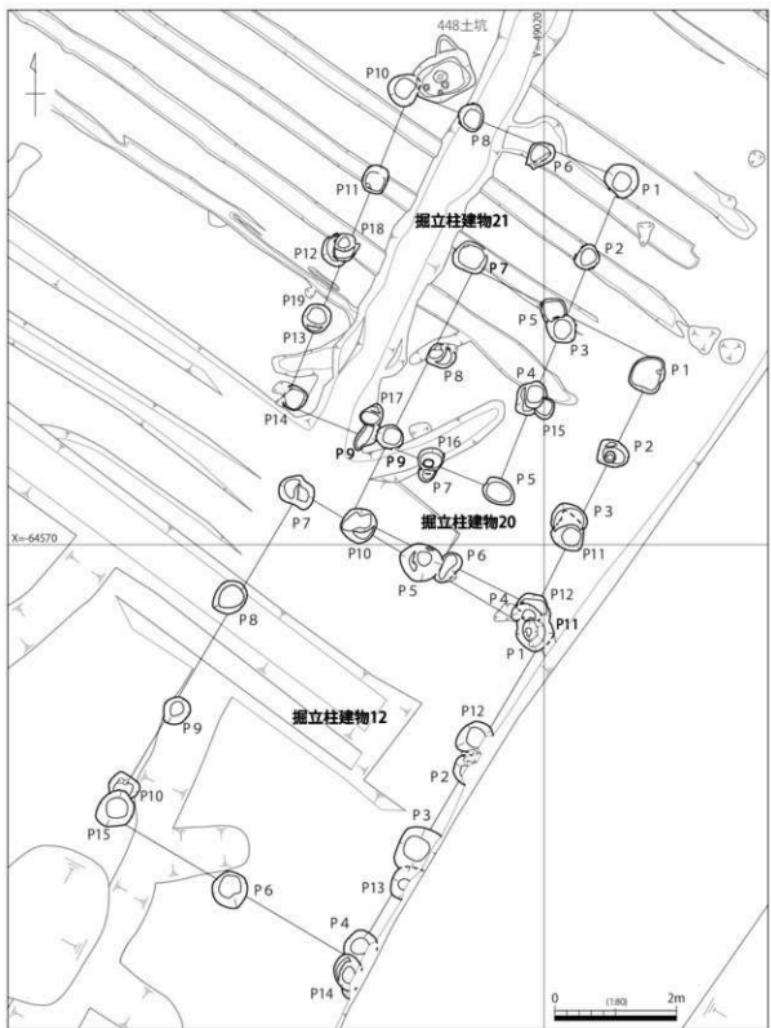
第79図
掘立柱建物19出土土器類

測定	No.	規格(cm)			柱頭の標高(m)	柱頭部直径(cm)	柱のあたり 直径(cm)	測定名遺構名	備考
		長軸	短軸	厚さ					
	P1	48	34	19	55.23	—	—	29ピット	
	P2	33	32	16	55.25	—	5	64ピット	
	P3	64	48(13)	11	55.31	—	—	345ピット	P3→P7
	P4	45	41	19	55.24	—	—	47ピット	
	P5	39	26(13)	28	55.12	—	—	327ピット	Po60出土
	P6	39(11)	25(13)	12	55.26	—	—	347ピット	P6→P6柱頭部付建物10 P6
	P7	50	33	17	55.25	—	7	46ピット	P3→P7

柱間寸法(断行距離)		柱間寸法(断筋方向)		柱間寸法(断筋方向)		柱間寸法(断行距離)	
No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)
P1-P4	3.7	P1-P2	1.2	P1-P5	2.3	P4-P6	2.4
P5-P6	4.1	P2-P3	1.1	P3-P4	1.4		

掘立柱建物20（第80～82図、第7・28・60表、図版45～48・59・94）

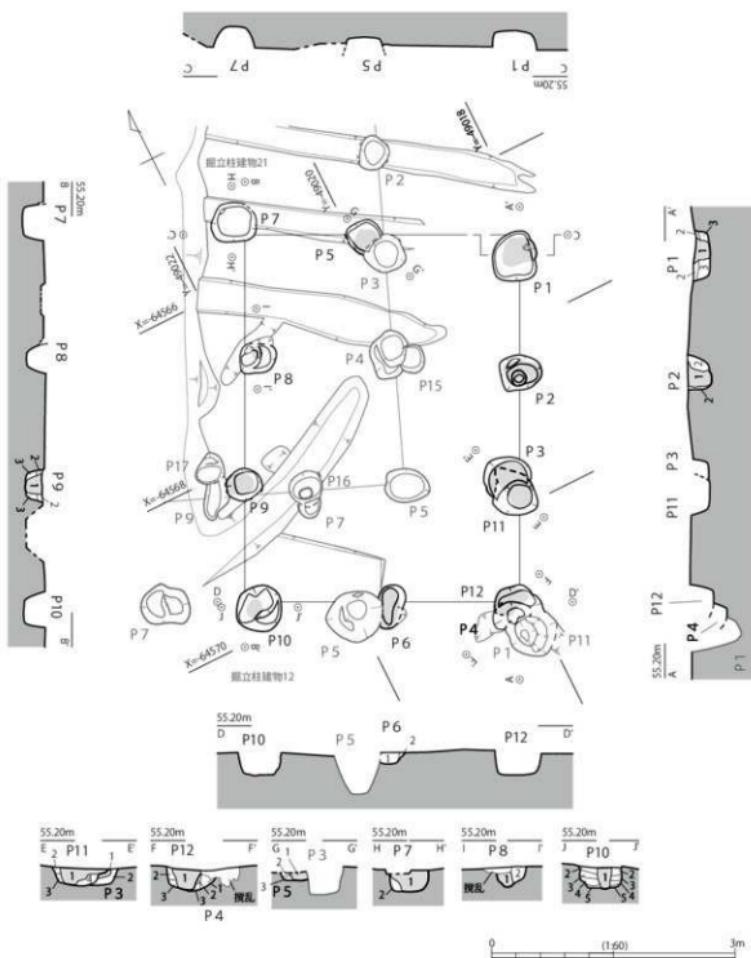
1・2区6A-7b・7c・8b・8cグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ・Ⅳ層上面で検出した。桁行3間(4.7m)、梁行2間(3.5m)の側柱建物である。主軸はN-26°-Eにとり、平面積は16.5m²を測る。本建物南西側梁筋と掘立柱建物12北東側梁筋はほぼ同一のライン上に位置し、本建物P4・12が、掘立柱建物12P1・11と、本建物P6が掘立柱建物12P5と重複し、本建物が先行する。また、本建物P5が掘立柱建物21P3と、本建物P9が掘立柱建物21P9と重複し、本建物が先行する。



第80図 掘立柱建物12・20・21位置図

南東側桁筋のP3・11、P4・12は重複しており、部分的な補修または、1回の建て替えがあったと想定される。建て替えの前後ともに桁筋の柱の通りはよいが、北東側梁筋はやや悪い。

柱間寸法は桁筋が1.2~1.7m、梁筋は1.5~1.8mを測る。柱穴の平面は不整な円形または隅丸方形状を呈し、長軸38~70cmを測る。断面形は逆台形を呈し、柱穴底面の標高は54.36~54.70mである。い



第81図 挖立柱建物20

ずれの柱穴についても、建物廃絶時に柱は抜き取られている。

出土遺物としてPo61・62を図化した。Po61はP3またはP11の埋土中より出土し、Po62はP10埋土中より出土している。Po61は薄い器壁をもち、口縁部が内湾する製塩土器である。Po62は須恵器高坏の脚裾部である。

これらの出土遺物から本建物の時期は、古代と考えられる。

- P1
 1 IOYR3/1 黒褐色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルト粘土が径 0.5 ~ 1cm の斑状に混。粘性弱い)
 2 IOYR2/1 黒色 細粒砂混じシルト (粘性弱い)
 3 IOYR2/1 黒色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 3cm の斑状に混。粘性弱い)

- P2
 1 IOYR2/1 黒色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm 一部混。粘性弱い)
 2 IOYR3/1 黒褐色 シルト (粘性やや強い)
 P3
 1 IOYR2/1 黒色 シルト (粘性やや強い)
 2 IOYR7/6 明黄褐色 シルト
 (IOYR3/1 黑褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 5cm 密混)

- P4
 1 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じシルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5mm の斑状に混。粘性やや強い)
 2 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じシルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm 混。粘性やや強い)
 3 2.5Y3/2 黑褐色 細粒砂混じシルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm 多混。粘性やや強い)

- P5
 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 1cm 一部混。粘性弱い)
 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 3 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じシルト
 (IOYR7/4 に於く、黒褐色 シルト混。粘性弱い)

- P6
 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 2 IOYR4/1 褐灰色 シルト (粘性弱い)
 P7
 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 2cm 混。粘性やや強い)
 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや強い)

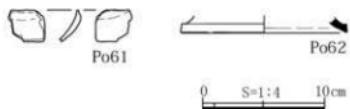
- P8
 1 IOYR3/1 黑褐色 砂粒混じシルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 5mm 一部混。粘性弱い)
 2 IOYR3/1 黑褐色 砂粒混じシルト (粘性やや強い)

掘立柱建物20土色注記（第81図土色注記）

第28表 掘立柱建物20遺構計測表

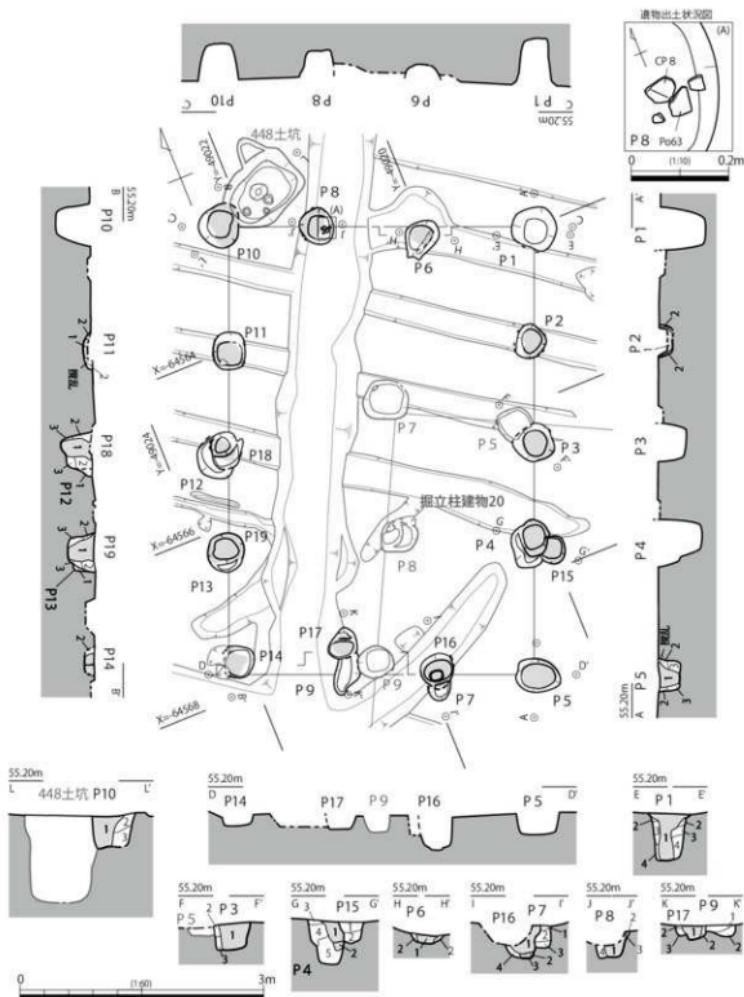
柱穴										
No.	直径 (cm)	底面の標高 (m)	有効深さ (cm)	柱のあたり (cm)	調査時遺構名	著者	柱間寸法 (実行部材)			
	直軸	対軸	深さ				No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P1	61	53	19	5464	—	—	5417		P1 ~ P4	45
P2	30	43	29	5462	—	—	5418		P1 ~ P2	43
P3	37	27	20	5465	—	—	5420	P3 ~ P11, P3またはP12, P3またはP13, P3またはP14	P5 ~ P6	45
P4	38	30	45	5465	—	—	5420	P4 ~ P12, P4またはP13, P4またはP14	P7 ~ P10	47
P5	42	37±1.2	10	5470	—	—	5423	柱5→柱立柱建物21 F3 柱6→柱立柱建物21 F3 柱7→柱立柱建物21 F3	P1 ~ P4	45
P6	70	62	46	5436	—	—	5423	P6 → 柱立柱建物21 F5	P2 ~ P7	43
P7	56	47	27	5437	—	—	5425	遺構に埋められる	P3 ~ P9	33
P8	45	36±1.1	25	5463	—	—	5425	遺構に埋められる	P4 ~ P10	31
P9	45	39	21	5463	—	—	5427	P9 → 柱立柱建物21 F9 柱10→柱立柱建物21 F9 柱11→柱立柱建物21 F9	P9 ~ P11	35
P10	56	60	29	5443	—	—	5427	柱11→柱立柱建物21 F9 柱12→柱立柱建物21 F9	P10 ~ P12	32
P11	70	32	20	5465	—	—	5419	P2 ~ P11	P9 ~ P10	16
P12	50	25±1.1	28	5460	—	—	5421	P1 ~ P11	P11 ~ P12	15

第82図 掘立柱建物20出土土師器・須恵器



掘立柱建物21（第80・83・84図、第8・29・60・67表、図版46・49・59・94）

2区6A-7b・7cグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ・Ⅳ層上面で検出した。一部の柱穴は溝状の搅乱により、部分的に削平されている。桁行4間(5.5m)、梁行3間(3.8m)の側柱建物である。主軸はN-22°-Eにとり、平面積は20.9m²を測る。本建物P 3が掘立柱建物20P 5と、本建物P 9が掘立柱建物20P 9と重複し、本建物が後出する。重複する柱穴がみられることから(P 4・15、P 7・16、P 9・17、P 12・18、P 13・19)、1回の建て替えがあったと想定される。概ね柱の通りはよいが、南東側



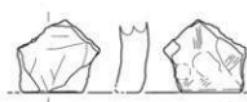
第83図 掘立柱建物21

桁筋のP15と妻柱P6・7・17はややすれる。

柱間寸法は桁筋が1.2~1.6m、梁筋は1.0~1.5mを測る。柱穴の平面は不整な円形または隅丸方形状を呈し、長軸26~61cmを測る。断面形は逆台形を呈し、柱穴底面の標高は54.29~54.71mと、一定ではない。いずれの柱穴についても、建物廃絶時に柱は抜き取られている。

出土遺物としてPo63・CP8を図化した。いずれもP8埋め土より出土している。Po63は須恵器甕

- P 1
 1 IOYR2/1 黒色 磨粒砂混じシルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 8cm の塊状に混。粘性やや強い)
 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 3 IOYR2/1 黑色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 2cm の塊状に混。粘性やや強い)
 4 IOYR2/1 黑色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 2cm 多混。粘性弱い)
- P 2
 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや強い)
 2 IOYR3/2 黑褐色 シルト (粘性やや強い)
- P 3
 1 IOYR2/1 黑色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm一部混。粘性弱い)
 2 IOYR3/1 黑褐色 磨粒砂混じシルト (粘性弱い)
 3 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
- P 4
 1 IOYR2/1 黑色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm が P 4 との境に多混。粘性やや弱い)
 2 IOYR2/1 黑色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm が底面付近に混。粘性弱い)
 3 IOYR3/1 黑褐色 磨粒砂混じシルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 2cm 混。粘性やや強い)
 4 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 5cm の塊状に混。粘性やや強い)
 5 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 5cm 多混。粘性やや強い)
- P 5
 1 IOYR2/1 黑色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 1cm の塊状に混。粘性やや弱い)
 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 3 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルト。IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 1cm の塊状に混。粘性やや弱い)
- P 6
 1 IOYR2/1 黑色 シルト (粘性弱い)
 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
- P 7
 1 IOYR2/1 黑色 シルト (粘性やや強い)
 2 IOYR2/1 黑色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 2cm 僅かに混。粘性やや強い)
 3 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
- P 8
 1 IOYR2/1 黑色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 1cm の塊状に混。粘性弱い)
 2 IOYR4/1 刹白色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.3cm 少量混。粘性弱い)
 3 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 4 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm 一部混。粘性弱い)
- P 9
 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルト一部混。粘性弱い)
 3 IOYR3/1 黑褐色 磨粒砂混じシルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 径 0.5 ~ 1cm の塊状に混。粘性やや強い)
- P11
 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 2 IOYR2/1 黑色 シルト (粘性やや強い)
- P12
 1 IOYR3/2 黑褐色 シルト (粘性やや弱い)
- P13
 1 IOYR3/3 暗褐色 シルト (粘性やや強い)
- P14
 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや弱い)
 2 IOYR4/2 从黄褐色 シルト (粘性やや弱い)
- P15
 1 IOYR3/1 黑褐色 磨粒砂混じシルト (粘性中)
 2 IOYR2/1 黑色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 3cm が底面付近に多混。粘性やや弱い)
- P16
 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 (微細な IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック混。粘性弱い)
 2 IOYR2/1 黑色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 4cm 混。粘性弱い)
 3 IOYR4/2 从黄褐色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 2cm 多混。粘性弱い)
 4 IOYR4/2 从黄褐色 シルト
 (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm 密混。粘性弱い)
- P17
 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 2 IOYR3/2 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 3 IOYR7/6 明黄褐色 シルト (IOYR2/1 黑色 シルトが塊状に混)
- P18
 1 IOYR2/1 黑色 シルト
 (2.SYR7/6 橙色 シルトが径 1 ~ 2cm の塊状に混。粘性やや強い)
 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 3 IOYR3/2 黑褐色 シルト (粘性やや弱い)
- P19
 1 IOYR2/1 黑色 シルト
 (2.SYR7/6 橙色 シルトが径 1 ~ 2cm 僅かに混。粘性やや弱い)
 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 (2.SYR7/6 橙色 シルトが径 1 ~ 2cm まれに混。粘性やや弱い)
 3 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 (2.SYR7/6 橙色 シルトが径 1 ~ 2cm の塊状に混。粘性やや弱い)



0 S=1:4 10cm

第84図 掘立柱建物21出土須恵器・土製品

掘立柱建物21土色注記 (第83図土色注記)

の肩部。外面は平行タタキ、内面は同心円状當て具痕を残す。CP 8 は移動式竈本体の裾部である。外面はハケ調整、内面はヘラケズリ調整を施す

これらの出土遺物から本建物の時期は、古代と考えられる。

第29表 挖立柱建物21遺構計測表

柱穴寸法							柱間寸法(横行軸長)							柱間寸法(縦行軸長)						
No.	直径 (cm)	高さ (m)	底面の標高 (m)	柱根跡直径 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	調査時遺構名	備考	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	
P 1	55	31±1.1	58	54.29	—	—	5428 現状に留まられる	P 1-P 5	5.4	P 1-P 10	2.8	P 1-P 6	4.4	P 1-P 11	2.8	P 1-P 7	2.9	P 1-P 12	2.9	
P 2	42	31±1.1	17	54.59	—	—	5429 現状に留まれる	P 6-P 10	5.4	P 6-P 9	5.5	P 6-P 8	5.5	P 6-P 7	5.5	P 6-P 6	5.5	P 6-P 5	5.5	
P 3	51	31±1.1	33	54.54	—	—	5430 現状に留まれる	P 7-P 10	5.5	P 7-P 9	5.5	P 7-P 8	5.5	P 7-P 7	5.5	P 7-P 6	5.5	P 7-P 5	5.5	
P 4	62	46±1.1	52	54.65	—	—	5432 現状に留まれる	P 4-P 5	5.5	P 4-P 3	5.5	P 4-P 2	5.5	P 4-P 1	5.5	P 4-P 12	2.7	P 4-P 13	4.0	
P 5	56	31	26	54.63	—	—	5433 現状に留まれる	P 5-P 6	5.5	P 5-P 5	5.5	P 5-P 4	5.5	P 5-P 3	5.5	P 5-P 2	5.5	P 5-P 1	5.5	
P 6	53	40	19	54.61	—	—	5434 現状に留まれる	P 6-P 7	5.5	P 6-P 6	5.5	P 6-P 5	5.5	P 6-P 4	5.5	P 6-P 3	5.5	P 6-P 2	5.5	
P 7	26	20±1.1	27	54.56	—	—	5436 現状に留まれる	P 7-P 10	5.5	P 7-P 9	5.5	P 7-P 8	5.5	P 7-P 7	5.5	P 7-P 6	5.5	P 7-P 5	5.5	
P 8	45	42	32	54.44	—	—	5437 現状に留まれる	P 8-P 9	5.5	P 8-P 8	5.5	P 8-P 7	5.5	P 8-P 6	5.5	P 8-P 5	5.5	P 8-P 4	5.5	
P 9	46±1.1	30	14	54.70	—	—	5438 現状に留まれる	P 9-P 10	5.5	P 9-P 9	5.5	P 9-P 8	5.5	P 9-P 7	5.5	P 9-P 6	5.5	P 9-P 5	5.5	
P 10	55	30	37	54.37	—	—	5440 現状に留まれる	P 10-P 11	5.5	P 10-P 10	5.5	P 10-P 9	5.5	P 10-P 8	5.5	P 10-P 7	5.5	P 10-P 6	5.5	
P 11	46	48	11	5471	—	—	5442 現状に留まれる	P 11-P 12	5.5	P 11-P 11	5.5	P 11-P 10	5.5	P 11-P 9	5.5	P 11-P 8	5.5	P 11-P 7	5.5	
P 12	53	35±1.1	29	54.62	—	—	5444 現状に留まれる	P 12-P 13	5.5	P 12-P 12	5.5	P 12-P 11	5.5	P 12-P 10	5.5	P 12-P 9	5.5	P 12-P 8	5.5	
P 13	—	—	26	54.58	—	—	5445 現状に留まれる	P 13-P 14	5.5	P 13-P 13	5.5	P 13-P 12	5.5	P 13-P 11	5.5	P 13-P 10	5.5	P 13-P 9	5.5	
P 14	41	40	12	5473	—	—	5446 現状に留まれる	P 14-P 15	5.5	P 14-P 14	5.5	P 14-P 13	5.5	P 14-P 12	5.5	P 14-P 11	5.5	P 14-P 10	5.5	
P 15	25	29	26	54.63	—	—	5451 現状に留まれる	P 15-P 16	5.5	P 15-P 15	5.5	P 15-P 14	5.5	P 15-P 13	5.5	P 15-P 12	5.5	P 15-P 11	5.5	
P 16	43	61	41	54.62	—	—	5455 現状に留まれる	P 16-P 17	5.5	P 16-P 16	5.5	P 16-P 15	5.5	P 16-P 14	5.5	P 16-P 13	5.5	P 16-P 12	5.5	
P 17	48	36	18	54.65	—	—	5458 現状に留まれる	P 17-P 18	5.5	P 17-P 17	5.5	P 17-P 16	5.5	P 17-P 15	5.5	P 17-P 14	5.5	P 17-P 13	5.5	
P 18	6	29	49	54.43	—	—	5443 現状に留まれる	P 18-P 19	5.5	P 18-P 18	5.5	P 18-P 17	5.5	P 18-P 16	5.5	P 18-P 15	5.5	P 18-P 14	5.5	
P 19	45	45	32	54.52	—	—	5445 現状に留まれる	P 19-P 20	5.5	P 19-P 19	5.5	P 19-P 18	5.5	P 19-P 17	5.5	P 19-P 16	5.5	P 19-P 15	5.5	

第30表 挖立柱建物22遺構計測表

柱穴寸法							柱間寸法(横行軸長)							柱間寸法(縦行軸長)						
No.	直径 (cm)	高さ (m)	底面の標高 (m)	柱根跡直径 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	調査時遺構名	備考	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	
P 1	50	43	38	54.41	—	—	5459 現状に留まれる	P 1-P 4	5.4	P 1-P 5	5.5	P 1-P 6	5.5	P 1-P 7	5.5	P 1-P 8	5.5	P 1-P 9	5.5	
P 2	48	44	40	54.42	—	—	5475 現状に留まれる	P 2-P 5	5.5	P 2-P 4	5.5	P 2-P 3	5.5	P 2-P 2	5.5	P 2-P 1	5.5	P 2-P 10	5.5	
P 3	75	61	41	54.46	—	—	5452 現状に留まれる	P 3-P 4	5.5	P 3-P 3	5.5	P 3-P 2	5.5	P 3-P 1	5.5	P 3-P 10	5.5	P 3-P 9	5.5	
P 4	62	55	35	54.45	—	—	5472 現状に留まれる	P 4-P 5	5.5	P 4-P 4	5.5	P 4-P 3	5.5	P 4-P 2	5.5	P 4-P 1	5.5	P 4-P 10	5.5	
P 5	45±1.1	36	33	54.47	—	—	5476 現状に留まれる	P 5-P 8	5.5	P 5-P 7	5.5	P 5-P 6	5.5	P 5-P 5	5.5	P 5-P 4	5.5	P 5-P 3	5.5	
P 6	25	65	28	54.54	—	—	5486 現状に留まれる	P 6-P 9	5.5	P 6-P 8	5.5	P 6-P 7	5.5	P 6-P 6	5.5	P 6-P 5	5.5	P 6-P 4	5.5	
P 7	66	37	39	54.35	—	—	5477 現状に留まれる	P 7-P 10	5.5	P 7-P 9	5.5	P 7-P 8	5.5	P 7-P 7	5.5	P 7-P 6	5.5	P 7-P 5	5.5	
P 8	44	40	21	54.50	—	—	5480 現状に留まれる	P 8-P 9	5.5	P 8-P 8	5.5	P 8-P 7	5.5	P 8-P 6	5.5	P 8-P 5	5.5	P 8-P 4	5.5	
P 9	58	35	35	54.42	—	—	5479 現状に留まれる	P 9-P 10	5.5	P 9-P 9	5.5	P 9-P 8	5.5	P 9-P 7	5.5	P 9-P 6	5.5	P 9-P 5	5.5	
P 10	27±1.1	51	34	54.44	—	—	5485 現状に留まれる	P 10-P 11	5.5	P 10-P 10	5.5	P 10-P 9	5.5	P 10-P 8	5.5	P 10-P 7	5.5	P 10-P 6	5.5	
4844穴	67±1.1	46	22	54.56	—	—	5484 現状に留まれる	P 1-P 2	2.9	P 1-P 3	2.9	P 1-P 4	2.9	P 1-P 5	2.9	P 1-P 6	2.9	P 1-P 7	2.9	
4855穴	95	78±1.1	28	54.49	—	—	5485 現状に留まれる	P 2-P 3	2.9	P 2-P 4	2.9	P 2-P 5	2.9	P 2-P 6	2.9	P 2-P 7	2.9	P 2-P 8	2.9	
4997穴	55	26±1.1	23	54.66	—	—	5487 現状に留まれる	P 3-P 4	2.9	P 3-P 5	2.9	P 3-P 6	2.9	P 3-P 7	2.9	P 3-P 8	2.9	P 3-P 9	2.9	
4998穴	95±1.1	46±1.1	25	54.57	—	—	5488 現状に留まれる	P 4-P 5	2.9	P 4-P 6	2.9	P 4-P 7	2.9	P 4-P 8	2.9	P 4-P 9	2.9	P 4-P 10	2.9	

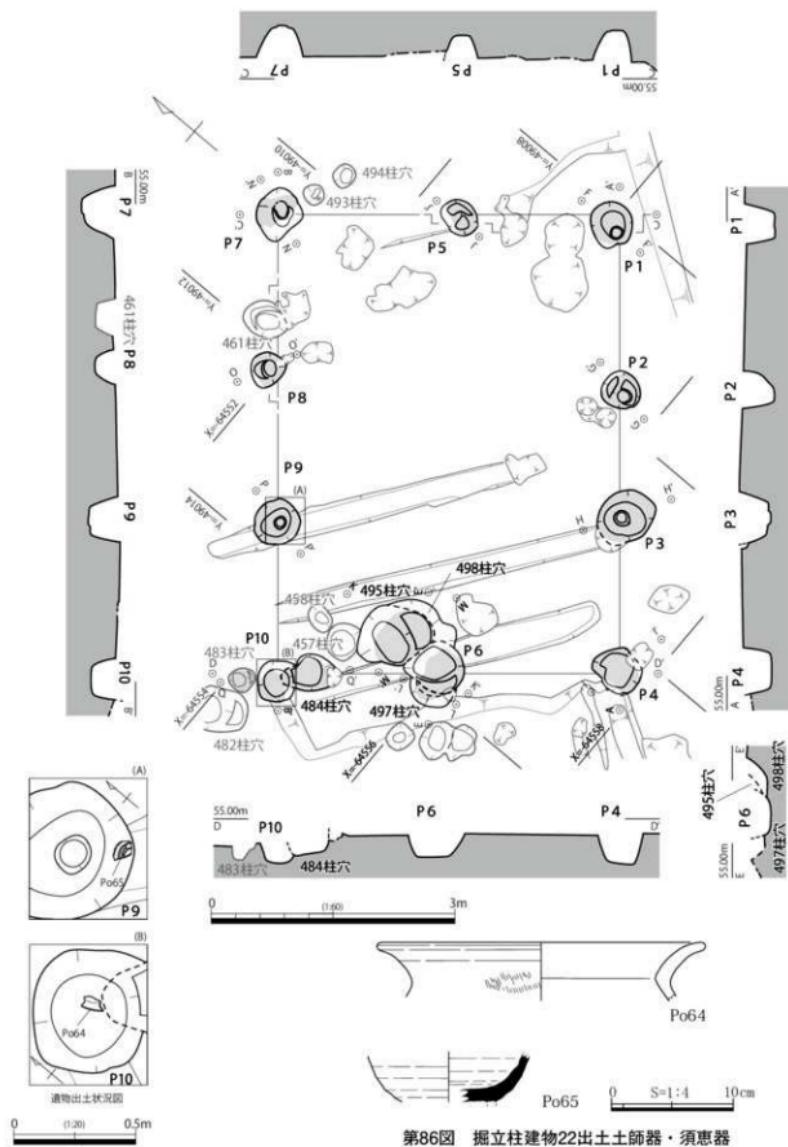
掘立柱建物22(第85~87図、第8・30・60表、図版59・60・94)

2区6A-6a・6bグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ・Ⅳ層上面で検出した。桁行3間(5.8m)、梁行2間(4.2m)の側柱建物である。主軸はN-50°-Eにとり、平面積は24.4m²を測る。柱の通りは概ねよいが、P 5・8が僅かにずれる。

柱間寸法は桁筋が1.5~2.0m、梁筋は1.9~2.3mを測る。柱穴の平面は円形または不整な円形を呈し、長軸40~75cmを測る。断面形は逆台形を呈し、柱穴底面の標高は54.33~54.54mである。いずれの柱穴についても、建物廃絶時に柱は抜き取られている。

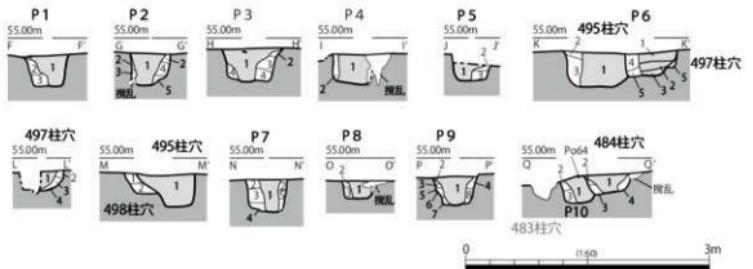
出土遺物としてPo64・65を図化した。Po64はP 10の柱抜き取り痕跡、Po65はP 9の柱抜き取り痕跡から出土している。Po64は口縁部が「く」の字状に大き外反する土師器の壺である。Po65は須恵器高台付壺の体部下半である。高台部が欠損している。

これらの出土遺物から本建物の廃絶時期は、8世紀後半から9世紀前半と考えられる。



第86図 掘立柱建物22出土土師器、須恵器

第85図 掘立柱建物22 (1)



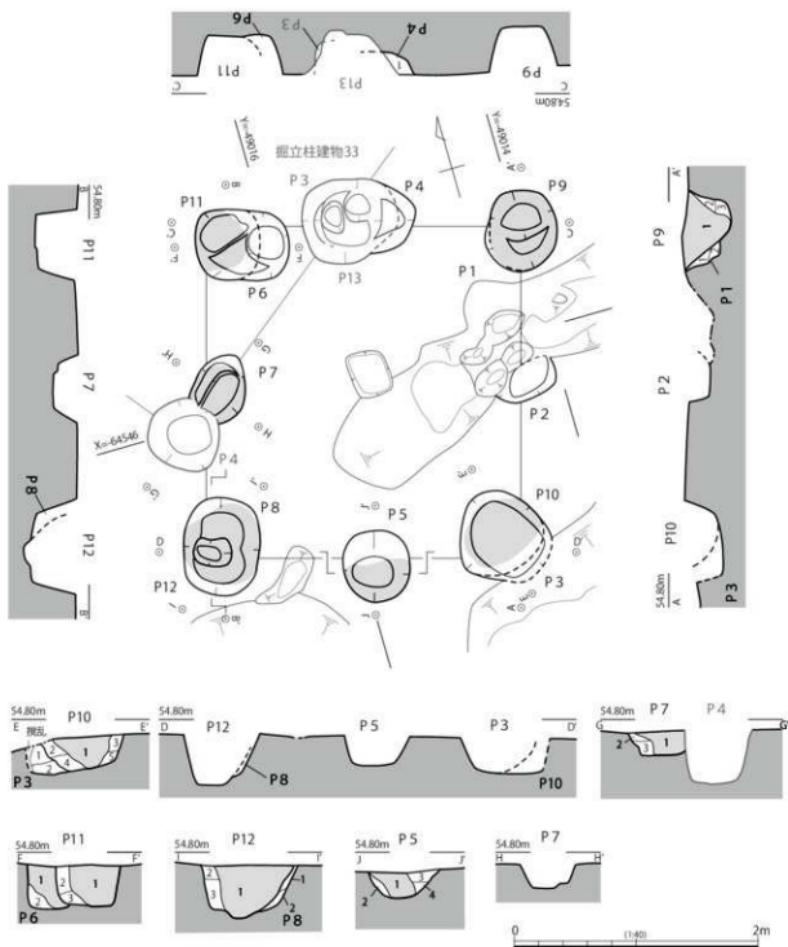
P1

- 1 IOYR3/1 黒褐色 細粒砂混じりシルト (粘性弱い)
 - 2 IOYR2/1 黒色 シルト (粘性弱い)
 - 3 IOYR2/1 黒色 細粒砂混じりシルト (粘性弱い)
- P2
- 1 IOYR2/1 黒色 細粒砂混じりシルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm一部混。粘性弱い)
 - 2 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性弱い)
 - 3 IOYR7/4 に於く 黄褐色 シルト (粘性やや弱い)
 - 4 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルト)
 - 5 IOYR7/6 明黄褐色 シルト (IOYR3/1 黑褐色 シルト。IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 1cmの斑状に混)
- P3
- 1 IOYR2/1 黒色 細粒砂混じりシルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm一部混。粘性弱い)
 - 2 IOYR3/2 黑褐色 シルト (粘性弱い)
- P4
- 1 IOYR2/1 黒色 シルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 1cmの斑状に混。粘性弱い)
 - 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
- P5
- 1 IOYR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性弱い)
 - 2 IOYR3/2 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性弱い)
 - 3 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (IOYR7/4 に於く 黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm一部混。粘性弱い)
- P6
- 1 IOYR2/1 黒色 シルト (粘性弱い)
 - 2 IOYR2/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが斑状に混)
- P7
- 1 IOYR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 1cm一部混。粘性弱い)
 - 2 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性弱い)
 - 3 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや弱い)
 - 4 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルト)
 - 5 IOYR7/6 明黄褐色 シルト (IOYR7/4 に於く 黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm一部混。粘性弱い)
- P8
- 1 IOYR2/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 1 ~ 2cmの斑状に混。粘性弱い)
 - 2 IOYR4/1 黄褐色 シルト (粘性弱い)
 - 3 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 - 4 IOYR2/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 - 5 IOYR2/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 1cm一部混)
 - 6 IOYR4/1 黄褐色 シルト (粘性弱い)
 - 7 IOYR2/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm一部混)
 - 8 IOYR2/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 1 ~ 2cmの斑状に混。粘性弱い)
- P9
- 1 IOYR2/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 1cmの斑状に混。粘性弱い)
 - 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 - 3 IOYR2/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 - 4 IOYR2/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 - 5 IOYR2/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 1cm一部混)
 - 6 IOYR4/1 黄褐色 シルト (粘性弱い)
 - 7 IOYR2/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルト)
 - 8 IOYR2/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 1 ~ 2cmの斑状に混。粘性弱い)
- P10
- 1 IOYR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 1cmの斑状に混。粘性弱い)
 - 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 - 3 IOYR2/1 黑褐色 シルト (IOYR7/6 明黄褐色 シルト) 同程度混じる (粘性弱い)
- 495柱穴
- 1 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (IOYR7/4 に於く 黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 3cm多混。粘性弱い)
 - 2 IOYR3/1 黄褐色 シルト (IOYR7/4 に於く 黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 1cmの斑状に混。粘性弱い)
 - 3 IOYR3/2 黑褐色 シルト (IOYR7/4 に於く 黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 1cm多混。粘性弱い)
- 497柱穴
- 1 IOYR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性弱い)
 - 2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
- 498柱穴
- 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 - 2 IOYR3/2 黑褐色 シルト (粘性弱い)

第87図 挖立柱建物22（2）

掘立柱建物23（第88・89図、第8・31・60・61表、図版59・61・64・94）

2区6A-5グリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ層またはⅣ層上面で検出した。桁行2間(2.6m)、梁行2間(2.5m)の側柱建物である。主軸はN-16°-Eにとり、平面積は6.5m²を測る。本建物P4が掘立柱建物33P3・13、本建物P7が掘立柱建物33P4と重複し、本建物が先行する。柱の通りは概ねよいが、P6が東側にややずれる。P2は大部分を搅乱により消失しており、調査時に情報を十分に抽出することができなかった。



第88図 振立柱建物23

柱間寸法は桁筋が1.1~1.3m、梁筋は1.0~1.3mを測り、P 4 ~ 6 間が狭い。柱穴の平面は円形または隅丸方形状を呈す。四隅の柱穴(P 1 ~ 3 ~ 6 ~ 8 ~ 12)はいずれも重複しており、1回の建て替えが行われたものと考える。規模は長軸55~80cmを測る。断面形は逆台形を呈し、検出面からの深さは26~43cm、柱穴底面の標高は54.27~54.40mである。その他の柱穴は長軸50~59cmを測る。断面形は逆台形を呈し、検出面からの深さは17~20cm、柱穴底面の標高は54.42~54.51mである。よって、四隅の柱穴は他の柱穴に対し、平面の規模が大きく、検出面からの深さも深い。なお、建物廃絶時に柱は抜き取られている。

遺物はPo66・67を図化した。Po66はP 8埋土中から出土し、Po67はP 9の柱抜き取り痕跡から出土している。Po66は須恵器高坏の坏部である。内湾しながら口縁部が大きく開く。Po67は須恵器壺の体部である。外面は平行タタキ、内面は同心円状當て具痕を残す。

これらの出土遺物から本建物の帰属時期は、7世紀後葉から8世紀前葉と考えられる。



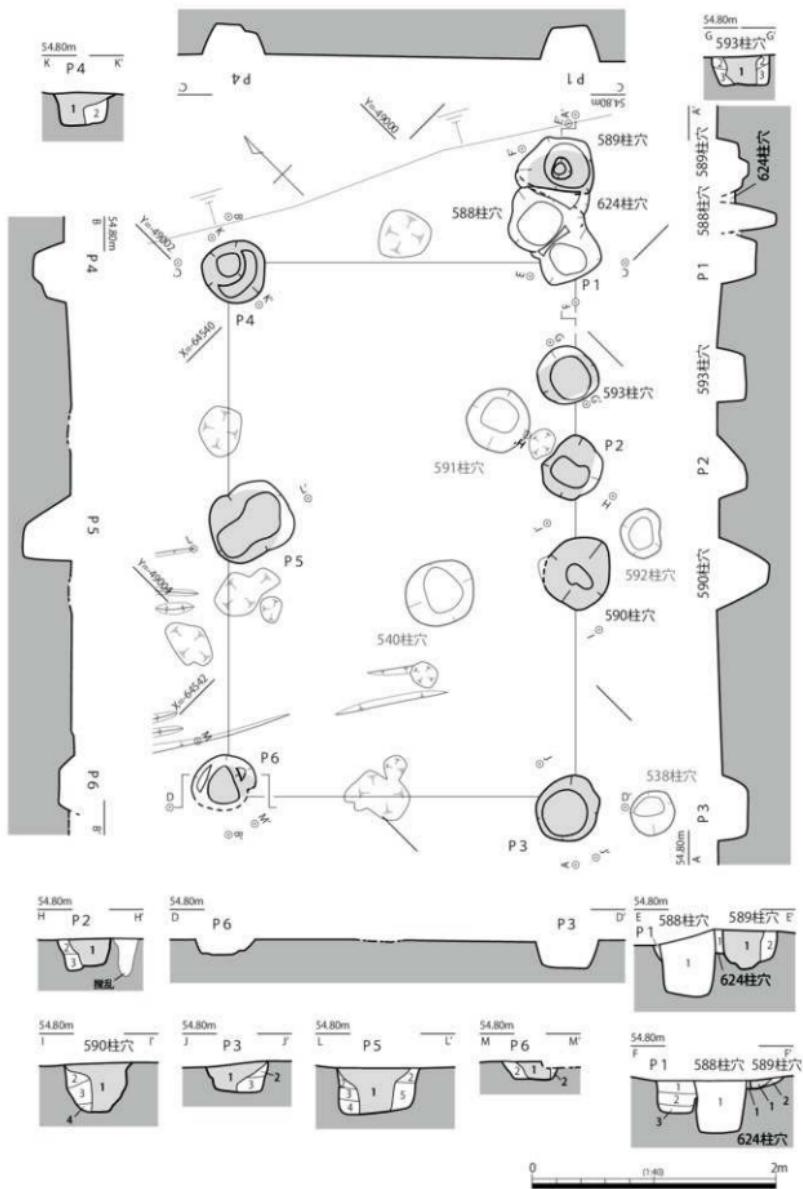
- | P 1 | 1 10YR3/1 黒褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルト径 1 ~ 3cm の塊状に混。粘性強い) |
|------|---|
| P 2 | 2 10YR3/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルト・シルトブロック径 1 ~ 5cm 多混。粘性弱い) |
| P 3 | 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い) |
| P 4 | 1 10YR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 2cm の塊状に混。粘性弱い) |
| P 5 | 1 10YR2/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm 一部混。粘性弱い)
2 10YR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや強い) |
| P 6 | 3 10YR3/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 6cm の塊状に混。粘性弱い)
4 10YR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや強い) |
| P 7 | 1 10YR2/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 2cm 一部混。粘性やや強い)
2 10YR3/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトブロック径 5mm 僅かに混。粘性やや強い)
3 10YR3/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm 僅かに混。粘性やや強い) |
| P 8 | 1 10YR7/4 に示す黄褐色 シルト (10YR3/1 黑褐色 シルト混) |
| P 9 | 2 10YR3/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 5cm 非常に密混。粘性弱い) |
| P 10 | 1 10YR2/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 5cm 多混。粘性やや強い)
2 10YR3/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトが径 1 ~ 3cm の塊状に混。粘性強い) |
| P 11 | 3 10YR3/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトが径 1 ~ 3cm の塊状に混。粘性強い) |
| P 12 | 1 10YR3/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 1cm 僅かに混。粘性強い)
2 10YR3/2 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトが径 2 ~ 3cm の塊状に混。粘性強い)
3 10YR3/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 2cm 僅かに混。粘性やや強い) |
| P 13 | 1 10YR2/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 5cm の塊状に混。粘性弱い)
2 10YR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 2cm 多混。粘性やや弱い) |
| P 14 | 3 10YR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや強い) |
| P 15 | 1 10YR2/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 15cm 多混。粘性弱い)
2 10YR3/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 に示す黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 3cm 混。粘性弱い)
3 10YR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや弱い) |

第89図 掘立柱建物23出土須恵器

掘立柱建物23土色注記（第88図土色注記）

第31表 掘立柱建物23遺構計測表

柱穴							柱間寸法 (進行方向)			柱間寸法 (進行方向)		
No.	直径 (cm)	底面の標高 (m)	有効深さ (cm)	柱のあたり (cm)	調査時標高 (m)	備考	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P 1	-	-	30	5437	-	-	5000	P 1-P 9	P 1-P 3	-	P 1-P 6	-
P 2	34	28	17	5446	-	-	5007	P 2-P 7	P 2-P 7	25	P 3-P 8	250.1
P 3	67	30.1.1	25	5435	-	-	5000	P 3-P 12	P 3-P 9	27	P 4-P 5	28
P 4	37	27.1.1	18	5430	-	-	5006	P 4-P 11	P 6-P 8	233.1	P 9-P 11	25
P 5	59	34	20	5442	-	-	5006	P 5-P 12	P 9-P 10	24	P 10-P 12	23
P 6	55	35.1.1	35	5433	-	-	5001	P 6-P 11	P 6-P 12	26		
P 7	50.1.1	44	20	5451	-	-	5009	P 7-P 10 2月建物3 P 8	P 1-P 2	-	P 1-P 6	-
P 8	-	-	38	5432	-	-	5001	P 8-P 12	P 8-P 10	1.4	P 3-P 5	1.2
P 9	65	32	37	5429	-	-	5001	P 9-P 12	P 9-P 7	1.3	P 4-P 6	100.1
P 10	80.1.1	73	26	5440	-	-	5002	P 10-P 9	P 10-P 7	1.1	P 4-P 9	1.2
P 11	68	60.1.1	33	5436	-	-	5007	P 6-P 11	P 6-P 7	1.2	P 4-P 11	1.3
P 12	80	62	43	5427	-	-	5010	P 8-P 9-P 12	P 7-P 11	1.3	P 5-P 8	1.0
								P 7-P 12	P 5-P 12	1.3	P 5-P 12	1.3



第90図 挖立柱建物24

掘立柱建物24（第90図、第8・32表、図版59・63・64）

2区6J-5j、6A-4a・5aグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ層上面で検出した。北西側桁筋の検出状況から判断し、桁行2間(4.5m)、梁行1間(2.8m)の側柱建物と想定している。主軸はN-45°-Eにとり、平面積は12.6m²を測る。南東側桁行のP2は桁筋の通りはよいものの、北西側桁筋P5に対して通りが悪い。南東側桁筋には593柱穴・590柱穴が位置するが、柱間寸法からP2を本建物の柱穴と判断した。593柱穴・590柱穴は本建物に伴う可能性もあるが、明確にはできていない。

桁筋の柱間寸法は1.7~2.8mを測り、P1~2間が狭い。梁筋は2.6m~2.8mを測る。柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、長軸52~70cmを測る。断面形は逆台形を呈し、柱穴底面の標高は

P1	P6
1 IOYR3/1 黒褐色 シルト (粘性やや強い)	1 IOYR2/1 黒色 シルト (粘性弱い)
2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトブロック径 5mm 一部混。粘性やや強い)	2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトブロック径 5mm 一部混。粘性やや強い)
3 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルト・IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトが斑状に混)	588 柱穴
P2	1 IOYR2/1 黒色 細粒砂混じりシルト (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトが径 0.5~1cm の斑状に混。粘性弱い)
2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)	2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
3 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトブロック径 1cm 一部混。粘性弱い)	590 柱穴
P3	1 IOYR2/1 黑色 細粒砂混じりシルト (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトブロック径 0.5~1cm +IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトが斑状に混。粘性やや強い)
2 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性弱い)	1 IOYR2/1 黑色 細粒砂～中粒砂混じりシルト (粘性弱い)
3 IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルト (IOYR3/1 黑褐色 シルトブロック一部混。粘性弱い)	2 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性弱い)
P4	3 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルト+IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトブロック一部混)
1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (一部に中砂混。粘性弱い)	4 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルト)	593 柱穴
P5	1 IOYR2/1 黑色 細粒砂混じりシルト (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトが径 0.5~2cm の斑状に混。粘性やや弱い)
2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトが径 0.5mm の斑状に混。粘性やや弱い)	1 IOYR2/1 黑色 細粒砂混じりシルト (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトが径 0.5~1cm の斑状に混。粘性やや強い)
3 IOYR2/1 黑色 シルト (縹り弱い、粘性やや強い)	2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
4 IOYR2/1 黑色 シルト (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトブロック径 5mm 多混。粘性やや弱い)	3 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトが径 0.5~1cm の斑状に混。粘性やや強い)
5 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトブロック径 1~5cm 多混)	624 柱穴
	1 IOYR2/1 黑色 シルト (粘性弱い)

掘立柱建物24土色注記（第90図土色注記）

第32表 掘立柱建物24遺構計測表

柱穴						
No.	直径 (cm)	底面の標高 (m)	直角鉛直角 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	調査時遺構名	備考
P1	55	40.11.2	26	54.24	—	—
P2	52	47	22	54.34	—	50.46
P3	53	50	23	54.32	—	52.39
P4	53	52	27	54.22	—	50.43
P5	20	60	36	54.16	—	55.42
P6	53	45.01.2	15	54.44	—	50.41
588柱穴	523.1	50.01.2	53	54.08	—	55.86
589柱穴	65	61	32	54.33	—	52.09
590柱穴	60	59	40	54.16	—	52.90
591柱穴	48	47	21	54.03	—	50.91
524柱穴	60	18.01.2	19	54.45	—	56.24

柱間寸法 (柱行載荷)		柱間寸法 (垂筋方向)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P1-P3	4.5	P1-P4	2.8
P4-P6	4.3	P2-P5	2.6
P3-P6	2.7		

柱間寸法 (柱筋方向)		柱間寸法 (柱筋方向)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P1-P2	1.7	P1-P4	2.8
P2-P3	2.8	P2-P5	2.1
P4-P5	2.1	P5-P6	2.2

54.16～54.44mである。P 1については不明であるが、他の柱穴はすべて建物廃絶時に柱が抜き取られている。

遺物は図化はしていないが、P 2・4から土師器甕とみられる小片が出土している。

本建物の帰属時期は、周辺に検出した遺構の状況から判断し、古代と考える。

掘立柱建物25（第91～94図、第8・33・61・67表、図版59・64・65・94）

2区6A-4a・4bグリッドの調査区際ににおいて、表土除去後、IV層上面で検出した側柱建物である。調査地内の掘立柱建物は北東～南西方向を桁筋にとるもののが大半であることからP 3・11～P 8・16間を梁行と推定している。両桁筋とも柱穴が重複しており、1回の建て替えが行われたものと考える。桁筋の柱穴はいずれも東側にはほぼ平行に移動しており、建て替え後（掘立柱建物25b）の柱穴の大半は検出面からの深さが建て替え前（掘立柱建物25a）より浅くなっている。

これらの柱穴の重複関係をもとに、想定される建物の建て替えの変遷案（掘立柱建物25a・25b）をまとめた（第94図）。

なお、本建物の帰属時期は、25aが8世紀中頃から後半に廃絶されており、25bは同時期に機能していたものと考えている。

以下、掘立柱建物25a・25bについて各段階ごとに述べる。

掘立柱建物25a

P 1～8で構成される。桁行2間（3.3m）以上、梁行1間または3間（4.4m）の建物とみられ、平面積は14.5m²以上となる。主軸はN-59°-Eをとり、柱筋の通りはよい。P 2～7間にはP 4・5が位置する。P 4・5の底面レベルは桁筋の柱穴（P 1～3・6～8）と近似すること、P 2～7間の柱間寸法から、この段階の柱穴と判断した。建物の構造は明確にはできており、P 2～7間を梁行と考える場合は、P 3～8は廂または縁などの付属施設となる可能性が考えられる。P 3～8間を梁行と考える場合は、P 4～5は間仕切りなどの機能が想定される。

柱間寸法は桁筋が1.5～1.8m、P 2～7間は1.4mまたは1.5mである。柱穴の規模は長軸45～67cmを測り、柱穴底面の標高は53.83～54.11mである。

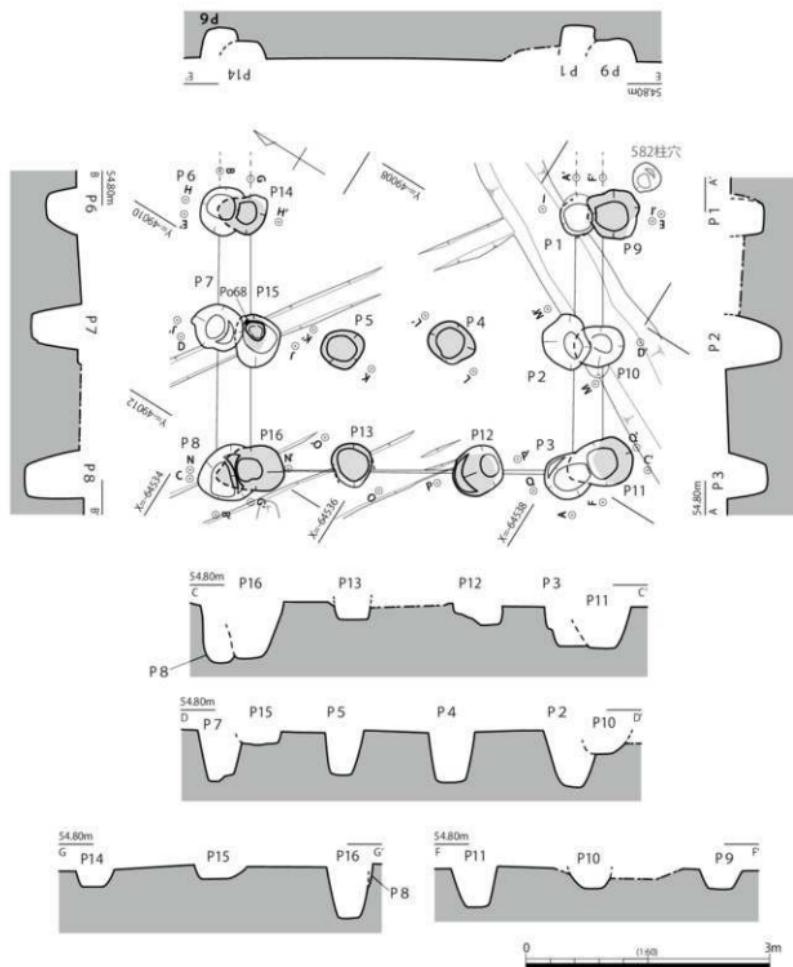
遺物はPo69、CP9を図化した。どちらもP 3柱抜き取り痕跡より出土している。Po69須恵器壺であり、口縁部が外傾気味に直線的に立ち上がる。8世紀中頃から後半に比定される。CP9は土製支脚の脚裾部である。外面には指オサエ痕跡が残る。

掘立柱建物25b

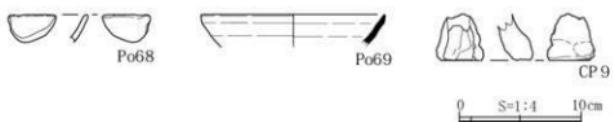
P 9～16で構成される。桁行2間（3.1m）以上、梁行3間（4.5m）の建物とみられ、平面積は14.0m²以上となる。主軸はN-59°-Eをとり、柱筋の通りはよい。

柱間寸法は桁筋が1.4～1.6m、梁筋が1.3～1.6mである。柱穴の規模は長軸55～82cmを測り、柱穴底面の標高は53.89～54.37mである。

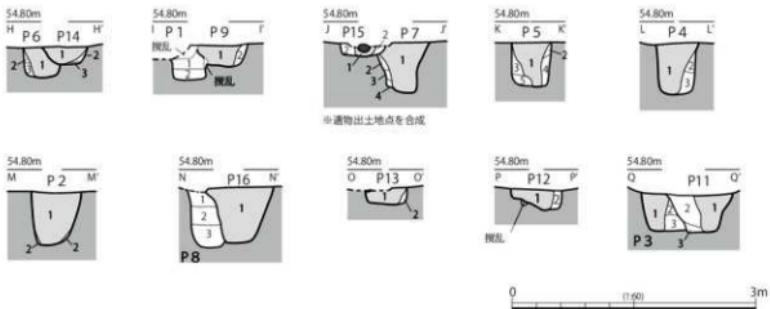
遺物はPo68を図化した。Po68はP 15埋め土より出土している。薄い器壁をもち、口縁部が外傾する製塙土器である。内外面ナデ調整を施す。



第91図 挖立柱建物25（1）



第92図 挖立柱建物25出土土師器・須恵器・土製品



P1

- 1 2.5Y3/1 黒褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 1.5cm 多混。繊りやや弱い)
2 10YR3/1 黒褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm 多混。繊りやや弱い)

P2

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 1cm 多混。繊りやや弱い)
2 2.5Y4/2 喀灰黃色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm 多混。繊りやや弱い)

P3

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 3 ~ 5mm 少混。繊りやや弱い)
2 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 1cm 多混。繊りやや弱い)
3 2.5Y5/2 喀灰黃色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 3cm 多混。繊りやや弱い)

P4

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 3 ~ 5mm 少混。繊りやや弱い)
2 10YR3/1 黑褐色 シルト
(微細な 2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック少混。繊りやや弱い)
3 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 3cm 多混。繊りやや弱い)

P5

- 1 10YR3/1 黒褐色 シルト
(微細な 2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック強混。繊りやや弱い)
2 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック強混。繊りやや弱い)
3 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(微細な 2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック強混。繊りやや弱い)
4 2.5Y3/2 黑褐色 シルト
(微細な 2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック多混。繊りやや弱い)
5 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 3mm 多混。繊りやや弱い)

P6

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多混。繊りやや弱い)
2 10YR3/1 黑褐色 シルト
3 10YR2/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 1cm 多混。繊りやや弱い)

P7

- 1 10YR2/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 にぶい黄褐色~10YR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 1cm の塊状に混入。粘性弱い)
2 10YR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
3 10YR2/1 黑褐色 シルト (粘性やや弱い)
4 10YR2/1 黑褐色 シルト
(10YR7/4 にぶい黄褐色 シルトブロック径 5cm 一部混。粘性やや弱い)

P8

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 2cm 多混。繊りやや弱い)
2 2.5Y4/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 2cm 多混。繊りやや弱い)
3 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 2cm 多混。繊りやや弱い)

P9

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 1cm 多混。繊り弱い)
2 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 1cm 多混。繊り弱い)

P10 土色記号なし

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 2cm 多混。繊りやや弱い)
2 2.5Y3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 2cm 多混。繊りやや弱い)
3 2.5Y3/1 黄灰色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 1 ~ 2cm 多混。繊りやや弱い)

P12

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 1cm 多混。繊りやや弱い)
2 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 1cm 多混。繊りやや弱い)

P13

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 1.5cm 多混。繊りやや弱い)
2 2.5Y3/2 黑褐色 シルト
(微細な 2.5Y6/4 にぶい黄色 シルト混。繊り弱い)

P14

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 0.5cm 多混。繊りやや弱い)
2 10YR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや弱い)
3 2.5Y3/2 喀灰黃色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm 多混。繊り弱い)

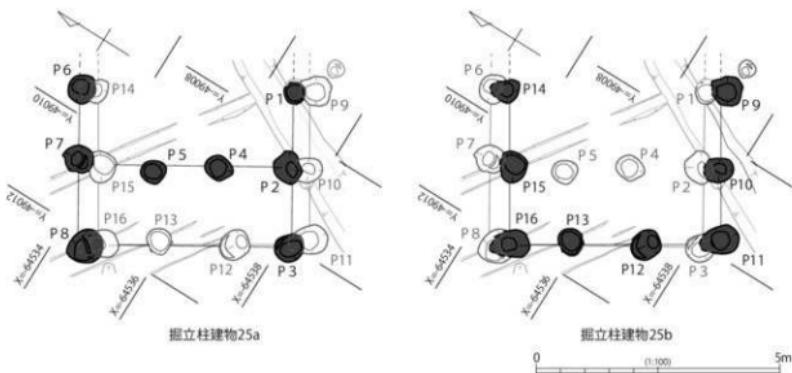
P15

- 1 10YR2/1 黑色 シルト
(10YR7/4 にぶい黄褐色 シルトブロック径 1cm 一部混。繊りやや弱い)
2 10YR2/1 黑色 シルト (繊りやや弱い)

P16

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトブロック径 0.3 ~ 4cm 多混。繊りやや弱い)

第93図 振立柱建物25 (2)



第94図 掘立柱建物25変遷図

第33表 掘立柱建物25遺構計測表

柱穴		柱間寸法 (相引筋)				柱間寸法 (裏引筋)			
No.	長軸 短軸 深さ (cm)	柱間 距離 (m)	柱間表高 (cm)	柱のあたり 高さ (cm)	調査時遺構名	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P-1	45.1±3	40	43	54.08	-	-	3.3	P-1-P6	4.4
P-2	67	57	65	55.87	-	-	3.3	P-6-P7	4.4
P-3	55.0±3	55	45	54.65	-	-	4.2	P-3-P8	4.2
P-4	60	50	63	53.91	-	-	3.7	P-1-P2	1.7
P-5	33	50	55	54.00	-	-	1.6	P-2-P3	1.6
P-6	60	46.1±3	36	54.11	-	-	1.4	P-6-P7	1.5
P-7	62	47.1±3	62	53.92	-	-	1.5	P-7-P8	1.8
P-8	67	46.1±3	73	53.85	-	-	3.7	P-8-P9	1.6
P-9	62	56.1±3	25	54.27	-	-	3.0	P-9-P10	1.6
P-10	61.1±3	50	29	54.27	-	-	3.1	P-2-P11	1.6
P-11	42	50	45	54.00	-	-	3.1	P-3-P11	1.6
P-12	45	26	25	54.39	-	-	3.7	P-3-P12	1.6
P-13	55.0±3	50	20	54.77	-	-	3.7	P-13 棚に切らし石	
P-14	58	50	22	54.28	-	-	3.0	P-6-P14	1.6
P-15	64	56	10.1±1	54.37	-	-	1.4	P-7-P15	1.6
P-16	59.0±3	56	60	53.89	-	-	1.6	P-8-P16	1.3

柱間寸法 (相引筋)		柱間寸法 (裏引筋)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P-1-P3	3.3	P-1-P6	4.4
P-6-P7	3.3	P-2-P3	1.6
P-3-P8	4.2	P-4-P5	1.4
P-7-P8	1.5	P-5-P6	1.5

柱間寸法 (相引筋)		柱間寸法 (裏引筋)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P-1-P2	1.7	P-9-P14	4.5
P-2-P3	1.6	P-10-P15	4.3
P-4-P5	1.4	P-11-P16	4.4
P-5-P6	1.5		

柱間寸法 (相引筋)		柱間寸法 (裏引筋)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P-9-P10	1.6	P-12-P11	1.5
P-10-P15	4.3	P-12-P13	1.6
P-11-P16	4.4	P-13-P16	1.3

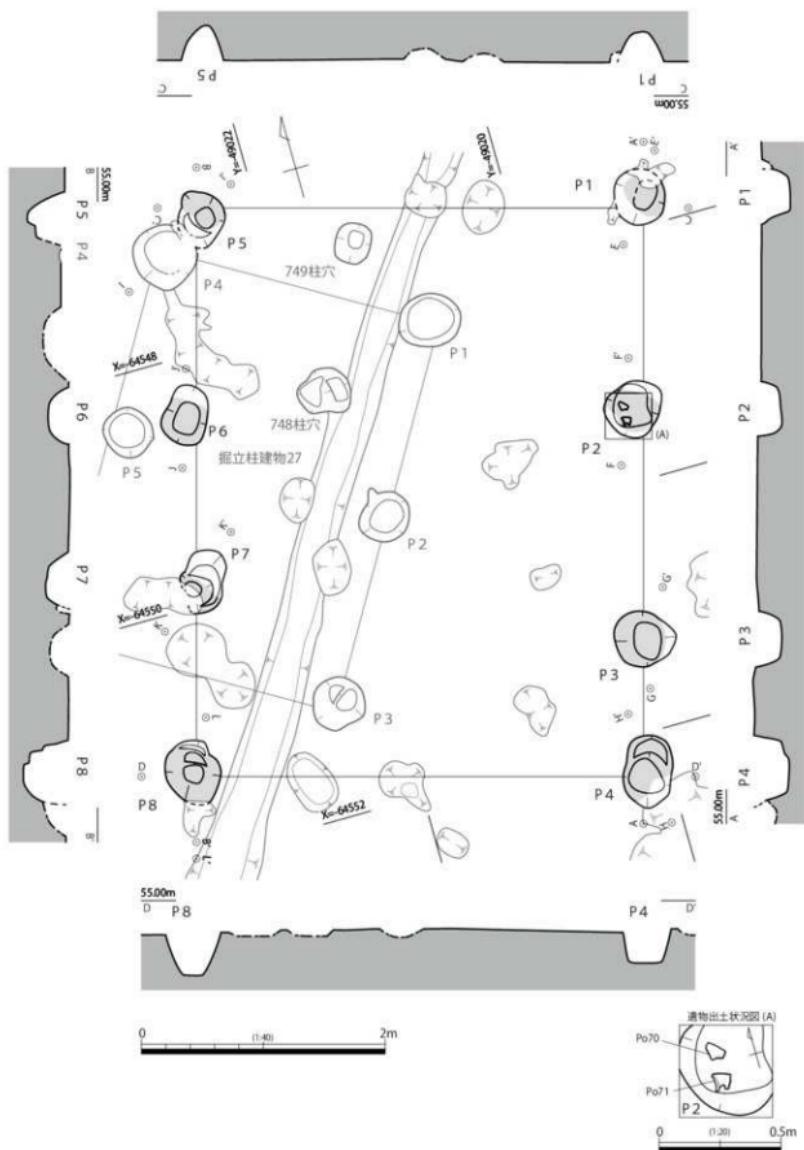
掘立柱建物26 (第95~97図、第8・34・61表、図版59・66・67・94)

2区6A-5b・5c・6b・6cグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ層上面で検出した。桁行3間(4.7m)、梁行1間(3.7m)の側柱建物である。主軸はN-16°-Eにとり、平面積は17.4mを測る。本建物P 5は掘立柱建物27 P 4と重複している。土層断面の観察を行ったが、搅乱のため、先後関係は確認できなかった。

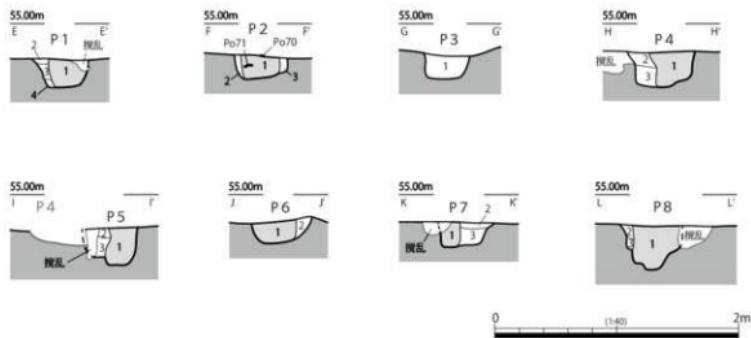
桁筋の柱間寸法は1.0~1.9mを測り、P 3~4間が狭く、P 2~3間が広い。柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、長軸42~60cmを測る。断面形は逆台形または椀状を呈し、柱穴底面の標高は54.38~54.60mである。いずれの柱穴も建物廃絶時に柱が抜き取られている。

遺物はPo70・71を図化した。いずれもP 2柱抜き取り痕跡より出土している。Po70は須恵器蓋の天井部であり、内外面ともに回転ナデで成形される。Po71は須恵器高壺の脚部であり、透かしが施される。

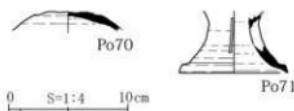
本建物の廃絶時期は、出土遺物から判断し、7世紀後葉から8世紀前葉と考える。



第95図 掘立柱建物26 (1)



- P1
 1 IOYR2/1 黒褐色 細粒砂混じりシルト
 (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトが径 1cm の斑状に混。粘性弱い)
 2 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト
 (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルトブロック径 1cm一部混。粘性弱い)
 3 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 4 IOYR3/1 黑褐色 シルト
 (IOYR7/4 にぶい黄褐色 シルト多混。粘性やや強い)
- P2
 1 IOYR2/1 黒褐色 細粒砂混じりシルト
 (IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルトが斑状に混)
 2 IOYR2/1 黒褐色 細粒砂混じりシルト
 3 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト

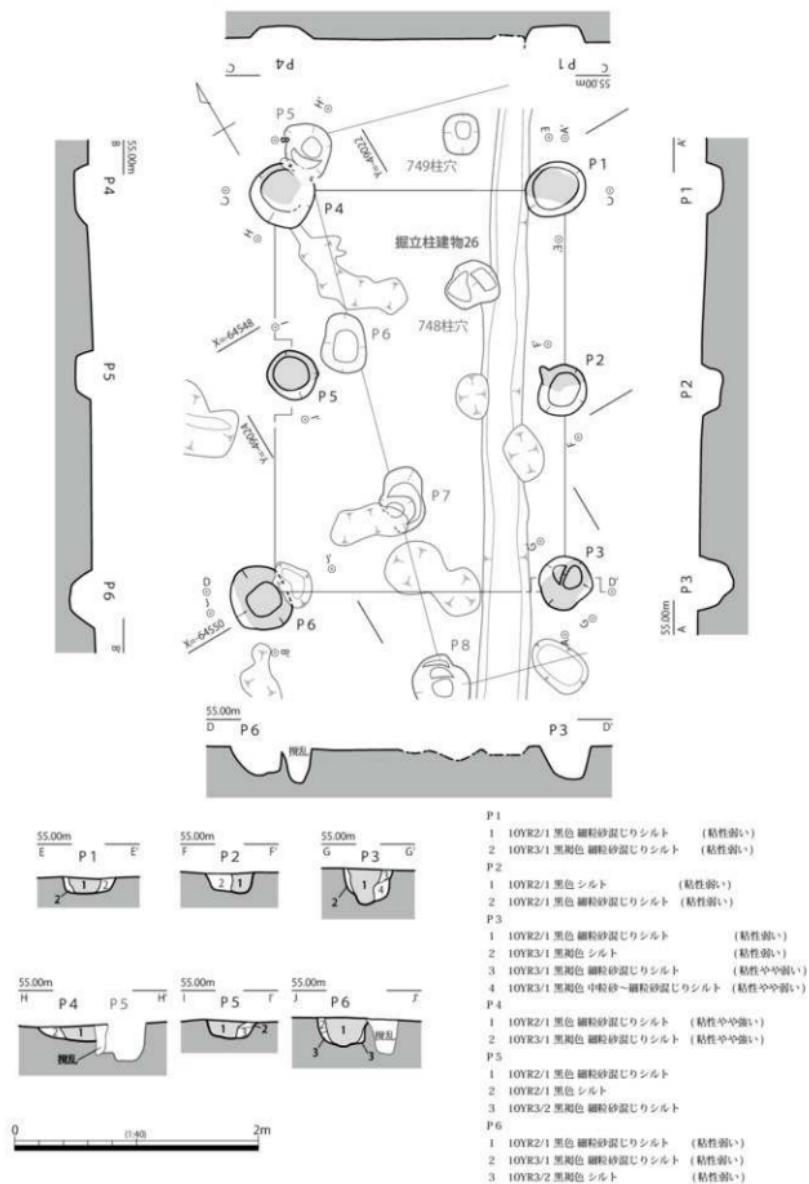


第97図 挖立柱建物26出土須恵器

第96図 挖立柱建物26 (2)

第34表 挖立柱建物26遺構計測表

No.	概要 (cm)			表面の標高 (m)	表面斜角度合 (度)	柱のあたり高さ (cm)	調査時遺構名	著者	柱間寸法 (航行船)		柱間寸法 (建物方面)	
	長幅	短幅	厚さ						柱間寸法 (m)	柱間寸法 (m)	柱間寸法 (m)	柱間寸法 (m)
P1	463.3	42	23	54.48	—	—	S716	搅乱に包まれる	P 1 - P 4	47	P 1 - P 5	26
P2	50	43	18	54.56	—	—	S717	Po70-71出土	P 2 - P 6	37	P 2 - P 6	37
P3	50	45	19	54.55	—	—	S718	—	P 3 - P 7	37	P 3 - P 7	37
P4	60	39	28	54.48	—	—	S720	—	P 4 - P 8	37	P 4 - P 8	37
P5	48	39(1.1)	30	54.43	—	—	S741	掘立柱建物27 P 4 上 鉢軸	P 1 - P 2	1.8	P 1 - P 2	1.8
P6	47	37	18	54.60	—	—	S743	—	P 2 - P 3	1.9	P 2 - P 3	1.9
P7	42(1.1)	38	21	54.57	—	—	S706	搅乱に包まれる	P 3 - P 4	1.0	P 3 - P 4	1.0
P8	52(1.1)	46	36	54.38	—	—	S738	搅乱に包まれる	P 5 - P 6	3.7	P 5 - P 6	3.7
									P 6 - P 7	1.4	P 6 - P 7	1.4
									P 7 - P 8	1.5	P 7 - P 8	1.5



第98図 掘立柱建物27

掘立柱建物27（第98図、第8・35表、図版59・66・67）

2区6A-5c・6cグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ層上面で検出した。桁行2間(3.3m)、梁行1間(2.5m)の側柱建物である。主軸はN-31°-Eにとり、平面積は8.3m²を測る。本建物P4は掘立柱建物26P5と重複している。土層断面の観察を行ったが、搅乱のため、先後関係は確認できなかった。柱筋の通りは概ねよいが、P5がやや南東側にずれる。

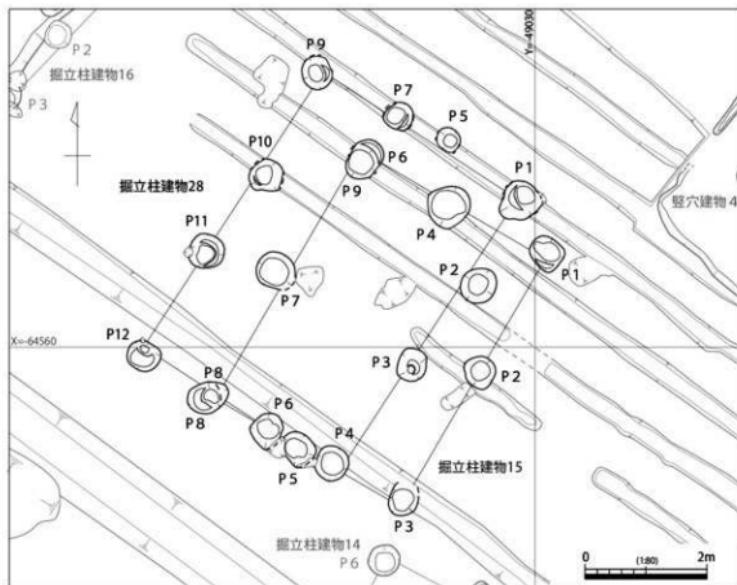
桁筋の柱間寸法は1.5~1.8mを測る。柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、長軸41~57cmを測る。断面形は逆台形を呈し、柱穴底面の標高は54.50~54.61mである。いずれの柱穴も建物廃絶時に柱が抜き取られている。

遺物は図化していないが、P1~3・6埋土中から土師器甕とみられる小片が出土している。また、P1埋土中からは被熱した粘土塊の小片が出土している。

本建物の帰属時期は、出土遺物と周辺に検出した遺構の状況から判断し、古代と考えている。

第35表 掘立柱建物27遺構計測表

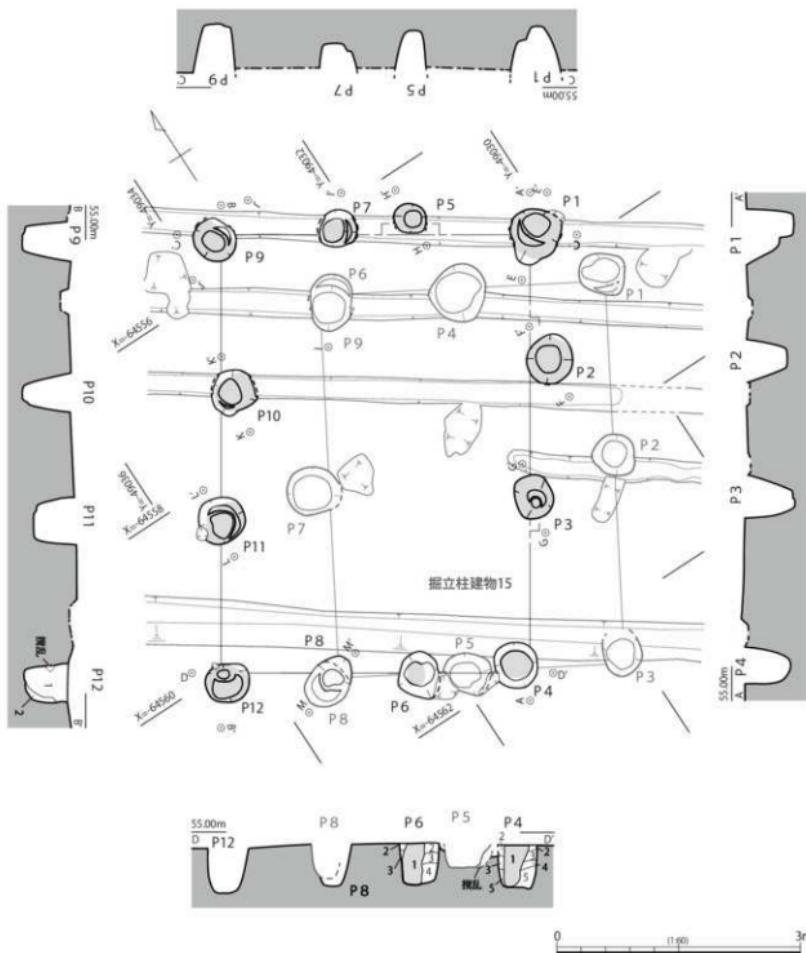
柱穴 No.	範囲(cm)			範囲の標高 (m)	柱筋跡跡幅 (cm)	柱のあたり 直徑(cm)	調査時遺構名	備考	柱間寸法(桁行起終)		柱間寸法(裏筋方向)	
	長軸	短軸	深さ						P1-P3	32	P1-P6	33
P1	32	45	13	54.60	—	—	S239		P2-P5	22	P3-P6	25
P2	44	36	16	54.61	—	—	S221		P1-P6	33		
P3	45	42	29	54.60	—	—	S240					
P4	53	55	13	54.59	—	—	S244	柱筋に割られる				
P5	41	40	14	54.65	—	—	S242					
P6	35	47.5	24	54.65	—	—	S250					



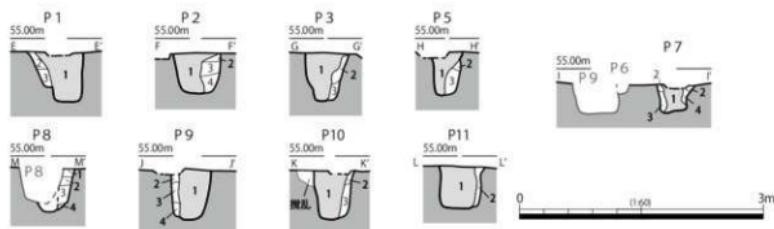
第99図 掘立柱建物15・28位置図

掘立柱建物28 (第99~101図、第8・36表、図版52・53・59)

1・2区6A-6c・6d・7dグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ層上面で検出した。桁行3間(5.5m)、梁行3間(3.9m)の側柱建物である。主軸はN-33°-Eにとり、平面積は21.5m²を測る。本建物P8は掘立柱建物15 P8と重複し、本建物が先行することを確認している。両建物はほぼ同位置に造営され、主軸が近似し、南西側の梁筋もほぼ同じラインに位置することから、本建物から掘立柱建物15に建て替えが行われた可能性が考えられる。本建物の柱筋は概ね通りがよいが、P2・10は南東側に、P5



第100図 掘立柱建物28 (1)



P1

- 1 10YR3/1 黒褐色 細粒砂混じりシルト
(10YR7/4に似る黄褐色 シルトが径1~10cmの斑状に混。粘性やや弱い)
- 2 10YR3/2 黒褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや強)
- 3 10YR2/1 黒色 細粒砂混じりシルト
(10YR7/4に似る黄褐色 シルトが径1~3cmの斑状に混。粘性強)

P2

- 1 10YR2/1 黒色 細粒砂混じりシルト
(10YR7/4に似る黄褐色 シルトが径5mmの斑状に混。粘性やや強)
- 2 10YR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや強)
- 3 10YR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト
(10YR7/4に似る黄褐色 シルトが径5mmの斑状に混。粘性やや弱)
- 4 10YR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト
(10YR7/4に似る黄褐色 シルトが径0.5~1cmの斑状に混。)

P3

- 1 10YR2/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4に似る黄褐色 シルトブロック径0.3~1.5cm 多混。繊りやや強)
- 2 10YR3/2 黑褐色 シルト
(繊維に2.5Y6/4に似る黄褐色 シルトブロック多混。繊りやや弱)
- 3 10YR4/1 墓灰褐色 シルト
(2.5Y6/4に似る黄褐色 シルトブロック径0.3~1cm 多混。繊りやや強)

P4

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(繊りやや強)、径1.0cm以下のIV層ブロック多混。
径5mm以下の炭化物(ブロック混)
- 2 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(繊りやや強)、径5mm以下のIV層ブロック混)
- 3 2.5Y3/2 黑褐色 シルト
(繊り強)、径1.0cm以下のIV層ブロック少混)
- 4 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(繊りやや強)、径5mm以下のIV層ブロック混)
- 5 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(繊りやや強)、径1.0cm以下のIV層ブロック多混)

P5

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4に似る黄褐色 シルトブロック径0.3~1cm 多混。繊りやや弱)
- 2 10YR4/2 灰黃褐色 シルト
(2.5Y6/4に似る黄褐色 シルトブロック径3mm少混。繊りやや強)
- 3 10YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4に似る黄褐色 シルトブロック径0.3~1.5cm 多混。繊りやや弱)

P6

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(繊りやや強)、径1.0cm以下のIV層ブロック混。微細炭化物混)
- 2 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊りやや強)、径5mm以下のIV層ブロック混)
- 3 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊り強)、径1.0cm以下のIV層ブロック少混)
- 4 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (繊りやや強)、径5mm以下のIV層ブロック混)

P7

- 1 10YR2/1 黑褐色 シルト
(10YR3/1 黑褐色 シルト混。粘性やや強)
- 2 10YR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや強)
- 3 10YR3/2 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや強)
- 4 10YR4/2 古黄褐色 シルト (粘性やや強)

P8

- 1 10YR2/1 黑褐色 シルト
- 2 10YK3/2 黑褐色 シルト
- 3 10YR2/1 黑褐色 シルト (径 3mm 以下の地山ブロック少混)
- 4 10YR3/3 明黄褐色 シルト (径 5mm 以下の地山ブロック混)

P9

- 1 10YR3/1 黑褐色 ~ 10YR2/1 黑色 シルト
(2.5Y7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.3 ~ 3cm 多混。繊り強)
- 2 10YR2/1 黑褐色 ~ 10YR2/1 黑色 シルト
(2.5Y7/6 明黄褐色 シルトブロック径 3mm 少混。繊り強)
- 3 10YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y7/6 明黄褐色 シルトブロック径 3mm 少混。繊り強)
- 4 10YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y7/6 明黄褐色 シルトブロック径 3mm 少混。繊り強)

P10

- 1 10YR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト
(10YR3/1 黑褐色 シルト+10YR7/4に似る黄褐色 シルトブロック径 1cm ~一部混)
- 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや弱)
- 3 10YR2/1 黑褐色 シルト (粘性やや弱)

P11

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4に似る黄褐色 シルトブロック径 0.3 ~ 1.5cm 多混。繊りやや弱)
- 2 10YR4/2 黑褐色 シルト
(繊維な 2.5Y6/4に似る黄褐色 シルトブロック少混。繊り強)
- 3 10YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4に似る黄褐色 シルトブロック径 5mm 少混。繊りやや弱)

第101図 掘立柱建物28（2）

は北東側にややずれる。

柱間寸法は桁筋が1.6~2.1m、梁筋は0.9~1.5mを測る。柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、長軸40~71cmを測る。断面形は逆台形を呈し、柱穴底面の標高は54.22~54.46mである。いずれの柱穴も建物廃絶時に柱が抜き取られている。

遺物は出土しておらず、本建物の詳細な帰属時期は明らかにはできないが、本建物より後出する掘立柱建物15から土師器甕とみられる小片が出土していること、周辺に検出した造構の検出状況から判断し、古代と考えている。

第36表 挖立柱建物28遺構計測表

No.	基盤 (cm)			底面の標高 (m)	柱軸跡直徑 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	調査時遺構名	備考	柱間寸法 (桁行範囲)		柱間寸法 (梁行範囲)	
	長軸	短軸	深さ						No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P 1	71	60	60	54.23	—	—	S204	複数に切られる	P 1 - P 4	5.5	P 1 - P 9	2.9
P 2	62	55	50	54.25	—	—	S205	複数に切られる	P 2 - P 6	5.5	P 2 - P 10	2.8
P 3	56	51	49	54.25	—	—	S206	複数に切られる	P 3 - P 6	5.5	P 3 - P 11	2.9
P 4	53	47	52	54.32	—	—	22B ソット	複数に切られる	P 4 - P 12	5.5	P 4 - P 12	3.5
P 5	49	26.5	53	54.39	—	—	9603	複数に切られる				
P 6	60	54	52	54.35	—	—	22B ソット	複数に切られる				
P 7	51.13.1	46	35	54.35	—	—	9603	複数に切られる	P 1 - P 2	1.6	P 1 - P 5	1.5
P 8	47.13.1	45	54	54.32	—	—	22B ソット	複数に切られる	P 2 - P 3	1.8	P 4 - P 6	1.2
P 9	55	47.03.1	62	54.22	—	—	9605	複数に切られる	P 3 - P 4	2.1	P 5 - P 7	0.9
P10	57.13.1	27	59	54.22	—	—	9605	複数に切られる	P 4 - P 10	1.8	P 6 - P 8	1.0
P11	59	57	52	54.36	—	—	9605	複数に切られる	P 10 - P 11	1.6	P 7 - P 9	1.5
P12	55	48	50	54.25	—	—	5880	複数に切られる	P 11 - P 12	1.9	P 8 - P 12	1.3

第37表 挖立柱建物29遺構計測表

No.	基盤 (cm)			底面の標高 (m)	柱軸跡直徑 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	調査時遺構名	備考	柱間寸法 (桁行範囲)		柱間寸法 (梁行範囲)	
	長軸	短軸	深さ						No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P 1	75	65	20	54.15	—	—	9612	複数に切られる	P 1 - P 3	2.5	P 1 - P 4	2.2
P 2	60	56	36	54.08	—	—	9613	複数に切られる	P 4 - P 6	2.5	P 2 - P 5	2.2
P 3	59	50	51	54.19	—	—	9614	複数に切られる	P 3 - P 4	1.3	P 3 - P 6	2.2
P 4	30	47.03.1	49	54.25	—	—	9615	複数に切られる	P 4 - P 2	1.3		
P 5	62	60.5	43	54.22	—	—	9616	複数に切られる	P 2 - P 3	1.3		
P 6	55.13.1	69.12.	16	54.48	—	—	9617	複数に切られる	P 4 - P 5	1.2		
									P 5 - P 6	1.3		

掘立柱建物29（第102図、第8・37表、図版59・68）

2区6A-5d・5eグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ層上面で検出した。桁行2間(2.5m)、梁行1間(2.2m)の側柱建物である。主軸はN-38°-Eにとり、平面積は5.5m²を測る。柱筋の通りはよい。

桁筋の柱間寸法は1.2mまたは1.3mを測る。柱穴の平面形は円形または隅丸方形状を呈し、長軸50~75cmを測る。断面形は逆台形または「U」字状を呈し、柱穴底面の標高は54.11~54.48mである。いずれの柱穴も建物廃絶時に柱が抜き取られている。

遺物は出土しておらず、本建物の帰属時期を詳細に明らかにすることはできないが、周辺の遺構の検出状況から判断し、古代と考えている。

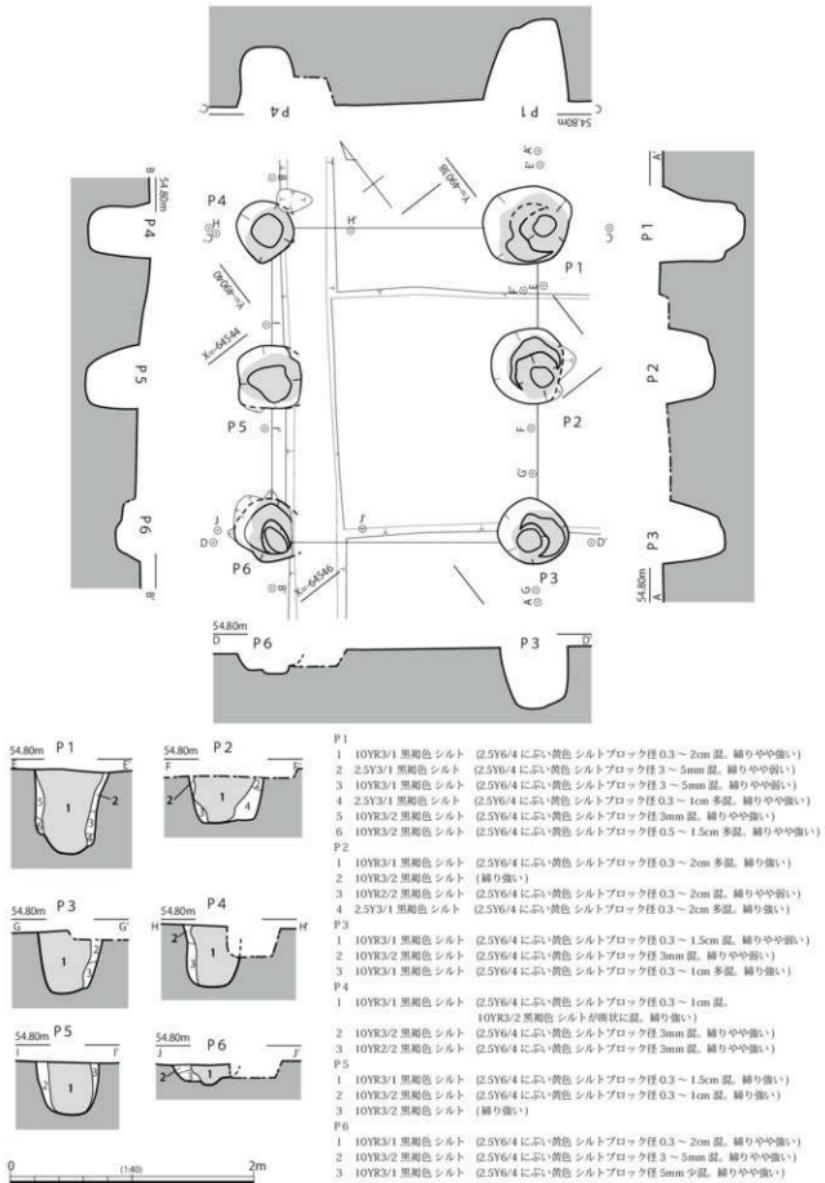
掘立柱建物30（第103・104図、第8・38・72表、図版59・69・70・94）

2区6A-4dグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ層上面で検出した。桁行2間(3.6m)、梁行2間(2.3m)の側柱建物である。主軸はN-22°-Eにとり、平面積は8.3m²を測る。柱筋の通りは概ねよい。

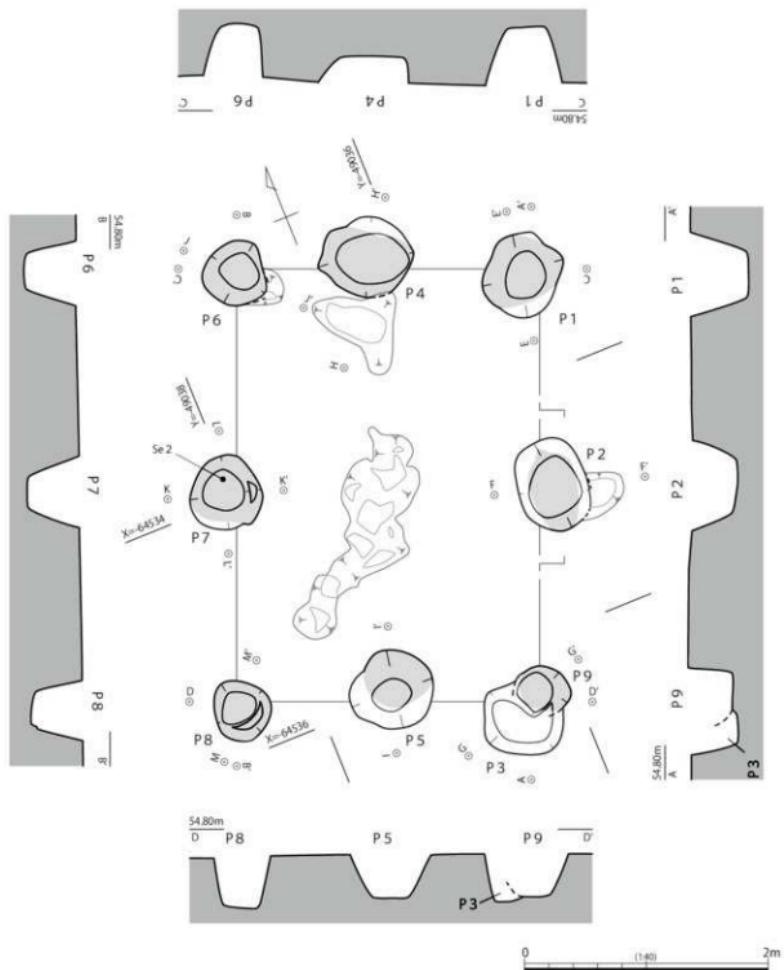
柱間寸法は桁筋が1.7~1.9m、梁筋は1.0~1.2mを測る。柱穴の平面形は不整な円形または隅丸方形状を呈し、長軸47~78cmを測る。断面形は逆台形を呈し、柱穴底面の標高は54.10~54.35mである。いずれの柱穴も建物廃絶時に柱が抜き取られている。P 3・9は重複しており、部分的な補修が行われた可能性が考えられる。

遺物は図化していないが、P 6・7から土師器の甕とみられる小片が出土している。また、P 7柱抜き取り痕跡(K断面1層)から桃核Se2が出土しており(L断面、写真12)、建物廃絶時の祭祀行為に伴うものである可能性が考えられる。

本建物の帰属時期は、出土遺物と周辺の遺構の検出状況から判断し、古代と考えている。



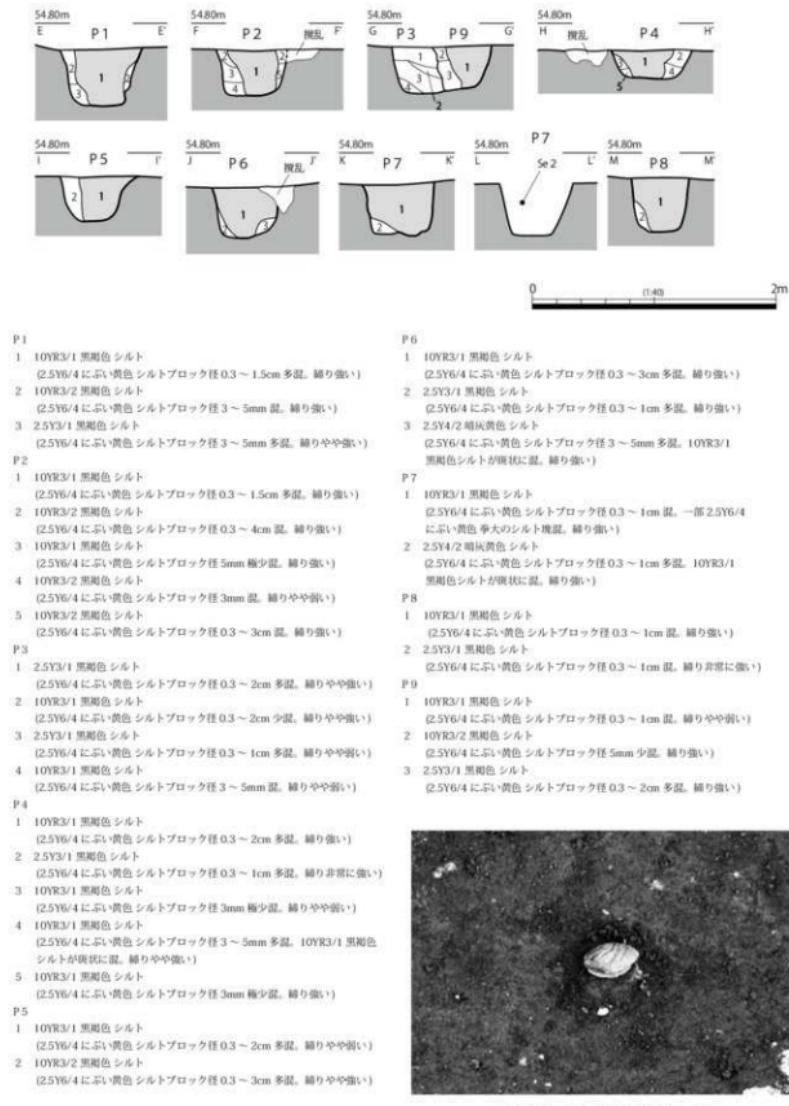
第102図 掘立柱建物29



第103図 掘立柱建物30 (1)

第38表 掘立柱建物30遺構計測表

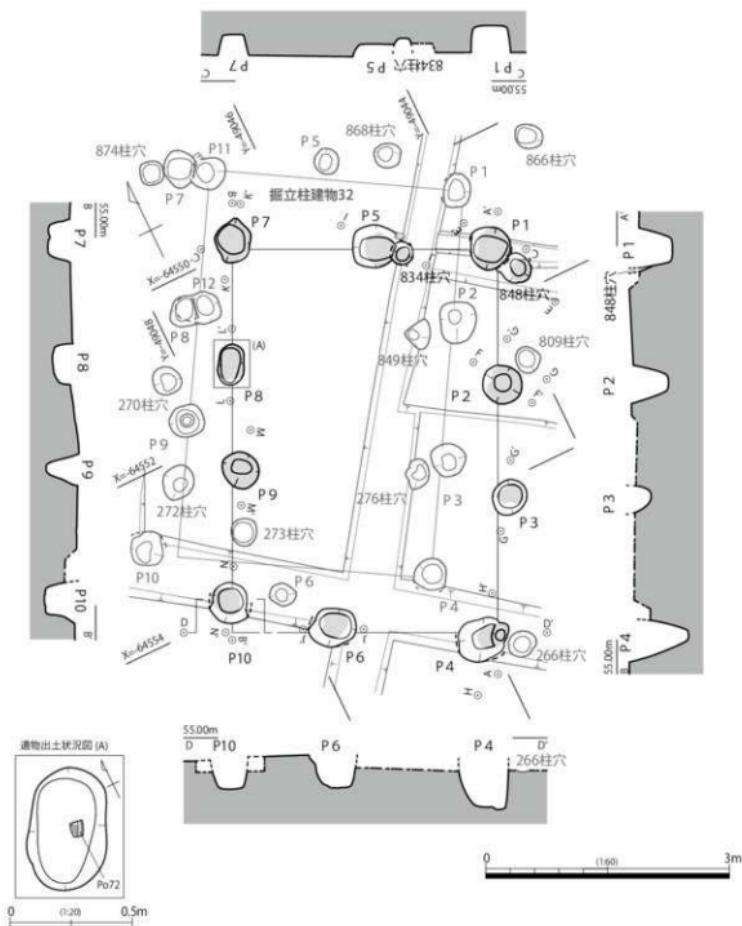
柱穴							柱間寸法(通行軸)		柱間寸法(通航軸)	
No.	直径 (cm)	底面の標高 (m)	柱脚底面 (cm)	柱脚底面 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	調査地遺構名	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P1	68	67	46	5412	—	—	5884	—	P1 - P6	23
P2	75	57	37	5421	—	—	5885	—	P1 - P7	26
P3	70	60.11	37	5422	—	—	5887	P3 - F9	P3 - P8	22
P4	78	65	22	5435	—	—	5888	—	P9 - P8	24
P5	70	65	37	5424	—	—	5889	—	—	—
P6	55	54.11	42	5410	—	—	5890	柱底に切られた	P1 - P4	12
P7	60	58	43	5412	—	—	5891	Se 2 地上	P2 - P3	10
P8	51	48	45	5415	—	—	5892	—	P2 - P6	11
P9	47	39.11	35	5427	—	—	5893	F3 - F9	P5 - P6	12
柱間寸法(通航軸)							柱間寸法(通航軸)		柱間寸法(通航軸)	
柱間寸法(通航軸)							No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
柱間寸法(通航軸)							P1 - P3	36	P1 - P3	36
柱間寸法(通航軸)							P1 - P9	34	P1 - P9	34
柱間寸法(通航軸)							P4 - P5	35	P4 - P5	35
柱間寸法(通航軸)							P6 - P8	35	P6 - P8	35
柱間寸法(通航軸)							P9 - P8	24	P9 - P8	24
柱間寸法(通航軸)							P1 - P4	12	P1 - P4	12
柱間寸法(通航軸)							P2 - P3	10	P2 - P3	10
柱間寸法(通航軸)							P2 - P6	17	P2 - P6	17
柱間寸法(通航軸)							P3 - P5	19	P3 - P5	19
柱間寸法(通航軸)							P4 - P6	11	P4 - P6	11
柱間寸法(通航軸)							P5 - P6	12	P5 - P6	12
柱間寸法(通航軸)							P7 - P8	1.2	P7 - P8	1.2

写真12 挖立柱建物30 P7
核 (Se2) 出土状況 (南から)

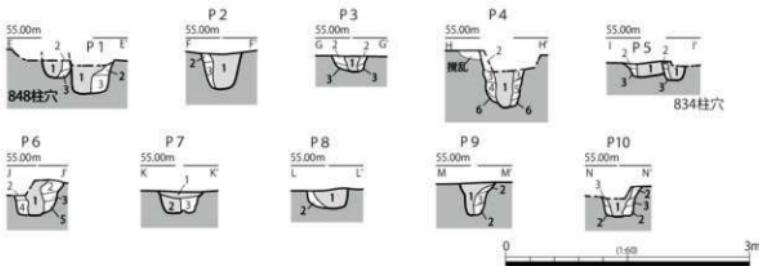
第104図 挖立柱建物30 (2)

掘立柱建物31 (第105~108図、第8・39・61表、図版59・71・72・94)

1・2区6A-5e・6eグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ層またはⅣ層上面で検出した。桁行3間(4.7m)、梁行2間(3.3m)の側柱建物である。主軸はN-26°-Eにとり、平面積は15.5m²を測る。柱穴は重複してはいないが、ほぼ同じ位置に掘立柱建物32を検出しており、主軸、規模とも近似する。柱筋の通りは比較的よいが、P3・9はやや南東側、P6は北西側、P10は北東側にずれる。



第105図 掘立柱建物31 (1)



P1

- 1 10YR2/1 黒褐色細粒砂混じりシルト (粘性やや弱い)
- 2 10YR3/1 黒褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや弱い)
- 3 10YR2/1 黒色 細粒砂混じりシルト
(IV層ブロック径 1cm一部混。粘性やや弱い)

P2

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック径 0.3～2cm混。締りやや弱い)
- 2 10YR3/2 黑褐色 シルト
(微細なIV層ブロック少混。締りやや弱い)
- 3 10YR3/2 黑褐色 シルト
(IV層ブロック径 3mm少混。締りやや弱い)

P3

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック微細～径 3mm混。締りやや弱い)
- 2 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(微細なIV層ブロック混。締り弱い)
- 3 2.5Y3/2 黑褐色 シルト
(IV層ブロック微細～径 5mm混。締り強い)

P4

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック微細～径 3cm混。締りやや弱い)
- 2 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック微細～径 3cm混。締りやや弱い)
- 3 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック微細～径 3mm混。締りやや弱い)
- 4 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(微細なIV層ブロック少混。締りやや弱い)
- 5 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック微細～径 4cm多混。締りやや強)
- 6 2.5Y4/2 喀灰黄色 シルト
(IV層ブロック微細～径 5mm混。締り弱い)

P5

- 1 10YR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性弱い)
 - 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや弱い)
 - 3 10YR3/3 黑褐色 シルト (粘性やや弱い)
- P6
- 1 10YR2/2 黑褐色 シルト (IV層ブロック径 1cm以下少混。締り弱い)
 - 2 10YR2/1 黑褐色 シルト (締り弱い)
 - 3 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (微細な IV層ブロック少混。締りやや弱い)
 - 4 2.5Y4/2 喀灰黄色 シルト (IV層ブロック微細～径 1cm混。締りやや強)
 - 5 2.5Y3/2 黑褐色 シルト
(IV層ブロック径 3mm混。締りやや強)

- 1 10YR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや弱い)
 - 2 10YR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや弱い)
 - 3 2.5Y4/2 喀灰黄色 シルト (IV層ブロック径 3mm混)

P7

- 1 10YR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや弱い)
- 2 10YR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト
(IV層ブロック径 1cm一部混。粘性やや強)
- 3 10YR2/1 黑色 シルト (粘性やや強)

P8

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック径 0.3～1cm混。
10YR4/2 喀灰褐色 シルトが斑状に混。炭化物径 3～5mm混。締り強)
- 2 10YR3/2 黑褐色 シルト
(IV層ブロック径 0.3～1cm混。締り強)

P9

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック微細～径 3mm混。締りやや弱)
- 2 10YR3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック微細～径 3mm少混。締りやや弱)
- 3 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック微細～径 3mm多混。締り強)

P10

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック微細～径 3mm少混。締りやや弱)
- 2 10YR3/1 黑褐色 シルト
(IV層ブロック微細～径 3mm混。締りやや弱)
- 3 10YR3/1 微細なIV層ブロック少混。締りやや弱)

846柱穴

- 1 10YR2/1 黑色 シルト (粘性やや弱)
- 2 10YR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや弱)
- 3 10YR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや強)

846柱穴

- 1 10YR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや弱)
- 2 10YR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや弱)
- 3 2.5Y4/2 喀灰黄色 シルト (IV層ブロック径 3mm混)



Po72
10cm

第107図
掘立柱建物31出土土器甕

第106図 掘立柱建物31 (2)

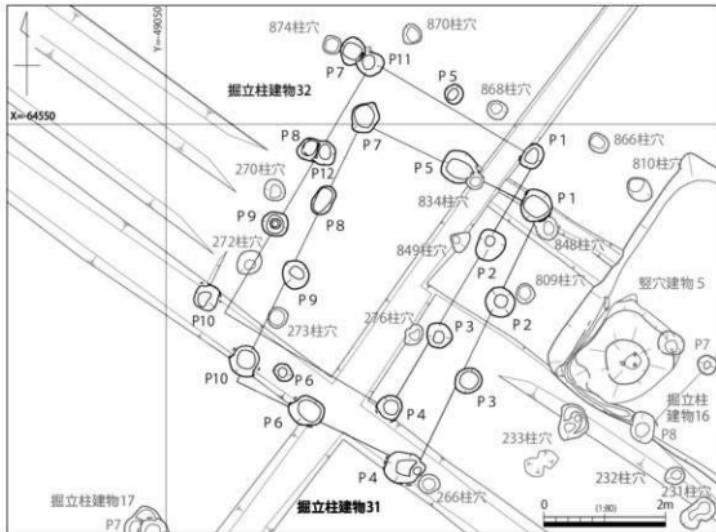
柱間寸法は桁筋1.3~1.7m、梁筋は1.3~1.8mを測る。柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、長軸43~67cmを測る。断面形は逆台形または「U」字状を呈し、柱穴底面の標高は54.15~54.58mである。いずれの柱穴も建物廃絶時に柱が抜き取られている。

遺物はPo72を図化した。Po72はP 8埋土中より出土している。「く」の字状に口縁部が外反する土器器窓である。口縁部外面はナデ、内面はハケ調整を施している。

本建物の帰属時期は、出土遺物と周辺の遺構の検出状況から判断し、古代と考えている。

第39表 挖立柱建物31遺構計測表

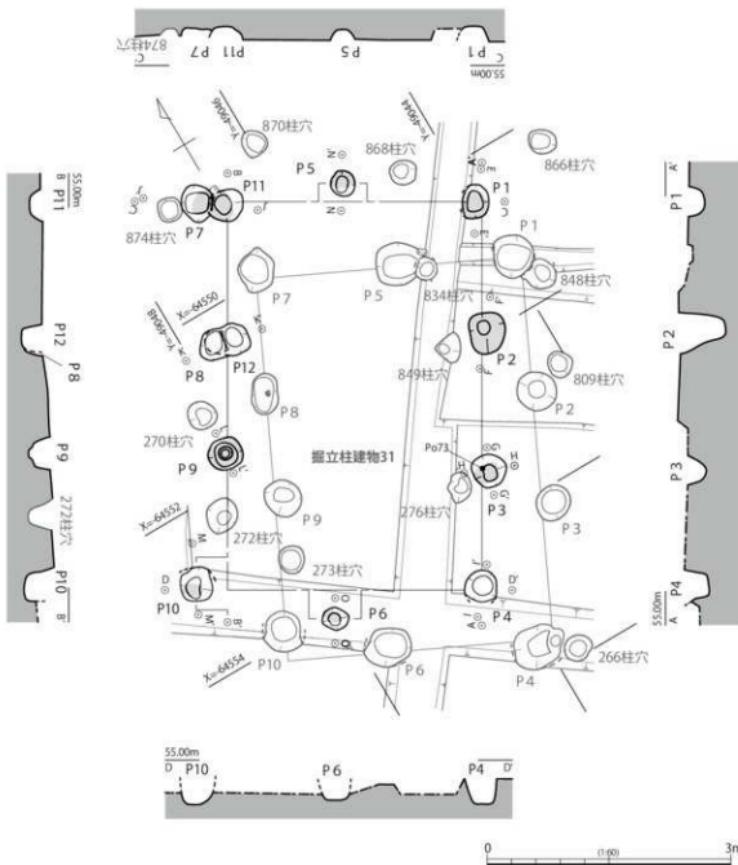
柱穴						柱間寸法(航行動脈)			柱間寸法(航行動脈)		
No.	規則寸法(cm)	規則寸法(m)	規則寸法(cm)	規則寸法(cm)	規則寸法(cm)	No.	規則寸法(cm)	規則寸法(m)	No.	規則寸法(cm)	規則寸法(m)
P1	54	52±1.1	41	54.32	-	-	984柱穴→P1	-	P1-P2	2.3	
P2	48	47	43	54.37	-	-	988	-	P2-P6	3.3	
P3	43	42	42	54.56	-	-	264ピット	-	P3-P9	3.2	
P4	67±1.1	50	68	54.15	-	-	265ピット	-	P4-P10	3.1	
P5	58	53	17	54.51	-	-	985	P5→848柱穴	-	-	
P6	58	47	43	54.36	-	-	267ピット	-	-	-	
P7	55	44	26	54.42	-	-	981	986柱穴	-	-	
P8	30	32	25	54.47	-	-	989	Po72出土	-	-	
P9	47	45	49	54.36	-	-	268ピット	-	-	-	
P10	56±1.1	46±1.1	35	54.37	-	-	269ピット	-	-	-	
848柱穴	29	28	22	54.48	-	-	983	P5→848柱穴	-	-	
848柱穴	38	36	22±1.1	54.51	-	-	988	848柱穴→P1	-	-	



第108図 掘立柱建物31・32位置図

掘立柱建物32（第105・109～111図、第8・40・61表、図版59・71・72・94）

1・2区6A-5e・6eグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ層またはⅣ層上面で検出した。桁行3間(4.8m)、梁行2間(3.5m)の側柱建物である。主軸はN-31°-Eにとり、平面積は16.8m²を測る。柱穴は重複してはいないが、ほぼ同じ位置に掘立柱建物31を検出しており、主軸、規模とも近似する。本建物の柱筋の通りは概ねよいが、P7・10はやや北西にずれる。北西側桁筋のP7・11、P8・12はそれぞれ重複しており、部分的な補修または1回の建て替えが行われたものと考える。P5・6はいずれも梁筋の中央外側に位置することから、独立棟持柱である可能性が考えられる。

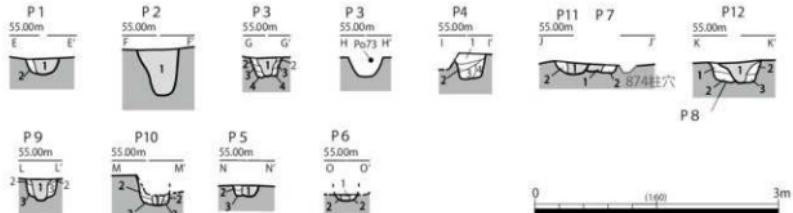


第109図 掘立柱建物32（1）

柱間寸法は桁筋1.3~1.8m、梁筋は1.4mまたは1.7mを測る。柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、長軸33~56cmを測る。断面形は逆台形または「U」字状を呈し、柱穴底面の標高は54.26~54.55mであり、底面レベルは一定ではない。いずれの柱穴も建物廃絶時に柱が抜き取られている。

遺物はPo73を図化した。Po73はP 3柱抜き取り痕跡より出土している。須恵器壺の肩部であり、外側は平行タキ後ナデ、内面はナデ調整を施す。

本建物の帰属時期は、出土遺物と周辺の遺構の検出状況から判断し、古代と考えている。



P1

- 1 IOYR2/1 黒褐色 シルトブロック (10YR7/4に似る黄褐色 シルトブロック径 1cm一部混。粘性やや弱い)

2 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや弱い)

P2

- 1 IOYR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (10YR7/4に似る黄褐色 シルトブロック径 0.5~1cm一部混。粘性やや弱い)

P3

- 1 IOYR2/2 黑褐色 シルト (地山ブロック径 1cm以下少混。繊り弱い)

2 IOYR2/1 黒色 シルト (繊り弱い)

3 IOYR3/3 黄褐色 中粒砂混じりシルト (地山ブロック径 5mm以下少混)

4 IOYR2/2 黑褐色 中粒砂混じりシルト (地山ブロック径 3mm混。繊りやや弱い)

P4

- 1 IOYR2/2 黑褐色 シルト (地山ブロック径 1cm以下少混。繊り弱い)

2 IOYR2/1 黑褐色 シルト (繊り弱い)

3 IOYR3/3 黄褐色 中粒砂混じりシルト (地山ブロック径 5mm以下少混)

4 IOYR2/2 黑褐色 中粒砂混じりシルト (地山ブロック径 3mm混。繊りやや弱い)

P5

- 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)

2 IOYR3/1 黑褐色 シルト (IOYR3/2 黑褐色 シルトが斑状に混。粘性やや強い)

3 IOYR3/2 黑褐色 シルト (粘性やや強い)

P6

- 1 IOYR2/1 黑褐色 シルト

(IOYR7/4に似る黄褐色 シルトブロック径 0.3~2cm混)

- 2 2.5Y4/1 黄灰色 シルト

(IOYR7/4に似る黄褐色 シルトブロック径 0.3~3cm混)

P7

- 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや強い)

2 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや弱い)

P8

- 1 IOYR3/1 黑褐色 シルト

(IOY7/4に似る黄褐色 シルトブロック径 1cm一部混。繊りやや弱い)

2 IOYR2/1 黑色 シルト (粘性やや強い)

P9

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (IV層ブロック隙縫~径 1cm混。繊りやや弱い)
- 2 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (繊細なIV層ブロック隙縫。繊り弱い)
- 3 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (IV層ブロック隙縫~径 5mm混。繊りやや弱い)

P10

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (IV層ブロック隙縫~径 1cm混。繊りやや弱い)
- 2 2.5Y3/1 黑褐色 シルト (IV層ブロック隙縫~径 1cm混。繊りやや弱い)
- 3 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (IV層ブロック隙縫~径 1.5cm混。繊り弱い)

P11

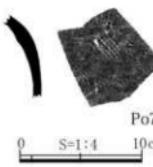
- 1 IOYR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや強い)
- 2 IOYR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや強い)

P12

- 1 IOYR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (底面~中程にかけて IOYR7/4に似る黄褐色 シルトブロック 径 0.5~3cm混。粘性やや弱い)

2 IOYR2/1 黑色 シルト (粘性やや強い)

3 IOYR2/1 黑色 シルト (IOYR7/4に似る黄褐色 シルトブロック径 1cm混。粘性やや強い)



第111図 掘立柱建物32出土須恵器壺

第110図 掘立柱建物32 (2)

第40表 挖立柱建物32遺構計測表

No.	範囲 (cm)			底面の標高 (m)	柱筋距底面 (cm)	柱のあたり 直径 (cm)	調査時遺構名	備考	柱間寸法 (通行軸)		柱間寸法 (通行軸)
	長幅	短幅	厚さ						No.	柱間寸法 (m)	
P 1	42	330.1	19	54.52	—	—	—	—	P 1 - P 4	4.6	—
P 2	50	41	16	54.45	—	—	—	—	P 5 - P 6	3.4	—
P 3	42	39	24	54.49	—	—	—	—	P 7 - P 10	4.7	—
P 4	42	403.1	31	54.46	—	—	—	—	P 11 - P 12	4.7	—
P 5	42	39	13	54.45	—	—	—	—	P 13 - P 14	2.3	—
P 6	33	28	8	54.51	—	—	—	—	P 15 - P 16	2.3	—
P 7	47	360.1	9	54.55	—	—	—	—	P 17 - P 18	3.5	—
P 8	26	28	24	54.42	—	—	—	—	P 19 - P 20	2.7	—
P 9	43	38	26	54.50	—	—	—	—	P 21 - P 22	2.5	—
P 10	433.1	26	54.43	—	—	—	—	—	P 23 - P 24	1.9	—
P 11	43	39	15	54.52	—	—	—	—	P 25 - P 26	1.7	—
P 12	56	39	26	54.42	—	—	—	—	P 27 - P 28	1.5	—
									P 29 - P 30	1.7	—
									P 31 - P 32	1.4	—

No.	柱間寸法 (通行軸)			柱間寸法 (通行軸)
	No.	柱間寸法 (m)		
P 1 - P 4	4.6	—	—	—
P 5 - P 6	3.4	—	—	—
P 7 - P 10	4.7	—	—	—
P 11 - P 12	4.7	—	—	—
P 13 - P 14	2.3	—	—	—
P 15 - P 16	2.3	—	—	—
P 17 - P 18	3.5	—	—	—
P 19 - P 20	2.7	—	—	—
P 21 - P 22	2.5	—	—	—
P 23 - P 24	1.9	—	—	—
P 25 - P 26	1.7	—	—	—
P 27 - P 28	1.5	—	—	—
P 29 - P 30	1.7	—	—	—
P 31 - P 32	1.4	—	—	—

掘立柱建物33 (第112・113、第8・41表、図版59・61・62・64)

2区6A-4b・5bグリッドにおいて、表土除去後、Ⅲ層またはⅣ層上面で検出した側柱建物である。南東側桁筋のP 1・11・17は2回、北西側桁筋のP 9・16・20は2回、P 7・14・18・21は3回重複しており、すべて北東側に移動する。このことから、建物の位置をやや北東にずらしながら、3回の建て替えが行われたものと考える。P 19のように搅乱により削平され、遺存状態が悪いものも含まれるが、柱穴の平面的な位置関係から判断し、本建物を構成する柱穴として判断した。また、P 4は掘立柱建物23 P 7、P 13は掘立柱建物23 P 4と重複しており、本建物が後出することを確認している。

これらの柱穴の重複関係をもとに、想定される建物の建て替えの変遷案(掘立柱建物33a～33d)をまとめた(第113図)。後述するが、33a～33dは桁筋中央の柱間寸法が広い傾向にあり、平入りの可能性が考えられる。

なお、本建物の廃絶時期は、出土遺物と周辺の遺構の検出状況から判断し、古代と考えている。

以下、掘立柱建物33a～33dについて各段階ごとに述べる。

掘立柱建物33a

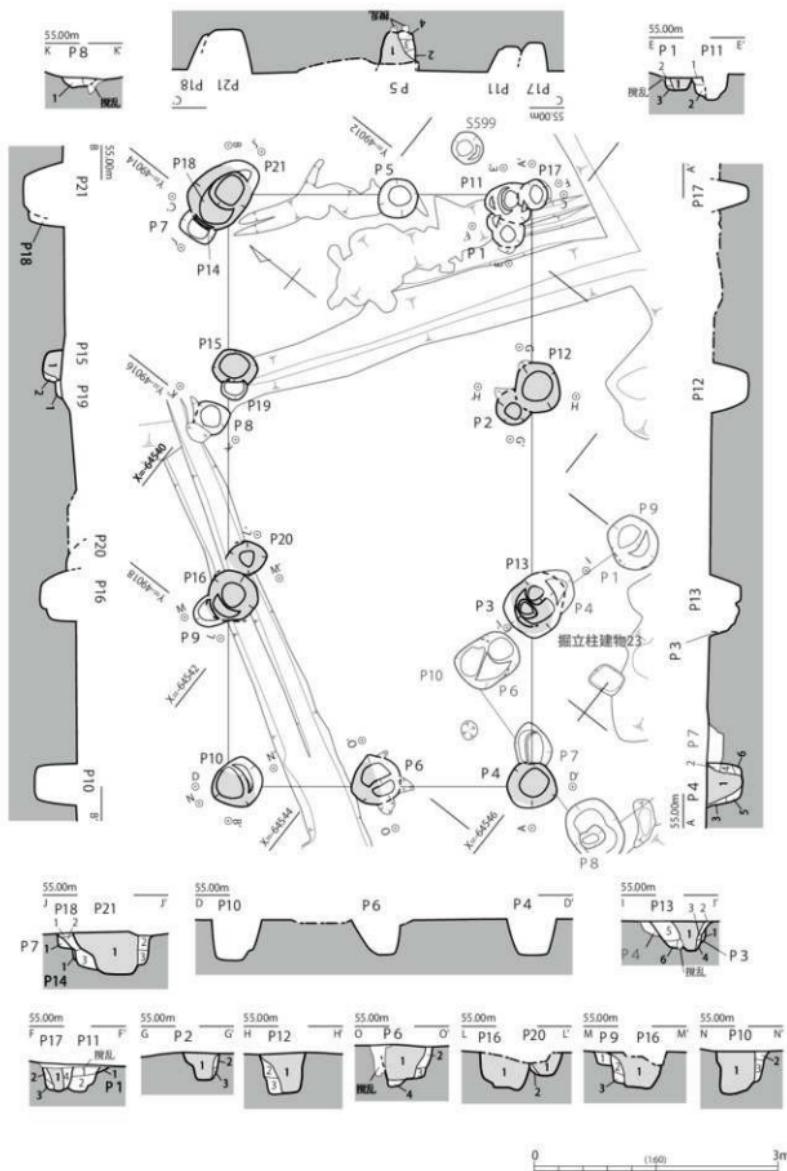
P 1～10で構成される。桁行3間(6.9m)、梁行2間(3.8m)の建物であり、平面積は26.2m²を測る。主軸はN-50°-Eである。柱筋の通りは概ねよいが、北西側桁筋P 7～9はやや北西にずれるほか、妻柱P 5がやや南東にずれる。柱間寸法は桁筋が2.1～2.5mでP 2～3間が広く、梁筋が1.4～2.4mを測る。柱穴の平面形は円形を呈す。規模は長軸38～63cmを測り、柱穴底面の標高は54.07～54.53mである。いずれの柱穴も建物廃絶時に柱が抜き取られている。

遺物は図化していないが、P 6・10埋土中から土師器壺とみられる小片が出土しているほか、P 1埋土中から被熱粘土塊が出土している。

掘立柱建物33b

P 11・2～6・14～16・10で構成される。桁行3間(7.1m)、梁行2間(3.8m)の建物であり、平面積は27.0m²を測る。主軸はN-50°-Eである。柱筋の通りは概ねよいが、妻柱P 5はやや南東にずれる。柱間寸法は桁筋が2.1～2.8mでP 15～16間が広く、梁筋が1.4～1.9mを測る。柱穴の平面形は円形を呈す。規模は長軸43～63cmを測り、柱穴底面の標高は54.07～54.34mである。いずれの柱穴も建物廃絶時に柱が抜き取られている。

遺物は図化していないが、P 11埋土中から土師器壺とみられる小片が出土している。



第112図 掘立柱建物33

第3章 調査成果

P1

- 1 I0YR2/1 黒褐色 細粒砂混じりシルト
(I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトが径 5mm の斑状に混。粘性やや強い)

- 2 I0YR3/1 黒褐色 シルト
(I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.5 ~ 3cm 混。粘性やや強い)

- 3 I0YR3/1 黒褐色 シルト (粘性やや強い)

P2

- 1 I0YR3/1 黒褐色 細粒砂混じりシルト
(I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 1 ~ 3cm 多混。粘性弱い)

- 2 I0YR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)

- 3 I0YR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや弱い)

P3

- 1 I0YR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや弱い)

P4

- 1 I0YR2/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト
(I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 1 ~ 2cm 僅かに混。粘性やや弱い)

- 2 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 1cm 僅かに混。粘性強い)

- 3 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルト + I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトプロック
径 1 ~ 3cm 多混)

- 4 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 1cm 僅かに混。粘性やや弱い)

- 5 I0YR2/1 黑褐色 シルト (稍り弱い、粘性強い)

- 6 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 1 ~ 3cm 底面付近に混。粘性やや弱い)

P5

- 1 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 2cm 多混。繊りやや弱い)

- 2 I0YR4/1 壤灰色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 1cm 混。繊りやや弱い)

- 3 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 5mm 層。繊りやや弱い)

- 4 I0YR4/2 黄褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.5 ~ 1.5cm 混。I0YR3/1 黑褐色
シルトが斑状に混。繊りやや弱い)

P6

- 1 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 1cm 混。繊りやや弱い)

- 2 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 3 ~ 5mm 少混。繊りやや弱い)

- 3 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 1.5cm 混。繊りやや弱い)

- 4 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 1cm 混。繊り弱い) *充填土か

P7

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 3 ~ 5mm 少量混。繊りやや弱い)

P8

- 1 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 3mm 層。繊りやや弱い)

P9

- 1 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 3 ~ 5mm 混。繊りやや弱い)

P10

- 1 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 1cm 混。繊りやや弱い)

- 2 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 5mm 層。繊りやや弱い)

- 3 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 3 ~ 5mm 混。繊り非常に強い)

P11

- 1 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.5 ~ 2cm 多混。繊り強)

- 2 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 1.5cm 多混。繊りやや弱い)

P12

- 1 I0YR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト
(I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.5 ~ 1cm 多混。粘性弱い)

- 2 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 1cm の斑状に混。粘性弱い)

- 3 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.5 ~ 1cm 多混。粘性やや弱い)

P13

- 1 I0YR2/1 黑褐色 シルト

- (I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 3cm の斑状に混。粘性やや弱い)

- 2 I0YR3/1 黑褐色 シルト

- (I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 5mm 僅かに混。粘性やや弱い)

- 3 I0YR3/2 黑褐色 シルト (粘性やや弱い)

- 4 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルト)

- (I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 5mm 底面付近に混。粘性やや弱い)

- 5 I0YR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト
(I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルト)

- (I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルト)

- 6 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(I0YR7/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.5 ~ 1cm 多混。繊り強)

- 粘性やや弱い)

P14

- 1 2.5Y3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 3mm 少量混。繊りやや弱い)

- P15 1 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 2cm 多混。繊りやや弱い)

- 2 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルト)

- (2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 3 ~ 5mm 少量混。繊りやや弱い)

- P16 1 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルト)

- (2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 2cm 多混。繊りやや弱い)

- 2 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルト)

- (2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 2cm 多混。繊りやや弱い)

- 3 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルト)

- (2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 5mm 多混。繊りやや弱い)

- 4 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 2cm 多混。繊り強)

- P17 1 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 3 ~ 5mm 混。繊りやや弱い)

- 2 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 3 ~ 5mm 多混。繊り強)

- 3 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 3 ~ 5mm 多混。繊りやや弱い)

- 4 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 5mm 多混。繊り強)

- P18 1 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 3 ~ 5mm 少量混。繊りやや弱い)

- 2 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルト)

- (2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 5mm 少量混。繊りやや弱い)

- 3 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 5mm 混。繊りやや弱い)

- 4 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 2cm 多混。繊りやや弱い)

- P19 1 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック少量混)

- P20 1 I0YR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 3 ~ 5mm 混。繊りやや弱い)

- 2 I0YR4/2 黄褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 5mm 少量混。繊りやや弱い)

- P21 1 I0YR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 3cm 多混。繊り強)

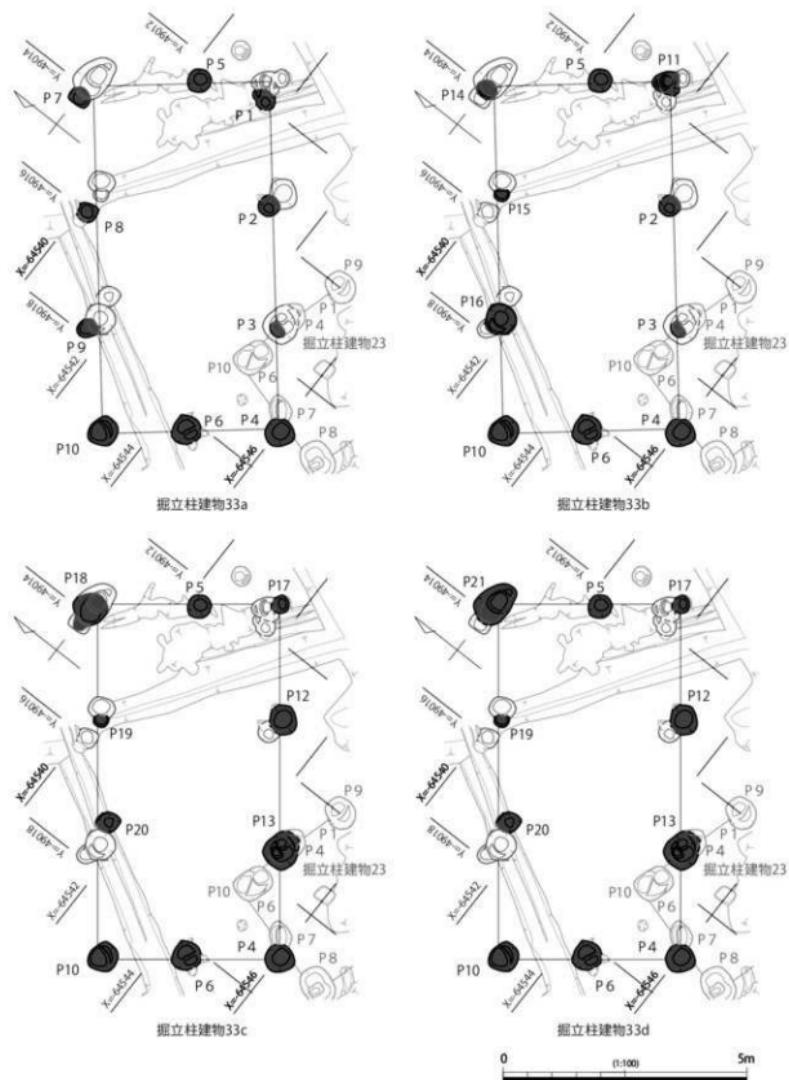
- 2 2.5Y4/2 噴成黄褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 1.5cm 多混。繊りやや弱い)

- 3 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい黄褐色 シルトプロック径 0.3 ~ 5mm 混。繊りやや弱い)

掘立柱建物33土色注記 (第112図土色注記)

掘立柱建物33c

P 17・12・13・4～6・18～20・10で構成される。桁行3間(7.2m)、梁行2間(3.9m)の建物であり、平面積は28.1m²を測る。主軸はN-52°-Eである。柱筋の通りは概ねよいが、妻柱P 5はやや南東にずれる。柱間寸法は桁筋が2.1～28mでP 12～13間が広く、梁筋が1.7～22mを測る。柱穴の平面形は円



第113図 掘立柱建物33変遷図

第41表 挖立柱建物33遺構計測表

第41表 挖立柱建物33遺構計測表											
柱穴 No.	規格 (cm)			底面の標高		柱頭脚部寸法 (cm)		柱のあたり		調査時遺構名	備考
	長軸	短軸	深さ	左	右	上	下	左	右		
P.1	32	30.0	15	54.25	-	-	-	5643	P.1-P7+P11-P17		
P.2	43	30.0	14	54.34	-	-	-	5627	P.2-P7+P12		
P.3	-	-	-	-	-	-	-	5612	P.3-P7+P13:大部分を破壊		
P.4	62	39	44	54.25	-	-	-	5606	底面付建物23 P.7+P.4		
P.5	49	48	45	54.07	-	-	-	5628	底面に切られ		
P.6	63	60	52	54.26	-	-	-	5662	底面に切られ		
P.7	45	19.1	18	54.35	-	-	-	5629	P.7+P.14+P16+P21		
P.8	45	42	13	54.46	-	-	-	5600	底面に切られ		
P.9	38	24.1	15	54.53	-	-	-	5661	P.9+P16		
P.10	63	56	53	54.17	-	-	-	5696			
P.11	56	49	32	54.21	-	-	-	5641	P11+P17		
P.12	62	58	50	54.38	-	-	-	5656	P.2+P12		
P.13	88	68	36	54.32	-	-	-	5501	底面付建物23 P.4+P.3		
P.14	-	-	35	54.29	-	-	-	5628	P.7+P.14+P16+P21		
P.15	55	41.5	24	54.28	-	-	-	5566	P.5+P19		
P.16	61	60	45	54.22	-	-	-	5568	P.9+P16+P20		
P.17	36	35	34	54.29	-	-	-	5640	P.1+P11+P17		
P.18	49.5	-	46	54.08	-	-	-	5513	P.7+P14+P18+P21		
P.19	32	-	25	7	54.43	-	-	5565	P.15+P19		
P.20	30	41	29	54.40	-	-	-	5567	P.9+P16+P20		
P.21	97	68	51	54.03	-	-	-	5564	P.7+P14+P18+P21		
33c-d柱間寸法 (横行寸法)											
No.		柱間寸法 (m)		No.		柱間寸法 (m)		No.		柱間寸法 (m)	
P.4-P12	7.2	P.4-P13	2.3	P.4-P12	2.3	P.4-P13	2.3	P.2-P11	2.5	P.5-P12	1.7
P10-P18	7.2	P10-P19	2.8	P10-P20	2.8	P11-P20	3.7	P12-P19	3.7	P5-P18	2.2
P10-P21	7.3	P12-P13	2.5	P12-P13	2.5	P17-P18	3.9	P17-P18	3.9	P5-P21	2.0
33e-f柱間寸法 (横行寸法)											
No.		柱間寸法 (m)		No.		柱間寸法 (m)		No.		柱間寸法 (m)	
P.4-P12	7.2	P.4-P13	2.3	P.4-P12	2.3	P.2-P11	2.5	P.5-P11	1.4	P.5-P14	-
P10-P18	7.2	P10-P19	2.8	P10-P20	2.8	P10-P16	2.4	P5-P11	-	P5-P14	-
P10-P21	7.3	P12-P13	2.5	P12-P13	2.5	P17-P21	3.7	P15-P16	2.8	P15-P16	-
33g-h柱間寸法 (横行寸法)											
No.		柱間寸法 (m)		No.		柱間寸法 (m)		No.		柱間寸法 (m)	
P.2-P11	2.5	P.2-P15	3.4	P.2-P11	2.5	P.5-P11	1.4	P.5-P11	1.4	P.5-P14	-
P10-P16	2.4	P10-P16	2.4	P14-P16	-	P14-P16	-	P15-P16	-	P15-P16	-
P10-P21	2.1	P10-P21	2.1	P19-P21	2.4	P19-P21	2.4	P19-P21	2.4	P19-P21	-
33i-j柱間寸法 (横行寸法)											
No.		柱間寸法 (m)		No.		柱間寸法 (m)		No.		柱間寸法 (m)	
P12-P19	3.6	P12-P19	3.6	P13-P20	3.7	P13-P20	3.7	P5-P12	1.7	P5-P12	1.7
P13-P20	3.7	P13-P20	3.7	P17-P18	3.9	P17-P18	3.9	P5-P18	2.2	P5-P18	2.2
P17-P18	3.9	P17-P18	3.9	P17-P21	3.7	P17-P21	3.7	P5-P21	2.0	P5-P21	2.0

形を呈す。規模は長軸32~88cmを測り、柱穴底面の標高は54.07~54.43mである。いずれの柱穴も建物廃絶時に柱が抜き取られている。

遺物は図化していないが、P.17埋土中から土師器甕とみられる小片が出土しているほか、P.12検出面から錆彫れした鉄関連遺物の小片が出土している。

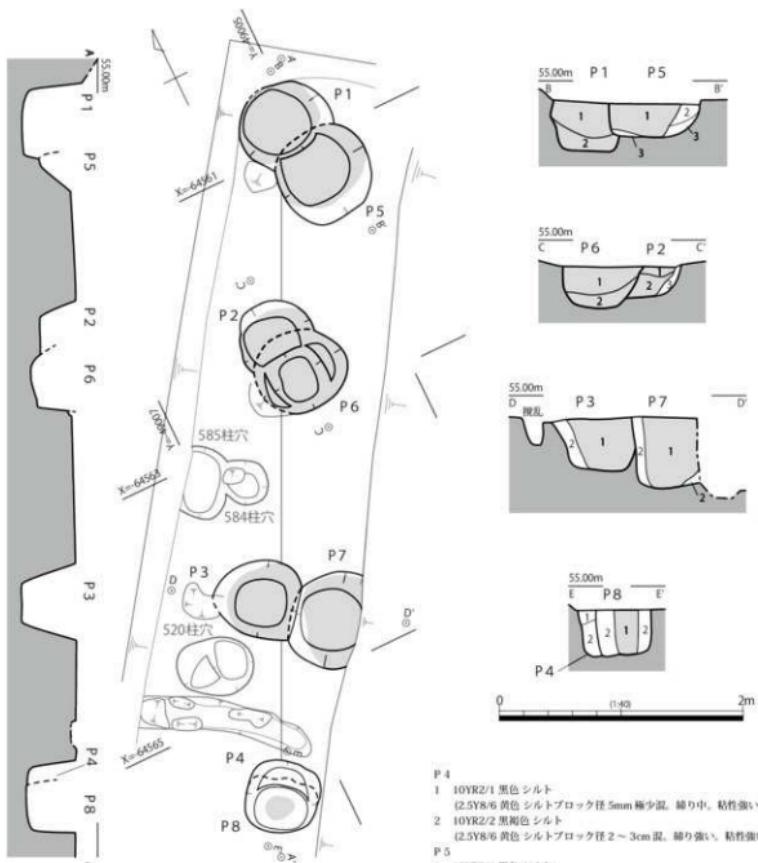
掘立柱建物33d

P.17・12・13・4~6・21・19・20・10で構成される。桁行3間(7.3m)、梁行2間(3.8m)の建物であり、平面積は27.7m²を測る。主軸はN-52°-Eである。柱筋の通りは概ねよいが、妻柱P.5はやや南東にずれる。柱間寸法は桁筋が2.1~2.8mでP.10~20間が広く、梁筋が1.7~2.2mを測る。柱穴の平面形は円形を呈す。規模は長軸32~97cmを測り、柱穴底面の標高は54.03~54.43mである。いずれの柱穴も建物廃絶時に柱が抜き取られている。

遺物は図化していないが、P.4柱抜き取り痕跡、P.12埋土中から土師器甕とみられる小片が出土している。

掘立柱建物34 (第114・115図、第8・42・61表、図版73・74・94)

3区6A-7aグリッド調査区際のⅢ層上面で検出した。歩道下において、直線的に並ぶ柱穴の列として検出した。これらの柱穴は周辺の建物の状況から、掘立柱建物の桁である可能性が高いと判断し、調査を行った。なお本建物の北東側は調査区外、南西側は削平されている。よって、本建物の規模がさらに大きくなる可能性も考えられる。本建物は、1回の建て替えを行っている。古段階の建物を掘立柱建物34a、新段階のものを掘立柱建物34bとする。



P 1

1 10YR3/2 黒褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 3 ~ 5cm 多混。繰り中。粘性中)

2 2.5Y8/6 黄色シルト
(10YR3/2 黑褐色シルトブロック径 2 ~ 3cm 混。繰り強い。粘性中)

P 2

1 10YR2/1 黒色シルト
(2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 2cm 少混。繰り中。粘性中)

2 10YR3/1 黑褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 2cm 混。繰りやや強い。粘性中)

P 3

1 10YR2/1 黒色シルト
(2.5Y8/6 黄色 シルトブロック多混。繰り中。粘性中)

2 10YR3/2 黑褐色シルト
(10YR2/1 黒色シルトブロック径 3 ~ 5cm 混。繰り中。粘性中)

P 4

1 10YR2/1 黒色シルト
(2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 5mm 稀少混。繰り中。粘性強い)

2 10YR2/2 黑褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 2 ~ 3cm 混。繰り強い。粘性強い)

P 5

1 10YR2/1 黒色シルト
(2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 1 ~ 2cm 混。繰り中。粘性中)

2 10YR3/2 黑褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 2cm 少混。繰り中。粘性中)

3 10YR4/2 灰黒褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 2cm 少混。繰り中。粘性中)

P 6

1 10YR2/1 黒色シルト
(2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 1 ~ 2cm 多混。繰り中。粘性中)

2 10YR3/2 黑褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 2cm 密混。繰りやや強い。粘性中)

P 7

1 10YR2/2 黑褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 2 ~ 3cm 多混。繰り中。粘性中)

2 10YR2/1 黒色シルト (繰りやや強い。粘性中)

P 8

1 10YR2/1 黒色シルト
(2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 2cm 以下少混。繰り中。粘性中)

2 10YR2/2 黑褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 2 ~ 3cm 多混。繰り中。粘性中)

第114図 持立柱建物34

掘立柱建物34a

掘立柱建物34aはP1～4で構成される。建物の主軸はN-26°-Eである。桁行3間(5.7m)、柱間寸法は1.7～2.2m、底面の標高は54.38～54.54mである。

P1は南側をP5によって切られている。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸77cm、短軸残存60cm、検出面からの深さ40cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1・2層からなる。P2は南側をP6によって切られている。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸65cm、短軸残存45cm、検出面からの深さ23cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1・2層と掘方埋め土の3層からなる。P3は東側をP7によって切られている。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸70cm、短軸64cm、検出面からの深さ43cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2層からなる。P4は大部分がP8によつて削平され、わずかな痕跡を留める。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸60cm、短軸残存20cm、検出面からの深さ37cmを測る。埋土は掘方埋め土の1・2層からなる。

出土遺物はP3の1層から須恵器坏の小片Po74が出土している。体部から口縁部が外傾しながら直線的に立ち上がる。

本建物の帰属時期は出土遺物から判断し、7世紀末から8世紀後半と考える。

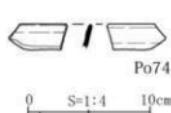
掘立柱建物34b

掘立柱建物34bはP5～8で構成される。建物の主軸はN-29°-Eである。桁行3間(5.2m)以上、柱間寸法は1.6～1.9m、底面の標高は54.24～54.54mである。

P5は北側でP1を切る。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸78cm、短軸75cm、検出面からの深さ28cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土2・3層からなる。P6は北側でP2を切る。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸残存76cm、短軸66cm、検出面からの深さ34cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1・2層からなる。P7は南東側が県道路床により削平されている。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸80cm、短軸57cm、検出面からの深さ60cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土2層からなる。P8は北側でP4を切っている。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸60cm、短軸45cm、検出面からの深さ36cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2層からなる。

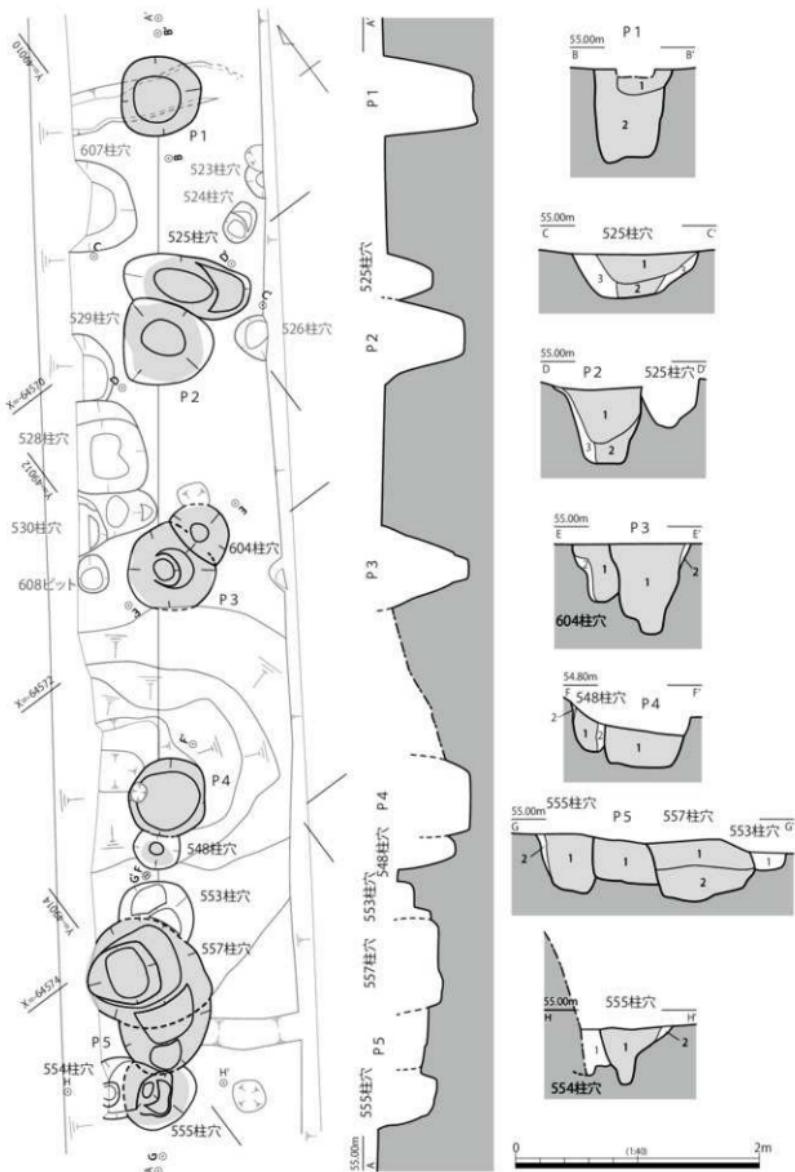
本建物の帰属時期は、34aに後出することから7世紀から8世紀後半以降と考える。

第42表 掘立柱建物34遺構計測表



第115図
掘立柱建物34出土須恵器坏

34a-4柱間寸法(桁行寸法)							34a柱間寸法(桁間方向)			34b柱間寸法(桁間方向)		
No.	規格(cm)	底面の標高(m)	柱間距離(m)	柱のあたり 直達(m)	調査時遺構名	備考	No.	規格(cm)	柱間寸法(m)	No.	柱間寸法(m)	
P1	77	54.33	40	54.42	-	-	3611	P1→P5				
P2	45	54.23	23	54.54	-	-	3614	P2→P6				
P3	70	64	43	54.38	-	-	3618	P3→P7				
P4	60	20.12	37	54.42	-	-	3612	P4→P8				
P5	78	75	28	54.54	-	-	3612	P1→P5				
P6	76.01	66	34	54.44	-	-	3615	P2→P6	現直に埋られる			
P7	30	57	60	54.24	-	-	3617	P3→P7	現直に埋られる			
P8	60	45	36	54.44	-	10	3621	P4→P8				



第116図 据立柱建物35

掘立柱建物35（第116・117図、第8・43・61表、図版73・74・94）

3区北東6A-7a・7b・8bグリッドのⅢ層上面で検出した。歩道下において、直線的に並ぶ柱穴の列として検出した。これらの柱穴は周辺の建物の状況から、掘立柱建物の桁である可能性が高いと判断し、調査を行った。本建物の主軸はN-37°E、桁行4間(7.7m)、P1～5で構成される。柱間寸法は1.8～2.0m、底面の標高は54.06～54.47mである。

P1	
1	10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径2cm少混。燒土ブロック径1～2cm少混。 縦り中、粘性中)
2	10YR3/2 黒褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径2～3cm少混。縦り弱い、粘性中)
P2	
1	10YR3/1 黒褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径2～3cm少混。縦り中、粘性中)
2	10YR4/2 灰黄褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径2～3cm少混。縦り中、粘性中)
3	10YR3/2 黑褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径3cm少混。縦りやや強い、粘性強い)
P3	
1	10YR3/1 黑褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径2～10cm多混。縦り中、粘性中)
2	10YR4/2 灰黄褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径1～2cm少混。縦り中、粘性中)
P4	
1	10YR3/2 黑褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径3～10cm少混。縦り弱い、粘性弱い)

P5	
1	10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径2～3cm少混。縦り中、粘性中)
52柱穴	
1	10YR3/2 黒褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径2～3cm少混。炭化物径1cm少混。縦り中、粘性中)
2	10YR3/1 黑褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径1cm少混。縦り中、粘性中)
548柱穴	
1	10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径3cm多混。縦り中、粘性中)
2	10YR3/1 黑褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック少混。縦りやや強い、粘性中)
553柱穴	
1	10YR3/1 黑褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径2～3cm少混。縦り中、粘性中)
554柱穴	
1	10YR3/1 黑褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径2～3cm少混。縦り中、粘性中)
555柱穴	
1	10YR3/1 黑褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径2～3cm少混。縦り中、粘性中)
2	10YR3/2 黑褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径5～10cm少混。縦り弱い、粘性中)
557柱穴	
1	10YR2/1 黑色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径2～3cm少混。縦り中、粘性中)
2	10YR3/2 黑褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径5～10cm少混。縦り弱い、粘性中)
604柱穴	
1	10YR3/1 黑褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径3～5cm多混。縦り中、粘性中)
2	10YR4/2 灰黄褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径1cm少混。縦り中、粘性中)



第117図 掘立柱建物35出土土器・須恵器

掘立柱建物35土色注記（第116図土色注記）

第43表 掘立柱建物35遺構計測表

柱穴	範囲 (cm)			底面の標高 (cm)		目視跡直径 (cm)	目視跡直徑 (cm)	柱のあく (cm)	調査時直縫名	概考
No.	長軸	短軸	深さ	底面	底面					
P1	65	64	401.1	5413	—	—	—	—	Po75E上	
P2	78	73	60	5417	—	—	—	—	53S1 (Po75E上)	
P3	72	67	75	5414	—	18	—	922T	604柱穴→P3 Po76→78S上	
P4	65	64	401.1	5413	—	—	—	923O	548柱穴→P4	
P5	75	601.1	33	5447	—	—	—	935H	355柱穴→P5→52柱穴	
52柱穴	105	471.1	36	5442	—	—	—	932S	325柱穴→P2	
548柱穴	39	26	401.1	5425	—	—	—	934H	548柱穴→P4	
553柱穴	62	551.1	15	5456	—	—	—	935S	533柱穴→537柱穴	
554柱穴	50	271.1	39	5446	—	—	—	935A	534柱穴→555柱穴	
555柱穴	62	601.1	48	5439	—	—	—	935S	534柱穴→555柱穴→P5	
557柱穴	100	80	50	5432	—	—	—	935T	533柱穴、P5→537柱穴	
604柱穴	52	380.1	48	5436	—	—	—	936A	604柱穴→P3	

柱間寸法 (直行直角)		柱間寸法 (斜行直角)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P1-P5	2.7	P1-P2	1.9
P2-P3	2.0	P3-P4	1.8
P4-P5	2.0		

P 1は平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸65cm、短軸60cm、検出面からの深さ76cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1・2層からなる。P 2は北東側で525柱穴を切っている。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸78cm、短軸73cm、検出面からの深さ60cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1・2層と掘方埋め土の3層からなる。P 3は東側が604柱穴を切り、南側の一部を搅乱によって削平されている。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸72cm、短軸67cm、検出面からの深さ75cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2層からなる。底面に径約18cmの柱のあたりが確認された。P 4は南西側で548柱穴を切り、掘方上半は搅乱により削平を受けている。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸65cm、短軸64cm、検出面からの深さ45cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の単層である。P 5は北東側が557柱穴に切られ、南西側で555柱穴を切る。平面形は不整な円形を呈し、規模は長軸75cm、短軸残存60cm、検出面からの深さ33cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層からなる。

遺物はPo75~78を図化した。Po75はP 1の1・2層、Po77はP 2の2層、Po76・78はP 3の1層から出土している。赤彩土師器の皿Po75は外反気味に体部から口縁部が立ち上がり、外面はミガキ調整が施される。製塙土器Po77は器壁の薄い内傾気味の口縁部をもち、内外面粗いナデを施す。赤彩土師器皿Po76は口縁部が短く外傾しながら立ち上がる。Po78は須恵器の直口壺である。

本建物の帰属時期は、出土遺物から8世紀代と考える。

525・557柱穴（第116・118図、第43・61表、図版74・102）

3区525・557柱穴は掘立柱建物35の柱穴と重複する。両柱穴とも遺物が出土しており、掘立柱建物35の帰属時期を明らかにする上で重要な遺構と考え、ここに記載する。

525柱穴は南西側で掘立柱建物35 P 2に切られる。平面形が楕円形を呈し、規模は長軸105cm、短軸残存47cm、検出面からの深さ36cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1・2層と掘方埋め土の3層からなる。

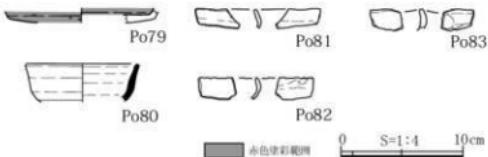
遺物は製塙土器Po81~83を図化した。いずれも柱抜き取り痕跡から出土している。器壁が薄く口縁は内湾している。内外面は粗いナデで、外面には指オサエの痕跡が残る。

本遺構の廃絶時期は、出土遺物から判断し、古代のものと考えられる。

557柱穴は北東側で553柱穴、南側で掘立柱建物35 P 5を切っている。平面形が不整円形を呈し、規模は長軸100cm、短軸80cm、検出面からの深さ50cmを測る。埋土はIV層由来の黄色シルトブロックが混じる柱抜き取り痕跡が上下2層堆積する。

遺物は赤彩土師器の皿Po79と須恵器壺Po80を図化した。いずれも柱抜き取り痕跡から出土している。Po79は丸底でヘラ切り後粗いナデ調整を施す。Po80は口縁端部が外反し、体部が立ち上がる器形である。

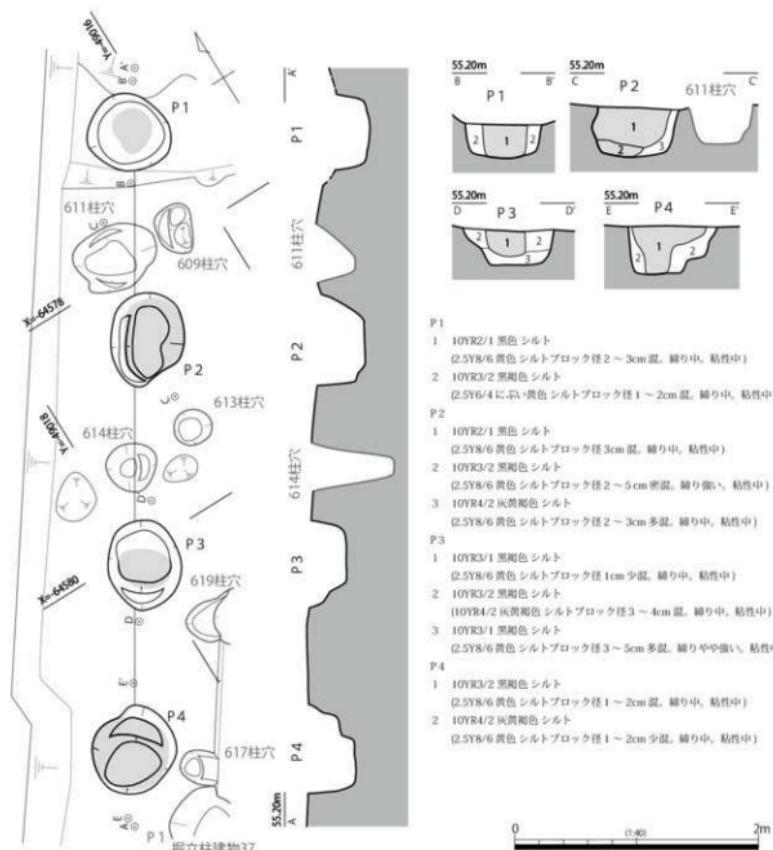
本遺構の廃絶時期は、出土遺物から判断し、7世紀末から8世紀前半と考えられる。



第118図 525・557柱穴出土土師器・須恵器

掘立柱建物36（第119図、第8・44表、図版73・75）

3区6A-8b・9bグリッドのⅢ層上面で検出した。歩道下において、直線的に並ぶ柱穴の列として検出した。これらの柱穴は周辺の建物の状況から、掘立柱建物の桁である可能性が高いと判断し、調査を行った。本建物の主軸はN-32°-E、桁行3間(5.2m)、P 1～4で構成される。柱間寸法は1.7～18(平均1.75)m、底面の標高は54.51～54.69mである。



第119図 掘立柱建物36

第44表 掘立柱建物36遺構計測表

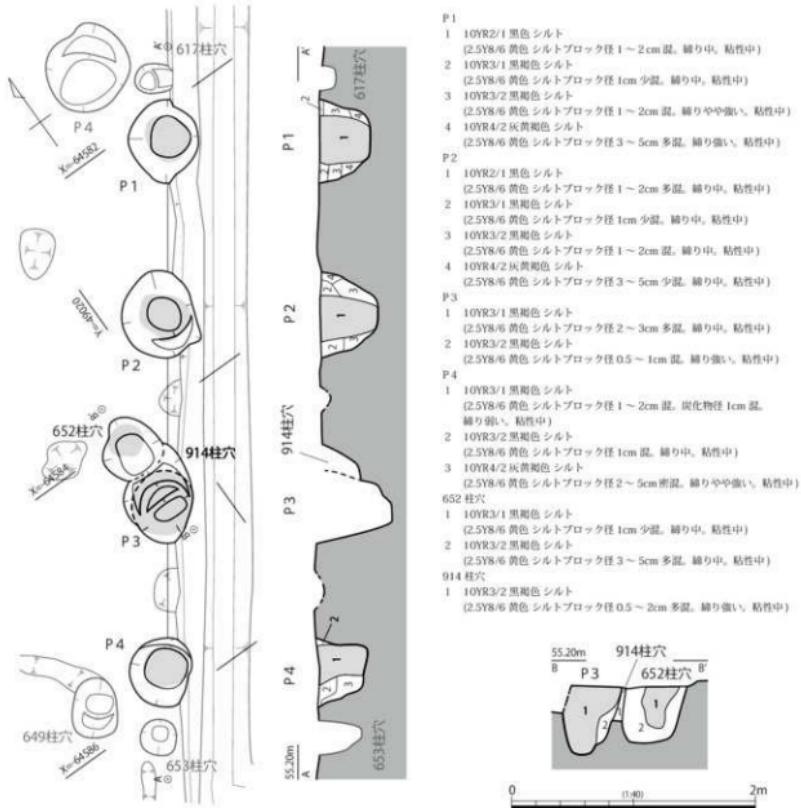
No.	幅員 (cm)	奥幅 (cm)	底面の標高 (m)	柱底経緯 (m)	柱のあたり (m)	調査特徴名	著者
P1	69	64	28	5451	-	-	6023
P2	77	72	40	5451	-	-	6022
P3	74	60	30	5449	-	-	6016
P4	74	68	40	5462	-	-	6015

柱間寸法 (桁行範長)		柱間寸法 (柱方向)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P1～P4	5.2	P1～P2	1.7
P2～P3	1.8	P3～P4	1.7

P 1 は平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸69cm、短軸64cm、検出面からの深さ28cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2層からなる。P 2 は平面形が不整な稍円形を呈し、規模は長軸77cm、短軸72cm、検出面からの深さ40cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1・2層と掘方埋め土の3層からなる。P 3 は平面形が不整梢円形を呈し、規模は長軸74cm、短軸60cm、検出面からの深さ30cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2・3層からなる。P 4 は平面形が不整円形を呈し、規模は長軸74cm、短軸68cm、検出面からの深さ40cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2層からなる。

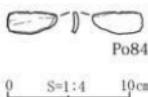
遺物は図化していないが、P 1 の1層と2層から土師器の甕とみられる小片、同じく1層から須恵器脚部片、検出面から赤彩土師器小片と小型の鉄滓が出土している。また、P 2 の1層または2層から土師器の甕とみられる小片、P 4 の1層から赤彩土師器小片などが出土している。

本建物の帰属時期は、出土遺物と周辺に検出した遺構の状況から判断し、古代と考えている。



第120図 掘立柱建物37

第45表 挖立柱建物37遺構計測表

第121図
掘立柱建物37出土製塙土器

測定		規模 (cm)		基面の標高 (m)		柱脚跡直径 (cm)		柱のあたり 直径 (cm)		調査寸法名		参考
No.	長軸	短軸	深さ	P1	P2	P3	P4	柱脚	柱	柱	柱	
P1	69	3713.2	62	5461	-	-	-	5645	柱孔に埋められた Po84	柱孔に埋められた Po84		
P2	72	3913.2	68	5450	-	-	-	5646	柱孔に埋められた Po84	柱孔に埋められた Po84		
P3	60	5213.2	56	5444	-	-	-	5647	柱孔に埋められた Po84	柱孔に埋められた Po84		
P4	56	4913.2	41	5463	-	-	-	5648	柱孔に埋められた Po84	柱孔に埋められた Po84		
9144H穴	50	40	45	5452	-	-	-	5652	9144H穴→652井穴	9144H穴→652井穴		
	5621.1	5313.2	27	5470	-	-	-	5614	9144H穴→652井穴	9144H穴→652井穴		

柱脚寸法 (柱行総合)

No.	柱脚寸法 (m)
P1-P4	4.2

柱脚寸法 (柱脚寸法)

No.	柱脚寸法 (m)
P1-P2	1.4
P2-P3	1.6
P3-P4	1.2

掘立柱建物37 (第120・121図、第8・45・61表、図版73・75・94)

3区9A-9b・9cグリッドのⅢ層上面で検出した。歩道下において、直線的に並ぶ柱穴の列として検出した。これらの柱穴は周辺の建物の状況から、掘立柱建物の軸である可能性が高いと判断し、調査を行った。本建物の主軸はN-36°-E、軸行3間(4.2m)、P1~4で構成される。柱間寸法は1.2~1.6m、底面の標高は54.44~54.63mである。

P1は平面形が不整円形を呈し、規模は長軸69cm、短軸残存57cm、検出面からの深さ42cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2~4層からなる。P2は平面形が不整な楕円形を呈し、規模は長軸72cm、短軸残存59cm、検出面からの深さ48cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2~4層からなる。P3は北側で914柱穴を切る。平面形は不整な楕円形を呈し、規模は長軸60cm、短軸残存52cm、検出面からの深さ56cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2層からなる。P4は平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸56cm、短軸残存49cm、検出面からの深さ41cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2~3層からなる。

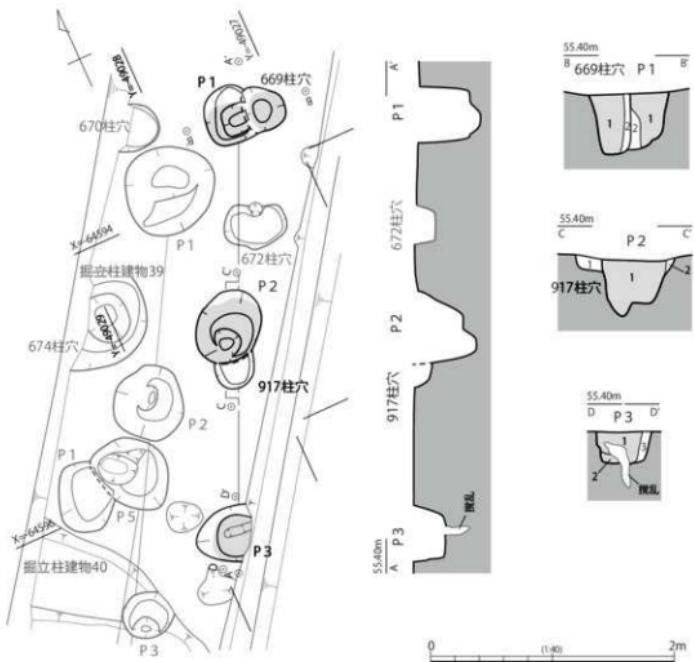
遺物はPo84を図化した。Po84はP3の1層より出土している。製塙土器Po84は器壁が薄く、内湾する口縁部にナデ調整が施される。

本建物の帰属時期は、出土遺物と周辺に検出した遺構の状況から判断し古代と考えている。

掘立柱建物38 (第122・123図、第8・46・61表、図版73・76・102)

3区6A-10cグリッドのⅢ層上面で検出した。歩道下において、直線的に並ぶ柱穴の列として検出した。これらの柱穴は周辺の建物の状況から、掘立柱建物の軸である可能性が高いと判断し、調査を行った。なお、本建物南側は、県道工事により大幅に削平されており、建物がさらに南側に延びる可能性も考えられる。建物の主軸はN-24°-E、軸行2間(3.3m)以上、P1~3で構成される。柱間寸法は1.5~1.8m、底面の標高は54.64~54.90mである。

P1は東側を669柱穴に切られる。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸48cm、短軸残存30cm、検出面からの深さ45cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2層からなる。P2は平面形が不整な楕円形を呈し、南側で917柱穴を切る。規模は長軸62cm、短軸50cm、検出面からの深さ45cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2層からなる。底面に径約6cmの柱のあたりが確認された。P3東側は県道によって削平されている。平面形は不整な楕円形で、規模は長軸48cm、短軸42cm、検出面からの深さ27cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1・2層と掘方埋め土の3層からなる。



P1

- 1 10YR2/1 黒色シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径3~5cm混。繊り中。粘性中)
2 10YR3/2 黒褐色シルト (10YR4/2 灰黄褐色シルトブロック径3cm混。繊り中。粘性中)

P2

- 1 10YR3/2 黑褐色シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径3~5cm多混。繊り中。粘性中)
2 10YR4/2 灰黄褐色シルト (繊り中。粘性中)

P3

- 1 10YR3/1 黑褐色シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径1cm混。繊り中。粘性中)
2 10YR3/2 黑褐色シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径2cm多混。繊り中。粘性中)
3 10YR4/2 灰黄褐色シルト (繊り中。粘性中)

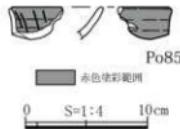
669柱穴

- 1 10YR2/1 黒色シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径2cm多混。繊り中。粘性中)
2 10YR3/1 黑褐色シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径2cm混。繊りや少混。粘性中)

917柱穴

- 1 10YR5/2 灰黄褐色シルト (繊り中。粘性中)

第122図 挖立柱建物38

第123図
掘立柱建物38出土土器壺

第46表 挖立柱建物38遺構計測表

柱穴	No.	復元 (cm)			底面の標高 (m)	柱頭部直径 (cm)	柱頭部直徑 (cm)	柱のあたり (%)	調査時底面高 (cm)	著者
		長軸	短軸	深さ						
P1	48	30.1	45	24.6	-	-	-	-	3668	P1→669柱穴
P2	62	30	45	24.05	-	6	6	6	9673	917柱穴→917柱穴
P3	48	32	27	24.90	-	-	-	-	3675	底面を規則に切られる
669柱穴	38	24	50	24.56	-	-	-	-	3669	P1→669柱穴
917柱穴	30	20.1	12	30.04	-	-	-	-	3677	P2→917柱穴

柱頭寸法 (平行起長)		柱頭寸法 (相対方向)	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P1-P2	33	P1-P2	18
P2-P3	15	P2-P3	15

遺物は図化していないが、P 1 の 1 層から土師器甕小片、P 2 の 1 層から土師器の甕とみられる小片、P 3 の 1 層または 2 層から土師器甕と赤彩土師器の小片が出土している。

本建物の帰属時期は、出土遺物と668柱穴との重複関係から 7 世紀末から 8 世紀前半頃と考えられる。

669・917柱穴（第122図、第46表、図版76）

669・917柱穴は3区6A-10cグリッドにおいてⅢ層上面で検出した柱穴である。

669柱穴は掘立柱建物38P 1 と重複し、これに後出す。平面形は不整な円形を呈し、規模は長軸38cmを測る。検出面からの深さは50cm、底面レベルは54.58mを測り、掘立柱建物38P 1 と規模が類似する。埋土は2層に分層でき、抜き取り痕跡（1層）から土師器小片が出土している。

917柱穴は掘立柱建物38P 2 と重複し、これに先行する。平面形は円形を呈し、規模は長軸30cmを測る。検出面からの深さは12cm、底面レベルは55.04mを測り、掘立柱建物38P 2 より規模は小さく、底面レベルが39cm高い。埋土は単層であり、遺物は出土していない。

なお、669・917柱穴は掘立柱建物38P 1・2 と重複することから、掘立柱建物38の部分的な修復や建て替えが行われた可能性を考えられるが、669柱穴がP 1 に後出すのに対し、917柱穴はP 2 に先行し、先後関係が逆転することから、掘立柱建物38との関係性を明確にはできていない。

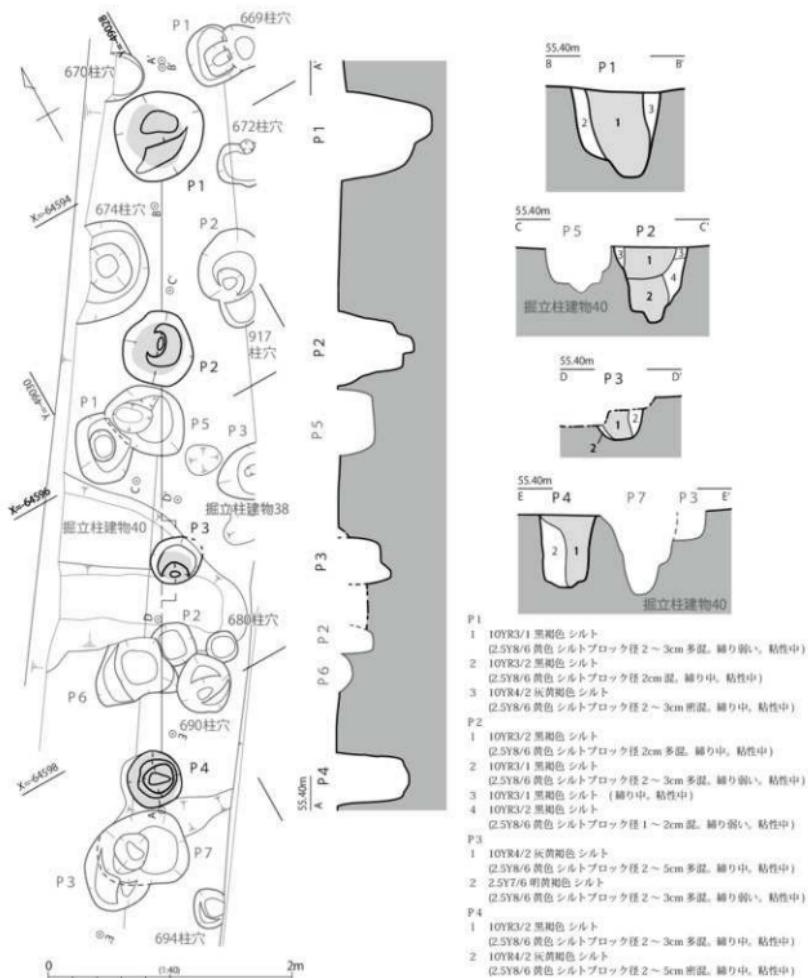
掘立柱建物39（第124図、第8・47表、図版73・76）

3区6A-10c・10dグリッドのⅢ層上面で検出した。歩道下において、直線的に並ぶ柱穴の列として検出した。これらの柱穴は周辺の建物の状況から、掘立柱建物の桁である可能性が高いと判断し、調査を行った。建物の主軸はN-29°-E、桁行3間(5.4m)、P 1～4で構成される。柱間寸法は1.8m、底面の標高は54.40～54.82mである。

P 1 は平面形が不整円形を呈し、規模は長軸74cm、短軸71cm、検出面からの深さ70cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2・3層からなる。P 2 は平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸60cm、短軸59cm、検出面からの深さ61cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1・2層と掘方埋め土の3・4層からなる。底面に径8cmの柱のあたり痕跡が確認された。P 3 は掘方上半が搅乱により削平されている。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸40cm、短軸40cm、検出面からの深さ24cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2層からなる。P 4 は平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸47cm、短軸45cm、検出面からの深さ60cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2層からなる。

遺物は図化していないが、P 1 の 1 層から土師器の甕とみられる小片と赤彩土師器片、2層または3層から赤彩土師器小片が出土し、P 2 の 1 層または 2 層から土師器の甕とみられる小片が出土している。

本建物の帰属時期は、出土遺物と周辺に検出した遺構の状況から判断し、古代と考えている。



第124図 掘立柱建物39

第47表 掘立柱建物39遺構計測表

柱穴		規格 (cm)			底面の標高 (m)		柱根跡直径 (cm)		柱のあたり 直径 (cm)		調査時遺構名		柱間寸法 (掘立柱間)	
No.	穴種	支柱	距離	深さ	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱	柱
P 1	74	71	20	5440	—	—	—	—	—	—	5671		P 1-P 3	54
P 2	60	39	61	5432	—	—	8	—	—	—	5678		P 1-P 2	18
P 3	40	40	245.1	5432	—	—	—	—	—	—	5699	上部を観光に切られた	P 2-P 3	18
P 4	47	6	60	5438	—	—	—	—	—	—	5691		P 3-P 4	18

掘立柱建物40（第125図、第8・48表、図版73・76）

3区6A-10c・10d、7A-1dグリッドにおいてⅢ層上面で検出した。歩道下において、直線的に並ぶ柱穴の列として検出した。これらの柱穴は周辺の建物の状況から、掘立柱建物の桁である可能性が高いと判断し、調査を行った。本建物は1回の建て替えを行っている。古段階の建物を掘立柱建物40a、新段階のものを掘立柱建物40bとする。

掘立柱建物40a

掘立柱建物40aはP 1～4で構成される。建物の主軸はN-26°-Eである。桁行3間(5.3m)、柱間寸法は1.6～2.0m、底面の標高は54.86～55.02mである。

P 1は平面形が不整な円形を呈し、東側をP 5によって切られている。規模は長軸58cm、短軸47cm、検出面からの深さ18cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1・2層と掘方埋め土の3層からなる。P 2は掘方上半を搅乱によって削平され、西側をP 6によって切られている。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸35cm、短軸28cm、検出面からの深さ28cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層がわずかに残る。P 3は平面形が不整な円形を呈し、東側がP 7によって切られている。規模は長軸58cm、短軸30cm、検出面からの深さ22cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層がわずかに残る。P 4は北西側の一部をP 8によって削平されている。平面形が不整梢円形を呈し、残存規模は長軸62cm、短軸50cm、検出面からの深さ20cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層が堆積する。

遺物は図化していないが、P 4の1層からやや焼きが悪い須恵器の蓋とみられる破片、P 2またはP 6の1層から赤彩土師器小片、同じく埋土最上位から須恵器壺とみられる破片などが出土している。

本建物の帰属時期は、出土遺物と周辺に検出した遺構の状況から判断し、古代と考えている。

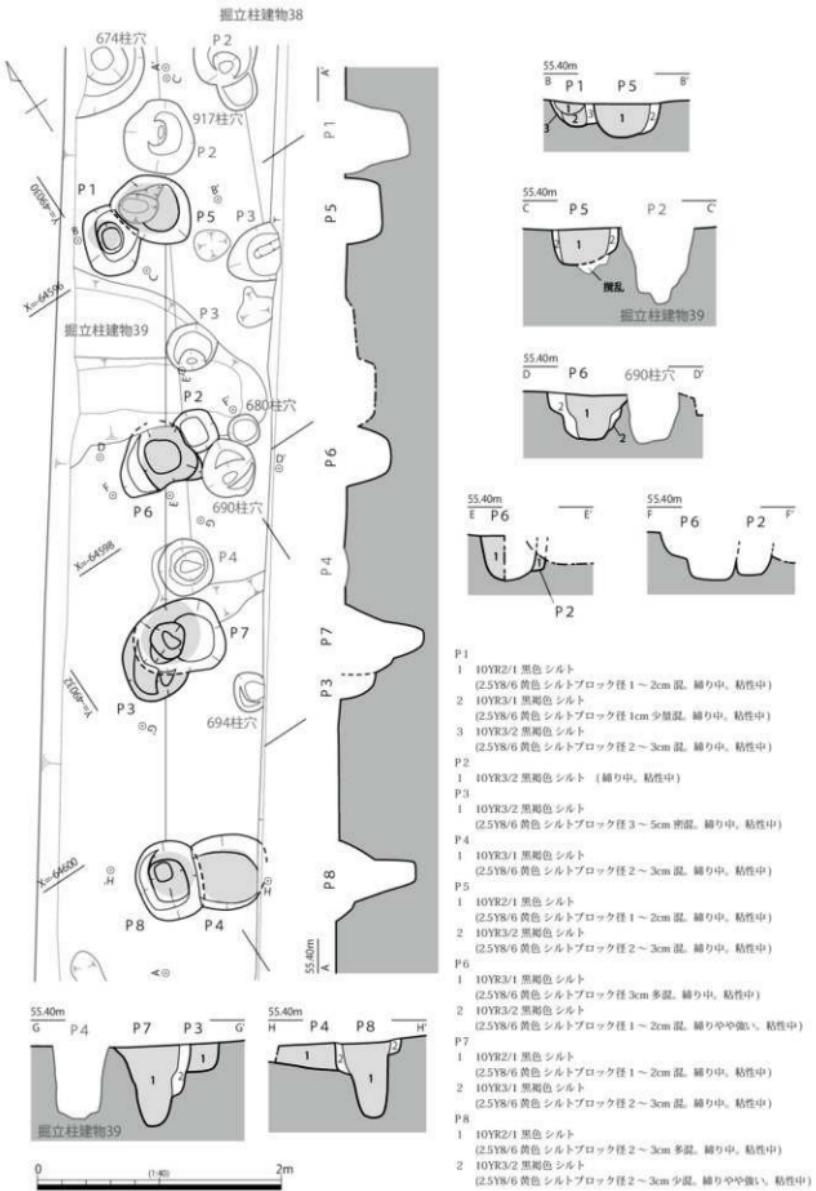
掘立柱建物40b

掘立柱建物40bはP 5～8で構成される。建物の主軸はN-33°-Eである。桁行3間(5.3m)、柱間寸法は1.4～2.0m、底面の標高は54.54～54.88mである。

P 5は西側でP 1を切る。平面形は不整な梢円形を呈し、規模は長軸70cm、短軸54cm、検出面からの深さ28cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2層からなる。P 6は東側でP 2を切り、北側の一部を搅乱により削平されている。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸65cm、短軸50cm、検出面からの深さ40cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2層からなる。P 7は西側でP 3を切る。平面形が不整な円形を呈し、規模は長軸73cm、短軸57cm、検出面からの深さ65cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土2層からなる。P 8は東側でP 4を切っている。平面形が不整な梢円形を呈し、規模は長軸65cm、短軸53cm、検出面からの深さ61cmを測る。埋土は柱抜き取り痕跡の1層と掘方埋め土の2層からなる。

遺物は図化していないが、P 8の1層から土師器の壺とみられる小片が出土している。

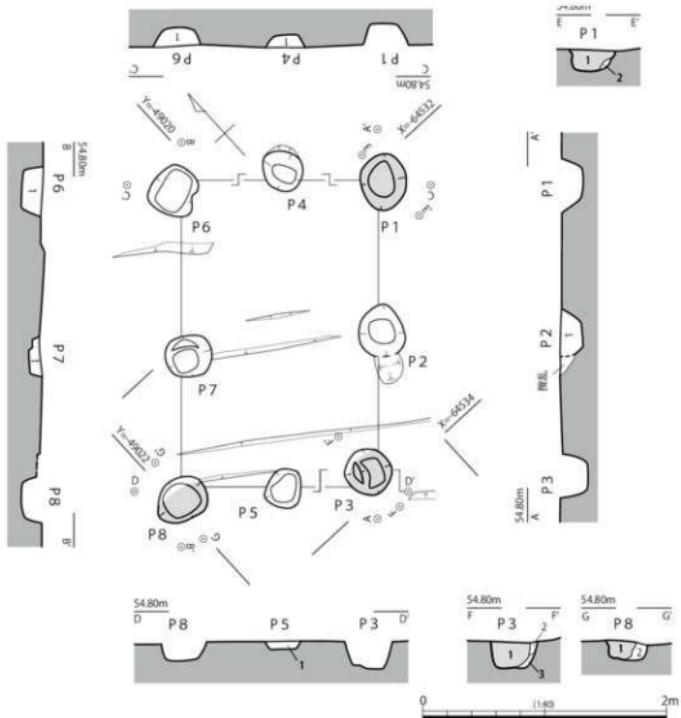
本建物の帰属時期は、出土遺物と周辺に検出した遺構の状況から判断し、古代と考えている。



第125図 掘立柱建物40

第48表 挖立柱建物40遺構計測表

No.	遺構 (cm)				柱のあたり 直径 (cm)	調査者	40a-40b柱間寸法 (航行航向)	
	長幅	短幅	厚さ	底面の標高 (m)			柱間寸法 (m)	No.
P.1	58	47	18	54.99	-	-	5.3	P.1-P.4
P.2	30	28	28	54.95	-	-	5.3	P.1-P.3
P.3	58	30	22	54.99	-	-	5.3	P.3-P.4
P.4	62	30	20	55.02	-	-	5.3	P.4-P.5
P.5	20	34	28	54.98	-	-	5.3	P.5-P.6
P.6	65	30	40	54.82	-	-	5.3	P.6-P.7
P.7	72	32	45	54.54	-	-	5.3	P.7-P.8
P.8	65	33	41	54.00	-	-	5.3	P.4-P.8



P.1

1 IOYR2/1 黒色 細粒砂混じりシルト
(IOYR7/4 にふい黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 2cm 混。粘性弱い)

2 IOYR4/1 褐灰色 シルト

(IOYR7/4 にふい黄褐色 シルトブロック径 2cm 混。粘性やや強い)

P.2 - P.4 ~ 7

1 IOYR2/1 黒色 細粒砂混じりシルト

(IOYR7/4 にふい黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm 混)

P.3

1 IOYR2/1 黒色 細粒砂混じりシルト
(IOYR7/4 にふい黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm 混。粘性弱い)

2 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性弱い)

3 IOYR7/4 にふい黄褐色 シルト

(IOYR3/1 黑褐色 シルトブロック一部混。粘性弱い)

P.8

1 IOYR2/1 黒色 細粒砂混じりシルト
(IOYR7/4 にふい黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm 混。粘性弱い)

2 IOYR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト

(IOYR7/4 にふい黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 2cm 部混。粘性やや強い)

第126図 挖立柱建物41

第49表 挖立柱建物41遺構計測表

柱穴 No.	範囲 (cm)			底面の標高 (cm)	目測底面 距離 (cm)	柱穴あたり 距離 (cm)	調査時遺構名	備考	柱間寸法 (平行軸直)		柱間寸法 (平行軸直)	
	長軸	短軸	深さ						No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P1	45	37	17	5434	—	—	5622	—	P1-P3	2.3	P6-P1	1.7
P2	45	39	17	5435	—	—	5601	廻乱に埋られる	P4-P5	2.6	P7-P2	1.6
P3	40	38	22	5433	—	—	5630	—	P4-P8	2.6	P8-P3	1.5
P4	36	30	12	5445	—	—	5600	廻乱に埋られる	P8-P1	1.2	P5-P3	0.7
P5	34	32	7	5450	—	—	5602	—	P6-P4	0.9	P4-P1	0.8
P6	40	35	15	5426	—	—	5699	—	P6-P7	1.4	P8-P5	0.8
P7	38	33	10	5444	—	—	5698	—	P7-P8	1.2	P5-P3	0.7
P8	45	35	17	5437	—	—	5621	廻乱に埋れる				

掘立柱建物41 (第126図、第8・49表、図版59・77)

2区6A-4b・4cグリッドにおいて、表土除去後、IV層上面で検出した。桁行2間(2.6m)、梁行2間(1.7m)の側柱建物である。主軸はN-42°-Eにとり、平面積は4.4m²を測る。柱筋の通りは比較的よいが、P3は北側、P4は北東側にややずれる。

柱間寸法は柱筋1.1~1.4m、梁筋は0.7~0.9mを測る。柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、長軸34~45cmを測る。検出面からの深さは7~17cmであり、断面形は逆台形を呈す。柱穴底面の標高は54.33~54.50mである。P1・3・8は建物廃絶時に柱が抜き取られた痕跡が確認できる。

遺物は出土していないため、本建物の帰属時期は明確にはできないが、周辺に検出した遺構の状況から判断し、古代と考えている。

なお、本建物と竪穴建物3は、本建物南西側梁行から竪穴建物3の北西肩部までの距離が約4.5mと近接する位置関係にある。また、本建物と竪穴建物3と主軸が近似することから、本建物が竪穴建物3の付属施設である可能性が考えられる。その場合、本建物の帰属時期は竪穴建物3の帰属時期から、7世紀後半から8世紀前半となる。

掘立柱建物42 (第127図、第8・50表、図版59・78)

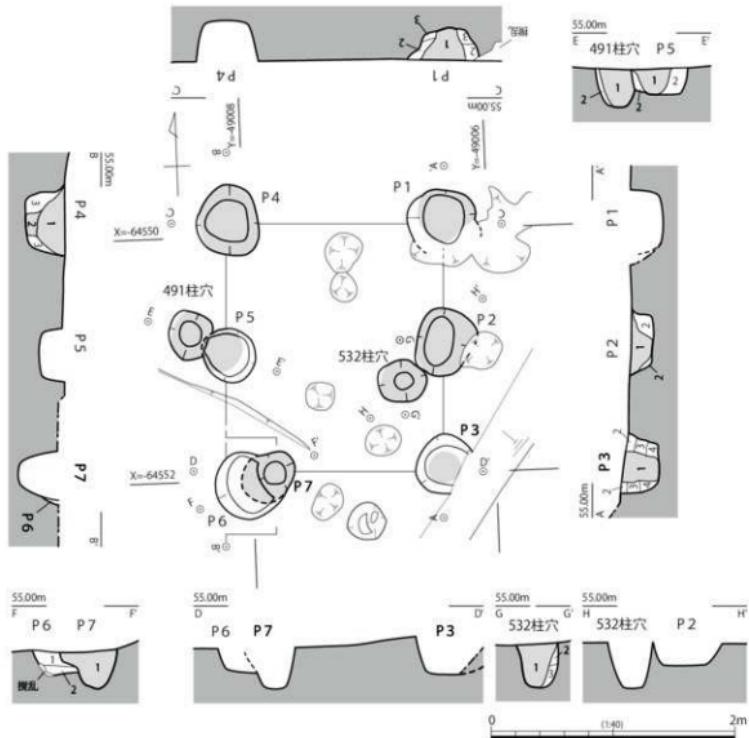
2区6A-5a・6aグリッドにおいて、表土除去後、IV層上面で検出した。桁行2間(2.1m)、梁行1間(1.8m)の側柱建物である。主軸はN-2°-Eにとり、平面積は3.8m²を測り、本遺跡においては最も小さい。柱筋はP6・7が東にずれる以外は、通りがよい。P6・7が重複しており、部分的な補修または1回の建て替えが行われたものと考える。

なお本建物P2・5は532・491柱穴と重複している。532・491柱穴は、柱筋からずれ、埋土や柱穴の形状が異なることから、単独の柱穴として扱った。また、P7は梁筋上に位置するため、本建物を構成する柱穴として扱うこととする。

桁筋の柱間寸法は1.0mであり、P5・7間は1.1mを測る。柱穴の平面形は円形または不整な円形を呈し、長軸46~57cmを測る。断面形は逆台形を呈し、柱穴底面の標高は54.32~54.51mである。いずれの柱穴も建物廃絶時に柱が抜き取られている。

遺物は図化していないが、P1・2・4・7の埋土中より土師器の壺とみられる小片が出土している。

本建物の帰属時期は、出土遺物と周辺に検出した遺構の状況から判断し、古代と考えている。



- P1
 1 10YR3/1 黒褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや強い)
 2 10YR3/2 黒褐色 シルト (粘性やや強い)
 3 10YR3/2 黒褐色 シルト
 (10YR7/4 に似る黄褐色 シルトが斑状に混。粘性弱い)
- P2
 1 10YR2/1 黒色 シルト (粘性弱い)
 2 10YR3/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
- P3
 1 10YR2/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 (10YR7/4 に似る黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm の塊状に混。粘性弱い)
 2 10YR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト (粘性やや強い)
 3 10YR3/1 黑褐色 細粒砂混じりシルト
 (10YR7/4 に似る黄褐色 シルトブロック径 1cm一部混。粘性やや強い)
 4 10YR3/2 黑褐色 細粒砂混じりシルト
- P4
 1 10YR2/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 2 10YR2/1 黑褐色 シルト
 (10YR7/4 に似る黄褐色 シルトが径 1cm の塊状に混。粘性弱い)
 3 10YR3/1 黑褐色 シルト
 (10YR7/4 に似る黄褐色 シルトが径 1 ~ 2cm の斑状に混。粘性やや強い)
- P5
 1 10YR2/1 黑色 シルト
 (10YR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm一部混。粘性弱い)
 2 10YR3/2 黑褐色 シルト
 (10YR7/6 明黄褐色 シルトブロック径 1cm一部混。粘性弱い)
- P6
 1 10YR2/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 2 10YR3/2 黑褐色 シルト
 (10YR7/4 に似る黄褐色 シルトブロック径 1mm一部混。粘性弱い)
- P7
 1 10YR2/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)
 2 10YR3/1 黑褐色 シルト
 (10YR7/6 明黄褐色 シルトが径 0.5 ~ 1cm の塊状に混。粘性弱い)
 3 10YR2/1 黑褐色 シルト (粘性弱い)

第127図 据立柱建物42

第50表 挖立柱建物42遺構計測表

No.	規模 (cm)			底面の標高 (cm)			柱根跡直径 (cm)			柱のあたり 直径 (cm)			調査時遺構名	備考	柱間寸法 (航行船側)		柱間寸法 (航行船側)	
	直幅	横幅	深さ	左	右	中	左	右	中	左	右	中			No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
P.1	37	45±1.1	26	54.42	—	—	—	—	—	—	—	—	P.1-P.3	2.0	P.4-P.1	1.8		
P.2	35	47	18	54.47	—	—	—	—	—	—	—	—	P.4-P.6	2.0	P.5-P.2	1.8		
P.3	30	47	30	54.48	—	—	—	—	—	—	—	—	P.4-P.7	2.3	P.6-P.3	1.8		
P.4	37	50	32	54.57	—	—	—	—	—	—	—	—	P.7-P.3	1.4				
P.5	40	43	21	54.69	—	—	—	—	—	—	—	—						
P.6	35	40±1.1	20	54.63	—	—	—	—	—	—	—	—	P.1-P.2	1.0				
P.7	46	40	30	54.63	—	—	—	—	—	—	—	—	P.2-P.3	1.0				
401柱元	40	30	31	54.39	—	—	—	—	—	—	—	—	P.4-P.5	1.0				
532柱元	39	36	30	54.30	—	—	—	—	—	—	—	—	P.5-P.6	1.0				
													P.6-P.7	1.1				

730段状遺構 (第128・129図、第51・61表、図版80・94)

3区7A-1cグリッドにおいて、VI層上面で検出した段状遺構である。平面形は不整半円形を呈し、東側の床面は斜面部にかかり一部流出している。規模は長軸3.4m、短軸残存3.0m、検出面からの深さ40cmを測る。埋土は最上層(1層)に黒褐色シルト、中層(2層)に灰黄褐色シルト、下層(3層)に黒褐色シルトがレンズ状に堆積する。いずれもIV・V層由来の黄色シルトブロックが混じる。底面はやや起伏があり安定しない。中心部から長軸31cm、短軸残存10cm、深さ55cmの小穴(747ピット)が検出されている。

遺物は、1層からPo86、3層からPo87が出土している。いずれも土師器甕であり、口縁部はヨコナナデ、体部外面はハケ、内面はケズリにより調整を施す。

本遺構の帰属時期は、出土土器から7世紀末から9世紀と考えられる。

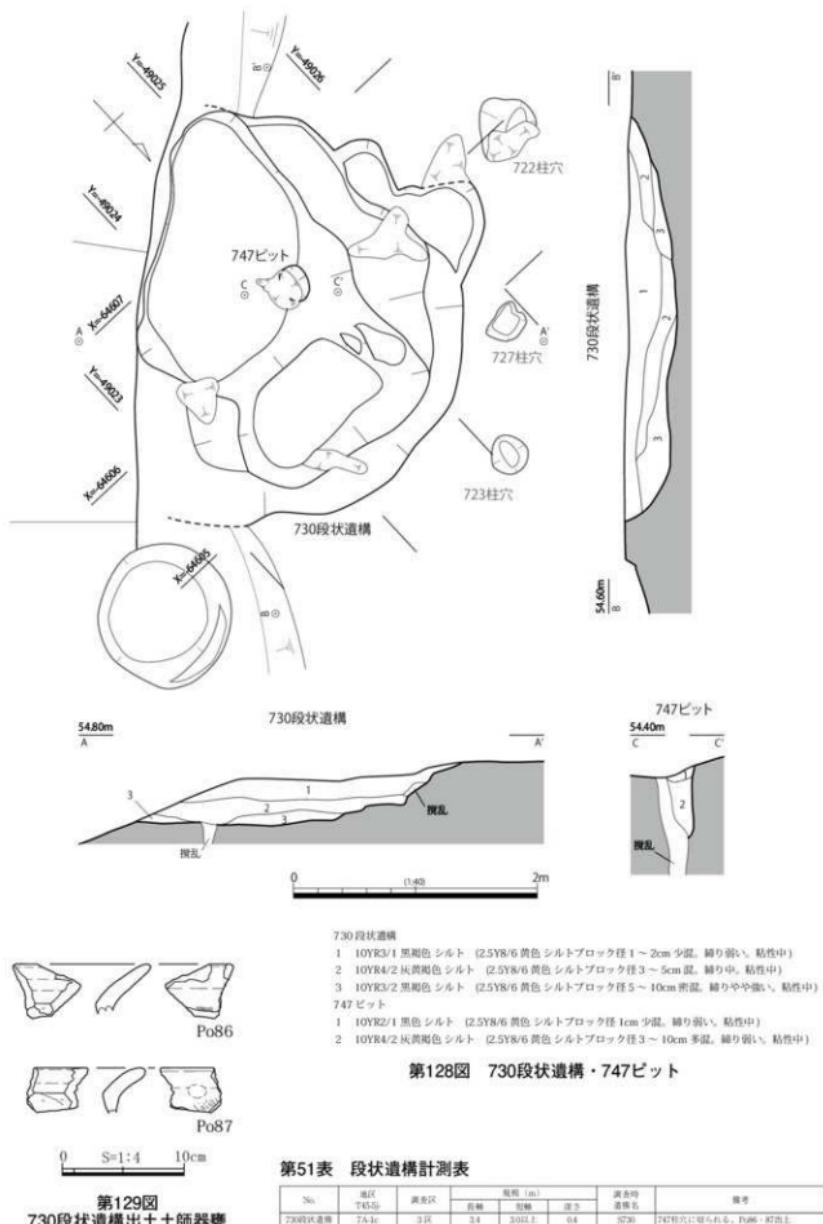
736土坑 (第130・131図、第52・61・62・67表、図版81・95・96)

3区7A-1b・1cグリッドの斜面部において、VI層上面で検出した土坑である。平面形は不整椭円形、断面形は三角形を呈している。規模は長軸1.93m、短軸1.60m、検出面からの深さは62cmを測る。掘方は、斜面上方側の壁面はオーバーハング気味に掘削され、斜面下方側も僅かながら壁面が残っている。底面はほぼ平坦であった。埋土は上層(1層)の黒褐色シルト、中層(2層)の黑色シルト、下層(3層)の黒褐色シルトに分層され、IV・V層由来の黄色シルトブロックが混じる。遺物は1・2層を中心多く多数の土器片や小砾が出土した。これらは、本遺構の埋没過程において生じた凹地に廃棄されたものと考えている。

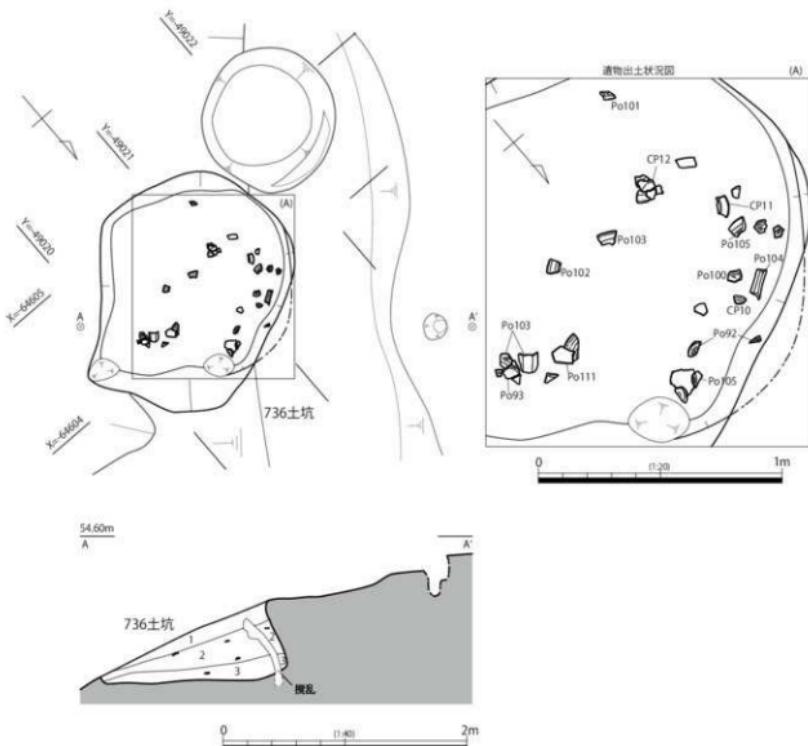
出土遺物を第131図にまとめている。Po88~95は赤彩された土師器である。Po88は直線的に立ち上がる口縁部で端部を丸く取る坏。Po89・90・92・93は平坦な底部から上方へ開く口縁部を有する坏である。Po91は平底で高台付皿の高台部。Po94は平底で底径が広い皿、Po95は皿の口縁部である。Po93と95は油煙が付着している。

Po96~99は内湾口縁をもち、内外面とも粗いナナデ調整を施す製塙土器である。Po100~105は土師器甕である。口縁部が「く」の字状に外反し、体部が緩やかに張る器形となる。口縁部外面はヨコナナデ、体部外面はハケ調整を施す。

Po106~111は須恵器である。Po106~108は坏であり、Po108は高台が付く。Po106は体部がやや内湾氣味となり、口縁端部が外反している。Po109は高坏の坏部から脚部である。Po110は肩が大きく張る長頸壺もしくは直口壺、Po111は甕の肩部である。外面は平行タタキ、内面には同心円状當て具痕を残す。

第129図
730段状遺構出土土器

0 S=1:4 10cm

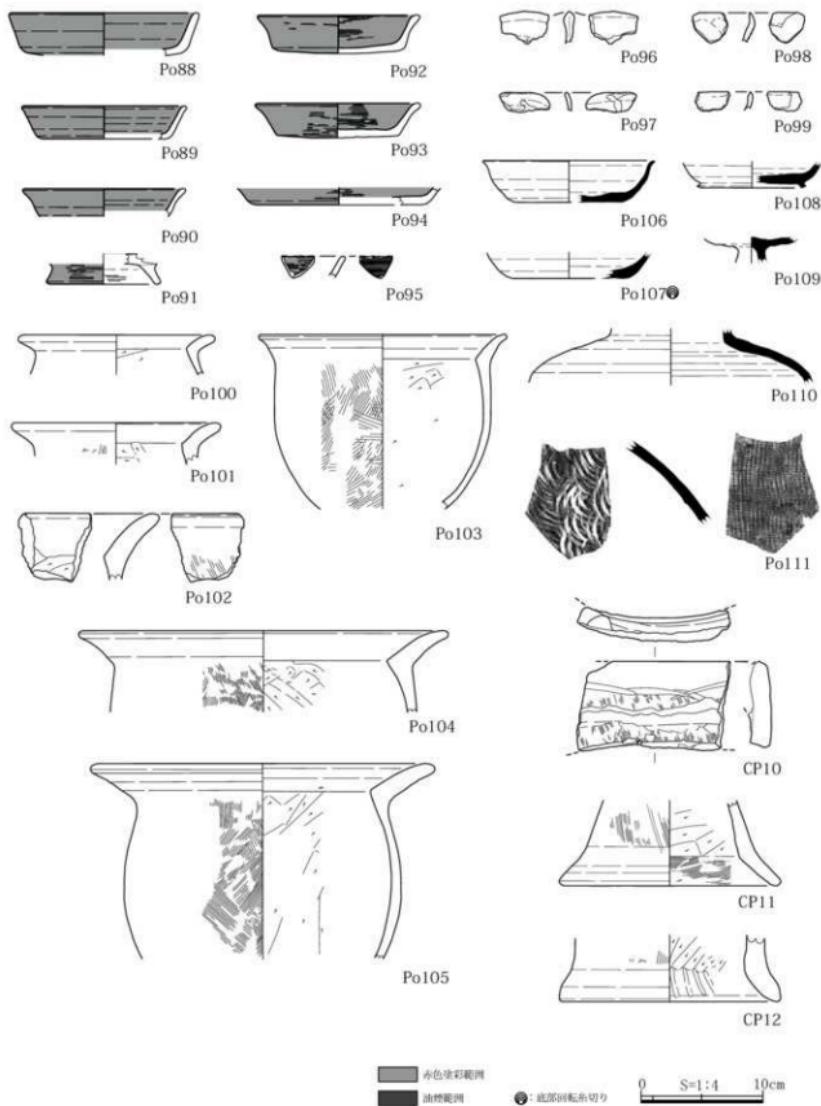


1 10YR3/2 黒褐色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 1cm 少混。炭化物径 1cm 強。縲り中、粘性中)
 2 10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/6 黄色 シルトブロック径 5 ~ 10cm 多混。炭化物径 1cm 強。縲り中、粘性中)

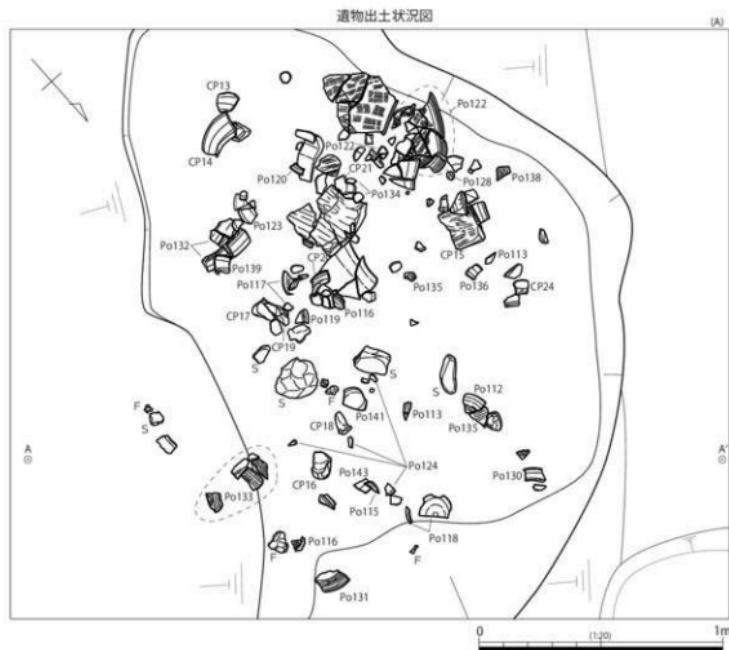
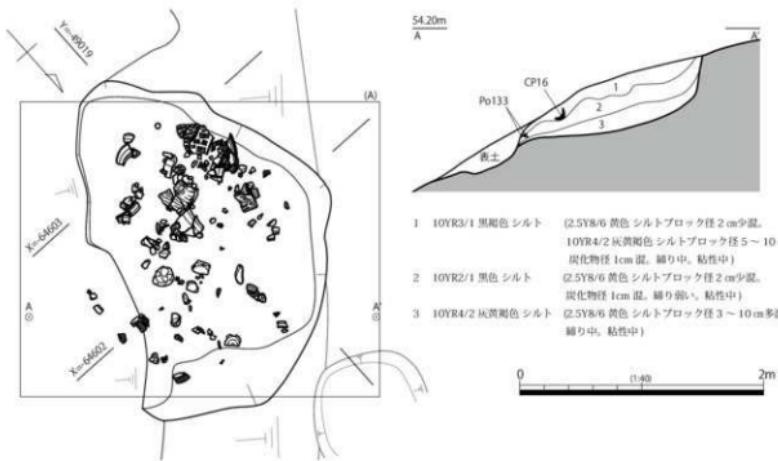
第130図 736土坑

CP10は移動式竈、CP11・12は土製支脚である。CP10は掛口であり、焚口側に庇の貼り付け痕が残されている。内面ナデ、外面ハケ調整が施される。CP11・12は中空厚手の土製支脚の脚部であり、前者は脚据がスカート状に大きく開き、後者は僅かに開く。脚据部内面にはCP11はハケ調整が施され、CP12は成形時のシボリ痕跡を残す。

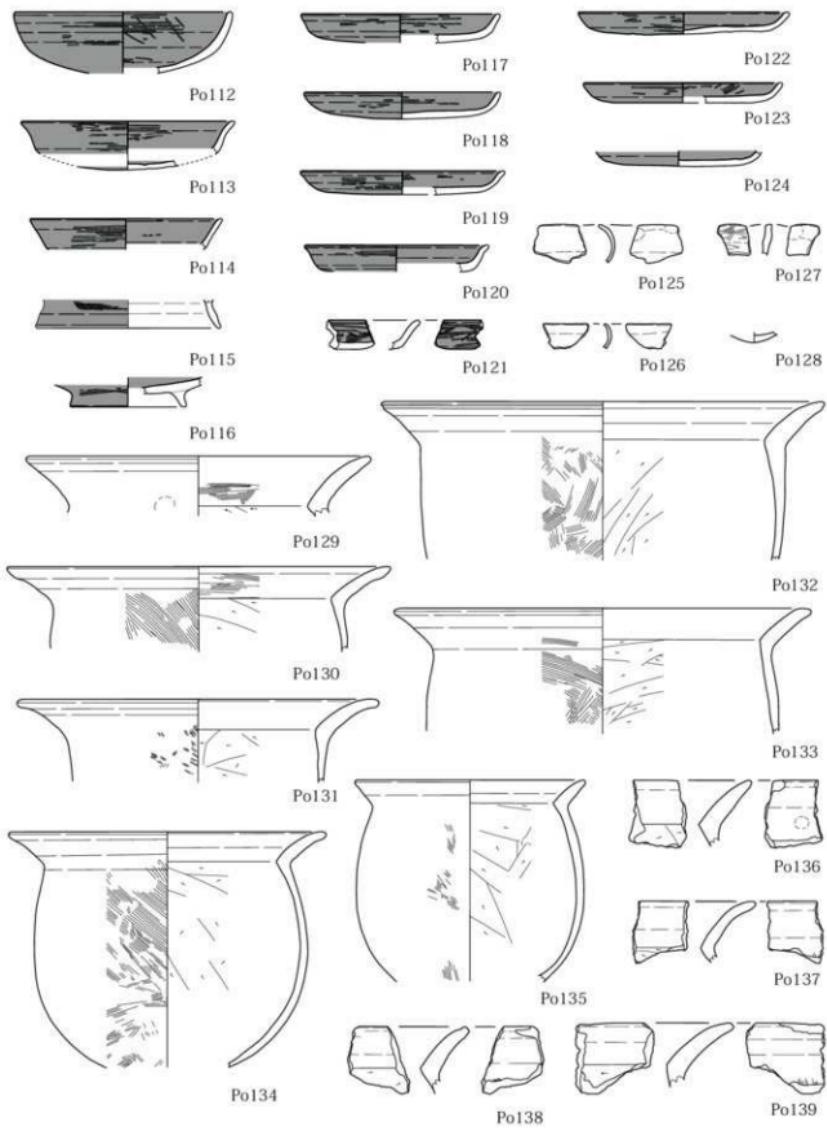
本遺構の帰属時期は、出土遺物から8世紀末から9世紀前半と考えられる。



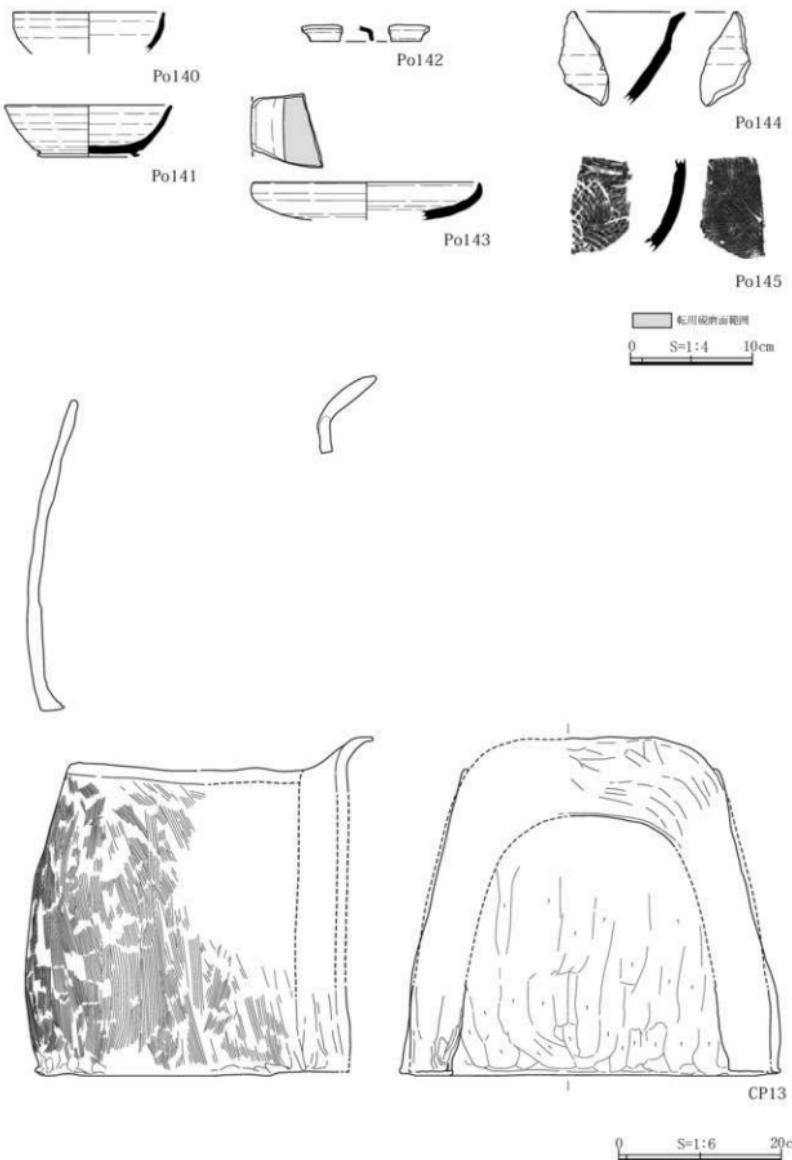
第131図 736土坑出土土器・須恵器・土製品



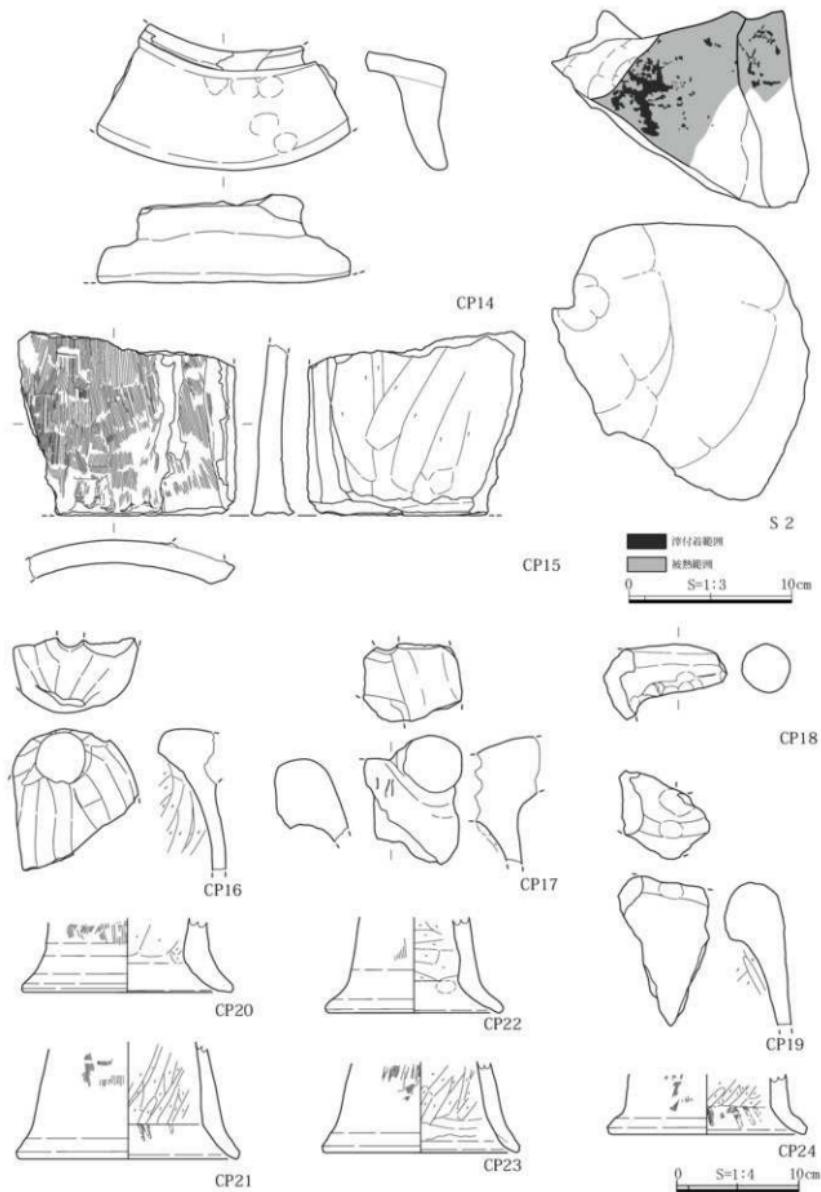
第132図 745土坑



第133図 745土坑出土土師器



第134図 745土坑出土須恵器・土製品



第135図 745土坑出土土製品・石器

745土坑（第132～135図、第52・62・63・67表、図版82・83・97～102）

3区7A-1bグリッドの斜面部において、VI層上面で検出した土坑である。平面形は不整半月形、断面形は不整三角形を呈している。規模は長軸2.93m、短軸1.85m、検出面からの深さは43cmを測る。掘方は、斜面上方側の壁面はほぼ垂直、斜面下方側は底面の一部が流出している。底面は中心部がやや窪む。埋土は上層（1層）の黒褐色シルト、中層（2層）の黒色シルト、下層（3層）の灰黄褐色シルトに分層され、IV・V層由来の黄色シルトブロックが混じる。

遺物は1・2層を中心に多数の土器や土製品、礫等が出土しており、集落の中心部にあたる北西側の斜面上方から投棄されたような出土状況を示す。比較的遺存状態がよい個体も多く、Po134はほぼ完形に復元できるほか、CP13のような大型品も含まれる。

出土遺物を第133～135図にまとめている。Po112～124は赤色塗彩の土師器で、Po112～114は壺、Po115・116は高台皿、Po117～124は皿である。Po112は口縁部が内湾気味に立ち上がり、内外面ミガキ調整が施される。Po113はやや丸みを帯びた底部から内湾気味に体部が立ち上がり、口縁端部は外反する。Po114は口縁部が直線的に外傾する。Po115は高い高台をもち、Po116はそれに比して低い。平坦な底部から短い口縁部が外反するPo119～121、口縁部が内湾気味に短く立ち上がるPo117・118・122・123がある。

Po125～128は内湾口縁の粗いナデ調整を施す製塙土器であり、器壁が薄い。Po129～139は土師器甕である。いずれも「く」の字状に口縁部が大きく外反し、体部は緩やかに張る。体部は外面ハケ、内面はケズリ調整が施される。

Po140～145は須恵器である。Po140は体部が内湾気味となり口縁端部が外反する壺。Po141は体部から口縁部が外傾して立ち上がる高台付壺である。Po142は端部が直角に下がる蓋。Po143は体部から口縁が内湾して立ち上がる高壺もしくは皿で、転用硯である。Po144は体部が外傾しながら立ち上がり、体部上部が一旦屈曲して口縁端部が外反する鉢である。Po145は外面にカキメ、内面に同心円状當て具痕を残す横瓶。

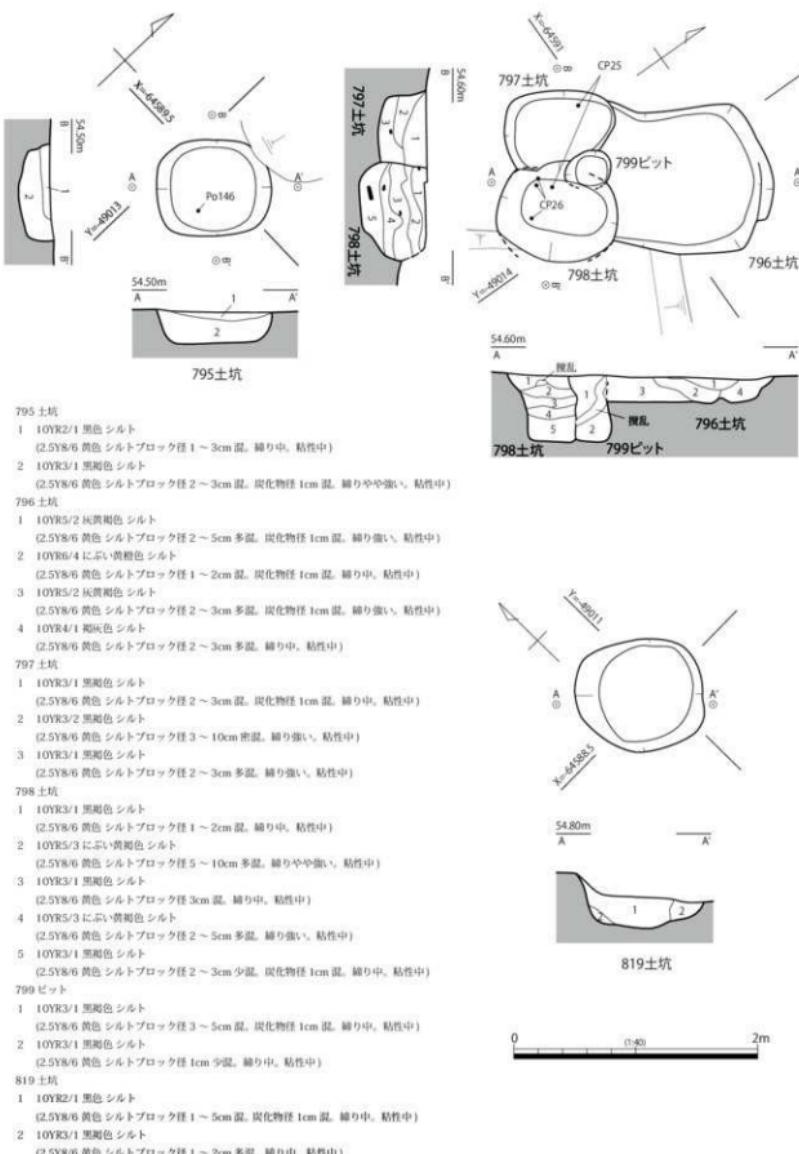
CP13～15は移動式甕である。CP13は破片による出土で一部図上復元している。上部が窄まった台形状を呈し、焚口外縁部に鉗状の庇がめぐる。体部は外面ハケ、内面は下から上に向かってヘラケズリが施される。CP14は焚口上部の庇片、CP15は体部裾部で庇の剥落痕がみられる。CP16～24は中空厚手の土製支脚で、CP16～18は突起、CP19は脚上半部、CP20～24は脚下半部である。CP16・17・19は頂部の突起の間にやや歪な円形の孔を有し、CP20～24の脚裾はスカート状に開く。岩橋分類III-C類土製支脚に分類される一群とみられる（岩橋2010）。

S2は花崗岩礫を素材とした金床石である。上面の平坦面が作業面で、被熱により赤化して滓が溶着する。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から7世紀末から8世紀後半と考えられる。

795土坑（第136・137図、第52・63表、図版84・96）

3区6A-9b・10bグリッドの平坦部において、VI層上面で検出した土坑である。平面形は隅丸方形、断面形は逆台形を呈している。規模は長軸94cm、短軸78cm、検出面からの深さは25cmを測る。埋土は上層（1層）の黒色シルト、下層（2層）の黒褐色シルトに分層され、IV・V層由来の黄色シルトブロックが混じる。



第136図 795~798・819土坑、799ビット

出土遺物は、1層から土師器壺Po146、埋土中から須恵器壺もしくは高杯Po147が出土している。前者は口径が広く、口縁部が「く」の字状に大きく外反する。後者は体部から口縁部へ内湾する。本遺構の帰属時期は、出土遺物から7世紀前半頃と想定される。

796土坑（第136図、第52表、図版84）

3区6A-10bグリッドの平坦部において、VI層上面で検出した土坑である。南西側で797・798土坑と799ピットに切られている。平面形は隅丸長方形、断面形は逆台形を呈している。規模は長軸残存1.30m、短軸1.15m、検出面からの深さは21cmを測る。埋土は灰黄褐色シルト、にぶい黄橙色シルト、灰黄褐色シルト、褐灰色シルトの4層に分層される。

遺物は図化していないが、3・4層から土師器の壺とみられる小片が出土している。

本遺構の帰属時期は、797・798土坑との重複関係から7世紀末から8世紀と考えられる。

797土坑（第136・138図、第52・67表、図版84・96）

3区6A-10bグリッドの平坦部において、VI層上面で検出した土坑である。北東側で796土坑を切り、南東側を798土坑と799ピットに切られている。平面形は不整梢円形、断面形は箱形を呈している。規模は長軸93cm、短軸残存59cm、検出面からの深さは40cmを測る。埋土はIV・V層由来の黄色シルトブロックが混じる黒褐色シルトの3層からなる。

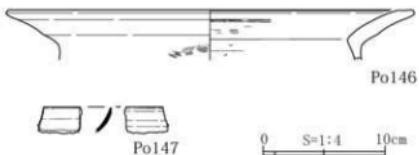
遺物は最上層の1層から移動式竈CP25の裾部が出土している。表面はハケ、内面は下から上方向のケズリ調整が施されている。表面には底の剥落痕が残る。

なお、CP25は798土坑5層で出土している移動式竈片と接合する。

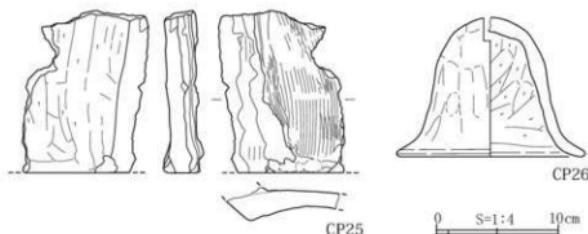
本遺構の帰属時期は、出土遺物から7世紀末から8世紀と考えられる。

798土坑（第136・138図、第52・67表、図版84・96）

3区6A-10bグリッドの平坦部において、VI層上面で検出した土坑である。北東側で796土坑、北西側で797土坑を切り、北側で



第137図 795土坑出土土器・須恵器



第138図 797・798土坑出土土製品

799ピットに切られる。平面形は不整円形、断面形は隅丸箱形を呈している。規模は長軸98cm、短軸78cm、検出面からの深さは54cmを測る。埋土はIV・V層由来の黄色シルトブロックが混じる黒褐色シルトとにぶい黄褐色シルトが互層となって堆積していた。

出土遺物は土製支脚CP26である。CP26は中空で鉄兜形を呈し、頂部には孔が穿たれている。突起は欠損している。岩橋分類III-C類土製支脚に分類される個体と考える(岩橋2010)。

なお、5層から出土した破片が、本遺構より先行する797土坑1層で出土した竈CP25と接合している。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から7世紀末から8世紀と考えられる。

819土坑（第136図、第52表、図版85）

3区6A-9Bグリッドの平坦部において、IV層上面で検出した土坑である。南東側上部が削平されており、平面形は不整円形、断面形は概ね逆台形を呈している。規模は長軸105cm、短軸93cm、検出面からの深さは25cmを測る。埋土は黒色シルトと黒褐色シルトに分層され、IV層由来の黄色シルトブロックが混じる。出土遺物は土師器小片のみで掲載していない。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から古代と想定される。

799ピット（第136図、第56表、図版84）

3区6A-10bグリッドの平坦部において、VI層上面で検出したピットである。796～798土坑を切っている。平面形は不整円形、規模は長軸38cm、短軸34cm、検出面からの深さは55cmを測る。埋土はIV・V層由来の黄色シルトブロックが混じる黒褐色シルトが上下2層に堆積する。

遺物は図化していないが、1層から土師器壺の小片、2層から土師器の壺とみられる小片と赤彩土師器の小片が出土している。

本遺構の帰属時期は、出土遺物および797・798土坑との重複から7世紀末～8世紀以降と考えられる。

第52表 土坑遺構計測表

No.	地区 T45-Sa	調査区	範囲(cm)			調査時 遺物名	備考
			長軸	短軸	深度		
796土坑	7A-1b - 3c	3cE	193	160	62	S726	Po98-111, CP10-125.1
795土坑	7A-1b	3cE	293	185	43	S745	Po111-145, CP12-24, S2 黒土
796土坑	6A-9b - 10b	3cE	94	78	25	S726	Po46-147
796土坑	6A-10b	3cE	130(3.1)	115	21	S796	797・798土坑、799土坑に見られる
797土坑	6A-10b	3cE	93	36(1.1)	40	S797	797・798・799土坑、CP500土
798土坑	6A-10b	3cE	98	78	54	S798	798土坑→799土坑、CP500土
819土坑	6A-9b	3cE	105	93	25	S819	

柱穴（第139～142・144図、第26・30・32・39・43・45・46・50・53～57・63表、図版85・96・102）

1～3区において、308基の小穴を検出した。そのうち209基については、遺構の規模や形状、または土層断面に柱痕跡や柱抜き取り痕跡が確認できたものなどについて柱穴と判断した。これらの柱穴は、本来は建物を構成する柱や、建物に付属する何らかの構造物の柱であったと考えるが、今回の調査ではそれを明確にはできていない。よって、単独の遺構として取り扱う。検出した柱穴の情報は各遺構計測表および遺物観察表に示したので参照されたい。

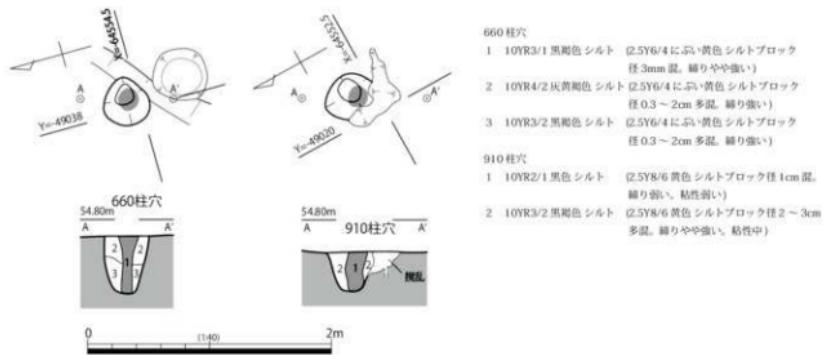
第139～142図は単独の柱穴のうち、構造が特徴的なものや、出土遺物を掲載したものについて図示している。

660柱穴は、堅穴建物5南東側壁面に検出し、910柱穴は堅穴建物5貼床下で検出した。いずれも柱痕跡が認められる柱穴である。掘立柱建物を構成する柱穴をふくめ、調査区内に検出した柱穴のほとんどについて柱が抜き取られているが、少数ではあるが、柱痕跡を有する柱穴も認められる。両柱穴とも、堅穴建物5と近接する掘立柱建物16との関連性について検討を行ったが、平面的な位置関係や柱穴の底面レベルなどから判断し、関連性はないものと考える。

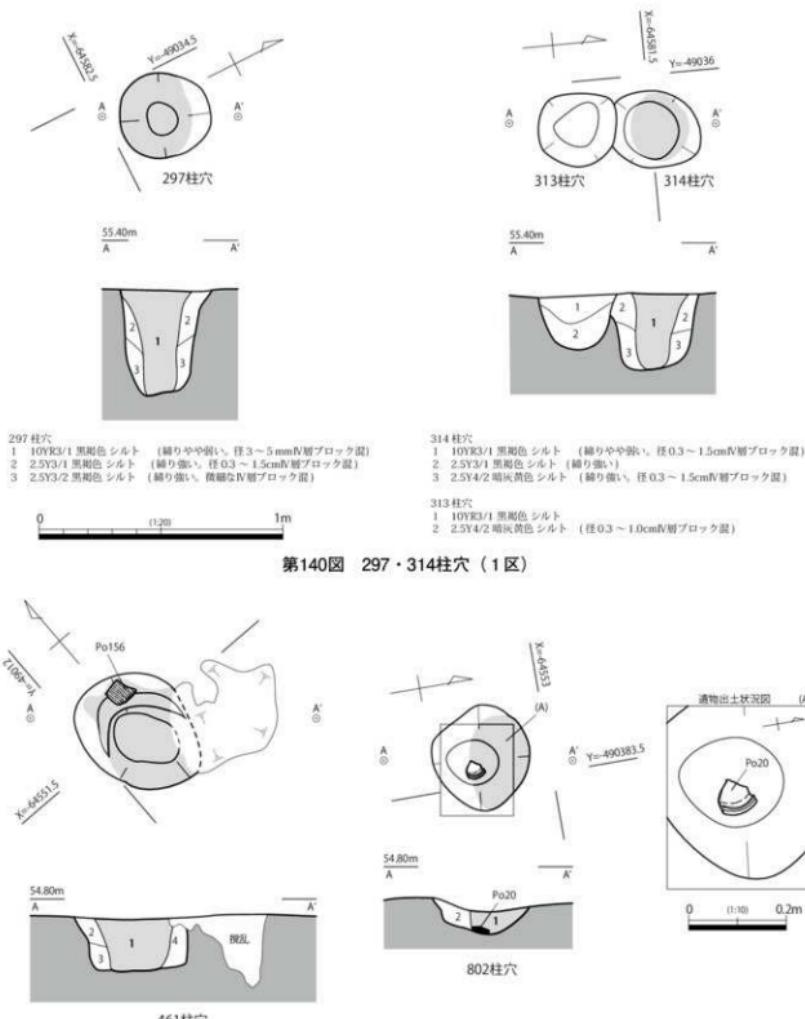
297・314・461・607・610・704・826柱穴については、出土遺物を図化した(Po148・149・151・152・154～156)。297・314柱穴は1区で検出し、Po154が297柱穴埋土中、Po151が314柱穴埋土中より出土している。

461柱穴は2区で検出し、Po156が461柱穴の柱抜き取り痕跡より出土している。607・610・704・826柱穴は3区で検出し、Po149が607柱穴抜き取り痕跡、Po148が610柱穴埋土中、Po155が704柱穴埋土中、Po152が826柱穴埋め土である2層より出土している。

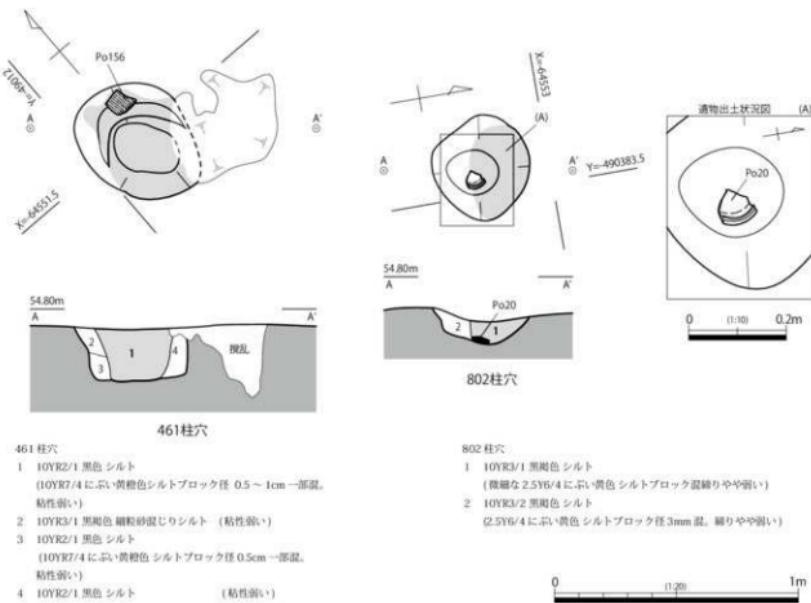
Po148・149は製塩土器である。器壁が薄く口縁部が内湾する。Po151・152は土師器甕である。Po151は「く」の字状に外反する口縁部で、体部外面はハケ調整を施す。Po154は口縁部が外傾気味に直線的に立ち上がる須恵器壺であり、8世紀中頃から後半に比定される。Po155は須恵器高壺の口縁部であり、端部付近で外傾する。内面には焼成前に「×」状のヘラ記号が施される。外面には焼成前に直線状の刻みが3本施されている。脚部に施される透かしの割り付け痕跡の可能性が考えられる。また、内面には磨面の範囲が認められ、転用硯として再利用されたものと考える。8世紀中頃から後



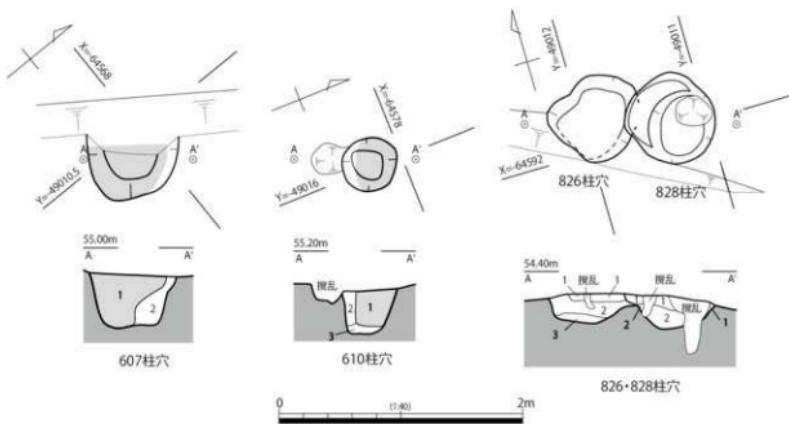
第139図 660・910柱穴（2区）



第140図 297・314柱穴 (1区)

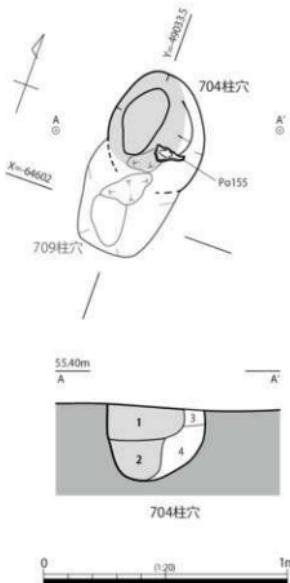


第141図 461・802柱穴 (2区)



607柱穴

- 1 10YR2/1 黒褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色シルトブロック径 1 ~ 3cm 混。締り中。粘性中)
- 2 10YR3/2 黒褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色シルトブロック径 3 ~ 5cm 多混。締り中。粘性中)
- 610柱穴
- 1 10YR2/1 黒褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色シルトブロック径 2 ~ 5cm 混。締り中。粘性中)
- 2 10YR3/2 黑褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色シルトブロック径 2 ~ 3cm 布混。締り中。粘性中)
- 3 10YR4/2 灰青褐色シルト
(10YR3/1 黑褐色シルトブロック径 2cm 混。締り中。粘性中)
- 704柱穴
- 1 10YR3/1 黑褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色シルトブロック径 1cm 以下少混。締り中。粘性中)
- 2 10YR3/2 黑褐色シルト
(締り中。粘性中)
- 3 10YR2/1 黑褐色シルト
(締り中。粘性中)
- 4 10YR4/2 灰青褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色シルトブロック径 2 ~ 3cm 混。締り中。粘性中)
- 826柱穴
- 1 10YR3/2 黑褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色シルトブロック径 1 ~ 3cm 混。炭化物径 0.5 ~ 1cm 混。締り中。粘性中)
- 2 10YR7/6 明灰褐色シルト
(10YR4/2 灰青褐色シルトブロック径 3 ~ 5cm 混。2.5Y8/6 黄色シルトブロック径 2cm 多混。炭化物径 1cm 混。締り中。粘性中)
- 3 2.5Y6/4に似る黄色シルト
(2.5Y8/6 黄色シルトブロック径 2 ~ 5cm 多混。締り中。粘性中)
- 828柱穴
- 1 10YR3/2 黑褐色シルト
(2.5Y8/6 黄色シルトブロック径 3cm 混。炭化物径 5mm 混。締り中。粘性中)
- 2 10YR7/6 明灰褐色シルト
(10YR4/2 灰青褐色シルトブロック径 3cm 混。2.5Y8/6 黄色シルトブロック径 2 ~ 3cm 多混。締り中。粘性中)



第142図 607・610・704・826・828柱穴（3区）

半に比定される個体である。Po156は須恵器壺の肩部である。外面は平行タタキ、内面は同心円状当て具痕を残す。

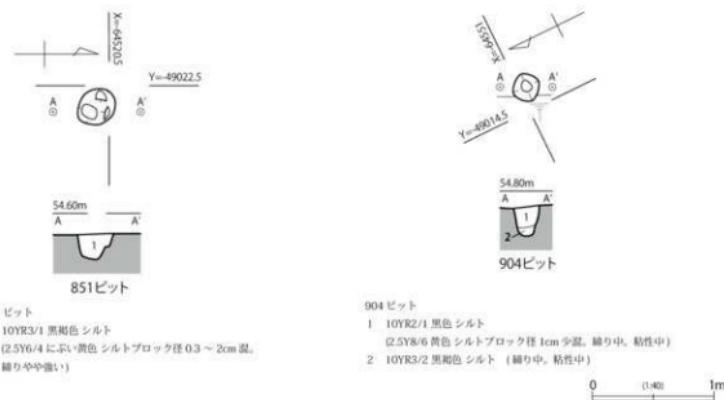
なお、802柱穴は堅穴建物5床面で検出し、柱抜き取り痕跡からPo20の破片の一部が出土している(第141図)。先述のとおり、この遺物は混入遺物であり、本遺構に伴うものではないと考える(本章第3節P47)。

ピット(第143・144図、第9・53・55~57・63表、図版84・102)

1~3区において、ピットを99基検出している。調査区内に検出した小穴のうち、柱穴以外の機能不明なものについてピットとして報告する。ピットは規模が小さいものが多く、遺構の形状が一定ではないものも認められる。埋土は単層のものが多く、黒褐色を呈するシルトを主体とする。調査区内には木の根によるとみられる搅乱も多く、人為的に掘削された穴ではないものも含まれる可能性もある。帰属時期は明確にはできないが、ピット内から出土した遺物は古代のものと想定されるものが多い。よって、ピットの中には建物遺構に関連するものが含まれる可能性があるため、本項で扱うこととする。検出したピットの情報は各遺構計測表および遺物観察表に示したので参照されたい。

出土遺物を掲載した851・904ピットを第143図に示す。851・904ピットは2区で検出した。851ピットの埋土中からはPo150が出土している。904ピットの埋土は2層に分層でき、黒色系のシルトを主体とする。1層からPo153が出土している。

Po150は土師器壺である。「く」の字状に外反する口縁部で、体部外面はハケ調整を施す。Po153は須恵器蓋である。天井は欠損してつまみの形態は不明であるが、端部にはかえりをもつ。7世紀後半に比定される。



第143図 851・904ピット(2区)

第53表 柱穴・ピット遺構計測表（1）

No.	種別	調査区	地区 T45S	直径 (cm)			調査時遺構名	備考
				直輪	横輪	深さ		
33	ピット	1区	TA-29	50	39	14	33ピット	
35	ピット	1区	TA-3e	45	36	20	35ピット	
38	ピット	1区	TA-29	27	24	13	38ピット	
39	柱穴	1区	TA-29	27	25	11	39柱穴	
40	ピット	1区	TA-29	22	20	12	40ピット	
41	ピット	1区	TA-29	27	25	10	41ピット	
42	ピット	1区	TA-29	21	16	14	42ピット	
43	ピット	1区	TA-29	20	14	13	43ピット	
44	ピット	1区	TA-1f	29	26	21	44ピット	
45	ピット	1区	TA-1e	25	24	20	45ピット	
48	ピット	1区	TA-1e	50	43	13	48ピット	
50	ピット	1区	TA-1e	32	25	16	50ピット	
54	ピット	1区	TA-1e	42	141.5	—	54ピット	大部分を覆瓦に埋められる
55	ピット	1区	TA-1e	44	203.5	19	55ピット	大部分を覆瓦に埋められる
56	ピット	1区	TA-1e	45	44	20	56ピット	
96	ピット	1区	TA-1e	29	51	12	96ピット	
118	ピット	1区	6A-0d	241.1	141.5	16	118ピット	118柱穴→既存建物P-3
119	柱穴	1区	6A-4b	29	28	15	119柱穴	
120	柱穴	1区	6A-4b	44	38	24	120柱穴	
128	柱穴	1区	6A-4b	241.1	123.5	22	128柱穴	
129	柱穴	1区	6A-4b	181.1	181.5	27	129柱穴	
121	ピット	1区	6A-7d	43	55	16	121ピット	
123	柱穴	1区	6A-6e	62	30	16	123柱穴	
122	柱穴	1区	6A-6e	35	28	15	122柱穴	
123	柱穴	1区	6A-6e	61	49	27	123柱穴	
126	柱穴	1区	6A-6e	35	30	17	126柱穴	柱高に埋められる
127	柱穴	1区	6A-6e	25	34	17	127柱穴	
122	柱穴	1区	6A-6e	42	39	11	122柱穴	
123	柱穴	1区	6A-6e	34	31	18	123柱穴	
126	柱穴	1区	6A-6e	40	27.5	23	126柱穴	
125	柱穴	1区	6A-10e	311.1	30	28	125柱穴	26柱穴→260柱穴
126	柱穴	1区	6A-10e	333.1	31	29	126柱穴	265柱穴→260柱穴
127	柱穴	1区	6A-10e	26	24	36	127柱穴	
128	柱穴	1区	6A-10e	37	35	26	128柱穴	
129	柱穴	1区	6A-10e	44	37	11	129柱穴	
131	柱穴	1区	6A-10e	43	33	17	131柱穴	
125	柱穴	1区	6A-10e	51	48	10	125柱穴	
126	柱穴	1区	6A-7d	30	33	26	126柱穴	
127	柱穴	1区	6A-9d	38	35	44	127柱穴	Pd54地主
128	柱穴	1区	6A-8d	43	42	20	128柱穴	
130	柱穴	1区	6A-8d	45	40	28	130柱穴	
134	柱穴	1区	6A-9d-10d	45	40	24	134柱穴	
126	柱穴	1区	6A-9d	54	50	22	126柱穴	
127	柱穴	1区	6A-9d	51	35	29	127柱穴	
128	柱穴	1区	6A-7d	44	43	26	128柱穴	
129	柱穴	1区	6A-7d	49	35	25	129柱穴	
130	柱穴	1区	6A-9d	40	39	30	130柱穴	
131	柱穴	1区	6A-9d	47	46	42	131柱穴	
122	柱穴	1区	6A-9d	38	34	21	122柱穴	
123	柱穴	1区	6A-9d	34	32	22	123柱穴	314柱穴→313柱穴
124	柱穴	1区	6A-9d	39	32	21	124柱穴	314柱穴→313柱穴, Pd51地主
126	柱穴	1区	6A-8e	47	44	26	126柱穴	
127	ピット	1区	6A-9d	33	31	14	127ピット	
128	ピット	1区	6A-9d	37	32	46	128ピット	
405	ピット	3区	TA-2e	50	42	22	S-405	406→407ピット, 411柱穴→405ピット
406	ピット	3区	TA-2e	221.1	203.5	22	S-406	406ピット→405ピット
407	ピット	3区	TA-2e	933.1	203.5	19	S-407	411柱穴→407ピット→408ピット
408	ピット	3区	TA-2e	23	19	14	S-408	
409	柱穴	3区	TA-2e	251.1	151.5	21	S-409	複数に埋められる
410	柱穴	3区	TA-2e	322.1	40	33	S-410	

第54表 柱穴・ピット遺構計測表（2）

No.	種別	調査区	地区 T45分	面積 (cm)			調査時遺構名	備考
				長軸	短軸	深さ		
411	柱穴	3区	7A.2e	461.1	231.3	11	S401	411柱穴→405ピット。複数に切られる。
450	柱穴	3区	6A.0b-10b	76	60	7	S450	451柱穴→450柱穴
451	柱穴	3区	6A.0b	25	60	4	S451	451柱穴→450柱穴
453	柱穴	2区	6A.0b	56	48	12	S453	
454	柱穴	2区	6A.0b	36	32	21	S454	
455	柱穴	2区	6A.0b	49	38	14	S455	456柱穴→455柱穴
456	柱穴	2区	6A.0b	46	28	9	S456	456柱穴→455柱穴
457	柱穴	2区	6A.0b	49	43	23	S457	
458	柱穴	2区	6A.0b	35	24	29	S458	
461	柱穴	2区	6A.0b	52	45	20	S461	Pn156出土
466	柱穴	2区	6A.0b	33	29	5	S466	467柱穴→468柱穴
467	柱穴	2区	6A.0b	44	361.1	5	S467	467柱穴→468柱穴
468	柱穴	2区	6A.0b	37	25	3	S468	
469	柱穴	2区	6A.0b	25	23	11	S469	
470	柱穴	2区	6A.0b	40	22	22	S470	
471	柱穴	2区	6A.0b	36	33	25	S471	
474	柱穴	2区	6A.0b	49	47	45	S474	複数に切られる。
480	柱穴	2区	6A.0b	39	29	19	S480	
481	柱穴	2区	6A.0b	54	50	9	S481	482柱穴→481柱穴
482	柱穴	2区	6A.0b	51	1811.1	8	S482	482柱穴→483柱穴
485	柱穴	2区	6A.0b	34	29	18	S483	
489	柱穴	2区	6A.5a	37	31	41	S489	
490	柱穴	2区	6A.5a	66	44	35	S490	複数に切られる。
495	柱穴	2区	6A.6b	26	24	28	S495	
494	柱穴	2区	6A.6a	28	26	25	S494	
529	柱穴	3区	6A.7a	62	49	27	S529	
522	柱穴	3区	6A.7a	36	56	28	S522	
523	柱穴	3区	6A.7a	37	12	38	S523	複数に切られる。
524	柱穴	3区	6A.7a	34	24	22	S524	
526	柱穴	3区	6A.7a-7b	36	27	11	S526	複数に切られる。
528	柱穴	3区	6A.7a-7b	74	6011.1	45	S528	529柱穴→528柱穴
529	柱穴	3区	6A.7b	54	2611.1	25	S529	529柱穴→528柱穴
530	柱穴	3区	6A.7b-8b	67	23	45	S530	530柱穴→529柱穴
534	柱穴	2区	6A.6a	31	30	30	S534	
535	柱穴	2区	6A.5a	27	26	15	S535	
536	柱穴	2区	6A.5a	37	34	33	S536	
537	柱穴	2区	6A.5a	50	44	38	S537	新地段沿革
538	柱穴	2区	6A.5a	36	34	13	S538	堆土場
540	柱穴	2区	6A.5a	61	52	25	S540	
544	柱穴	2区	6A.4a-5a	60	48	29	S544	
545	柱穴	2区	6A.4a	49	44	30	S545	
549	柱穴	3区	6A.4b	65	3911.1	23	S549	複数に切られる。
551	柱穴	3区	6A.4b	81	72	30	S551	複数に切られる。
552	柱穴	3区	6A.4b	43	24	36	S552	複数に切られる。
559	柱穴	2区	6A.5a-5b	79	38	28	S559	
563	柱穴	2区	6A.4b	39	36	27	S563	
582	柱穴	2区	6A.4a	38	37	37	S582	
584	柱穴	3区	6A.7a	40	38	21	S584	
585	柱穴	3区	6A.7a	58	29	47	S585	
586	柱穴	2区	6A.4a-5a	49	46	30	S586	
591	柱穴	2区	6A.5a	52	50	44	S591	
592	柱穴	2区	6A.5a	42	35	12	S592	
597	柱穴	2区	6A.4b	66	30	23	S597	598柱穴→597柱穴
598	柱穴	2区	6A.4b	58	40	11	S598	598柱穴→597柱穴
599	柱穴	2区	6A.5b	39	38	18	S599	
601	柱穴	2区	6A.5b	45	42	10	S601	
602	柱穴	2区	6A.5b	55	50	21	S602	
603	柱穴	2区	6A.5b	49	39	24	S603	
605	柱穴	2区	6A.4a	41	28	16	S605	
607	柱穴	3区	6A.7b	79	3011.1	47	S607	Pn148出土。複数に切られる。

第55表 柱穴・ピット遺構計測表（3）

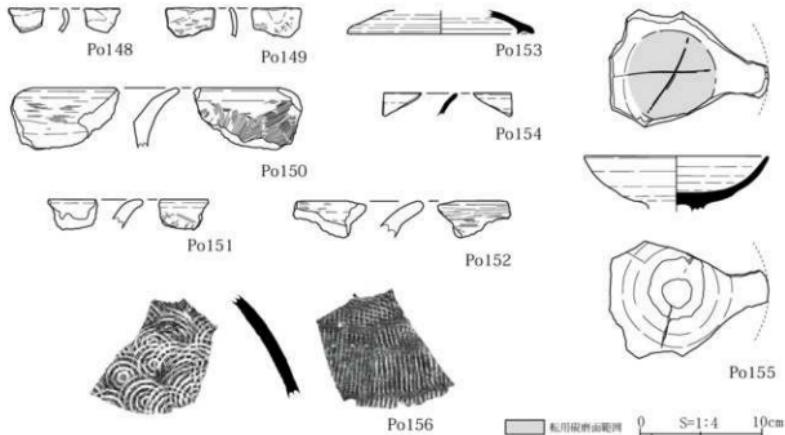
No.	種別	調査区	地区 T45分	直径 (cm)			調査時遺構名	備考
				長軸	短軸	深さ		
608	ピット	3区	6A.4b	31	25	14	S608	
609	柱穴	3区	6A.4b	42	29	22	S609	
610	柱穴	3区	6A.4b	44	42	36	S610	Pu48出土。複数に切られる
611	柱穴	3区	6A.4b	44	41	31	S611	
612	柱穴	3区	6A.4b	31	161.1	24	S612	
613	柱穴	3区	6A.4b	32	29	18	S613	
614	柱穴	3区	6A.4b	41	40	67	S614	
617	柱穴	3区	6A.4b	311.1	26	10	S617	複数に切られる
618	柱穴	3区	6A.4b	221.1	191.1	23	S618	61柱穴→43柱穴。複数に切られる
619	柱穴	3区	6A.4b	611.1	47	43	S619	61柱穴→63柱穴。複数に切られる
621	柱穴	2区	6A.4b	39	37	20	S621	
626	柱穴	2区	6A.5c	39	33	13	S626	
630	柱穴	2区	6A.4b	52	261.1	13	S630	複数に切られる
635	柱穴	3区	6A.4b	58	311.1	14	S635	複数に切られる
636	柱穴	2区	6A.6c	70	61	30	S636	柱穴4を切る
642	柱穴	2区	6A.4a	44	40	23	S642	
649	柱穴	3区	6A.9c	49	37	33	S649	
650	柱穴	3区	6A.9c	43	42	44	S650	
651	柱穴	3区	6A.4bc	30	23	15	S651	945→916柱穴→61柱穴
653	柱穴	3区	6A.9c	30	30	39	S653	
654	柱穴	2区	6A.6c	65	49	14	S654	柱穴4→65柱穴
655	柱穴	2区	6A.6c	64	46	18	S655	708上坑(蒸土し穴)→655柱穴
660	柱穴	2区	6A.6d	42	38	47	S660	柱穴5→660柱穴
666	柱穴	3区	6A.10c	37	35	35	S666	667柱穴→666柱穴
667	柱穴	3区	6A.10c	43	39	28	S667	667柱穴→666柱穴
670	柱穴	3区	6A.10c	44	28	20	S670	複数に切られる
672	柱穴	3区	6A.10c	52	38	15	S672	
674	柱穴	3区	6A.10c	79	5211.1	29	S674	複数に切られる
676	柱穴	3区	6A.10c	36	30	20	S676	
677	柱穴	3区	6A.10c	44	30	18	S677	
680	柱穴	3区	6A.10c	26	25	22	S680	
687	柱穴	2区	6A.9c	42	21	20	S687	
690	柱穴	3区	6A.10c-1M	49	46	36	S690	
694	柱穴	3区	6A.10d	32	31	19	S694	複数に切られる
697	柱穴	3区	7A.4d	22	16	45	S697	703柱穴→697柱穴
698	柱穴	3区	6A.10c	33	12	13	S698	
703	柱穴	3区	7A.4d	63	53	32	S703	703柱穴→697柱穴
704	柱穴	3区	7A.4d	42	4011.1	31	S704	7708柱穴→704柱穴。Pu455出土
706	柱穴	2区	6A.6d	70	60	35	S706	
709	柱穴	3区	7A.4d	36	2811.1	32	S709	709柱穴→704柱穴
714	柱穴	3区	7A.4c	34	31	28	S714	
715	柱穴	3区	7A.4c	38	29	30	S715	
721	ピット	3区	7A.4c	27	27	26	S721	721ピット→729柱穴
722	柱穴	3区	7A.4c	55	47	12	S722	複数に切られる
723	柱穴	3区	7A.4c	33	31	17	S723	
724	柱穴	3区	7A.4c	39	26	16	S724	
725	ピット	3区	7A.4c	48	46	20	S725	
727	柱穴	3区	7A.4c	34	30	15	S727	
728	柱穴	3区	6A.4bb	75	39	24	S728	複数に切られる
729	柱穴	3区	7A.4c	40	33	31	S729	721ピット→729柱穴
734	柱穴	3区	6A.4bb	57	56	25	S734	複数に切られる
746	柱穴	3区	7A.4c	30	25	25	S746	
747	柱穴	3区	7A.4c	31	161.1	35	S747	730柱穴遺構の中央に位置する。複数に切られる
748	柱穴	2区	6A.5c	44	36	20	S748	
749	柱穴	2区	6A.5c	34	28	21	S749	
751	ピット	2区	6A.2b	37	33	11	S751	
752	ピット	2区	6A.2b	31	25	19	S752	
753	ピット	2区	6A.2c	44	30	22	S753	
754	ピット	2区	6A.2b-2c	29	26	17	S754	
755	ピット	2区	6A.2c	35	32	12	S755	

第56表 柱穴・ピット遺構計測表（4）

No.	種別	調査区	地区 T45S	面積 (cm)			調査時遺構名	備考
				長軸	短軸	深さ		
256	ピット	2区	6A.2e	39	24	14	S756	
257	ピット	2区	6A.2e	38	24	13	S757	
259	ピット	2区	6A.2e	29	24	20	S759	
260	ピット	2区	6A.2e	42	39	25	S760	
261	ピット	2区	6A.2e	51	32	18	S761	
262	ピット	2区	6A.2e	45	27	20	S762	
263	ピット	2区	6A.2e	65	33	25	S763	複乱に切られる
264	ピット	2区	6A.2e	44	27	27	S764	
265	ピット	2区	6A.2e	56	32	23	S765	
266	ピット	2区	6A.3e	28	27	17	S766	
267	ピット	2区	6A.3e	39	31	25	S767	
268	ピット	2区	6A.3e	42	35	21	S768	
269	ピット	2区	6A.3e	57	31	11	S769	
270	ピット	2区	6A.3e	33	25	24	S770	
271	ピット	2区	6A.3e	25	21	32	S771	
272	ピット	2区	6A.3e	48	45	25	S772	
273	ピット	2区	6A.3e	35	30	21	S773	
274	ピット	2区	6A.3e	51	34	20	S774	
275	ピット	2区	6A.4e	31	25	25	S775	
276	ピット	2区	6A.4e	53	31	16	S776	
277	ピット	2区	6A.3d	40	31	23	S777	277ピット→278ピット
278	ピット	2区	6A.3d	48	38	28	S778	277ピット→278ピット
279	ピット	2区	6A.3d	42	29	26	S779	
280	ピット	2区	6A.3d	47	39	21	S780	
281	ピット	2区	6A.3d	36	32	23	S781	
282	ピット	2区	6A.3d	31	28	19	S782	
283	ピット	2区	6A.3d	27	25	21	S783	
284	ピット	2区	6A.3d	29	20	17	S784	
285	ピット	2区	6A.3d	26	21	15	S785	
286	ピット	2区	6A.3d	52	34	12	S786	287ピットと切りあり
287	ピット	2区	6A.3d	34	1511.上	18	S787	286ピットと切りあり
288	ピット	2区	6A.3d	38	28	30	S788	複乱に切られる
289	ピット	2区	6A.3e	47	32	34	S789	
290	ピット	2区	6A.3e	44	32	32	S790	
291	ピット	2区	6A.3e	43	39	27	S791	
292	ピット	2区	6A.3e	41	31	32	S792	
293	柱穴	2区	6A.3e	90	82	32	S793	
294	ピット	2区	6A.3d-4d	39	27	14	S794	
295	ピット	3区	6A.10b	38	34	55	S795	796-798上同じ→299ピット
802	柱穴	2区	6A.6d	43	40	15	S802	Pu203H.L.
803	柱穴	2区	6A.6d	42	36	30	S803	903柱穴→標214P2
804	柱穴	2区	6A.6e	44	39	11	S804	
806	柱穴	2区	6A.6e	42	40	32	S806	906柱穴（壁上）→906柱穴
809	柱穴	2区	6A.6e	33	30	12	S809	
810	柱穴	2区	6A.6e	47	36	45	S810	
820	ピット	3区	6A.3b	39	38	63	S820	821ピット→820ピット
821	ピット	3区	6A.3b	41	40	81	S821	821ピット→820ピット
824	柱穴	3区	6A.10b	34	33	33	S824	825柱穴→824柱穴
825	柱穴	3区	6A.10b	49	38	35	S825	825柱穴→824柱穴
826	柱穴	3区	6A.10b	73	703.上	24	S826	826柱穴→826柱穴、Pu452H.L.、複乱に切られる
828	柱穴	3区	6A.10b	74	72	26	S828	826柱穴→826柱穴、複乱に切られる
832	柱穴	2区	6A.5e	50	35	29	S832	
833	柱穴	2区	6A.5e	41	36	27	S833	
839	ピット	2区	6A.4c	38	34	20	S839	
840	ピット	2区	6A.4c	30	29	49	S840	
841	ピット	2区	6A.4d	33	25	14	S841	
842	ピット	2区	6A.4d	62	39	24	S842	
843	ピット	2区	6A.4d-5d	34	33	17	S843	
844	ピット	2区	6A.5d	36	30	25	S844	
845	ピット	2区	6A.5d	45	35	16	S845	

第57表 柱穴・ピット遺構計測表(5)

No.	種別	調査区	地区 T45分	面積(cm)			調査時遺構名	備考
				長軸	短軸	深さ		
846	ピット	2区	6A.5d	40	34	25	SB46	
849	柱穴	2区	6A.6e	37	32	43	SB49	複数に割られる
850	ピット	2区	6A.2e	41	40	28	SB50	複数に割られる
851	ピット	2区	6A.3e	32	27	21	SB51	Po150地土
852	ピット	2区	6A.2e	34	22	23	SB52	
853	ピット	2区	6A.3e	37	26	25	SB53	
854	ピット	2区	6A.4d	26	25	24	SB54	
855	ピット	2区	6A.2e	49	25.1±	27	SB55	
856	ピット	2区	6A.4f	26	23	20	SB56	
857	ピット	2区	6A.4f	30	25	12	SB57	
858	ピット	2区	6A.4e	26	25	17	SB58	
859	ピット	2区	6A.4e	44	26	12	SB59	
860	ピット	2区	6A.4e	32	25	18	SB60	
861	ピット	2区	6A.4e	39	18	12	SB61	
862	ピット	2区	6A.4e	26	20	13	SB62	
863	ピット	2区	6A.4e	29	27	15	SB63	
866	柱穴	2区	6A.6e	36	30	22	SB66	
868	柱穴	2区	6A.5e	33	30	20	SB68	
870	柱穴	2区	6A.5e	33	32	13	SB70	
874	柱穴	2区	6A.6e	30	28	8	SB74	
876	柱穴	3区	6A.10b	60	29	34	SB76	
877	ピット	2区	6A.5b	45	30	12	SB77	
881	柱穴	2区	6A.6b	33	26	11	SB81	
882	柱穴	2区	6A.6b	34	27	31	SB82	
883	柱穴	2区	6A.6b	31	29	14	SB83	
884	柱穴	3区	6A.9c	49	37	35	SB84	Po155柱穴→884柱穴
885	柱穴	3区	6A.9c	35	15.1±	16	SB85	885柱穴→884柱穴、複数に割られる
903	柱穴	2区	6A.4a	60	56	36	SB93	
904	ピット	2区	6A.4b	25	23	25	SB94	Po153地土
905	柱穴	2区	6A.5e	31	31	28	SB95	
909	柱穴	2区	6A.6c	80	61	24	SB99	
910	柱穴	2区	6A.6e	44	35	32	SB98	914柱穴→910柱穴
915	柱穴	3区	6A.10c	25	22	11	SB95	913柱穴→915柱穴
916	柱穴	3区	6A.10c	18	15	5	SB96	916柱穴→915柱穴



第144図 1～3区柱穴・ピット出土土器・須恵器

第2項 時期不明の遺構の調査

本項では、帰属する時期を明確にできない遺構について記述する。本項で扱う遺構の中には、その形状から落とし穴と想定している遺構を9基検出している。これらについては他遺跡の調査例から縄文時代のものと想定しているが、遺物は出土しておらず、明確な根拠は持たない。竪穴建物4または掘立柱建物21と重複するものについては、これらに先行することを確認しており、矛盾は生じない。

448土坑（第145図、第58表、図版86）

2区6A-7cグリッドにおいて、Ⅲ層上面で検出した落とし穴である。西側は掘立柱建物21P10と重複し、これに先行することを確認している。主軸は北東-南西方向にとる。平面形は隅丸方形形状を呈し、長軸101cm、短軸73cm、検出面からの深さは107cmを測る。断面形は「U」字状を呈する。埋土は土坑部分で2層に分層でき、黒色シルトが堆積する。

底面のほぼ中央に径22cm、底面からの深さ31cmの小ピットが1基、底面南西側には径7~12cm、底面からの深さ10cmの小ピットが3基存在する。本遺構壁面には木の根とみられる搅乱穴が認められることから、南西側の小ピットについては、搅乱穴の可能性が残るが、明確にはできていない。一方、底面中央の小ピットについては、埋土の堆積状況から判断し、人為的な掘削であると考える。底面中央の小ピットの埋土は2層に分層でき、小ピット中央に黒色シルト(3層)、その周間に明黄褐色シルト(4層)が堆積する。逆茂木など底面に設置された構造物の痕跡の可能性が考えられる。

遺物は出土していない。

464土坑（第145図、第58表、図版86）

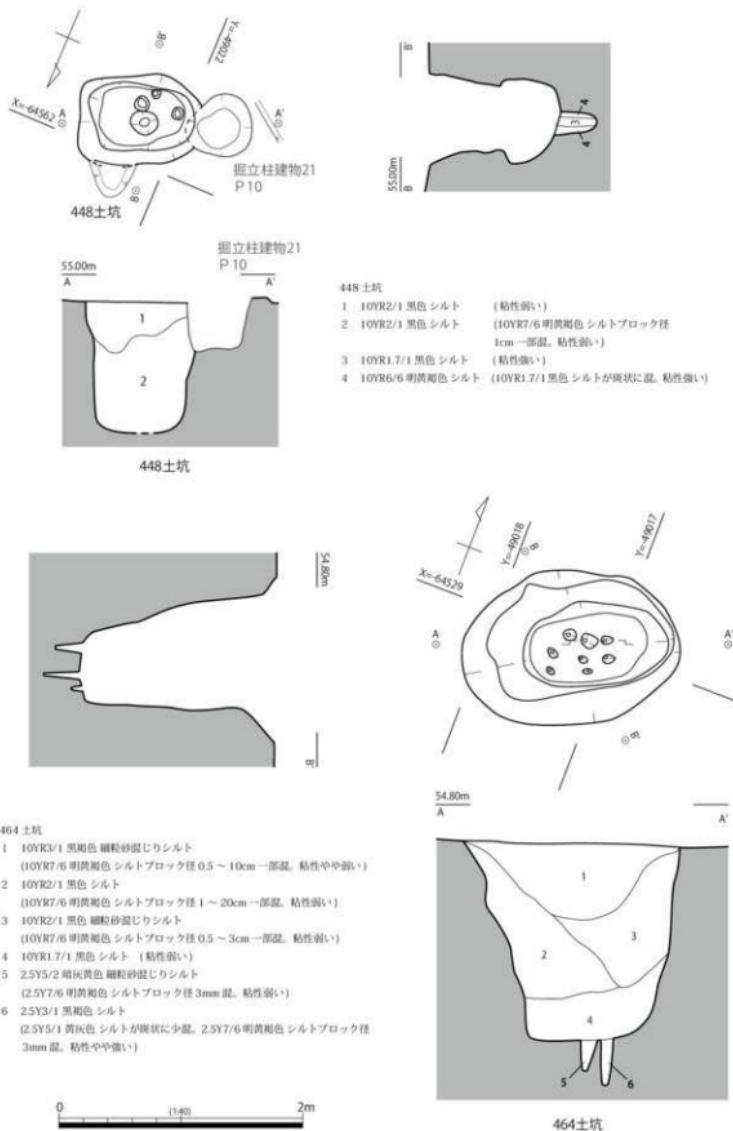
2区6A-3bグリッドにおいて、Ⅲ層上面で検出した落とし穴である。主軸は北東-南西方向にとる。平面形は梢円形を呈し、長軸178cm、短軸127cm、検出面からの深さは161cmを測る。断面形は逆台形であるが、部分的にオーバーハングしており、壁面が崩落した痕跡と考える。埋土は土坑部分で4層に分層でき、黒褐色シルトを主体とする。

底面のほぼ中央には径14cm、底面からの深さが31cmの小ピットが1基、その周辺に径7~10cm、底面からの深さ10cm程度の小ピットが7基存在する。これらの規模は一定ではないが、総じて細く、深い。小ピットには暗灰黄色または黒褐色を呈するシルトが堆積する。

遺物は出土していない。

708土坑（第146図、第58表、図版86）

2区6A-6cグリッドに位置する。竪穴建物4の貼床下面、IV層上面において検出した落とし穴である。東側は655柱穴と重複し、これに先行することを確認している。主軸は北西-南東方向にとる。平面形は梢円形を呈し、長軸105cm、短軸82cm、検出面からの深さは96cmを測る。断面形は「U」字状を呈し、底面付近はややオーバーハングする。埋土は土坑部分で7層に分層でき、黒褐色シルトを主体とする。底面壁際に堆積する暗灰黄色シルト(7層)は地山由来の土壤とみられ、壁面からの崩落土と考える。1層はIV層由来のブロックを比較的多く含む。2~6層にはブロックの混入は少ない。重複する655柱穴の埋土は1層同様、IV層由来のブロックが多く含まれることから、655柱穴掘削時に



第145図 448・464土坑

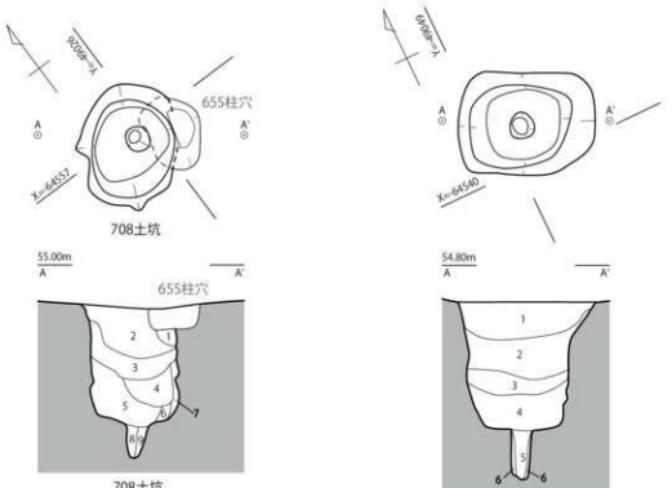
おいて、底面を成形する等の目的のために充填された堆積の可能性もあるが、明確にはできなかった。

底面のほぼ中央には径22cm、底面からの深さ26cmの小ビットが1基存在する。小ビットの埋土は2層に分層でき、小ビット北西側に黒色シルト(8層)、その周囲に明黄褐色シルト(9層)が堆積する。逆茂木など底面に設置された構造物の痕跡の可能性が考えられる。

遺物は出土していない。

818土坑 (第146図、第58表、図版86)

2区6A-4e・5eグリッドにおいて、Ⅲ層上面で検出した落とし穴である。主軸は北西-南東方向にとる。平面形は隅丸方形状を呈し、長軸113cm、短軸83cm、検出面からの深さは105cmを測る。断面形は逆台形状である。埋土は土坑部分で4層に分層でき、上位に黒褐色シルト、最下層に暗灰黄色シルトが堆



708土坑

- 1 IOYR3/1 黒褐色 シルト
(IOYR7/4 にぶい 黄褐色 シルトブロック径0.5~1cm厚。縫り強い)
- 2 IOYR3/2 黒褐色 シルト
(繊維な IOYR7/4 にぶい 黄褐色 シルトブロック縫。縫り強い)
- 3 IOYR3/2 黒褐色 シルト
(IOYR7/4 にぶい 黄褐色 シルトブロック縫縫~径1cm少混。縫り強)
- 4 IOYR3/1 黑褐色 シルト
(IOYR7/4 にぶい 黄褐色 シルトブロック径3mm厚。縫り強)
- 5 IOYR2/2 黑褐色 シルト
(IOYR7/4 にぶい 黄褐色 シルトブロック径0.3~1.5cm厚。縫り強)
- 6 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(IOYR7/4 にぶい 黄褐色 シルトブロック径5mm少混。縫りやや強)
- 7 2.5Y4/2 喀灰黄色 シルト
(IOYR7/4 にぶい 黄褐色 シルトブロック径3~5mm多混。縫りやや弱)
- 8 IOYR1.7/1 黑色 シルト
(粘性強)
- 9 IOYR6/6 明黄褐色 シルト
(IOYR1.7/1 黑色 シルトが斑状に混。粘性強)

818土坑

- 1 2.5Y3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい 黄色 シルトブロック縫縫~径5mm厚。縫りやや弱)
- 2 IOYR3/2 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい 黄色 シルトブロック縫縫~径5mm厚。縫りやや弱)
- 3 IOYR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい 黄色 シルトブロック縫縫~径5mm厚。縫りやや弱)
- 4 2.5Y4/2 喀灰黄色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい 黄色 シルトブロック径3~5mm多混。縫りやや弱)
- 5 IOYR3/1 黑褐色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい 黄色 シルトブロック径3~5mm厚。縫り弱)
- 6 2.5Y4/2 喀灰黄色 シルト
(2.5Y6/4 にぶい 黄色 シルトブロック径0.3~1cm厚。縫りやや強)



第146図 708・818土坑

積する。

底面のほぼ中央には径20cm、底面からの深さ40cmの小ピットが1基存在する。小ピットの埋土は2層に分層でき、小ピット中央に黒褐色シルト(5層)、その周囲に暗灰黄色シルト(6層)が堆積する。逆茂木など底面に設置された構造物の痕跡の可能性が考えられる。

遺物は出土していない。

400土坑（第147図、第58表、図版87）

3区7A-2dグリッドにおいて、VII層上面で検出した落とし穴である。東西方向に主軸をとる。平面形は隅丸方形を呈し、長軸114cm、短軸84cmを測る。断面形は逆台形で、検出面からの深さは72cmである。底面のほぼ中央はやや窪み(10層)、その中に径7~14cm、底面からの深さ10~20cm程度の小ピットが4基存在する。埋土は土坑部分で8層に分層でき、黒褐色シルトを主体とする。小ピットは黒色シルトの単層である。

遺物は出土していない。

402土坑（第147図、第58表、図版87）

3区7A-2dグリッドにおいて、VII層上面で検出した落とし穴である。東西方向に主軸をとる。平面形は不整円形を呈し、長軸75cm、短軸65cmを測る。断面形は箱形で、検出面からの深さは67cmである。底面の南東寄りに径16cm、深さ約23cmの小ピットが1基存在する。埋土は土坑部分で4層、小ピットで1層に分層でき、黒色及び黒褐色シルトを主体とする。

遺物は出土していない。

403土坑（第147図、第58表、図版87）

3区7A-3eグリッドにおいて、VII層上面で検出した落とし穴である。北東-南西方向に主軸をとる。本遺構北西側で404土坑を切る。平面形は隅丸長方形を呈し、長軸97cm、短軸83cmを測る。断面形は箱形で、検出面からの深さは142cmである。土坑部分の埋土は6層に分層でき、黒褐色シルトを主体とする。底面の中心には約20cm、深さ45cmの小ピットが1基存在する。埋土は地山由来のブロックを含む黒褐色シルトが堆積する。

遺物は出土していない。

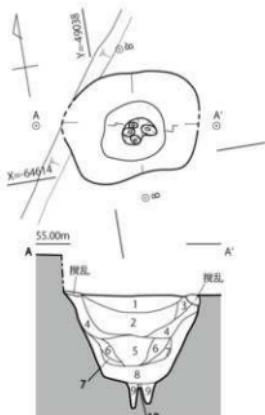
404土坑（第147図、第58表、図版87）

3区7A-3eグリッドにおいて、VII層上面で検出した土坑である。本遺構北西側が調査区外となり、南東側を403土坑に切られるため、抽出できる情報が少ない。

平面形は梢円形を呈すものとみられ、長軸残存65cmを測る。埋土は4層に分層でき、黒褐色シルトを主体とする。

遺物は出土していない。

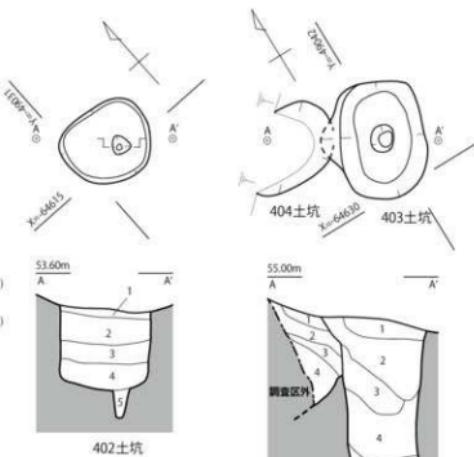
なお、本遺構は403土坑と重複し、平面的な規模も類似することから、落とし穴と想定している。



- 400 土坑
- 1 2.5Y3/1 黒褐色 シルト (粘性やや弱い)
 - 2 2.5Y2/1 黒色 シルト (粘性やや弱い)
 - 3 2.5Y3/1 黒褐色 シルト (粘性やや弱い)
 - 4 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (粘性やや強い) 10YR6/6 明黄褐色 シルトが斑状に混. 粘性弱い)
 - 5 2.5Y3/2 黑褐色 シルト (粘性強い) 10YR6/6 明黄褐色 シルトブロック径 5mm 僅かに混. 粘性弱い)
 - 6 7.5YR5/6 明褐色 シルト (粘性強い)
 - 7 10YR6/6 明黄褐色 シルト (粘性強い)
 - 8 10YR2/3 黑褐色 シルト (粘性やや強い) 10YR4/3 に示す黄褐色 シルトが斑状に混. 粘性強い。特に上部に多量)
 - 9 10YR2/1 黒色 シルト
 - 10 7.5YR5/6 明褐色 シルト

402 土坑

- 1 10YR2/1 黒色 シルト (粘性やや強い)
- 2 7.5YR7/4 に示す褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 3cm. 粘性弱い。
- 3 7.5YR6/8 棕色 シルトブロック径 0.5 ~ 2cm. 粘性弱い。
- 4 10YR6/6 明黄褐色 シルトブロック径 0.5 ~ 1cm 多量。 粘性弱い。
- 5 10YR2/1 黑褐色 シルト (粘性強い)
- 6 7.5YR7/4 に示す褐色 シルトブロック径 1 ~ 5cm. 粘性弱い。
- 7 10YR6/6 明黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 6cm. 粘性弱い。多量)
- 8 10YR2/1 黑褐色 シルト (粘性強い)
- 9 7.5YR6/8 棕色 シルトブロック径 1 ~ 4cm. 粘性弱い。
- 10 10YR6/6 明黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 15cm. 粘性弱い。多量)
- 11 10YR2/1 黑褐色 シルト (粘性やや強い)
- 12 10YR6/6 明黄褐色 シルトブロック径 5 ~ 15cm. 粘性弱い。多量)
- 13 10YR2/1 黑褐色 シルト (10YR6/6 明黄褐色 シルトが斑状に混. 粘性弱い。)



403 土坑

- 1 10YR3/2 黑褐色 シルト (粘性弱い) 10YR6/6 明黄褐色 シルトが径 1 ~ 2cm の斑状に混. 粘性弱い)
- 2 10YR4/2 明黄褐色 シルト (粘性弱い) 10YR6/6 明黄褐色 シルトが径 1 ~ 2cm の斑状に混. 粘性弱い)
- 3 10YR3/2 黑褐色 シルト (粘性やや強い) 10YR5/6 黄褐色 シルトが径 1 ~ 2cm の斑状に混)
- 4 10YR2/3 黑褐色 シルト (粘性やや強い)
- 5 10YR3/3 黄褐色 シルト (粘性やや強い)
- 6 10YR3/2 黑褐色 シルト (粘性やや強い)
- 7 10YR2/3 黑褐色 シルト (粘性やや強い) 10YR6/6 明黄褐色 シルト多量に混. 粘性やや強い)

404 土坑

- 1 10YR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや強い) 10YR5/6 黄褐色 シルトブロック径 10cm が一部に混. 粘性弱い)
- 2 10YR3/2 黑褐色 シルト (粘性やや強い) 10YR5/6 黄褐色 シルトブロック径 1 ~ 8cm がまれに混. 粘性弱い)
- 3 10YR3/2 黑褐色 シルト (粘性やや強い)
- 4 10YR3/1 黑褐色 シルト (粘性やや強い)

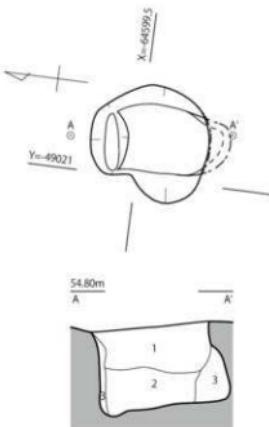


第147図 400・402~404土坑

733土坑（第148図、第58表）

3区6A-10c、7A-1cグリッドにおいて、VII層上面で検出した落とし穴である。南北方向に主軸をとる。平面形は不整円形を呈し、長軸97cm、短軸96cmを測る。断面形は箱形であるが、南側の底面部分が張り出す。検出面からの深さは66cmである。埋土は3層に分層でき、黒色と黒褐色シルトを主体とする。

遺物は出土していない。



401土坑（第149図、第58表）

3区7A-2dグリッドにおいて、VII層上面で検出した土坑である。北西-南東方向に主軸をとる。平面形は不整な円形を呈し、長軸135cm、短軸93cmを測る。検出面からの深さは最深25cmであり、底面レベルは一定しない。埋土は地山のブロックを多く含む黒褐色シルトであり、人為的に埋め戻された堆積とみられる。遺物は出土していない。

なお、本遺構周辺は搅乱により著しく地形が変化している。本遺構もその搅乱の一部である可能性もあるが、明確な根拠を持たないことから、遺構として報告する。

875土坑（第149図、第58表）

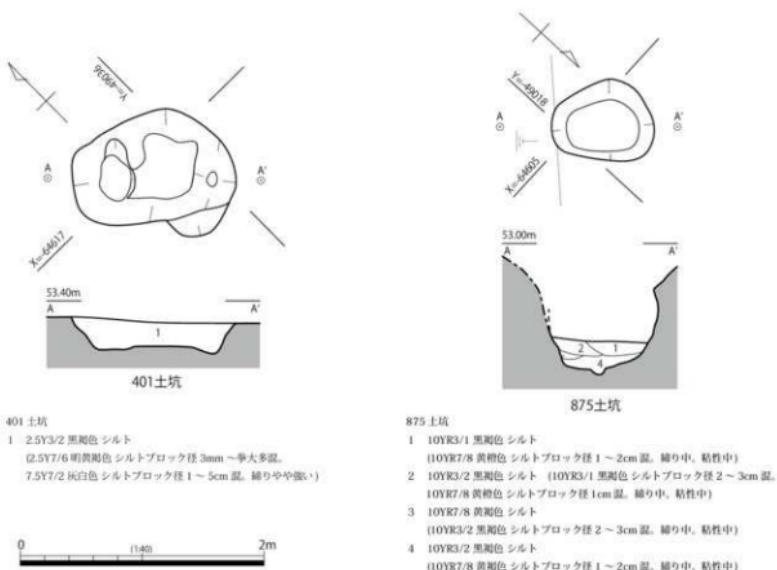
3区7A-1bグリッドにおいて、VII層上面で検出した土坑である。北西-南東方向に主軸をとる。平面形は不整な梢円形を呈し、長軸84cm、短軸68cmを測る。断面形は袋形で、検出面からの深さは65cmである。埋土は4層に分層でき、黄褐色シルトブロックを含む黒褐色シルトを主体とする。

遺物は出土していない。

第148図 733土坑

第58表 土坑遺構計測表（落とし穴等）

No.	地区 T6S-Sp	調査区	規格 (cm)			調査時 遺構名	備考
			長軸	短軸	厚さ		
400上	7A-2d	2区	114	84	72	S400	小ピットを複数、群14区3-20と群7-30群5-10群6の3系が同時に配置される。
401上	7A-2d	3区	135	93	25	S401	
402上	7A-2d	3区	25	65	67	S402	小ピットを複数、群16区5-23
403上	7A-3e	3区	97	83	142	S403	小ピットを複数、群20区5-45
404上	7A-3e	3区	65.1±1.1	62	72	S404	403上と同じく、大部分は調査区外
405上	6A-7c	2区	103	73	107	S405	小ピットを複数、中央に群22区3-21と群7-12群5-10群6の3系が配置される。
406上	6A-7c	2区	178	127	161	S406	小ピットを複数、中央に群14区5-11と群7-10群5-10群6が7系共に配置される。
701上	6A-6c	2区	105	82	96	S701	小ピットを複数、群22区5-26
723上	6A-10c, 7A-4c	3区	97	96	66	S723	
808上	6A-4c-5e	2区	113	83	105	S808	小ピットを複数、群20区5-40
809上	7A-4b	3区	84	68	65	S809	



第149図 401・875土坑

第3項 遺構外出土遺物

本項では1・3区において検出した包含層(I層)から出土した遺物、1~3区の表土、搅乱土等から出土した遺物について記述する。7世紀から9世紀に帰属する土師器・須恵器を主体とし、移動式竈や土製支脚といった土製品のほか、石器、貨幣などが出土している。また、祭祀遺物である土馬の破片9点が出土し、注目される。

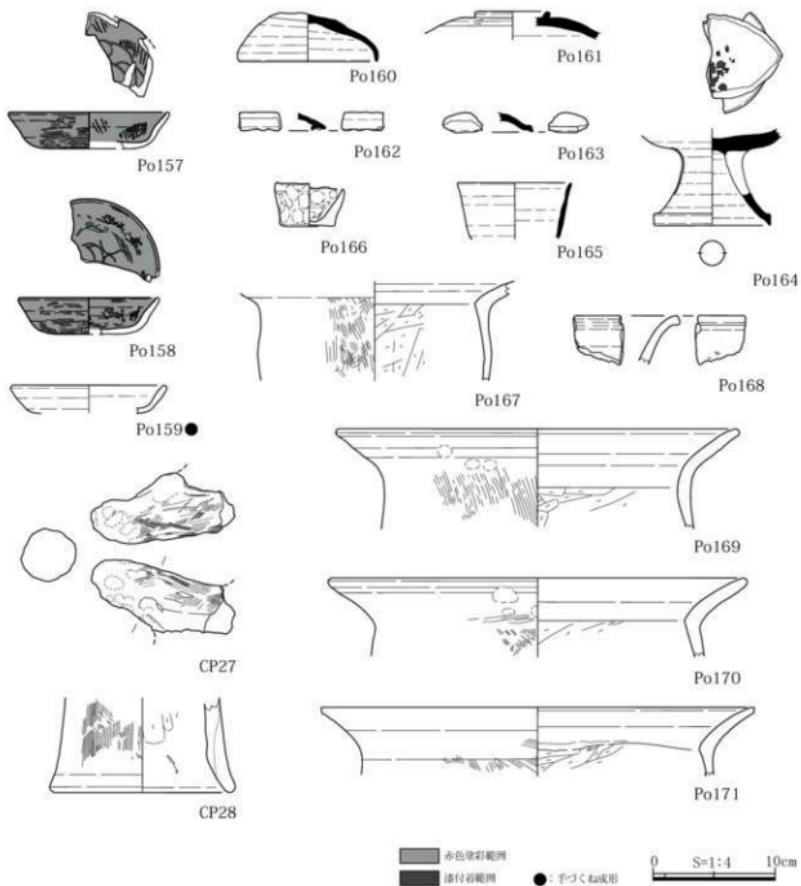
I層出土土器・土製品（第150図、第63・64・67表、図版103~105・111）

I層は1・3区に堆積する遺物包含層である（第3章第2節）。7~9世紀代の遺物を主体とし、13世紀中頃までの遺物を包含する。

I層より出土したPo157~171・CP27・28を図化した。Po160は3区より出土し、その他のものについては、すべて1区より出土している。

Po157・158は赤色塗彩された土師器坏である。平坦な底部から外上方に開く口縁部をもつ。内外面に丁寧なミガキを施し、内面には放射暗文と螺旋暗文がみられる。7世紀末から8世紀初めに位置付けられる。Po159は手づくね成形の土師器坏であり、13世紀中頃に比定される。

Po160~165は須恵器である。Po160は天井部から端部が大きく内湾する蓋坏で、7世紀中頃から後半頃か。Po161は輪状つまみをもつ蓋坏であり、天井部にヘラケズリ痕を残す。Po162・163は蓋の端部で、前者はかえりをもち、後者は端部が下方へわずかに折れ曲がる。Po164は高坏の坏部から脚部で、

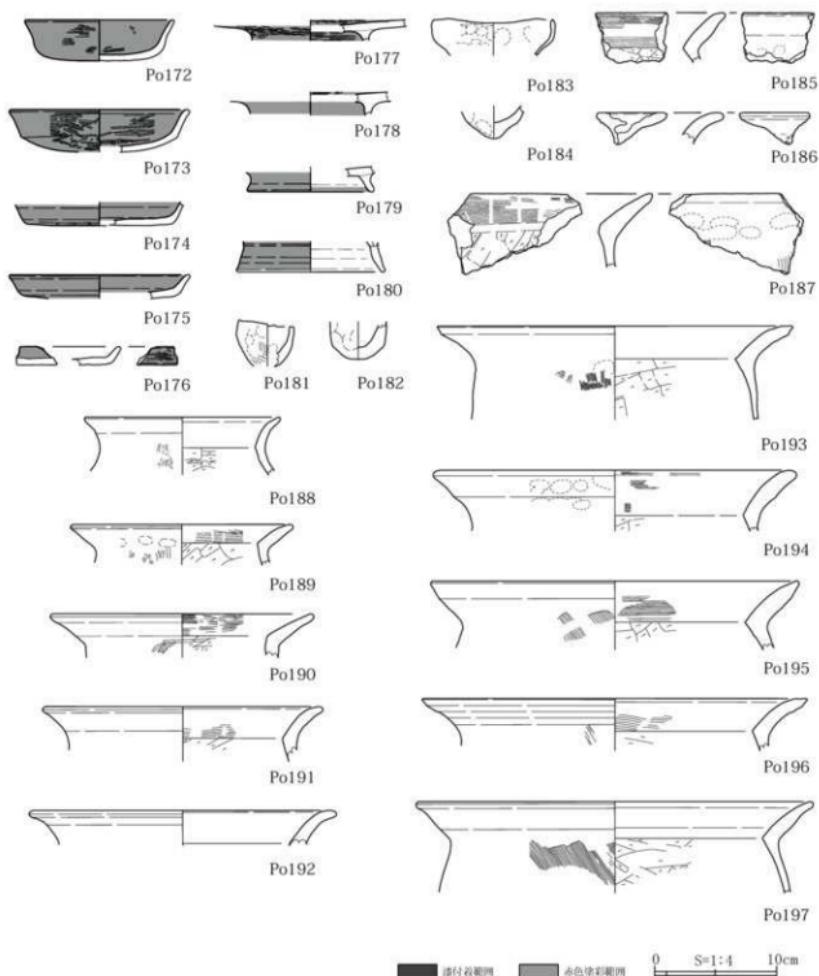


第150図 I層出土土師器・須恵器・土製品

脚部には透かし孔がみられる。坏部内面に漆が付着している。7世紀末から8世紀前半に比定される。Po165は平瓶の口縁部で7世紀代。

Po166はミニチュア土器である。平坦な底部から直線的に立ち上がる器形で、内外面に指オサエの痕跡が顕著に残る。内面には黒色の付着物がある。Po167~171は土師器壺である。いずれも口縁部が「く」の字状に大きく外反し、体部外面はハケ、内面はヘラケズリを施す。

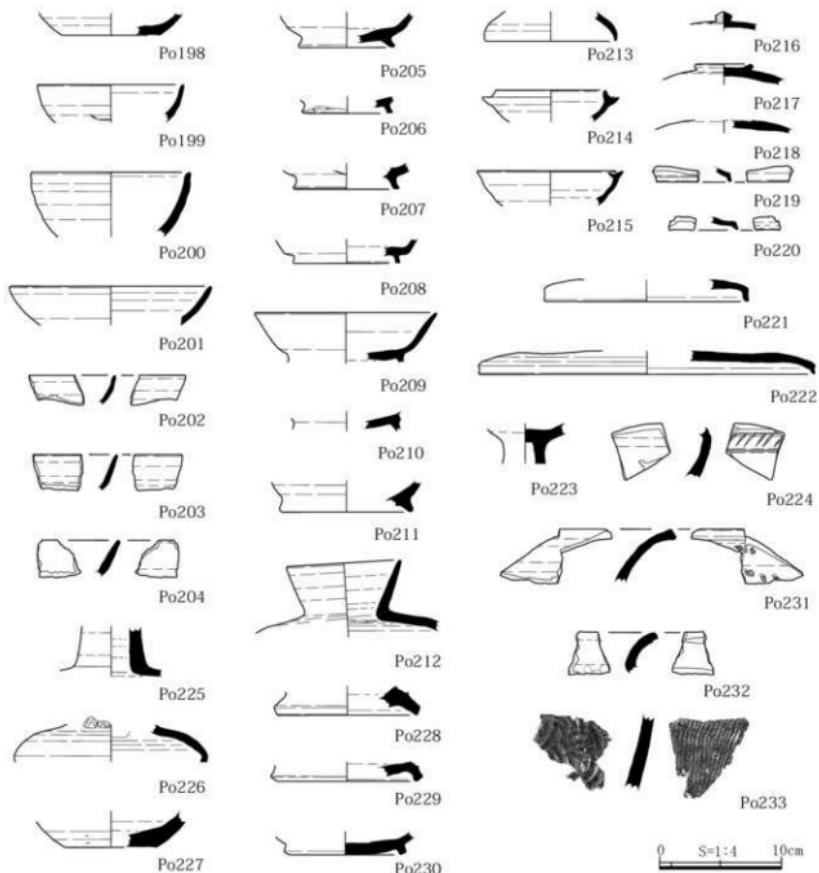
CP27・28は土製支脚である。前者は突起で表面にハケ調整を残す。後者は脚部であり、端部は大きく開かない。



第151図 1区出土土師器

調査区内出土土器・土製品・石器・貨幣（第151～159図、第64～69・71表、図版104～113）

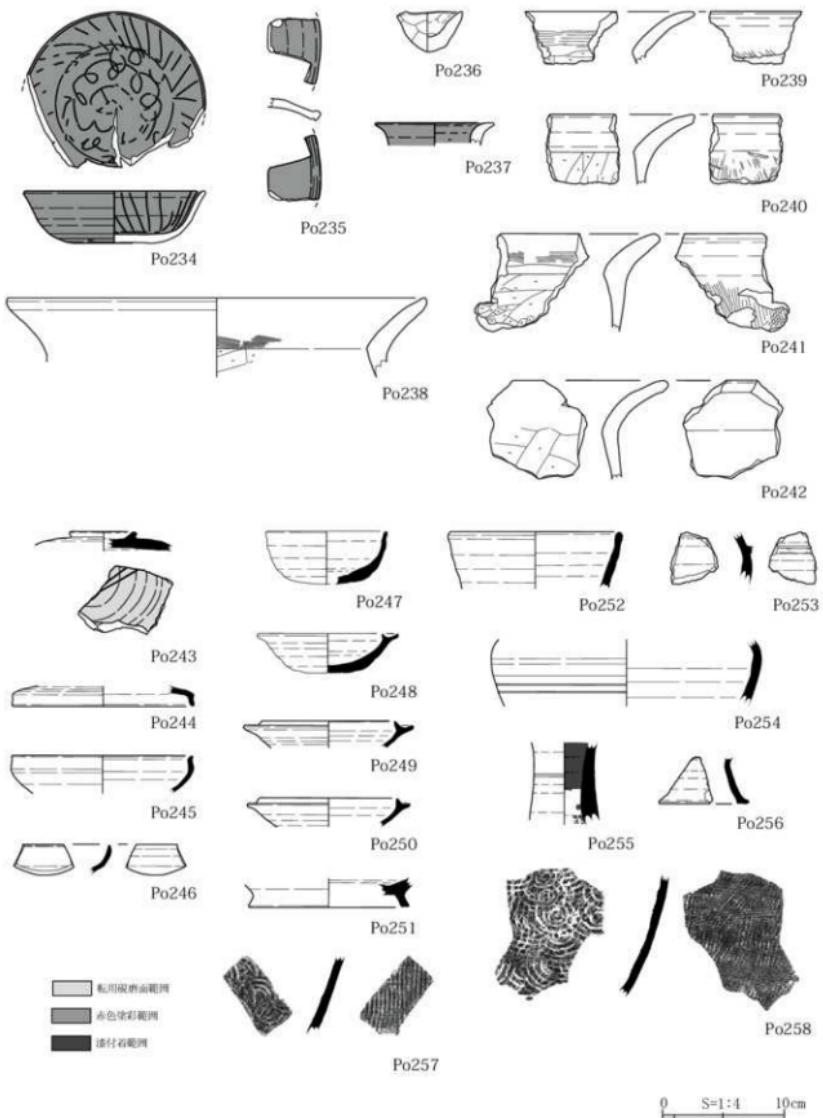
表土・搅乱土等から出土したPo172～272、CP29～55、S 3～8、Br 1・2を図化した。1区から出土した遺物は第151・152・155・157～159図、2区出土遺物は第153・156～159図、3区出土遺物は第154・156図に掲載した。



第152図 1区出土須恵器

1区出土土器について記述する(第151・152図)。Po172~180は赤彩土師器である。Po172は比較的平坦な底部から内湾気味に口縁部が立ち上がり端部は外反する壺。Po173はやや丸みを帯びた底部から内湾気味に口縁部が立ち上がり端部は外反する壺である。内外面とも丁寧にミガキ調整が施される。Po174は平坦な底部から外上方に伸びる体部をもつ壺である。Po175・176は皿、Po177・178は高台付皿、Po179・180は高台付皿または壺である。Po175・176は平坦な底部から短い口縁部が外反する。Po179は高台が低く、Po180は高台部が広く高い。以上は、8世紀中頃から後半に比定される。

Po181・182は手づくね成形のミニチュア土器である。Po183・184は薄い器壁に指オサエ痕が顕著に残る製塩土器の口縁部と底部である。Po185~197は土師器の壺である。Po188を除き、「く」の字



第153図 2区出土土師器・須恵器

状に口縁部が大きく外反する。

Po198は須恵器の坏、Po199～211は須恵器の坏及び高台付坏である。Po199～202は底部から内湾気味に口縁部が立ち上がる。Po203・204・209は底部から外上方に伸びる体部をもつ。8世紀中頃から9世紀前半に比定されよう。Po212は須恵器平瓶。Po213は須恵器の蓋坏、Po214・215はかえりをもつ坏である。Po213～215は7世紀後半に位置付けられよう。Po216～222は須恵器蓋である。Po216は擬宝珠状つまみ、Po217は輪状つまみをもつ。Po218は輪状つまみが欠損している。Po219～222はかえりをもたず、口縁端部が下方へ折れ曲がっている。7世紀末から8世紀後半に比定されようか。Po223は須恵器高坏の坏部底面から脚柱部。Po224は須恵器體の体部で、沈線間に斜めの刻みを入れる。Po225～230は須恵器壺である。Po225は長頸壺の頸部、Po226は大きく肩の張る体部。Po227～230は底部であり、Po227は無高台、Po228～230は「ハ」の字状の高台が付く。Po231・232は須恵器壺の口縁部。Po233は須恵器壺の体部であり、外面は平行タタキ、内面に同心円状當て具痕を残す。

2区出土土器について記述する(第153図)。Po234～242は土師器である。Po234は平坦な底部から外上方に開く口縁部をもつ坏である。内外面に赤色塗彩がなされ丁寧なミガキを施し、内面には放射暗文と螺旋暗文がみられる。7世紀末から8世紀初めに位置付けられる。Po235は須恵器を模倣した蓋で、口縁端部が下方わずかに折れ曲がる。内外面に赤色塗彩がなされている。

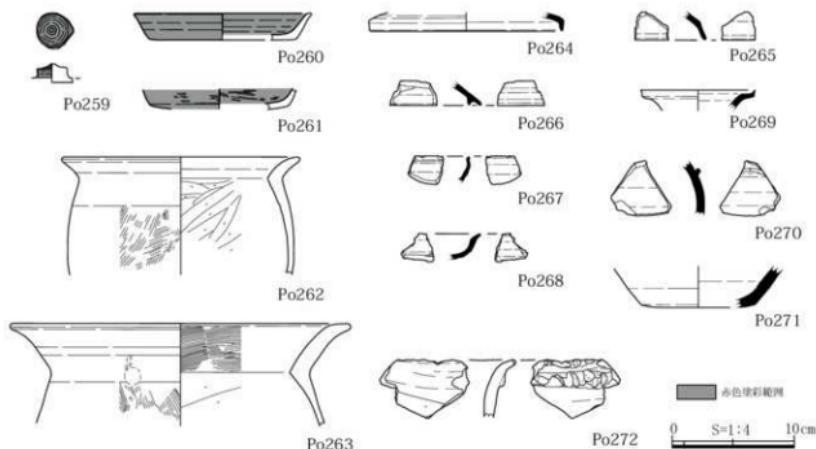
Po236・237はミニチュア土器であり、前者は手づくね成形、後者は輪積成形で内外面に赤色塗彩がみられる。Po238～242は壺である。口縁部は内外面ナデ調整を施すものが一般的であるが、Po239・241のように内面にわずかにハケ調整が残るものがある。体部外面はハケ、内面はケズリ調整を施す。

Po243～258は須恵器をまとめている。Po243は輪状つまみをもつ蓋で、内面は硯として転用されている。Po244は口縁端部が下方に折れ曲がる蓋である。Po245～251は坏に該当する。Po245は底部から内湾気味に口縁部が立ち上がり端部は外反する。Po246は体部が内湾しながら口縁部へ立ち上がる坏。Po247は深底で体部から口縁部が直線的に立ち上がる。Po248～250はかえりをもつ坏である。Po247～250は7世紀代に位置付けられよう。Po251は高台付盤か。Po252は直口壺の口縁部、Po253・254は壺の体部である。前者は体部に突帯がめぐることから、播磨系須恵器であろう。Po255は壺の頭部であり、内面に漆が付着する。Po256は高坏脚部である。Po257・258は壺の体部であり、前者は体部外面が平行タタキ、後者は平行タタキ後カキメを入れる。

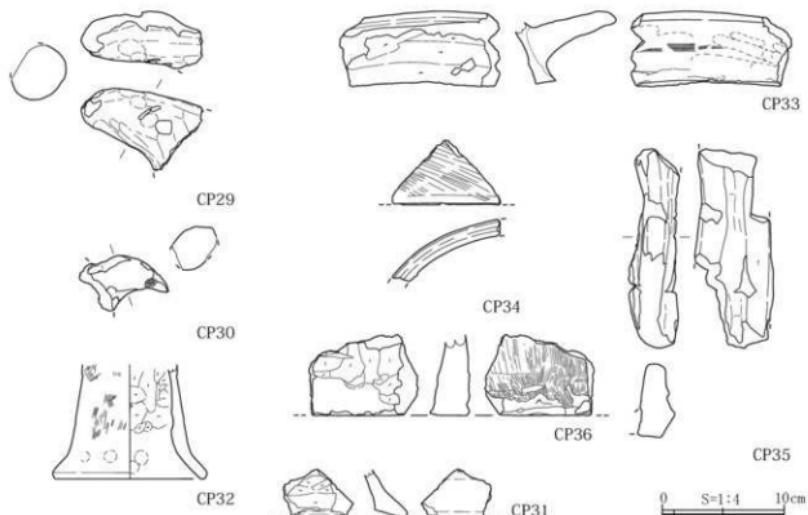
3区出土土器について記述する(第154図)。Po259～261は赤彩土師器である。Po259は蓋の擬宝珠状つまみ。Po260は平坦な底部から短い口縁部が外反する皿である。Po261はやや丸みを帯びた底部から内湾気味に口縁部が立ち上がる坏である。

Po262・263は土師器壺である。前者は口縁部内面がヨコナデ調整であるが、後者はハケ調整を施す。

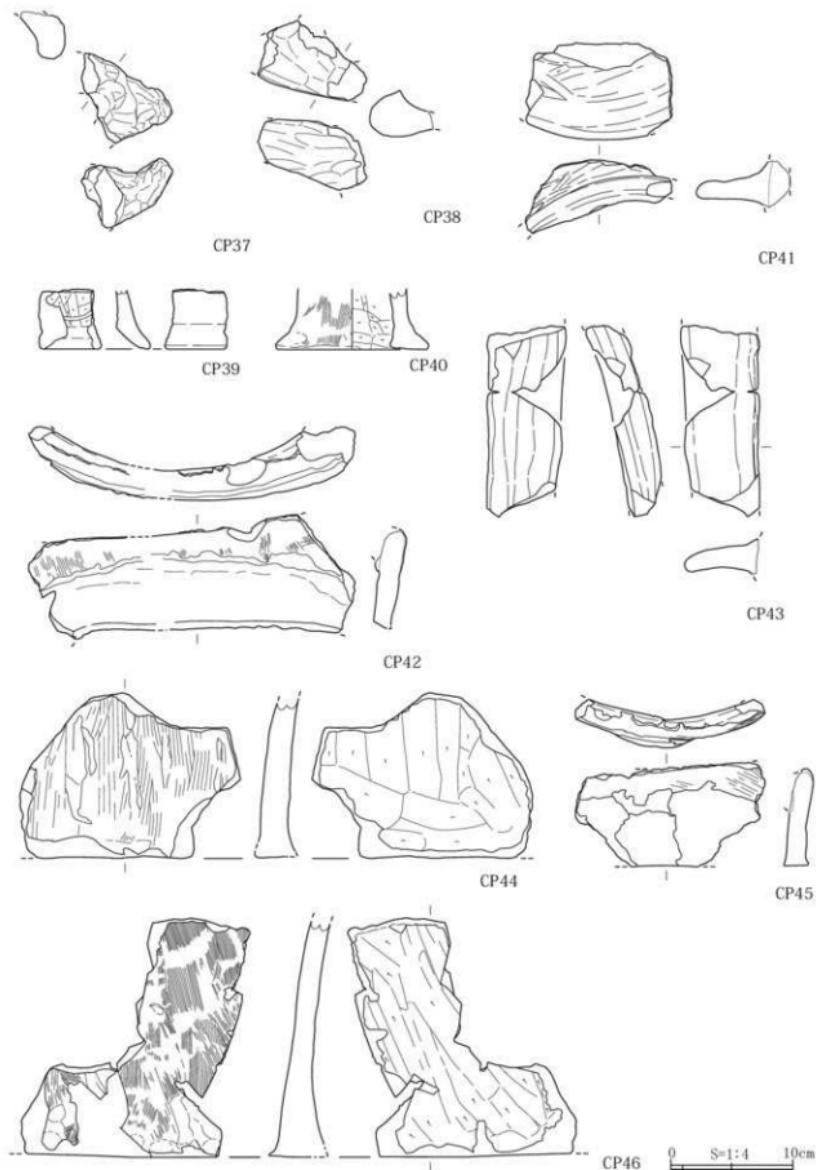
Po264～271は須恵器をまとめている。Po264～266は蓋であり、Po264は口縁端部が下方へ折れ曲がる。Po265は蓋坏の口縁部、Po266はかえりをもつ。Po267・268は坏であり、底部から内湾気味に口縁部が立ち上がり端部は外反する。Po269は長頸壺の口縁部。Po270は壺の体部で突帯がめぐる。Po271は壺の底部である。



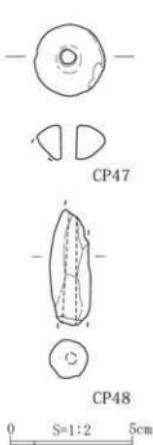
第154図 3区出土土師器・須恵器・弥生土器



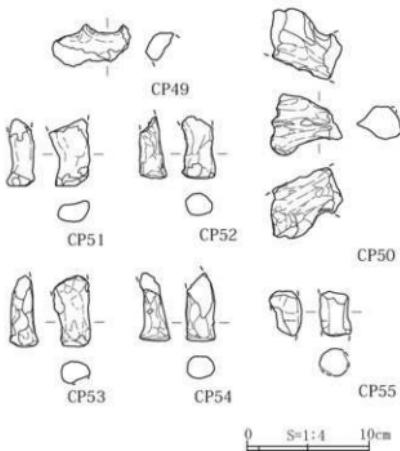
第155図 1区出土土製品



第156図 2・3区出土土製品



第157図 1・2区出土土製品



第158図 1・2区出土土馬

Po272は外反する口縁部をもち、頭部に刻みを施した粘土紐を貼り付ける弥生時代中期の甕である。1区出土土製品について記述する(第155図)。CP29~32は土製支脚である。CP29・30は角状を呈する突起で表面にはヘラによるナデ調整を施す。CP31・32は中空の脚部で裾部が大きく開く。後者は外面がハケ、内面は上半がヘラケズリ、下半はナデ調整が施され指ササ工痕跡を残す。

CP33~36は移動式甕である。CP33は焚口上面の底で表面はハケ調整後、ナデを施す。CP34~36は本体の裾部であり、外面はハケ、内面はヘラケズリ調整を施している。CP35は焚口脇の鉗状の底である。表面は粗いナデ調整を施している。

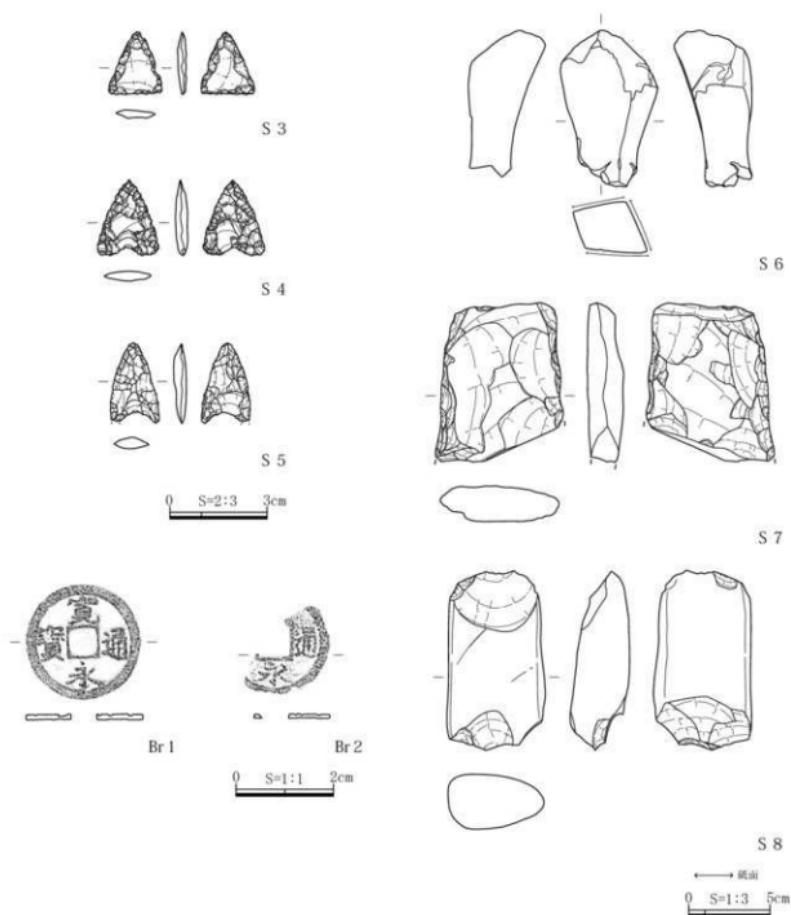
2・3区出土土製品について記述する(第156図)。CP37~40は土製支脚である。CP37・38は角状の突起であり、表面はヘラによる粗いナデ調整を施し、頂部には円孔を穿つ。岩橋分類III-C類に相当するものと考える(岩橋2010)。CP39・40は脚部で、前者の脚裾内面は斜め方向に面をもち底面は着地しないが、後者は脚裾内面が底面まで伸びる。

CP41~46は移動式甕である。CP41は焚口上部の底、CP42・45は掛口で焚口上部の底が剥落している。いずれも表面はヘラによる粗いナデが施され、面を形成する。CP43は焚口側部の底。CP44・46は本体の裾部であり、表面はハケ、内面は下から上へ向けてヘラケズリが施される。

1・2区出土土製品について記述する(第157図)。CP47はソロバン玉状を呈する土製品で、中央は穿孔されている。土鍤であろうか。CP48は紡錘形の土鍤である。器面は丁寧にナデが施される。

1・2区出土の土馬9点のうち、小片を除く7点(CP49~55)を図化した。以下、CP49~55について記述する(第158図)。CP49は胴部片で鞍が表現されている。CP50は頭部から胸部の破片でたてがみの表現がみられる。CP51~55は脚部である。

1・2区出土石器について記述する(第159図)。S3~5は石鏃である。S3は無斑晶安山岩製の



第159図 1・2区出土石器・貨幣

平基無茎式であり、押圧剥離による成形がなされ、表裏面に素材の剥離面を残す。S 4・5は凹基無茎式であり、押圧剥離によって成形がなされる。前者の素材は黒曜石、後者は無斑晶安山岩である。S 6は凝灰岩製の摺形砥石。砥面は3面。S 7は安山岩製の石鉗で刃部が欠損している。S 8は安山岩製の磨製石斧で基部と刃部が欠損している。

1区出土貨幣について記述する(第159図)。Br 1・2は寛永通宝で、後者は半分ほど欠失している。

第4節 遺物觀察表

第59表 土器觀察表（1）

遺物 番号	所蔵 番号	測定 番号	測定 区 域	測定 点 番 号	東北道遺物 名	高井町 遺物名	組合 番号	器種	位置 (cm)			形態 (漢字等)	断土 構成	色調	備考	
									表面	10cm	面積					
Pv.1	27	92	1	319	6A-4c	豊六遺物 1	7286	灰土	須世郡 井	△40	Φ33.1	—	内外面とも陶軋目	表 外曲・灰褐色 内曲・灰白色		
Pv.2	31	88	2	283	6A-5c	豊六遺物 3	5465	灰土	上端部 裏	△22	Φ12	—	内曲・縦ナギ・横ナギ 内曲・縦ナギ・横ナギ	表 内曲・灰褐色 内曲・灰褐色・白	外曲側付着	
Pv.3	31	88	2	290	6A-5c	豊六遺物 3	5465	1層 高台付近	△1.1	—	Φ4.4	内外面とも横ナギ	表 内曲・縦ナギ・横ナギ 内曲・灰褐色・褐灰色	外曲側付着		
Pv.4	31	88	2	314	6A-5c	豊六遺物 3	5465	2層	上端部 裏	△46	—	内曲・縦ナギ・横ナギ 内曲・縦ナギ・横ナギ	表 内曲・灰褐色・褐灰色 内曲・灰褐色・褐灰色			
Pv.5	31	88	2	321	6A-5c	豊六遺物 3	5465	2層	上端部 裏	△58	Φ22.7	—	外曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ 内曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ	表 外曲・縦・横・にぶい 内曲・縦・横・にぶい 灰褐色・褐灰色		
Pv.6	31	88	2	337	6A-5c	豊六遺物 3	5465	2層	上端部 裏	△54	Φ34.5	—	内曲・縦ナギ・ハリ 内曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ	表 内曲・灰褐色 内曲・にぶい・符色・褐灰色	外曲側付着	
Pv.7	31	88	2	282	6A-5c	豊六遺物 3	5465	灰土 灰土	須世郡 井	△33	Φ11.2	—	内曲・縦ナギ・ハリ 内曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ	表 内曲・灰褐色 内曲・灰褐色		
Pv.8	31	88	2	286	6A-5c	豊六遺物 3	5465	灰土 灰土	須世郡 井	△40	Φ10.0	—	内外面とも回転ナギ	表 内曲・灰褐色		
Pv.9	31	88	2	213	6A-5c	豊六遺物 3	5465	2層	須世郡 井	△45	—	内曲・平行ナギ・ナギ 内曲・同心円状の凹凸で長束・ ナギ	表 内曲・灰褐色 内曲・灰褐色			
Pv.10	31	88	2	302	6A-5c	豊六遺物 3	5465	2層	須世郡 井	△39	—	内曲・平行ナギ・ナギ 内曲・同心円状の凹凸で長束・ ナギ	表 内曲・灰褐色 内曲・灰褐色			
Pv.11	31	88	2	413	6A-4c	豊六遺物 4	5636	1層	土器部 跡	△59	Φ11.2	—	外曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ 内曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ	表 内曲・灰褐色 内曲・回転ナギ		
Pv.12	31	88	2	411	6A-4c	豊六遺物 4	5636	3層 (底床)	上端部 裏	△45	—	—	内外面とも横ナギ	表 内曲・灰褐色 内曲・灰褐色		
Pv.13	31	88	2	409	6A-4c	豊六遺物 4	5636	1層	須世郡 井	△16	—	—	内外面とも回転ナギ	表 内曲・灰褐色 内曲・灰褐色		
Pv.14	31	88	2	388	6A-4c	豊六遺物 4	5636	灰土	須世郡 井付近	△31	Φ35.6	—	内外面とも回転ナギ	表 内曲・灰褐色 内曲・灰褐色		
Pv.15	31	88	2	408	6A-4c	豊六遺物 4	5636	1層	須世郡 井	△25	—	#9.2	内外面とも回転ナギ	表 内曲・灰褐色 内曲・灰褐色	透かしあり	
Pv.16	36	90	2	261	6A-6d・6e	豊六遺物 5	5637	灰土 灰土	須世郡 井	66	17.9	—	外曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ 内曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ・底部鉢文・一部ハリ残る	表 外曲・灰褐色・褐褐色 内曲・灰褐色		
Pv.17	36	90	2	272	6A-6d・6e	豊六遺物 5	5637	灰土 灰土	須世郡 井	23	—	—	内曲・つまみ回転ナギ・体 部鉢文・ハリ残す 内曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ	表 内曲とも灰褐色	基部約10.4cm	
Pv.18	36	90	2	668	6A-6d・6e	豊六遺物 5	5637	灰土 灰土	須世郡 井	△36	—	—	外曲・回転ナギ・底部鉢文 内曲・回転ナギ	表 外曲・灰褐色・16.0cm 内曲・灰褐色・黒褐色	基部約14.1cm	
Pv.19	36	90	2	615	6A-6d・6e	豊六遺物 5	5637	1層	須世郡 井	△16	Φ30.3	—	内外面とも回転ナギ	表 内曲とも灰褐色		
Pv.20	36	90	2	555	6A-6d・6e	豊六遺物 5	5637	直底 1層	須世郡 井	38	9.0	3.8	外曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ残す 内曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ	表 内曲とも灰褐色		
Pv.21	36	90	2	575	6A-6d・6e	豊六遺物 5	5637	直底	須世郡 井	△33	9.1	—	内曲・上・下回転ナギ・下ナギ 内曲・上半回転ナギ・下半回 転ナギ	表 内曲・灰褐色・灰オーラー色 内曲・灰褐色		
Pv.22	36	91	2	433	6A-6d・6e	豊六遺物 5	5637	1層	土器部 跡	△21	—	—	外曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ 内曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ	表 内曲・灰褐色・にぶい 内曲・灰褐色・にぶい・黄褐色		
Pv.23	36	91	2	600	6A-6d・6e	豊六遺物 5	5637	直底	土器部 跡	△26	Φ20.7	—	内曲・縦ナギ・横ナギ・ナギ 内曲・縦ナギ・横ナギ	表 内曲ともにいぶい 内曲・灰褐色	外曲側付着	
Pv.24	36	91	2	599	6A-6d・6e	豊六遺物 5	5637	直底	土器部 跡	△12	Φ25.5	—	外曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ 内曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ	表 内曲・灰褐色 内曲・灰褐色・にぶい・黄褐色		
Pv.25	36	91	2	626	6A-6d・6e	豊六遺物 5	5637	灰土 灰土 灰土 2層	須世郡 井	△30.7	Φ25.3	—	外曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ 内曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ	表 内曲とも灰褐色 内曲・灰褐色・にぶい・黄褐色	外曲側付着	
Pv.26	36	91	2	424	6A-6d・6e	豊六遺物 5	5637	1層 1層 灰土	上端部 裏	△55	Φ30.0	—	外曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ 内曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ	表 内曲ともと灰褐色	外曲側付着	
Pv.27	36	91	2	430	6A-6d・6e	豊六遺物 5	5637	1層	土器部 跡	△56	Φ31.2	—	外曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ 内曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ	表 内曲ともにいぶい 内曲・灰褐色	外曲側付着	
Pv.28	36	91	2	390	6A-6d・6e	豊六遺物 5	5637	直底	土器部 跡	△33.6	Φ30.9	—	外曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ 内曲・口縫部横ナギ・体部ハ リ	表 内曲・灰褐色 内曲・灰褐色	外曲側付着	

第60表 土器観察表(2)

遺物 番号	種類 番号	国別 番号	施主 番号	地区 名	出土 場所 名	集合遺物名 別個遺物名	測定者 遺物名	規格 寸法	断面 形態	測量 (cm)			形状 (箇数等)	出土 状況	孔溝	備考				
										測量 (cm)										
										高さ	横幅	底辺								
Pn29	49	91	1	52	7A-H	陶立柱建物2 P-10	17.5×3.5	円筒形	土器部 底	△26	■12.0	-	外周：上端周縁部斜面。下 半分：チリサギ、内側 内底：斜面	良好	外周：赤褐色 内底：明黄色	内外面とも赤 色地質				
Pn30	43	93	1	256	6A-10H	陶立柱建物3 P-10	81.5×3.5	圓筒形	土器部 底	△22	-	-	外周：斜面アラクシオザギ、底端 内底：斜面アラクシオザギ	良好	外周：赤褐色 内底：明黄色～灰褐色	内外面とも赤 色地質				
Pn31	45	93	1	251	6A-9H	陶立柱建物4 P-20	96.5×3.5	圓筒形	土器部 底	△20	-	-	外周：斜面アラクシオザギ 内底：斜面アラクシオザギ	良好	外周：赤褐色 内底：明黄色	内外面とも赤 色地質				
Pn32	45	93	1	251	6A-9H	陶立柱建物4 P-20	96.5×3.5	圓筒形	土器部 底	△20	-	-	外周面と内底面 内底：斜面アラクシオザギ	良好	外周：浅黄色～灰褐色 内底：明黄色	内外面とも赤 色地質、内側 に瓦質有				
Pn33	45	93	1	259	6A-9H	陶立柱建物4 P-20	83.5×3.5	圓筒形	土器部 底	△28	■12.9	-	外周面とも内底面 内底：斜面アラクシオザギ	良好	外周：浅黄色～灰褐色 内底：明黄色	内外面とも赤 色地質				
Pn34	45	93	1	352	6A-9H	陶立柱建物4 P-7	84.5×3.5	圓筒形	厚壁土器 底	△27	■10.0	-	外周面とも内底面・微ナラエ 内底：斜面アラクシオザギ	良好	外周：赤褐色 内底：明黄色	内外面とも赤 色地質				
Pn35	45	93	1	439	6A-9H	陶立柱建物4 P-6	111.5×3.5	圓筒形	土器部 底	△28	-	-	外周：ハサウエツカサギ 内底：チリサギ、サイリ	良好	外周：灰褐色～灰黃褐色 内底：灰褐色	内外面とも赤 色地質				
Pn36	51	92	1	324	6A-9H	陶立柱建物5 P-24	151.5×3.5	厚陶器 底	直壁器 底	27	12.9	-	外周面と内底面 内底：斜面アラクシオザギ、ナダ 記号	良好	外周面とも内底面	注記有				
Pn37	51	92	1	255	6A-9H	陶立柱建物5 P-10-12	132.5×3.5	圓筒形	厚壁土器 底	△18	■16.0	-	外周面とも内底面 内底：斜面アラクシオザギ	良好	外周：灰褐色～灰黃褐色 内底：灰褐色	外周自然地質 有				
Pn38	51	92	1	230	6A-9H	陶立柱建物5 P-12	131.5×3.5	圓筒形	厚壁器 底	△24	-	■7.8	外周面とも内底面ナダ、ナダ 記号	良好	外周面とも灰褐色	内外面とも灰褐色				
Pn39	51	92	1	331	6A-9H	陶立柱建物5 P-12	131.5×3.5	厚陶器 底	直壁器 底	△19	-	■14.5	外周面とも内底面ナダ	良好	外周面とも灰褐色	内外面とも灰褐色				
Pn40	55	92	1	387	6A-9H	陶立柱建物7 P-18	146.5×3.5	圓筒形	厚壁器 底	△26	-	-	外周面とも内底面ナダ	良好	外周：灰褐色～灰黃褐色 内底：斜面アラクシオザギ	内外面とも灰褐色				
Pn41	55	92	1	200	6A-8H	陶立柱建物7 P-20	159.5×3.5	厚陶器 底	直壁器 底	△28	■9.7	-	外周：直壁器アラクシオザギ 内底：斜面アラクシオザギ	良好	外周面とも灰褐色 内底：斜面アラクシオザギ	内外面とも灰褐色				
Pn42	55	92	1	383	6A-9H	陶立柱建物7 P-6	164.5×3.5	圓筒形	厚壁土器 底	△15	-	■6.2	外周面とも内底面ナダ	良好	外周：灰褐色 内底：灰黃褐色	内外面とも灰褐色				
Pn43	55	92	1	384	6A-9H	陶立柱建物7 P-6	162.5×3.5	圓筒形	厚壁器 底	△25	-	■3.3	外周面とも内底面ナダ 内底：斜面アラクシオザギ	良好	外周：灰褐色 内底：灰褐色	内面に直面の 付着物あり (泥質物質)				
Pn44	55	92	1	452	6A-9H	陶立柱建物7 P-9	165.5×3.5	圓筒形	土器部 底	△19	-	-	外周：チリサギ、ハサウエツカサギ 内底：チリサギ	良好	外周：灰褐色 内底：灰褐色	外周自然地質 有				
Pn45	55	92	1	368	6A-9H	陶立柱建物7 P-3-11	167.5×3.5	圓筒形	土器部 底	△50	-	-	外周：チリサギ、直壁器アラクシオザギ 内底：チリサギ	良好	外周：灰褐色 内底：灰褐色	外周自然地質 有				
Pn46	57	93	1	35	7A-H	陶立柱建物8 P-8	31.5×3.5	圓筒形	土器部 底	△19	-	-	外周：直壁器アラクシオザギ 内底：チリサギ、1.5cm 内底：直壁器アラクシオザギ	良好	外周面とも明赤褐色 内底：明赤褐色	内外面とも赤 色地質				
Pn47	60	93	1	99	7A-3e	陶立柱建物10 P-3	56.5×3.5	圓筒形	土器部 底	△45	-	-	外周：直壁器アラクシオザギ 内底：直壁器アラクシオザギ	良好	外周面とも明赤褐色 内底：明赤褐色	内外面とも赤 色地質				
Pn48	66	93	1	345	6A-8C	陶立柱建物12 P-14	181.5×3.5	圓筒形	土器部 底	△17	-	■11.0	外周：ミラクル、赤褐色 内底：ミラクル	良好	外周面とも明赤褐色 内底：明赤褐色	内外面とも赤 色地質				
Pn49	66	93	1	413	6A-7c	陶立柱建物12 P-7	174.5×3.5	圓筒形	土器部 底	△50	-	■11.0	外周：1.5cm×1.5cm 内底：1.5cm×1.5cm	良好	外周面とも明赤褐色 内底：明赤褐色	内外面とも赤 色地質、西側 斜面有				
Pn50	66	93	1	344	6A-8C	陶立柱建物12 P-4-14	180-181 5.5×3.5	圓筒形	土器部 底	△34	-	-	外周面とも内底面 内底：チリサギ	良好	外周：灰褐色 内底：灰褐色	内外面とも赤 色地質、内側 斜面有				
Pn51	66	93	1	344	6A-8C	陶立柱建物12 P-4-14	180.5×3.5	圓筒形	土器部 底	△21	-	-	外周：チリサギ、1.5cm 内底：チリサギ	良好	外周面とも明赤褐色 内底：明赤褐色	内外面とも赤 色地質、内側 斜面有				
Pn52	66	93	1	343	6A-8C 6A-8e-N	陶立柱建物12 P-6	179.5×3.5	圓筒形	厚壁器 底	△14	-	-	外周面とも内底面ナダ	良好	外周：灰褐色 内底：灰褐色	内外面とも赤 色地質				
Pn53	66	93	1	342	6A-8C	陶立柱建物12 P-5	177.5×3.5	圓筒形	厚壁器 底	△33	-	-	外周：チリサギ、ナダ 内底：チリサギ、ナダ	良好	外周面とも灰褐色	内外面とも灰褐色				
Pn54	66	93	1	310	6A-7c	陶立柱建物12 P-7	174.5×3.5	圓筒形	厚壁器 底	△36	-	-	外周面とも内底面 内底：チリサギ	良好	外周面とも灰褐色	内外面とも灰褐色				
Pn55	69	92	1	402	6A-7d	陶立柱建物14 P-7	223.5×3.5	圓筒形	厚壁器 底	△32	■18.2	-	外周：回転ナダ×1.5cm 内底：チリサギ、1.5cm 内底：チリサギ	良好	外周：灰褐色～灰黃褐色 内底：灰褐色～灰黃褐色	内外面とも灰 色地質				
Pn56	69	92	1	404	6A-7d	陶立柱建物14 P-6	222.5×3.5	圓筒形	厚壁器 底	△29	■18.2	-	外周面とも内底面ナダ	良好	外周面とも灰褐色 内底：灰褐色	内外面とも灰 色地質				
Pn57	69	92	1	399	6A-7d	陶立柱建物14 P-6	222.5×3.5	厚陶器 底	△29	■9.7	-	外周面とも内底面ナダ	良好	外周：灰褐色 内底：灰褐色	内外面とも灰 色地質					
Pn58	73	94	2	798	6A-6d-E	陶立柱建物16 P-6	58.5	厚陶器 底	直壁器 底	△25	-	-	外周：直壁器アラクシオザギ 内底：回転ナダ	良好	外周面とも灰褐色 内底：灰褐色	内外面とも灰 色地質				
Pn59	75	93	1	418	6A-7e	陶立柱建物17 P-24	242.5×3.5	圓筒形	厚壁土器 底	△22	-	-	外周面とも内底面ナダ・微ナラエ 内底：チリサギ	良好	外周面とも灰褐色 内底：灰褐色	内外面とも灰 色地質				
Pn60	79	94	1	111	7A-3e	陶立柱建物19 P-5	53.5×3.5	圓筒形	土器部 底	△35	-	-	外周：微ナラエ・チリサギ 内底：チリサギ、チリサギ、ナダ	良好	外周面とも灰褐色 内底：灰褐色	内外面とも灰 色地質				
Pn61	82	94	2	246	6A-7b-3b	陶立柱建物20 P-3-11	5419-420	圓筒形	厚壁土器 底	△26	-	-	外周：灰褐色～灰黃褐色 内底：灰褐色	良好	外周：灰褐色～灰黃褐色 内底：灰褐色	内外面とも灰 色地質				
Pn62	82	93	1	216	6A-8C	陶立柱建物20 P-10	173.5×3.5	圓筒形	厚壁器 底	△14	-	■13.4	外周面とも内底面ナダ	良好	外周：灰褐色 内底：灰褐色	内外面とも灰 色地質				
Pn63	84	94	2	241	6A-7c	陶立柱建物22 P-24	5437	圓筒形	厚壁器 底	△32	-	-	外周面とも内底面ナダ	良好	外周面とも灰褐色 内底：灰褐色	内外面とも灰 色地質				
Pn64	86	94	2	287	6A-6b	陶立柱建物22 P-19	5485	厚陶器 底	土器部 底	△48	■26.1	-	外周：微ナラエ・チリサギ 内底：チリサギ	良好	外周：灰褐色～灰黃褐色 内底：灰褐色	内外面とも灰 色地質				
Pn65	86	94	2	263	6A-6b	陶立柱建物22 P-9	5479	厚陶器 底	直壁器 底	△42	-	-	外周：回転ナダ、萬台原灰褐色 内底：チリサギ	良好	外周面とも灰褐色 内底：灰褐色	内外面とも灰 色地質				
Pn66	89	94	2	348	6A-5b	陶立柱建物23 P-5	5561	圓筒形	厚壁器 底	△40	■15.8	-	外周面とも内底面ナダ 内底：チリサギ	良好	外周：灰褐色 内底：灰褐色	内外面とも灰 色地質				

第61表 土器観察表(3)

遺物 番号	解説 番号	国名 番号	調査 区 名	地上 高 度 m	地図 番号 T45-5	集合遺物名 別個遺物名	調査時 遺物名	層位 層	断面 形	法量(cm)			特徴(調査等)	出土 状況	孔洞	備考
										基部	上部	底径				
P667	89	94	2	327	6A-5b	鏡立柱建物23 P-3	S601	直筒壺 直筒壺	△73	-	-	外削：平行ナギナ 内削：同心円状の凹凸有	素 内削：長筒孔 内削：斜オーブル削			
P668	92	94	2	326	6A-5b	鏡立柱建物25 P-3	S276	直の土 直筒土器	△23	-	-	内削面とナギナ	素 内削：直孔 内削：良好			
P669	92	94	2	258	6A-5b	鏡立柱建物25 P-3	S570	直筒壺 直筒壺	△27	※119	-	内削面と内壁端部ナギナ、同 軸ナギナ	素 内削：直孔 内削：良好			
P670	97	94	2	340	6A-5b	鏡立柱建物26 P-2	S717	直筒壺 直筒壺	△18	-	-	内削面とも凹凸ナギナ	素 内削：直孔 内削：良好			
P671	97	94	2	652	6A-5b	鏡立柱建物26 P-1	S717	直筒壺 直筒壺	△52	-	-	外削：凹凸ナギナ、端部ナギ 内削：横ナギナ、ナギナ、端部ナ 直筒	素 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：斜オーブル削 外削：直孔 内削：良好	透かしあり	
P672	107	94	2	772	6A-6e	鏡立柱建物21 P-8	S829	直土 土筒器	△42	-	-	外削：丁字端部ナギナ、端部ナ 内削：口縁部端部ナギナ、口縫 内削：タマナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔		
P673	111	94	1	407	6A-7d	鏡立柱建物2 P-3	262ビット	直筒壺 直筒壺	△61	-	-	外削：タマナギナ 内削：回転ナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好		
P674	115	94	3	66	6A-7a	鏡立柱建物34 P-2	S548	直筒壺 直筒壺	△21	-	-	内削面とも凹凸ナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好		
P675	117	94	3	80	6A-7a	鏡立柱建物3 P-1	S560	(1-2) 土筒器 直筒	△15	-	-	外削：横ナギナ(ミサキ)、底部 内削：横ナギナ	素 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削とも赤 色透かし	
P676	117	94	3	79	6A-8b	鏡立柱建物35 P-3	S527	直取壺 直筒壺	△17	-	-	内削面とも横ナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削とも赤 色透かし	
P677	117	94	3	82	6A-7b	鏡立柱建物35 P-2	S531	直の土 直筒土器	△25	-	-	内削面ともナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好		
P678	117	94	3	94	6A-8b	鏡立柱建物3 P-3	S527	直取壺 直筒壺	△27	※103	-	内削面とも凹凸ナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外自然透かし	
P679	118	102	3	104	6A-8b	5578穴	S557	直取壺 直筒壺	△12	-	-	外削：体側端部ナギナ(ボウナ 底部ナギナ) 内削：体側端部ナギナ、底部溝部 不明	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削とも赤 色透かし 内削底部溝部 透かし	
P680	118	102	3	104	6A-8b	5578穴	S557	直取壺 直筒壺	△32	※90	-	内削面とも凹凸ナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好		
P681	118	102	3	103	6A-7b	5258穴	S525	直取壺 直筒土器	△16	-	-	内削面ともナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：浅黄褐色 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好		
P682	118	102	3	110	6A-7b	5258穴	S525	直取壺 直筒土器	△18	-	-	内削面ともナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好		
P683	118	102	3	103	6A-7b	5258穴	S525	直取壺 直筒土器	△18	-	-	内削面ともナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好		
P684	121	94	3	127	6A-9b	鏡立柱建物37 P-3	S647	直取壺 直筒土器	△18	-	-	内削面ともナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好		
P685	122	102	3	137	6A-10b	鏡立柱建物3 P-1	S668	直取壺 直筒	△27	-	-	内削面とも横ナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削とも赤 色透かし 一深黄色 内削透かし	
P686	129	94	3	215	7A-1c	7306直通槽	S730	直 土筒器	△41	-	-	外削：横ナギナ、ハコ 内削：横ナギナ、底部ナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし	
P687	129	94	3	178	7A-1c	7306直通槽	S730	1層 土筒器	△38	-	-	外削：口縁部端部ナギナ(底部オ セナギナ)、底部ナギナ 内削：口縁部端部ナギナ、底部ナ ギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし 内削底部溝部 透かし	
P688	131	96	3	226	7A-1b-1c	736土坑	S736	土 土筒器	△35	※152	※126	外削：横ナギナ、直筒ナギナ 内削：横ナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし 内削底部溝部 透かし	
P689	131	96	3	247	7A-1b-1c	736土坑	S736	2層 土筒器	△27	※132	※102	外削：横ナギナ、直筒ナギナ 内削：横ナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし	
P690	131	96	3	217	7A-1b-1c	736土坑	S736	土 土筒器	△23	※130	-	内削面とも横ナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし	
P691	131	96	3	227	7A-1b-1c	736土坑	S736	土 土筒器	△25	-	※9.5	外削：横ナギナ(ミサキ)、直筒 内削：横ナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし 内削底部溝部 透かし	
P692	131	96	3	279	7A-1b-1c	736土坑	S736	2層 2層 土 土筒器	32	※129	※109	外削：横ナギナ(ミサキ)、直筒 内削：横ナギナ(ミサキ)、直筒ナギナ 内削：横ナギナ(ミサキ)、直筒ナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし 内削底部溝部 透かし	
P693	131	96	3	281	7A-1b-1c	736土坑	S736	3層 2層 土 土筒器	29	※13.1	※100	外削：横ナギナ(ミサキ)、直筒 内削：横ナギナ(ミサキ)、直筒ナギナ 内削：横ナギナ(ミサキ)、直筒ナギナ	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし 内削底部溝部 透かし	
P694	131	96	3	217	7A-1b-1c	736土坑	S736	土 土筒器	△18	-	-	内外削とも横ナギナ(ボウナ 底部ナギナ)	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし	
P695	131	96	3	226	7A-1b-1c	736土坑	S736	土 土筒器	△26	-	-	外削：横ナギナ(ミサキ)、直筒 内削：横ナギナ(ミサキ)、直筒ナギナ 内削：横ナギナ(ミサキ)	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし 内削底部溝部 透かし	
P696	131	96	3	226	7A-1b-1c	736土坑	S736	土 土筒器	△26	-	-	外削：横ナギナ(ミサキ)、直筒 内削：横ナギナ(ミサキ)、直筒ナギナ 内削：横ナギナ(ミサキ)	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし 内削底部溝部 透かし	
P697	131	96	3	229	7A-1b-1c	736土坑	S736	土 土筒器	△16	-	-	外削：横ナギナ(ミサキ)、直筒 内削：横ナギナ(ミサキ)、直筒ナギナ 内削：横ナギナ(ミサキ)	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし 内削底部溝部 透かし	
P698	131	96	3	247	7A-1b-1c	736土坑	S736	2層 土 土筒器	△25	-	-	外削：横ナギナ(ミサキ)、直筒 内削：横ナギナ(ミサキ)、直筒ナギナ 内削：横ナギナ(ミサキ)	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし 内削底部溝部 透かし	
P699	131	96	3	263	7A-1b-1c	736土坑	S736	1層 土 土筒器	△35	※16.4	-	外削：横ナギナ(ミサキ)、直筒 内削：横ナギナ(ミサキ)、直筒ナギナ 内削：横ナギナ(ミサキ)	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし 内削底部溝部 透かし	
P700	131	96	3	292	7A-1b-1c	736土坑	S736	直筒 土筒	△33	※15.1	-	外削：横ナギナ(ミサキ)、直筒 内削：横ナギナ(ミサキ)、直筒ナギナ 内削：横ナギナ(ミサキ)	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし 内削底部溝部 透かし	
P701	131	96	3	283	7A-1b-1c	736土坑	S736	直筒 土筒	△35	※16.4	-	外削：横ナギナ(ミサキ)、直筒 内削：横ナギナ(ミサキ)、直筒ナギナ 内削：横ナギナ(ミサキ)	素 内削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	外削：直孔 内削：直孔 内削：直孔 内削：良好	内外削ともに赤 色透かし 内削底部溝部 透かし	

第62表 土器観察表(4)

遺物 番号	詳細 番号	国名 番号	測定 区	地上 高さ	地区 名	T45.5m	集合遺物 番号	測定時 間	測定者 名	層位	断面	測量 (cm)			形状 (調整等)	断土 状況	孔洞	備考
												基部	上部	底辺				
Pn102	131	95	3	264	7A-Bc-1c	736上灰	S736	1層	土器部 裏	△55	-	-	-	-	馬前：口縁部端子+。底部ハ タケ。内面：口縁部端子+。底部ハ タケ	直好	外側：灰褐色。内側 （内面）：灰褐色～黑色。底部 （外側）：灰褐色	
Pn103	131	95	3	266	7A-Bc-1c	736上灰	S736	2層	2層 2層 2層 2層 2層 2層	△43	#201	-	-	-	外側：口縁部端子+。底部ハ タケ。内面：口縁部端子+。底部ハ タケ。内面：口縁部端子+。底部ハ タケ。内面：口縁部端子+。底部ハ タケ。内面：口縁部端子+。底部ハ タケ	直好	外側：灰褐色。内面：灰褐色～ 黑色。底部（外側）：灰褐色 内面：灰褐色～黑色。底部（外 側）：灰褐色	13層内～外 曲線部下半部 有孔
Pn104	131	95	3	273	7A-Bc-1c	736上灰	S736	2層	1層	△67	#205	-	-	-	外側：縫ナナ+。内面 （内面）：縫ナナ+。内面ハラキ リ	直好	外側：口～灰褐色。灰褐色 内面：灰褐色～黑色。底部 （外側）：灰褐色	外側灰褐色
Pn105	131	95	3	279	7A-Bc-1c	736上灰	S736	3層	1層 1層 1層 1層 1層 1層	△60	#207	-	-	-	外側：口縁部端子+。底部ハ タケ。内面：口縁部端子+。底部ハ タケ。内面：口縁部端子+。底部ハ タケ。内面：口縁部端子+。底部ハ タケ。内面：口縁部端子+。底部ハ タケ	直好	外側：口～灰褐色。内面 （内面）：灰褐色～黑色。底部 （外側）：灰褐色	外側灰褐色
Pn106	131	96	3	289	7A-Bc-1c	736上灰	S736	2層	須世器 环	△4	#142	串8	-	-	外側：口縁部端子+。底部ハ タケ。内面：口縁部端子+。底部ハ タケ。内面：口縁部端子+。底部ハ タケ	直好	外側：浅黄色 内面：白色	
Pn107	131	96	3	293	7A-Bc-1c	736上灰	S736	1層	須世器 环	△22	-	#109	-	-	外側：回転ナメ。底部斜面 （内面）：回転ナメ	直好	外側曲とも灰白色	
Pn108	131	96	3	217	7A-Bc-1c	736上灰	S736	無土	須世器 环	△22	-	#90	-	-	外側：回転ナメ。高台部ナメ。 底部：カツアリナメナメ	直好	外側：浅黄色 内面：白色	
Pn109	131	96	3	226	7A-Bc-1c	736上灰	S736	無土	須世器 环	△23	-	-	-	-	外側：回転ナメ （内面）：ナメ	直好	外側：灰褐色 内面：口～灰褐色	
Pn110	131	96	3	226	7A-Bc-1c	736上灰	S736	無土	須世器 环	△47	-	-	-	-	外側曲とも回転ナメ	直好	外側：灰 内面：口～リーフ～灰褐色	
Pn111	131	96	3	265	7A-Bc-1c	736上灰	S736	1層	須世器 环	△68	-	-	-	-	外側：平行ナメ 内面：同心状凹凸ナメ	直好	外側：口～灰褐色 内面：灰褐色～灰褐色	
Pn112	131	98	3	333	7A-Bc	745上灰	S745	1層	土器部 外	△51	#176	-	-	-	外側：横アラメナメ。下部 ナメ。内面：横アラメナメ。下部 ナメ	直好	外側：胡赤褐色～浅黄褐色 内面：胡赤褐色	
Pn113	131	98	3	390	7A-Bc	745上灰	S745	1層	土器部 外	△27	#172	-	-	-	外側とも横ナメ底ナメ。底部 部ナメ	直好	外側とも赤褐色 内面：胡赤褐色	
Pn114	131	98	3	306	7A-Bc	745上灰	S745	1層	土器部 外	△26	#256	-	-	-	外側：縫ナメ底ナメ。ナメ （内面）：縫ナメ底ナメ	直好	外側：口～灰褐色 内面：口～灰褐色	
Pn115	131	98	3	337	7A-Bc	745上灰	S745	1層	土器部 外	△23	-	#152	-	-	外側：シザメナメ。縫ナメ （内面）：縫ナメナメ	直好	外側：斜面灰褐色 内面：斜面灰褐色	外側灰褐色
Pn116	131	98	3	402	7A-Bc	745上灰	S745	2層	土器部 外	△24	-	#96	-	-	外側：縫ナメ。高台部ナメ。 底部：カツアリナメ	直好	外側：胡赤褐色～胡赤褐色 内面：胡赤褐色	外側灰褐色
Pn117	131	98	3	280	7A-Bc	745上灰	S745	1層	土器部 外	△24	#361	-	-	-	外側：縫ナメ底ナメ。底部 ナメ	直好	外側：胡赤褐色～胡赤褐色 内面：胡赤褐色	外側灰褐色
Pn118	131	98	3	337	7A-Bc	745上灰	S745	3層	1層	△22	#359	-	-	-	外側：縫ナメ。底部ハラキ リナメ。内面：縫ナメ	直好	外側：底部斜面胡赤褐色 内面：底部斜面胡赤褐色	外側灰褐色
Pn119	131	98	3	379	7A-Bc	745上灰	S745	1層	土器部 外	△20	#365	-	-	-	外側とも横ナメ底ナメ。ナメ （内面）	直好	外側とも明赤褐色 内面：明赤褐色	外側灰褐色
Pn120	131	98	3	358	7A-Bc	745上灰	S745	1層	土器部 外	△22	#349	-	-	-	外側：縫ナメ。ナメ。底部 ナメ	直好	外側とも明赤褐色 内面：明赤褐色	外側灰褐色
Pn121	131	98	3	328	7A-Bc	745上灰	S745	無土	土器部 外	△24	-	-	-	-	外側：縫ナメ底ナメ。ナメ （内面）：縫ナメ底ナメ	直好	外側とも明赤褐色 内面：明赤褐色	外側灰褐色
Pn122	131	98	3	296	7A-Bc	745上灰	S745	1層	土器部 外	19	177	-	-	-	外側：口縁部端子ナメ。ナギ ナメ。底部：カツアリナメ	直好	外側とも明赤褐色 内面：明赤褐色	外側灰褐色
Pn123	131	98	3	368	7A-Bc	745上灰	S745	1層	土器部 外	17	#361	-	-	-	外側とも横ナメ底ナメ。ナメ （内面）	直好	外側とも明赤褐色 内面：明赤褐色	外側灰褐色
Pn124	131	98	3	384	7A-Bc	745上灰	S745	2層	1層	△13	-	-	-	-	外側：縫ナメ。底部ハラキ リナメ。内面：縫ナメ。底部ナメ	直好	外側：胡赤褐色～灰褐色 内面：灰褐色	外側灰褐色
Pn125	131	100	3	238	7A-Bc	745上灰	S745	1層	土器部 外	△32	-	-	-	-	外側：ナメ。一部斜面ナメ。 内面：ナメ	直好	外側とも浅黃褐色	
Pn126	131	100	3	239	7A-Bc	745上灰	S745	1層	土器部 外	△21	-	-	-	-	外側ともナメ	直好	外側とも明赤褐色	
Pn127	131	100	3	417	7A-Bc	745上灰	S745	2層	1層	△26	-	-	-	-	外側：ナメ。一部斜面ナメ。	直好	外側とも明赤褐色	
Pn128	131	100	3	363	7A-Bc	745上灰	S745	1層	土器部 外	△18	-	-	-	-	外側ともナメ	直好	外側とも明赤褐色	
Pn129	131	97	3	407	7A-Bc	745上灰	S745	2層	1層	△19	#278	-	-	-	外側：口縁部端子ナメ。底部 ナメ	直好	外側：灰褐色。内面 （内面）：灰褐色	
Pn130	131	97	3	454	7A-Bc	745上灰	S745	2層	1層	△21	#311	-	-	-	外側：口縁部端子ナメ。ハラ キナメ	直好	外側：口～灰褐色。内面 （内面）：灰褐色～黑色。底部 （外側）：灰褐色	

第63表 土器観察表(5)

遺物 番号	群岡 番号	国名 番号	調査 区分	地上 番号	地区 名	集合遺物 個体数	測定時 間	測定者 姓名	幅 幅	厚 さ	法量(cm)			特徴(異常等)	断土 成灰	孔溝	備考
											表面	11時	底辺				
Pn131	131	97	3	338	7A-1b	745上灰	5745	1層	土器部 裏	△6.9	※26.5	-	外削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。内削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。	良好	外削：灰黄褐色～灰い黄褐色 内削：灰白～灰褐色～灰い黄褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn132	132	97	3	435	7A-1b	745上灰	5745	3層 3層 2層	土器部 裏	△11.0	※35.8	-	外削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。内削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。	良好	外削：浅黃褐色～橙色 内削：灰白色～灰褐色～灰橙色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn133	133	97	3	403	7A-1b	745上灰	5745	2層	土器部 裏	△10.3	※32.8	-	外削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。内削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。	良好	外削：内側ともに灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn134	133	100	3	445	7A-1b	745上灰	5745	2層 2層 1層 1層 1層 1層	土器部 裏	△28.3	25.5	-	外削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。内削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。外削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。	良好	外削：紫黑色～褐色～灰 内削：灰白色～深灰褐色～褐灰色～黑 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn135	133	97	3	397	7A-1b	745上灰	5745	2層 1層 1層	土器部 裏	△26.5	※18.6	-	外削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。内削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。	良好	外削：灰褐色 内削：灰褐色～灰褐色～褐灰色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn136	133	97	3	342	7A-1b	745上灰	5745	1層	土器部 裏	△5.6	-	-	内削：底子一部ナメナメ 内削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。	良好	内削：前にも埋存	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn137	133	97	3	347	7A-1b	745上灰	5745	1層	土器部 裏	△5.1	-	-	外削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。内削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。	良好	外削：灰褐色 内削：灰褐色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn138	133	97	3	421	7A-1b	745上灰	5745	2層	土器部 裏	△5.5	-	-	内削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。外削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。	良好	内削：前にもに灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn139	133	97	3	438	7A-1b	745上灰	5745	3層	土器部 裏	△5.3	-	-	外削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。内削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。	良好	内削：前にも埋存	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn140	134	100	3	437	7A-1b	745上灰	5745	2層	底部部 外	△3.4	※12.2	-	外削：口縁部端子ナメ。底部ナ メ。内削：口縁部端子ナメ。底部ナ メ。	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～暗灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn141	134	100	3	240	7A-1b	745上灰	5745	1層	底部部 外	△3.3	※13.5	※8.1	外削：回転ナメナメ 内削：回転ナメナメ。底部ナ メ。	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn142	134	100	3	437	7A-1b	745上灰	5745	2層	底部部 裏	△3.3	-	-	内削曲とも端部ナメ。回転ナ メ。	良好	内削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn143	134	100	3	396	7A-1b	745上灰	5745	1層	底部部 外	△3.1	※18.3	-	外削：口縁部端子ナメ。回転ナ メ。内削：回転ナメ。	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn144	134	100	3	230	7A-1b	745上灰	5745	底土	底部部 裏	△2.7	-	-	外削：口縁部端子ナメ。回転ナ メ。内削：回転ナメ。	良好	内削：灰褐色～灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn145	134	100	3	228	7A-1b	745上灰	5745	底土	底部部 裏	△2.7	-	-	内削：平行ナメナメナメ 内削：平行ナメナメナメ。底部ナ メ。	良好	内削：灰褐色～灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn146	137	96	3	294	6A-96-106	795上灰	5795	1層	土器部 裏	△1.1	※33.1	-	外削：口縁部端子ナメ。底部ハ ナメ。内削：口縁部端子ナメナメナ メ。	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn147	137	96	3	246	6A-96-106	795上灰	5795	底土	底部部 外	△2.2	-	-	内削曲とも端部ナメ。回転ナ メ。	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn148	144	102	3	98	6A-68	610灰六	5810	灰灰土	製陶土	△2.0	-	-	内削曲ともナメナメ。	良好	内削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn149	144	102	3	96	6A-75	607灰六	5807	灰灰土	製陶土	△2.4	-	-	内削：口縁部端子ナメ。ハナメ 内削：ナメナメ。	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn150	144	102	2	764	6A-3c	6511シット	5851	底土	土器部 裏	△5.0	-	-	外削：口縁部端子ナメ。底部ナ メ。	良好	内削曲ともに灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn151	144	102	1	450	6A-96	3148灰六	5814	底土	底部部 外	△1.0	※15.0	-	内削：底子ナメナメ。ハナメ 内削：ナメナメ。	良好	内削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn152	144	96	3	477	6A-109	6289灰六	5809	2層	土器部 裏	△3.0	-	-	内削：底子ナメナメナメナメ 内削：ナメナメナメナメナメ。	良好	内削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn153	144	102	2	803	6A-69	9041シット	5804	1層	底部部 裏	△1.9	※15.1	-	内削曲とも回転ナメナメ	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn154	144	102	1	445	6A-96	297灰六	5807	灰土	底部部 外	△1.9	-	-	内削曲とも回転ナメナメ	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn155	144	102	3	368	7A-1d	7048灰六	5804	泥の土	底部部 外	△4.6	※15.0	-	内削：底子ナメナメ。ハナメ 内削：ナメナメナメナメナメ。	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn156	144	102	2	296	6A-69	4619灰六	5803	1層	底部部 裏	△8.5	-	-	内削：底子ナメナメ。ハナメ 内削：ナメナメナメナメナメ。	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn157	150	104	1	196	6A-5b	529	底土	1層	土器部 裏	△0	※12.9	-	内削：底子ナメナメ。ハナメ 内削：ナメナメナメナメナメ。	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn158	150	104	1	285	6A-5b	529	底土	1層	土器部 裏	△0	※11.3	-	内削：底子ナメナメナメナメ 内削：ナメナメナメナメナメ。	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn159	150	104	1	292	6A-7b	529	1層	土器部 裏	△2.2	※12.3	-	内削曲ともナメナメナメ	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側	
Pn160	150	107	3	35	7A-2b	527	底土	1層	底部部 裏	△0	11.2	-	内削：底子ナメナメ。ハナメ 内削：ナメナメナメナメナメ。	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn161	150	104	1	47	6A-8b	527	底土	1層	底部部 裏	△2.3	-	-	内削：底子ナメナメ。ハナメ 内削：ナメナメナメナメナメ。	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側
Pn162	150	104	1	212	6A-7b	527	底土	1層	底部部 裏	△1.5	-	-	内削曲とも初転ナメナメ	良好	外削：灰褐色～灰褐色 内削：灰白色～灰褐色 底辺：灰好	外削：内側 内削：内側	外削：内側 内削：内側

第64表 土器観察表(6)

遺物 番号	辨認 番号	国名 都道 府県 市町 村名	測定 地区 名	地上 高さ m	地層 名	集合部構 成遺物 名	測定時 間	層位 名	断面 形態	法量(cm)			形状(異常等)	断土 方法	孔溝	備考	
										基部 基部 高さ	上部 基部 高さ	底辺					
Pv163	150	104	1	206	6A-6c				1層	直筒型 壺	△16	-	- 内外曲面とも回転ナメ	素 面	内曲 面	内曲 面	
Pv164	150	103	1	208	6A-7e				1層	直筒型 壺	△20	-	#94 内外曲面とも回転ナメ	素 面 やや 直好	内曲 面	内曲 面	内曲面ともに灰黄色 内曲面、灰白色～灰黑色 内曲面
Pv165	150	104	1	285	6A-5b				1層	直筒型 壺	△46	#92	- 内外曲面とも回転ナメ	素 面 直好	内曲 面	内曲 面	内曲面ともに灰黄色 内曲面、灰白色～灰黑色 内曲面
Pv166	150	103	1	323	6A-5b				1層	直筒型 壺上部	36	54	41	内曲 面	内曲 面	内曲 面	内曲面に黒色の 着色有
Pv167	150	103	1	254	6A-5b				1層	直筒型 壺	△81	-	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面に黒色の 着色有
Pv168	150	103	1	274	6A-5b				土加厚 1層	△40	-	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面ともに灰黄色 内曲面	
Pv169	150	103	1	281	6A-5b				1層	直筒型 壺	△82	#326	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面ともに灰黄色 内曲面
Pv170	150	103	1	65	6A-4g-7g	直土 1層			1層	直筒型 壺	△65	#318	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面に工 具痕有
Pv171	150	103	1	320	6A-6b				1層	直筒型 壺	△57	#354	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面に工 具痕有
Pv172	151	104	1	78	6A-6e	直土 1層			1層	直筒型 壺	△57	-	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面有
Pv173	151	104	1	158	6A-6e	直土 1層			1層	直筒型 壺	△34	#320	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面ともに赤 色有
Pv174	151	104	1	34	6A-7e	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△35	#143	- 内外曲面ともにガサ	素 面 直好	内曲 面	内曲 面	内曲面とも赤 色有
Pv175	151	104	1	156	6A-6e	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△20	-	#122 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面とも赤 色有
Pv176	151	104	1	26	6A-7d	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△19	-	#146 内外曲面ともにガサ	素 面 直好	内曲 面	内曲 面	内曲面とも赤 色有
Pv177	151	104	1	73	6A-6f-6g	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△15	-	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面とも赤 色有
Pv178	151	104	1	196	6A-3b- 273	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△17	-	- 内外曲面ともにガサ	素 面 直好	内曲 面	内曲 面	内曲面とも赤 色有
Pv179	151	104	1	287	6A-5b-6b	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△19	-	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面に赤 色有
Pv180	151	104	1	157	6A-6e	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△21	-	#101 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面に赤 色有
Pv181	151	112	1	73	6A-6f- 6g	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△25	-	#118 内外曲面ともにガサ	素 面 直好	内曲 面	内曲 面	内曲面赤色有
Pv182	151	112	1	106	6A-5b	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△8	#42	- 内外曲面ともにガサ	素 面 直好	内曲 面	内曲 面	内曲面一部赤 色有
Pv183	151	112	1	93	6A-9c	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△31	-	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面とも赤 色有
Pv184	151	105	1	21	6A-8d	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△30	#96	- 内外曲面ともにガサ	素 面 直好	内曲 面	内曲 面	内曲面とも赤 色有
Pv185	151	105	1	47	6A-8f- 8g	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△27	-	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面とも赤 色有
Pv186	151	108	1	443	6A-8e	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△41	-	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面赤色有
Pv187	151	108	1	279	6A-5b- 5i	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△26	-	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面ともに赤 色有
Pv188	151	108	1	36	-	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△66	-	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面赤色有
Pv189	151	108	1	422	6A-10e	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△48	#358	- 内曲 面	素 面 直好	内曲 面	内曲 面	内曲面有
Pv190	151	108	1	64	6A-6g	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△33	#178	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面に赤 色有
Pv191	151	108	1	106	6A-5b- 6b	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△29	#241	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面赤色有
Pv192	151	108	1	118	6A-5b- 6b	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△37	#287	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面赤色有
Pv193	151	108	1	106	6A-5b- 6b	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△45	#255	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面赤色有
Pv194	151	108	1	106	6A-5b	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△29	#241	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面赤色有
Pv195	151	108	1	118	6A-5b- 6b	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△57	#298	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面赤色有
Pv196	151	108	1	74	6A-6f- 6g	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△50	#281	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面赤色有
Pv197	151	108	1	102	6A-4b- 5b	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△57	#298	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面赤色有
Pv198	151	108	1	118	6A-5b- 6b	直土 1層 直筒型 壺			1層	直筒型 壺	△43	#314	- 内曲 面	素 面	内曲 面	内曲 面	内曲面赤色有

第65表 土器観察表(7)

遺物 番号	解説 番号	国名 番号	調査 区分	地上 位置	地区 名	集合遺物名	調査時 遺物名	層位 名	断面 形	断面 形	測量 (cm)			特徴 (調査等)	断土 方法	孔洞	備考
											基部	上部	底辺				
Pn197	151	106	1	454	6A-06			縦乳土	上部器 蓋	△75	*#252	-	外側／口縫深幅十才。底部ハ リ内側／口縫深幅十才。底部ハ リ内側	更 高好	外側／口縫深幅十才。底部ハ リ内側／口縫深幅十才。底部ハ リ内側	外側頂行者、 内側／口縫深幅 高好	
Pn198	152	109	1	34	6A-7e			直土、 縦乳土	縦乳土	△18.	-	*#82	外側／回転ナデ。底部回転ナ デ。内側／回転ナデ。	更 高好	外側／回転ナデ。底部回転ナ デ。内側／回転ナデ。	内側／回転ナ デ。	
Pn199	152	109	1	78	6A-6e			直土	縦乳土	△31	*#118	-	外側／回転ナデ。ハラ起型 内側／回転ナデ。	更 高好	外側／回転ナデ。ハラ起型 内側／回転ナデ。	内側／回転ナ デ。	
Pn200	152	109	1	23	6A-7c - 7d	362	6A-7c - 7d	直土、 縦乳土	縦乳土	△53	*#239	-	外側／とも回転ナデ	更 高好	外側／回転ナデ。底部 内側／回転ナデ。	外側／回転ナ デ。底部 内側／回転ナ デ。	
Pn201	152	109	1	29	6A-6d			直土、 縦乳土	縦乳土	△32	*#163	-	内側／とも回転ナデ	更 高好	外側／回転ナデ。 内側／回転ナ デ。	外側／回転ナ デ。内側／回 転ナデ。	
Pn202	152	109	1	92	6A-4d			直土、 縦乳土	直土	△25	-	-	内側／とも回転ナデ	更 高好	外側／回転ナデ。底部 内側／回転ナデ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn203	152	109	1	39	6A-6d			直土、 縦乳土	縦乳土	△29	-	-	外側／回転ナデ。ナデ 内側／回転ナデ。	更 高好	外側／回転ナデ。ナデ 内側／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn204	152	109	1	268	6A-5g			直土	直土	△31	-	-	内側／とも回転ナデ	更 高好	外側／とも回 転ナデ。	外側／回 転ナデ。	
Pn205	152	109	1	46	6A-6d			直土、 縦乳土	縦乳土	△29	-	*#76	外側／回転ナデ 内側／回転ナデ、ナデ	更 高好	外側／とも回 転ナデ。	外側／回 転ナデ。	
Pn206	152	109	1	102	6A-4b - 5b	218	6A-5b - 6b	直土、 縦乳土	縦乳土	△14	-	*#74	外側／回転ナデ 内側／調整ナ メ	更 高好	外側／回転ナデ。底部 内側／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn207	152	109	1	73	6A-6f - 6g			直土、 縦乳土	縦乳土	△21	-	*#87	外側／回転ナデ。ハラ起型 内側／回転ナデ。	更 高好	外側／回転ナデ。ハラ起型 内側／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn208	152	109	1	161	6A-7f			直土	直土	△20	-	*#87	内側／とも回転ナデ	更 高好	内側／とも回 転ナデ。	内側／回 転ナデ。	
Pn209	152	109	1	47	6A-8f - 8g	214	6A-8f	直土、 縦乳土	縦乳土	△42	*#148	-	内側／とも回転ナデ	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn210	152	109	1	223	6A-7c - 8c			直土、 縦乳土	縦乳土	△17	-	-	内側／とも回転ナデ	更 高好	内側／とも回 転ナデ。	内側／回 転ナデ。	
Pn211	152	109	1	223	6A-7c - 8c			直土、 縦乳土	縦乳土	△26	-	*#14	外側／回転ナデ。萬古 内側／回転ナ デ	更 高好	内側／とも黄 色。	萬古器 - 頂白 盤類	
Pn212	152	109	1	353	6A-6e			直土、 縦乳土	直土	△61	*#92	-	内側／とも回転ナデ	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn213	152	109	1	70	6A-5g - 6g			直土、 縦乳土	直土	△24	*#106	-	内側／とも回転ナデ	更 高好	内側／とも回 転ナデ。	内側／回 転ナデ。	
Pn214	152	109	1	33	6A-6e			直土、 縦乳土	直土	△26	*#90	-	内側／とも回転ナデ	更 高好	内側／とも回 転ナデ。	内側／回 転ナデ。	
Pn215	152	109	1	283	6A-8c			直土	直土	△29	*#118	-	内側／とも回転ナデ	更 高好	内側／とも回 転ナデ。	内側／回 転ナデ。	
Pn216	152	109	1	261	6A-5k			直土	直土	△15	-	-	外側／回転ナデ。内側セリナ 内側／ナデ、ナデ、ナデ	更 高好	内側／とも回 転ナデ。外側 ／回転ナ デ。	つまみ紐付 定着	
Pn217	152	109	1	161	6A-7f			直土	直土	△17	-	-	外側／回転ナデ	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	つまみ紐付 定着	
Pn218	152	109	1	57	6A-6e - 6f			直土、 縦乳土	縦乳土	△11	-	-	外側／回転ナデ	更 高好	内側／とも黄色。	内側／回 転ナデ。	
Pn219	152	109	1	59	6A-6e			直土、 縦乳土	縦乳土	△13	-	-	内側／とも回転ナデ	更 高好	内側／とも回 転ナデ。	内側／回 転ナデ。	
Pn220	152	109	1	190	6A-6f			直土	直土	△11	-	-	内側／とも回転ナデ	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn221	152	109	1	78	6A-6e			直土	直土	△18	*#164	-	外側／回転ナデ。内側ナ 内側／回転ナデ、一層ナデ	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn222	152	109	1	56	6A-7c - 7f	156	6A-6e	直土、 縦乳土	縦乳土	△19	*#274	-	内側／とも回転ナデ。ナデ	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn223	152	109	1	70	6A-5g - 6g			直土、 縦乳土	直土	△33	-	-	外側／回転ナデ	更 高好	内側／回転ナデ。内側平底 内側／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn224	152	109	1	280	6A-8c			直土	直土	△46	-	-	外側／回転ナデ。内側平底 内側／回転ナ デ。	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn225	152	109	1	266	6A-6e			直土、 縦乳土	直土	△41	-	-	内側／とも回転ナデ	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn226	152	109	1	280	6A-7c - 8d			直土	直土	△31	-	-	内側／とも回転ナデ。ナデ物 あり	更 高好	内側／とも回 転ナデ。	側面に既 然が付着	
Pn227	152	109	1	106	6A-5k			直土	直土	△20	-	*#76	外側／側面回転ナデ。底部 内側／回転ナ デ	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn228	152	109	1	139	6A-6e			直土	直土	△19	-	*#90	当面／回転ナデ。底部ナ 内側／ナデ	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	内側底面相 合せあり	
Pn229	152	109	1	102	6A- 6c - 5b			直土、 縦乳土	縦乳土	△23	-	*#113	内側／とも回転ナデ	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn230	152	109	1	34	6A-7e			直土	直土	△16	-	*#111	外側／回転ナデ 内側／ナデ	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn231	152	109	1	63	6A-7f - 7g			直土	直土	△45	-	-	外側／回転ナデ。底部ナ 内側／回転ナデ。ナデナ 内側／回転ナデ	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn232	152	109	1	223	6A-7c - 8c			直土	直土	△35	-	-	内側／回転ナデ	更 高好	内側／回 転ナデ。	内側／回 転ナデ。	
Pn233	152	109	1	229	6A-9c			直土、 縦乳土	直土	△64	-	-	外側／ナデ	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	
Pn234	152	106	2	224	6A-7c	22		直土	上部器 外	43	*#147	80	底部／回転ナデナ 内側／回転ナデナ 内側／回転ナデ	更 高好	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	外側／回 転ナデ。内側 ／回転ナ デ。	

第66表 土器観察表(8)

遺物 番号	解説 番号	国名 番号	測定 区 番号	地上 高さ 2.65m	集合遺物 測定番号	測定時 遺物名	層位 地層	断面 形態	法量 (cm)			特徴 (異常等)	断土 状況	孔溝	備考
									基部 基部	上口 上口	底辺 底辺				
Pn235	153	107	2	73	6A-36							内外曲面とも横ナギ	直好		
				79	6A-40							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn236	153	112	2	289	6A-41							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn237	153	107	2	332	6A-50							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn238	153	107	2	141	6A-58 · 6d							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn239	153	107	2	658	6A-58							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn240	153	107	2	744	6A-46							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn241	153	107	2	488	6A-56							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn242	153	107	2	104	6A-58							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn243	153	110	2	809	6A-38							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn244	153	110	2	191	6A-46							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn245	153	110	2	99	6A-46							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn246	153	110	2	99	6A-46							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn247	153	110	2	219	6A-56							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn248	153	110	2	88	6A-46							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn249	153	110	2	196	6A-46							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn250	153	110	2	125	6A-66							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn251	153	110	2	197	6A-66							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn252	153	110	2	189	6A-66							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn253	153	110	2	37	6A-46							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn254	153	110	2	322	6A-66							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn255	153	110	2	83	6A-46							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn256	153	110	2	120	6A-7C							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn257	153	110	2	215	6A-56							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn258	153	110	2	494	6A-66							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn259	154	107	3	102	6A-96							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn260	154	107	3	199	7A-3c							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn261	154	107	3	172	7A-3c							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn262	154	107	3	186	7A-3b							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn263	154	107	3	157	7A-16							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn264	154	107	3	48	6A-96							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn265	154	107	3	48	6A-96							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn266	154	107	3	56	6A-66							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn267	154	107	3	64	6A-10d							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn268	154	107	3	18	7A-5e · 4e							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn269	154	107	3	62	6A-96							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn270	154	107	3	19	7A-2c							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn271	154	107	3	62	6A-96							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
												内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好
Pn272	154	107	3	56	6A-66							内斜面と内ナギ	直好	内斜面とも直好	直好

第67表 土製品觀察表（1）

第68表 土製品観察表（2）

遺物 番号	種類 番号	地點 番号	遺物 名	Q.I. 地区 T.45-5	集合遺物名	調査時 遺物名	層位	形状	直徑 (cm)	特徴 (調査等)	地上 直好	地質	備考
CP21	155	III	1	40	6A-7f		表土・ 腐乳土	上製支脚	直径: △3.9 厚さ: ~	外側: 線ナデ、ハケ 内側: ケズリ	重 直好	外側: (に)赤い鉄錆色～(に)赤い 鉄錆色、明赤鉄錆色 内側: (に)赤い黄鉄錆色～(に)赤い 黄鉄錆色	
CP22	155	III	1	1	~		表土	上製支脚	直径: △9.3 厚さ: 申122	外側: ハケ(ナデ)、下部ナデ、 内側: ケズリ、下部ナデ、用 オサ	重 直好	外側: (に)赤い黄鉄錆色～(に)赤い 黄鉄錆色、明赤鉄錆色 内側: 褐色、(に)赤い黄鉄錆色	
CP23	155	III	1	217	6A-7g		表土	移動式壺	直径: △6.2 高さ: 6.4	外側: ナデ、ハケ(ナデ)、用 オサ、底部ナデ 内側: ケズリ	重 直好	外側: (に)赤い黄鉄錆色～(に)赤い 黄鉄錆色、明赤鉄錆色 内側: (に)赤い相色～(に)赤い 鉄錆色	外側～底部分
CP24	155	III	1	117	6A-5b		表土	移動式壺	直径: △5.1 高さ: △5.8	外側: ハケ 内側: 線ナデ	重 直好	外側: (に)赤い黄鉄錆色～(に)赤い 黄鉄錆色、明赤鉄錆色 内側: (に)赤い黄鉄錆色、褐灰色	
CP25	155	III	1	106	6A-5b 118	6A-5b・6b	表土	移動式壺	直径: △6.3 高さ: 6.4	外側: ナデ、下部ナデ	重 直好	外側: (に)赤い相色	
CP26	155	III	1	43	6A-8e・N		表土・ 腐乳土	移動式壺	直径: △6.6 高さ: 3.2	直径: △6.6 内側: ナデ、底 部ナデ	重 直好	外側: (に)赤い相色 内側: (に)赤い相色～(に)赤い 鉄錆色	外側底部分
CP27	156	II2	2	148	6A-5d		表土	土製支脚	直径: △5.8 高さ: △5.9	外側: ナデ、ケズリ	重 直好	外側: 褐灰色、(に)赤い黄鉄錆色 内側: 褐色	頂面に内孔
CP28	156	II2	2	104	6A-5d		表土	上製支脚	直径: △5.7 高さ: △5.9	外側: ナデ、 内側: 褐色	重 直好	外側: 褐色 内側: (に)赤い黄鉄錆色	頂面に内孔
CP29	156	II7	3	172	7A-3c		腐乳土	上製支脚	直径: △4.9 厚さ: ~	外側: ナデ、 内側: ケズリ、 底: ナデ	重 直好	外側: (に)赤い相色～(に)赤い 鉄錆色 内側: 褐色、(に)赤い相色	
CP30	156	II2	2	146	6A-5c		腐乳土	上製支脚	直径: △5.0 厚さ: 申122	外側: ハケ、ナデ、 内側: ケズリ	重 直好	外側: (に)赤い黄鉄錆色～浅黄鉄 錆色 内側: (に)赤い相色	
CP31	156	II2	2	143	6A-5d・6d		表土	移動式壺	直径: △5.0 高さ: △120	内側とモナデ	重 直好	外側: 褐色 内側: (に)赤い黄鉄錆色	
CP32	156	II2	2	104	6A-5d・6d		表土	移動式壺	直径: △5.0 高さ: △120	内側とモナデ	重 直好	外側: 褐色 内側: (に)赤い黄鉄錆色	
CP33	156	II2	2	146	6A-5d・6d		表土	移動式壺	直径: △5.7 高さ: 6.5 最大厚: 2.9	内側とモナデ	重 直好	内側とモニ明赤鉄錆色～(に)赤い 鉄錆色	
CP34	156	II2	2	145	6A-5d・6d		表土	移動式壺	直径: △5.0 高さ: △183	外側: ハケ、ナデ 内側: ケズリ	重 直好	外側: (に)赤い鉄錆色 内側: (に)赤い相色	
CP35	156	II2	2	145	6A-5d・6d		表土	移動式壺	直径: △5.0 高さ: △183	外側: ナデ、 内側: ケズリ	重 直好	内側: (に)赤い相色	
CP36	156	II2	2	199	6A-4c 138	6A-7b	腐乳土	移動式壺	直径: △4.9 高さ: △188	外側: ハケ、 内側: ケズリナデ、 基底部ナデ	重 直好	内側: (に)赤い相色～(に)赤い 鉄錆色、(に)赤い相色	
CP37	157	II5	1	125	6A-9b		腐乳土	土師	直径: △4.8 高さ: 2.9	ナデ	重 直好	内側: (に)赤い相色～(に)赤い 鉄錆色	
CP38	157	II7	2	73	6A-3b		腐乳土	土師	最大長: △4.7 最大幅: 1.7 最大厚: 1.6	側臥ナデ	重 直好	内側: (に)赤い相色	
CP39	158	II3	1	20	6A-8c		表土・ 腐乳土	土師	最大長: △2.5 最大幅: 1.6 最大厚: 2.3	ナデ	重 直好	内側: (に)赤い相色～(に)赤い 鉄錆色	
CP40	158	II3	1	69	6A-8f・bg		表土・ 腐乳土	土師	最大長: △2.6 最大幅: 1.6 最大厚: 2.3	ナデ	重 直好	内側: (に)赤い相色～(に)赤い 鉄錆色	
CP41	158	II3	1	296	6A-6b		表土	土師	最大長: △2.5 最大幅: 1.6 最大厚: 2.2	ナデ	重 直好	内側: (に)赤い相色	
CP42	158	II3	1	48	6A-8f・bg		表土・ 腐乳土	土師	最大長: △2.5 最大幅: 1.6 最大厚: 2.2	ナデ	重 直好	内側: (に)赤い相色	
CP43	158	II3	1	13	6A-8d		腐乳土	土師	最大長: △2.6 最大幅: 1.6 最大厚: 2.2	ナデ	重 直好	内側: (に)赤い相色	
CP44	158	II3	1	45	6A-8f・bg		表土・ 腐乳土	土師	最大長: △2.5 最大幅: 1.6 最大厚: 2.2	ナデ	重 直好	内側: (に)赤い相色	
CP45	158	II3	2	25	6A-5b		表土	土師	最大長: △2.5 最大幅: 1.6 最大厚: 2.2	ナデ	重 直好	内側: (に)赤い相色	

第3章 調査成果

第69表 石器觀察表

遺物 番号	碑記 番号	国別 番号	調査 地区 区 番号	取上 番号	地区 番号	T45-5	集合遺物名 調査遺物名	調査時 遺物名	留化 留化	器種	法量 (cm · g)				石材	備考
											最大長	最小幅	最大厚	重量		
S.1	33	88	2	414	6A-6c	聖穴建物 4	5636	土器	陶石	△7.2	5.9	4.0	196.5	花崗岩		
S.2	135	102	3	412	7A-1b	聖穴土灰	5745	2号	陶石	△6.0	12.2	17.3	249.5	花崗岩		
S.3	159	113	1	72	6A-6d				陶石	石頭	1.9	1.6	0.3	0.7	無測品空石屑	手抓和束式
S.4	159	113	1	5	-				陶土	石頭	2.3	1.9	0.4	1.2	無測品空石屑	手抓和束式
S.5	159	113	2	4	6A-6e				陶土	石頭	2.5	1.5	0.4	1.2	無測品空石屑	手抓和束式
S.6	159	113	1	127	6A-6e				陶土	砾石	△9.6	6.9	4.0	231.0	凝灰岩	
S.7	159	113	2	200	6A-6d				陶土	石頭	△9.9	8.0	2.2	251.0	安山岩	
S.8	159	113	2	18	6A-5b				陶土	石筆	△11.1	6.2	3.7	262.0	多孔安山岩	

第70表 鉄関連遺物觀察表

遺物 番号	碑記 番号	国別 番号	調査 地区 区 番号	取上 番号	地区 番号	T45-5	集合遺物名 調査遺物名	調査時 遺物名	留化 留化	器種	法量 (cm · g)				備考	
											最大長	最小幅	最大厚	重量		
伊.1	31	89	2	300	6A-5c	聖穴建物 3	5465	2号	鐵	刀	20.9	34	0.3	75.5		
伊.2	33	99	2	428	6A-6c	聖穴建物 4	5636	土器	陶土	刀子	8.8	14	0.3	9.1		
伊.3	37	91	2	569	6A-6d-6e	聖穴建物 5	5637	年直	陶土	鐵劍	5.3	4.8	4.0	186.5		

第71表 貨幣觀察表

遺物 番号	碑記 番号	国別 番号	調査 地区 区 番号	取上 番号	地区 番号	T45-5	集合遺物名 調査遺物名	調査時 遺物名	留化 留化	器種	法量 (mm · g)				備考	
											外徑	内徑	外徑	内徑		
銀.1	159	112	1	249	6A-5b				銀瓦	銀瓦 (葉末, 植生)	24.3	20.1	7.0	6.1	18	20 葉形
銀.2	159	112	1	249	6A-5b				銀瓦	銀瓦 (葉末, 植生)	△19.0	-	-	-	0.9	10 葉形

第72表 桃核觀察表

遺物 番号	碑記 番号	国別 番号	調査 地区 区 番号	取上 番号	地区 番号	T45-5	集合遺物名 調査遺物名	調査時 遺物名	留化 留化	器種	法量 (cm)				備考	
											長	幅	高	厚		
桃.1	-	94	1	87	7A-3e	聖穴建物 10 △7.3	58.9 ± 7	土器	陶土	桃核	△2.6	△1.7	-	-		
桃.2	-	94	2	774	6A-4d	聖穴建物 10 △7.7	59.9 ± 7	陶土	陶土	桃核	2.5	1.6	1.8	1.8		

第4章 総括

第1節 天神野台地上の集落－飛鳥時代から平安時代を中心に－

はじめに

本節では、鳥取県教育文化財団(以下、財団)が平成29年度(1区)と令和元年度(2・3区)に実施した発掘調査で検出した遺構について若干の検討を行いつつ、各時期における遺跡の様相をまとめ、本調査の総括としたい。なお、小鴨道祖神遺跡は、平成28年度に倉吉市教育委員会(以下、市教委)によって発掘調査が実施されている(第1章第1節)。市教委が実施した調査地は財団が実施した調査地の隣接地であり、小鴨道祖神遺跡を評価するにあたり、財団が実施した調査成果に加え、市教委の調査成果も合わせて、報告することとする。

さらには、本遺跡と近接するドウタ平遺跡は、終末期古墳とともに飛鳥時代から平安時代の集落が確認されるなど、本遺跡との関わりが深いことが推察される。そこで、ドウタ平遺跡の概要をまとめるとともに、本遺跡との比較検討を行うことで、天神野台地上における飛鳥時代から平安時代の様相にも迫りたい。

第1項 小鴨道祖神遺跡の変遷

1 各時期における遺跡の変遷

本遺跡の様相について、各時期ごとに概要を述べ、本調査のまとめとしたい。

縄文時代

2・3区において、土坑底面に小ピットを伴う遺構を7基検出している。いわゆる落とし穴と考えており、小ピットを検出していないものの、その可能性が高いと判断したものを持ちると9基となる。これらは天神野台地(通称)の頂部東側に位置し、削平が著しい3区の様相は不明であるが、2区については等高線に沿うように土坑が設置されたものと考える。土坑内から縄文土器は出土していないが、他遺跡の調査成果から当該期に帰属するものと想定している。遺構外の出土ではあるが、市教委調査区において、磨消縄文を施した縄文土器片が出土しており、その関連性が注目される。

なお、天神野台地東側斜面裾部に位置する山ノ下遺跡では19基の落とし穴が検出されており、当該期の天神野台地周辺は、狩猟の場として利用されていたことがうかがえる。

弥生時代から古墳時代

遺跡内において、遺構は検出していない。3区で出土した弥生土器Po272を図化したが、当該期の遺物も極めて少なく、人の活動が希薄な時期であったとみられる。

飛鳥時代から平安時代

7世紀後半から9世紀に帰属する堅穴建物5棟、掘立柱建物42棟のほか、段状遺構、土坑などを検出している。当該期が本遺跡の盛期となる。



第160図 小鴨道祖神遺跡遺構全体図

建物は1～3区において検出しており、天神野台地頂部東側から東側斜面傾斜変換点付近に位置する。これらの建物はかなり密に検出されているが、すべてが同時併存していたものではなく、大きく3期に渡って集落が営まれたものと想定している（本項P206）。

堅穴建物は、堅穴の平面が方形または長方形を呈し、すべての堅穴建物において上屋構造を支える柱穴を検出していない。床面に炉跡とみられる被熱痕跡が認められることから、恒常に火を利用していたことが考えられ、少なくとも簡易な上屋はあったものと想定しているが、建物の構造は明らかにはできていない。また、床面には堅穴建物3を除き、貼床が施される。堅穴建物3の床面は平滑ではなく、小さな凹凸が著しい。堅穴の埋土には「むしろ」等を敷いていたような有機物の痕跡は認められず、どのような床面利用がなされていたのか、興味深い。なお、倉吉市觀音堂遺跡にも同様の例がみられ（註1）、この地域の特徴の1つである可能性もある。

掘立柱建物は側柱建物と総柱建物を検出し、側柱建物を主体とする。側柱建物は桁行2～4間、平面積は3.8～31.0m²、総柱建物の桁行は2間、平面積は5.8～11.5m²を測り、当該期の集落遺跡としては標準的な建物規模といえる（註2）。掘立柱建物は建て替えられたものも多く、ほぼ同位置において建て替えが行われたものと、2～3棟が僅かに位置をずらしながら建てられているものがある。特徴的な建物としては、掘立柱建物4のように側柱建物から総柱建物に建て替えられたと想定しているものがあるほか、掘立柱建物25のように建物の構造が特殊なものも認められる（第3章第3節P115）。また、掘立柱建物の中には建物廃絶時の祭祀行為またはその可能性が高いものも認められる。掘立柱建物5の最終段階である5d柱穴の抜き取り痕跡には内面に「×」状のヘラ記号が施された完形の須恵器蓋（Po36）が埋納されていたほか、掘立柱建物11には2つの柱穴に分割した状態で土製支脚（CP5）が埋納されており、いずれも建物廃絶時の祭祀とみられる。同じ建物廃絶時の埋納行為ではあるが、完形の須恵器が埋納されたものと土製支脚が分割されたものがあり、一様ではない。さらに、掘立柱建物10・30の柱穴からは桃核がそれぞれ1点ずつ出土している。県内では大山町の古御堂笠尾山遺跡掘立柱建物3（弥生時代後期末から古墳時代前期）から桃核が2点出土しており、建物廃絶時における祭祀の可能性が指摘されている（註3）。本遺跡出土例はそれより大きく時代は下るもの、同様の意図を目的として納められた可能性は考えられよう。当該期の建物に関わる出土例としては、奈良県法隆寺金堂の柱に桃核を埋め込み、栓で蓋がされていた例が知られる。

台地東側斜面地は、段状遺構のほか、土坑などが掘削され、集落縁辺部に建物に付随する施設が設置されている。これらの遺構が埋没する際に生じる凹地からは多量の土器が出土しており、台地頂部の集落中心部より斜面側に向かって投棄されたものと考える。

このように台地東側斜面については積極的な土地利用が行われている反面、台地中央より西側は遺構が非常に希薄である。これについては、厳しい冬の北西の季節風から集落を守る防風林を意図した森があった可能性が指摘されている（註4）。堅穴建物1は入り口が東向きであった可能性があり、仮にその場合も強い季節風への対策である可能性もあろう。そのほかには、集落の空閑地、あるいは耕作地などであった可能性なども考えられる。いずれにしても、台地中央より西側は居住域とは異なるエリアが広がっていたことは明らかである。

遺物は、赤彩土師器皿・壺、須恵器皿・壺のほか、土師器甕や移動式甕や土製支脚といった炊飯具が多く出土している。土製支脚は鳥取県中部を中心にみられる形態であり、岩橋分類III-C類に相当する（岩橋2010）。類例としては倉吉市福田寺遺跡例が知られるほか、旧因幡国の西側に位置する青谷

横木遺跡のほか、常松大谷遺跡などで出土例があり、少なくとも旧気多郡内には広がりが認められる。そのほか製塙土器も一定量認められるが、すべて小片の状態で出土している。土器使用時に破碎した影響によるものと想定しているが、詳細は不明である。堅穴建物3からは曲刃鎌(F1)、堅穴建物4からは刀子(F2)といった鉄器が出土したほか、堅穴建物5や745土坑などでは鉄滓が出土している。遺跡内に鍛冶炉は検出されていないが、遺跡周辺で小鍛冶が行われていた可能性はある。

日常で使う土器や道具類のほかには、祭祀遺物である土馬が1・2区から出土し、図化したものが7点、図化できなかった小片が2点、また市教委調査区より1点の計10点が出土している。これらはすべて破片で出土しており、色調、形状から判断し複数個体からなる。すべて遺構から遊離した状態で出土しており、1・2区から出土したものについては、建物集中エリアから出土したものと遺構が希薄なエリアから出土したものがある。これらの出土状況を整理することにより集落内における祭祀場の復原を試みたが、資料数も少なく、明確にはできていない。

また、転用硯が4点(Po143・155・233・243)出土している。本遺跡は伯耆国守まで直線距離で約1.6kmであり、国府川を挟んだ対岸に国守がある地域を目視できる環境にある。転用硯のみで論を飛躍するのは慎ましいが、集落内に下級役人が居住していた可能性は想定しておきたい。

中世から近世初頭

当該期の遺構としては、市教委により実施された調査において中世後期から近世初頭に帰属する木棺墓1基(1号墓)、溝2条が検出されている。1号墓の被葬者は屈葬で埋葬され、若年から壮年前半の女性と鑑定されている。北宋銭6枚と数珠とみられる木製小玉が副葬され、墓上には土師器皿が供獻され、棺を固定していた釘が出土している。

その他、1区I層より、13世紀中頃に比定される手づくね成形の土師器が1点出土している。遺構・遺物とも希薄であり、当該期を最後に遺跡の痕跡は認められなくなる。

2 飛鳥時代から平安時代の建物の変遷

ここまで遺跡内における時期ごとの変遷を整理してきたが、次に本遺跡の盛期である飛鳥時代から平安時代に焦点をあて、当該期の建物の変遷について検討を行うことで、集落の様相に迫りたい。

遺跡内に検出した建物は、建物が集中してみつかった1~3区の出土土器から判断し、飛鳥時代から平安時代のものである可能性が高いが、建物から出土した遺物が少なく、建物の帰属時期が明確にできないものが多い。そこで、建物の変遷を検討するにあたり、建物の主軸、建物の先後関係、建物の出土遺物を合わせて検討し、グルーピングを試みる(第160図)。

本遺跡で検出した建物(堅穴建物・掘立柱建物)の主軸は $2^{\circ} \sim 59^{\circ}$ 東偏(註5)、 2° 東偏する掘立柱建物42を除き(註6)、 $15^{\circ} \sim 59^{\circ}$ の中にすべて収まるが、その数値にはまとまりはなく、明確にグループ化することはできない。しかしながら、平面図上では天神野台地を縦断する県道237号線の軸に沿うグループ(①： $25^{\circ} \sim 42^{\circ}$ 東偏)と、県道より西偏するグループ(②： $15^{\circ} \sim 25^{\circ}$ 東偏)、県道より東偏するグループ(③： $43^{\circ} \sim 59^{\circ}$ 東偏)の大きく3つのグループがあることが推察できる。そこで、この緩やかなまとまりについて建物の先後関係と出土遺物の帰属時期を検討した結果、建物の主軸が①→②→③の順に変遷することが確認できた。もちろん、主軸の数値は大きくばらつき、他のグループとの数値に差がないものがあることから正確なデータとはいえないものの、大まかな方向性として捉えることは可能と考える。主軸の数値にまとまりがみられない理由としては、集落であるため、官衙の

第73表 小鶴道祖神遺跡建物変遷表（1）

グループ名	建物名	建物の区分	主着力点	建物の北側面	出土遺物から考案された建物の変遷時期				
					丁世紀前半	丁世紀後半	壬世紀前半	壬世紀後半	辛世紀前半
①	飯之柱建物9	橈柱建物	N-2'-E						
②	飯之柱建物11	橈柱建物	N-15'-E						
③	飯之柱建物23	橈柱建物	N-16'-E						
④	飯之柱建物26	橈柱建物	N-16'-E	飯之柱建物26・27 先後関係不明					
⑤	壁穴建物2a	6A-7a・31-E (N-16'-E)							
⑥	飯之柱建物17c	橈柱建物	N-19'-E						
⑦	飯之柱建物17d	橈柱建物	N-19'-E						
⑧	飯之柱建物18	橈柱建物	N-20'-E						
⑨	飯之柱建物13	橈柱建物?	N-20'-W (N-21'-E)						
⑩	壁穴建物2a	6A-7a・31-E (N-21'-E)							
⑪	飯之柱建物2	橈柱建物	N-22'-E	飯之柱建物8→ 飯之柱建物2					
⑫	飯之柱建物3	橈柱建物	N-22'-E						
⑬	飯之柱建物4d	橈柱建物?	N-22'-E						
⑭	飯之柱建物4e	橈柱建物?	N-22'-E						
⑮	飯之柱建物6	橈柱建物	N-22'-E	飯之柱建物8→ 飯之柱建物6					
⑯	飯之柱建物17a	橈柱建物	N-22'-E						
⑰	飯之柱建物17b	橈柱建物	N-22'-E						
⑱	飯之柱建物21	橈柱建物	N-22'-E	飯之柱建物20→ 飯之柱建物21					
⑲	飯之柱建物30	橈柱建物	N-22'-E						
⑳	飯之柱建物38	-	N-24'-E						
㉑	飯之柱建物1	橈柱建物	N-25'-E						
㉒	飯之柱建物8	橈柱建物	N-25'-E	飯之柱建物8→ 飯之柱建物2					
㉓	壁穴建物1	6A-5a・4a (N-45'-W)							
㉔	飯之柱建物4b	橈柱建物	N-26'-E						
㉕	飯之柱建物4c	橈柱建物	N-26'-E						
㉖	飯之柱建物20	橈柱建物	N-26'-E	飯之柱建物20→ 飯之柱建物21・22					
㉗	飯之柱建物31	橈柱建物	N-26'-E	飯之柱建物31・32先 後関係不明					
㉘	飯之柱建物34a	-	N-26'-E						
㉙	飯之柱建物40a	-	N-26'-E	飯之柱建物39・40先 後関係不明					
㉚	飯之柱建物4a	橈柱建物	N-28'-E						
㉛	飯之柱建物14	橈柱建物	N-28'-E						
㉜	飯之柱建物7b	橈柱建物	N-29'-E						
㉝	飯之柱建物7c	橈柱建物	N-29'-E						
㉞	飯之柱建物34b	-	N-29'-E						
㉟	飯之柱建物39	-	N-29'-E	飯之柱建物39・40先 後関係不明					
㉟	飯之柱建物15	橈柱建物	N-30'-E	飯之柱建物28→ 飯之柱建物15					
㉟	飯之柱建物12a	橈柱建物	N-31'-E	飯之柱建物20→ 飯之柱建物12					
㉟	飯之柱建物12b	橈柱建物	N-31'-E						
㉟	飯之柱建物27	橈柱建物	N-31'-E	飯之柱建物26・27先 後関係不明					
㉟	飯之柱建物32	橈柱建物	N-31'-E	飯之柱建物31・32先 後関係不明					
㉟	飯之柱建物36	-	N-32'-E						
㉟	飯之柱建物7a	橈柱建物	N-33'-E						
㉟	飯之柱建物28	橈柱建物	N-33'-E	飯之柱建物26→ 飯之柱建物15					
㉟	飯之柱建物40b	-	N-33'-E	飯之柱建物39・40先 後関係不明					
㉟	飯之柱建物5b	橈柱建物	N-36'-E	飯之柱建物5→ 飯之柱建物6・9					
㉟	飯之柱建物37	-	N-36'-E						
㉟	壁穴建物5	6A-6a・6d (N-36'-E)	S-54'-W						
㉟	飯之柱建物5a	橈柱建物	N-37'-E	飯之柱建物5→ 飯之柱建物6・9					

第74表 小鴨道祖神遺跡建物変遷表（2）

グループ名	建物名	建物の区分	主導方針	建物の先端開拓	出土遺物から考えられる建物の帰属時期				
					7世紀前半	7世紀後半	8世紀前半	8世紀後半	9世紀前半
①	掘立柱建物35	-	N-37'-E						
②	堅穴建物3	6A-4c・5c	N-38'-E (N-52'-W)						
③	堅穴建物4	6A-6c・7c	N-38'-W (N-37'-E)						
④	掘立柱建物29	無柱建物	N-38'-E						
⑤	掘立柱建物5c	無柱建物	N-40'-E	掘立柱建物5→ 掘立柱建物6・9					
⑥	掘立柱建物5d	無柱建物	N-41'-E	掘立柱建物5→ 掘立柱建物6・9					
⑦	掘立柱建物41	無柱建物	N-42'-E						
⑧	掘立柱建物10	無柱建物	N-43'-E	掘立柱建物5→ 掘立柱建物10					
⑨	掘立柱建物16	無柱建物	N-44'-E	堅穴建物5→ 掘立柱建物16					
⑩	掘立柱建物24	無柱建物	N-45'-E						
⑪	掘立柱建物19	無柱建物	N-49'-E	掘立柱建物19→ 掘立柱建物10					
⑫	掘立柱建物22	無柱建物	N-50'-E						
⑬	掘立柱建物33a	無柱建物	N-50'-E						
⑭	掘立柱建物33b	無柱建物	N-50'-E						
⑮	掘立柱建物33c	無柱建物	N-52'-E						
⑯	掘立柱建物33d	無柱建物	N-52'-E						
⑰	掘立柱建物25a	無柱建物	N-59'-E						
⑱	掘立柱建物25b	無柱建物	N-59'-E						

のような規格的な造営がなされていないことと、建物は概ね等高線に直行、または平行して建てられたものと考えるが、台地上の平坦面に集落が形成されたため、地形による規制が緩やかであったことが影響しているものと想定している。

いずれにしても、飛鳥時代から平安時代において、集落内の建物の主軸は大きく3段階の変遷があることはほぼ確実とみられ、その場合、出土遺物から考えられる帰属時期は概ね①グループの建物が7世紀の中頃から8世紀前半、②が7世紀後半から8世紀前半、③が8世紀後半から9世紀に帰属し、堅穴建物は③の段階ではみられなくなり、掘立柱建物のみで構成される集落へと変化することが読み取れる。また、グループ①には掘立柱建物5・7に代表される、規模が大きな柱穴で構成される掘立柱建物が多いことも特徴として上げられる。

第2項 小鴨道祖神遺跡とドウタ平遺跡の建物群

1 ドウタ平遺跡の概要

前述のとおり、天神野台地上には本遺跡と同時期の集落が営まれるドウタ平遺跡が近接して位置する。堅穴建物と掘立柱建物が検出されるなど、集落構造も近似する。そこで、本遺跡とドウタ平遺跡の調査成果を比較検討することにより、本遺跡の理解を深める一助としたい。

ドウタ平遺跡は平成25～27年度に南北の2地区において調査が実施されている。平成25・26年度は南側の地区、平成27年度は北側の地区が調査対象となり、南側の地区では7世紀から9世紀の集落跡（居住域）、北側では終末期古墳（7世紀後半）が検出されるなど、当該期の墓域である可能性を考えられる。

居住域と考えられる南側の地区では堅穴建物6棟と掘立柱建物15棟が検出されている。建物は調査

区西側の緩斜面と東側の平坦面に集中し、調査区中央は希薄である。堅穴建物は平面方形の堅穴とみられ、主軸は43~63°東偏する。床面には上屋を支える柱穴が確認されているほか、周壁溝や土坑が検出されたものも認められる。小鴨道祖神遺跡の堅穴建物では上屋を支える柱は検出されておらず、ドウタ平遺跡とは堅穴建物の構造が異なる。出土遺物は7~8世紀前半の須恵器が主体となる。

掘立柱建物は側柱建物で構成され、総柱建物は確認されていない。桁行は3間、4間のものが主体をなし、主軸は25~65°東偏する。調査者により、掘立柱建物の主軸が①20~30°東偏するもの(13・15号掘立柱建物)、②30~40°東偏するもの(11・14号掘立柱建物)、③49~60°東偏するもの(2・4・6~8・12号掘立柱建物)の3つのグループингがなされているが、「調査区が狭小であり、遺構に伴う遺物も少ないとから、今回の調査成果をもって、丘陵上での建物群の時期や変遷については論じることは難しい(註7)」とされる。遺物は濃赤色の丹塗り土師器(14号掘立柱建物出土)、伯善国序編年第2段階の土師器(1・4・7・11号掘立柱建物)、丹塗りの施されない土師器(12号掘立柱建物出土)が出土したとされ(註8)、掘立柱建物の帰属時期はある一定の時期幅があるものとみられる。

なお、廂付建物と評価される14号掘立柱建物は、単独の建物と報告されているが、柱穴の土層断面図上では建て替えが行われた可能性が指摘できる。14号掘立柱建物の平面プランは小鴨道祖神遺跡掘立柱建物25と類似しており、建物構造が不明な本遺跡掘立柱建物25を評価するにあたり、貴重な手がかりと考える。ドウタ平遺跡14号掘立柱建物については、建て替えの有無とともに、廂付建物と捉えるか否かについても再度検討を要する資料と考える。

北側の地区においては、ドウタ平1号墳、帰属時期が不明な土壙2基(1号土壙・2号土壙)が検出されており、墓域と想定されている。1号墳は墳形、規模は不明ではあるが、横穴石室であることが確認されている。須恵器壺身、甕、平瓶などが出土し、7世紀後半の築造と考えられている。土壙については、1号土壙は形態的に木棺墓の可能性が指摘されており、1・2号土壙とも遺物は出土していない。

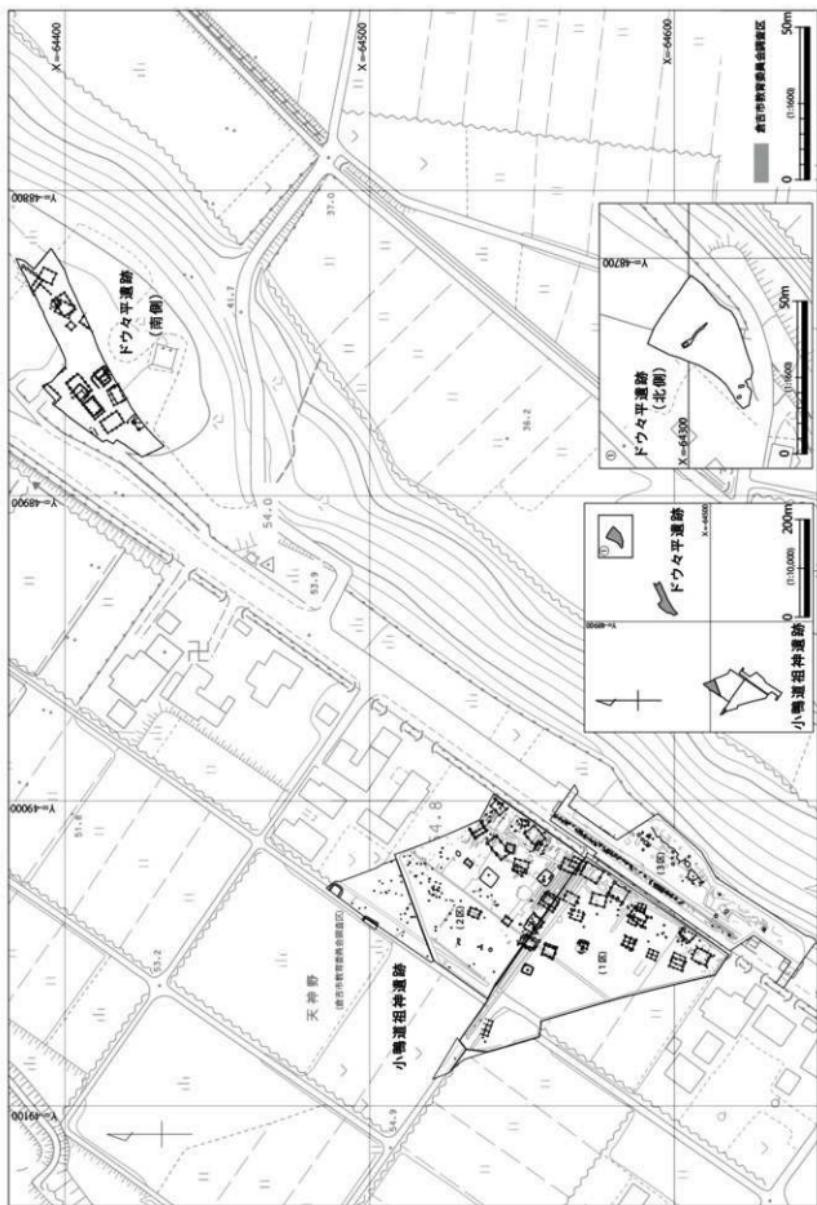
2 小鴨道祖神遺跡とドウタ平遺跡

では、7世紀後半から9世紀代における本遺跡とドウタ平遺跡の調査成果について比較検討してみたい。

1) 居住域

両遺跡とも建物はほぼ同規模であり、類似する構造の建物もみられる(註9)。建物の建て替えを行いつつ集落が変遷していくことが推察でき、一定の空閑地を設けながら、集落が形成されている。このように類似する点がみられる反面、ドウタ平遺跡の掘立柱建物には総柱建物がみられず、側柱建物のみで構成される点に違いが認められる。

また、建物の主軸については、堅穴建物は本遺跡では16~38°東偏するのに対し、ドウタ平遺跡では43~63°東偏し、数値にかなり差があるほか、ドウタ平遺跡の掘立柱建物には0~24°東偏するものが認められないことも相違点となる。両遺跡とも主軸により建物の変遷を明らかにすることは困難な状況であり、これにより多くの情報は引き出せないものの、両遺跡の掘立柱建物に限定するならば、43°以上東偏するものについては、8世紀後半以降9世紀代といった、比較的新しい段階に帰属するグループである可能性は高いのではなかろうか。



第161図 小鴨道祖神・ドウカキ平遺跡遺構位置図

第75表 ドウタ平遺跡堅穴建物計測表

建物名 (東北座標名)	地区 T45-5	主軸	建物の規模 (m)			堅穴の厚さ (cm)	面積 (m ²)	備考
			長軸	短軸	深さ			
1号堅穴建物	41.0m	N-49°-E	[南-北] 約4.0	[東-西] 約3.0	0.20	-	10.5	堅壁器（漆・縫もしくは板脚）が地上、柱穴はなく中央に土坑（直径2.5m、相津1.84m、深さ0.4m）。
2号堅穴建物	5d-1b-1c- 2b-3a	N-43°-E	[東-西] 約2.2	[南-北] 約1.3	0.12	-	4.13±1.	北西部に調査区分。堅壁器が出土。
3号堅穴建物	5d-1b	N-39°-E	[東-西] 約3.1	[南-北] 約1.1	-	9	23.6±1.	南東部に調査区分。堅壁器（漆床・漆・板・縫）の小片が出土。
4号堅穴建物	5d-1c- 1g-2g	N-48°-E	[南-北] 約7.1	[東-西] 約6.5	0.26	4	39	南東部に調査区分。 中央に土坑（直径1.6m、相津0.88m、深さ0.12m）。
5号堅穴建物	5d-1g	N-43°-E	[東-西] 約6.2	[南-北] 約5.2	0.10	-	29	堅壁器が出土。
6号堅穴建物	5d-1e	N-43°-E	[東-西] 約4.0	[南-北] 約2.2	0.10-0.08	-	-	堅壁器が出土。 堅穴の側へ込みおり別壁器は未確認。柱穴を4本検出。

第76表 ドウタ平遺跡掘立柱建物計測表

建物名	建物区分	地区T45-5	規模 (m)		面積 (m ²)	主軸方位	造跡	備考
			東西	南北				
1号掘立柱建物	側柱建物	5d-2b	4周 (6.5)	3周 (4.5)	29	N-32°-W (N-32°-E)	丹遣り土師器・漆の小片	
2号掘立柱建物	側柱建物	5d-2g-1g	3周 (5.0)	2周 (3.0) (約2.43±1.)	-	N-56°-E	土師器皿の小片・上堅土筒	南側は調査区分。
3号掘立柱建物	側柱建物	5d-2g-2b	3周 (北側の5.3) - 南側の5.2	3周 (4.0)	23	N-45°-E	土師器皿の小片	3号掘立柱建物→2号掘立柱建物。
4号掘立柱建物	側柱建物	5d-1c-2g-1g-2g	3周 (3.9)	2周 (3.2)	12	N-57°-E	丹遣り土師器・土師器皿の小片	4号掘立柱建物→5号掘立柱建物。
5号掘立柱建物	側柱建物	5d-2f	2周 (2.9)	1周 (2.5)	-	N-36°-W (N-54°-E)	土師器皿の小片	4号掘立柱建物→5号掘立柱建物。
6号掘立柱建物 A	側柱建物	5d-1g-2g-1b-2b	4周 (北側約5.3) - 南側約5.2	3周 (東側約3.9) - 西側約3.8	22	N-56°-E	土師器皿・柱脚式壺の小片	6号掘立柱建物→7号掘立柱建物。
	B	側柱建物	5d-1g-2g-1b-1b	4周 (北側約5.0) - 南側約4.9	3周 (東側約3.9) - 西側約3.8	23	N-57°-E	土師器皿・柱脚式壺の小片
7号掘立柱建物	側柱建物	5d-2f-2g-1b-2b	更幅4周 (約6.2) 西側4周 (約6.2)	3周 (3.9)	24	N-49°-E	丹遣り土師器の小片	6号掘立柱建物→7号掘立柱建物。
8号掘立柱建物 A	側柱建物	5d-1f-1g	4周 (北側約7.2) - 南側約6.5	3周 (東側約5.6) - 西側約4.6	36	N-50°-E	土師器皿の小片	8号掘立柱建物A→B。
	B	側柱建物	5d-1f-1g	4周 (約7.2)	3周 (5.0)	36	N-57°-E	土師器皿の小片
9号掘立柱建物	側柱建物	4d-10g	4周 (約6.3)	2周 (東側約3.9) (西側約5.0)	15.5±1.	N-45°-E	-	北～東側は調査区分。
10号掘立柱建物	-	4d-10f-5d-1f	-	-	-	N-37°-W (N-55°-E)	-	建物の入手は調査区分。
11号掘立柱建物	-	5d-1e	-	-	-	N-36°-E	丹遣り土師器の小片	建物の南側は調査区分。
12号掘立柱建物	側柱建物	4d-10d-3de-5d-1e	4周 (東側約6.4) - 南側約6.3	3周 (4.4)	28	N-59°-E	土師器皿・柱脚式壺の小片	15号掘立柱建物→12号掘立柱建物。
13号掘立柱建物	側柱建物	4d-10e-10d	3周 (東側約6.5) - 西側約5.0	2周 (3.9)	19	N-25°-E	土師器皿の小片	14号掘立柱建物→13号掘立柱建物。
14号掘立柱建物	側柱建物	4d-9c-9d-10c-10d	堅穴全体	建物全体	-	丹遣り土師器・土師器皿・ 柱脚式壺の小片	14号掘立柱建物→13号掘立柱建物。 堅穴付近と報告されている (註10)。	
	A	側柱建物	4d-10d-10e-5d-1e	5周 (約6.3) - 身糞のみ	34	N-36°-E	丹遣り土師器・土師器皿・ 柱脚式壺の小片	14号掘立柱建物→13号掘立柱建物。 堅穴付近と報告されている (註10)。
15号掘立柱建物	側柱建物	4d-10d-10e-5d-1e	4周 (約6.3)	3周 (4.2)	21.8	N-25°-E	土師器皿の小片	15号掘立柱建物→12号掘立柱建物。
16号堅明	-	4d-10d	-	-	-	N-44°-E	丹遣り土師器の小片	14号堅明。

2) 墓域

当該期の墳墓はドウタ平遺跡のみで確認されているものの、両遺跡における集落の形成時期や地理的な位置関係を考えれば、ドウタ平1号墳は本遺跡とも深く関わりをもつ可能性があろう。本遺跡において下級役人が存在していた可能性について言及したが、ドウタ平1号墳の存在はその蓋然性を高める。土塙墓については帰属時期が不明ではあるが、当該期の遺構であれば、両遺跡の集団墓の可能性があろう。いずれにしても、ドウタ平遺跡北側のエリアが両集落の墓域の候補地となる可能性は高い。

第3項まとめ

小鴨道祖神遺跡とドウタ平遺跡が位置する倉吉市北野・小鴨の天神野台地上には、7世紀中頃から9世紀代の集落が営まれ、堅穴建物と掘立柱建物で構成される集落から、8世紀後半以降には掘立柱

建物のみで構成される集落へと変化したことが窺われる。集落内では建物廃絶時における祭祀や土馬を使用した祭祀が行われるなど、当地における生活様式も垣間見える。

また、本遺跡は一般的な集落ではあるものの、僅ながら文字関連資料(転用硯)が出土しており、ドウタ平1号墳の被葬者を想定する上で、新たな手がかりが得られたものと考える。倉吉市に伯耆国府が置かれた時期において、天神野台地上にこれだけの規模の集落が確認されたことは、当地の歴史を明らかとする上で貴重な調査例といえるだろう。

なお、調査成果をまとめにあたり、遺跡内から抽出した情報は積極的に報告するよう努めた反面、やや前のめりな報告となつたきらいがある。明確にできなかつた点も多く、課題が残る。本遺跡周辺部では引き続き発掘調査が行われる予定となっており、その成果を待つて、改めて本遺跡を評価する機会を待ちたい。

註

- 1) 新編倉吉市史編集委員会 1996『新編倉吉市史 第一巻 古代編』P395
- 2) 山中敏史ほか 2003『古代の官衙遺跡 I 遺構編』P148 独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所 7世紀から10世紀の建物を対象に研究されており、集落遺跡では小型の建物の比率が大きく、大型建物が検出される例はほとんどないとされている。
- 3) 小林桃子 2004『第6章 第7節 弥生時代遺構出土桃核についての一考察』『茶畠遺跡群 古御堂並尾山遺跡 古御堂新林遺跡』鳥取県教育文化財団
- 4) 令和元年度の調査指導において、眞田廣幸氏より「小鶴道根神遺跡は台地上に立地する遺跡であり、地形的には風が吹き抜ける(風が強い)ことが想定でき、防風林の役目を果たすような林や森があった可能性が考えられる。台地平坦面北西側は遺構が希薄であり、そのような土地利用がなされていた可能性も考えられるのではないか」との指導をいただいた。
- 5) 主軸の比較を容易にするため、数値は北東-南西方向ラインを軸とする。よって、堅穴建物は堅穴の北東-南西方向の辺、掘立柱建物は北東-南西方向の柱筋の数値を比較することとする。
- 6) 掘立柱建物42については、主軸の数値が1棟だけ大きくなっていることから、検査対象から除去することとした。掘立柱建物42は調査区間に検出しており、建物全体を検出できていない可能性もある。
- 7) 势村茉莉子・小田芳弘ほか 2016『ドウタ平遺跡発掘調査報告書』倉吉市教育委員会、P28
- 8) 註7 P27
- 9) 小鶴道根神遺跡掘立柱建物25とドウタ平遺跡14号掘立柱建物
- 10) 小鶴道根神遺跡掘立柱建物25と同様の構造の建物である可能性が考えられる。

参考文献

- 土井珠美・根鈴輝雄 1986『觀音堂遺跡発掘調査報告書』倉吉市教育委員会
 森下哲哉ほか 1998『福田寺遺跡発掘調査報告書(2次調査)』倉吉市教育委員会
 八咲興・梅村大輔 2018『第5章出土遺物 第1節土器・土製品』『青谷横木遺跡II遺物編』鳥取県埋蔵文化財センター
 西山昌孝 2015『第3章 1-1区の調査 第4節 包含層出土遺跡』『常松大谷遺跡I』鳥取県教育委員会

図版





1 調査地遠景(北西から:平成29年撮影)



2 調査地遠景(南東から:令和元年撮影)

図版 2



1 調査地近景(南東から:平成29年撮影)



2 調査地近景(北西から:令和元年撮影)



1 調査前の状況(東から:平成29年撮影)



2 調査前の状況(北西から:平成29年撮影)

図版 4



1 1区(南東側)完掘状況(北西から)



2 1区(北西側)完掘状況(北西から)



1 2区完掘状況(北西から)



2 3区完掘状況(南西から)

図版 6



1 3区(南西側)完掘状況(北東から)



2 3区(南西端)完掘状況(南東から)



1 1区南東側
(B断面南東側)
堆積状況(北西から)



2 1区北西侧(C断面)
堆積状況(南東から)



3 1区北西侧(D断面)
堆積状況(西から)

図版 8



1 1区東側(A断面)
堆積状況(北東から)



2 2区南西側(A断面)
堆積状況(北東から)



3 2区北東側(A断面)
堆積状況(南から)





1 豊穴建物 1 完掘状況(北西から)



2 豊穴建物 1 検出状況(北西から)



3 P 2(炉跡)完掘状況(南東から)



4 周壁溝土層断面(北西から)



5 P 1 土層断面(北東から)



1 土層断面(北から)



2 土層断面(南から)

図版 12

竪穴建物 2



1 竪穴建物 2b 完掘状況(北から)



2 竪穴建物 2b 土層断面(南西から)

竪穴建物
2



1 竪穴建物2b 貼床検出状況(北西から)



2 竪穴建物2b 貼床断ち割り状況(西から)



1 竪穴建物 2a 完掘状況(北西から)



2 竪穴建物 2a 床面検出状況(北西から)



1 完掘状況(北西から)



2 土層断面(南から)

図版 16

堅穴建物 3



1 NEベルト土層断面(北西から)



2 SEベルト土層断面(西から)



3 P 1(炉跡)検出状況(北東から)



4 N区遺物(Po 5)出土状況(南から)



5 N区遺物(Po10、CP 1他)出土状況(東から)



1 完掘状況(北東から)



2 SE・SWベルト土層断面(北西から)

図版 18

堅穴建物 4



1 NEベルト土層断面(西から)



2 貼床(708土坑上面部分)検出状況(南西から)



3 炉跡被覆土土層断面(南西から)



4 炉跡検出状況(南西から)



5 完掘状況(北東から)



1 完掘状況(北東から)



2 土層断面(西から)

図版 20

堅穴建物 5



1 P 2 (炉跡) 被覆土層断面(南から)



2 P 2 (炉跡) 検出状況(南から)



3 N 区遺物出土状況(北から)



4 E 区遺物(Po20他)出土状況(東から)



5 E 区床面直上遺物(Po20他)出土状況(南から)



6 S 区床面直上遺物(Po16他)出土状況(東から)



7 W 区床面直上遺物(Po16)出土状況(北西から)



8 床面(中央部)直上遺物出土状況(北から)



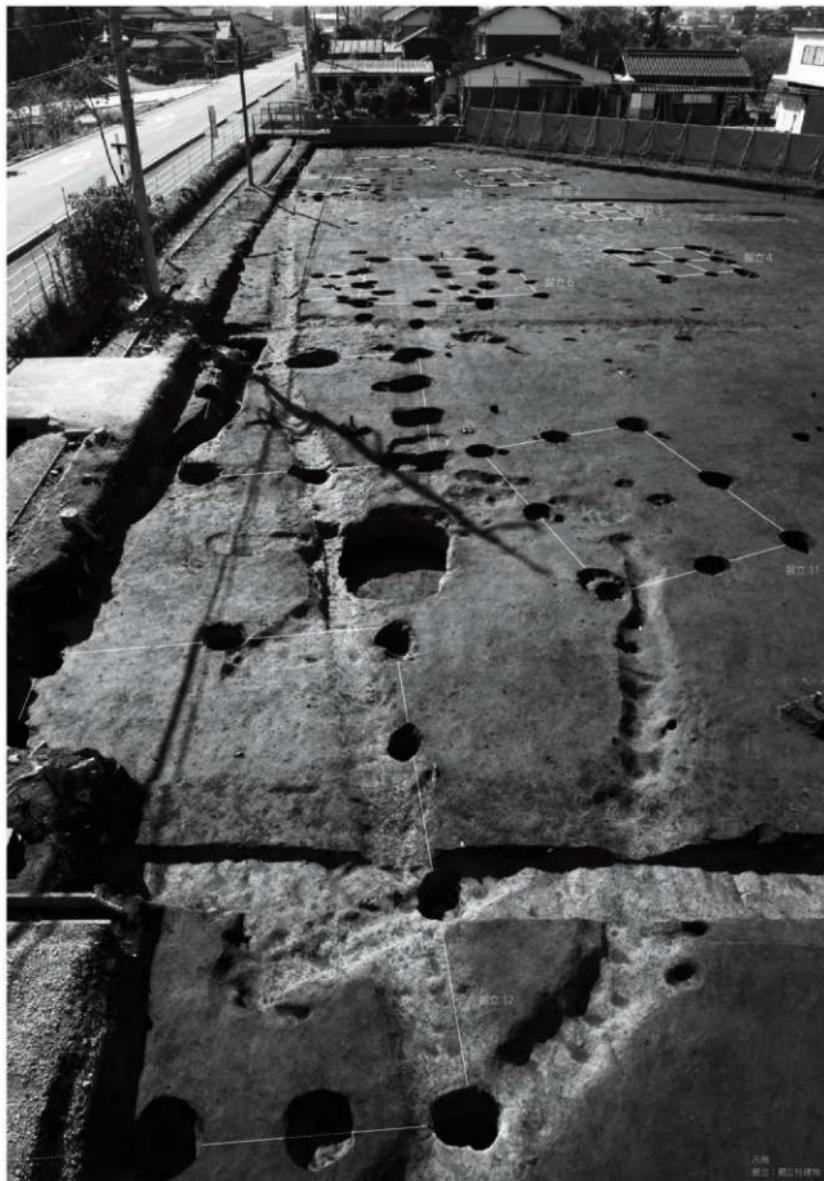
1 床面直上遺物出土状況(北東から)



2 床面(中央部)直上遺物(Po28、CP 4他)出土状況(西から)

図版 22

掘立柱建物 1 ~ 12 · 19



掘立柱建物 1 ~ 12 · 19 完掘状況(北東から)

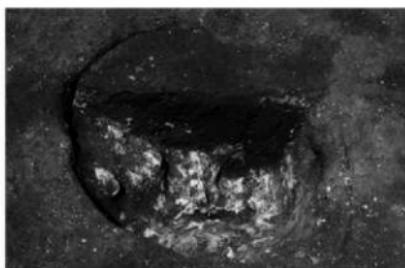
掘立柱建物
1



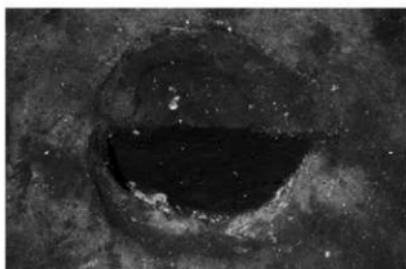
1 掘立柱建物 1 完掘状況(北東から)



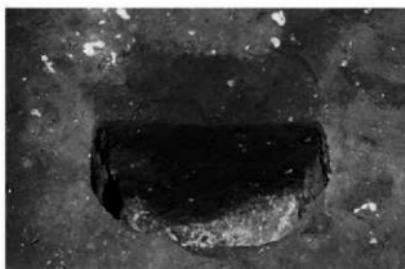
2 掘立柱建物 1 検出状況(北東から)



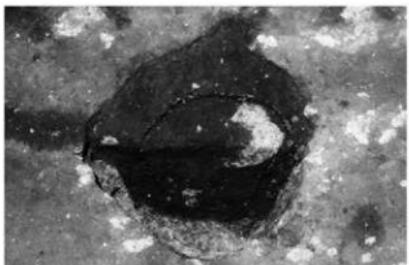
3 P 1 土層断面(南東から)



4 P 2 土層断面(南東から)



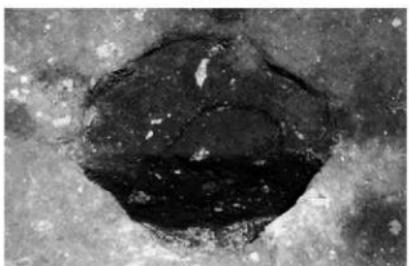
5 P 3 土層断面(南東から)



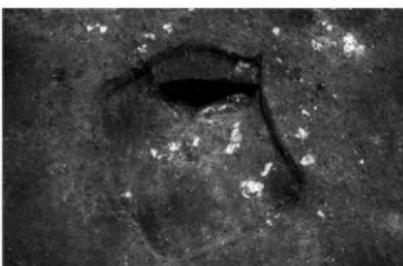
1 P 4 土層断面(南東から)



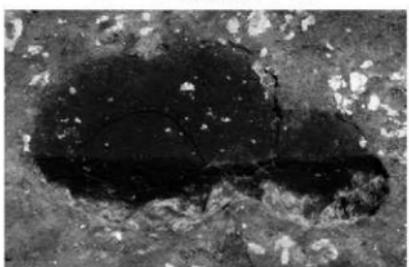
2 P 5、16ピット土層断面(北から)



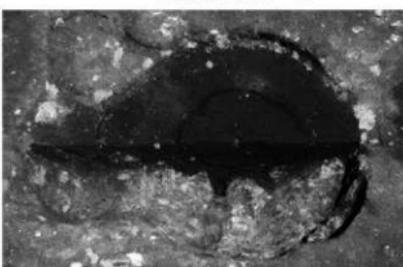
3 P 6 土層断面(南西から)



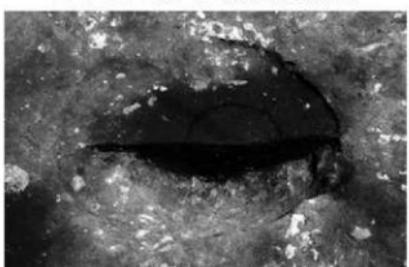
4 P 7 土層断面(北東から)



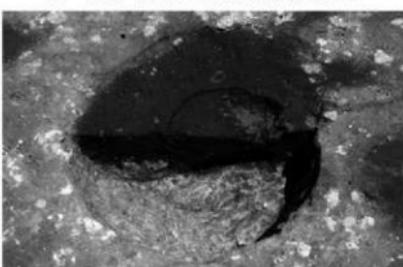
5 P 8、8ピット土層断面(南西から)



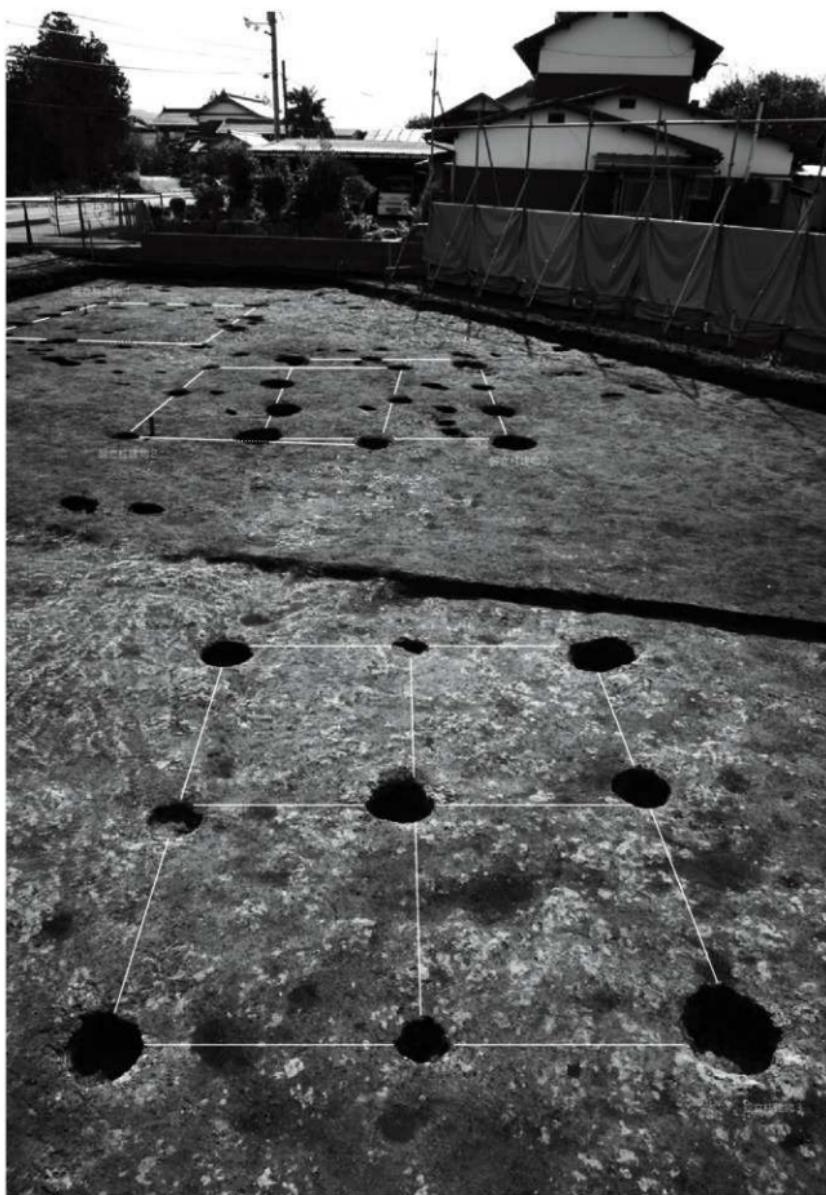
6 P 10、12ピット土層断面(南西から)



7 P 11・14土層断面(北西から)



8 P 12 土層断面(南西から)



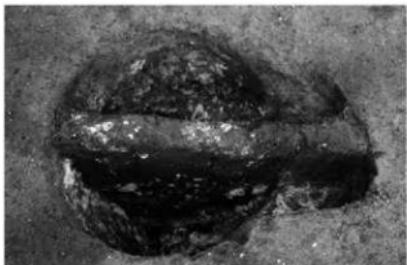
掘立柱建物 1 ~ 3 · 8 完掘状況(北東から)



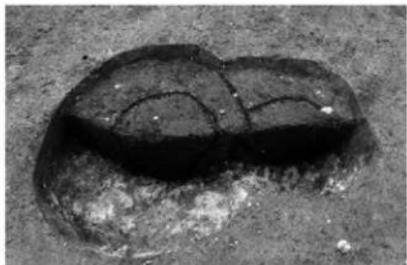
1 掘立柱建物 2・8 完掘状況(南西から)



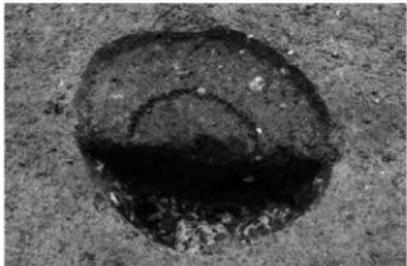
2 掘立柱建物 2・8 検出状況(南西から)



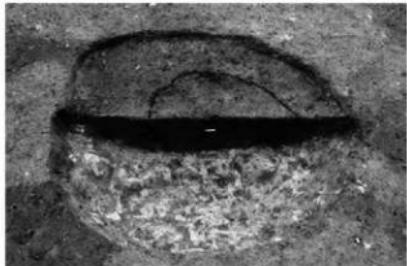
1 掘立柱建物 2 P 2、9 ピット土層断面(東から)



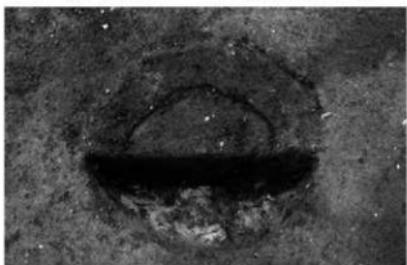
2 掘立柱建物 2 P 4、
掘立柱建物 8 P 5 土層断面(東から)



3 掘立柱建物 2 P 7 土層断面(北西から)



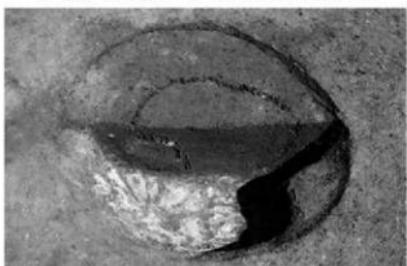
4 掘立柱建物 2 P 8 土層断面(北西から)



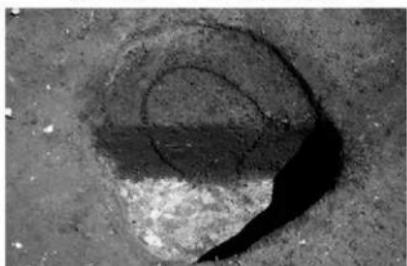
5 掘立柱建物 8 P 1 土層断面(南東から)



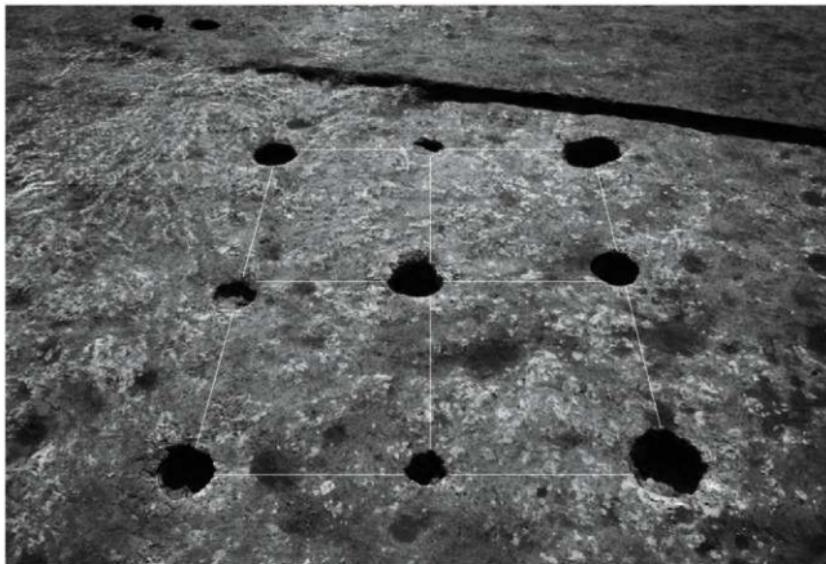
6 掘立柱建物 8 P 2 土層断面(南東から)



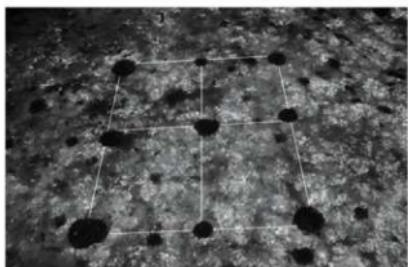
7 掘立柱建物 8 P 6 土層断面(北西から)



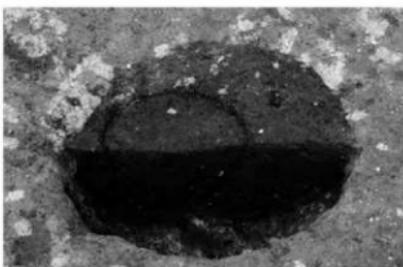
8 掘立柱建物 8 P 7 土層断面(北西から)



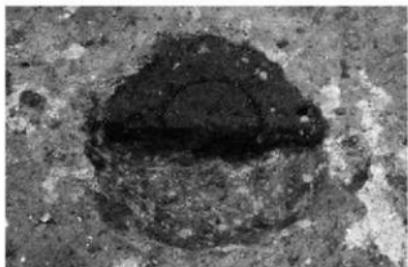
1 掘立柱建物 3 完掘状況(北東から)



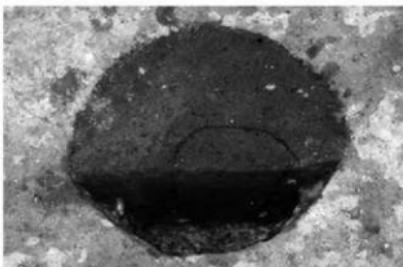
2 掘立柱建物 3 検出状況(南西から)



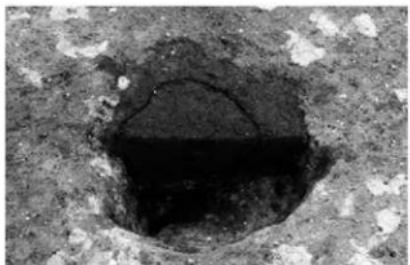
3 P 1 土層断面(南東から)



4 P 2 土層断面(南東から)



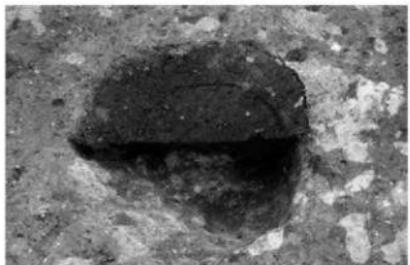
5 P 3 土層断面(南東から)



1 P 4 土層断面(北西から)



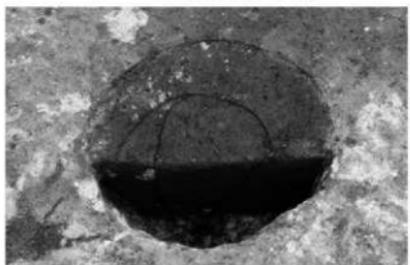
2 P 5 土層断面(北西から)



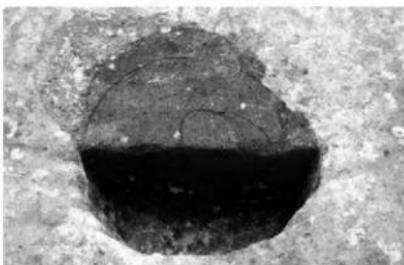
3 P 6 土層断面(北西から)



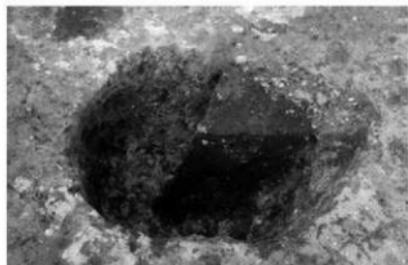
4 P 7 土層断面(北西から)



5 P 8 土層断面(北西から)



6 P 10 土層断面(北西から)



7 P 9・10 土層断面(南から)

図版 30

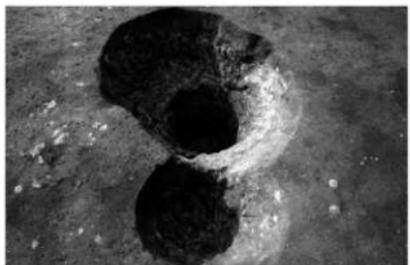
1区掘立柱建物・掘立柱建物4



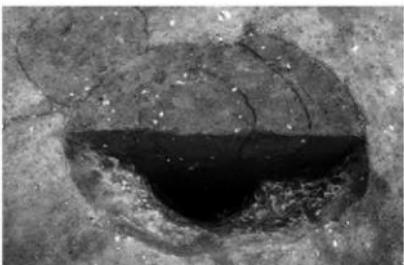
1 1区掘立柱建物 1~12・19 完掘状況(俯瞰)



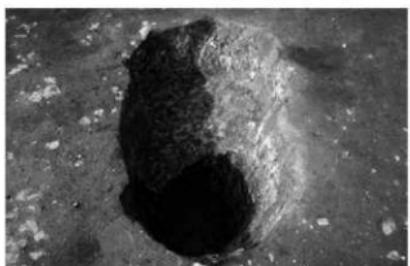
2 掘立柱建物4 完掘状況(北東から)



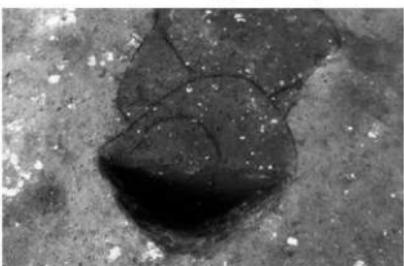
1 P 1・7・15完掘状況(北東から)



2 P 7・15土層断面(西から)



3 P 2・8・16完掘状況(南東から)



4 P 16土層断面(東から)



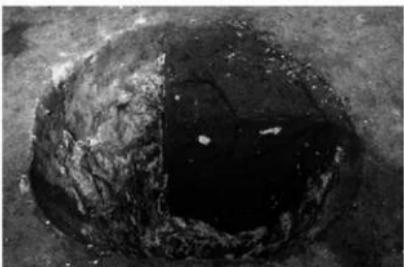
5 P 3・9・13・17・24完掘状況(南東から)



6 P 3・9・13・17・24土層断面(南西から)



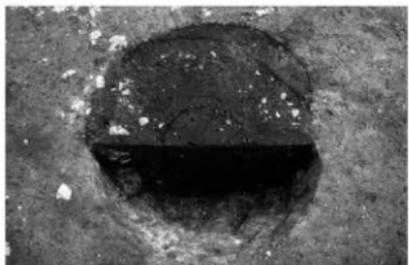
7 P 18・25土層断面(北西から)



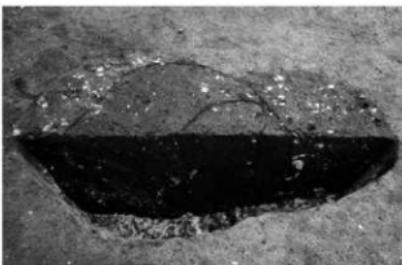
8 P 19・26土層断面(南西から)

図版 32

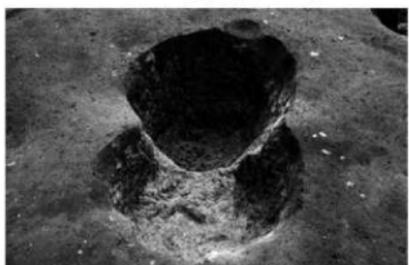
掘立柱建物
4



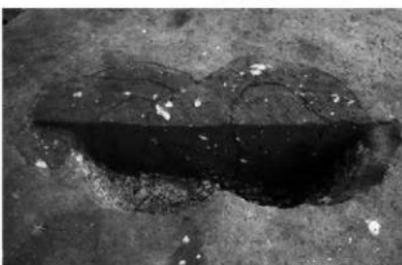
1 P27土層断面(北西から)



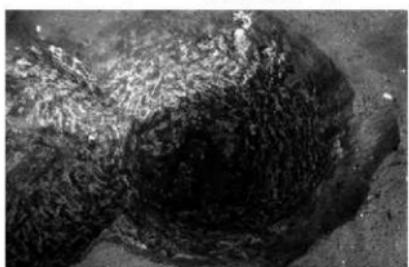
2 P4・10・21土層断面(北西から)



3 P5・11・22完掘状況(北から)



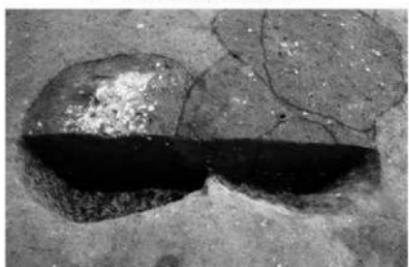
4 P11・22土層断面(西から)



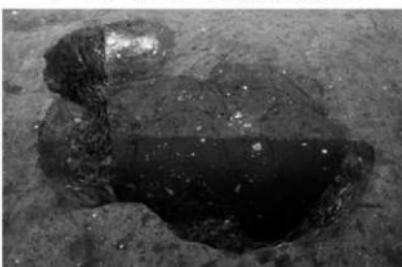
5 P22底面検出状況(西から)



6 P6・12・14・23完掘状況(北から)



7 P6・12土層断面(北西から)

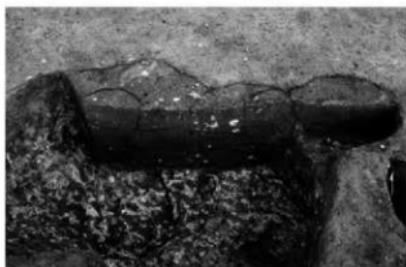


8 P12・23土層断面(南西から)

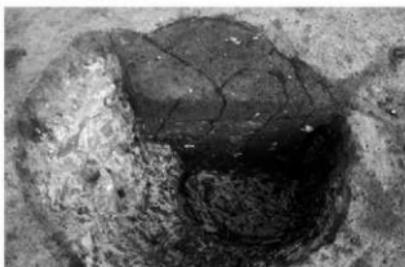
掘立柱建物
5・
6・
9



1 掘立柱建物 5・6・9 完掘状況(北東から)



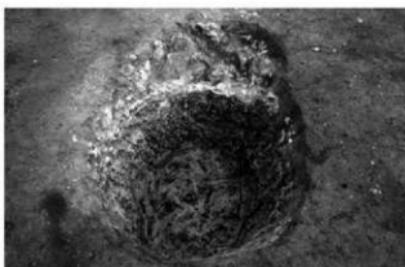
2 掘立柱建物 5 P 1・14、337ピット
土層断面(南西から)



3 掘立柱建物 5 P 4・11・23土層断面(南西から)



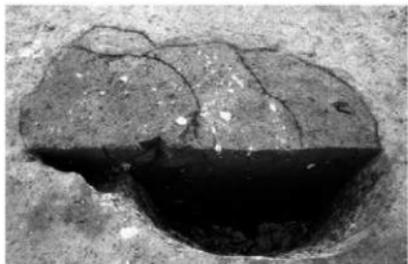
4 掘立柱建物 5 P 6・18土層断面(南東から)



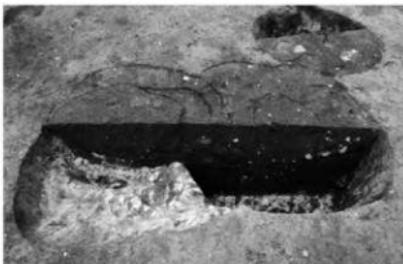
5 掘立柱建物 5 P 9・21完掘状況(南西から)

図版 34

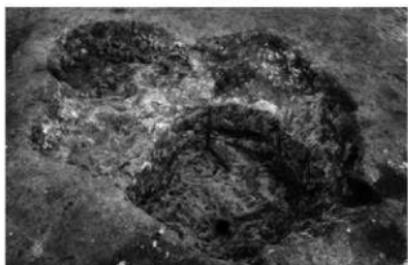
掘立柱建物
5



1 P9・21土層断面(北西から)



2 P12・19土層断面(北西から)



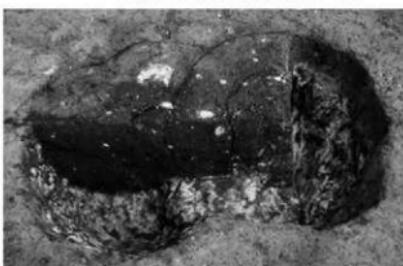
3 P10・13・22・24完掘状況(南西から)



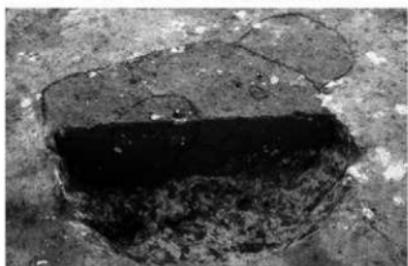
4 P24遺物(Po36)出土状況(北西から)



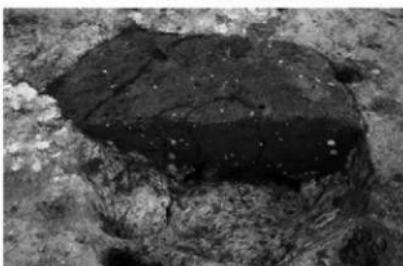
5 P10・13・22・24土層断面(南から)



6 P26・27土層断面(南西から)



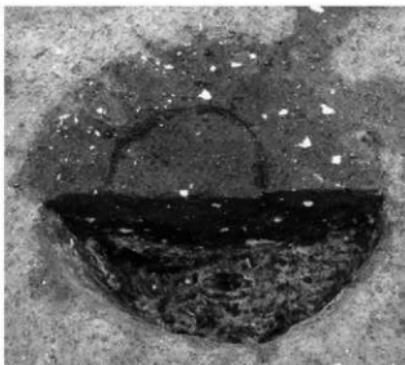
7 P29土層断面(北西から)



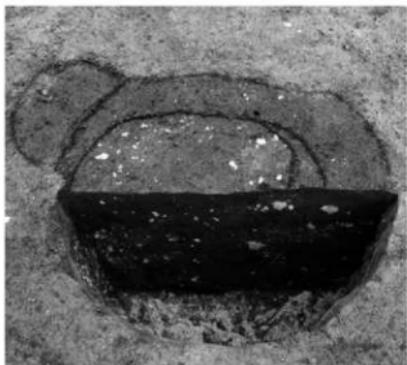
8 P30土層断面(南東から)



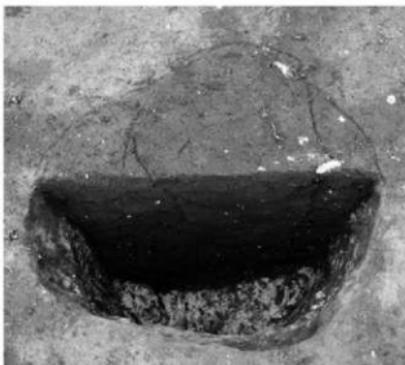
1 P 1 土層断面(南東から)



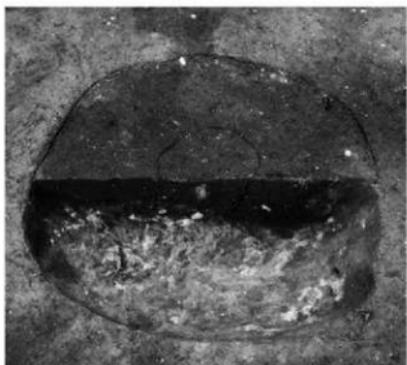
2 P 2 土層断面(南東から)



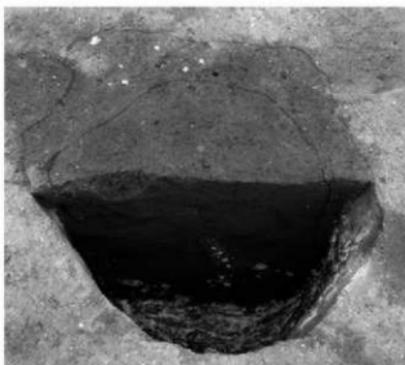
3 P 3 土層断面(南東から)



4 P 4 土層断面(北西から)



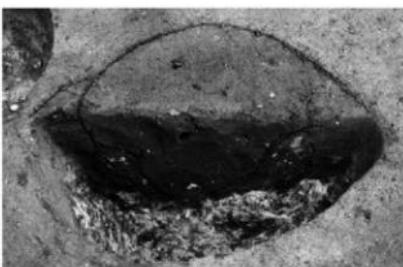
5 P 5 土層断面(北西から)



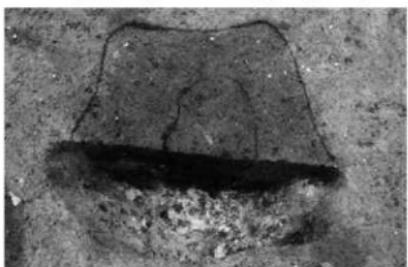
6 P 6 土層断面(南東から)



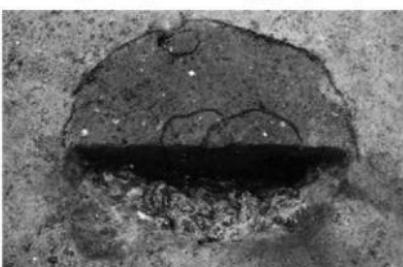
1 掘立柱建物9 P 1 土層断面(東から)



2 掘立柱建物9 P 3 土層断面(西から)



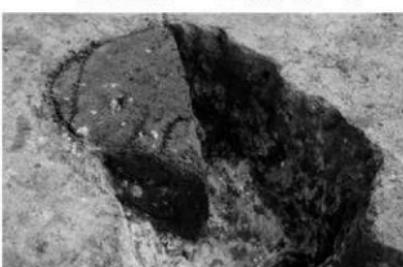
3 掘立柱建物9 P 4 土層断面(西から)



4 掘立柱建物9 P 5 土層断面(西から)



5 掘立柱建物9 P 7、
掘立柱建物5 P 2・15土層断面(南東から)



6 掘立柱建物9 P 8 土層断面(西から)



7 掘立柱建物9 P 6・10土層断面(南から)



8 掘立柱建物9 P 10 土層断面(西から)

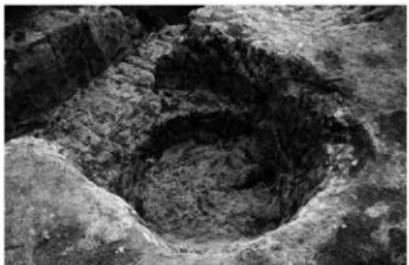
掘立柱建物 7
11
12



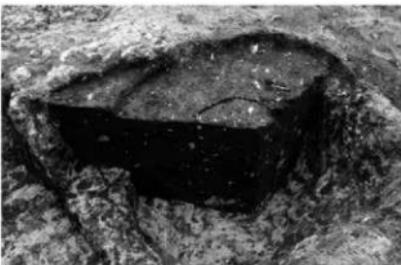
1 掘立柱建物 7 完掘状況(北東から)



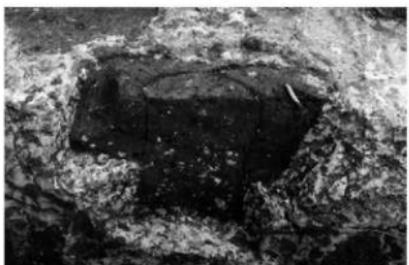
2 掘立柱建物 7・11・12 検出状況(南西から)



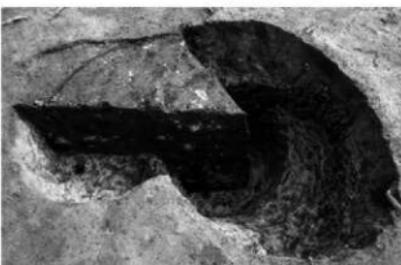
1 P 1・10完掘状況(北から)



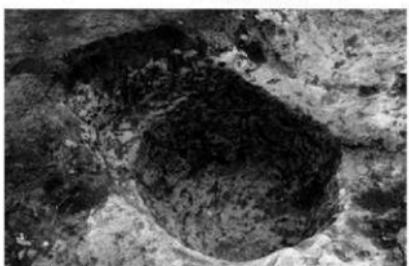
2 P 1・10土層断面(東から)



3 P 4・12・18土層断面(北西から)



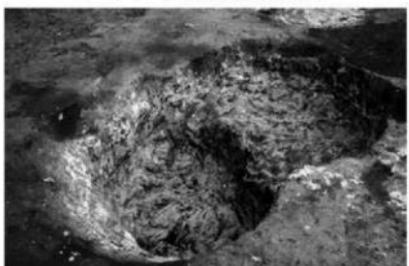
4 P 9・17・22土層断面(北西から)



5 P 5・13完掘状況(北西から)



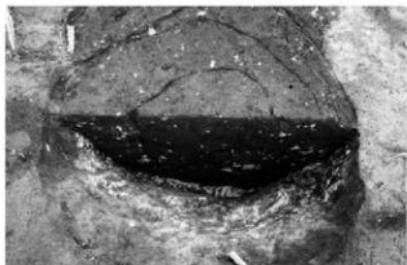
6 P 5・13土層断面(北から)



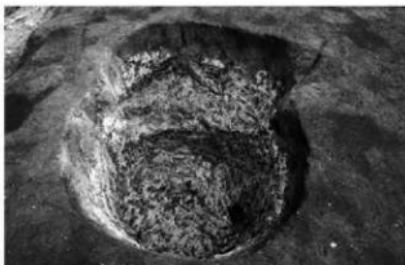
7 P 6・19完掘状況(西から)



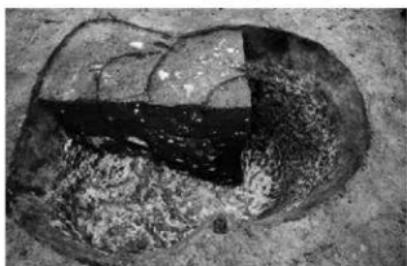
8 P 6・19土層断面(北東から)



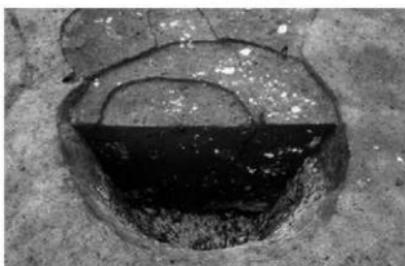
1 P14・19土層断面(北西から)



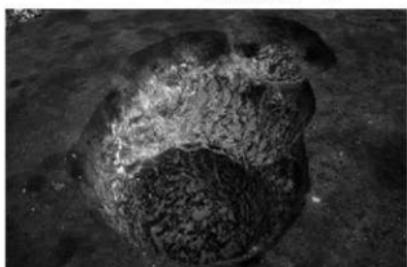
2 P7・15・20完掘状況(西から)



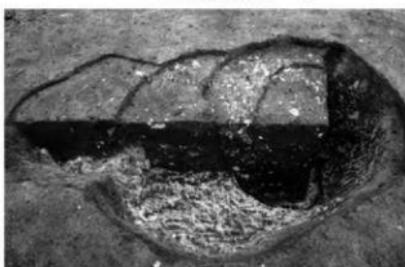
3 P7・15・20土層断面(北から)



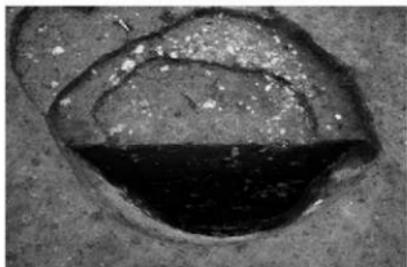
4 P20土層断面(北西から)



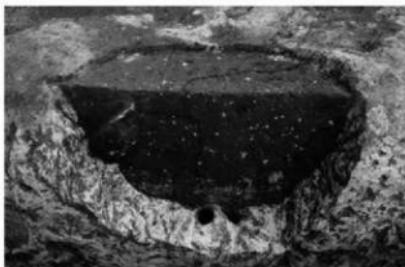
5 P8・16・21完掘状況(西から)



6 P8・16・21土層断面(北東から)



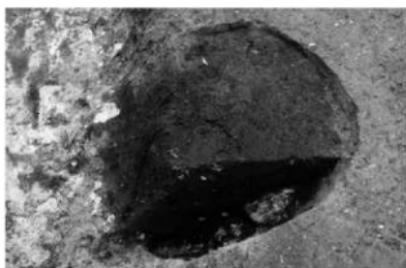
7 P21土層断面(北西から)



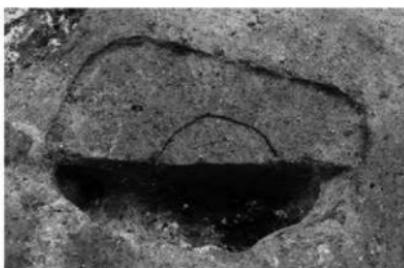
8 P11土層断面(北西から)



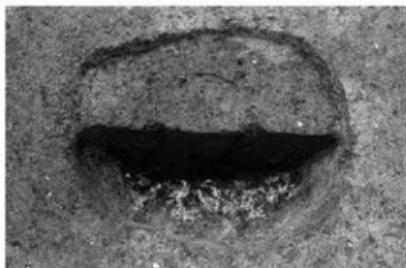
1 掘立柱建物10・19 完掘状況(北東から)



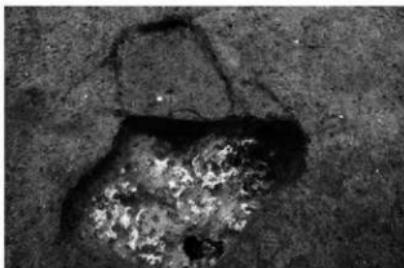
2 掘立柱建物19 P 5 土層断面(北東から)



3 掘立柱建物19 P 1 土層断面(北西から)



4 掘立柱建物19 P 2 土層断面(北西から)



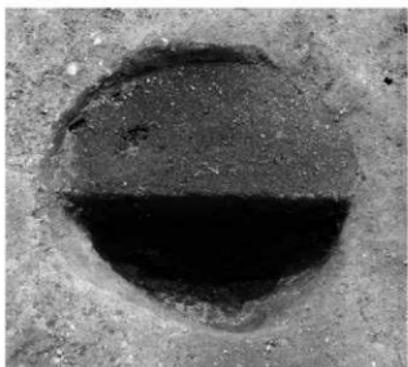
5 掘立柱建物19 P 3・7 土層断面(北西から)



1 P 1 土層断面(北西から)



2 P 2 土層断面(南東から)



3 P 3 土層断面(北西から)



4 P 4 土層断面(北東から)



5 P 5 土層断面(北東から)



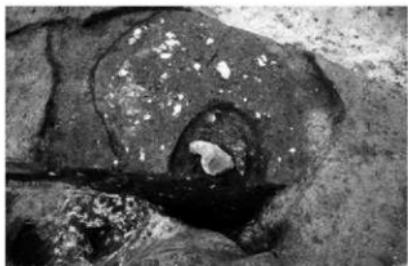
6 P 7 土層断面(南西から)



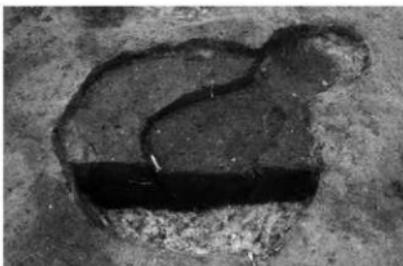
1 掘立柱建物11 完掘状況(北東から)



2 掘立柱建物 7 · 11 検出状況(北東から)



1 P 1 土層断面、遺物(CP5)出土状況(東から)



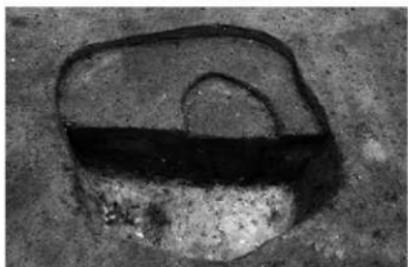
2 P 2 土層断面(東から)



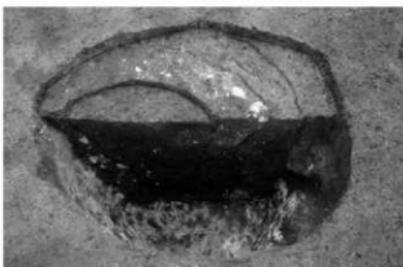
3 P 3 土層断面(東から)



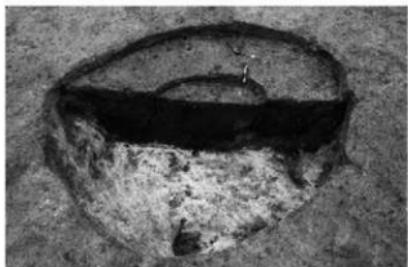
4 P 3 遺物(CP5)出土状況(北東から)



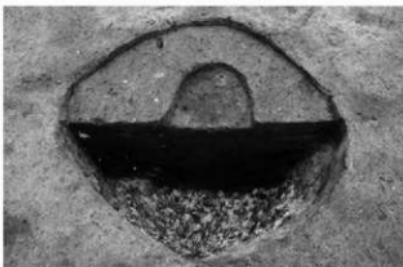
5 P 5 土層断面(西から)



6 P 6 土層断面(西から)



7 P 7 土層断面(西から)



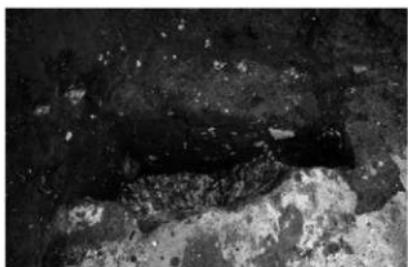
8 P 8 土層断面(西から)



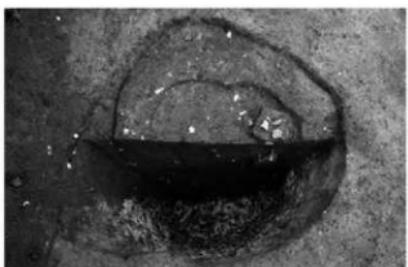
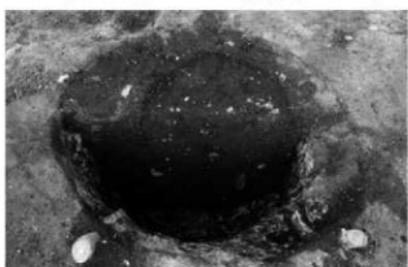
1 掘立柱建物12 完掘状況(北東から)



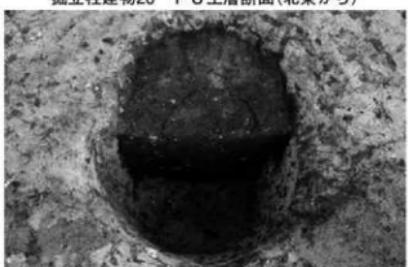
2 掘立柱建物12 検出状況(北東から)



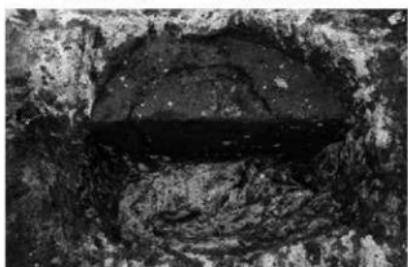
1 掘立柱建物12 P 3 土層断面(北西から)

2 掘立柱建物12 P 5、
掘立柱建物20 P 6 土層断面(北東から)

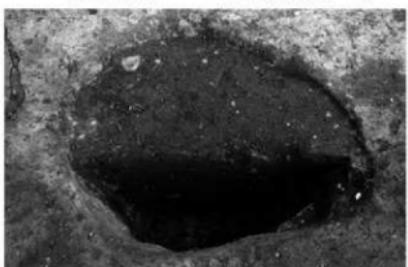
3 掘立柱建物12 P 6 土層断面(南西から)



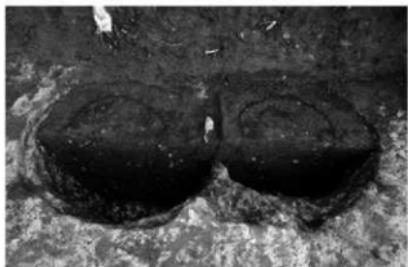
4 掘立柱建物12 P 7 土層断面(北西から)



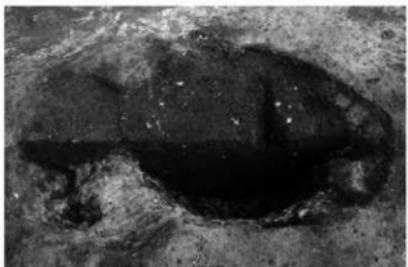
5 掘立柱建物12 P 8 土層断面(北西から)



6 掘立柱建物12 P 9 土層断面(北西から)



7 掘立柱建物12 P 4 · 14 土層断面(北西から)



8 掘立柱建物12 P 15 土層断面(北西から)

図版 46

掘立柱建物
12 ·
20 ·
21



1 掘立柱建物12・20・21 完掘状況(北から)



2 掘立柱建物12・20・21 検出状況(北東から)



1 掘立柱建物12 P 1・11、
掘立柱建物20 P 4・12完掘状況(北から)



2 掘立柱建物12 P 1充填土層断面
(南西から)



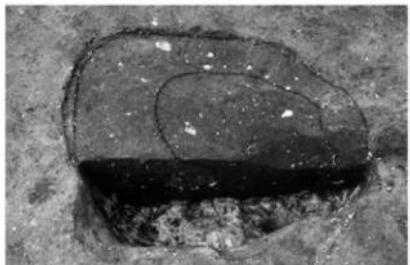
3 掘立柱建物12 P 1・11土層断面(南から)



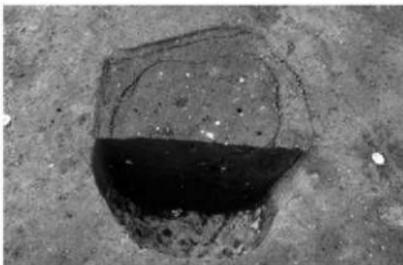
4 掘立柱建物20 P 4・12土層断面(北から)



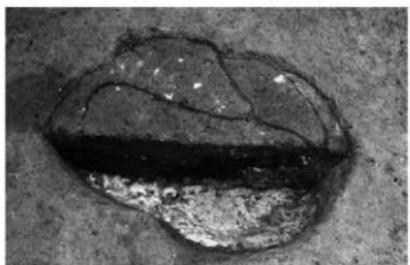
5 掘立柱建物12 P 11、掘立柱建物20 P 12土層断面(東から)



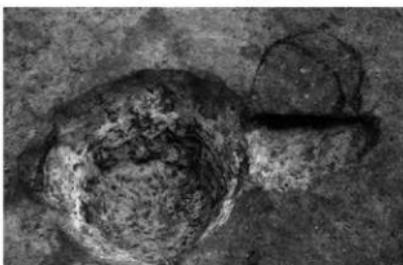
1 掘立柱建物20 P 1 土層断面(南東から)



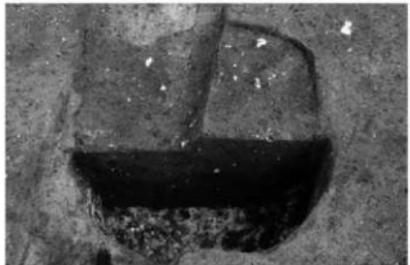
2 掘立柱建物20 P 2 土層断面(南東から)



3 掘立柱建物20 P 3・11 土層断面(東から)



4 掘立柱建物12 P 5 完掘状況、掘立柱建物20
P 6 土層断面(南西から)



5 掘立柱建物20 P 7 土層断面(西から)



6 掘立柱建物20 P 8 土層断面(北西から)



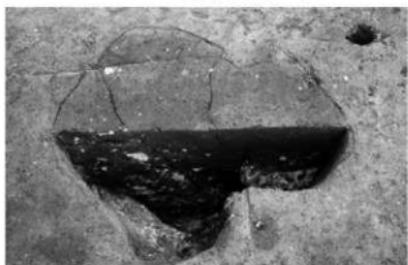
7 掘立柱建物20 P 9 土層断面(西から)



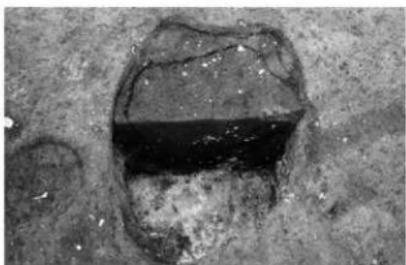
1 P 1 土層断面(北東から)



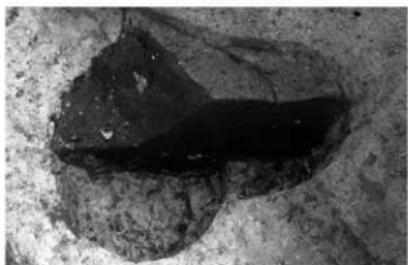
2 P 2 土層断面(東から)



3 P 4・15 土層断面(南西から)



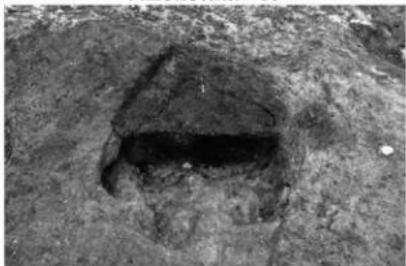
4 P 5 土層断面(東から)



5 P 7・16 土層断面(西から)

6 P 8 土層断面、遺物(Po63、CP8他)
出土状況(北東から)

7 P 12・18 土層断面(西から)



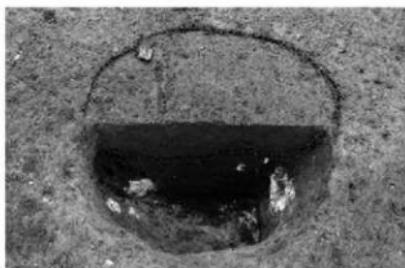
8 P 14 土層断面(西から)



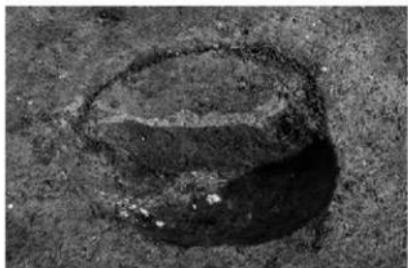
1 掘立柱建物13 完掘状況(南東から)



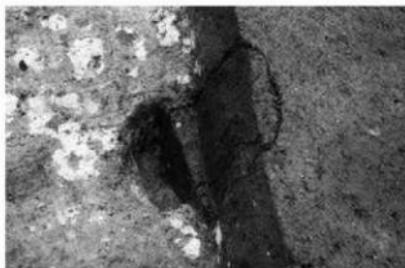
2 P 1 土層断面(南西から)



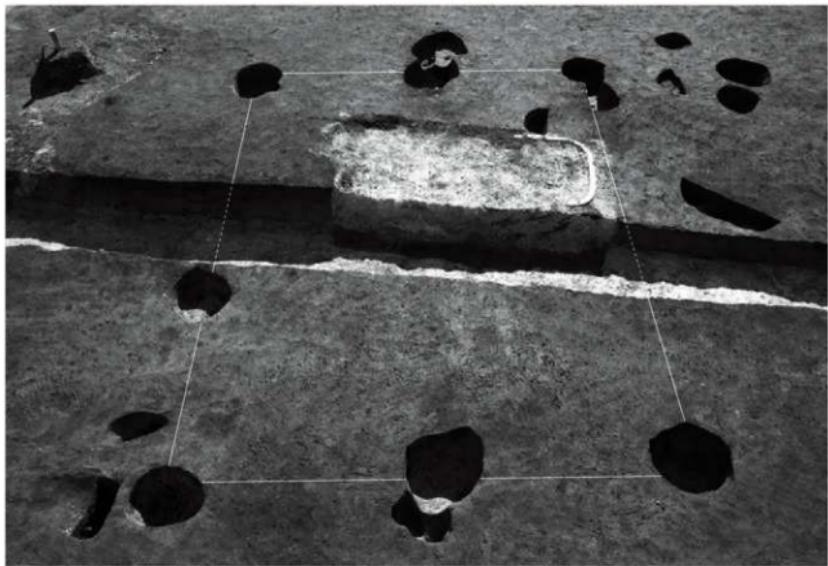
3 P 2 土層断面(南西から)



4 P 3 土層断面(南西から)



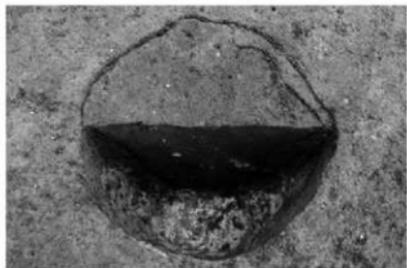
5 P 4 土層断面(北西から)



1 掘立柱建物14 完掘状況(北東から)



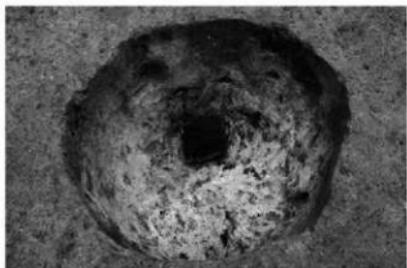
2 P 3・8土層断面(南東から)



3 P 6土層断面(北西から)



4 P 5・10、221ピット土層断面(南東から)



5 P 6遺物(Po57)出土状況(南西から)



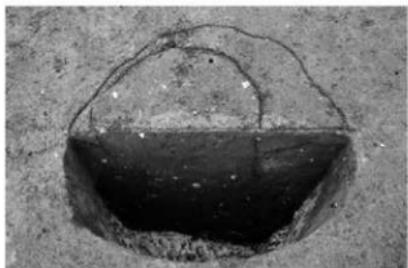
1 掘立柱建物15・28 完掘状況(北東から)



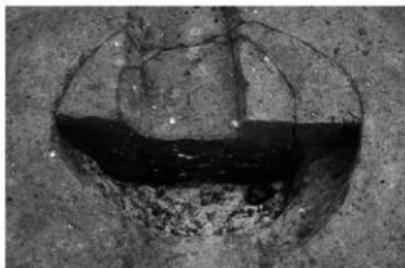
2 掘立柱建物15 P 1 土層断面(東から)



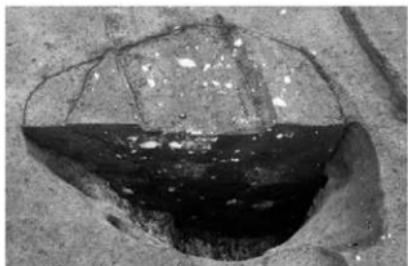
3 掘立柱建物15 P 2 土層断面(南東から)



4 掘立柱建物28 P 8 土層断面(南西から)



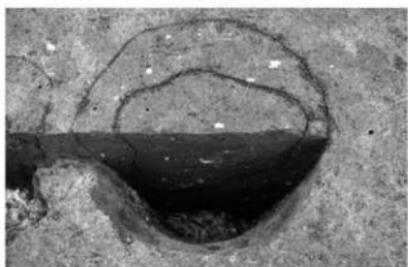
5 掘立柱建物15 P 9 土層断面(南東から)



1 P 1 土層断面(南東から)



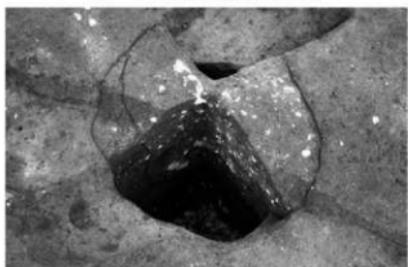
2 P 3 土層断面(東から)



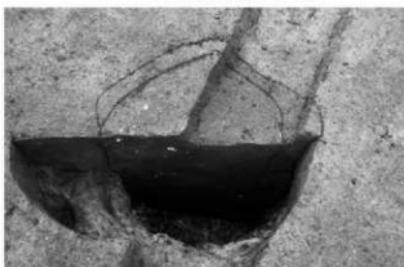
3 P 4 土層断面(南西から)



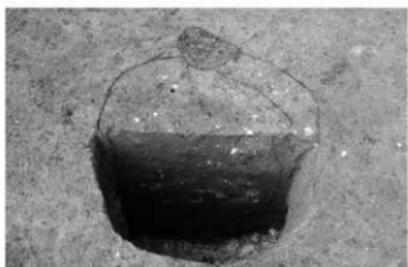
4 P 7 土層断面(南東から)



5 P 9 土層断面(北東から)



6 P 10 土層断面(南東から)



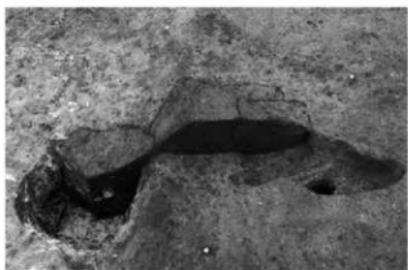
7 P 11 土層断面(南東から)



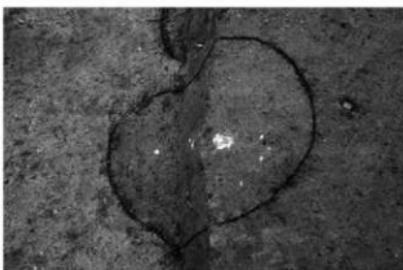
8 P 12 土層断面(南東から)



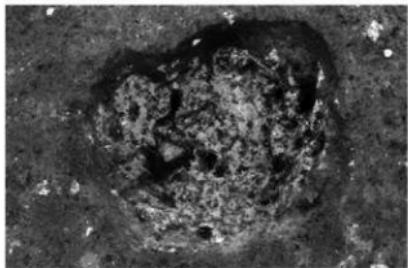
1 挖立柱建物16 完掘状況(北東から)



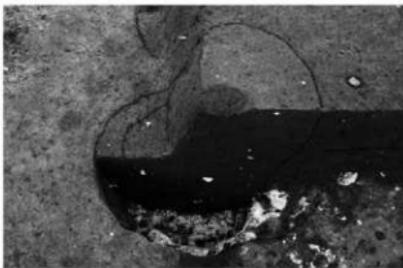
2 P 3、803柱穴土層断面(南西から)



3 P 8検出状況(南東から)



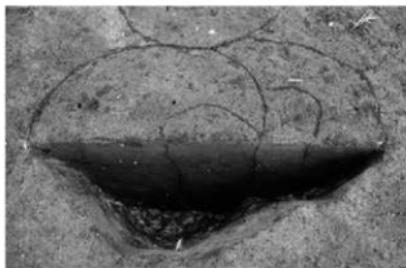
4 P 6完掘状況(西から)



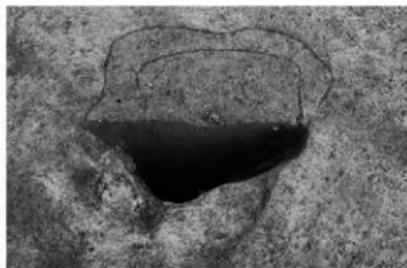
5 P 8土層断面(南東から)



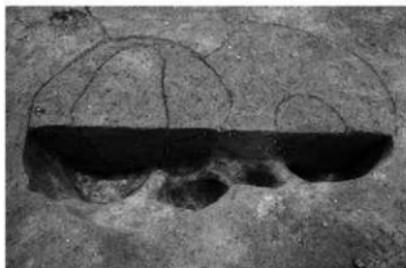
1 掘立柱建物17 完掘状況(北東から)



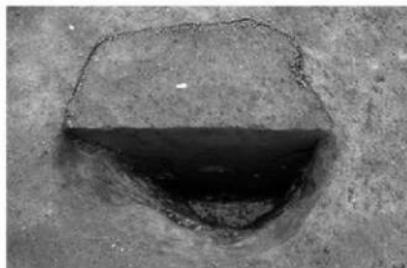
2 P 1・11土層断面(北西から)



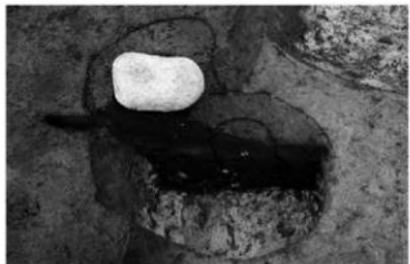
3 P 2土層断面(北西から)



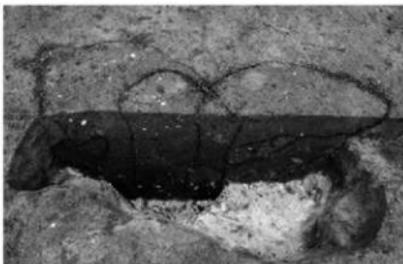
4 P 3・12土層断面(北西から)



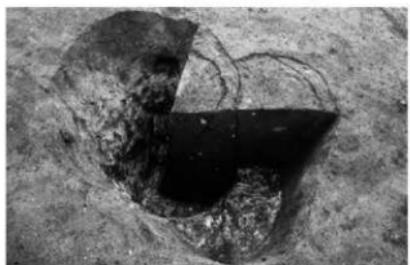
5 P 4土層断面(北西から)



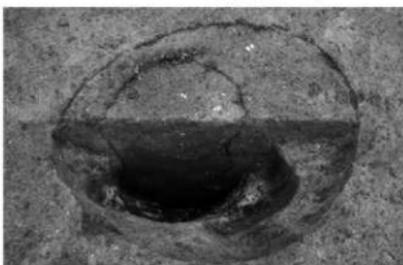
1 P 5 土層断面(北東から)



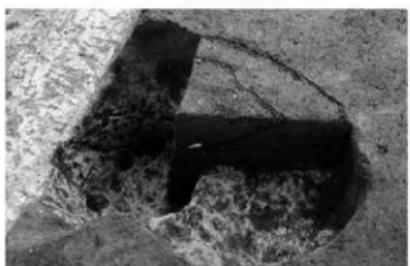
2 P 6・17 土層断面(南から)



3 P 7・18 土層断面(北から)



4 P 8 土層断面(南東から)



5 P 9・19 土層断面(北から)



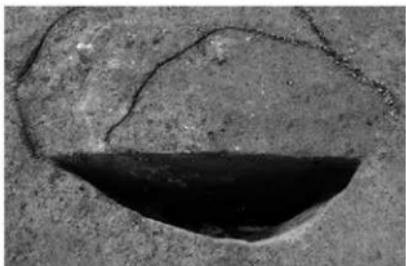
6 P 11・13 土層断面(北から)



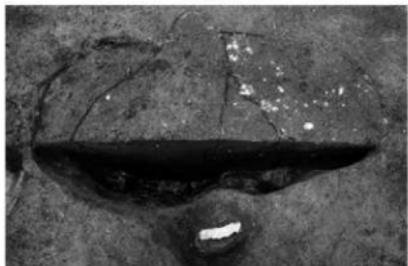
7 P 13 土層断面(南東から)



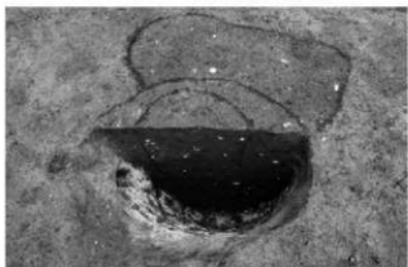
1 P14土層断面(南東から)



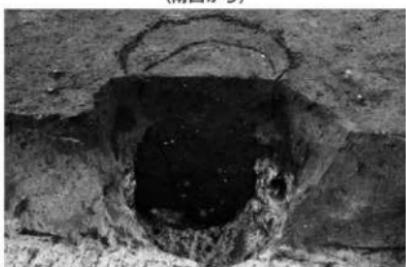
2 P15土層断面(南東から)



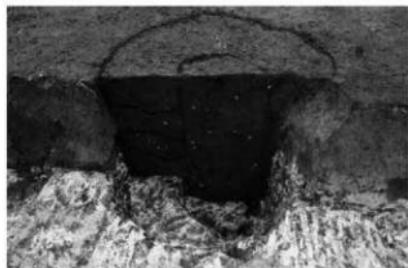
3 P16・21土層断面(南東から)

4 P16遺物(CP7)、P21遺物出土状況
(南西から)

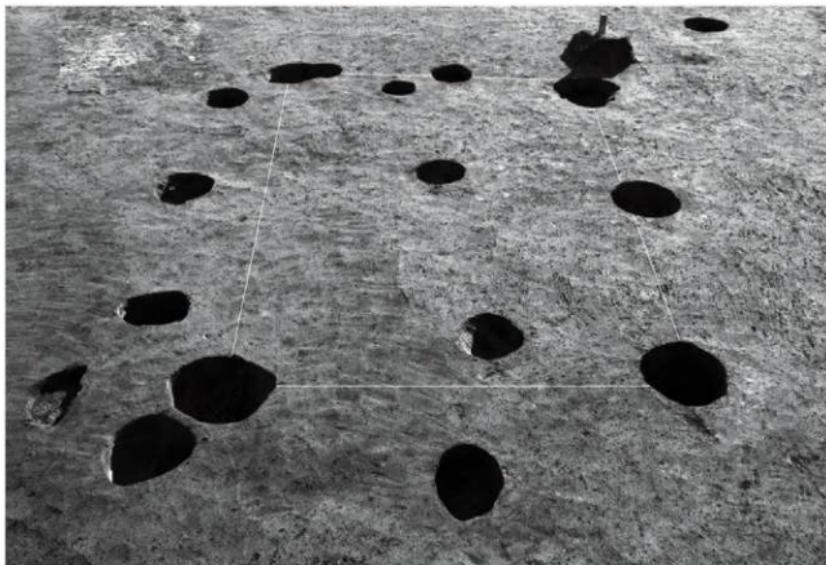
5 P18土層断面(南東から)



6 P19土層断面(南東から)



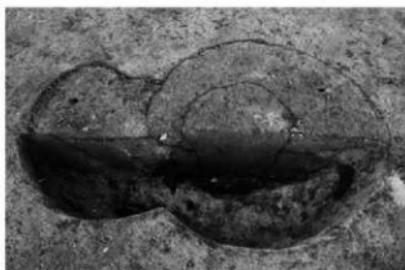
7 P20土層断面(南東から)



1 挖立柱建物18 完掘状況(北から)



2 P 1 土層断面(南東から)



3 P 2・6 土層断面(南から)



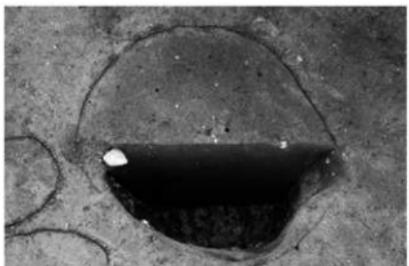
4 P 4 土層断面(北西から)



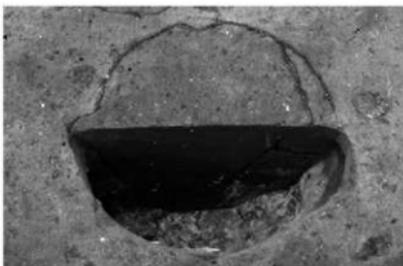
5 P 7 土層断面(北西から)



2区掘立柱建物12・15・16・20~33・41・42 完掘状況(俯瞰)



1 P 1 土層断面(南西から)



2 P 2 土層断面(南東から)



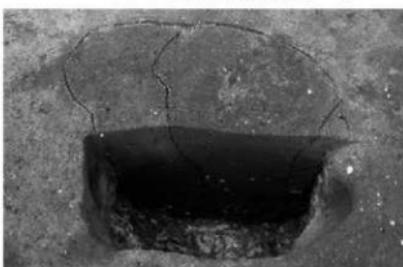
3 P 4 土層断面(南から)



4 P 10、484柱穴土層断面(南西から)



5 P 6、495・497・498柱穴完掘状況(北東から)



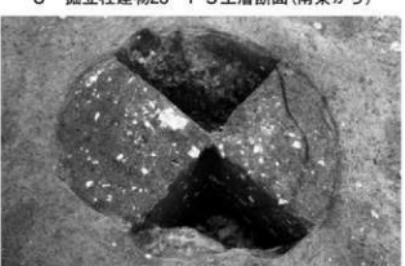
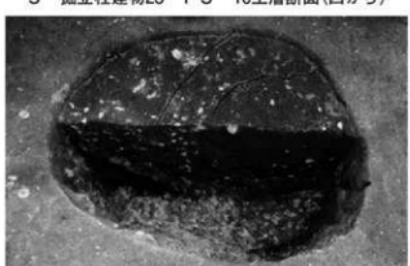
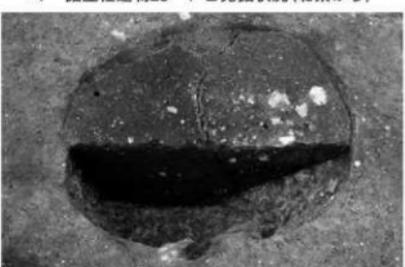
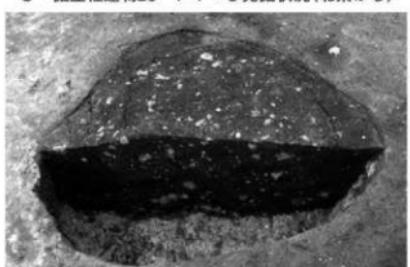
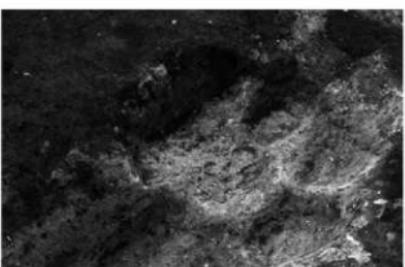
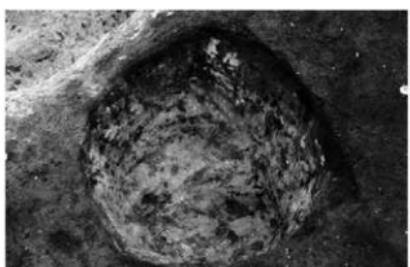
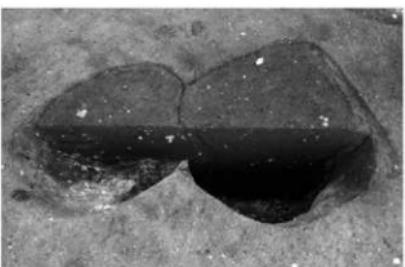
6 P 7 土層断面(南東から)

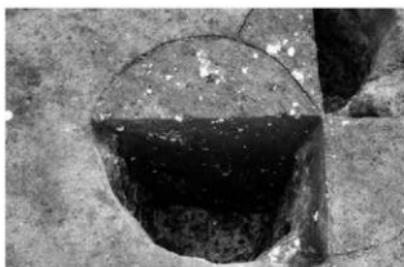


7 P 9 土層断面(北西から)

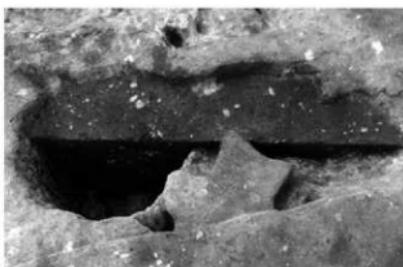


8 P 9 棟出面遺物(Po65)出土状況(南西から)

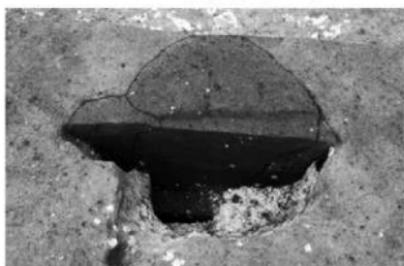




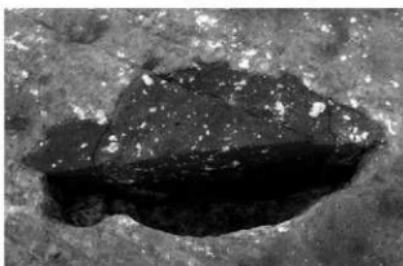
1 P12土層断面(北東から)



2 P5土層断面(北東から)



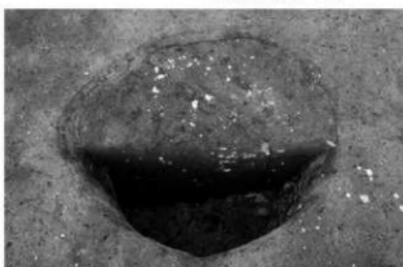
3 P6土層断面(南東から)



4 P7・14・21土層断面(南から)



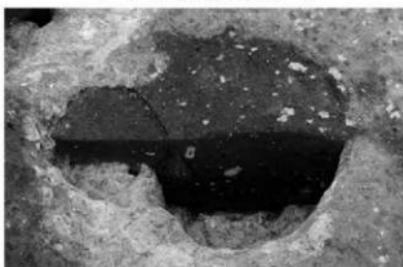
5 P9・16土層断面(西から)



6 P10土層断面(南西から)



7 P11・17土層断面(北東から)



8 P15・19土層断面(南東から)



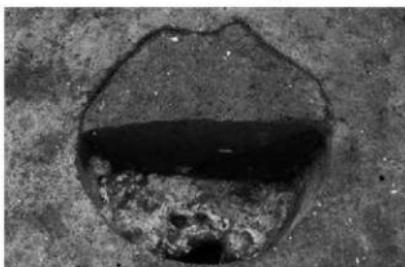
1 P 1、588・589・624柱穴完掘状況(北西から)



2 P 1、588・589・624柱穴土層断面(南東から)



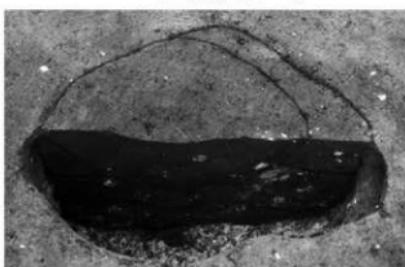
3 P 2土層断面(東から)



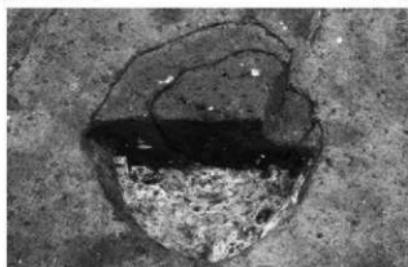
4 P 3土層断面(西から)



5 P 4土層断面(西から)



6 P 5土層断面(南から)



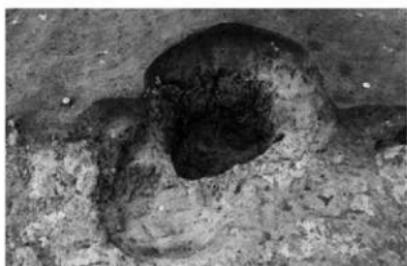
7 P 6土層断面(西から)

図版 64

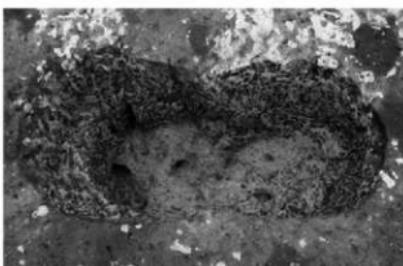
掘立柱建物
23
・
25
・
33



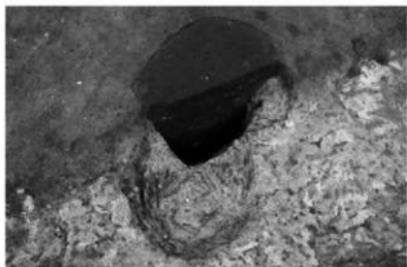
1 掘立柱建物23・25・33 完掘状況(北から)



2 掘立柱建物25 P 2・10完掘状況(南東から)



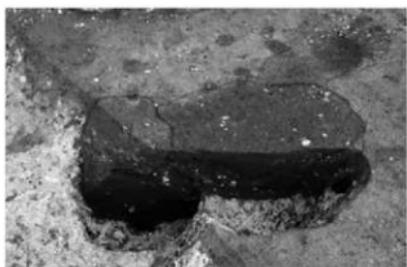
3 掘立柱建物25 P 3・11完掘状況(北東から)



4 掘立柱建物25 P 2・10土層断面(南東から)



5 掘立柱建物25 P 3・11土層断面(南西から)



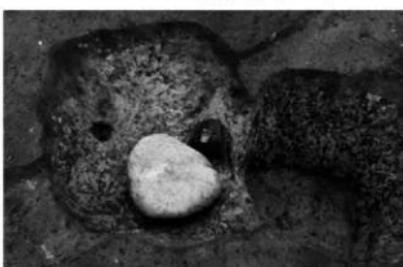
1 P 1・9土層断面(南西から)



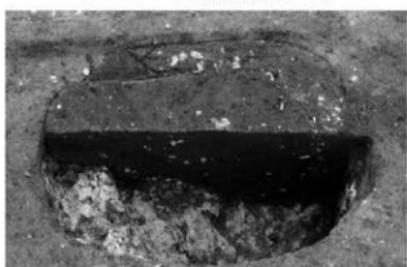
2 P 7・15土層断面(北東から)



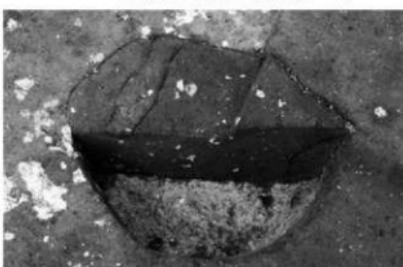
3 P 8・16土層断面(南西から)



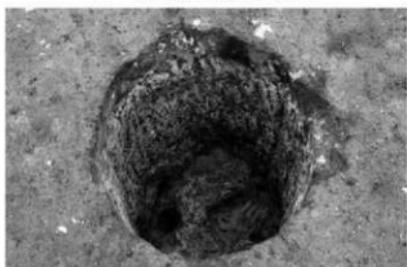
4 P 15遺物(Po68)出土状況(東から)



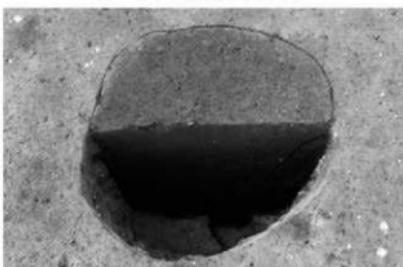
5 P 12土層断面(南西から)



6 P 13土層断面(東から)



7 P 4完掘状況(北東から)



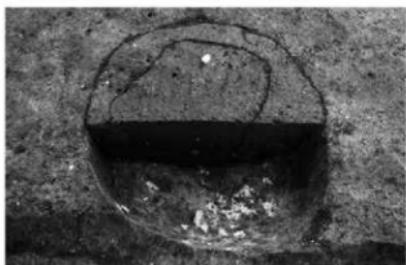
8 P 5土層断面(東から)

図版 66

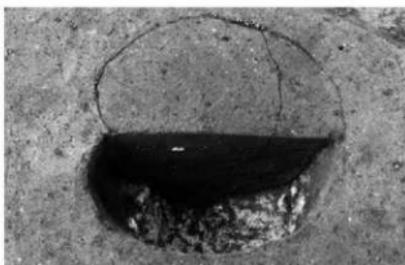
掘立柱建物
26 · 27



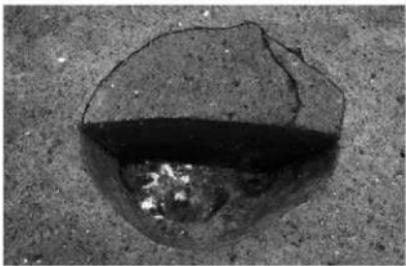
1 掘立柱建物26・27 完掘状況(北から)



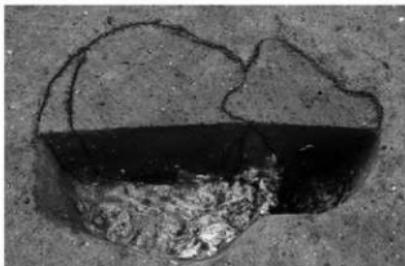
2 掘立柱建物27 P 1 土層断面(北西から)



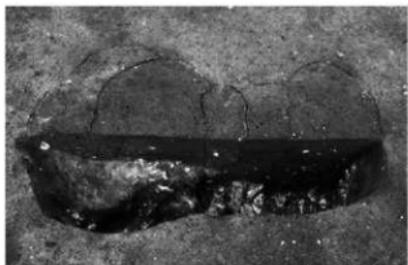
3 掘立柱建物27 P 3 土層断面(東から)



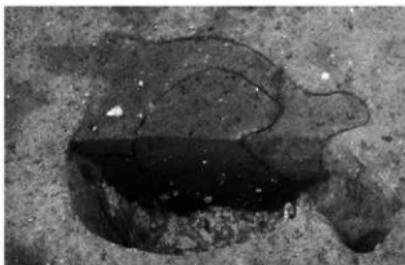
4 掘立柱建物27 P 5 土層断面(北西から)



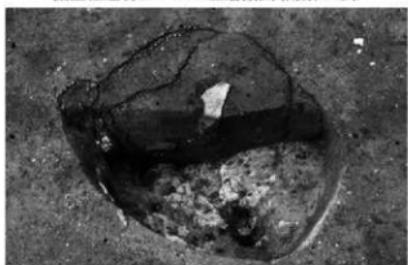
5 掘立柱建物27 P 6 土層断面(南から)



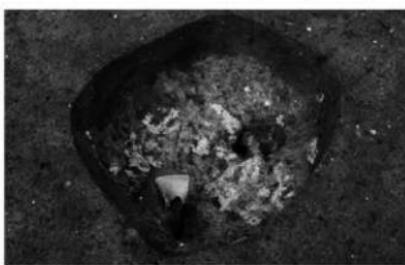
1 挖立柱建物26 P 5、
掘立柱建物27 P 4 土層断面(南東から)



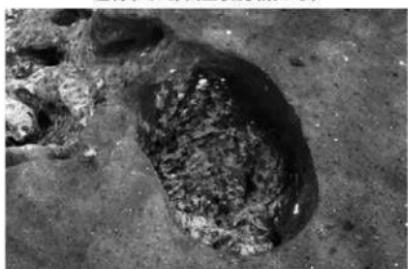
2 挖立柱建物26 P 1 土層断面(南西から)



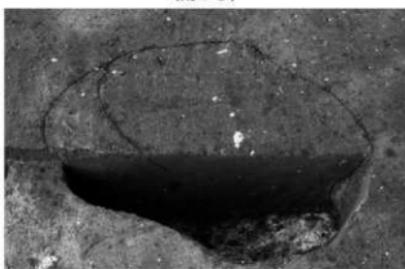
3 挖立柱建物26 P 2 土層断面、
遺物(Po70)出土状況(東から)



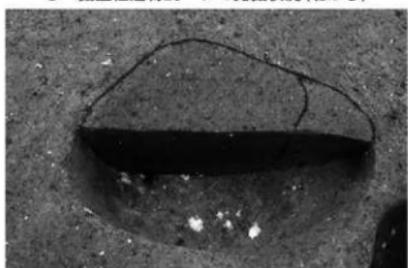
4 挖立柱建物26 P 2 遺物(Po71)出土状況
(南から)



5 挖立柱建物26 P 4 完掘状況(北から)



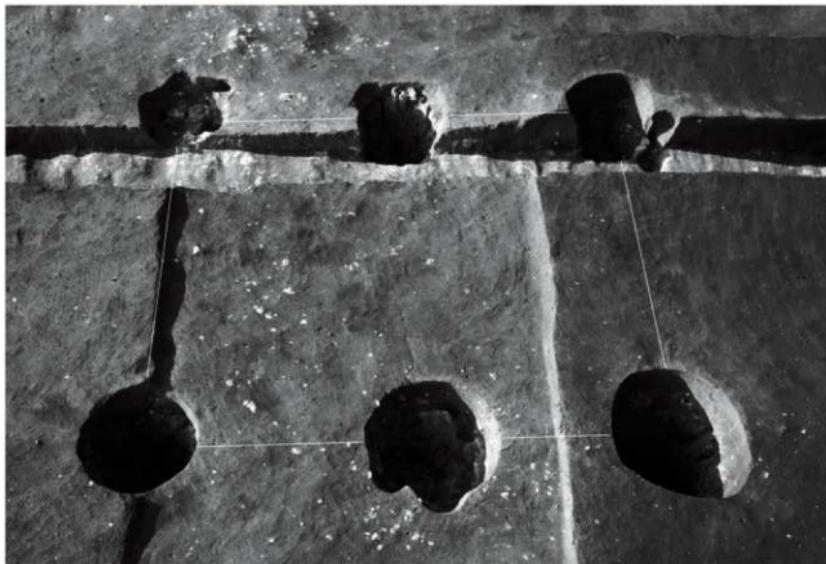
6 挖立柱建物26 P 4 土層断面(東から)



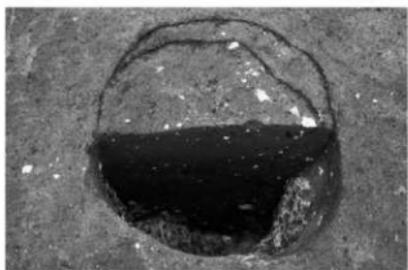
7 挖立柱建物26 P 6 土層断面(南東から)



8 挖立柱建物26 P 7 土層断面(南から)



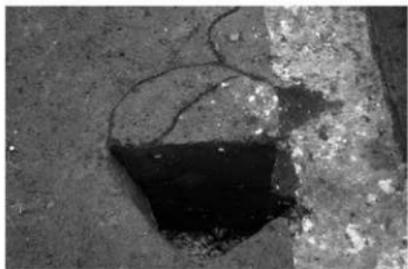
1 挖立柱建物29 完掘状況(南東から)



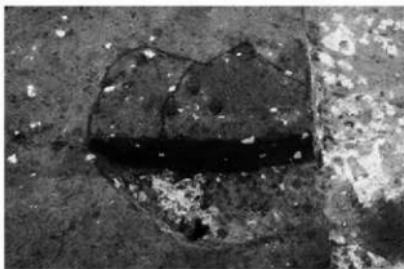
2 P 1 土層断面(南西から)



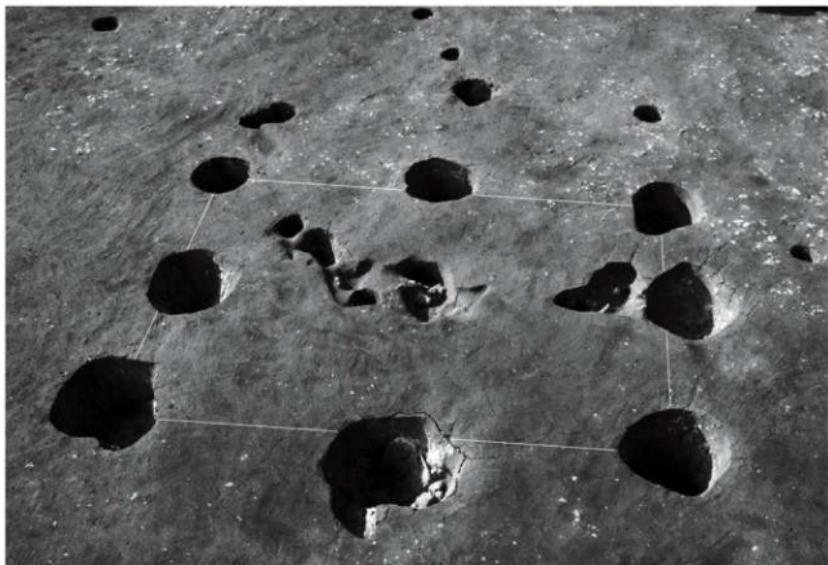
3 P 3 土層断面(南東から)



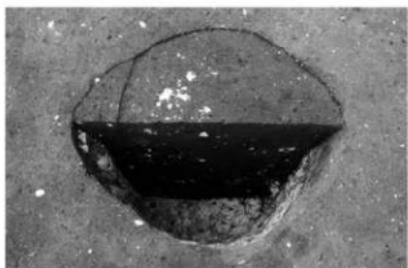
4 P 4 土層断面(南西から)



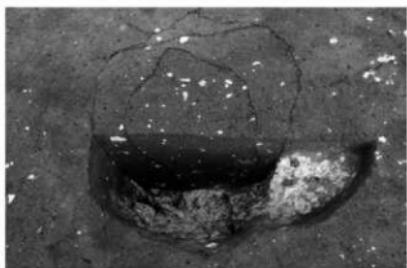
5 P 6 土層断面(南西から)



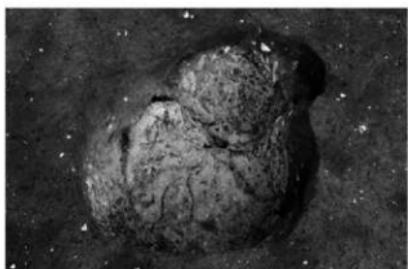
1 挖立柱建物30 完掘状況(東から)



2 P 1 土層断面(東から)



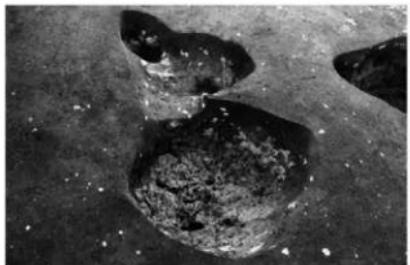
3 P 2 土層断面(南から)



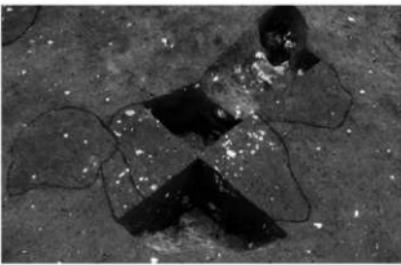
4 P 3・9 完掘状況(南西から)



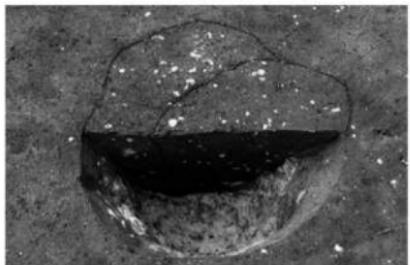
5 P 3・9 土層断面(南東から)



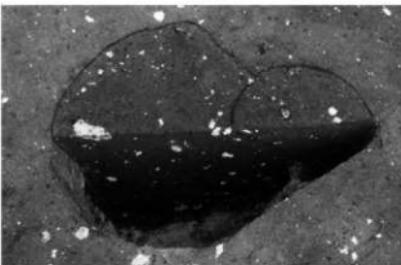
1 P 4 完掘状況(北東から)



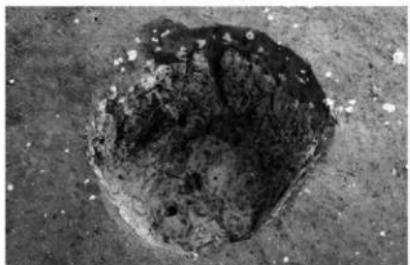
2 P 4 土層断面(北から)



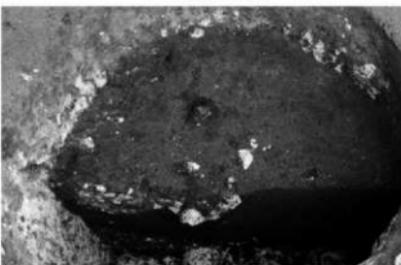
3 P 5 土層断面(東から)



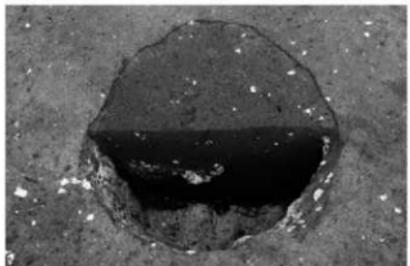
4 P 6 土層断面(南西から)



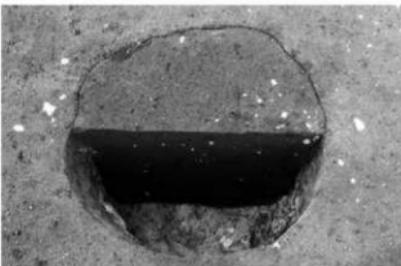
5 P 7 完掘状況(北から)



6 P 7 遺物(Se 2)出土状況(南から)



7 P 7 土層断面(南から)



8 P 8 土層断面(南東から)

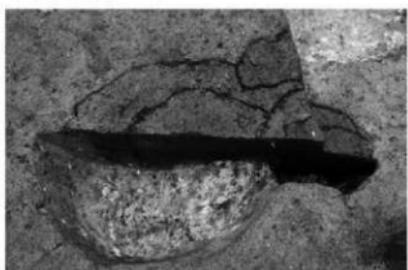
掘立柱建物
31・
32



1 掘立柱建物31・32 完掘状況(北東から)



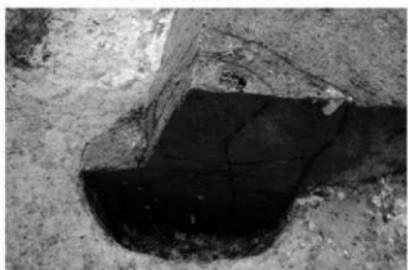
2 掘立柱建物31 P 1、
848柱穴土層断面(北東から)



3 掘立柱建物31 P 5、
834柱穴土層断面(南東から)



4 掘立柱建物31 P 2 土層断面(南西から)



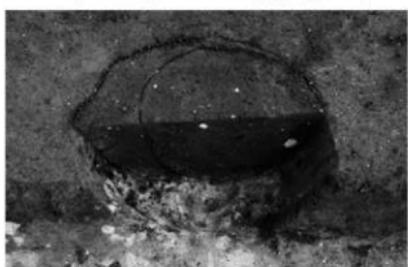
5 掘立柱建物31 P 6 土層断面(北東から)



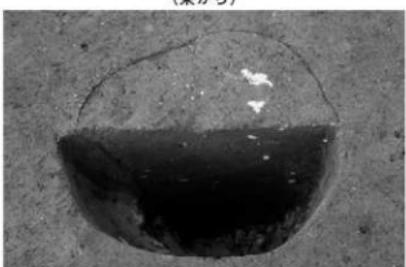
1 掘立柱建物31 P 7 土層断面(東から)



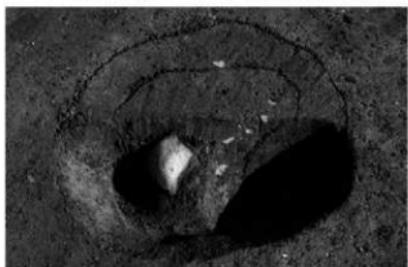
2 掘立柱建物31 P 8 遺物(Po72)出土状況
(東から)



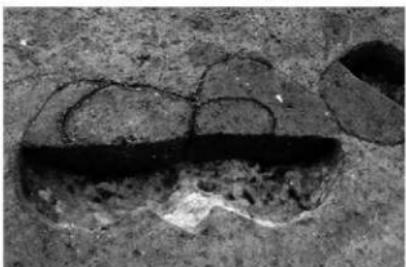
3 掘立柱建物32 P 1 土層断面(北西から)



4 掘立柱建物32 P 2 土層断面(南東から)



5 掘立柱建物32 P 3 遺物(Po73)出土状況
(北西から)



6 掘立柱建物32 P 7 · 11 土層断面(北東から)



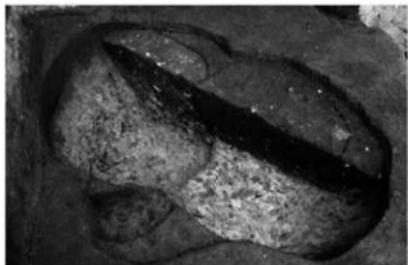
7 掘立柱建物32 P 8 · 12 土層断面(南から)



8 掘立柱建物32 P 10 土層断面(北西から)



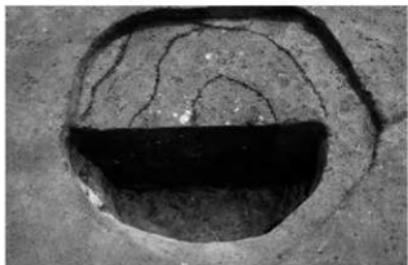
3区掘立柱建物34~40他 完掘状況(俯瞰)



1 掘立柱建物34 P 1 · 5 土層断面(南西から)



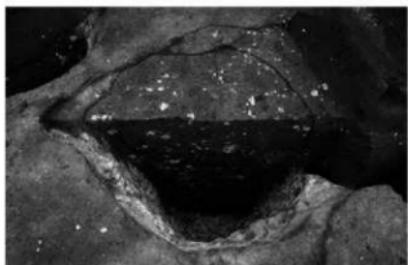
2 掘立柱建物34 P 2 · 6 土層断面(北東から)



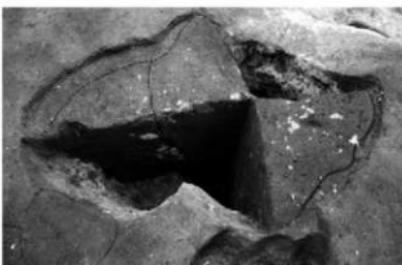
3 掘立柱建物34 P 4 · 8 土層断面(西から)



4 掘立柱建物35 P 1 土層断面(南西から)



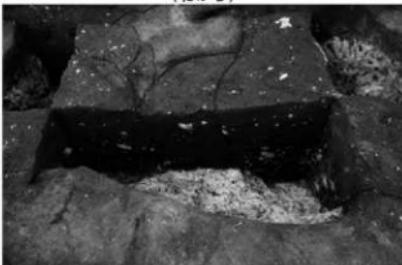
5 掘立柱建物35 P 2 土層断面(南から)



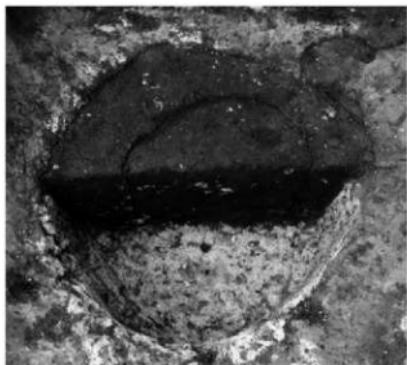
6 掘立柱建物35 P 3、604柱穴土層断面
(北から)



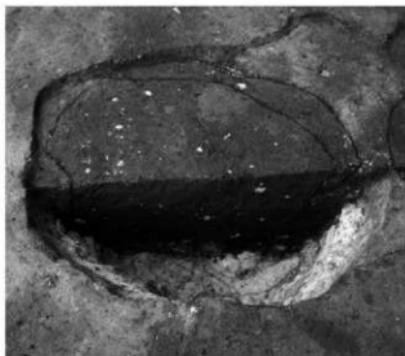
7 掘立柱建物35 P 4、548柱穴土層断面
(南東から)



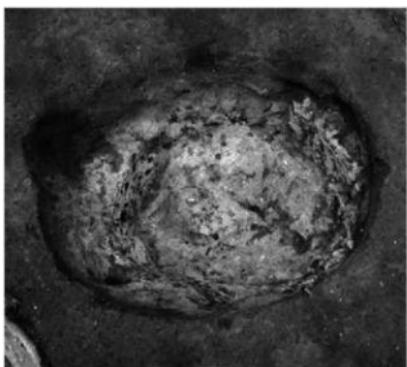
8 掘立柱建物35 P 5、555 · 557柱穴土層断面
(南東から)



1 掘立柱建物36 P 1 土層断面(南東から)



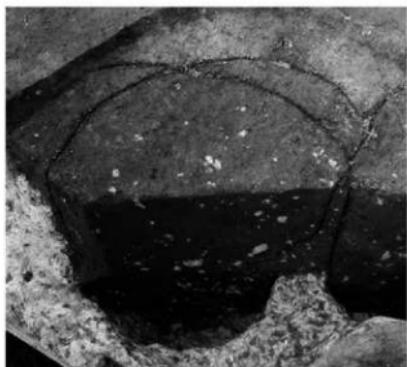
2 掘立柱建物36 P 2 土層断面(東から)



3 掘立柱建物36 P 3 完掘状況(南東から)



4 掘立柱建物37 P 2 土層断面(南東から)

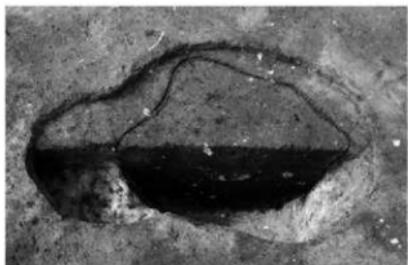


5 掘立柱建物37 P 3 土層断面(東から)

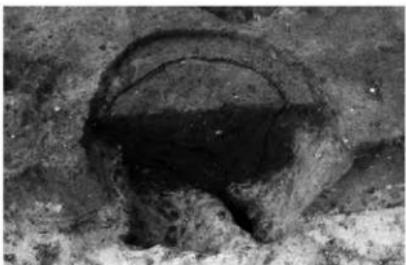


6 掘立柱建物37 P 4 土層断面(南東から)

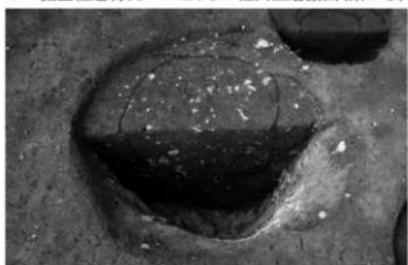
掘立柱建物
38 ·
39 ·
40



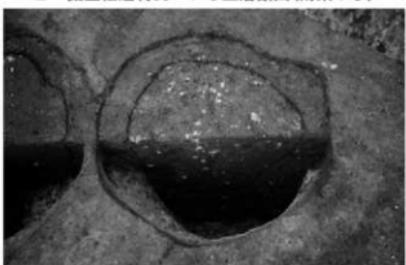
1 掘立柱建物38 P 2、917柱穴土層断面(東から)



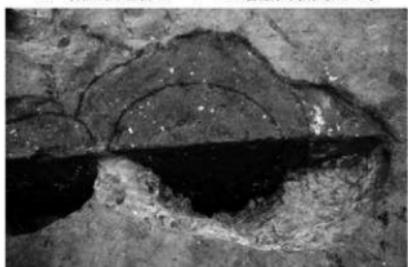
2 掘立柱建物38 P 3 土層断面(南東から)



3 掘立柱建物39 P 1 土層断面(南東から)



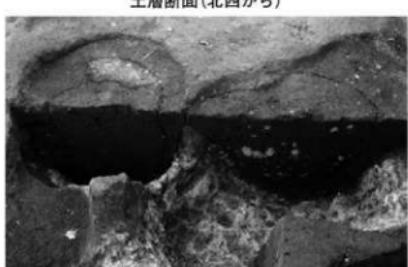
4 掘立柱建物39 P 2 土層断面(南東から)



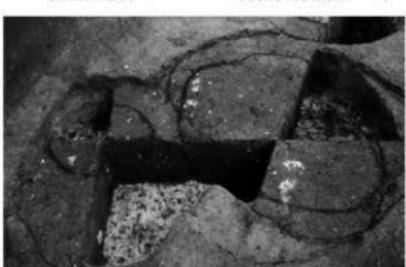
5 掘立柱建物39 P 4、掘立柱建物40 P 3・7
土層断面(北西から)



6 掘立柱建物40 P 1・5 完掘状況(南東から)



7 掘立柱建物40 P 6、690柱穴土層断面
(北東から)

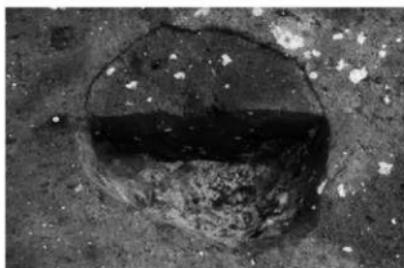


8 掘立柱建物40 P 1・5 土層断面(南から)

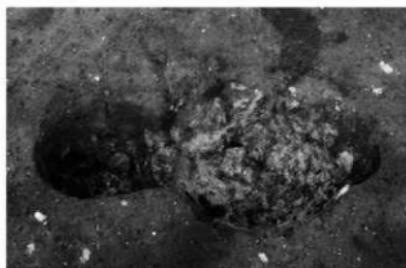
掘立柱建物41、
竪穴建物3



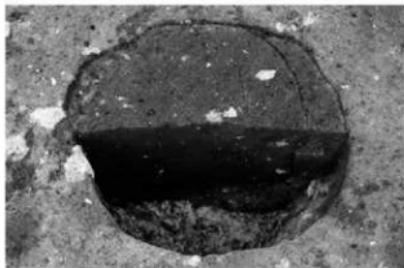
1 掘立柱建物41、竪穴建物3 完掘状況(北東から)



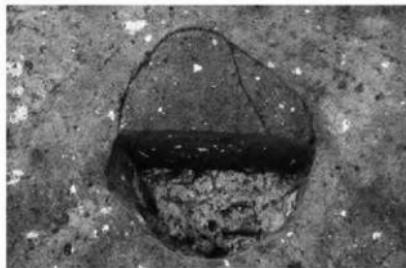
2 掘立柱建物41 P 1 土層断面(西から)



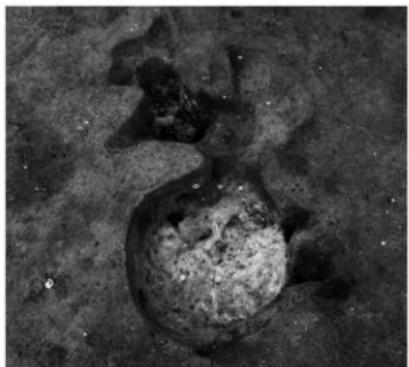
3 掘立柱建物41 P 2 完掘状況(南東から)



4 掘立柱建物41 P 3 土層断面(東から)



5 掘立柱建物41 P 8 土層断面(東から)



1 P 1 完掘状況(西から)



2 P 1 土層断面(南から)



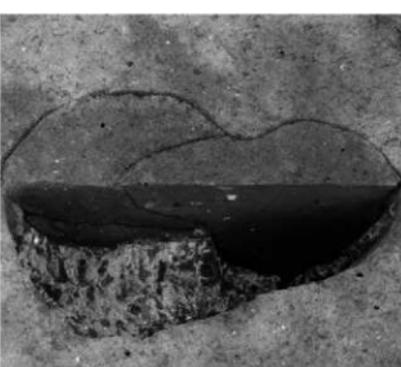
3 P 2 土層断面(北東から)



4 P 3 土層断面(西から)



5 P 4 土層断面(西から)



6 P 6・7 土層断面(南東から)

3区完掘状況



3区南東側斜面部完掘状況(俯瞰)



1 730段状遺構完掘状況(北西から)

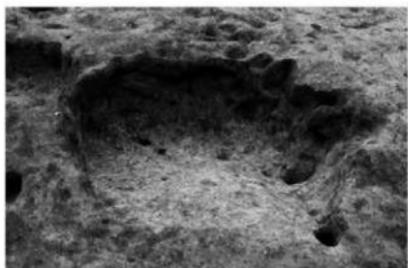


2 730段状遺構土層断面(南西から)

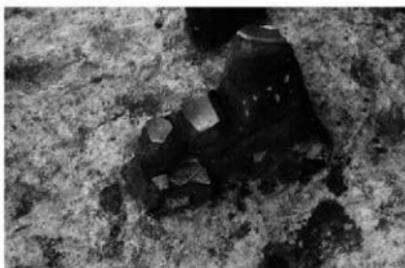
土坑



1 736土坑遺物(Po105他)出土状況(南から)



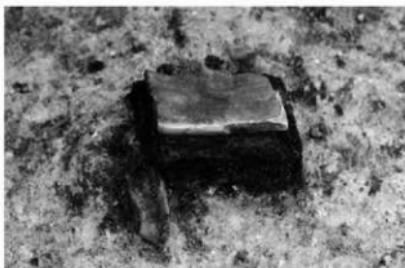
2 736土坑完掘状況(南東から)



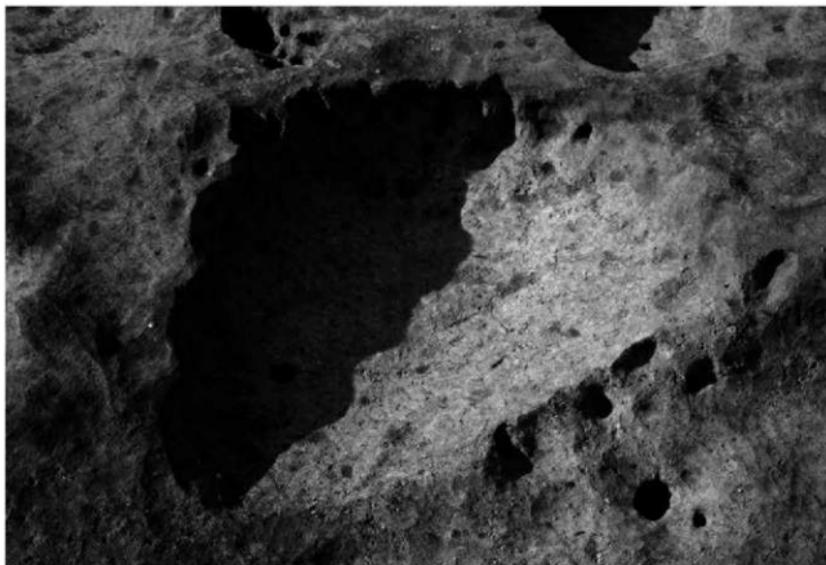
3 736土坑遺物(Po93他)出土状況(北東から)



4 736土坑土層断面(北から)

5 736土坑底面直上遺物(Po100他)
出土状況(南西から)

土坑



1 745土坑完掘状況(南東から)



2 745土坑土層断面(北東から)

土坑



1 745土坑遺物(Po134・CP13他)出土状況(南東から)



2 745土坑遺物出土状況(西から)



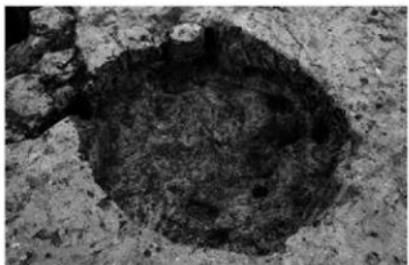
3 745土坑遺物出土状況(北東から)



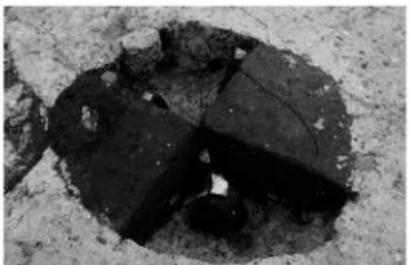
4 745土坑遺物出土状況(西から)



5 745土坑遺物出土状況(南西から)



1 795土坑完掘状況(西から)



2 795土坑土層断面(西から)



3 795土坑土層断面(東から)



4 796~798土坑、799ピット完掘状況(北西から)



5 799ピット完掘状況(南東から)



6 797・798土坑土層断面(西から)

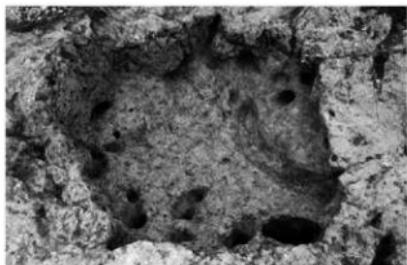


7 798土坑遺物(CP25・26)出土状況(北東から)

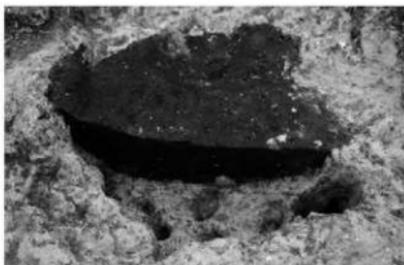


8 796・798土坑、799ピット土層断面(東から)

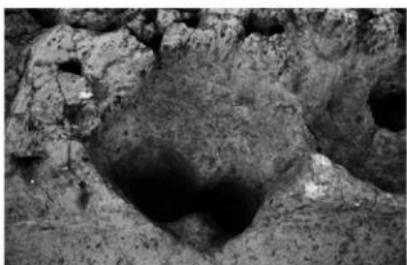
土坑・柱穴



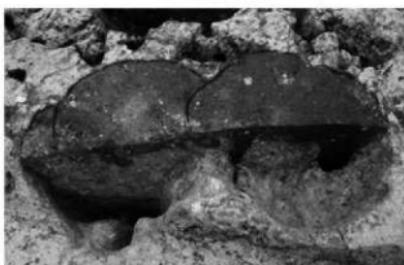
1 819土坑完掘状況(南から)



2 819土坑土層断面(南西から)



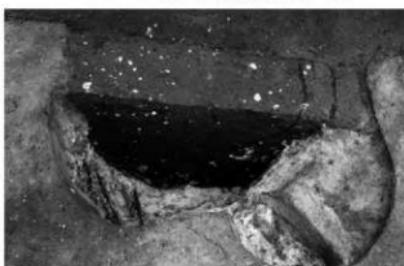
3 826柱穴完掘状況(南西から)



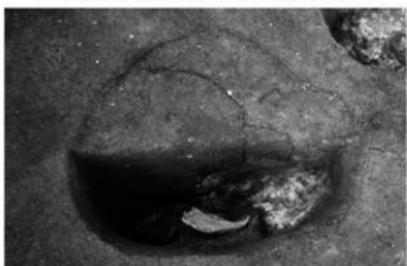
4 826・828柱穴土層断面(南西から)



5 461柱穴遺物(Po156)出土状況(南西から)



6 607柱穴土層断面(南東から)



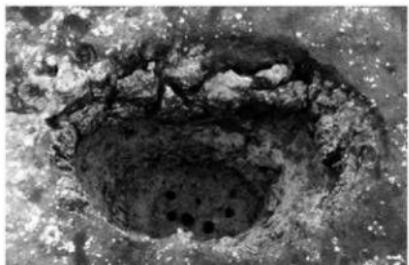
7 704柱穴遺物(Po155)出土状況(南から)



8 802柱穴遺物(Po20)出土状況(東から)

図版 86

土
坑



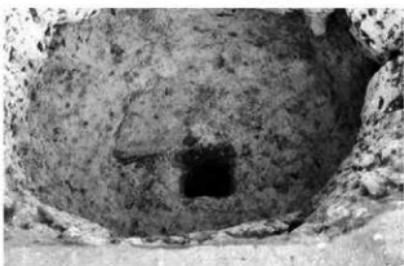
1 464土坑完掘状況(北西から)



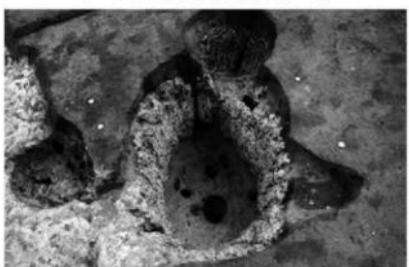
2 464土坑底面ピット土層断面(南西から)



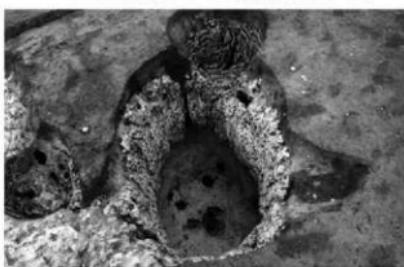
3 818土坑完掘状況(南西から)



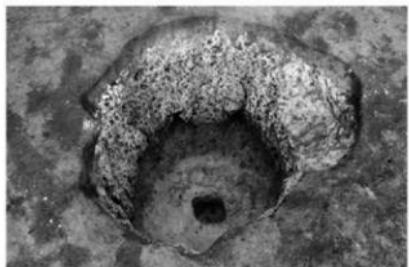
4 818土坑底面ピット土層断面(南西から)



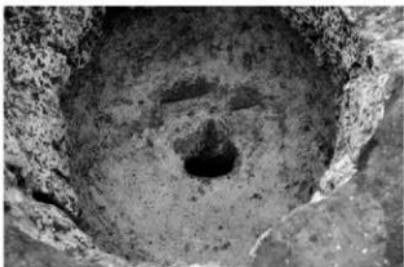
5 448土坑完掘状況(北東から)



6 448土坑底面ピット検出状況(北東から)

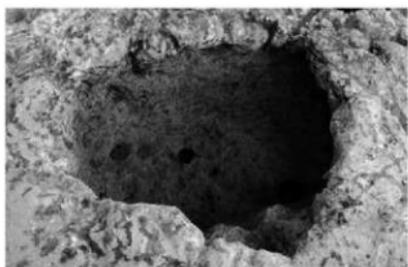


7 708土坑完掘状況(南西から)



8 708土坑底面ピット土層断面(南西から)

土坑



1 733土坑完掘状況(西から)



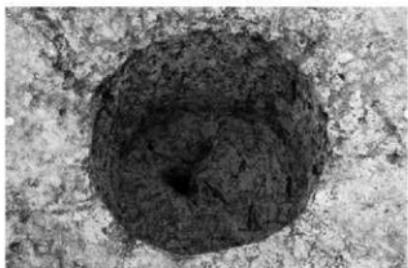
2 733土坑土層断面(西から)



3 400土坑完掘状況(南から)



4 400土坑検出状況(南から)



5 402土坑完掘状況(北東から)



6 402土坑土層断面(南西から)

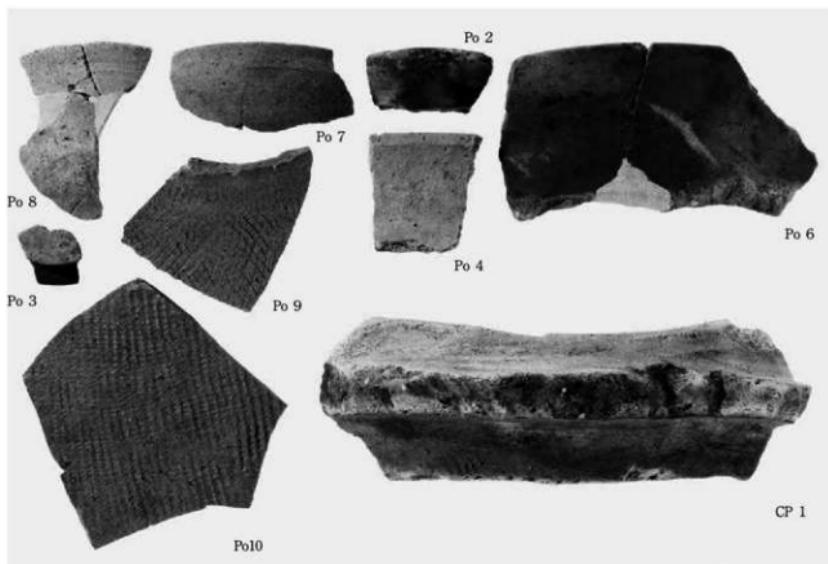


7 403・404土坑完掘状況(南西から)



8 403・404土坑土層断面(南西から)

图版 88



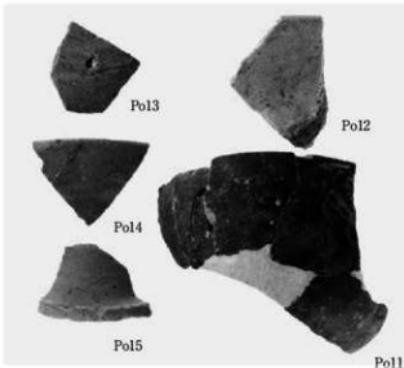
1 壇穴建物3出土土師器・須恵器・土製品



2 壇穴建物3出土土師器甕



3 壇穴建物4出土砥石



4 壇穴建物4出土土師器・須恵器

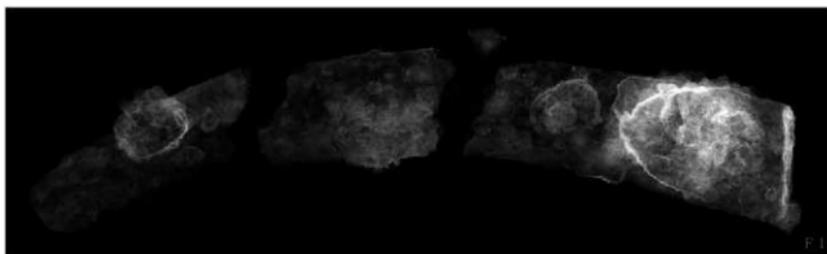


F 2



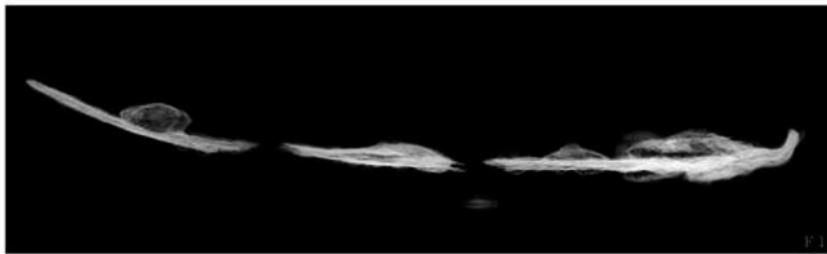
F 1

1 竪穴建物 3・4 出土鉄器



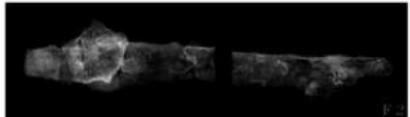
F 1

2 竪穴建物 3 出土鉄器(F 1) X線(側面)



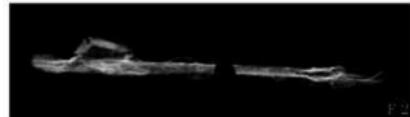
F 1

3 竪穴建物 3 出土鉄器(F 1) X線(背面)



F 2

4 竪穴建物 4 出土鉄器(F 2) X線(側面)



F 2

5 竪穴建物 4 出土鉄器(F 2) X線(背面)

図版 90



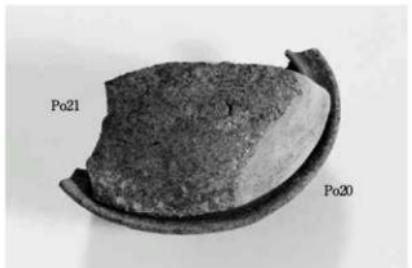
1 竪穴建物5出土須恵器



2 竪穴建物5出土須恵器坏重ね焼きの痕跡(1)



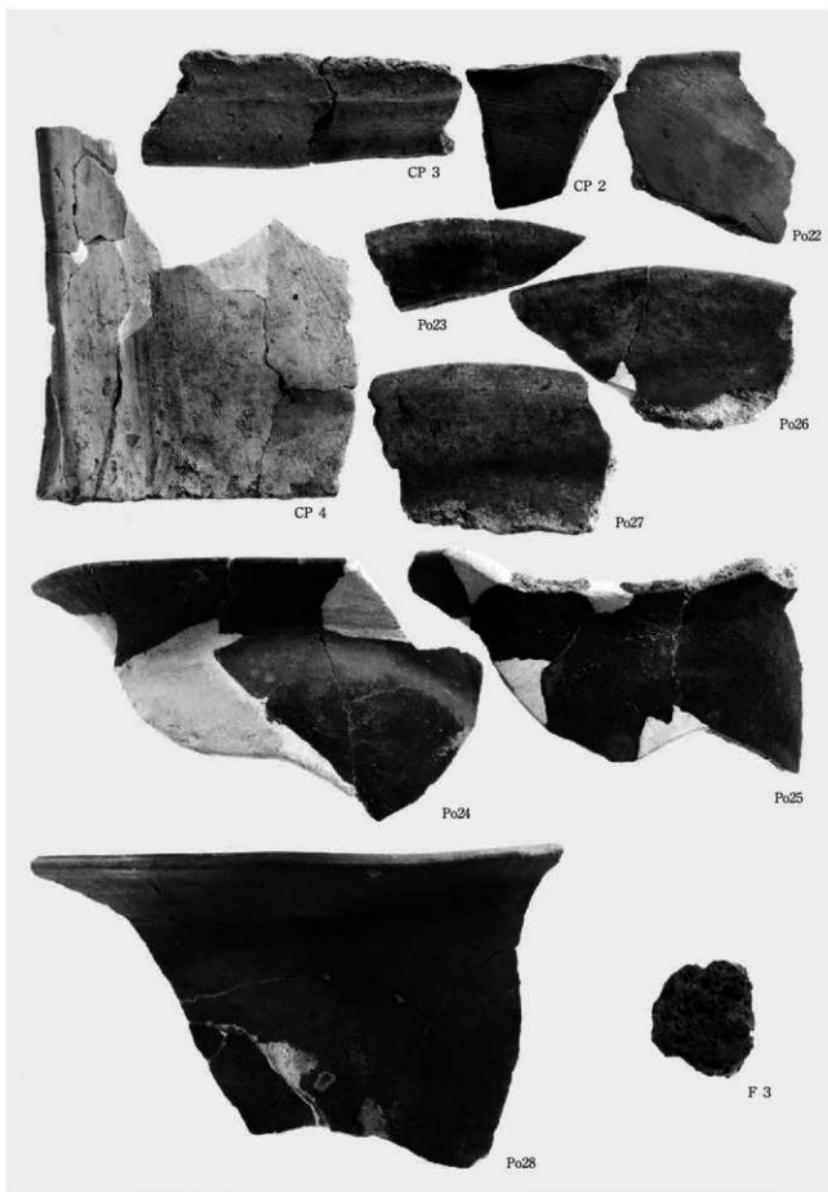
3 竪穴建物5出土土師器塊



4 竪穴建物5出土須恵器坏重ね焼きの痕跡(2)

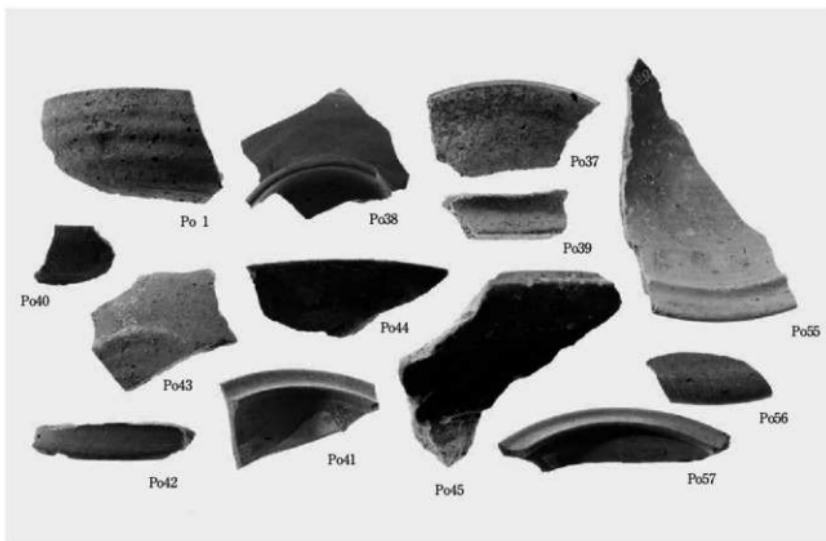


5 竪穴建物5出土土師器塊(内面アップ)



竪穴建物5出土土師器・土製品・鉄関連遺物

图版 92



1 竪穴建物 1、掘立柱建物 5・7・14出土土師器・須恵器



2 掘立柱建物 5 出土須恵器蓋(外面)



3 掘立柱建物 5 出土須恵器蓋(内面)

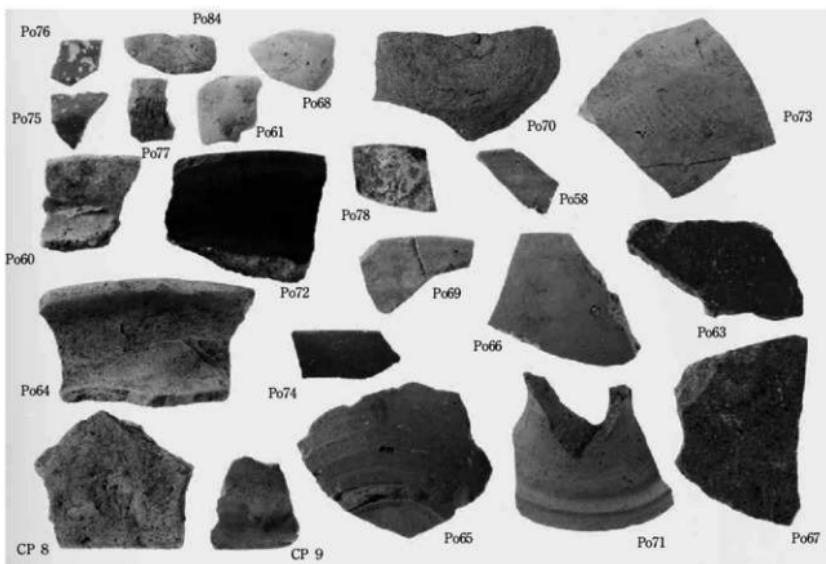


4 掘立柱建物 11 出土土製支脚



掘立柱建物2~4・8・10~12・17出土土器・須恵器・土製品

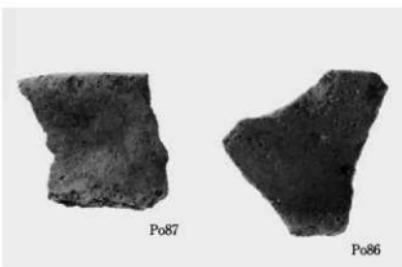
図版 94



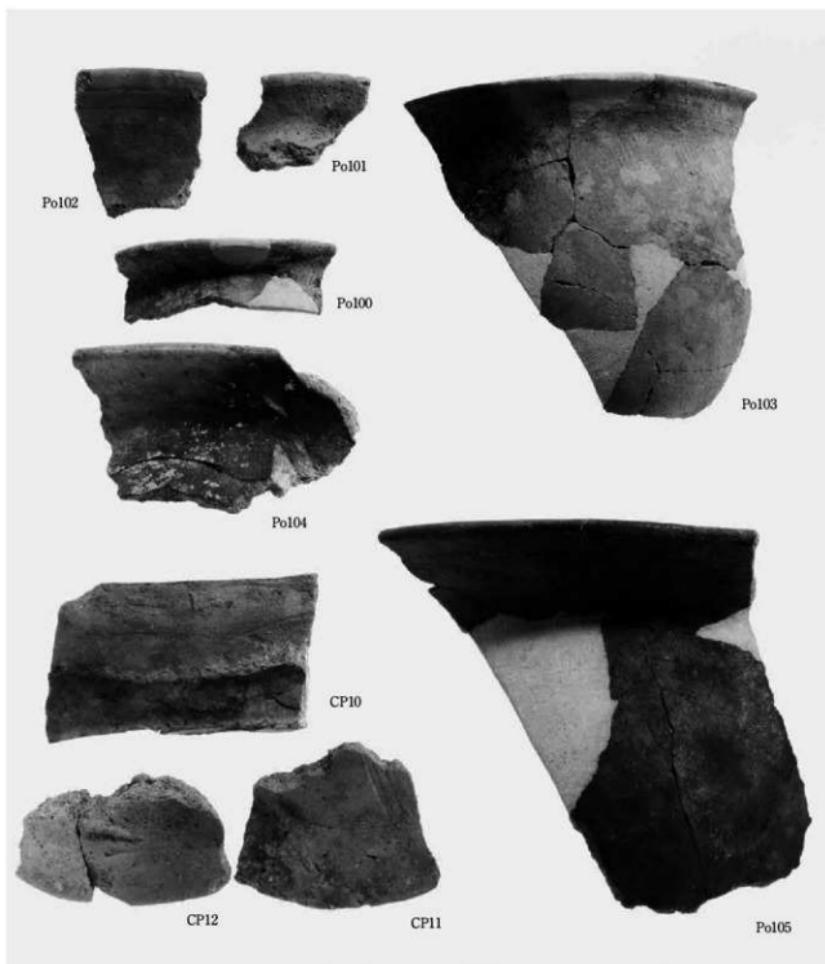
1 挖立柱建物16・19・20~23・25・26・31・32・34・35・37出土
土師器・須恵器・土製品



2 挖立柱建物10・30出土桃核

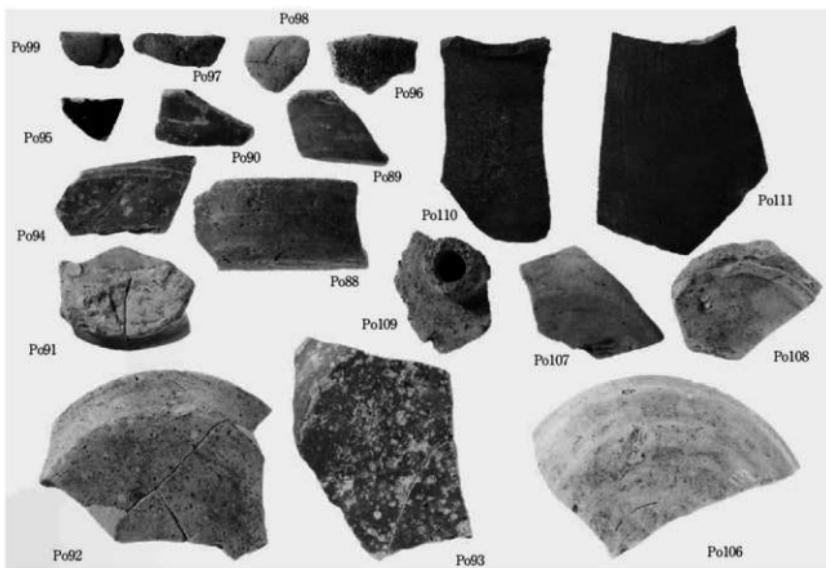


3 730段状遺構出土土師器甕

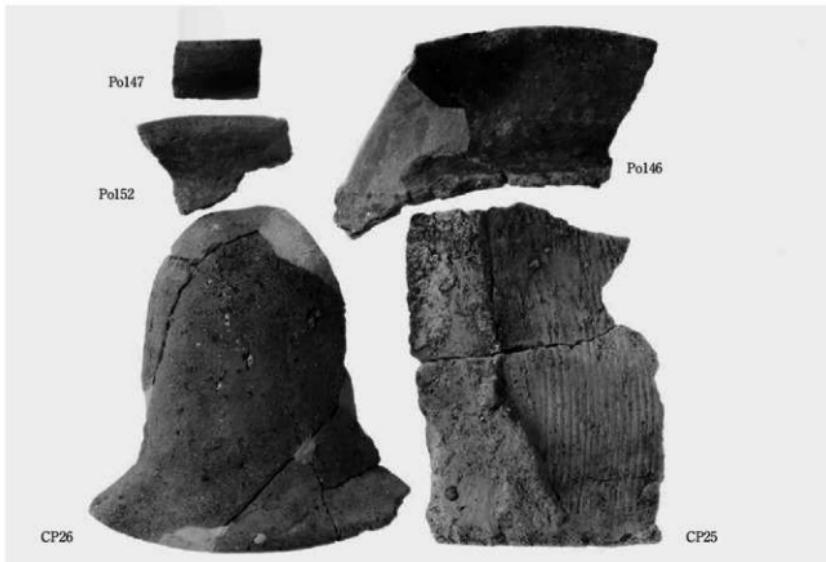


736土坑出土土師器・土製品

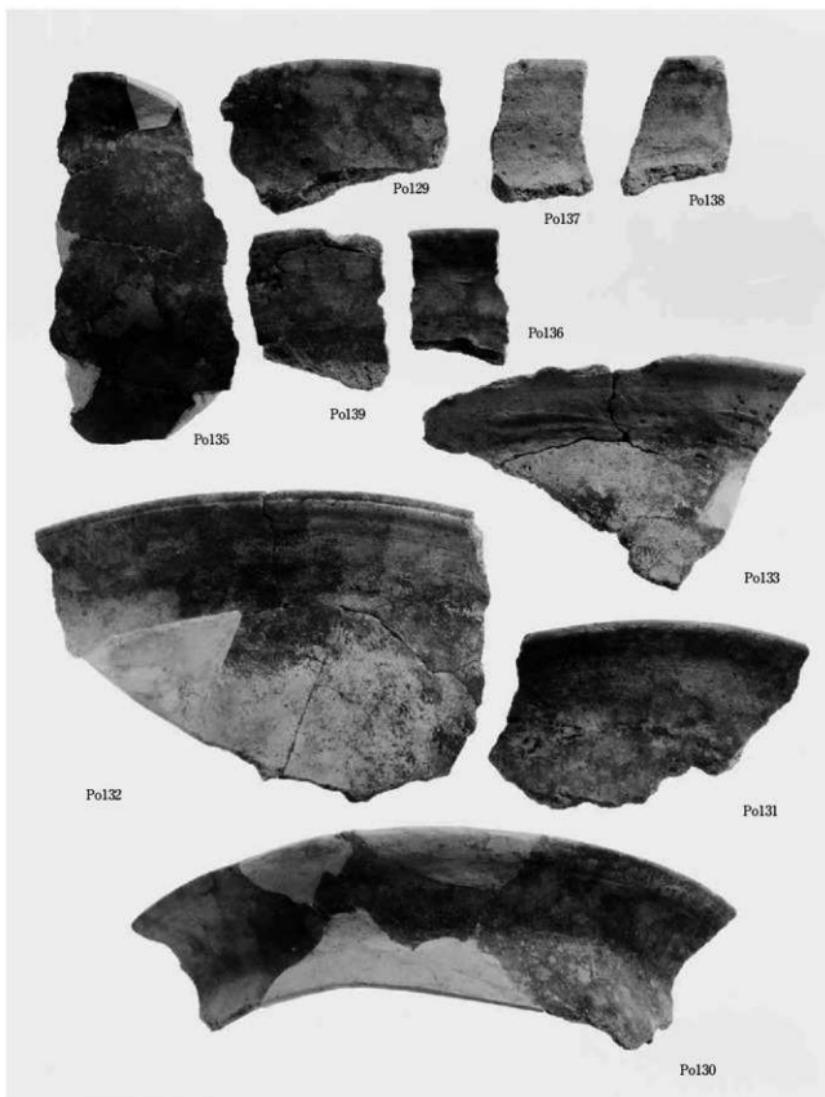
図版 96



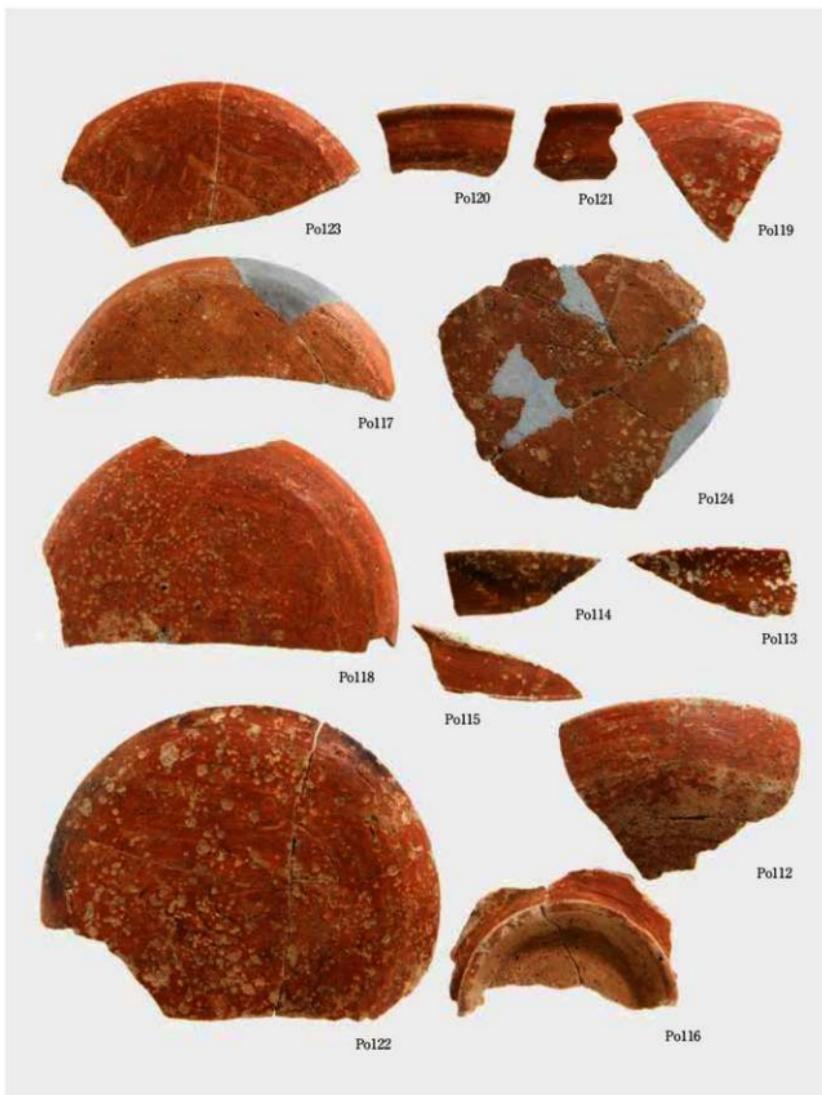
1 736土坑出土土師器・須恵器



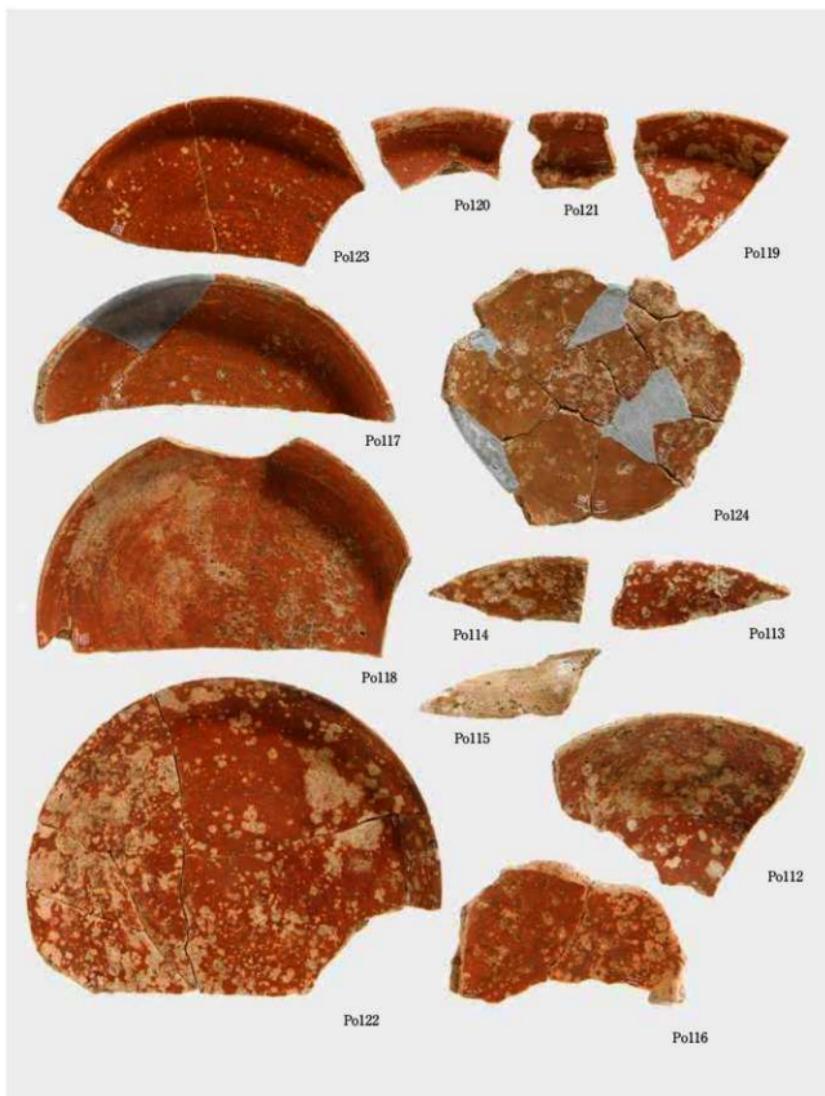
2 795・797・798土坑、826柱穴出土土師器・須恵器・土製品



745土坑出土土師器甕

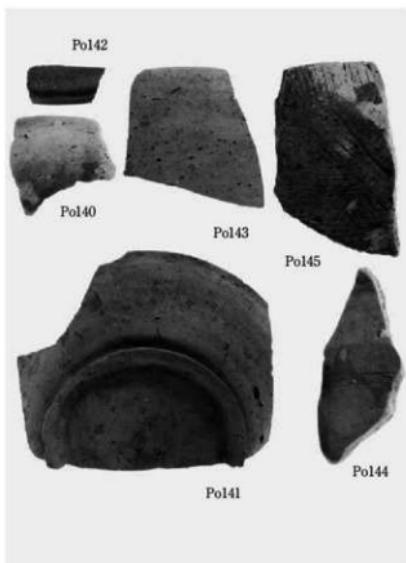


745土坑出土赤彩土器(外面)

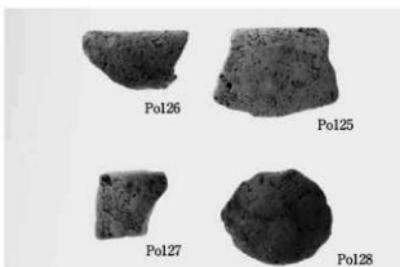


745土坑出土赤彩土器(内面)

图版 100



1 745土坑出土須惠器



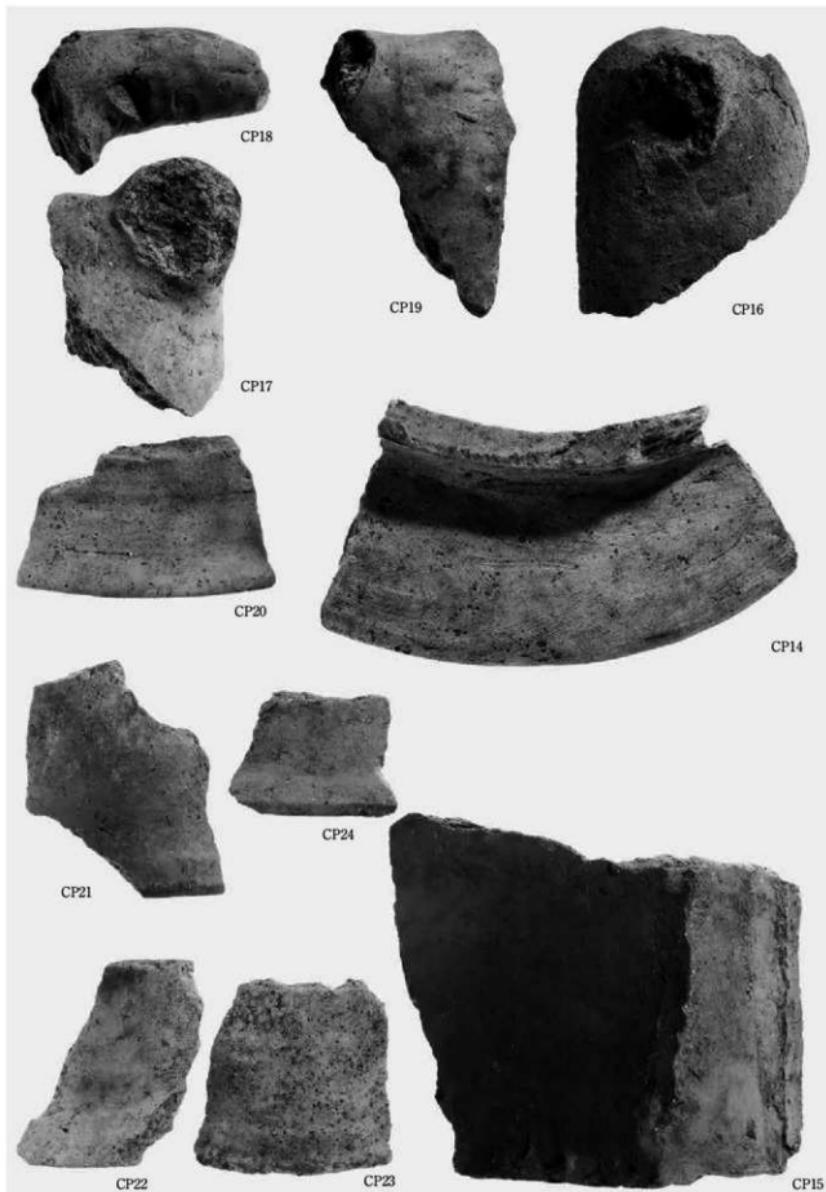
2 745土坑出土製鹽土器



3 745土坑出土土師器壺



4 745土坑出土移動式竈



745土坑出土土製品

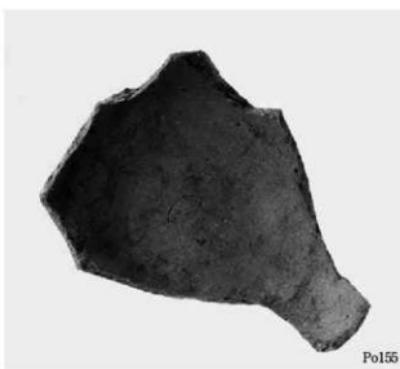
图版 102



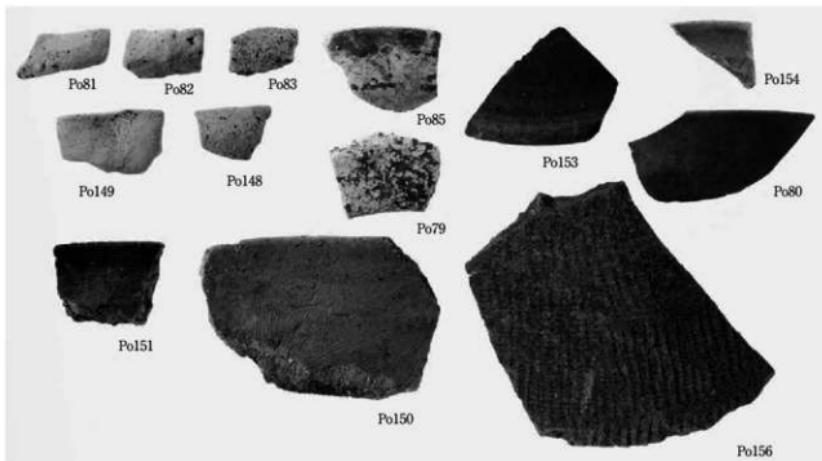
1 745土坑出土金床石



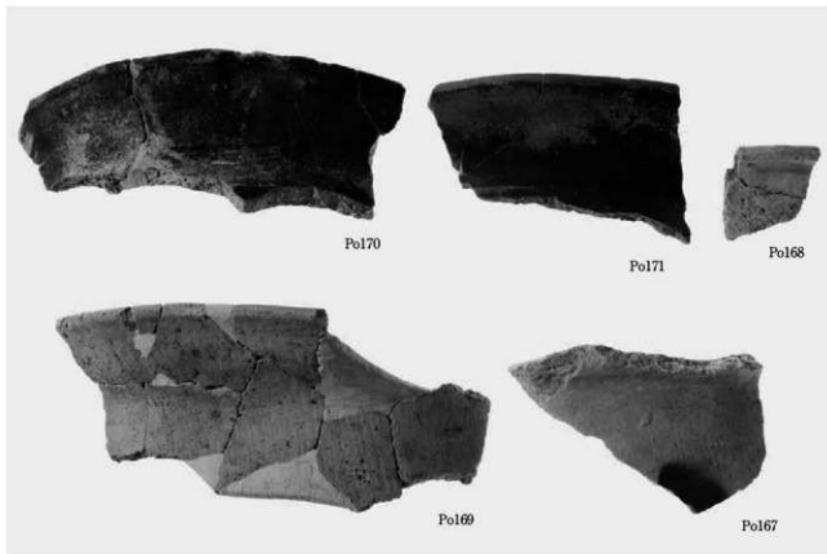
2 704柱穴出土須惠器高坏(外面)



3 704柱穴出土須惠器高坏(内面)



4 297・314・461・525・557・607・610・668柱穴、851・904ピット他出土土器・須惠器



1 1区 I層出土土器壺



2 1・3区 I層出土ミニチュア土器・須恵器

図版 104



1 1区I層出土土師器・須恵器・土製品



2 1区出土赤彩土師器



Po157

1 1区 I 层出土赤彩土器坏(1)



Po158

2 1区 I 层出土赤彩土器坏(2)



Po172

3 1区表土出土赤彩土器坏(1)



Po173

4 1区表土出土赤彩土器坏(2)



Po183



Po184

5 1区出土制坯器



CP47

6 1区出土土制品



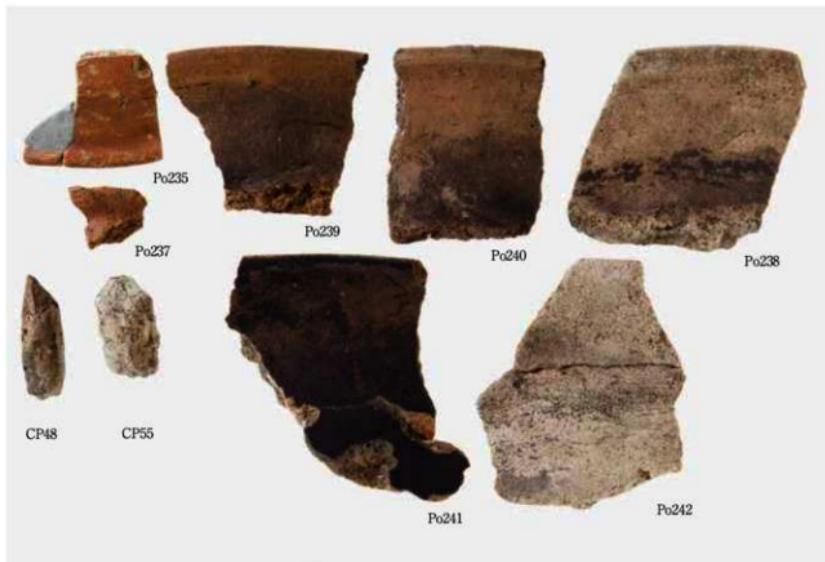
Po234

1 2区出土赤彩土器坏(外面)



Po234

2 2区出土赤彩土器坏(里面)

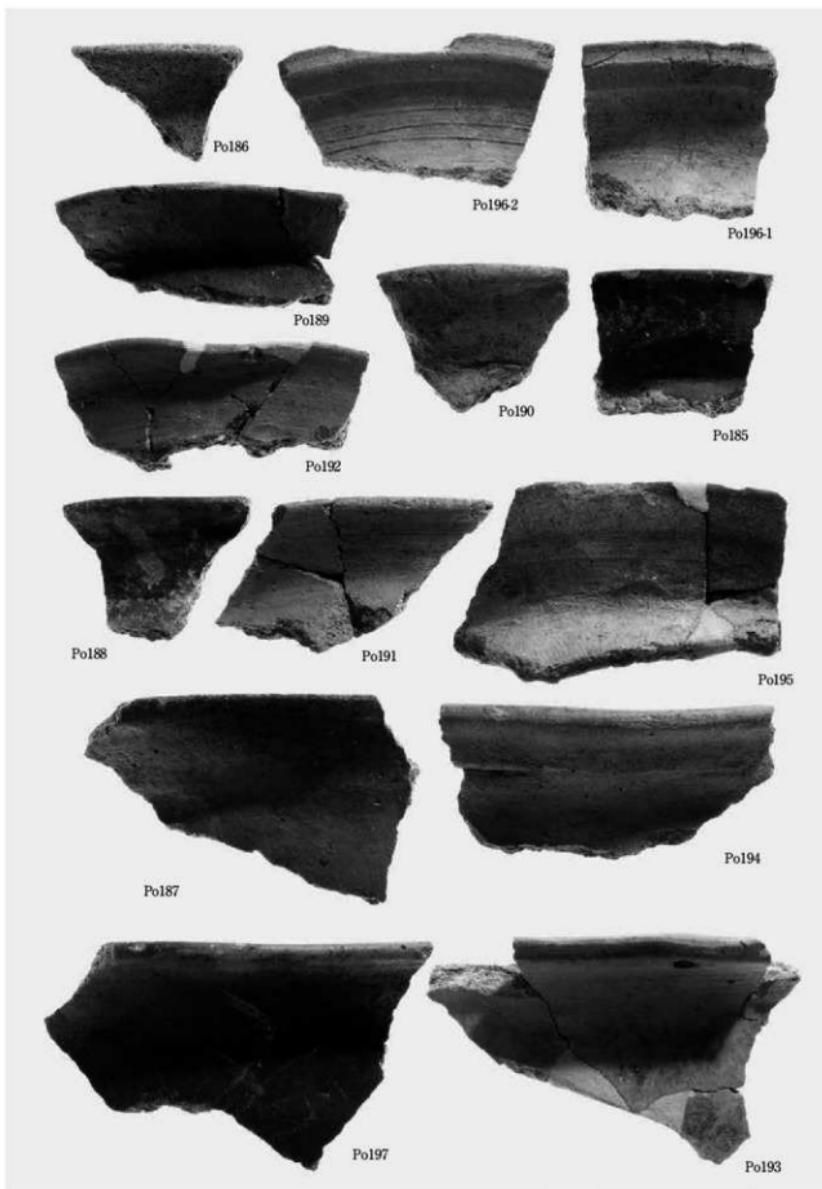


1 2区出土土師器・土製品

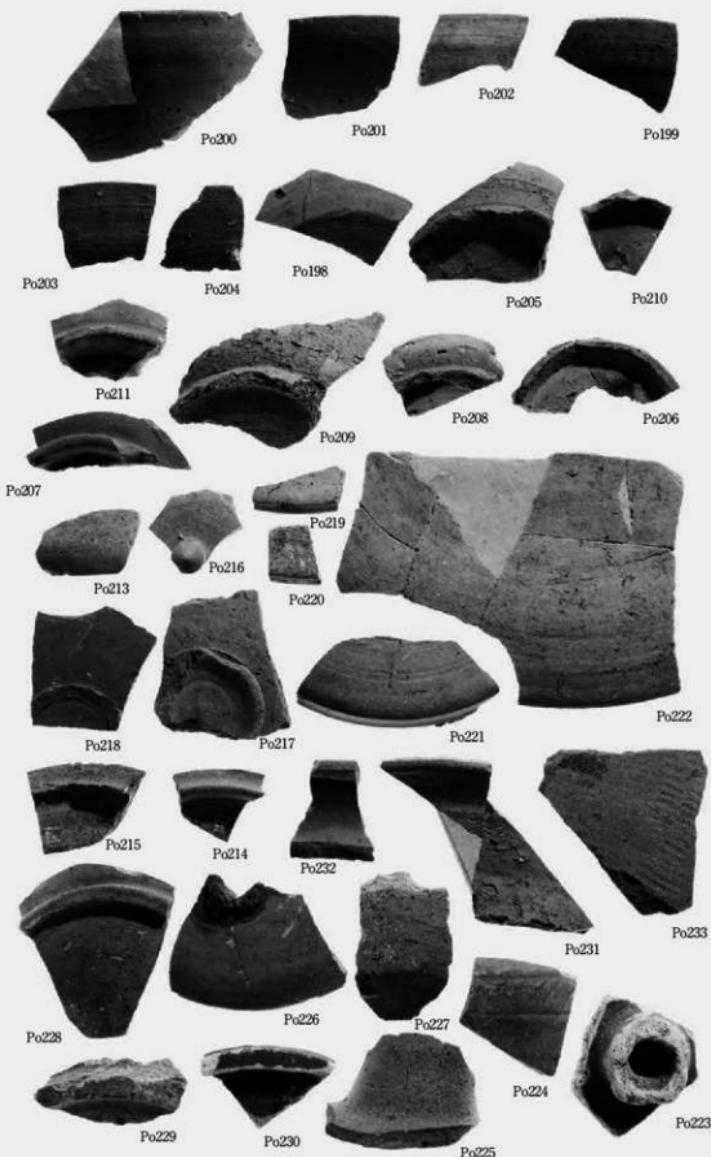


2 3区出土胚生土器・土師器・須恵器・土製品

図版 108



1区出土土師器甕

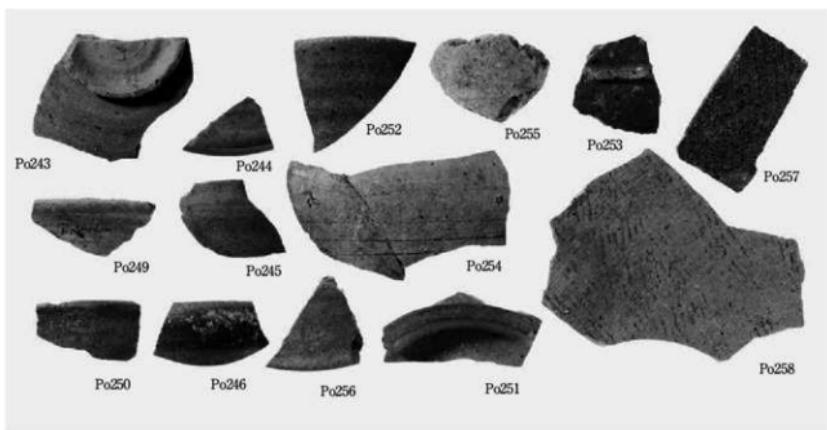


1区出土須恵器

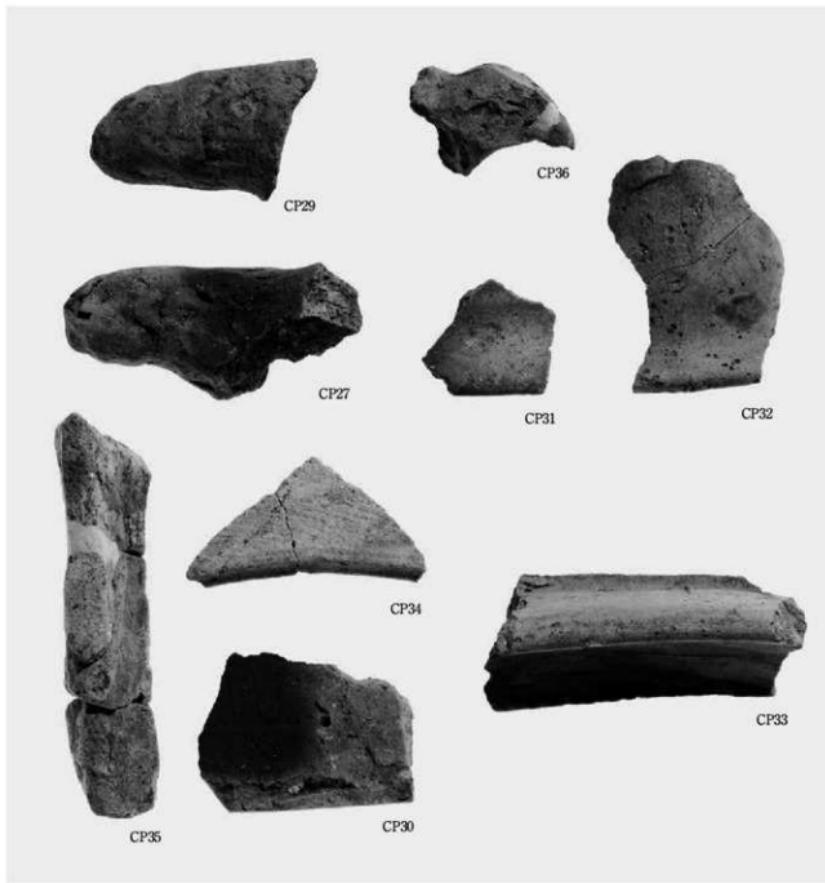
图版 110



1 1・2区出土須恵器

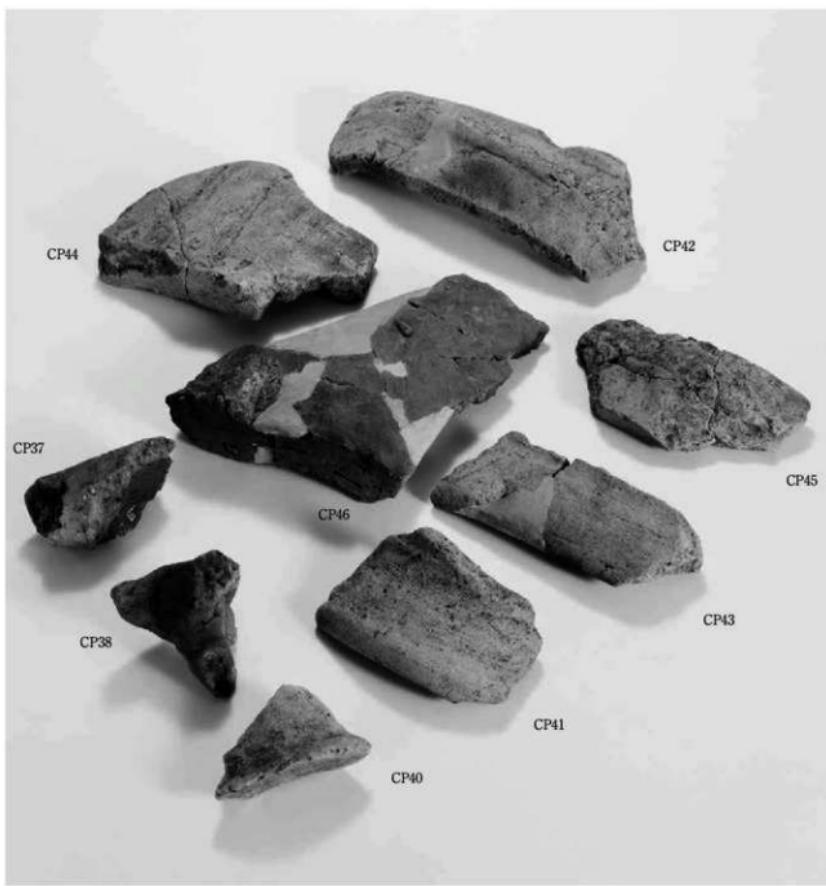


2 2区出土須恵器



1区出土土製品

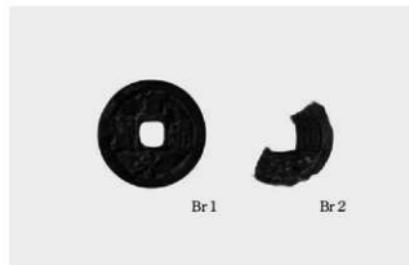
図版 112



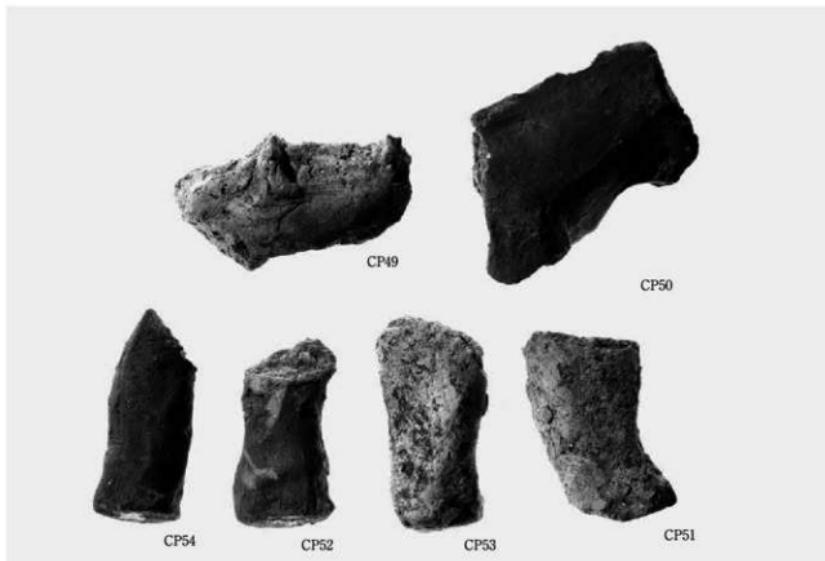
1 2区出土土製品



2 1・2区出土ミニチュア土器



3 1区出土銅錢(寛永通宝)



1 1区出土土馬



2 2区出土石器



3 1・2区出土石礫

4 1区出土砥石

報告書抄録

ふりがな	おがもさいのかみいせき						
書名	小鴨道祖神遺跡						
副書名	一般国道313号(倉吉道路・倉吉閻金道路)道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	鳥取県教育文化財団調査報告書						
シリーズ番号	121						
編著者名	森本倫弘・牧本哲雄・小口英一郎・門脇隆志・陶澤真梨子						
編集機関	公益財団法人鳥取県教育文化財団調査室						
所在地	〒682-0704 鳥取県東伯郡湯梨浜町南谷528-1 電話(0858)35-5335						
発行年月日	2020(令和2)年12月21日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
おがもさいのかみいせき 小鴨道祖神遺跡	鳥取県倉吉市	31203 4-343	35°25'00" 133°47'35"		1区 20170626 ～ 20171116	1区 2,500m ²	一般国道313号 (倉吉道路)の道路 改良工事
					2区 20190603 ～ 20191129	2区 2,200m ²	一般国道313号 (倉吉道路)の道路 改良工事
					3区 20190611 ～ 20191129	3区 1,423m ²	一般国道313号 (倉吉閻金道路)の 道路改良工事
					-	合計 6,123m ²	-
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物、特記事項			
小鴨道祖神遺跡	集落	縄文時代	土坑 (落とし穴)	-			
	-	弥生時代	-	弥生土器			
	集落	飛鳥から平安 時代	堅穴建物 掘立柱建物 段状遺構 土坑 柱穴 ピット	土師器、須恵器、 土製品(移動式竈、土製支脚、土馬等)、 石器、鉄器、鐵閻連遺物			
	-	中世	-	土師器			
	-	近世	-	貨幣(寛永通宝)			

鳥取県教育文化財団調査報告書121

一般国道313号(倉吉道路・倉吉岡金道路)道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県倉吉市

小鴨道祖神遺跡

発行 2020年12月21日

編集 公益財團法人鳥取県教育文化財団 調査室
〒682-0704 鳥取県東伯郡湯梨浜町南谷528-1
電話 (0858) 35-5335

発行者 公益財團法人鳥取県教育文化財団
印刷 勝美印刷株式会社